

2024年度  
キャリアデザイン学部  
講義概要 (シラバス)



法政大学

# 科目一覽

〔発行日：2024/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

- 〈他〉：他学部公開科目  
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目  
〈S〉：サーティフィケートプログラム\_SDGs  
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム\_ダイバーシティ  
〈カ〉：サーティフィケートプログラム\_カーボンニュートラル  
〈グ〉：グローバル・オープン科目  
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目  
〈ア〉：サーティフィケートプログラム\_アーバンデザイン  
〈未〉：サーティフィケートプログラム\_未来教室

基礎ゼミ 【C7021】 基礎ゼミ (A組) [上西 充子] 春学期授業/Spring .....	1
基礎ゼミ 【C7022】 基礎ゼミ (B組) [小宮 理奈] 春学期授業/Spring .....	3
基礎ゼミ 【C7023】 基礎ゼミ (C組) [坂本 旬] 春学期授業/Spring .....	5
基礎ゼミ 【C7024】 基礎ゼミ (D組) [藤村 朝子] 春学期授業/Spring .....	7
基礎ゼミ 【C7025】 基礎ゼミ (E組) [有賀 ゆうアニース] 春学期授業/Spring .....	9
基礎ゼミ 【C7026】 基礎ゼミ (F組) [宮下 阿子] 春学期授業/Spring .....	11
基礎ゼミ 【C7027】 基礎ゼミ (G組) [田口 賢太郎] 春学期授業/Spring .....	13
基礎ゼミ 【C7028】 基礎ゼミ (H組) [大倉 韻] 春学期授業/Spring .....	15
基礎ゼミ 【C7029】 基礎ゼミ (I組) [木村 琢磨] 春学期授業/Spring .....	17
基礎ゼミ 【C7030】 基礎ゼミ (J組) [安田 節之] 春学期授業/Spring .....	19
基礎ゼミ 【C7031】 基礎ゼミ (K組) [井上 環] 春学期授業/Spring .....	21
基礎ゼミ 【C7032】 基礎ゼミ (L組) [福井 令恵] 春学期授業/Spring .....	23
基礎ゼミ 【C7033】 基礎ゼミ (M組) [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring .....	25
基礎ゼミ 【C7034】 基礎ゼミ (N組) [長戸 光] 春学期授業/Spring .....	27
基礎ゼミ 【C7035】 基礎ゼミ (O組) [関 慎太郎] 春学期授業/Spring .....	29
基礎ゼミ 【C7036】 基礎ゼミ (P組) [劉 沫好] 春学期授業/Spring .....	31
基幹科目_必修 【C7040】 キャリアデザイン学入門 [梅崎 修、廣川 進、荒川 裕子] 春学期授業/Spring .....	33
基幹科目_必修 【C7001】 キャリア研究調査法入門 (A-H組) 【2017年度以降入学者のみ】 [九鬼 成美] 秋学期授業/Fall .....	34
基幹科目_必修 【C7002】 キャリア研究調査法入門 (I-P組) 【2017年度以降入学者のみ】 [大倉 韻] 秋学期授業/Fall .....	35
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7003】 キャリア研究調査法 (質的調査) [佐藤 厚] 春学期授業/Spring .....	37
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7004】 キャリア研究調査法 (質的調査) [濱中 義隆] 春学期授業/Spring .....	38
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7005】 キャリア研究調査法 (質的調査) [青木 淳弘] 春学期授業/Spring .....	39
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7006】 キャリア研究調査法 (質的調査) [八田 益之] 春学期授業/Spring .....	40
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7007】 キャリア研究調査法 (質的調査) [西村 純] 春学期授業/Spring .....	41
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7008】 キャリア研究調査法 (質的調査) [前浦 穂高] 春学期授業/Spring .....	42
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7009】 キャリア研究調査法 (質的調査) [池田 佳代] 春学期授業/Spring .....	43
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7010】 キャリア研究調査法 (質的調査) [井上 公人] 春学期授業/Spring .....	44
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7011】 キャリア研究調査法 (質的調査) [山崎 正枝] 春学期授業/Spring .....	45
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7012】 キャリア研究調査法 (量的調査) [安田 節之] 春学期授業/Spring .....	46
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7013】 キャリア研究調査法 (量的調査) [濱中 義隆] 春学期授業/Spring .....	47
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7014】 キャリア研究調査法 (量的調査) [井上 公人] 春学期授業/Spring .....	48
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7015】 キャリア研究調査法 (量的調査) [熊谷 智博] 春学期授業/Spring .....	49
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7016】 キャリア研究調査法 (量的調査) [林 洋一郎] 春学期授業/Spring .....	50
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7017】 キャリア研究調査法 (量的調査) [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring .....	51
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7018】 キャリア研究調査法 (量的調査) [長瀬 毅] 春学期授業/Spring .....	52
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7019】 キャリア研究調査法 (量的調査) [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring .....	53
基幹科目_選択必修 (調査法) 【C7020】 キャリア研究調査法 (量的調査) [田中 友理] 春学期授業/Spring .....	54
基幹科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7050】 発達・教育キャリア入門A [遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring .....	55
基幹科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7051】 発達・教育キャリア入門B [田澤 実] 秋学期授業/Fall .....	57
基幹科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7052】 発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門I) [久井 英輔] 春学期授業/Spring .....	58
基幹科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7053】 発達・教育キャリア入門C (生涯学習入門I) [朝岡 幸彦] 春学期授業/Spring .....	60

基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7055】発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ)【2021年度以前入学者用】[久井 英輔] 秋学期授業/Fall.....	61
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7056】発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ)【2021年度以前入学者用】[朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall.....	63
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7057】発達・教育キャリア入門D【2022年度以降入学者のみ】[寺崎 里水] 秋学期授業/Fall.....	64
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7058】ビジネスキャリア入門A[妹尾 渉] 秋学期授業/Fall .....	65
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7059】ビジネスキャリア入門B[武石 恵美子] 春学期授業/Spring ..	66
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7060】ビジネスキャリア入門C[中野 貴之] 春学期授業/Spring .....	68
基幹科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門D[酒井 理] 秋学期授業/Fall .....	69
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7062】ライフキャリア入門A[八田 益之] 春学期授業/Spring .....	71
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7063】ライフキャリア入門B[齋藤 嘉孝] 秋学期授業/Fall.....	72
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7064】ライフキャリア入門C[安田 節之] 春学期授業/Spring .....	73
基幹科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7065】ライフキャリア入門D[金山 喜昭] 秋学期授業/Fall.....	75
基幹科目_選択【C7080】労働法[砂押 以久子] 秋学期授業/Fall .....	76
基幹科目_選択【C7081】ファシリテーション論[徳田 太郎] 春学期授業/Spring.....	78
基幹科目_選択【C7082】若者の自立支援[大山 宏] 秋学期授業/Fall.....	80
基幹科目_選択【C7083】職業選択論Ⅰ[上西 充子] 春学期授業/Spring.....	81
基幹科目_選択【C7084】ライフコース論[武石 恵美子] 秋学期授業/Fall .....	82
基幹科目_選択【C7085】生活設計論Ⅰ(社会保障)[上田 将史] 春学期授業/Spring .....	83
基幹科目_選択【C7086】生活設計論Ⅱ(生活設計)[林 奈生子] 秋学期授業/Fall .....	85
基幹科目_選択【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ[なかむら アサミ] 春学期授業/Spring .....	87
展開科目_選択必修(体験型)【C7100】キャリアサポート事前指導[遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring .....	88
展開科目_選択必修(体験型)【C7102】キャリアサポート事前指導[渡邊 有紀子] 春学期授業/Spring .....	89
展開科目_選択必修(体験型)【C7103】キャリアサポート事前指導[荒川 裕子] 春学期授業/Spring .....	90
展開科目_選択必修(体験型)【C7104】キャリアサポート事前指導[田澤 実] 春学期授業/Spring.....	91
展開科目_選択必修(体験型)【C7106】キャリアサポート実習[渡邊 有紀子] 秋学期授業/Fall .....	92
展開科目_選択必修(体験型)【C7107】キャリアサポート実習[田澤 実] 秋学期授業/Fall.....	93
展開科目_選択必修(体験型)【C7108】キャリアサポート実習[荒川 裕子] 秋学期授業/Fall .....	94
展開科目_選択必修(体験型)【C7109】キャリアサポート実習[遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall .....	95
展開科目_選択必修(体験型)【C7114】キャリア体験事前指導(インターン)[中野 貴之] 春学期授業/Spring ...	96
展開科目_選択必修(体験型)【C7115】キャリア体験事前指導(インターン)[酒井 理] 春学期授業/Spring .....	98
展開科目_選択必修(体験型)【C7116】キャリア体験事前指導(インターン)[野中 利明] 春学期授業/Spring ...	100
展開科目_選択必修(体験型)【C7117】キャリア体験事前指導(インターン)[松浦 民恵] 春学期授業/Spring ...	102
展開科目_選択必修(体験型)【C7118】キャリア体験事前指導(プロジェクト)[山岡 義卓] 春学期授業/Spring .	104
展開科目_選択必修(体験型)【C7119】キャリア体験学習(インターン)[中野 貴之] 秋学期授業/Fall.....	106
展開科目_選択必修(体験型)【C7120】キャリア体験学習(インターン)[酒井 理] 秋学期授業/Fall .....	107
展開科目_選択必修(体験型)【C7121】キャリア体験学習(インターン)[野中 利明] 秋学期授業/Fall.....	109
展開科目_選択必修(体験型)【C7122】キャリア体験学習(インターン)[松浦 民恵] 秋学期授業/Fall.....	111
展開科目_選択必修(体験型)【C7123】キャリア体験学習(プロジェクト)[山岡 義卓] 秋学期授業/Fall .....	113
展開科目_選択必修(体験型)【C7124】キャリア体験事前指導(国際)[御園生 純] 春学期授業/Spring.....	115
展開科目_選択必修(体験型)【C7125】キャリア体験学習(国際)[御園生 純] 秋学期授業/Fall.....	117
展開科目_選択必修(体験型)【C7126】キャリア体験事前指導(国際)[松尾 知明、郭 艶娜] 春学期授業/Spring	118
展開科目_選択必修(体験型)【C7127】キャリア体験学習(国際)[松尾 知明、郭 艶娜] 秋学期授業/Fall.....	119
展開科目_選択必修(体験型)【C7128】メディアリテラシー実習Ⅰ[坂本 旬] 春学期授業/Spring .....	120
展開科目_選択必修(体験型)【C7129】メディアリテラシー実習Ⅱ[坂本 旬] 秋学期授業/Fall .....	122
展開科目_選択必修(体験型)【C7130】地域学習支援Ⅰ[寺崎 里水] 春学期授業/Spring.....	124
展開科目_選択必修(体験型)【C7131】地域学習支援Ⅱ[寺崎 里水、金山 喜昭、久井 英輔、坂本 旬、熊谷 智博、田澤 実] 秋学期授業/Fall.....	126
展開科目_選択必修(体験型)【C7134】多文化教育Ⅰ[村田 晶子] 春学期授業/Spring .....	127
展開科目_選択必修(体験型)【C7135】多文化教育Ⅱ[村田 晶子] 秋学期授業/Fall .....	129
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7150】キャリア研究調査実習A(行動と意識の測定)[蟹江 教子] 秋学期授業/Fall .....	131
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7151】キャリア研究調査実習B(恋愛の質的研究)[木村 絵里子] 秋学期授業/Fall .....	132
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7152】外書講読A(発達・教育)[福田 紀子] 春学期授業/Spring .	133
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C7153】外書講読B(発達・教育)[長岡 智寿子] 春学期授業/Spring	135

展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7154]</b> 生涯発達心理学Ⅰ [廣川 進] 春学期授業/Spring	136
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7155]</b> 生涯発達心理学Ⅱ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	137
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7156]</b> 臨床教育相談論Ⅰ [土屋 弥生] 春学期授業/Spring	138
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7157]</b> 臨床教育相談論Ⅱ [土屋 弥生] 秋学期授業/Fall	139
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7158]</b> キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進] 春学期授業/Spring	141
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7159]</b> キャリアカウンセリングⅡ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	142
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7160]</b> キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) [宮脇 優子] 秋学期授業/Fall	143
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7161]</b> 教育相談 [田澤 実] 春学期授業/Spring	145
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7162]</b> 教育相談 [小峰 秀樹] 春学期授業/Spring	146
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7163]</b> 教育相談 [土屋 弥生] 秋学期授業/Fall	147
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7164]</b> 教育相談 [山上 真貴子] 秋学期授業/Fall	149
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7165]</b> 教育相談 [遠藤 裕子] 秋学期授業/Fall	150
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7166]</b> 教育相談 [土屋 弥生] 春学期授業/Spring	152
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7167]</b> 教育心理学 [遠藤 裕子] 秋学期授業/Fall	154
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7168]</b> 教育心理学 [輕部 雄輝] 春学期授業/Spring	156
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7169]</b> 教育心理学 [児玉 佳一] 秋学期授業/Fall	157
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7170]</b> 教育心理学 [山上 真貴子] 春学期授業/Spring	158
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7171]</b> 教育心理学 [遠藤 裕子] 春学期授業/Spring	159
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7172]</b> 教育心理学 [児玉 佳一] 秋学期授業/Fall	161
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7173]</b> 学校論Ⅰ (キャリア形成) [松尾 知明] 春学期授業/Spring	162
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7174]</b> 学校論Ⅱ (キャリア形成) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	163
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7175]</b> 学校論Ⅲ (キャリア教育) [福島 創太] 春学期授業/Spring	165
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7176]</b> 学校論Ⅳ (キャリア教育) [池田 佳代] 秋学期授業/Fall	167
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7177]</b> 生涯学習論Ⅰ (生涯学習支援論Ⅰ) [久井 英輔] 春学期授業/Spring	168
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7178]</b> 生涯学習論Ⅰ (生涯学習支援論Ⅰ) [朝岡 幸彦] 春学期授業/Spring	170
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7179]</b> 生涯学習論Ⅱ (生涯学習支援論Ⅱ) [久井 英輔] 秋学期授業/Fall	171
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7180]</b> 生涯学習論Ⅱ (生涯学習支援論Ⅱ) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	173
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7181]</b> 図書館情報学概論Ⅰ [村上 郷子] 春学期授業/Spring	174
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7182]</b> 図書館情報学概論Ⅰ [原田 隆史] 春学期授業/Spring	175
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7183]</b> 図書館情報学概論Ⅱ [竹之内 明子] 秋学期授業/Fall	177
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7184]</b> 図書館情報学概論Ⅱ [原田 隆史] 秋学期授業/Fall	179
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7185]</b> 図書館情報学概論Ⅱ [菅原 真悟] 秋学期授業/Fall	181
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7186]</b> 図書館情報学概論Ⅱ [竹之内 明子] 春学期授業/Spring	182
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7187]</b> メディア教育論Ⅰ [村上 郷子] 春学期授業/Spring	184
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7188]</b> メディア教育論Ⅱ [村上 郷子] 秋学期授業/Fall	186
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7189]</b> 教育マネジメントⅠ [仲田 康一] 春学期授業/Spring	188
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7190]</b> 教育マネジメントⅡ [櫻井 直輝] 秋学期授業/Fall	190
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7191]</b> 教育政策 [村上 純一] 秋学期授業/Fall	192
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7192]</b> 現代教育思想 [岩本 俊一] 秋学期授業/Fall	193
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7193]</b> 生涯学習論Ⅲ (成人教育論Ⅰ) [森本 扶] 春学期授業/Spring	194
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7194]</b> 生涯学習論Ⅳ (成人教育論Ⅱ) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	196
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7195]</b> 学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	197
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7196]</b> 学習の社会史B [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	198
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7197]</b> 教育社会学Ⅰ [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	199
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7198]</b> 教育社会学Ⅱ [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	200
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育	<b>[C7199]</b> 教育経済学 [荒木 宏子] 秋学期授業/Fall	201
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7250]</b> キャリア研究調査実習C(データで語るキャリア) [久保田 貴文] 春学期授業/Spring	203
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7251]</b> キャリア研究調査実習D(仕事とビジネスの質的研究) [岸田 泰則] 秋学期授業/Fall	204
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7252]</b> 外書講読A (ビジネス) [中野 貴之] 秋学期授業/Fall	205
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7253]</b> 外書講読B (ビジネス) [杉原 弘恭] 春学期授業/Spring	206
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7254]</b> 職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	208
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7255]</b> 人材育成論Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	209
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7256]</b> 人材育成論Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	211
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>[C7257]</b> 産業・組織心理学Ⅰ [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	214

展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7258】</b>	産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美]	秋学期授業/Fall	215
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7259】</b>	キャリア開発論 [武石 恵美子]	春学期授業/Spring	216
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7260】</b>	リーダーシップ論 [佐野 達]	秋学期授業/Fall	217
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7261】</b>	経営統計論A (心理データ) [鎌倉 哲史]	春学期授業/Spring	218
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7262】</b>	企業会計論 [松本 徹]	春学期授業/Spring	220
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7263】</b>	経営統計論B (企業データ) [中野 貴之]	秋学期授業/Fall	221
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7264】</b>	経営組織論Ⅰ [梅木 眞]	春学期授業/Spring	222
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7265】</b>	経営組織論Ⅱ [梅木 眞]	秋学期授業/Fall	223
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7266】</b>	戦略経営論Ⅰ [木村 琢磨]	春学期授業/Spring	224
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7267】</b>	戦略経営論Ⅱ [木村 琢磨]	秋学期授業/Fall	225
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7268】</b>	経営分析論Ⅰ [中野 貴之]	春学期授業/Spring	226
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7269】</b>	経営分析論Ⅱ [中野 貴之]	秋学期授業/Fall	227
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7272】</b>	職業キャリア論 [岩月 真也]	春学期授業/Spring	228
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7273】</b>	労働経済学 [佐藤 一磨]	秋学期授業/Fall	230
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7274】</b>	シティズンシップ論 [榎並 利博]	春学期授業/Spring	231
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7275】</b>	生産システム論 [北原 成憲]	秋学期授業/Fall	233
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7276】</b>	国際経営論 [森 直子]	春学期授業/Spring	235
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7277】</b>	日本経済論 [長谷部 弘道]	秋学期授業/Fall	236
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7278】</b>	産業論 [青木 成樹]	春学期授業/Spring	238
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7279】</b>	広告ビジネス論 [石原 篤]	秋学期授業/Fall	240
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7280】</b>	マーケティング論 [小川 浩孝]	春学期授業/Spring	242
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7281】</b>	流通・マーケティング戦略論 [小川 浩孝]	秋学期授業/Fall	244
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7282】</b>	流通・サービスビジネス論 [村田 茂]	春学期授業/Spring	246
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	<b>【C7283】</b>	就業機会発見実務 [今井 道子]	春学期授業/Spring	248
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7300】</b>	キャリア研究調査実習E (幸福論) [林 洋一郎]	春学期授業/Spring	250
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7301】</b>	キャリア研究調査実習F (まちづくり論) [大西 未希]	春学期授業/Spring	251
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7302】</b>	外書講読A (ライフ) [門脇 仁]	春学期授業/Spring	253
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7303】</b>	外書講読B (ライフ) [門脇 仁]	秋学期授業/Fall	255
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7304】</b>	コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵]	春学期授業/Spring	257
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7305】</b>	コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	259
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7306】</b>	家族論 [齋藤 嘉孝]	春学期授業/Spring	261
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7307】</b>	若者文化論 [玉川 博章]	春学期授業/Spring	262
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7308】</b>	世代間交流論 [安田 節之]	秋学期授業/Fall	264
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7309】</b>	身体表現論 [叶 雄大]	春学期授業/Spring	265
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7310】</b>	地域文化論 [古屋 星斗]	秋学期授業/Fall	266
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7311】</b>	アイデンティティ論 [熊谷 智博]	春学期授業/Spring	268
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7312】</b>	余暇集団論 [熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	269
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7313】</b>	NPO論 [山口 佳子]	秋学期授業/Fall	270
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7314】</b>	公共サービス論 [前浦 穂高]	秋学期授業/Fall	271
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7315】</b>	アート・マネジメント論 [山口 佳子]	春学期授業/Spring	272
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7316】</b>	文化経営論 [武田 知也]	春学期授業/Spring	273
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7317】</b>	メディア文化論 [堤 信子]	秋学期授業/Fall	275
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7318】</b>	文化マーケティング論 [横石 崇]	春学期授業/Spring	277
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7319】</b>	ブランド創造論 [石原 篤]	春学期授業/Spring	278
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7320】</b>	産業文化論 [上原 義子]	秋学期授業/Fall	280
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7321】</b>	ミュージアム概論 [金山 喜昭]	春学期授業/Spring	281
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7322】</b>	ミュージアム経営論 [杉長 敬治]	秋学期授業/Fall	282
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7323】</b>	ミュージアム経営論 [金山 喜昭]	春学期授業/Spring	284
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7324】</b>	多文化社会論Ⅰ [小田 昌教]	春学期授業/Spring	285
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7325】</b>	多文化社会論Ⅱ [金 泰植]	春学期授業/Spring	288
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7326】</b>	多文化社会論Ⅲ [挽地 康彦]	春学期授業/Spring	289
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7327】</b>	アジア社会論Ⅰ [日下部 尚徳]	春学期授業/Spring	291
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7328】</b>	アジア社会論Ⅱ [日下部 尚徳]	春学期授業/Spring	292
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7329】</b>	国際関係論Ⅰ [熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	293
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7330】</b>	国際関係論Ⅱ [塩田 潤]	秋学期授業/Fall	294
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	<b>【C7331】</b>	国際地域研究Ⅰ [福井 令恵]	春学期授業/Spring	295

展開科目_選択必修(領域別)_ライブ【C7332】国際地域研究Ⅱ [福井 令恵] 秋学期授業/Fall .....	297
展開科目_選択必修(体験型)【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2022年度以降入学者用】[島村 泰子] 春学期授業/Spring .....	298
展開科目_総合【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2021年度以前入学者用】[島村 泰子] 春学期授業/Spring .....	300
展開科目_選択必修(体験型)【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2022年度以降入学者用】[島村 泰子] 秋学期授業/Fall .....	302
展開科目_総合【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2021年度以前入学者用】[島村 泰子] 秋学期授業/Fall ..	304
演習科目【C7400】演習(発達・教育)[遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall .....	306
演習科目【C7401】演習(発達・教育)[遠藤 野ゆり] 春学期授業/Spring .....	307
演習科目【C7402】演習(発達・教育)[遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall .....	308
演習科目【C7403】演習(発達・教育)[松尾 知明] 秋学期授業/Fall .....	309
演習科目【C7405】演習(発達・教育)[児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall .....	310
演習科目【C7406】演習(発達・教育)[児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring .....	311
演習科目【C7407】演習(発達・教育)[児美川 孝一郎] 秋学期授業/Fall .....	312
演習科目【C7408】演習(発達・教育)[坂本 旬] 秋学期授業/Fall .....	313
演習科目【C7409】演習(発達・教育)[坂本 旬] 春学期授業/Spring .....	315
演習科目【C7410】演習(発達・教育)[坂本 旬] 秋学期授業/Fall .....	317
演習科目【C7411】演習(発達・教育)[久井 英輔] 秋学期授業/Fall .....	319
演習科目【C7412】演習(発達・教育)[久井 英輔] 春学期授業/Spring .....	321
演習科目【C7413】演習(発達・教育)[久井 英輔] 秋学期授業/Fall .....	323
演習科目【C7414】演習(発達・教育)[松尾 知明] 春学期授業/Spring .....	324
演習科目【C7415】演習(発達・教育)[松尾 知明] 秋学期授業/Fall .....	325
演習科目【C7416】演習(発達・教育)[仲田 康一] 秋学期授業/Fall .....	326
演習科目【C7417】演習(発達・教育)[仲田 康一] 春学期授業/Spring .....	327
演習科目【C7418】演習(発達・教育)[仲田 康一] 秋学期授業/Fall .....	328
演習科目【C7419】演習(発達・教育)[田澤 実] 秋学期授業/Fall .....	329
演習科目【C7420】演習(発達・教育)[田澤 実] 春学期授業/Spring .....	330
演習科目【C7421】演習(発達・教育)[田澤 実] 秋学期授業/Fall .....	331
演習科目【C7422】演習(発達・教育)[筒井 美紀] 秋学期授業/Fall .....	332
演習科目【C7423】演習(発達・教育)[筒井 美紀] 春学期授業/Spring .....	333
演習科目【C7424】演習(発達・教育)[筒井 美紀] 秋学期授業/Fall .....	334
演習科目【C7425】演習(発達・教育)[寺崎 里水] 秋学期授業/Fall .....	335
演習科目【C7426】演習(発達・教育)[寺崎 里水] 春学期授業/Spring .....	336
演習科目【C7427】演習(発達・教育)[寺崎 里水] 秋学期授業/Fall .....	337
演習科目【C7428】演習(発達・教育)[廣川 進] 秋学期授業/Fall .....	338
演習科目【C7429】演習(発達・教育)[廣川 進] 春学期授業/Spring .....	339
演習科目【C7430】演習(発達・教育)[廣川 進] 秋学期授業/Fall .....	340
演習科目【C7450】演習(ビジネス)[佐藤 厚] 春学期授業/Spring .....	341
演習科目【C7451】演習(ビジネス)[佐藤 厚] 秋学期授業/Fall .....	343
演習科目【C7452】演習(ビジネス)[上西 充子] 秋学期授業/Fall .....	345
演習科目【C7453】演習(ビジネス)[梅崎 修] 秋学期授業/Fall .....	346
演習科目【C7454】演習(ビジネス)[梅崎 修] 春学期授業/Spring .....	347
演習科目【C7455】演習(ビジネス)[梅崎 修] 秋学期授業/Fall .....	348
演習科目【C7456】演習(ビジネス)[木村 琢磨] 秋学期授業/Fall .....	349
演習科目【C7457】演習(ビジネス)[木村 琢磨] 春学期授業/Spring .....	350
演習科目【C7458】演習(ビジネス)[木村 琢磨] 秋学期授業/Fall .....	351
演習科目【C7462】演習(ビジネス)[酒井 理] 秋学期授業/Fall .....	352
演習科目【C7463】演習(ビジネス)[酒井 理] 春学期授業/Spring .....	353
演習科目【C7464】演習(ビジネス)[酒井 理] 秋学期授業/Fall .....	354
演習科目【C7465】演習(ビジネス)[坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall .....	355
演習科目【C7466】演習(ビジネス)[坂爪 洋美] 春学期授業/Spring .....	356
演習科目【C7467】演習(ビジネス)[坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall .....	357
演習科目【C7468】演習(ビジネス)[武石 恵美子] 秋学期授業/Fall .....	358
演習科目【C7469】演習(ビジネス)[武石 恵美子] 春学期授業/Spring .....	359
演習科目【C7470】演習(ビジネス)[武石 恵美子] 秋学期授業/Fall .....	360
演習科目【C7471】演習(ビジネス)[中野 貴之] 秋学期授業/Fall .....	361
演習科目【C7472】演習(ビジネス)[中野 貴之] 春学期授業/Spring .....	362

演習科目	<b>[C7473]</b>	演習 (ビジネス)	[中野 貴之]	秋学期授業/Fall	363
演習科目	<b>[C7474]</b>	演習 (ビジネス)	[佐藤 厚]	秋学期授業/Fall	364
演習科目	<b>[C7475]</b>	演習 (ビジネス)	[上西 充子]	春学期授業/Spring	366
演習科目	<b>[C7476]</b>	演習 (ビジネス)	[上西 充子]	秋学期授業/Fall	367
演習科目	<b>[C7477]</b>	演習 (ビジネス)	[松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	368
演習科目	<b>[C7478]</b>	演習 (ビジネス)	[松浦 民恵]	春学期授業/Spring	370
演習科目	<b>[C7479]</b>	演習 (ビジネス)	[松浦 民恵]	秋学期授業/Fall	372
演習科目	<b>[C7500]</b>	演習 (ライフ)	[荒川 裕子]	秋学期授業/Fall	373
演習科目	<b>[C7501]</b>	演習 (ライフ)	[荒川 裕子]	春学期授業/Spring	374
演習科目	<b>[C7502]</b>	演習 (ライフ)	[荒川 裕子]	秋学期授業/Fall	375
演習科目	<b>[C7503]</b>	演習 (ライフ)	[福井 令恵]	秋学期授業/Fall	376
演習科目	<b>[C7504]</b>	演習 (ライフ)	[福井 令恵]	春学期授業/Spring	377
演習科目	<b>[C7505]</b>	演習 (ライフ)	[福井 令恵]	秋学期授業/Fall	378
演習科目	<b>[C7506]</b>	演習 (ライフ)	[金山 喜昭]	秋学期授業/Fall	379
演習科目	<b>[C7507]</b>	演習 (ライフ)	[金山 喜昭]	春学期授業/Spring	380
演習科目	<b>[C7508]</b>	演習 (ライフ)	[金山 喜昭]	秋学期授業/Fall	381
演習科目	<b>[C7509]</b>	演習 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	秋学期授業/Fall	382
演習科目	<b>[C7510]</b>	演習 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	春学期授業/Spring	383
演習科目	<b>[C7511]</b>	演習 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	秋学期授業/Fall	384
演習科目	<b>[C7512]</b>	演習 (ライフ)	[佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	385
演習科目	<b>[C7513]</b>	演習 (ライフ)	[佐藤 恵]	春学期授業/Spring	386
演習科目	<b>[C7514]</b>	演習 (ライフ)	[佐藤 恵]	秋学期授業/Fall	387
演習科目	<b>[C7515]</b>	演習 (ライフ)	[田中 研之輔]	秋学期授業/Fall	388
演習科目	<b>[C7516]</b>	演習 (ライフ)	[田中 研之輔]	春学期授業/Spring	390
演習科目	<b>[C7517]</b>	演習 (ライフ)	[田中 研之輔]	秋学期授業/Fall	392
演習科目	<b>[C7521]</b>	演習 (ライフ)	[安田 節之]	秋学期授業/Fall	394
演習科目	<b>[C7522]</b>	演習 (ライフ)	[安田 節之]	春学期授業/Spring	395
演習科目	<b>[C7523]</b>	演習 (ライフ)	[安田 節之]	秋学期授業/Fall	396
演習科目	<b>[C7524]</b>	演習 (ライフ)	[熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	397
演習科目	<b>[C7525]</b>	演習 (ライフ)	[熊谷 智博]	春学期授業/Spring	398
演習科目	<b>[C7526]</b>	演習 (ライフ)	[熊谷 智博]	秋学期授業/Fall	399
演習科目	<b>[C7600]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[遠藤 野ゆり]	年間授業/Yearly	400
演習科目	<b>[C7602]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[児美川 孝一郎]	年間授業/Yearly	402
演習科目	<b>[C7603]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[坂本 旬]	年間授業/Yearly	403
演習科目	<b>[C7604]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[久井 英輔]	年間授業/Yearly	405
演習科目	<b>[C7605]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[仲田 康一]	年間授業/Yearly	407
演習科目	<b>[C7606]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[田澤 実]	年間授業/Yearly	408
演習科目	<b>[C7607]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[筒井 美紀]	年間授業/Yearly	409
演習科目	<b>[C7608]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[寺崎 里水]	年間授業/Yearly	410
演習科目	<b>[C7609]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[廣川 進]	年間授業/Yearly	412
演習科目	<b>[C7610]</b>	卒業論文 (発達・教育)	[松尾 知明]	年間授業/Yearly	413
演習科目	<b>[C7620]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[上西 充子]	年間授業/Yearly	414
演習科目	<b>[C7622]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[梅崎 修]	年間授業/Yearly	415
演習科目	<b>[C7624]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[木村 琢磨]	年間授業/Yearly	416
演習科目	<b>[C7626]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[酒井 理]	年間授業/Yearly	418
演習科目	<b>[C7627]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[坂爪 洋美]	年間授業/Yearly	420
演習科目	<b>[C7628]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[佐藤 厚]	年間授業/Yearly	422
演習科目	<b>[C7629]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[武石 恵美子]	年間授業/Yearly	424
演習科目	<b>[C7630]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[中野 貴之]	年間授業/Yearly	425
演習科目	<b>[C7631]</b>	卒業論文 (ビジネス)	[松浦 民恵]	年間授業/Yearly	426
演習科目	<b>[C7640]</b>	卒業論文 (ライフ)	[荒川 裕子]	年間授業/Yearly	428
演習科目	<b>[C7641]</b>	卒業論文 (ライフ)	[金山 喜昭]	年間授業/Yearly	430
演習科目	<b>[C7642]</b>	卒業論文 (ライフ)	[齋藤 嘉孝]	年間授業/Yearly	431
演習科目	<b>[C7644]</b>	卒業論文 (ライフ)	[佐藤 恵]	年間授業/Yearly	432
演習科目	<b>[C7645]</b>	卒業論文 (ライフ)	[田中 研之輔]	年間授業/Yearly	434
演習科目	<b>[C7648]</b>	卒業論文 (ライフ)	[安田 節之]	年間授業/Yearly	435
演習科目	<b>[C7650]</b>	卒業論文 (ライフ)	[福井 令恵]	年間授業/Yearly	437

演習科目	<b>[C7651]</b>	卒業論文(ライフ) [熊谷 智博] 年間授業/Yearly .....	438
演習科目	<b>[C7660]</b>	キャリアデザイン学総合演習 [坂本 旬] 秋学期授業/Fall .....	440
関連科目	<b>[C7700]</b>	国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ) [Robert Durham] 春学期授業/Spring.....	441
関連科目	<b>[C7701]</b>	国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ) [Robert Durham] 秋学期授業/Fall .....	443
関連科目	<b>[C7702]</b>	国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring.....	445
関連科目	<b>[C7703]</b>	国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ) [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall .....	447
関連科目	<b>[C7704]</b>	国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring.....	449
関連科目	<b>[C7710]</b>	就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- [梅崎 修、上西 充子] 秋学期授業/Fall....	451
関連科目	<b>[C7711]</b>	就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring .....	453
関連科目	<b>[C7712]</b>	就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall .....	455
関連科目	<b>[C7750]</b>	異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall .....	457
関連科目	<b>[C7751]</b>	市民社会と政治 [山内 康一] 春学期授業/Spring .....	458
関連科目	<b>[C7752]</b>	労働環境法 [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall .....	460
関連科目	<b>[C7753]</b>	財務会計論Ⅰ [川島 健司] 春学期授業/Spring .....	462
関連科目	<b>[C7754]</b>	財務会計論Ⅱ [川島 健司] 秋学期授業/Fall .....	464
関連科目	<b>[C7755]</b>	監査論Ⅰ [小澤 康裕] 春学期授業/Spring.....	466
関連科目	<b>[C7756]</b>	監査論Ⅱ [小澤 康裕] 秋学期授業/Fall .....	467
関連科目	<b>[C7757]</b>	税務会計論Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring .....	468
関連科目	<b>[C7758]</b>	税務会計論Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall .....	469
関連科目	<b>[C7759]</b>	管理会計論Ⅰ [北田 皓嗣] 春学期授業/Spring .....	470
関連科目	<b>[C7760]</b>	管理会計論Ⅱ [北田 皓嗣] 秋学期授業/Fall .....	471
関連科目	<b>[C7761]</b>	原価計算論Ⅰ [福田 淳児] 春学期授業/Spring.....	472
関連科目	<b>[C7762]</b>	原価計算論Ⅱ [福田 淳児] 秋学期授業/Fall .....	473
関連科目	<b>[C7763]</b>	経営分析Ⅰ [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring.....	474
関連科目	<b>[C7764]</b>	経営分析Ⅱ [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall .....	475
関連科目	<b>[C7800]</b>	教職入門 [吉田 直子] 秋学期授業/Fall.....	476
関連科目	<b>[C7801]</b>	教職入門 [天野 一哉] 春学期授業/Spring .....	478
関連科目	<b>[C7802]</b>	教職入門 [猪股 大輝] 秋学期授業/Fall.....	480
関連科目	<b>[C7803]</b>	教職入門 [寺崎 里水] 春学期授業/Spring .....	482
関連科目	<b>[C7804]</b>	教育原理 [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall.....	483
関連科目	<b>[C7805]</b>	教育原理 [天野 一哉] 秋学期授業/Fall.....	485
関連科目	<b>[C7807]</b>	教育原理 [飯窪 真也] 春学期授業/Spring .....	487
関連科目	<b>[C7808]</b>	教育原理 [澤里 翼] 春学期授業/Spring.....	489
関連科目	<b>[C7809]</b>	教育の制度・経営 [植竹 丘] 秋学期授業/Fall .....	491
関連科目	<b>[C7811]</b>	教育の制度・経営 [植竹 丘] 春学期授業/Spring .....	492
関連科目	<b>[C7812]</b>	教育の制度・経営 [仲田 康一] 春学期授業/Spring.....	493
関連科目	<b>[C7813]</b>	教育の制度・経営 [小池 由美子] 秋学期授業/Fall.....	494
関連科目	<b>[C7814]</b>	教育課程論 [飯窪 真也] 秋学期授業/Fall .....	495
関連科目	<b>[C7815]</b>	教育課程論 [黄 郁倫] 秋学期授業/Fall.....	496
関連科目	<b>[C7816]</b>	教育課程論 [飯窪 真也] 春学期授業/Spring .....	497
関連科目	<b>[C7817]</b>	教育課程論 [飯窪 真也] 秋学期授業/Fall .....	498
関連科目	<b>[C7818]</b>	教育課程論 [川津 貴司] 春学期授業/Spring .....	499
関連科目	<b>[C7819]</b>	教育方法論 (ICT活用を含む) [岩本 俊一] 春学期授業/Spring .....	500
関連科目	<b>[C7820]</b>	教育方法論 (ICT活用を含む) [松尾 知明] 春学期授業/Spring .....	501
関連科目	<b>[C7821]</b>	教育方法論 (ICT活用を含む) [黄 郁倫] 春学期授業/Spring .....	502
関連科目	<b>[C7822]</b>	教育方法論 (ICT活用を含む) [黄 郁倫] 秋学期授業/Fall .....	503
関連科目	<b>[C7823]</b>	教育方法論 (ICT活用を含む) [川津 貴司] 秋学期授業/Fall.....	504
関連科目	<b>[C7900]</b>	図書館演習 [坂本 旬] 年間授業/Yearly .....	505
関連科目	<b>[C7901]</b>	図書館演習 [村上 郷子] 年間授業/Yearly.....	507
関連科目	<b>[C7903]</b>	図書館演習 [竹之内 禎] 年間授業/Yearly.....	509
関連科目	<b>[C7905]</b>	図書館サービス概論 [栗原 智久] 秋学期授業/Fall.....	511
関連科目	<b>[C7908]</b>	情報サービス演習 [田中 順子] 年間授業/Yearly .....	512
関連科目	<b>[C7909]</b>	情報サービス演習 [田中 順子] 年間授業/Yearly .....	513
関連科目	<b>[C7910]</b>	情報サービス演習 [菅原 真悟] 年間授業/Yearly .....	514
関連科目	<b>[C7911]</b>	図書館情報資源概論 [小黒 浩司] 春学期授業/Spring .....	516
関連科目	<b>[C7912]</b>	図書館情報資源概論 [村上 郷子] 春学期授業/Spring .....	517
関連科目	<b>[C7913]</b>	図書館情報資源概論 [村上 郷子] 春学期授業/Spring .....	518



関連科目	<b>【C7914】</b>	図書館情報資源特論	[小黒 浩司]	秋学期授業/Fall	519
関連科目	<b>【C7915】</b>	図書館情報資源特論	[村上 郷子]	秋学期授業/Fall	520
関連科目	<b>【C7916】</b>	図書館情報資源特論	[村上 郷子]	秋学期授業/Fall	522
関連科目	<b>【C7924】</b>	読書と豊かな人間性	[田中 順子]	秋学期授業/Fall	524
関連科目	<b>【C7925】</b>	情報メディアの活用	[坂本 旬]	秋学期授業/Fall	525
関連科目	<b>【C7926】</b>	情報メディアの活用	[村上 郷子]	秋学期授業/Fall	526
関連科目	<b>【C7928】</b>	ミュージアム資料論	[田中 裕二]	秋学期授業/Fall	527
関連科目	<b>【C7929】</b>	ミュージアム教育論	[渡邊 祐子]	秋学期授業/Fall	528
関連科目	<b>【C7930】</b>	ミュージアム教育論	[山下 治子]	秋学期授業/Fall	529
関連科目	<b>【C7943】</b>	社会教育演習	[久井 英輔]	年間授業/Yearly	530
関連科目	<b>【C7948】</b>	現代生活・文化と社会教育 I	[鈴木 悌遍]	春学期授業/Spring	532
関連科目	<b>【C7949】</b>	現代生活・文化と社会教育 II	[佐々木 美貴]	秋学期授業/Fall	534
	<b>【C7992】</b>	Foreign Language Exercise (English III)	<b>【GO科目】</b> [Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	536
	<b>【C7993】</b>	Foreign Language Exercise (English IV)	<b>【GO科目】</b> [Kregg Johnston]	秋学期授業/Fall	538
	<b>【C7994】</b>	Foreign Language Exercise (English V)	<b>【GO科目】</b> [Kregg Johnston]	春学期授業/Spring	540

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (A組)

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部A組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書） / Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (B組)

小宮 理奈

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部B組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

基礎ゼミ (C組)

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部C組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書） / Textbooks】  
 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (D組)

藤村 朝子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部D組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】  
 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :



This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (E組)

有賀 ゆうアニス

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部E組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書） / Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (F組)

宮下 阿子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部F組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】  
 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (G組)

田口 賢太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部G組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部に上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書） / Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部に上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (H組)

大倉 韻

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部H組

単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :



This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (I組)

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部I組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】  
 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ（J組）

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部J組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書） / Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (K組)

井上 環

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部K組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ（L組）

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部L組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】  
 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :



This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ (M組)

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部M組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

基礎ゼミ (N組)

長戸 光

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部N組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書） / Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

## 基礎ゼミ（O組）

関 慎太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部O組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

### 【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

### 【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

### 【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

Seminar on Basic Texts

基礎ゼミ (P組)

劉 沫好

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部P組  
 単位認定先は、ILAC基盤科目0群（専門科目に含まない）  
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。  
 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることをこの授業の具体的な到達目標とします。

- 【1情報収集力】必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。
- 【2情報の内容理解】論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
- 【3情報発信能力】第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
- 【4.議論するための基礎的な力】相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方(1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。剽窃チェックソフト(Turnitin)の活用。生成AI(ChatGPTなど)利用にあたっての注意。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データの活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データの使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方(2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方(3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。

第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

【テキスト（教科書）/Textbooks】  
 ・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年  
 ・各クラス指定の文献

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45%  
 提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55%

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :



This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating in a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

**キャリアデザイン学入門** 基幹科目

梅崎 修、廣川 進、荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：1～2年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリアデザインとは何かを本学部の三領域 (発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア) の視点から提示し、キャリアデザイン学の基礎概念を講義します。併せて、これらによりキャリアデザイン学の確立を目指す一員として学生の自覚を高め、キャリアデザインを考える能力を養成します。

**【到達目標】**

キャリアデザイン学部の専門科目やゼミナールでの学習のための準備としてキャリアデザイン学の基礎的な概念を理解すること、また激動する現代社会を生きるためのキャリアデザイン学を学び、研究することの意義を見付けることを目標としています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

学部の三領域 (発達・教育キャリア、ビジネスキャリア、ライフキャリア) の教員3名によるオムニバス授業です。毎回授業では、それぞれの分野の基礎概念を学んだ後に、それぞれの分野における具体的なテーマを学生たちと議論します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	キャリアデザイン学とは何かを学び、講義内容の構成を理解する。(梅崎)
第2回	自立と自律	ビジネスキャリアの選択行動を学ぶ。合理的期待形成、限定合理性、リスクと不確実性 (uncertainty)、デザインとドリフト、トランジションなどの基礎概念を理解する。(梅崎)
第3回	経営戦略とリーダーシップ	企業組織の経営戦略を学び、組織内における活性化する優れたリーダーの役割とそのようなリーダーの育成を考察する。(梅崎)
第4回	経済構造と職業構成	工業化、ポスト工業化という経済成長に伴う経済構造の変化を学び、その変化の中で求められる雇用される能力の変化を考察する。(梅崎)
第5回	雇用政策と企業内キャリア支援	仕事を生み出す雇用政策と、企業が従業員に対して行う企業内キャリア支援を学ぶ (梅崎)
第6回	雇われない生き方、働き方と自律型キャリア	コロナ禍で働き方の変化が加速している。働く時間と場所の制約が少なくなっていく中でどのような生き方働き方が可能なのか、について考える(廣川)

第7回	キャリアと心理学	キャリア発達と生涯発達心理学、パーソナリティやメンタルヘルスとの関係などについて考える(廣川)
第8回	キャリア教育、学校とキャリア	職業指導からキャリア教育への変遷、学校現場での取り組み、就労支援、コミュニティなどキャリア教育の現状と課題について学ぶ(廣川)
第9回	キャリアとカウンセリング	自分のキャリアを切り拓くときにキャリアカウンセリングという支援が有効であることを事例を通して紹介する(廣川)
第10回	ライフキャリアとは何か	ライフ・キャリア・レインボーやライフ・ロールといった考え方を手掛かりに、人の生(ライフ)を主体的にデザインすることの意味を考える。(荒川)
第11回	個人のウェルビーイング	個人の多様なアイデンティティや主観的幸福感の視点から、キャリアデザインの目的としてのウェルビーイングについて考える。(荒川)
第12回	文化と人間形成	個人や地域のアイデンティティをかたちづくるものとしての文化に注目し、その多様性や多文化共生の意義について考える。(荒川)
第13回	地域社会と文化創造	マクロな視点から社会やコミュニティと個人のかかわりを考え、まちづくりや地域創生をめぐる政策や文化産業の推進などについて学ぶ。(荒川)
第14回	キャリアデザイン学の展望	これまでの授業を振り返りつつ、ビジネスキャリア・ライフキャリア・発達教育キャリアが相互に関連する領域について議論する。(荒川)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

定期的に授業の振り返りのための課題を出します。課題文書、講義内容、参加した議論を振り返り、課題レポートを作成してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。毎回レジメを配布します。

**【参考書】**

金山善昭, 児美川孝一郎, 武石恵美子編著 2013『キャリアデザイン学への招待』ナカニシヤ出版

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度 (出席と課題の提出等) 50%, 期末試験50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

三分野の繋がりを意識して事例紹介をしたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline (in English)】**

In this class, we will present something about career design from the viewpoints of the three areas of our faculty - development and education career, business career, life career - and give lectures on basic concepts of career design studies. Through these activities, we will raise students' awareness as a member who aims to establish career design studies and foster their abilities to think career design. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

**キャリア研究調査法入門 (A-H組)【2017年度以降入学者のみ】** 基幹科目

九鬼 成美

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～2年  
備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部A～H組  
2017年度以降に入学した学生のみ受講可能

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2年生春学期の「キャリア研究調査法（質的調査、量的調査）」や、2年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

**【到達目標】**

本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方や技能とをマスターします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

・具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます（毎回の授業で練習問題等を出します）。  
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。  
・各講義の最初で、前回学んだ内容を復習する問題に取り組みます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	どうして「調査法」を学ぶの？——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力／調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要であることを理解する。
第2回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第3回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。
第4回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第5回	政府統計を加工する	カット＆ペーストではなく、自分の視点で官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第6回	仮説と変数ってなんだ？——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。
第7回	その質問文、答えやすい？——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。

第8回	中間試験	授業にて、中間試験を実施する。
第9回	インタビュー調査の準備／本番／文字おこし	依頼状・アポ取り、下調べ、質問目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ
第10回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフストーリーのインタビュー練習を3～4人で行う。得られたデータを整理する。
第11回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データをKJ法などで検討する。400字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第12回	観察法：その1——目に見え聞こえることを書き取ってみる	全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第13回	観察法：その2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置＝役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第14回	試験・まとめと解説	授業にて、期末試験を実施する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

授業中に指示

**【参考書】**

授業中に指示

**【成績評価の方法と基準】**

中間試験（30%）、期末試験（70%）

**【学生の意見等からの気づき】**

グループワークの時間を増やす予定です。

**【Outline (in English)】**

Outline and objectives : Social research is the process and method of recognizing and understanding social phenomena through collecting data from real society and the analysis of the obtained data. This lecture will lay the foundation for the "Career Research Survey Methods (Qualitative and Quantitative Research)" in the spring semester of the second year and for the study in seminars and graduation thesis research that will begin in the fall semester of the second year. Goal: To master the skills necessary for social research  
Work to be done outside of class: Homework and preparatory assignments may be given. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.  
Grading criteria: Mid-term exam (30%), final exam (70%)

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**キャリア研究調査法入門 (I-P 組)【2017年度以降入学者のみ】** 基幹科目

**大倉 韻**

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
 曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：1～2年  
 備考（履修条件等）：キャリアデザイン学部I～P組  
 2017年度以降に入学した学生のみ受講可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通じて、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。本講義では、2年生春学期の「キャリア研究調査法 (質的調査、量的調査)」や、2年生秋学期開始のゼミでの学習・卒業論文研究に向けた土台作りをします。

**【到達目標】**

本講義は、高校までに学習した基礎的数学や国語や社会の知識・技能を発展させて、社会調査の基本的な考え方や技能とをマスターします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回、具体的事例や練習問題やグループワークを通じて、自分が「社会調査ができる」ようになるよう、段階的に知識や視点を獲得していきます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。各講義の最後に、当日に学んだ内容を復習する問題に取り組んでもらいます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	どうして「調査法」を学ぶの？ ——料理を食べる人から作る人へ	データを読み取る力/調査力が、今後の大学での学び、就職活動・社会人生活でも重要なことを理解する。
第2回	中高の数学は大学でも大事！	中高で習った数学を応用する。概念を問う習慣を身につける。数える。平らに均す。均した散らばりを測る。
第3回	表からグラフを描いてみよう①——データの読み取り基礎	グラフの描出と記述のコツを修得する。仮説設定の重要性を理解する。度数分布表、棒・帯・円グラフを作る。標準偏差を体感する。
第4回	表からグラフを描いてみよう②——データの読み取り基礎	「発達・教育」「ビジネス」「ライフ」に関連するデータを用いて、上記の練習を繰り返す。グラフを言葉で記述する。
第5回	政府統計を加工する——カット&ペーストではなく、自分の視点で	官庁統計のエクセル表を、自分の視点を定めて、グラフなどに加工する。グラフを用いて職業・産業の変化を記述・説明する。
第6回	仮説と変数ってなんだ？ ——アンケートを作る前に	仮説の構成：変数と因果関係、概念仮説と作業仮説、を理解する。30程度のデータセットを用いて、クロス表を手計算で作成する。

第7回	その質問文、答えやすい？ ——アンケートの作成	調査票の構成を理解する。質問文・選択肢の作り方を修得する。
第8回	量的調査のまとめ 質的調査の概要	対象者サンプリング、調査票の配布・回収法、各種手法など、量的調査のまとめをする。質的調査の概要を確認する。
第9回	中間テスト インタビュー調査の準備	依頼状・アポ取り、下調べ、質問目案といった準備と、録音、ノート、文字起こし、インフォーマント・チェック、お礼状作成などの過程を学ぶ。
第10回	インタビューをやってみよう！	構造化・非構造化・半構造化等、ライフヒストリーのインタビュー練習を3～4人で行う。得られたデータを整理する。
第11回	インタビュー調査を用いて論文を書く——何をどう書けばいいの？	反訳データをKJ法などで検討する。400字の文章にまとめ、単なるエッセイや感想文に終わらない書き方の基礎を学ぶ。
第12回	観察法：その1——観測に見え聞こえることを書き取ってみる	映像を見て、観察したことを書き取る。全体を見る、細部を見る、見たものから考えるという実践を通して観察法の基礎を学ぶ。
第13回	観察法：その2——立ち位置が変わると発見も変わる	観察法：参与・非参与の方法について学ぶ。映像を自らの立ち位置=役割をかえることによって対象の見え方が変化することを理解する。
第14回	質的調査のまとめ 学期末テスト	成果の公表の仕方、調査倫理も含め、質的調査のまとめをする。2年生春学期「調査法」クラス選択のイメージを抱きつつ、総括をする。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**  
宿題や予習課題が出されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**  
教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

**【参考書】**  
マシュー・J.サルガニック,2019,『ビット・バイ・ビット—デジタル社会調査入門』有斐閣。  
原純輔,2016,『社会調査—しくみと考えかた』左右社。

**【成績評価の方法と基準】**  
中間試験 (30%)、期末試験 (70%)

**【学生の意見等からの気づき】**  
グループワークでは人数・組み合わせを調整し、議論がしやすい環境づくりを心がけた。パソコンや表計算ソフトの操作に不安を持つ生徒が多かったため、それらに習熟するための時間を設けた。通学が困難な学生に配慮して、ハイフレックス授業を積極的に採用した。

**【学生が準備すべき機器他】**  
計算問題を課すことがあるので、パソコン・電卓・スマホの電卓アプリを用意しておくこと。電卓や電卓アプリの場合は、平方根の計算ができるものを用意すること。

**【Outline (in English)】**  
[Course outline]  
Social survey is a process and method to understand social phenomena by collecting data from real society and analyzing the obtained data. In this lecture, we will make a foundation for research on graduation thesis and learning in seminars after the second semester, such as “Career research survey method (qualitative and quantitative survey)” courses.  
[Learning Objectives]

In this course, students will master the basic concepts and skills of social research by developing their knowledge and skills in basic mathematics, Japanese and social studies that they have learned up to high school.

[Learning activities outside of classroom]

You may be given homework and prep assignments. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Mid-term exam (30%), final exam (70%)

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

**キャリア研究調査法（質的調査）** 基幹科目

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年  
 備考（履修条件等）：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法（1）	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法（2）	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法（3）	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法（1）	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法（2）	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法（3）	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法（1）	観察法の解説。
10	観察法（2）	観察法の調査事例。
11	観察法（3）	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会（1）	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（問題意識の明確化を中心に）。

14 発表会（2） 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う（データの読解を中心に）。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題（50%）、平常点（50%）。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

**濱中 義隆**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

青木 淳弘

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

八田 益之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

西村 純

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：火1/Tue.1 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

前浦 穂高

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

池田 佳代

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

井上 公人

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。

本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。

調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。

各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みである必要があります。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (質的調査) 基幹科目**

山崎 正枝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみ履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会調査は、現実の社会からデータを収集し、得られたデータの分析を通して、社会現象を認識し理解する過程およびその方法です。社会調査によって社会的なリアリティを把握することで、わたしたちは、これまで見えていなかったことに気づき、認識を豊かなものにするることができます。本講義では、社会調査のうち、統計的計算や数字に頼らない「質的調査」に焦点を合わせ、その各手法について学びます。

**【到達目標】**

質的調査の基礎について理解し、各手法を実践できるようになることを目標とします。調査法は方法論ですので、さまざまな分野・対象への適用が可能です。授業での学びを通し、応用的定着として、各自が関心を持つ研究対象について、質的調査の方法を適用し、ゼミ論・卒論において質的な分析を行うことができるようになることをめざします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業においては、質的調査の基本的学習を行いつつ、授業外の時間に、各手法を用いて調査実習を行ってまいります。各手法について説明を掘り下げつつ、実際に実践してみることを通して、質的調査についての理解・定着を図ります。なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法。
2	社会調査／質的調査について	社会調査とは。質的調査と量的調査の違い。
3	インタビュー法 (1)	インタビュー法の解説。
4	インタビュー法 (2)	インタビュー法の調査事例。
5	インタビュー法 (3)	インタビュー法を用いたミニ実習発表会。
6	ライフストーリー法 (1)	ライフストーリー法の解説。
7	ライフストーリー法 (2)	ライフストーリー法の調査事例。
8	ライフストーリー法 (3)	ライフストーリー法を用いたミニ実習発表会。
9	観察法 (1)	観察法の解説。
10	観察法 (2)	観察法の調査事例。
11	観察法 (3)	観察法を用いたミニ実習発表会。
12	調査データの読解	調査データ読解上の注意。
13	発表会 (1)	授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (問題意識の明確化を中心に)。

14 発表会 (2) 授業で学んだ手法のうち一つを選んで実習を行い、その成果についてレポート構想発表会を行う (データの読解を中心に)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各自、授業外の時間に調査実習を行い、発表会に備えます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません。

**【参考書】**

授業中に随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、質的調査の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。3月末に抽選を行うので掲示等に注意すること。なお2011年度以前の入学者は、抽選に参加する必要はありません。

本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

This seminar focuses on qualitative methods in the career studies. It is structured as a survey course, exposing students to a range of practical issues rather than intensive training in a single approach.

**【Goal】**

The purpose of the seminar is twofold: First, to provide participants with a broad sense of qualitative research strategies. Secondly to write a short analytical essay and to give presentations for students.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

**安田 節之**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 13 | 統計的検定の考え方 | 帰無仮説と対立仮説<br>有意水準                           |
| 14 | 量的調査の論文例  | 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities

50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

**濱中 義隆**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみに履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- 13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説  
有意水準
- 14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

井上 公人

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- 13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説  
有意水準
- 14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

**熊谷 智博**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 13 | 統計的検定の考え方 | 帰無仮説と対立仮説<br>有意水準                           |
| 14 | 量的調査の論文例  | 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

林 洋一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみに履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 13 | 統計的検定の考え方 | 帰無仮説と対立仮説<br>有意水準                           |
| 14 | 量的調査の論文例  | 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- 13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説  
有意水準
- 14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

**長瀬 毅**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみに履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- 13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説  
有意水準
- 14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみに履修可能  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に付ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- 13 統計的検定の考え方 帰無仮説と対立仮説  
有意水準
- 14 量的調査の論文例 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史／三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア研究調査法 (量的調査) 基幹科目**

**田中 友理**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：2～4年  
 備考 (履修条件等)：キャリア研究調査法入門を修得済の学生のみの履修可能

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

実証的なキャリア研究を進めるために必要となる量的調査と統計手法の基礎を学びます。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域であると考えられています。しかし、どのような研究課題に取り組むとしても分析の考え方や手順は共通です。本講義を通して量的調査の枠組みによるキャリアデザイン研究を行うためのスキルを磨いてください。

**【到達目標】**

- (1) 量的な調査法の基礎について理解する
- (2) 基本的な統計手法や分析について理解する
- (3) 卒業論文等において自ら研究を計画し、実行するための基本的なスキルを身に着ける

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストに基づく講義が中心となります。単なる統計の講義ではなく、量的な調査とは何かについても丁寧に説明します。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	研究方法論の重要性。
2	社会調査について	量的調査と質的調査の違い。 調査と実験の違い
3	データと変数	変数とは 質的変数と量的変数とは 尺度水準について
4	変数の特徴を分析する (1)：変数の分布と中心	度数分布表とは 度数分布表の視覚化(グラフの作成) 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
5	変数の特徴を分析する (2)：変数のばらつき	範囲 分散・標準偏差
6	変数の関係を分析する (1)	クロス集計表
7	変数の関係を分析する (2)	散布図
8	変数の関係を分析する (3)	相関
9	変数の関係を分析する (4)	クロス集計と散布図
10	変数の関係について深く考える	因果関係-原因と結果について
11	母集団と標本	標本の抽出
12	部分から全体を知る：推測統計学	母数と標本統計量 推定

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 13 | 統計的検定の考え方 | 帰無仮説と対立仮説<br>有意水準                           |
| 14 | 量的調査の論文例  | 上記までに習ってきた知識を復習するとともに、実際に量的調査が使われている例を紹介する。 |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞やニュースにおける様々な統計情報 (世論調査、ランキング、経済統計など) に関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

神林博史/三輪哲著 『社会調査のための統計学：このとおりやればすぐできる』 2011年 技術評論社

**【参考書】**

必要に応じて授業内で指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

「授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)」：50%  
 「レポートや課題の提出」：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内の様子、およびヒアリングなどの意見も踏まえて再調整しました。また毎回の講義テーマに沿った演習課題 (例：エクセルやSPSSを用いたデータ分析、アンケート項目の作成とデータ収集) については各担当教員の裁量に任せ、学生の興味・関心を重視しつつ量的調査に必要なスキルの習得を促すこととしました。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は事前抽選科目です。春学期中に抽選を行うので、掲示等に注意すること。  
 本科目を履修するためには「キャリア研究調査法入門」を修得済みであることが必要です。

**【Outline (in English)】**

The main purpose of this class is to acquire basic knowledge about quantitative research method and develop skills to conduct quantitative studies concerning career development.

**Learning Objectives:**

- ・ Understand basics of quantitative methodologies
- ・ Know how to analyze data by using statistical methods
- ・ Develop skills to design and plan own research projects

**Learning activities outside of classroom:**

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4hrs).

**Grading Criteria /Policy:**

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities  
 50 points (%) for mid-term and/or final papers

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

発達・教育キャリア入門A 基幹科目

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中でしかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】

発達・教育に関する10のトピックをめぐる基礎的な知識を身に付ける。

自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。

自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は原則を対面としつつ、対面での授業に参加できない学生には、6回まで、オンラインでの参加を認めます。

本授業では10の教育問題(トピック)を取り上げます。各自教科書の第1節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える視点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、課題の設定、テキスト、オンライン受講の方法等について説明する。授業実施の詳細(オンラインへのアクセスの仕方など)はHoppiiに記載する。
2	枠組みとしてのあたりまえ テキスト序章	「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
3	家族の形 テキスト第1章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。
4	家庭教育 テキスト第2章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
5	児童虐待 テキスト第3章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識の見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。

6	つながり孤独 テキスト第4章	若者のSNSの問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
7	いじめ テキスト第5章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。
8	恋愛 テキスト第6章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
9	カウンセリング テキスト第7章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
10	不登校 テキスト第8章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
11	発達障害 テキスト第9章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
12	キャリア教育 テキスト第10章	おとなになることは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
13	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ
14	授業全体のふりかえり・評価	本講義を通して何を考えてきたのかを再検討し、学んだ内容の確認、今後の課題の設定を行う。また習得状況の確認を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

テキストはすべて1章が3節構成になっています。各章の第1節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

遠藤野ゆり・大塚類(2020)『さらにあたりまえを疑え! 臨床教育学2』新曜社

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題50%、期末レポート50%(受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。)

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで参加した場合に音声聞き取りにくいとのことでしたので、マイクの使用など、音声システムを工夫するようにします。ただし、対面授業を原則としており、オンラインで受講した場合の音質等には一定の限界があることを了解してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンやPCなどの機器を持参してください(事前に連絡します)

原則対面の授業ですが、半数まで、オンラインでも受講可能とします。その場合にオンライン環境は学生さん自身で整えてください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて内容の調整をすることがあります。

【Outline (in English)】

Outline and objectives : We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.



**Goal:** The goal is to acquire basic knowledge about 10 topics related to development and education and, also, to understand how they usually think within the "natural framework" and explore their roots.

**Methods:** This class will cover 10 educational issues (topics). Students are required to prepare for the basic knowledge in Section 1 of each textbook before attending the class. Every class a quiz to measure the acquisition rate of basic knowledge is held. In the class, a viewpoint that overcomes the natural framework and reconsider the knowledge that we have prepared is showed.

**Work to be done outside of class (preparation, etc.)** :all textbook chapters are composed of three chapters. Section 1 of each chapter contains all the basic knowledge for learning that unit. Due to class time, basic knowledge is a preparatory task and a weekly test is conducted. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**Grading criteria:** 50%=quiz in each class, 50 %=term-end exam. (The grading criteria way may be changed according to the student's request)

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門B** 基幹科目

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

個人の学びや発達に視点を置く事柄について基礎的な内容を学ぶ。個人の生き方や社会の在り方について考察する。

**【到達目標】**

- ・キャリアデザインに関わる社会現象についてデータに基づいて説明できる。
- ・発達および教育が関連するキャリアデザインにかかわる各トピックについての基礎的な知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義の初めに、前回の講義で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また授業内ではグループディスカッションも行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の枠組や評価方法等を説明する。
第2回	選択肢を拡げる／絞る	「複数の選択肢があればそこから何を選ぶのか」は個人が生き方を選ぶことと関連する。心理学の観点からキャリア発達、意思決定モデルについて説明する。
第3回	大学へ進学する	日本の高校卒業者の進路の内訳、学生生活で重視する事柄等の時系列的な変化を概観する。これらの変化と現代社会における青年期の諸問題との関連を説明する。
第4回	企業に就職する	日本の大学卒業者の進路の内訳や時系列的な変化を概観する。民間企業への就職を例に取り上げ、大学での学びが与える影響について説明する。
第5回	地域を移動する	日本では、高校卒業後および大学卒業後に都道府県間移動をする若者が多いことが知られている。このような地理的な移動を題材に、個人の生き方と社会の在り方の関連を考える。
第6回	地域で支える	学校という空間の外側には家庭や地域社会がある。地域の支えを得ながら社会へ移行する若者の事例を紹介し、包括的な若者支援について説明する。
第7回	体験から学ぶ	経験学習について説明する。自らの経験から学びを得るプロセスだけでなく、社会人講話などから学びを得るプロセスについて考える。

第8回	コミュニケーションする	個人の生き方を考える際に、他者とのコミュニケーションは不可欠である。情報の発信と受信、メリットとデメリットの比較から、その多様性を説明する。
第9回	自信を持つ	個人の行動の原動力を考える。自己効力、学習性無力感、自尊感情について説明する。
第10回	将来を見通す	個人の生き方や社会の在り方を考える際に、将来を見通すことは不可欠である。個人の見通しに関連した概念について説明する。
第11回	知識を紡ぐ	ワークショップによる学びに注目する。共に参加したメンバー間で知識はいかにして紡がれていくのか、ワークショップに関連した学習理論を説明する。
第12回	家族を形成する	近年では、個人が仕事役割と家族役割のバランスをどのように取るのかが注目されることがある。このことについて成人期の発達課題との関連を説明する。
第13回	次世代に伝える	「発達」の概念は、個人の人生の始まりから終わりまでを指し示すこともあるが、世代を超えたサイクルも含むことがある。住民による防災情報の伝達を事例にして、「次世代に伝える」ことの効果について考える。
第14回	2つ以上のものをつなげる	上記までに扱ったトピックの関連について考えるための補足を加える。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

なし。レジュメを配布する。

**【参考書】**

e-Stat (日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト)  
<https://www.e-stat.go.jp>

**【成績評価の方法と基準】**

平常点40% レポート課題60%

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度の授業の感想およびレポートを参考にして、一部、授業の順番を昨年とは変更した。

**【Outline (in English)】**

This class will teach students the basics of individual learning and development. By the end of the course, students should be able to: · Explain social phenomena related to lifelong learning and career studies using data, · Gain a basic understanding of topics related to lifelong learning and career studies, including development and education. After each class meeting, students must complete assignments. Students are expected to dedicate over four hours per class. Grading will be based on 60% reports and 40% of in-class contributions.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門C (生 基幹科目  
涯学習入門 I)**

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

(授業の概要)

生涯学習、社会教育に関する事項についての基本的な内容を解説する。  
(授業の目的・意義)

授業内容をとおして、学校教育に留まらない学びが社会の至る所で展開していることを深く理解し、教育や学習をとらえる視野を広げる。

**【到達目標】**

生涯学習の理念、社会教育に関する様々な概念、制度、実際に行われている事業・実践、社会教育の歴史、社会教育に類する海外の教育活動(多様なノンフォーマル教育)の展開などについての基本的な理解を獲得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「社会教育」「生涯学習」とは何か?	社会教育の概念とそこに含まれる多様な教育活動について、および、包括的な概念・理念としての生涯学習について解説する。
第2回	市町村は社会教育にどう関わっているか?	市町村レベルの社会教育行政で実際に行われている事業の事例を挙げながら、社会教育行政の特徴について解説する。
第3回	社会教育の学習テーマはどうあるべきか?	社会教育行政の事業を展開する上で重要な概念である「必要課題」「要求課題」とその具体例について解説する。
第4回	学校以外にどのような場で学べるか?	公民館、図書館、博物館など、社会教育行政が運用する多様な施設(社会教育施設)の基本的役割と実態について解説する。
第5回	社会教育に関わる人はどのように働いているのか?	ゲストスピーカー(現役の社会教育施設の職員)から、地域住民の学びを支援する仕事の実際について情報提供していただき、学生と質疑応答を行う。
第6回	「成人式」はなぜ行われているのか?	社会教育施設以外で展開される社会教育行政事業について解説する。
第7回	民間企業はおとなの学びにどう関わっているか?	カルチャーセンター、塾、スクールビジネスなど、民間の社会教育事業の歴史的展開と現状について解説する。

第8回 なぜ人々は趣味を学ぶのか?

ゲストスピーカー(シリアスホビーの研究者)に、趣味の学びを現代人がどのように意味づけしているのかについて情報提供いただき、学生と質疑応答を行う。  
「子ども、若者対象」という観点から、行政、民間の社会教育事業の現在における動向を整理して解説する。  
学校教育と社会教育の連携、および、学校と地域社会の連携に関する現在の動向について解説する。

第9回 子どもや若者は学校以外にどこで学んでいるか?

第10回 学校教育と社会教育はどう連携すべきか?

第11回 社会教育という概念はどのように成立したか?

第12回 戦後、社会教育はどのように変化してきたか?

第13回 社会教育は国によってどのように違うのか?

第14回 授業の振り返り

日本における近代以降(第二次世界大戦まで)の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。  
日本における第二次世界大戦以降の社会教育の歴史的展開について、社会教育行政の事業を中心に解説する。  
社会教育を国際比較的に検討する際に必要な視点、及び、日本において頻繁に参照される海外の社会教育的な取り組みについて解説する。  
前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基に検討し、授業内容全体についての理解を深める。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

- ・準備学習は特に必要ない。
- ・各回の授業後、授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・期末レポートの執筆において、各回の授業内容を十分に復習すること。
- ・本授業の復習時間は4時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

特に使用しない。

**【参考書】**

香川正弘他編『よくわかる生涯学習(改訂版)』ミネルヴァ書房、2016年  
松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎』学文社、2015年

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のコメントシート 60%  
期末レポート 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

各回に提出してもらったコメント(リアクションペーパー)については、これまで授業日の深夜までに学習支援システムで提出していたが、授業内で完結するほうが望ましいという学生の声があり、また欠席者がその回のコメントを提出してしまうという例も見られた。そのため、2024年度は基本的に、紙媒体でのコメント提出を授業時間内で求めることとした。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士(養成課程)の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書資格、博物館学芸員資格取得のための必修科目でもある。

**【Outline (in English)】**

(Outline)

This course provides students with basic knowledge on lifelong learning and social education. This course aims to deepen students' understanding on various types of learning activities outside of schools, and to widen students' perspective on education and learning.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to read document of lecture again after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (60%), final report (40%).

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門C (生 基幹科目  
涯学習入門 I)**

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

生涯学習は義務教育学校が成立するよりもはるかに前から、生活の場で仕事を通じて行われてきた営みである。発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門I)では、主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

**【到達目標】**

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。また、毎時間グループワークもしくは質疑応答を求めるため、2/3以上の出席を前提とする。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して講評や解説を行うことがある。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習社会に生きることの意味	「知識基盤社会」と呼ばれる現代において、社会教育・生涯学習は何を期待されているのか、私たちが「生きる」ための学習の意味について考える。
第2回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約①	教育基本法及び教育勅語などの教育基本法令の原理について学ぶ。
第3回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約②	教育無償化論の理解を通して、社会教育施設(図書館・公民館など)の無償制原則について理解する。
第4回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約③	社会教育法等の解釈を通じて、戦後社会教育法制と制度の特徴を理解する。
第5回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約④	社会教育法に関わる訴訟の論点を通して、学習権と「表現の自由」について理解する。
第6回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑤	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令について、公民館を中心に理解する。
第7回	社会教育・生涯学習の関連法令と条約⑥	公共図書館の基本理念と図書館政策・提言、図書館経営のアウトソーシングや学校図書館・NPO図書館、読書ボランティア活動とともに、博物館の理念と制度、その多様な形について考える。

第8回	社会教育・生涯学習の理念と思想	社会教育における四つのテーゼの特徴の理解を通して、戦後社会教育の理念の発展を学ぶ。
第9回	社会教育・生涯学習の政策と制度①	教育委員会制度の特徴を通して、社会教育・生涯学習を支える仕組みについて理解する。
第10回	社会教育・生涯学習の政策と制度②	学校と社会教育施設の関係を通して、社会教育・生涯学習の行財政の特徴について学ぶ。
第11回	社会教育・生涯学習の政策と制度③	長野県飯田市を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の課題と可能性を学ぶ。
第12回	社会教育・生涯学習の政策と制度④	長野県飯田市及び伊那地方を事例に、自治体における社会教育・生涯学習の特徴と課題を学ぶ。
第13回	社会教育・生涯学習の課題と可能性	SDGs及びESDの時代における社会教育・生涯学習の課題と可能性を考える。
第14回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業時ごとの簡単なレポート(ワークシートを含む)を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023年 (ISBN978-4-910917-03-0)

**【参考書】**

社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所 2017年

**【成績評価の方法と基準】**

テキストを中心に課題レポート(ワークシートを含む) 80%  
平常点20%

**【学生の意見等からの気づき】**

原則として、資料等を学習支援システムに掲載します。

**【学生が準備すべき機器他】**

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認下さい。

**【その他の重要事項】**

社会教育主事養成課程等法定科目。

**【その他】**

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

**【Outline (in English)】**

Lifelong learning has been carried on through our work in life, which has existed long before school education has started. In this class, participants will learn the essence and significance of lifelong learning and social education. Also, we will learn the institutional development of lifelong learning and will deepen understanding of basics in home education, school education and social education.

By the end of the course, students should be able to do the followings: understanding of basics in home education, school education and social education.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門Ⅱ)【2021年度以前入学者用】** 基幹科目

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：2021年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2022年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目（市ヶ谷）のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

**【授業の概要】**

生涯学習、社会教育に関する事項について、基本的な文献の講読、学生による発表と討論をふまえて検討する。

**【授業の目的】**

学生が生涯学習、社会教育の実践に関わり、提言できるよう、その基礎的な事項について深く理解できるようにする。

**【到達目標】**

生涯学習の理念、社会教育に関する制度、実際に行われている各種の事業・実践について、それらを論じる際に不可欠な視点、また現実に課題となっている点を把握する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

最初の数回は、生涯学習、社会教育に関する基本的知識・視点を講義形式で復習する。その後、受講生の各グループが、授業1回分の講読文献の発表を担当し、各回とも、その発表をふまえたディスカッションを中心に進める。授業終了時に、各回の文献で示された論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	社会教育・生涯学習における基本事項①	授業全体の進め方について説明した上で、教育・受講者間で社会教育・生涯学習に関する問題関心を共有する。
第2回	社会教育・生涯学習における基本事項②	文献講読の前提となる基本知識、特に社会教育の実践・制度に関わる基本的事項を概観する。
第3回	社会教育・生涯学習における基本事項③	文献講読の前提となる基礎知識、特に社会教育の歴史、生涯学習の理念、学習者支援や学習関心・行動の理論に関わる基本的事項を概観する。
第4回	高齢者と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、高齢者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第5回	高齢者と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、高齢者が対象となる社会教育事業において現実に課題となっている点について理解を深める。
第6回	子ども・若者と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者が対象となる社会教育事業を論じる上で重要な観点について理解を深める。

第7回	子ども・若者と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、子ども・若者対象の社会教育で現実に課題となっている点について理解を深める。
第8回	家庭教育支援と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第9回	家庭教育支援と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、家庭教育支援事業において現実に課題となっている点について理解を深める。
第10回	職業・労働と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第11回	職業・労働と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、職業・労働と社会教育の関連において現実に課題となっている点について理解を深める。
第12回	学校教育と社会教育①	文献講読及び討論を通じて、学校教育と社会教育の関連を論じる上で重要な観点について理解を深める。
第13回	学校教育と社会教育②	文献講読及び討論を通じて、学校教育と社会教育の関連において現実に課題となっている点について理解を深める。
第14回	授業の振り返り	前回までの発表とディスカッションについて、各グループでの議論をふまえて論点を提示してもらい、授業内容全体についての理解を深める。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・各回の文献講読、(発表担当の場合) 文献の要約とコメントが、予習として必要である。
- ・各回の授業後、文献および発表レジュメを読み直すこと。また、前回の授業のコメントシートに書かれた内容については、教員が適宜授業内で抜粋して配布し、リプライするので、そこで配布された自分以外のコメントについても目を通しておくこと
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

講読文献は多岐にわたるため、授業内で紹介する。なお講読文献は基本的にPDFファイル化して、受講者に配布する。

**【参考書】**

- 香川正弘他編『よくわかる生涯学習（改訂版）』ミネルヴァ書房、2016年
- 松岡広路、松橋義樹、鈴木真理編『社会教育の基礎（シリーズ 転形期の社会教育1）』学文社、2015年

**【成績評価の方法と基準】**

- グループでの文献発表 20%
- 各回のコメントシート 50%
- 各回のディスカッションへの貢献度 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

一部の講読文献について、2022年度よりもやや平易な内容のものに改めたため、文献の内容を各学生が十分に理解した上での質疑応答がよりできるようになった。一方、教員が求める（秋学期を通しての）発言回数以上に発言しない受講者が多いため、学生がより発言しやすくなる工夫を検討していく必要がある。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習概論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための必修科目である。また、図書館司書課程、博物館学芸員課程の必修科目でもある。  
また、キャリアデザイン学部（ただし2021年度以前入学生のみ）の基幹科目「発達・教育キャリア入門D」にも該当する。

**【Outline (in English)】**

**(Course Outline)**

The aim of this course is to examine major issues on lifelong learning and social education by text reading, presentation, and discussion.

**(Learning Objectives)**

The goal of this course is to help students to understand basic knowledge on lifelong learning and social education in order to involve in and make useful suggestions to learning activities in social education.

**(Learning Activities Outside of Classroom)**

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

**(Grading Criteria /Policy)**

Final grade will be calculated according to the following process: Group presentation (20%), Comment for every class (50%), contribution to discussion (30%).

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門D (生涯学習入門Ⅱ)【2021年度以前入学者用】** 基幹科目

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1～4年

備考(履修条件等)：2021年度以前入学者は学部専門科目として履修可能。2022年度以降入学者がこの科目を履修する場合、卒業所要単位外として、教職・資格科目(市ヶ谷)のシラバスに記載されている授業コードで履修してください。

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

生涯学習入門Ⅱでは、主に日本における社会教育・生涯学習の歴史的展開を踏まえて、具体的に実施されてきた学習の内容と方法・形態について人間のライフサイクルや社会階層に応じた学習課題の展開・方法・形態について理解を深め、社会教育・生涯学習論の深まりについて考察する。

**【到達目標】**

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

学習支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。また、毎時間グループワークもしくは質疑応答を求めるため、2/3以上の出席を前提とする。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行うことがある。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人が「学ぶ」ことの意味	ヒトから人へと進化・発達する歴史と営みを、「学ぶ」という行為の意味から考察する。
第2回	社会教育・生涯学習の現代的課題	社会教育と生涯学習とESDの関係を通して、現代的な課題について考える。
第3回	戦後日本社会教育の流れ①	戦後民主主義の形成期における社会教育民主化政策の展開、公民館の提唱と初期公民館活動の展開、教育基本法・社会教育法の制定から戦後社会教育理念の形成の特徴を学ぶ。
第4回	戦後日本社会教育の流れ②	社会教育政策の転換による高度経済成長の準備過程を、青年学級振興法の制定と社会教育法「大改正」の流れを中心に学ぶ。
第5回	戦後日本社会教育の流れ③	低成長時代の社会教育政策と自治体の動向を踏まえて、「権利としての社会教育」論の広がりについて学ぶ。
第6回	戦後日本社会教育の流れ④	21世紀戦略と生涯学習政策の動向を踏まえて、1990年代の新たな社会教育運動について学ぶ。

第7回	戦後日本社会教育の流れ⑤	近年の教育政策の動向を踏まえて、社会教育・生涯学習の課題と可能性について考える。
第8回	社会教育・生涯学習の実践①	日本の農業と近代化という視点から農業・農民・食に関わる学習運動について学ぶ。
第9回	社会教育・生涯学習の実践②	公害教育を手がかりに環境問題に関わる学習運動について学ぶ。
第10回	社会教育・生涯学習の実践③	巻原発住民投票における住民の学習を事例に地域づくり学習のあり方を考える。
第11回	社会教育・生涯学習の実践④	公民館における「地域づくり学習」の事例をもとに、公民館と地域課題との関係を考える。
第12回	社会教育・生涯学習の実践⑤	公民館における講座やサークルの活動を事例に、公民館の特徴と役割を学ぶ。
第13回	社会教育・生涯学習の過去から未来へ	戦後社会教育・生涯学習における学習運動の地下水脈として、自由民権運動や憲法起草運動の意味について考える。
第14回	ふりかえり	授業を通して学んだことを振り返る。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

テキストの購読。  
授業時ごとの簡単なレポート(ワークシートを含む)を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023年(ISBN978-4-910917-03-0)

**【参考書】**

千野陽一監修、社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育増補版』エイデル研究所 2015年

**【成績評価の方法と基準】**

テキストを中心に課題レポート(ワークシートを含む)80% 平常点20%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で紹介した資料はWeb上に添付します。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用するため、(できれば)携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

**【その他の重要事項】**

社会教育主事養成課程等法定科目。

**【その他】**

テキストと授業の教材を読むこと。

**【Outline (in English)】**

Introduction to Lifelong Learning II mainly focuses on the historical development of social education and lifelong learning in Japan. It examines the content, methods, and forms of learning that have been specifically implemented, covering topics that correspond to the human life cycle and social strata. Through this course, we aim to deepen our understanding of the development, methods, and forms of social education and lifelong learning theory.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertness and extension of learning support.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.



BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**発達・教育キャリア入門D** 基幹科目  
**【2022年度以降入学者のみ】**

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
 曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年  
 備考(履修条件等)：2022年度以降に入学者した学生のみ履修可能  
 その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

教育や学校と社会構造の関係に着目して格差や不平等をとらえるための基礎的な知識を学ぶ。

日本は学歴社会なのか、学校歴社会なのか。  
 社会階層とはなにか、どうやって把握できるのか。  
 社会階層間の格差が拡大しているというのは本当か。  
 教育機会や労働市場の地域間格差をどうやって捉えるのか。  
 東京都立高校の入学者定員が男女別に定められているのはなぜ「不平等」なのか。

一方で、理系の大学で女子限定の推薦枠をつくることはどうして「不平等」とされないのか。

そもそも「不平等」は社会政策的にどのように把握され、「問題」とされてきたのか。

といったような事柄をアカデミックに考えるための入門科目である。教育社会学の知識をベースとし、適宜、社会学や経済学の知見を紹介する。

**【到達目標】**

- ①社会事象に対してどのように「問い」が立てられているのか、その立場の違いを理解できる。
- ②他者と協働して行うグループワークを学びの機会として活用できる。
- ③適切な官公庁統計データを探し、利用することができる。
- ④よかれと思ってしていることが、意図せざる結果をうむ可能性があることを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

対面による講義とグループワークを用いる。内容の専門性が高いので、リアクションペーパーやミニ課題を通じて、理解度の把握に努める。またフィードバックを授業内で丁寧に行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育と機会の平等	導入として、教育と機会の平等について考える。授業の進め方の説明、授業の概要と目的の理解。
第2回	教育と社会移動	社会移動という考え方、教育達成、社会的地位達成
第3回	教育と選抜1：選抜という考え方	メリトクラシー、機能主義理論、葛藤理論、スクリーニング理論
第4回	研究事例：人口減少時代の学校教育	経済発展と教育、機能主義モデル、人的資本モデル、コンフリクトモデル、マンパワー要請から地域人材育成へ
第5回	学校の社会学	学校で私たちは何を学んでいるのか。規律訓練、管理される身体。テストの社会学。
第6回	パラダイム転換と不平等論争	社会化への着目、解釈主義的アプローチの登場
第7回	教育と選抜2：社会集団と教育	コレスポネンズ理論、能力の社会的構成説、再生産理論

第8回	選抜機関としての学校	学校のなかで何が起きているのか。教師やカウンセラーの再生産への関与。
第9回	研究事例：子供の貧困	貧困とはどういう状態か。量的、質的把握。
第10回	日本における格差への着目	地域、家族、学力、階層の固定化
第11回	ジェンダーと学校と教育	なぜいつも女性が問題になるのか。「弱者男性」とはなにか。LGBTQと学校。
第12回	研究事例：流行に向きあう	制服、スクールカースト、学校の空気、アニメ、陰キャなどどのように向き合ってきたのか
第13回	大人になることの延長	学校から社会への移行という研究課題。人生においてますます重要性が増す「学校教育」。研究方法と問題の立て方。
第14回	試験と全体の振り返り	授業内試験を実施するとともに、全体の授業の振り返りを行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

入門科目なので、知識の定着と活用を求める。グループワーク課題によっては、授業時間外の予習を求めることがある。その場合、事前に指定された準備をしないとグループワークに十分に参加できないので注意すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。フィードバックについて、次の授業の初めにリアクションペーパーやミニ課題のいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

植上一希・寺崎里水編『わかる・役立つ教育学入門』大月書店、2021年  
 カラベル&ハルゼー編『教育と社会変動 (上)』東京大学出版会、1980年  
 その他、配布資料中で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーおよびミニ課題40%、最終試験60%。

**【学生の意見等からの気づき】**

担当者が変わったためとくになし。

**【Outline (in English)】**

Course Outline: Students will learn the fundamentals of understanding inequality and disparity by focusing on the relationship between education, schools and social structure.

**Learning Objectives:**

- (1) To be able to understand how "questions" are formulated about social events and the differences in positions.
- (2) To be able to utilize group work in collaboration with others as an opportunity for learning.
- (3) To be able to search for appropriate government statistics, understand their contents, and use them.
- (4) To be able to understand that what we do with good intentions may have unintended consequences.

**Learning Activities Outside of Classroom:** Preparation and review should be 2 hours each.

**Grading Criteria:** Reaction papers and mini-assignments: 40%, final exam: 60%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**ビジネスキャリア入門A** 基幹科目

妹尾 渉

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「一国の経済活動」について、マクロ経済学の理論に基づいて理解する。まず最初に、一国の経済活動を測るための指標 (GDP、物価、失業率) について学ぶ。次に、それらが、消費・投資活動、財・サービス市場、労働市場、金融 (資金) 市場、貿易、政府の介入、などを通じて決定される仕組みについて学ぶ。最後に、最近の世界経済、日本経済が直面している課題について考える。

**【到達目標】**

①一国の経済活動について、マクロ経済学の理論に基づいて理解できること。②①で学んだ理論を通して、日本経済の現状についての解説ができること。③①②の作業を通して、社会科学の思考法 (仮説の立案→データ・実例による仮説検証→仮説の再考) を身に付けること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

指定するテキストに沿って授業を行い、課題を掲示する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のガイダンス
2	マクロ経済学とは	マクロ経済学とは何か 企業、家計、政府
3	マクロ経済を観察する I	マクロ経済のパフォーマンスを測る
4	マクロ経済を観察する II	GDP、名目と実質 物価と労働に関する尺度
5	マクロ経済を支える 金融市場	金融の重要性、金利
6	貨幣の機能と中央銀行の役割	貨幣とは、中央銀行とは
7	財政の仕組みと機能	財政の機能 政府の予算、税制、国際
8	GDPと金利の決まり方	消費関数、投資・貨幣市場と金利、財市場・貨幣市場の同時均衡、IS-LM分析
9	総需要・総供給分析	物価とGDPの同時決定、完全雇用下での経済政策
10	インフレとデフレ	インフレ・デフレ発生の原因
11	国際収支・為替レートとマクロ経済	外国との取引を測る
12	経済が成長するメカニズム	経済成長とは何か
13	資産価格の決まり方	日本経済のバブルとその崩壊
14	まとめ	総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

平口良司・稲葉大 (2023) 『マクロ経済学 [第3版]』有斐閣ストゥディア

**【参考書】**

講義中に適時紹介

**【成績評価の方法と基準】**

平常点・小テスト (50%)、期末テストで評価 (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

リアクション・ペーパーの導入

**【その他の重要事項】**

・本授業は、対面とオンラインを併用する予定です。

詳細な日程については初回の授業ガイダンス時にアナウンスします。

**【Outline (in English)】**

Understand "economic activities of one country" based on the theory of macroeconomics. First of all, we learn about indices (GDP, price, unemployment rate) to measure the economic activity of a country. Next, we learn about the mechanisms that are determined through consumption and investment activities, goods and services markets, labor markets, financial markets, trade, government intervention, Finally, we think about the recent world economy.

The goals of this course are to understand the economic activities of a country based on macroeconomic theory.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%、Term-end examination: 50%

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

**ビジネスキャリア入門B** 基幹科目

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、ビジネスキャリアデザインと関連付けてミクロ経済学の基礎について学びます。キャリアは個人の選択により形成されますが、その選択のメカニズムを「経済学」の視点でとらえます。経済学は、完全に競争的な市場の中で、個人や企業が合理的に行動するという前提に議論がなされ、基本的なメカニズムを理解することは重要です。しかし、理論通りの完全競争的な市場になることは稀です。また人間の行動は不合理と思えることの方が多い、なぜ合理的でない行動をとってしまうのか、に関しても最近注目されている「行動経済学」で解釈することができます。経済学という「お金」の側面を思い浮かべがちですが、恋愛や家族形成、職場での男女差別など身近なトピックも取り上げながら議論を進めます。

**【到達目標】**

キャリアデザインについてミクロ経済学と関連付けながら総合的に理解するとともに、ビジネスキャリアへの関心を持つことを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントのスライドを用いた授業を行います。学習支援システムで資料を配布するので、この資料を必ずプリントアウトして出席してください。資料がないと授業の理解が難しくなります。また、欠席した場合には、学習支援システムで内容を確認しておいてください。

授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡するので、随時学習支援システムでの確認をお願いします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、ミクロ経済学の導入	授業概要の説明、ミクロ経済とは何か。
第2回	市場のメカニズム① 分業と市場	経済学的に考える基礎である「競争的な市場」とは何か。市場の前提としての分業の構造について。
第3回	市場のメカニズム② 消費者の行動を考える	経済学では、市場の中で、個人は合理的に行動すると考えます。つまり個人は損得を判断して行動するわけですが、そこには個人の好み(選好)も関わります。個人が商品やサービスを求める行動について考えます。
第4回	市場のメカニズム③ 企業の行動を考える	利潤を追求するのが企業の目的です。企業は資本設備をそろえ、労働者を雇用して生産活動を行う経済主体ですが、どのようなメカニズムで企業の行動が決まっているのかを考えます。

第5回	市場のメカニズム④ 価格について考える	需要曲線と供給曲線を用いて、商品の価格や取引量がどのように決定するかについて解説します。オークション、価格弾力性、「タダ」の意味など、価格について掘り下げます。
第6回	市場のメカニズム⑤ コストとインセンティブについて考える	「損をした」「得をした」と考えますが、それはどのようなメカニズムによるのでしょうか。「恋人と別れた方がいいのか?」というテーマにも「損得」という視点からアプローチします。経済学では、完全に競争的な市場で合理的な行動がとられる、ということ的前提にモデルが考えられますが、実際には市場は不完全なことの方が多いです。不完全な市場について、独占・寡占、情報の非対称性といった点から考えます。
第7回	市場のメカニズム⑥ 不完全な市場	成功確率が70%の手術を受けますか?。不確実な状況においてどのような意思決定が行われるのかについて、行動経済学による解釈を紹介します。「10万円のバッグが安い!」と思って購入してしまう。損得を考えずに直感で意思決定(ヒューリスティック)をする場面は多いですが、なぜそのような行動をとってしまうのかについて考えます。
第8回	人間の行動を読み解く①「プロスペクト」	行動経済学では、「肘をつつく」という意味の「ナッジ」が重視されます。ある行動をとってもらい、あるいはある行動をしないようにしてもらいするための仕掛けとして「ナッジ理論」について例を挙げて説明します。
第9回	人間の行動を読み解く②「ヒューリスティック」	結婚、離婚という意思決定について経済学の視点で考えます。意思決定の実際②出産、子育ての経済学
第10回	人間の行動を読み解く③「ナッジ」	少子化の原因にも触れます。授業内容の理解度を確認するため、授業内試験を実施する。
第11回	意思決定の実際①結婚、離婚の経済学	試験の解説、授業のまとめを行う。
第12回	意思決定の実際②出産、子育ての経済学	
第13回	授業内試験	
第14回	試験の解説、授業のまとめ	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習と復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

小島寛之『世界一わかりやすいミクロ経済学入門』講談社

**【参考書】**

ティモシー・テイラー[著]、高橋璃子[訳]『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』かんき出版。  
吉本 佳生[著]『出社が楽しい経済学』日本放送出版協会。  
大竹文雄[著]『行動経済学の使い方』岩波新書。

**【成績評価の方法と基準】**

評価は、期末試験結果と授業への出席内容で行います。試験50%、授業出席内容(ミニレポート、その内容も重視)50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の最初の時間を使って、前回の復習を行うことで学生の講義内容への理解を深めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

ビジネスキャリアを理解するという観点で、ミクロ経済の入門をベースにした授業を展開します。人間の行動や意思決定のメカニズムを、経済学的の観点で解釈するとどのようにとらえることができるのか、について考えます。結婚や出産などのライフキャリアも具体例として取り上げて議論を進めていきますので、積極的に授業に参加してください。わからないことはいつでも質問して下さい。

なお、受講者の状況を見て、授業内容を変更する場合があります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** In this class, students will learn the basics of microeconomics in relation to business career design. Careers are formed by individual choices, and the mechanism of those choices is understood from the perspective of "economics."

**【Learning Objectives】** The goal of this course is to gain a comprehensive understanding of career design in relation to microeconomics.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policy】** Final grade will be calculated according to the following process.

Term-end examination (50%) and in-class contribution(50%).

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**ビジネスキャリア入門C** 基幹科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、ビジネスキャリア入門として、キャリアデザインと関連付けながら経営学の基礎を学んでいきます。ビジネスが行われる主な場は、「株式会社」といわれる組織です。この講義では、株式会社の歴史、意義および課題等について、人々のキャリアと関連付けながら平易に講義してまいります。

**【到達目標】**

株式会社をはじめ企業に関する基礎知識について、キャリアデザインと関連付けながら総合的に理解することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本講義は、対面の講義形式で実施します。授業への動機付けの向上や理解度の確認のため授業内レポートを執筆してもらいます。その結果は授業中にフィードバックし、問題意識が深められていくように進めていきます。なお、COVID-19の感染拡大によりオンライン授業を行う必要がある場合など、適宜、Hoppiにより連絡します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	キャリアデザインの基礎	本学部の主題である「キャリアデザイン」について考察します。
3	人間の分析	ビジネスを織りなす「人間」とは何かについて考えます。
4	株式会社の基礎①	企業分析の方法 (ケーススタディ) について学びます。
5	株式会社の基礎②	株式会社の起源と発展について歴史を踏まえながら学びます。
6	株式会社の基礎③	資本市場、労働市場、生産要素市場の関係性について学びます。
7	株式会社の基礎④	株価形成の仕組みについて学びます。
8	中間レビュー	第2回～第7回の講義内容をレビューします。
9	株式会社の基礎⑤	今日のビジネスモデルにおける「非財務資本」の意義について学びます。
10	企業社会とキャリア①	産業構造、労働市場、人々のキャリア形成の関係性について学びます。
11	企業社会とキャリア②	人的資本の理論について学びます。
12	企業社会とキャリア③	人的資本の形成について考えます。
13	企業社会とキャリア④	日本企業をめぐる課題について考えます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞記事を読むなど、企業をめぐる動向に関心をもってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

開講時に指示します。

**【参考書】**

開講時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績の評価は次のとおりです。

- ①平常点10% (授業内のQuiz、レポートの得点)
- ②定期試験90%

**【学生の意見等からの気づき】**

良いレポートをより積極的に紹介して、受講者のレポート作成に役立つ情報を提供します。

**【Outline (in English)】**

**\*Course outline**

The purpose of this course is to understand the history, significance, and challenges of stock companies in relation to people's careers.

**\*Learning Objectives**

The goal of this class is to provide students with a comprehensive understanding of basic knowledge about corporations such as the listed companies, while relating it to career studies.

**\*Learning activities outside of classroom**

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding companies, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Quiz and short reports: 10%, Term-end examination: 90%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ビジネスキャリア入門D 基幹科目

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。

本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】

本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。

- ①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと
- ②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること
- ③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

14回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく3つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート(1-1～1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート(2-1～2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート(3-1～3-4)、です。

受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムーズに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。

課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をきいてアドバイスや相談を行って、講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。

楽しみながら(わくわくしながら)ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思えます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのかについて話します。 学びに先行して、まず体験から始める意義について説明します。

2	(1-1)キャリアデザインを考えるセッション	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをテーマにディスカッションします。
3	(1-2)ビジネスアイデアの創出	やりたいことをビジネスにすることを考えます。 課題の提示：学生生活をもっと楽しく、エキサイティングなものにするサービスを考えます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
4	(1-3)ビジネスアイデアのブラッシュアップ	課題の途中経過をみながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをとおこします。 学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
5	(1-4)ビジネスアイデアに関するアドバイスを	ビジネスアイデアの課題講評とアドバイス(相談)をおこします。 提出されたビジネスアイデア課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
6	(2-1)アントレプレナーシップを考えるセッション	日本におけるスタートアップ企業、アントレプレナーシップをテーマに、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。 起業の実際、経営の実際を知る機会を提供します。
7	(2-2)ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート1で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。 競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略について解説します。
8	(2-3)ビジネスモデルと戦略に関するブラッシュアップ	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをとおこします。 学生がお互いに協力して自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
9	(2-4)ビジネスモデルと戦略に関するアドバイスを	ビジネスモデルと戦略の課題講評とアドバイス(相談)をおこします。 相談された課題の改善点などの解説を行います。
10	(3-1)ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み(ビジネスモデル)を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。 ビジネスプランをどのようにつくっていくかを解説します。
11	(3-2)ビジネスプランを作る	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをとおこします。
12	(3-3)ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。

- 13 (3-4) ビジネスプランの講評 パート1のアイデア創出、パート2のビジネスモデルと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。  
提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
- 14 web試験・まとめと解説 ここまでの総括としてweb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

#### 【参考書】

特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらいたいと思います。

フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。（『Principles of Marketing 14th edition』）

和田充夫他『マーケティング戦略 第4版（有斐閣アルマ）』2012、有斐閣。

石井淳蔵他『1からのマーケティング（第4版）』2019、碩学舎。  
スタンフォード大学ハッソ・ブラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の38の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。

デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済。

沼上幹『新版わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣、2000年。

伊丹敬之『経営戦略の論理3版』日本経済新聞社、2003年。

エーベル『事業の定義』千倉書房、1992年。

H. ミンツバーグ『戦略計画 創造的破壊の時代』産業能率大学出版部、1997年。

梶井厚志『戦略的思考の技術 ゲーム理論を実践する』中公新書、2002年。

森岡毅、今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA、2016年。

#### 【成績評価の方法と基準】

①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか

②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか

③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか

以上3点について、Web試験とビジネスプラン課題によって評価します。

web定期試験40%、ビジネスプラン課題60%の割合で評価します。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム（Hoppii）、googleclassroomなどを使用します。

クリッカー、webでの小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

#### 【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。  
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

#### 【Outline (in English)】

##### [Course outline]

Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.

In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

#### [Learning Objectives]

The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued

(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company

(2) Understanding business systems

(3) To be able to apply original ideas to business

Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.

(1) Idea generation part

(2) Strategy building part

(3) Business plan preparation part

#### [Learning activities outside of classroom]

Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### [Grading Criteria /Policy]

The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.

(1) Understanding of frameworks related to business strategy

(2) Understanding of business systems

(3) To turn your idea into a business.

The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ライフキャリア入門A 基幹科目

八田 益之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人生100年時代におけるライフキャリア論について、特に、コミュニティとキャリアの視点から理解を深める。毎週、現代社会におけるコミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げ理論的蓄積と適宜検証作業を行う。\*理論的蓄積としてはプロティアンキャリア論の基礎枠組みを把握する。

【到達目標】

- ①ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する理論的理解と具体的事例の洞察的分析を行う能力を養うことができる
- ②自身のライフキャリアプランを、社会動向の変化の中で考えることができる
- ③少人数でのグループワーク時に、理論的見解を自分の言葉で述べるることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ライフキャリア領域のコミュニティとキャリアに関する基礎理論を把握し、現代社会におけるコミュニティの多様性・多層性を分析する視点を養う。毎週、コミュニティとキャリアに関する具体的事例を取り上げて理論的蓄積と適宜検証作業を行う。

\*コミュニティとキャリアに関する外部講師を招聘し、特別講演会を開催することもある。これにより全体の進行、各回の内容が変わるため、更新したシラバス概要は適宜提示する。  
フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス：ライフキャリア論の射程	ライフキャリア論の学問的特性を学ぶ
第2回	人生100年時代のライフキャリア：プロティアン・キャリアの基礎	人生100年時代のライフキャリアについて、プロティアン・キャリア論の基礎に分析視座を学ぶ
第3回	人生100年時代のライフキャリア：大学の学び	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学での学びについて考える
第4回	人生100年時代のライフキャリア：大学の<外>の学びについて考える	人生100年時代のライフキャリアについて、特に大学の<外>の学びについて考える
第5回	人生100年時代のライフキャリア：大学から社会へ	人生100年時代のライフキャリアについて、大学から社会への移行について理解を深める
第6回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティの多様性	人生100年時代のコミュニティの多様性を確認する
第7回	人生100年時代のライフキャリア：デジタル・コミュニティの現在	人生100年時代のライフキャリアについて、デジタル・コミュニティの理解を深め、社会問題を分析する

第8回	人生100年時代のライフキャリア：シリアスレジャーの価値	人生100年時代のライフキャリアの視点から、趣味の追求はどのような意味を持つのかを学ぶ
第9回	人生100年時代のライフキャリア：シリアスレジャーとコミュニティ	人生100年時代のライフキャリアの視点から、個人的趣味とは、どのような仕組みによって支えられているのか、コミュニティの視点から学ぶ
第10回	人生100年時代のライフキャリア：物語構造	人生100年時代のライフキャリアの視点から、物語の普遍的構造、そのシリアスレジャーなどへの応用について学ぶ
第11回	人生100年時代のライフキャリア：シリアスレジャーにみる達成感・中毒性・幸福	人生100年時代のライフキャリアの視点から、成功、達成感、その限界、真の幸福について考える
第12回	人生100年時代のライフキャリア理論：プロティアンキャリアの射程	人生100年時代のライフキャリア理論のなかで、各事例を読みとく、プロティアン・キャリアの視点を習得する
第13回	人生100年時代のライフキャリア戦略：キャリア資本論	人生100年時代のライフキャリア戦略についてキャリア資本論を学ぶ
第14回	人生100年時代のライフキャリア：コミュニティとキャリア	人生100年時代のライフキャリアの視点からコミュニティとキャリアの現代的洞察を深める

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各講義のポイントを復習しておく本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

- 田中研之輔『プロティアン』(2020 日経BP)
- 田中研之輔『先生は教えてくれない就活のトリセツ』(2018 ちくまプリマー新書)
- 田中研之輔『先生は教えてくれない大学のトリセツ』(2017 ちくまプリマー新書)

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業時の感想メモと平常点 50%
- ② 期末レポート (もしくは期末試験) 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため、ありません。

【その他の重要事項】

例年、大人数での受講となりますが、受講者の意見や見識をいかしていけるように可能な限りアクティブラーニング形式をとっていきます。本講義での問いかけに、「正解」はありません。自分の考えを伝える機会として積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to deepen students' understanding of life-career theory in the age of 100 years of life, especially from the perspective of community and career. Each week, specific cases related to communities and careers in contemporary society will be discussed to accumulate theoretical background and to conduct verification work as appropriate.

Grading criteria: Term-end examination (or report)50%, in class contribution: 50%



BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**ライフキャリア入門B** 基幹科目

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

生活におけるキャリアについて。とりわけ家族生活と関係した夫婦や親子の関係性に関するキャリアを扱う。夫婦になる前の男女の関係性や経験も視野に入れる。それらが、時代背景や社会文化背景のなかからいかに個人のキャリアの形成と関係しているかを学ぶ。

**【到達目標】**

履修前までに意識したことのなかった側面を含めて、家族生活に関わるキャリアを考えることができるようになることを目標とする。職業や業績達成だけでなく部分において、家族やパートナーとの関係においても、自己の将来について考察できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

基本的に、10代後半から20～30代ぐらいの年齢段階を、授業で扱う対象とする。履修者にとっての現在のステージや近未来的なライフキャリアに注目することで、より現実的・実践的・当事者的な内容になると考えられる。各回においては、PPTを用いた講義や事例紹介と、それに対する履修者の発言やリアクションペーパーによって進められる。また、必要に応じて映像資料等も利用する。くわえて、私自身の実施した学生調査の結果なども含め、具体的なデータも示し、そうすることで同時期に生活する人たちが実際にどう考え、行動しているか(してきたか)をより実感してほしい。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。なお社会情勢等によりオンライン形式もありえるが、その際は追ってアナウンスするので、初回から学習支援システムを確認すること(リモートの場合はオンデマンドとリアルタイムの併用)。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	交際と結婚①	交際の現状、時代の変遷
3	交際と結婚②	交際と結婚の違いに関する意識、国際比較、男女差等
4	結婚生活①	意識や現状に関する統計・事例
5	結婚生活②	かつてと現在、近代家族
6	結婚生活③	夫婦の生活、働くということ、国際比較等
7	実家との関係①	量的・質的側面、同居・隣居・近居・遠居
8	実家との関係②	嫁姑、自立、親離れ/子離れ、昨今の親役割
9	妊娠・出産①	妊娠生活、その現状
10	妊娠・出産②	里帰り出産、立ち会い出産
11	妊娠・出産③	男性の役割
12	浮気	現状、意識、別居、影響等
13	婚前の男女関係	でき婚、その影響等
14	まとめ	キャリアと家族生活について考えること

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

適宜、指定された課題を遂行すること(例：読書課題によるレポート、等)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

『親になれない親たち』(齋藤嘉孝、2009年、新曜社)

**【参考書】**

必要に応じて適宜解説する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への貢献度と小レポート(50%)、期末試験(50%)などを総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

**【Outline (in English)】**

This course deals with people's careers in everyday life, especially, family life and marital relationship and parent-children relationship. Relationship between men and women before marriage is also discussed. Students think of how these relationships are related with individuals' careers in historical contexts and social and cultural backgrounds. Learning objective of this course is to consider career design about family life. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 4 hours per class). Grading criteria are composed of class participation and reports 50% and final exam 50%.

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

**ライフキャリア入門C** 基幹科目

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ライフキャリアは、集合的には、職業キャリア以外のすべてであるため、学びや研究の幅が広がる。一方、多様なライフキャリアの学びの最終ゴールは、より良く生きる、つまりウェルビーイング (well-being) を高めるという点で一致している。この授業では、コミュニティ心理学 (community psychology) における教育研究の視座に基づきライフキャリアの考え方や質向上の方法について考える。

**【到達目標】**

- ・現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて、幅広い視点から捉えることが出来る。
- ・コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの理論や方法について知り、ウェルビーイング向上のために必要な行動や支援について理解する。
- ・ライフキャリア支援のためのプログラムを計画・評価することが出来る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業では、現代社会で「よく生きる」、即ちウェルビーイング (well-being) を高めることの意義やそのような生き方を下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルは人それぞれ違い、今後その違いはより一層強まると予想される。そこで、自分自身にフィットする人間・社会環境 (コミュニティ) や価値観、アイデンティティの多様性を踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。この授業では特にコミュニティ心理学 (community psychology) の理論と方法をライフキャリアの学びの柱とする。

まずウェルビーイングの考え方を確認し、よく生きるとは何か、どう定義・測定されるのか、さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで、コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント (empowerment) や心理的コミュニティ感覚 (psychological sense of community) の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学 (prevention science) の考え方をもち、様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。

またグループ演習として、ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活かすことにする。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要、成績評価等に関する説明を行う。
第2回	ウェルビーイング①	よく生きる、在る (being well) とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。

第4回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第5回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき、現代社会でよく生きることを考える。
第6回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第7回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し、コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどのようなことかを学ぶ。
第8回	エンパワメント	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第9回	多様性・ダイバーシティ	大学における組織における多様性・ダイバーシティについて考える。
第10回	予防科学①	予防とは何かについて、構造および効果の側面から考える。
第11回	予防科学②	コミュニティ心理学における予防研究について知り、予防的介入の実践方法について考える。
第12回	ライフキャリアの質向上①	ライフキャリア支援の考え方と方法について学ぶ。
第13回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援プログラムのあり方を事例を通して考える。
第14回	まとめ	授業での学びの総括および課題の提出。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

※授業内のディスカッションのため、配布資料の指定箇所を必ず読んで授業に参加してください。本授業の準備学習(3時間)・復習時間(1時間)を標準とします。特に事前学習(配布資料の通読)に時間を費やしてください。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは用いず、配布プリント、関連資料、演習用ワークシートを使用する。

**【参考書】**

授業時に指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験(50%)、グループワーク (演習参加・発表・レポート作成) (30%)、授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20%)を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

継続的に分かり易い授業を行う。大教室内のグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

**【Outline (in English)】**

Life-designing processes and outcomes are involved with many aspects of one's lives, and as such there is a whole spectrum of relevant research and training relating to the fields. Nevertheless, the goal of the fields is one thing in common – maximizing one's well-being. In this class, students will learn how to manage issues about their life-designing processes, so that their well-being can be maximized. We accomplish this goal by learning about theories and methods of community psychology.

Goal

・ Obtain broader perspectives concerning how to live a good life in modern society

・ Gain Knowledge about a series of life-designing programs that are based on the theories and methods of community psychology

・ Know how to evaluate those life-designing programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for finals (paper-and-pencil test and/or a reflection paper)

30 points (%) for group assignments and activities

20 points (%) for class participation and presentations

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

ライフキャリア入門D

基幹科目

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、マスコミなどでも「地域の衰退化」「都市の空洞化」などが話題になる。地域や都市を活性化するためには、そこで生活や仕事をする人たちが、生きがいを持ち、その土地の一員としての役割を果たすことが大切である。人の生き方(ライフキャリア)は、地域と密接に関係している。そのことを理解し考えるために、地域において個人が市民としてキャリア形成をはかることをテーマにする。

【到達目標】

具体的には、「まちづくり」や「市民のキャリアデザイン」の考え方や、各々の実情を理解するとともに、そのあり方について具体的にみる。将来、文化、教育、福祉、ビジネス方面から「まちづくり」に関心のある人たちにとって基礎的知識や能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

「まちづくり」に関する基礎的な知識を習得することをはじめ、各地の「まちづくり」の実例をみることや、さらに文化をもちいた取り組みについても紹介する。授業は、講義・ワークショップなどからなる。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する
2	民主主義と市民のキャリアデザイン	地域コミュニティや市民のキャリアデザインの考え方を説明する
3	市民活動とまちづくり	NPOについて取り上げる
4	市町村合併とまちづくり	平成大合併について取り上げる
5	都市の経営とまちづくり	急速な少子高齢現象が進む地方の現状と取り組みをみる
6	行政改革とまちづくり	現職市長の講演(映像)
7	エコミュージアムとまちづくり	山形県朝日町、長野県大鹿村を事例に説明する
8	観光とまちづくり	住民と行政の協働による地域の活性化(大分県湯布院町を事例にする)を説明する
9	世界遺産とまちづくり	特に石見銀山を事例に取り上げる
10	市民による公立博物館の運営とまちづくり	指定管理者制度の考え方や仕組みとともに、市民が公共施設を運営する特性について説明する
11	「まちづくりとキャリアデザイン」	外部講師講演
12	市民のキャリアデザイン I	文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する

13 市民のキャリアデザイン II 文化資源を活用した市民による「まちづくり」説明する

14 試験(総括を含む) 試験(総括を含む)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各地のまちづくりの事例や文化施設を見学する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

金山 喜昭『公立博物館をNPOに任せたら-市民、自治体、地域の連携-』(同成社、2012年)

【参考書】

適宜授業内にて資料を配布。

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)

課題レポート(20%)

試験(60%)

【学生の意見等からの気づき】

テーマにもとづき系統的に授業を展開する。

【Outline (in English)】

(Outline)

A person's way of life (life career) is closely related to the region. The aim of this course is to help students acquire the theme of career development for individuals as citizens in the community.

(Learning Objectives)

The goals of this course are designed to provide basic knowledge and skills for those who are interested in "urban development" from the cultural, educational, welfare, and business perspectives.

(Learning activities outside of classroom)

The students will visit examples of community development and cultural facilities in various regions. Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following

Normal score (20%), Assignment reports (20%), Examination (60%)

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

**労働法**

基幹科目

砂押 以久子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な法律の知識を習得することを目的とします。

**【到達目標】**

現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。

また、正社員と非正規社員の労働条件の格差が問題とされてきましたが、非正規雇用の問題に関しては、さまざまな法規制がなされ、現在、改善が図られてつつあるといえます。これに対し、近時、問題とされているのが、非雇用型の就労形態です。非雇用型の就労形態では、労働者とされないで、置かれている立場が弱いものであるにもかかわらず、労働法の保護を受けることができません。そういう立場の人の就労環境を改善すべく新法ができたりしていますが、十分とはいえません。

このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。

また、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代的問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

教科書を用い、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたりにすぎないよう、中心的テーマに絞って授業を展開したいと考えています。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス及び労働法の概要	授業をどのように行うかについての詳細を示します。雇用に関するルールの概要を学びます。
2	労働法の新たな基本理念	労働環境の変化、そして現状への対処について検討します。
3	労働契約の成立	採用内定取消しなどの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
4	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。

5	労働時間規制	労働時間規制がどのようになされているにもかかわらず、長時間労働が生じてしまう現状について検討します。
6	長時間労働への対策	長時間労働を防ぐために国はどのような制度を用意したか、その内容と問題点を指摘します。
7	残業代不払をめぐる問題	労基法の労働時間規制を免れるための脱法行為をいかに防ぐかについて、検討します。
8	ワーキングライフとプライベートライフ	仕事と生活の調和を図るため、どのような制度が設計されているのかについて学びます。
9	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
10	懲戒制度	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、検討します。
11	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について考えます。
12	正規雇用と非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について検討します。
13	雇用差別	男女差別のない職場とはどのようにしたら構築できるかについて考えます。
14	試験・まとめと解説	授業の内容が理解できたかについて確認します。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

砂押以久子『教えて！働くなら知っておきたい法律の知識 労働法講義』自由国民社 (2024年) 1800円

**【参考書】**

菅野和夫『労働法 [第12版]』弘文堂  
 荒木尚志『労働法 [第5版]』有斐閣  
 浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法 [第6版]』有斐閣アルマ別冊ジュリスト『労働判例百選 [第9版]』有斐閣  
 『労働法の争点』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

学期末に授業内試験を実施します。  
 平常点 (リアクションペーパーなど) (10%) と試験の点数 (90%) によって成績評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。受講生からの質問・意見を受け付け、フィードバックを行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じDVD・ビデオ教材を用います。

**【その他の重要事項】**

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め承いいただきたく、受講するようお願いいたします。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**【Grading Criteria /Policies】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 90%, Short reports : 10%

BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100)

ファシリテーション論 基幹科目

徳田 太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。

・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。

・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。

・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。

・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。

・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。

・第14回：まとめの講義と、授業内試験 (レポート) を行う。

\*第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる (毎回提出のこと)。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての (また参加者としての) 言動については、その都度フィードバックを行う。

\*大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する (講義)
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ (講義・演習)
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ (講義・演習)
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ (講義・演習)
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ (講義・演習)

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ (講義・演習)
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ (講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ (講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ (講義・演習)
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約を学ぶ (講義・演習)
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ (講義・演習)
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ (講義・演習)
13	ファシリテーション実践	参加型の場 (ワークショップ) の運営を体験する (演習)
14	まとめ	まとめ (講義) および授業内試験 (レポート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト (教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法 (改訂版)』(2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』(岩波書店、2009年)

・堀公俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題 (各回の振り返りシート) の質と量 (約60%)、レポート課題 (授業内試験) (約20%)、発言や質問・演習など授業への参加度 (約20%) から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム (Hoppii) を使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください (第1回授業はオンラインで実施します)。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.



BSP100MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)

## 若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。

この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

### 【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。

ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング(ディスカッション等)を実施する可能性がある。

また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。

提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。

この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。

その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさ	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第6回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第7回	重層的な支援の構造	互いに支援し合える構造の重要性について
第8回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第9回	若者と社会	「社会」の検討と若者支援との関係性

第10回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第11回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第12回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第13回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第14回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店  
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店  
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社  
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社  
『若者と社会変容』アンディ・ファーロング/フレッド・カートメル・大月書店  
など。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパー・オンライン授業での様子)：40%  
レポート：60%

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。

また、前年度は毎回の授業で提出してもらおうリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

#### 【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

reports : 60%, in class contribution: 40%

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

職業選択論 I

基幹科目

上西 充子

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることを目指します。労働市場の動向にも目を向けます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか。まともな働き方はどうすれば実現できるのか。こういった様々な問いを手がかりに共に考えます。

【到達目標】

個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意味と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。

大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計6回、授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。加えて中間と期末、2回の授業内試験(論述試験)を実施します。

初回の授業はオンライン (Zoom) で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介 (Zoomで実施)
2	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況、社会情勢との関係
3	新規学卒採用における評価基準とその変化	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
4	インターンシップを考える	インターンシップの目的・現状・課題
5	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力、企業の人材育成方針
6	アルバイトから考える労働問題	アルバイト就労の現状と問題
7	アルバイトと労働法	アルバイトのトラブルに即して労働法を理解する
8	職場の問題への向き合い方	「嫌ならやめればいいのか、を考える
9	中間試験	中間まとめと中間試験実施
10	「まともな職場」とは	労働組合の役割、長時間労働と職場内規制
11	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の重要性

12	労働条件・職場実態に関する客観情報の活用	「就職四季報」「女性の活躍推進に関する客観情報の企業データベース」などの活用
13	内定・就職をめぐるトラブル	労働契約としての就職/内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
14	期末試験	まとめと期末試験実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読 (WEB版の有料購読を含む) を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎 (2009) 『新しい労働社会』 岩波新書
- ・濱口桂一郎 (2013) 『若者と労働』 中公新書ラクレ
- ・厚生労働省 「知って役立つ労働法」
- ・石田真・浅倉むつ子・上西充子 (2017) 『大学生のためのアルバイト・就職トラブルQ&A』 旬報社
- ・東洋経済新報社編 『就職四季報 総合版』 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で計6回実施するミニ・レポート (配点50点) と中間試験 (配点20点)、期末試験 (配点30点) により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0~2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない (E評価とする)。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直さきっかけとなった、といった感想がみられる。ミニ・レポートのフィードバックに加え、授業時間内における質疑応答も取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination: 30%

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

ライフコース論

基幹科目

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアをデザインしようとする上で、個々人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、それに対して社会にはどのようなリソースがあるのかについて、基礎的な知識を獲得します。特に、従来「ライフサイクル＝人生の周期」という言葉で人生がとらえられてきましたが、人生は一人ひとりユニークなものであり、あるパターンが繰り返されるわけではないことから、「ライフコース」が注目されるようになってきた背景を踏まえ、「ライフコース」の意味や概念についての基礎を理解しましょう。その上で、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めるとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチの方法についても理解し活用できるようにします。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学のwebサイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須となります。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業のオリエンテーション、ライフコースとは何か？
2	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
4	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
5	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
6	社会変動とライフコース	社会変動がライフコースに及ぼす影響
7	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴

8	成人期：家族の形成	家族の形成 (結婚)、結婚をめぐる変化、国際比較
9	成人期：出産、子育て	出産行動の変化とその背景、課題、少子化について
10	働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
11	女性のライフコース	女性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
12	男性のライフコース	男性のライフコースをめぐる変化、現状、課題
13	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
14	授業内試験	授業内試験を実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして、全体を読んでから授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】

武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う (第2版)』中央経済社。  
その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、試験結果と授業出席内容で行います。試験を重視し、出席内容 (ミニレポート形式、内容も重視する) を加味して評価します。期末試験60%、平常点40%。

【学生の意見等からの気づき】

様々なデータを紹介して、データの見方、解釈の仕方も学ぶようにします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

**生活設計論 I (社会保障)** 基幹科目

上田 将史

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

人生には“想定外”がつきものであり、これがスパイスとなり、人生がより豊かなものとなることも珍しくありません。しかしながら、病気や怪我・ハイリスク妊娠・障害・老化・失業・死別などの生活上のリスクについては、一定の知識や備えが必要となります。

我が国の社会保障は、生活の安心や安定のために、各種制度等でリスクを相互に分散し(共助)、さらに対応困難な困窮などの状況に対して受給要件を定め生活保障を行う(公助)ことで、個人の努力(自助)を補完する仕組みを持っています。

昨今の災害や新型コロナの感染拡大等により、日常がリスクと隣り合わせであることをあらためて感じている方も多いのではないのでしょうか。本講義では、代表的な社会保障についての基本的な知識を身に着けるとともに、事例等を踏まえながら、困難な問題を抱える方々への支援を行うソーシャルワークやコミュニティ心理学の価値や方法論について学びます。

とりわけ心の問題については、社会的認知こそ広がってきたものの、偏見や差別等も背景にあり、他の障害等に比べ福祉施策が遅れていると言われる。この精神保健の課題についても理解を深めるとともに、少子高齢化による社会保障費の増大を抑制し、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応するために国が進める地域包括ケアシステムの構築についてもふれ、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

**【到達目標】**

- ・リスクに耐え得る生活設計を立てるための手がかりを得る。
- ・社会保障制度の目的や機能を理解し、人に説明できるようになる。
- ・ソーシャルワークやコミュニティ心理学の基本的な価値や方法を学び、困難な問題への対処方法の幅を広げる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・この授業は講義形式と演習形式を組み合わせる。
- ・講義形式での情報提供と問題提起などを行い、これを踏まえ、グループディスカッション等を行う。講義内容の理解を深め、実際の生活に関連付けて考えられるよう、適宜ワークや動画視聴の時間なども設ける予定である。
- ・リアクションペーパー等における示唆に富んだコメントや質問については、授業の冒頭等で、適宜、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第2回	社会構造とライフスタイルの変化	少子高齢化、情報化等を背景にした社会構造とライフスタイルの変化について考察する。
第3回	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要、民間保険との違い等を確認し、本講義のテーマを概観する。
第4回	生活保護	最低限度の生活を維持できなくなった場合の扶助について理解する。

第5回	生活困窮者自立支援制度	生活保護に至る前段階の自立支援策の意義と課題を考察する。
第6回	障害者福祉①	障害者総合支援法、障害福祉サービスの概要を理解する。
第7回	障害者福祉②	自立支援医療、障害年金、障害者手帳など、心身の不調により障害を抱えた場合の制度を理解する。
第8回	介護保険制度①	介護保険制度の概要と、介護保険サービスの概要を理解する。
第9回	介護保険制度②	育児・介護休業法で定められた仕事と介護の両立のための制度等を理解する。
第10回	医療保険制度	医療保険制度の概要、高額療養費制度、保険外併用療養費制度など、医療費の負担軽減に関する制度を理解する。
第11回	年金制度	「老齢」、あるいは「死亡」「障害」など万が一に備える年金制度の概要を理解する。
第12回	雇用保険制度、労働者災害補償保険	失業・雇用継続等に関する保険制度について理解する。
第13回	権利擁護	高齢者・障害者虐待、悪徳商法・特殊詐欺等にかかる制度、成年後見制度など、主に社会的弱者の権利を擁護するための制度を理解する。
第14回	地域包括ケア、地域共生社会	「4つの助 (自助・互助・共助・公助)」の基本的な考え方とそれぞれの関係性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考察する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

事前学習：シラバスで次のテーマを確認し、そのテーマに関する最近の話題を調べる。

事後学習：講義で学んだことが、社会の中でどのように位置づけられ、どのような課題を持っているかについて考察する。また、提示された参考文献等に目を通す。

**【テキスト (教科書)】**

パワーポイント等で作成した資料を配布する。

**【参考書】**

適宜、授業時に提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート (30%)、期末レポート (30%)、各回の課題への取り組み (40%) を総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の感想・要望、社会情勢を見ながら講義内容を調整していく予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

講義形式については、新型コロナ感染予防対策等を踏まえ、調整していきます(ディスカッションは行わない、ソーシャルディスタンスを保ち、最低限のやり取りにする等)。

**【Outline (in English)】**

This course introduces representative social security systems, welfare measures for mental disorders and comprehensive community care system to students taking this course.

The goals of this course are to understand the purpose and function of social security, learn about the values and methodologies of social work and community psychology to support people with problems, and make life plan that can deal with risks.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、Mid-term report : 30%、in class contribution: 40%

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

**生活設計論Ⅱ (生活設計)** 基幹科目

林 奈生子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

人生100年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の理想とする未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大了。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあり、人生での「幸福感」につながります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのように ①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのか ②どのようにしたら人生の「幸福感」を高められるのかを考えます。

**【到達目標】**

本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために ①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義 ②それらと「お金」の関係性 ③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識 ④自身と仕事・自身と他人のマッチング ⑤未来社会の予測一などについて考え学びます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。

\*授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲載します。

\*授業での資料の閲覧、プレゼンテーションにはzoomの共有画面を使用します。

\*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲載します。教材は各自で授業に持参してください。

\*授業に関する質問は学習支援システムで行ってください。学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設けます。

\*なお、質問の際には ①シラバス ②学習支援システムの【お知らせ】【授業内掲示板】【教材】 ③学校が発信する通知一などを確認し、それらと重複しないよう注意してください。

\*オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報とzoomのURL・ID・パスコードを学習支援システム【お知らせ】に掲載します。

\*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。また、授業計画の内容は受講生の習得状況などにより変更する場合があります。その場合は、いずれも学習支援システム【お知らせ】に掲載します。  
\*休講や自習の連絡は学習支援システム【お知らせ】に掲載します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～未来の自身を想像してみる～	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、将来のなりた自身の姿を考えてみる。

2	生活設計の考え方と必要性 ～自分らしく、納得できる人生を歩む～	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。 人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
3	ライフプランとファイナンシャルプランの関係 ～人生にも計画が必要な理由～	自身のライフプランから実際にどのくらいのお金が必要になるのかを算出する。
4	ライフイベントとお金 ～人生設計図を作る～	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にしているのか、価値観がどのようにお金の使い方に反映されるのかを知る。
5	お金の使い方と価値観の関係性 ～今の自分を映す家計簿～	予算を立てることの重要性について学ぶ。同時にモノの価格はどのように決まるのかを知る。
6	予算の立て方とモノの価格 ～何もしなければお金は奔放(ほんぼう)に動く～	お金にかかわる基本用語とその意味を学び、最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
7	お金の基本知識と貯蓄型金融商品 ～お金管理のスタートライン～	具体的な金融商品を使って自身で計算し考えることを通してリスクとリターン基礎知識を学ぶ。
8	リスクとリターン ～損得の分かれ道～	金融商品の組み合わせ方や借入金金の返済方法、トラブルに合わないために知っておきたいことなど、自身を守るための金融知識を学ぶ。
9	自身を守る金融知識 ～後悔しないためのポイント～	賢い消費とは何か。企業目的とわたしたちの消費の関係を消費者行動の観点から学ぶ。
10	企業活動から見た消費者 ～わたしたちはなぜ衝動買いをするのか～	仕事と幸福感の関係性やどのように会社を選べば自身の幸福感が増すのかを「組織と組織目標」の観点から考える。また、自身のコミュニケーションスタイルの特徴から他人との関わり方を知る。
11	会社選びと幸福感 ～自身と会社、自身と他人のマッチングはどこで見るといいか～	過去、どのように私たちは未来社会を予測してきたのか。いくつかの事例を紹介した後、自身で未来予測を考える。
12	研究課題「未来予測2040」	第12回の研究結果を発表し意見交換をする。
13	研究課題のプレゼンテーション	「未来予測2040」のプレゼンテーションを通して自身が目指すべきライフプランとは何かを再考し本授業全体のまとめとする。また、レポート提出について説明する。
14	「未来予測2040」と自身のライフプラン、まとめとレポート提出の説明	

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。なお、大学より『大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習(2単位)では1回につき4時間以上』とのことですので、準備学習・復習各2時間とします。

**【テキスト(教科書)】**

特になし。必要な場合は授業で紹介いたします。

**【参考書】**

必要な場合は授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出：70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）：30%とします。

レポート提出の詳細は次の通りです。

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の14時50分から翌週水曜日の14時50分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出。
6. 留意事項
  - (1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
  - (2) 学習支援システム【課題】【レポート提出】で閲覧できないレポートは評価対象外となります。
  - (3) 学習支援システムの【99\_感染症に係る授業欠席等配慮願 提出箱】を用いてのレポート提出はレポート提出とはみなしません。
  - (4) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
  - (5) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
  - (6) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
  - (7) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
  - (8) レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。

### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の本授業への率直な意見をまとめた結果が以下です。

<講義や演習について>

- \* “ザ・キャリアデザイン学部の講義”という感じだった。
- \* 本当に必要なものが何かを考えるようになった。
- \* お金の知識はリスクや問題から自分を守ることにつながり大切だと感じた。
- \* 自分の価値観と企業目的の関係を考えたことは就職に対し新しい観点を得られた。
- \* 就職活動で自分の5年後、10年後のキャリアを考える機会が増えたので、未来予測の課題がとても身近に感じた。

<授業運営について>

- \* ストレスのない授業だった。
- \* オンライン授業でも前のめりで受講できた。
- \* 他人の意見を聴くことで自分だけでは気づかないような発見があった。

本結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそのような授業内容、運営にしたいと考えています。加えて引き続き受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

zoomの共有画面を使用できる機器を用意してください。

### 【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）  
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの実務経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture focuses on the significance of modern life design, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. It covers issues of job selection, teamwork and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

In addition, since the Hosei university says, "In view of the university establishment standards, the preparation / review time is 4 hours or more for each lecture and practice (2 credits)", so the preparation / review time is 2 hours each.

#### 【Learning Objectives】

In this class, the goal is to formulate your own life plan after understanding the relationship between "money," "work," and "values."

#### 【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria/policy】

70% for report submission, 30% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

CAR100MA (キャリア教育 / Career education 100)

**キャリアモデル・ケーススタディ** 基幹科目  
イ

なかむら アサミ

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることには有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々を教壇にお呼びして、仕事経験(キャリアヒストリー)を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

**【到達目標】**

ビジネスなど様々な分野で活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思えます。ゲスト講師の回以外の授業では参加受講者同士で、簡単なワークを行うと認識しておいてください。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聞き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	聴く力、下調べ、インタビュー術の実践	これまでの学びを、デモ講義を通して実践し、次回以降のゲスト講師授業準備等に活かす
第6回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第8回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第9回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。

第10回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う
第11回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第12回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第14回	ゲスト講師⑤⑥の振り返りとまとめ	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ→インタビュー→解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

特になし。レジュメを配布する。

**【参考書】**

特になし。必要な場合は適宜知らせる。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度(50%)と最終講義日に提出するレポート(50%)で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。ゲスト間の仕事観の違いなどを説明する。授業中のリアクションペーパーを通じて学生の要望を反映させる。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。PCの持ち込みは可能です。

**【その他の重要事項】**

履修希望者はなるべく初回から出席すること。特に2回～4回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、2回～4回までに欠席した場合は、単位の取得は不利となる

**【Outline (in English)】**

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリアサポート事前指導** 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。

14 まとめと振り返り 春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合う必要がある場合がある。

**【テキスト (教科書)】**

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

**【参考書】**

授業時に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート課題50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、タブレットなど、インターネットにアクセスしファイルを作成するために必要な機器を持参すること。大学のGoogleアカウントを確認し、アクセスできる状態にしておくこと。

Googleドライブの基本的な使い方を理解しておくこと。

**【その他の重要事項】**

半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

初回の授業時に写真撮影を行う可能性がある (写りたくない人はそのときに申し出ること)

**【Outline (in English)】**

This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:

Utilizing listening and questioning techniques effectively.

Communicating assertively.

Facilitating group discussions with practical moderation skills.

Designing and delivering workshop-style programs.

Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

キャリアサポート事前指導 展開科目

渡邊 有紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・ 傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・ アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。

14 まとめと振り返り 春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合う必要がある場合がある。

【テキスト (教科書)】

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート課題50%にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:

Utilizing listening and questioning techniques effectively.

Communicating assertively.

Facilitating group discussions with practical moderation skills.

Designing and delivering workshop-style programs.

Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

キャリアサポート事前指導 展開科目

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ・ 傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・ アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。

14 まとめと振り返り 春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合う必要がある場合がある。

【テキスト (教科書)】

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート課題50%にて評価。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

【その他の重要事項】

半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

【Outline (in English)】

This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:

Utilizing listening and questioning techniques effectively.

Communicating assertively.

Facilitating group discussions with practical moderation skills.

Designing and delivering workshop-style programs.

Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリアサポート事前指導** 展開科目

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「キャリアサポート実習」のための事前指導の授業である。他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・ 傾聴や質問技法を適切に使うことができる
- ・ アサーションの観点を取り入れたコミュニケーションができる
- ・ ファシリテーションを活用し、グループでの話し合いを円滑に進めることができる
- ・ ワークショップ形式のプログラムを考案し、実演できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校内実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。
2	コミュニケーション (1)	傾聴のワークをする。
3	コミュニケーション (2)	質問技法、リレーション (信頼関係) づくりのワークをする。
4	コミュニケーション (3)	「頼む」「断る」を題材にしたアサーションのワークをする。
5	グループワークのスキル (1)	アイスブレイク、ファシリテーション、ブレインストーミング等を扱う。自由で創造的な話し合いを体験する。
6	グループワークのスキル (2)	KJ法を扱う。話し合いを収束させていくプロセスを体験する。
7	ワークショップ形式のプログラム作成 (1)	自由なアイデア出しで発想を広げることを学び、ワークショップ形式のプログラムを作成する。
8	ワークショップ形式のプログラム作成 (2)	今までに学んだスキルを使って自由で創造的な話し合いを行い、ワークショップ形式のプログラムを完成させる。
9	ワークショップ形式のプログラム発表	これまでの授業を踏まえてプログラムを発表、実演する。実習に向けて準備する。
10	実習リハーサル (1)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (前半)。
11	実習リハーサル (2)	実習に向けて当日を想定し、リハーサルを実施する (後半)。完成したプログラムの講評をする。
12	実習	作成したプログラムを学部1年生に実施する。
13	実習の振り返り・発表	実習について振り返りを行い、発表する。

14 まとめと振り返り 春学期に学んだ授業内容について振り返りを行う。授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合う必要がある場合がある。

**【テキスト (教科書)】**

テキストおよび用語集を授業時に配布する。

**【参考書】**

授業時に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート課題50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

**【その他の重要事項】**

半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

**【Outline (in English)】**

This course aims to develop students' communication skills, essential for fostering the growth of others. By the end of the course, students will be capable of:

Utilizing listening and questioning techniques effectively.

Communicating assertively.

Facilitating group discussions with practical moderation skills.

Designing and delivering workshop-style programs.

Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Assessment will be based on report submissions (50%) and active contributions in class (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリアサポート実習** 展開科目

渡邊 有紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習 (1)	1つ目の校外実習
5	実習報告 (1)	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習に関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習 (2)	2つ目の校外実習
13	実習報告 (2)	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

**【テキスト (教科書)】**

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

**【その他の重要事項】**

- ・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
- ・半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

**【Outline (in English)】**

This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:

Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.

Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリアサポート実習** 展開科目

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。  
・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習 (1)	1つ目の校外実習
5	実習報告 (1)	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習に関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習 (2)	2つ目の校外実習
13	実習報告 (2)	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

**【テキスト (教科書)】**

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

**【その他の重要事項】**

・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。  
・半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。  
15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

**【Outline (in English)】**

This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:

Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.

Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリアサポート実習** 展開科目

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習 (1)	1つ目の校外実習
5	実習報告 (1)	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習に関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習 (2)	2つ目の校外実習
13	実習報告 (2)	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

**【テキスト (教科書)】**

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

**【その他の重要事項】**

- ・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
- ・半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

**【Outline (in English)】**

This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:

Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.

Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリアサポート実習** 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

中学生および高校生を対象にしたキャリア教育プログラムを作成し実施する経験を通して、他者との協働を通じた意思決定を促進する能力を身につけることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・他者のニーズ、視点、行動を理解し、ファシリテーションを通じて他者と関わりを持つことができる。
- ・中学生および高校生を対象としたワークショップ形式のキャリア教育プログラムを考案し、実演ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

受講者同士でのグループワーク、授業内での発表、校外実習、リアクションペーパー提出など。体験型の科目であるため、フィードバックおよび講評や解説は随時行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の流れを説明する。 1つ目の実習先の下調べをする。
2	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
3	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
4	実習 (1)	1つ目の校外実習
5	実習報告 (1)	1つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有し、次の実習へ備える。
6	キャリア教育プログラムの作成 (1)	2つ目の実習先の高校の下調べをする。 実習先の生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムを作成する。全体の概要をイメージする。
7	キャリア教育プログラムの作成 (2)	実習に関わった生徒の特徴を踏まえたキャリア教育プログラムをあらたに作成する。詳細をつめる。
8	キャリア教育プログラムの発表 (1)	完成したプログラムを発表と講評をする (前半の班)。
9	キャリア教育プログラムの発表 (2)	完成したプログラムを発表と講評をする (後半の班)。実習で用いるプログラムを決定する。
10	実習のリハーサル (1)	実習の前半部分のリハーサルをする。
11	実習のリハーサル (2)	実習の後半部分のリハーサルをする。
12	実習 (2)	2つ目の校外実習
13	実習報告 (2)	2つ目の校外実習の報告をする。 全体で共有する。
14	まとめと振り返り	授業を履修することで獲得した知識やスキルについて振り返り、言語化する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。キャリア教育プログラムの作成では、授業外の時間に自主的に集まって話し合うことが必要になる場合がある。

**【テキスト (教科書)】**

キャリアサポート事前指導で配布したテキストと用語集を用いる。

**【参考書】**

授業内で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の意見を取り入れていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、タブレット等、インターネットにアクセスしファイルを作成することのできる機器を持参すること。  
大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておくこと。  
Googleドライブの基本的な使い方を理解しておくこと。

**【その他の重要事項】**

- ・実習日の決定は実習先との調整が必要になるため、授業計画が変更になることがある。この科目を履修するためには「キャリアサポート事前指導」の単位を履修していることが条件になる。
- ・半期で欠席は2回まで許容する。3回欠席したら単位を認めない。15分以内の遅刻は遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。16分以上の遅刻は欠席とする。

**【Outline (in English)】**

This course is tailored to assist junior high and high school students in developing communication skills pertinent to career education. By the end of this course, students will be equipped to:

Understand and empathize with the needs, perspectives, and behaviors of others and engage effectively with them through facilitation techniques.

Designed and executed a workshop-style career education program for junior high and high school students.

Students are required to complete all assigned tasks following each class session. They should anticipate dedicating over four hours of study time per class. Assessment of student performance will be based on report submissions (50%) and active in-class contributions (50%).



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (イン ターン)** 展開科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この講義は、キャリア体験 (インターンシップ) に先立って、働くことに対する意識と理解を高めることを目的とします。グループワークを重ねることにより、自己理解、他者理解、社会経済事象に対する分析力や表現力を養い、社会人基礎力を身につけていきます。

**【到達目標】**

次の項目を達成することが目標です。

<実習準備期間>

(1)他者との協働により成果を獲得するチームプレーの経験を積むとともに、他者の中で自分の考えを、口頭、文章により適切に表現できる能力を身に着ける。

(2)実習先の概要を理解し、働く場に対して自分なりの考えをもつ。

(3)学部の授業で得た理論・知見と、働くという実践とをつないで考える習慣を身に着ける。

<実習中>

(1)自分の関心の強い業界・仕事に対する理解を深める。

(2)実習先 (企業、NPO、および、公共機関等) に対する理解を深める。

(3)自分の適性を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

<授業形態>

1. 本講義は、夏休みに行く体験実習の事前準備を行うためのものである。選択必修科目である体験型科目の履修は、本科目、および、秋学期の「キャリア体験学習」単位取得をもって終了する。

2. 実習先は基本的に夏休みまでに自分で開拓する。ただし、数は多くはないが、大学で用意した実習先もあり、当該派遣者は本人の適性および希望を勘案して決める。

3. 希望者の数が多い場合には選抜を行う。

4. 実習先、実習期間は多様である。6、7月に実習先にコンタクトし、原則として実習は夏休みに行くが、例外もある。

5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談により行う。

<授業の進め方>

グループディスカッションを行っていく。4～5名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返し行うとともに、適宜、グループの変更を行う。また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス: 授業の概要、評価方法等について説明
第2回	グループワーク I (ディスカッション)	「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマに討議
第3回	グループワーク I (プレゼンテーション)	①「どのような場で働きたいか、どのような仕事をしたいか」をテーマについて発表する。 ②希望先聴取と実習先調整
第4回	グループワーク II (ディスカッション)	「あなたは何のために働くのか？」をテーマに討議

第5回	グループワーク II (プレゼンテーション)	①「あなたは何のために働くのか？」をテーマにグループ発表 ②希望先聴取と実習先調整
第6回	企業研究・業界研究の進め方	①業界、企業の見方をレクチャー ②基礎的な知識 ③企業業績、業界の特徴
第7回	グループワーク III (ディスカッション)	「5年後、10年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」についてディスカッション
第8回	グループワーク III (プレゼンテーション)	「5年後、10年後に、社会はどのように変化していくか、そこでどのように働くか？」について発表
第9回	ゲスト講師との対話 (ダイバシティ分野)	企業のダイバシティに詳しいゲスト講師との対話を行います。
第10回	ゲスト講師との対話 (企業分析分野)	企業分析の分野に詳しいゲストとの対話を行います。
第11回	グループワーク IV (ディスカッション)	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてディスカッション
第12回	グループワーク IV (プレゼンテーション)	「組織の中で働くには何が求められるのか？」についてプレゼンテーション
第13回	インターンシップに向けたグループワーク①前半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆
第14回	インターンシップに向けたグループワーク②後半	①企業研究、業界研究の発表 ②簡単なエッセイ執筆

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・各自、実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをとる。  
・プレゼンテーションの準備には、授業外の時間を割く必要がある。  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

『キャリア体験学習の手引き』

**【参考書】**

授業で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

- ①授業におけるグループワーク等への取組み姿勢 (60%)
- ②インターンシップ先に対する適切な対応姿勢 (10%)
- ③各種レポートの提出状況、内容 (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

熱心に取り組むことができたとの意見が多かったため、本年度も同様のスタンスで進める。

**【その他の重要事項】**

・積極的、主体的に取り組むことが要求される。

**【キャリアデザイン学部より】**

ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要がある。掲示で詳細を確認すること。

**【Outline (in English)】**

\*Course outline

The purpose of this course is to raise awareness and understanding of work careers prior to the actual internship. Through repeated group work, students will develop self-understanding, understanding of others, and analytical and expressive skills for socioeconomic events.

\*Learning Objectives

The goal of this class is to gain experience in collaborative work, develop expressive skills, understand the outline of the company, etc., and apply the theories and knowledge learned at the university.

\*Learning activities outside of classroom

You need to devote time outside of class to prepare your presentation. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

\*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.  
in class contribution: 60%, Attitude toward practice: 10%,  
Reports: 30%.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (イン ターン)** 展開科目

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリア体験事前指導は、キャリア体験 (インターンシップ) の学習効果を高めるために行います。授業は、働くことに対する意識や考え方を深めることを目的としています。

具体的には、他の学生の考え方を知る、自分を知ることを狙いにディスカッション、グループワークをおこないます。また、職業、働くことを深く考えることにより、働くことに対する意識を高めます。また、普段あまり考えたことがない「働く」ということについて、様々な意見のなかで、今の自分の考えをまとめます。

さらに、就業体験に臨み、必要となる基礎知識や考え方を提供します。

**【到達目標】**

(実習準備期間) 以下3つの項目を目標とします。

1. キャリアをデザインするという意味を学習しキャリア体験学習の意義を自覚すること。
2. 実習先の概要を理解し、働く場である組織について自分なりの考えを持つこと。
3. 学生モードから社会人モードへの切り替えを図ること。

(実習中) 以下3つの項目を目標とします。

1. 自ら働くことの重要性を実感し実践すること。
2. 実習先の人たちとの人間関係を構築すること。
3. 新しい事象に対する感性を磨き、現場の状況の把握力を高め、同時に現場での問題発見能力とそれを解決する能力の重要性を実感すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

(授業の形態)

1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。実習が要件で秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を終了とします。

2. インターン先は、教員がアドバイスをしつつ自ら開拓します。

3. 希望者の数が多い場合には選抜します。

4. 実習先は多様です。実習期間についても開始・終了時期が異なります。通常6、7月に実習先にコンタクトし、原則実習は夏休みに行いますが、例外も多々ありますのであらかじめ了解しておいてください。

5. 実習先の決定及び実習後の報告は個別の面談などでおこなっていきます。

(授業の進め方)

グループディスカッションを複数テーマで行います。テーマは授業計画に示してあります。クラスの人数によりますが、3-4名あるいは5-6名のグループに分かれてテーマについてディスカッションを行い、それをまとめて発表するというプロセスを繰り返しおこなっていきます。グループは頻繁に組み替えます。

グループディスカッションを効果的に実施するために事前の準備としての課題、ディスカッション後の感想コメントを求めることがあります。書き方や内容に関するアドバイスについては、授業ははじめあるいは終わりに全体に対してフィードバックを行います。

面談前の課題については、課題内容に基づいて個別の面談をおこなうことでフィードバックします。

内容によりオンライン、オンデマンドによる授業を適宜実施します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、実習先の概要	目的、キャリアデザインと体験学習、受講の心構え、社会人モード、実習先の概要、評価の仕方などの説明
第2回	グループワーク I (ディスカッション)	「インターンシップに取り組む問題意識 (どこで働きたいか、どういう仕事をしたいか、なぜそう考えるのか)」をテーマにグループ討議
第3回	グループワーク II-0 (課題)	グループワーク前の準備として「あなたは何のために働くのか?」について各自の考え方を整理してレポートとしてまとめる。
第4回	グループワーク II-1 (ディスカッション)	「あなたは何のために働くのか?」をテーマにディスカッション
第5回	グループワーク II-2 (プレゼンテーション)	「何のために働くのか?」をテーマについてプレゼンテーション
第6回	グループワーク III-0 (課題)	グループワーク前の準備として「組織とは何のためにあるのか? 組織で働くとき働く人に求められるものは何か?」について各自の考え方を整理してレポートとしてまとめる。 個別面談でインターン開拓状況の把握と開拓方法のアドバイス
第7回	グループワーク III-1 (グループワーク: シェア)	・「組織とは何のためにあるのか? 組織で働くとき働く人に求められるものは何か?」について個々の課題をグループでシェア
第8回	グループワーク III-2 (グループワーク: ディスカッション)	・ディスカッション ・「組織とは何のためにあるのか? 組織で働くとき働く人に求められるものは何か?」についてディスカッション
第9回	グループワーク III-3 (プレゼンテーション)	・プレゼンテーションの準備 ・「組織とは何のためにあるのか? 組織で働くとき働く人に求められるものは何か?」についてプレゼンテーション
第10回	社会人からみたキャリアデザイン	社会人ゲストを招いて、インターンの意味を中心に、キャリアデザイン、就職活動など幅広く話を聞きます (リクルートキャリアあるいはマイナビからゲストに来ていただく予定)
第11回	業界・企業研究課題 (事前調査)	関心のある業界を定めて情報を集めます
第12回	業界・企業研究課題 シェア	調査研究した業界と企業研究をグループでシェアします。
第13回	インターン開拓状況のシェアとアドバイス	先行してインターンを開拓できている人からのアドバイスを全体でシェアします。
第14回	まとめ (全体シェア)	全体でシェアしてインターン開拓へのマインドセットを形成します 春学期事前指導の授業とおして学んだこと考えたことについて、各自振り返り全体でシェアします。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

実習先の情報収集や実習先へのコンタクトをおこなってもらいます。先方に向いて面接を受ける場合もあります。「組織とは何か」あるいは「実習先の業界」について調査研究を行ってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

とくに指定しません。

**【参考書】**

『ワークシフト』 リンダ・グラットン、プレジデント社。

『ライフシフト』 リンダ・グラットン、プレジデント社。

『何のために働くのか』 北尾吉孝、致知出版社。

『仕事の報酬とは何か』 田坂広志、PHP文庫。

『働くということ』 ロナルドドーア、中公新書。

『働く意味とキャリア形成』 谷内篤博、勁草書房。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業課題60%、業界・研究課題40%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

事前指導、体験、後期の授業の一貫性を持たせる流れを意識して授業を構成しています。

**【その他の重要事項】**

この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。まわりのできごとに気がつき、気をくばり、気がきく人材をめざして欲しいと思います。実習でセンスを磨いてください。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜で履修を許可される必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

**【Outline (in English)】**

< Outline and objectives >

This is a lecture to enhance the learning effect of employment experience. The purpose is to deepen your awareness and thinking about work by discussing with others. Group work is done with the aim of knowing the way of thinking and values of others and getting used to collaborative work.

Through this lesson, you will increase your awareness of working by deeply thinking about your occupation and working. By knowing various opinions, you will be able to put together your ideas.

< Goal >

(Preparation period for practical training)

1. To learn the meaning of designing one's career and to be aware of the significance of career experience learning.
2. To understand the outline of the training site and to have one's own ideas about the organization where one will work.
3. To switch from student mode to working mode.

(During the practical training)

1. To realize and practice the importance of self-motivation.
2. To build human relations with the people at the training site.
3. To hone one's sensitivity to new phenomena, to improve one's grasp of the situation in the field, to realize the importance of the ability to identify and solve problems in the field.

< Work to be done outside of class >

The intern will be responsible for gathering information and contacting the client for practical training. In some cases, you may be asked to go to the client for an interview. Students will conduct research on "what is an organization" or "the industry in which the internship takes place. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading criteria >

Each class report 60%

Company research report 40%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (インターン)** 展開科目

野中 利明

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んで行くべきかを通年で考える授業の春学期の講義です。

本講義では、授業でのインタラクティブな議論及びインターンシップの準備とインターンシップ経験を通じてその理解を深めます。

**【到達目標】**

- ①自らのキャリア・人生設計について考えることの意義を理解すること
- ②自ら実習先の調査・開拓を行い、実習での働く経験を通じて自分自身のキャリアに対する考えを深めること
- ③議論を進めながら思考を深めるプロセスを身に着けること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

1. この授業は原則夏休みに行う体験実習の事前準備を行うためのものです。  
秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得をもって選択必修科目である体験型科目の履修を修了とします。
2. インターン先の検討に際しては、教員がアドバイスをしつつ、学生が自ら実習先にコンタクトして実習先との調整・事務手続きを行います。  
・実習先の選定についてはA,B2つのコースがあり、Aは大学が実習先を用意、Bは学生が実習先を開拓するものですが、本講義ではBコースのみの実施となります。  
・実習先を自ら開拓すること自体が貴重な学びの機会になります。
3. 希望者多数の場合には選抜を行います。
4. 原則実習は夏休みに行いますが、受入れ先の都合によっては、夏休み以外に実施することもあります。
5. 毎回、ディスカッションの場を設けて、インタラクティブな議論を通じて思考を深めていくことを学びます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と概要説明、受講の心構え、自己紹介
第2回	グループワーク (ディスカッション)	自己分析とやりたい仕事のイメージ出し (自分は何を大切にしているのか、自分はどういう価値観を持っているのかを言語化し、自分自身を客観視する。そのうえでどのような仕事をしたいかを考える)
第3回	グループワーク (課題)	自分はどういう価値観を持ち、どのような仕事につきたいかをまとめ各グループでプレゼンを行う
第4回	インターン希望先のヒアリング (教員との個別面談) と業界研究 I (前半)	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談 関連の業界の調査実施

第5回	インターン希望先のヒアリング (教員との個別面談) と業界研究 II (後半)	インターン希望業種・希望先について教員と個別面談 関連の業界の調査実施
第6回	グループワーク (ディスカッション)	何のために仕事をするのか? 就職か? 起業か? 大手企業か? ベンチャー企業か? など仕事のあり方について議論をする
第7回	グループワーク (課題)	自分は何の為に働くのか? どのような働き方を望むのか? についてまとめ、グループ内でプレゼンし、議論する
第8回	社会人とのディスカッション I	大手企業で働く社会人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第9回	社会人とのディスカッション II	ベンチャー企業で働く社員人とのディスカッションを通じて、働く意味・意義を考える
第10回	インターン先の業界研究と企業研究 (資料取りまとめ) ①	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第11回	インターン先の業界研究と企業研究 (資料取りまとめ) ②	グループごとの調査する業界・企業対象を決めて調査を行う
第12回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施①	グループ単位でのプレゼン実施 (前半)
第13回	インターン先の業界研究と企業研究のプレゼン実施②	グループ単位でのプレゼン実施 (後半)
第14回	インターンに向けた所信表明	春学期の総括として、インターンに向けた所信表明を行う (全員実施)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

実習先の業界・企業情報の収集並びに実習先へのコンタクトを実施します。  
実習先を自ら開拓すること自体が大きな学びの場になります。  
教科書からだけでは学ぶことのできない、実体験に基づく深い学びを経験しながら、自分自身のキャリアプラン・ライフプランへの考察を深めてもらいます。

**【テキスト (教科書)】**  
特に指定しません

**【参考書】**

「プロティアン」 田中研之輔 日経BP社  
「ライフシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社  
「ワークシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社  
「冒険の書」 孫泰蔵 日経BP社

**【成績評価の方法と基準】**

- ①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢 (60%)
- ②各種レポートの提出状況及び内容 (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

全員参加型の授業を前提として、自ら考える、発言する、思考を深める場をできる限り多く設けます。

**【その他の重要事項】**

この授業では自ら主体性をもって考え、行動することが求められます。授業では毎回、ディスカッションの機会を設けます。  
また実習に関しては、インターン先を自ら探して、自らコンタクトして経験することで、主体的に学び・考える姿勢が身につきます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

**【Outline (in English)】**

**【Class outline and purpose】**

This spring semester lecture is a year-round class in which students think about what kind of life and career they should take based on what they are based on in the coming era, where changes are rapid and it is difficult to predict the future.

In this lecture, you will deepen your understanding through interactive discussions in class, internship preparation, and internship experience.

**【Attainment target】**

- ① Understand the significance of thinking about your own career and life plan
- ② Research and develop training sites on your own, and deepen your thoughts about your own career through the experience of working in training.
- ③ Learn the process of deepening your thinking while proceeding with discussion

**【Learning activities outside of classroom】**

We will collect information on the industry and company of the training site and contact the training site.

Developing a place for training on your own can be a great learning opportunity in itself.

While experiencing deep learning based on real experiences that cannot be learned from textbooks alone, students will deepen their consideration of their own career and life plans.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

- ① Attitude towards group work etc. in class (60%)
- ② Submission status and content of various reports (40%)

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (イン ターン)** 展開科目

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験 (インターンシップ) に向けた受講生の皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

**【到達目標】**

(インターンシップ準備期間)

- ①インターンシップの意義や目的の理解
- ②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
- ③インターンシップのための事前準備

(インターンシップ中)

- ①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
- ②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること (働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等)
- ③経験を振り返り、教訓にすること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓します。インターンシップは5日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。

開拓に向けた支援 (ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等) は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってみてください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的な参加が必須条件だとお考え下さい。

受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の目的と概要、インターンシップとは ②自己紹介
第2回	インターンシップ先開拓経路に関する情報共有とグループワーク	①インターンサイト等に関する情報の共有と交換 ②インターンシップサイトのグループワーク発表
第3回	先輩の事例発表	先輩のインターンシップ開拓事例の紹介
第4回	自己分析ワーク	①自己分析の実践 ②インターンシップ先開拓に向けたESの書き方

第5回	開拓に向けたグループワーク①意見交換と資料作成	①インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換 ②自身の方針の決定 ③プレゼン資料の作成
第6回	開拓に向けたグループワーク②発表	①グループメンバーそれぞれの方針と、グループワークでの気付きや考察に関する発表 ②意見交換
第7回	新卒求人広告に関するグループワーク①説明とグループ分け	①グループワークの目的の共有とグループ分け ②開拓の進捗確認
第8回	新卒求人広告に関するグループワーク②東京都の中小企業の現状と課題	①新卒求人広告に関するグループワークの導入として、東京都の中小企業の現状と課題に関する情報を共有 ②東京都中小企業振興公社との意見交換
第9回	新卒求人広告に関するグループワーク③招聘企業1社目のリサーチ	①招聘企業1社目の求人広告に関するリサーチ ②気づきに関する資料の作成
第10回	新卒求人広告に関するグループワーク④招聘企業1社目とのディスカッション	①学生からの気づきの表明 ②招聘企業1社目の課題説明 ③今後の新卒求人広告に向けた意見交換
第11回	新卒求人広告に関するグループワーク⑤招聘企業2社目のリサーチ	①招聘企業2社目の求人広告に関するリサーチ ②気づきに関する資料の作成
第12回	新卒求人広告に関するグループワーク⑥招聘企業2社目とのディスカッション	①学生からの気づきの表明 ②招聘企業2社目の課題説明 ③今後の新卒求人広告に向けた意見交換
第13回	新卒求人広告に関するグループワークの振り返りとインターンシップに向けた留意点の共有	①グループワークの振り返り ②インターンシップに向けた留意点
第14回	インターンシップに向けた進捗確認と所信表明	①開拓の進捗確認 ②インターンシップに向けた所信表明

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。インターンシップは、基本的には申込みだけではなく選考を伴いますので、企業・団体等に向いて面接等を受けることになります。

加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。特に新卒求人広告に関するグループワークは、招聘企業に関するリサーチや資料作成など、授業時間外でも準備が必要となります。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定しません。授業の資料は当日投影しますが、基本的には紙での配布は行いません (手元でご覧になりたい方はノートパソコンなどで見られるようにご準備をお願いいたします)。資料ファイルは必要に応じて、学習支援システムにアップします。

**【参考書】**

授業のなかで必要に応じて紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出、インターンシップ先の開拓の進め方等)、グループワークの発表 (発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度や内容を含む) により評価します。

平常点が50%、グループワークの発表が50%です。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォン、パソコン等の情報機器。

原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。

発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

#### 【その他の重要事項】

この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したことになります。

この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓することを前提に指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初の CONTACT からインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。

相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにならないケースもあり得ますので、予めご了承ください。

企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

#### 【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

#### 【Outline (in English)】

##### < Course outline >

This course will support students' active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.

##### < Learning Objectives >

1. Learn the significance and purpose of internship
2. Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
3. Preparation for internship

##### < Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

##### < Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contribution(50%), and the group work presentation(50%).



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (プロジェクト)** 展開科目

山岡 義卓

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本科目では、本科目および秋学期に開講される「キャリア体験学習 (プロジェクト)」の両方を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、プロジェクト実施のための事前学習と共同プロジェクトの一部を実施する。

**【到達目標】**

本授業の目標は次のとおり。

- ①協力企業等の事業活動やプロジェクトのテーマ等について情報収集する。
  - ②グループワークの進め方を身につける。
  - ③プロジェクトの目標を設定し、実施計画を作成する。
  - ④プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せる。
- なお、「キャリア体験学習 (プロジェクト)」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
  - ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
  - ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
  - ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本科目および「キャリア体験学習 (プロジェクト)」を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの事前学習に重点を置き、プロジェクトの進め方や連携企業等に関する情報収集、目標設定や実施計画の作成等、プロジェクトを進めるために必要な知識や技術を習得する。そのうえで、プロジェクトをスタートさせ、軌道に乗せるところまで実施する。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、授業ガイダンス	授業計画の説明と受講にあたっての心構え、準備等について説明する。
第2回	プロジェクトの進め方	企業等とプロジェクトを進める際の基本的な方法を説明する。
第3回	協力企業等概要およびテーマ説明	企業等の事業概要やテーマについて説明する。
第4回	演習① (課題抽出、整理)	実際の課題に取り組む際の事前学習として模擬演習を行う。
第5回	演習② (課題解決提案、発表)	前回の続きとして、課題解決提案の作成と発表を行う。
第6回	協力企業等との顔合わせ・テーマ設定	協力企業等と面談し、テーマ設定や実施計画の作成を行う。
第7回	チームの役割分担、目標設定	実施テーマに合わせてチーム内の役割分担を決め、チームとしての目標設定を行う。
第8回	協力企業および業界に関する事前調査	企業の事業概要や市場、商品等について調査を行う。

第9回	活動計画の作成①	企業担当者と情報交換のうえ実施テーマに合わせて全体の活動計画を作成する。
第10回	活動計画の作成②	全体の活動計画を踏まえて必要な作業を確認し、それぞれの実施計画を作成する。
第11回	テーマに関する調査①	テーマに関して、企業における現状 (商品ラインナップや技術、販路等) を調査する。
第12回	テーマに関する調査②	テーマに関して、市場規模や競合の有無、ポジショニング等を調査する。
第13回	調査結果等の整理	調査結果を整理し、プロジェクト実施のための戦略を立案する。
第14回	中間発表会	春学期の活動内容および今後の展望等を発表し意見交換を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

14回目の授業において中間発表を行う。成績は、授業内の課題およびプロジェクトへの取り組み姿勢 (50点)、中間発表 (50点) により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

「1年を通して企業との取り組みから仲間との関係まで幅広く構築できた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。「初めてのことはばかりで失敗もつきものだと学びました」とのコメントより、失敗経験を次に活かせるよう、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせ等は遠隔会議ツールを使用することもある。

**【その他の重要事項】**

「キャリア体験学習 (プロジェクト)」を履修する場合は、この科目を履修する必要があります。

企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。

協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

**【Outline (in English)】**  
(Course outline)

In this course, preliminary learning to implement the project and part of the project will be executed.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Collect information on business activities of cooperating companies and project themes.
- Learn how to proceed with group work.
- Set project goals and create an implementation plan.
- Start the project and get it on track.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Implementation status of assignments in class and attitude toward projects : 50%

Presentation in the 14th class : 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験学習(インターン) 展開科目**

**中野 貴之**

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この講義は、インターンの経験を振り返り、共有するとともに、さらに働くことに対する意識や理解を深めていくことも目的とします。また、広くキャリアをデザインする力を養います。

**【到達目標】**

「理論と経験」といわれるように、大学の授業で学んだことは実際の経験を積むことにより一層深まっていきます。実際に働いて得た経験値を軸に、働く場、さらには広く社会に対する理解を深め、人間形成の基礎を築くことが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ①グループで実践経験を振り返る。
  - ②職場体験を振り返り、新たな実践課題に取り組む。
  - ③エッセイの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する
- また、レポートの提出を頻繁に求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り ②秋学期授業の進め方の説明
第2回	グループワーク I (インターンシップ振り返り)	①グループでのキャリア体験の共有 (各自から報告、他人の体験をノート) ②(10分間面談)教員に実習先での経験を整理して話す
第3回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第4回	ゲスト講師との対話 (企業におけるキャリア形成)	キャリア形成に詳しいゲスト講師との対話
第5回	ゲスト講師との対話 (企業ガバナンス)	企業ガバナンスに詳しいゲスト講師との対話
第6回	業界、企業分析の基礎	業界、企業分析について春学期よりも詳しく説明
第7回	グループワーク II ①	各グループが選定した業界の過去、現在を分析し、将来についてディスカッション①
第8回	グループワーク II ②	各グループが選定した業界の過去、現在を分析し、将来についてディスカッション②
第9回	グループワーク II ③	各グループが選定した業界の過去、現在を分析し、将来についてディスカッション③
第10回	グループワーク II ④	発表資料の作成、最終調整
第11回	グループワーク発表 ①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション (チーム1、2)

第12回	グループワーク発表 ②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション (チーム3、4)
第13回	グループワーク発表 ③	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーション (チーム5、6)
第14回	1年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返り

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

発表準備のため授業時間外に時間をとられることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

指定しない。

**【参考書】**

指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

- ①授業におけるグループワーク等への取り組み姿勢 (70%)
- ②各種レポートの提出状況、内容 (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

熱心に取り組んだとの意見が多かったため、本年度も同様のスタンスで進める。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得 (S~C-)した場合のみ履修可能

**【Outline (in English)】**

**\*Course outline**

The purpose of this course is to share the experience of the internship and also to deepen the awareness and understanding of work career.

**\*Learning Objectives**

The goal of this class is to deepen our understanding of the workplace and society, and to build a foundation for human development based on the experience gained through actual work.

**\*Learning activities outside of classroom**

You need to devote time outside of class to prepare your presentation. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude toward practice: 70%, Reports: 30%.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

キャリア体験学習(インターン) 展開科目

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、「学び」と「働く場での実践」をPDCAのサイクルを実践することで、自分だけの学びの方法の構築、自分だけの学びの体系を獲得することを目的とします。

授業の中では、就業体験を振り返ることで、自分自身を深く分析し、自らの仕事に対する考え方を身につけます。未来志向の考えを学び、キャリアをデザインする力を身につけます。

【到達目標】

インターン経験 Do を振り返り、その経験を整理しながら改めて、Check:仕事とは何なのか、働くとはどういうことかについて、自分なりに整理することを目的として、授業を進めます。Check および Act を一通り経験することで、実践を通じた学びの方法をラフではありますが獲得してもらいたいと思います。またPDCAサイクルのうちに「学び」を取り入れていくことも重要です。経験を軸にした「学び」を行っていくことで、自分という人間を豊かにしていく方法論を身につけていくことが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

①グループで実践経験の振り返りを行います (レポートを書くための準備を行います)

②職場体験の振り返りを生かして、新たな実践課題に取り組みます

③レポートの執筆：インターンシップを通して何を学んだのか、どのような経験をしたのか、自分の成長、自分の課題をテーマに執筆する。

エッセイ課題に関しては、第一次提出されたものに書き直しや修正を指示しますので、何回かのやりとりのあと最終提出となります。グループ課題に関しては、プレゼンテーション時にそれぞれの課題に対する講評を授業時に行います。

授業の感想コメントについては、次の授業の冒頭で全体に対するフィードバックを行います。また、必要に応じて授業時に個別でフィードバックをします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	①夏休みの実習の振り返り (ショートスピーチ) ②秋学期授業の進め方の説明
第2回	グループワーク I-1 (インターンシップ振り返り)	グループでのキャリア体験の共有 (各自から報告、他人の体験をノート)
第3回	グループワーク I-2 (インターンシップ振り返り)	I-1のグループとは異なるメンバーでもう一度グループワークを行います。できるだけ多くの経験をきくことで多面的な視点を身につけます。
第4回	秋学期の課題説明とグループワーク	①新たなグループ分け ②プロジェクトの進め方について説明 ③グループで打ち合わせ
第5回	社会人とのトーク①	10年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト ①(20代の社会人)

第6回	社会人とのトーク②	10年後の社会、生き方、働き方を考えるヒントをくれるゲスト ②(30代の社会人)
第7回	グループワーク II ①	10年後の自分達が関わる社会における働き方、生き方を自分たちの考えで描き、そこで自分たちはどう働き、どう生きていくのか、どのように生きていくのかを考える。 あるいは、特定の業界にフォーカスして、その業界が10年後どのようなようになっていくかを考えて、そこでの働き方がどのようなものかを考える、というテーマでディスカッション
第8回	グループワーク II ②	資料収集、調査を実施してテーマ研究を進める。
第9回	グループワーク II ③	チーム内でディスカッションをして、テーマに関する考え方を深める。 発表資料の作成、最終調整を行う。
第10回	グループワーク II ④	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。(チーム1、2)
第11回	グループワーク発表 ①	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。(チーム3、4)
第12回	グループワーク発表 ②	グループで取り組んだ課題のプレゼンテーションを行います。(チーム5、6)
第13回	グループワーク発表 ③	事前指導からインターンシップ、秋学期授業までのすべてのプロセスについて振り返りを行います。
第14回	1年間の自分のインターンシップ経験の振り返り	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①授業時間外にインタビューや課題に時間をとられることがあります

②この機会にキャリアデザインとは何かをじっくり考える時間をもってください

③働く場として関心ある業界、企業についての情報を種々のメディアによりフォローしてください

④実習先とのコンタクトが継続される場合があります  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

『ワークシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。

『ライフシフト』リンダ・グラットン、プレジデント社。

『何のために働くのか』北尾吉孝、致知出版社。

『仕事の報酬とは何か』田坂広志、PHP文庫。

『働くということ』ロナルドドーア、中公新書。

『働く意味とキャリア形成』谷内篤博、勁草書房

【成績評価の方法と基準】

実習実績、実習関連書類の整備、平常点、報告書 (レポート) により評価します。

実習実績 (インターンの経験) は成績評価の前提条件です。実習関連書類の提出をもって実習をおこなったものと認めます。

そのうえで平常点、毎回の授業課題、報告書 (レポート) により評価します。

平常点60%、授業の課題30%、報告書 (エッセイ) 10%です。

成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップ経験をしっかりと振り返ることのできる授業構成にしました。

**【その他の重要事項】**

この授業は自主性・主体性を実社会で試し磨くためのものです。すべて自ら行動しないと始まらないような設計になっています。自分で電話をして受入先担当者とコンタクトをします。受入先では自分から行動しないと仕事は始まりません。現場ではさまざまな問題が発生する。それを直に肌で感じて反応する感性やそれらに適切に対処する力を身につけてほしいと思います。気がつき、気をくばり、気がきく人材、実習ではセンスを磨いて欲しいと思います。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

**【Outline (in English)】**

**[Course outline]**

This lesson is aimed at building your own way of learning and acquiring your own learning system by practicing the PDCA cycle by "learning" and "practicing in the workplace".

In class, by reviewing the employment experience, you deeply analyze yourselves and learn how to think about your future work.

And you will learn future-oriented ideas and acquire the ability to design careers.

**[Learning Objectives]**

Reflecting on the internship experience, students will consider the meaning of work.

The goal of the class is to learn how to learn through practice by going through a series of experiences and reflections. The goal is for students to be able to control their own PDCA cycle of experiencing, reflecting, and improving their actions.

**[Learning activities outside of classroom]**

This class is likely to take up a lot of time outside of class time. You will need time to work on interviews and assignments. In addition to this, please allow time to think carefully about what career design is. Be sure to gather information about industries and companies on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

Evaluation will be based on practical training results, submission of practical training-related documents, level of class participation, and written reports. Practical experience is a prerequisite for evaluation. Submission of practical training-related documents is considered to be the completion of the practical training. 60% for class participation, 30% for class assignments, and 10% for written reports. Grading is based on a 100-point scale, with a score of 60 or higher being considered passing.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

キャリア体験学習(インターン) 展開科目

野中 利明

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

変化が激しく先行きの見通しの立ちにくいこれからの時代において、自分自身が何をよりどころにどのような人生・キャリアを歩んで行くべきかを通年で考える授業の秋学期の講義です。

本講義はインターンシップの体験を振り返りながら、そこでの学びを整理すると共に、自分自身の価値観を言語化し、今後の人生、キャリアについて考える授業です。

本講義では議論の機会を多く設け、様々な価値観、考え方に触れながら、これからの自分のありたい姿を描出してもらいます。

【到達目標】

自ら主体的に考え、行動する思考様式、行動様式を身に着けていること

自分が大切にしたい価値観や仕事観が言語化できていること

自分自身が歩みたい人生・キャリアプランの輪郭が見えるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

①実習経験を振り返り、グループワークを通じて、学びや気づきを言語化し、整理する。

②グループワークにて業界研究を行い、情報収集、プレゼン資料を作成し、各チームでプレゼンを行う。

③10年後の世の中の状況をイメージして、自分がどうなっていたいかを取りまとめる。グループワークにて相互に発表し、議論を深める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	実習の報告とオリエンテーション	・夏休みの実習の振り返り ・秋学期授業の概要説明
第2回	個別面談、グループワーク(前半)	・教員に実習の状況を説明する(ショートスピーチ) ・グループで実習の状況を相互に共有する
第3回	個別面談、グループワーク(後半)	・教員に実習の状況を説明する(ショートスピーチ) ・グループで実習の状況を相互に共有する
第4回	社会人とのディスカッション(大手企業勤務の若手会社員を想定)	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第5回	社会人とのディスカッション(大手企業勤務の中堅・幹部社員を想定)	・企業で働く社会人の話を聞いて、自分のキャリアを考える
第6回	社会人とのディスカッション(起業家を想定)	・起業家の話を聞いて、自分のキャリアを考える

第7回	グループワークⅡ① (業界分析：業界の概要調査と仮説出し)	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の概要調査と仮説出し)
第8回	グループワークⅡ② (業界分析：業界の将来予測とディスカッション)	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・10年後の社会をイメージし、自分がその時にどうありたいかを考える ・業界の将来予測仮説の検証とディスカッション
第9回	グループワークⅡ③ (業界分析：これまでの調査結果を踏まえて働き方についてプレゼン)	・業界を特定し、現状分析及び将来予測を行い、働き方を考える ・各チームのプレゼンとディスカッション
第10回	グループワークⅢ (10年後予測：10年後の世の中を考える資料収集と仮説出し)	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・情報収集・資料作成
第11回	グループワークⅢ (10年後予測：10年後の世の中の仮説検証と議論)	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・10年後の世の中の仮説検証と議論
第12回	グループワークⅢ発表①(10年後予測：10年後の予測とその時代に自分たちがどうありたいかについてプレゼン)	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第13回	グループワークⅢ発表② (10年後予測：10年後の予測とその時代に自分たちがどうありたいかについてプレゼン)	・10年後の社会をイメージし、世の中の働き方がどうなっている、自分がその時にどうありたいかを考える ・各グループごとのプレゼン及びプレゼンへの質疑・ディスカッション
第14回	総括 1年間の振り返り	・1年間を振り返り、インターンと授業を通じて、何を感じ、何を学んだのかを整理し、これからの自分の人生をどうしていきたいかを発表する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

①授業時間外にインタビューや課題に時間を取られる可能性があります。

②自分自身のキャリア・生き方についてどうありたいかじっくり考えてもらいたと思います。

③関心ある業界・企業の動向については、日頃からアンテナを立てて情報収集を心がけてください。

④実習先とのコンタクトが継続されることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません

【参考書】

「プロティアン」 田中研之輔 日経BP社  
「ライフシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社  
「ワークシフト」 リンダ・グラットン プレジデント社  
「冒険の書」 孫泰蔵 日経BP社

【成績評価の方法と基準】

①授業におけるグループワークなどへの取組み姿勢(60%)

②各種レポートの提出状況及び内容(40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

全員参加型の授業を前提に学生一人一人が自ら考え、発言し、議論を通じて思考を深める機会を多く設けます。

**【その他の重要事項】**

この授業では自ら主体性をもって考え、行動することが求められます。授業では毎回、ディスカッションの機会を設けます。

また実習に関しては、インターン先を自ら探して、自らコンタクトして経験をすることで、主体的に学び・考える姿勢が身につきます。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は「キャリア体験事前指導」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

**【Outline (in English)】**

**[Class outline and purpose]**

This is a fall semester lecture in which students will spend the entire year thinking about what kind of life and career they should take based on what they believe in the coming era, where changes are rapid and it is difficult to predict the future. This lecture is a class where students look back on their internship experience, organize what they learned there, put their own values into words, and think about their future lives and careers.

In this lecture, we will provide many opportunities for discussion, and we will ask you to envision your future self while being exposed to various values and ways of thinking.

**[Attainment target]**

Having acquired the thinking and behavior style of thinking and acting on one's own initiative.

Being able to verbalize the values and work philosophy that you value

Being able to see the outline of the life and career plan you want to follow

**[Learning activities outside of classroom]**

① You may be required to spend time doing interviews and assignments outside of class hours.

② I would like you to think carefully about what you want to do with your career and lifestyle.

③ Please keep your antenna up and collect information on trends in industries and companies that interest you.

④ Contact with the training site may continue.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

**[Grading Criteria /Policy]**

① Attitude towards group work etc. in class (60%)

② Submission status and content of various reports (40%)

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験学習(インターン) 展開科目**

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業の目的は、夏休み中のキャリア体験(インターンシップ)を振り返って教訓を整理し、これからのキャリアにつなげることです。授業の中で、振り返りのための個人発表やグループワーク、具体的な業界研究を通じて、これからのキャリアについて考えていただきます。

**【到達目標】**

以下を到達目標とします。

- ①キャリア体験を通じた気付きの分析
- ②キャリア体験から得られた教訓の整理
- ③キャリア体験を踏まえてこれからのキャリアについて考える

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、春学期の「キャリア体験事前指導」の修得と所定のインターンシップ体験が受講の条件となります。

前半はキャリア体験の振り返りを共有します。後半には、業界研究の一環として、ゲストの招聘(業界は仮のものです)を予定しています。

ゲストのスケジュールや受講の状況に応じて、授業計画の一部(対面からオンラインへの変更等)を変更することがありますので、予めご了承ください。

課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	①授業の進め方の説明 ②社会人基礎力調査 ③グループワークにおけるコンテンツの決定とグループ分け
第2回	グループワーク①～コンテンツのフレームワーク決定	①グループワーク(フレームワークの決定と協力依頼事項の決定) ②協力依頼
第3回	キャリア体験の報告(IT業界等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑～IT業界等を中心に
第4回	キャリア体験の報告(金融・製造業等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑～金融・製造業等を中心に
第5回	キャリア体験の報告(サービス業等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑～サービス業等を中心に
第6回	キャリア体験の報告(社会貢献・福祉等)	クラス全体に対する個人の報告と質疑～社会貢献・福祉業界等を中心に
第7回	グループワーク②～コンテンツの作成	調査結果の分析と発表資料の作成
第8回	グループワーク③～コンテンツの発表	各グループのコンテンツ発表と意見交換

第9回	業界研究のイントロダクション	①グループワークの振り返り ②業界研究の目的、方法、スケジュール等に関する解説 ③社会人基礎力のフィードバック
第10回	業界研究～ショッピングセンター	企業の実務家の講話と質疑～ショッピングセンターに関わるさまざまな業界
第11回	業界研究～エネルギー業界(仮)	企業の実務家の講話と質疑～エネルギー業界の現状と、自分自身のキャリア
第12回	業界研究～サービス業(仮)	企業の実務家の講話と質疑～サービス業の現状と、自分自身のキャリア
第13回	課題発表	業界研究トライアルの発表
第14回	エッセイと社会人基礎力のフィードバック	①エッセイのフィードバック ②インターンシップ前後の社会人基礎力の変化に関するフィードバック

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

インターンシップに関する個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表、エッセイの執筆等、複数の課題への対応が必要になります。

インターンシップ終了後も、インターンシップ先とのやりとりが継続する場合があります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

テキストは指定しません。授業の資料は必要に応じて学習支援システムにアップします。それ以外に参考資料がある場合は、適宜授業で配布します。

**【参考書】**

授業のなかで必要に応じて紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出等)、発表(個人報告、グループワークでのコンテンツ発表、業界研究トライアルの発表)、エッセイにより評価します。

発表については、発表者や発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度・内容も評価します。

平常点が20%、発表が50%、エッセイが30%です。

**【学生の意見等からの気づき】**

課題は大変だったけれど有益だったというご意見が多かったので、続けていきたいと思っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォン、パソコン等の情報機器。

原則として対面で行いますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。

発表等に必要準備については、事前の指示に従って行ってください。

**【その他の重要事項】**

春学期のキャリア体験事前指導を修得し、所定のインターンシップを完了したことが本授業の受講条件となります(やむを得ない事情により完了の時期が若干ずれ込む場合は個別にご相談ください)。

授業におけるグループワークや発表には、主体的、積極的に参加してください。

キャリア体験中にトラブルや先方への迷惑行為等があった場合は、極力早く個別に報告してください。相談のうえ、必要な対応を行って頂きます。

インターンシップ関連の書類(先方の確認印が必要なものを含む)の提出をもってインターンシップの実施を確認しますので、必ず提出してください。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

In the class, students are asked to think about their future careers through individual presentations, group work, and specific industry research.



< Learning Objectives >

The purpose of this class is to review the career experiences (internships) during the summer vacation, organize the lessons, and lead to future careers.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions (20%), short reports (30%), and the group work presentations (50%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験学習 (プロジェクト 展開科目)**

山岡 義卓

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本科目では、春学期開講の「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」と本科目の両方を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトを実施する。このうち、本科目では、春学期にスタートしたプロジェクトを継続して実施し、最終的な成果に結び付け、プロジェクト全体の成果発表を行うところまで実施する。

**【到達目標】**

本科目の目標は次のとおり。

- ①春学期にスタートしたプロジェクトを目標に向けて継続する。
  - ②期間内に成果に結び付けられるようにプロジェクトを終結させる。
  - ③これまでの活動を取りまとめ発表する。
  - ④プロジェクトを振り返り、学習内容を確認する。
- なお、「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」も含めて以下の4点が得られることを到達目標とする。
- ①大学で学ぶ諸理論が実社会でどのように活かされているかを知る
  - ②自己の職業適性や興味・関心への理解を深める
  - ③職業人になることへの意識を醸成し、働くことの心構えを学ぶ
  - ④社会人としての基本的なスキルやビジネスマナーを学ぶ

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」および本科目を通じて、約8か月にわたる企業等との共同プロジェクトをグループワークにより実施する。プロジェクトを通して、販売促進、マーケティング、営業、商品開発などの活動を体験する。

本科目では主にプロジェクトの実施と、成果のとりまとめと発表、振り返りを実施する。春学期に作成した実施計画書に基づきメンバー全員が協力しプロジェクトの成果が得られるように活動する。プロジェクト終了後、成果を取りまとめ発表し、活動の振り返りを行う。プロジェクトの実施にあたっては、必要に応じて企業訪問や実習等を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の活動振り返り	春学期の活動内容を振り返り、進捗に応じて実施計画を見直す。
第2回	企画案の作成	テーマに沿って企画案を作成する。
第3回	追加調査	企画案の実現性を高めるために必要な情報を収集するために追加調査等を行う。
第4回	企画案のブラッシュアップ	追加調査の情報等を参照し企画案をブラッシュアップし、協力企業等に提案できるレベルの企画書として完成させる。
第5回	企画実施の準備	販売促進やイベント実施等、企画実施のための準備作業を行う。
第6回	企画の実施	販売促進やイベント実施等の企画を実施する。
第7回	実施結果の評価	実施結果をアンケート調査や販売実績等により評価する。

第8回	実施結果の振り返りと改善策の検討	実施結果と評価を踏まえて自分たちの実施した結果を振り返り、改善策を検討する。
第9回	プレゼンテーション講座	成果報告会に向けてプレゼンテーションの作り方について説明する。
第10回	プレゼンテーション資料作成	成果報告会に向けてプレゼンテーション資料の作成等準備作業を行う。
第11回	成果報告会リハーサル	成果報告会のリハーサルを行う。
第12回	成果報告会	活動内容について成果報告会を行う。
第13回	プロジェクトの振り返り	春学期からの活動を含めてこれまでの振り返りと意見交換を行う。
第14回	成果報告書作成	成果報告会や振り返りも含めこれまでの学習成果を確認し、成果報告書を作成する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

活動にあたってインターネットの検索やワード、エクセルの操作が必要になる。テーマに応じて授業時間外に企業訪問等の学外活動を行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

必要に応じて参考文献の指示や参考資料を配布する。

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

グループごとに成果報告書の作成および成果報告会におけるプレゼンテーションを行う。成績は、プロジェクトへの取り組み姿勢 (50点)、成果報告書および成果発表 (50点) により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

「1年を通して企業との取り組みから仲間との関係まで幅広く構築できた」とのコメントより、事前学習やプロジェクト運営においては成果を求めるだけでなく、その土台となるチームづくりにも留意する。「初めてのことはばかりで失敗もつきものだと学びました」とのコメントより、失敗経験を次に活かせるよう、振り返りの機会をこれまで以上に重視する。

**【学生が準備すべき機器他】**

課題等は授業支援システムを用いて提出する。必要に応じてノートパソコンを使用する。企業との打ち合わせにおいては遠隔会議ツールを使用することもある。

**【その他の重要事項】**

この科目を履修するには、「キャリア体験事前指導 (プロジェクト)」を履修していることが条件になります。企業等との共同プロジェクトの実施という性質上、授業時間以外にも随時活動を行う。また、秋学期も含めた活動であることから、テーマによっては夏期休業期間中も活動を実施する。協力企業等の理解と協力を得て運営されるプログラムであり、履修する学生諸君には法政大学キャリアデザイン学部を代表する学生として、大きな責任が課せられることを正しく認識する必要がある。担当教員は企業におけるビジネスと支援機関におけるコーディネータの実務経験を有している。調査やスケジュール管理、企画書の作成等のノウハウを含めて講義するとともに、実務経験を活かしてプロジェクト活動への助言を行う。

**【キャリアデザイン学部より】**

本科目は「キャリア体験事前指導」を修得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

**【Outline (in English)】**  
(Course outline)

In this course, we will conduct the project and present the results.

(Learning Objectives)

The goals of this class are as follows:

- Continue toward the goal of the project that started in the spring semester.

- End the project so that results can be obtained within the period.
- Summarize the activities and give a presentation.
- Look back on the project and confirm what you have learned.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is 2 hours each for preparation and review for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Attitude toward projects : 50%

Achievement report and final presentation : 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (国際) 展開科目**

御園生 純

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリア体験事前指導 (国際) は、キャリア体験事前指導科目の1授業であり、海外で活躍する日本人を含む各国の人々のキャリアデザインを学び、キャリアデザインの国際性・国際化を理解することを授業の主眼とする。

ベトナム・ホーチミン市の提携先大学 (ホーチミンテクノロジー大学) の学生との「異文化相互理解」を主たるテーマとし、オンラインミーティングをつうじて双方の文化理解を深める。

ベトナム文化・社会経済体制の調査研究を行い、それを前提として現在の両国間の問題について調べ、発表する。(研究論文及びプレゼンテーション)

現地研修の具体的なテーマ：

1. ベトナムにおける大学生の就活事情及び日系企業等の対応(同一性と異質性を中心に)
2. ベトナムにおける学校外教育の現状と課題 (グローバル社会との関連において)
3. 日本文化から見たベトナム文化の同一性と異質性
4. ベトナムおよび日本の教育事情の現状と課題(同一性と異質性を中心に)
5. 現在のベトナムと日本の間の諸問題

**【到達目標】**

・異文化理解・国際理解とは何か、について、自分なりの回答を見つけること。

・自分と異なるものを理解することについて文化・文化を中核に考察体験する。

・ベトナムの歴史的・国際関係や政治社会的状況の理解と基礎的ベトナム語の学習

・日本ベトナム両国間の様々な問題や市民レベルでの交流のあり方について理解を深める。

・本研修ではベトナム・ホーチミン市の「ホーチミン工科大学」(Ho Chi Minh City University of Technology) の日本語学科の学生と異文化理解にかかわる共同テーマを設定し、双方で意識調査・聞き取り調査などを行うことで、これからの両国の市民レベルでの国際交流のあり方を考察する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。
- ②教科書や調べ学習を通してベトナム・国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。
- ③ベトナム語の学習をする。
- ④Zoomを活用して日本語を学ぶベトナムの大学生 <https://syllabus.hosei.ac.jp/login.php> 交流。
- ⑤各自で研究調査テーマを設定し、報告書を作成する。
- ※課題等の提出とフィードバックは学習支援システムを利用する。各課題について受講生毎に講評する。
- ⑥ベトナムの諸分野を専門とする方々から、現在の両国間の問題について話を聞く。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各自自己紹介と本授業履修の動機について履修者同士のディスカッション
2	ベトナムと日本を取り巻く国際情勢	研修の狙いと目的について
3	ベトナムの概要 ベトナム語学習①	ベトナムという国のイメージ・メディアをつうじてベトナム語を学ぶ
4	ベトナム理解(1) ベトナム語学習②	ベトナムの歴史とベトナム戦争 ベトナム語を学ぶ
5	ベトナム理解(2)~ことばと文化・ベトナム語を知る、理解する。 ベトナム語学習③	①ベトナムの固有文化 ②ベトナム語の特徴について ベトナム語を学ぶ
6	ベトナム理解(3)~現代ベトナムを形作る歴史的経緯と社会・経済体制 ベトナム語学習④	メディアに描かれるベトナム~ベトナム戦争/ベトナムの食 ベトナム語を学ぶ
7	現地協力校とのディスカッション	協定校であるホーチミン工科大学日本語部の学生との遠隔ミーティング
8	ベトナム語理解 (4) 会話 ベトナム語学習⑤	現地での生活に必要なベトナム語とは ベトナム語を学ぶ
9	研究テーマ設定 (1) ベトナム語学習⑥	研究テーマについての決定に向けて~第1次発表 ベトナム語を学ぶ
10	研究テーマ設定 (2) ベトナム語学習⑦	研究テーマについての決定と関連施設への訪問/ヒアリング先の選定 ベトナム語を学ぶ
11	ベトナム社会構造・文化理解 (1) ベトナム語学習⑧	ベトナムの文化・宗教そして政治制度の理解 ベトナム語を学ぶ
12	ベトナム社会構造・文化理解 (2) ベトナム語学習⑨	ベトナムの社会システム・教育制度の理解 ベトナム語を学ぶ
13	ベトナム戦争理解 ベトナム語学習⑩	ベトナム戦争とは? 映像資料を通じての理解 ベトナム語を学ぶ
14	春学期授業のまとめ	前期まとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業中に指示した個人毎の調査や情報収集については必ず授業前におえること。ベトナム語学習については毎回の授業で実施した内容を次回までに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業中に指示します。

**【参考書】**

必須：「いちばんやさしい 使えるベトナム語入門」木村友紀著 懶池田書店  
※ベトナムの基礎知識 (アジアの基礎知識) メコン出版  
※適時授業時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (授業参加度) 50%  
各課題の提出・プレゼンテーション 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

自主性と主体性を重視します。受講生一人一人の自律性を最重視します。

**【その他の重要事項】**

**【重要】** 履修にあたっての留意事項

- ・団体行動ではなく、個人を主体とした研修活動に耐えうること。
- ・最終目的は現地での研修後秋学期に着手する報告書の策定にある。

- ・IT機器・モバイルコンピューティング・ネットワーク技術に対する習得意欲があること
- ・最新のプレゼンテーション技術の習得に対する意欲があること。
- ・欠席しないこと

**【Outline (in English)】**

●Course outline

The aims of this lecture is understand the history and current situation of career design and Intercultural understanding in Vietnam,(with students of Hochiminh Technology University),internationalization / internationalization of career design.

●Learning Objectives

- ・ Find your own answer about what is cross-cultural understanding and international understanding.
- ・ Consider and experience culture at the core of understanding something different from yourself.
- ・ Understanding Vietnam's historical and international relations and political and social situations and learning basic Vietnamese
- ・ Deepen understanding of various issues between Japan and Vietnam and how to interact at the citizen level.

●Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare for individual surveys and information gathering instructed during class before class. For learning Vietnamese, review what you did in each class by the next time. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

●Grading Criteria /Policy

class participation 50%

Submission / presentation of each assignment 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験学習 (国際)** 展開科目

御園生 純

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ①前期の国内調査で学んだことを踏まえ、現地研修の成果を各個人が整理しまとめ、発表する。
- ②12月に予定されている学内発表 (ポスターセッション) に向けての準備
- ③研修報告書の作成

**【到達目標】**

- ・前期での調査活動を踏まえ、研究テーマについての報告書を作成する。
- ・異文化理解について、ベトナムでの体験を踏まえた総括。
- ・異文化理解教育についての先例と理論的土壌についての学習。
- ・年度末の報告会に向けての準備。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

前期での学びと現地での体験を振り返り、その成果について各自が発表する。  
報告書と学内報告会にむけて、自らの体験を言語化する。  
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。各課題について受講生毎に講評する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	後期授業の概要と各自の作業分担について
2	前期に学んだベトナムの状況の総括 (1)	前期に収集した情報の整理と分類について
3	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題 (1)	日本とベトナムの間における様々な社会問題の整理
4	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題 (2)	各グループが現地での調査やヒアリングを通じて収集した情報を整理する。
5	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題 (3)	異文化体験についての整理と日越双方での比較検証を行う
6	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題 (4)	日越関係で問題となっている技能実習制度について制度の目的と実態を理解する。
7	ベトナムと日本・両国にまたがる様々な問題 (5)	報告書の章立てと全体構成の骨子を検討する
8	レポート作成 (1)	各ワークグループ毎に考えた全体構成案について発表～意見交換をする
9	レポート作成 (2)	各グループ毎のレポート概要のプレゼンテーション
10	レポート作成 (3)	各グループの執筆原稿をまとめ、最終報告書を完成させる
11	学内発表の準備 (1)	発表の骨子と構成の検討
12	学内発表の準備 (2)	期末の最終発表会で利用するポスターセッション用の掲示物の内容について検討～決定する

- 13 学内発表の準備 (3) 発表の練習とポスターセッションに向けての準備
- 14 学内発表の準備 (4) 聴衆に何を訴えるのか、またベトナムと日本・両国の交流の「光と影」についてどのように紹介するのか、の検討と精査

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

最終報告書の作成  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業中に指示します。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度 50%  
ポスターセッション 25%  
報告書作成 25%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の自主性を求める

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートPC プレゼンテーションソフト、デジタルカメラ、情報端末

**【その他の重要事項】**

この科目は海外でのキャリアデザインの現状を学ぶことにより、情報力、状況判断力、行動力に関する就業力を育成する効果があります。

**【履修条件】**

本科目は「キャリア体験事前指導 (国際)」を習得 (S+~C-) した場合のみ履修可能です。

**【Outline (in English)】**

● Course outline

- ① Each individual organizes, summarizes, and presents what learned in Vietnam.
- ② Preparation for the on-campus poster session.
- ③ Preparation of training report

● Learning Objectives

- ・ Prepare a report on the research theme based on the research activities in the previous term.
- ・ A summary of understanding of different cultures based on the experience in Vietnam.
- ・ Learning about precedents and theoretical soils about cross-cultural understanding education.
- ・ Preparation for the year-end debriefing session.

● Learning activities outside of classroom

Preparation of final report

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

● Grading Criteria /Policy

participation in class 50%

Poster session 25%

Report preparation 25%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験事前指導 (国際) 展開科目**

松尾 知明、郭 艶娜

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインから検討することを目的としている。春学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々と大学生と交流する、④グローバルなキャリア (人生) のデザインについて考える。

**【到達目標】**

①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。②交流に必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々と大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④台湾を事例に、グローバルなキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書や調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾の学生と交流をする。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション 中国語学習①	自己紹介、概要説明 中国語を学ぶ
2回	台湾事情①台湾の地理 中国語学習②	台湾を旅行するとしたら 中国語を学ぶ
3回	台湾事情②台湾の歴史 中国語学習③	台湾の歴史を知ろう 中国語を学ぶ
4回	台湾事情③台湾の政治 中国語学習④	台湾の政治を知ろう 中国語を学ぶ
5回	台湾事情④台湾の社会 中国語学習⑤	台湾の社会を知ろう 中国語を学ぶ
6回	台湾事情⑤台湾の経済 中国語学習⑥	台湾の経済を知ろう 中国語を学ぶ
7回	台湾事情⑥ 歴史や文化の探訪 中国語学習⑦	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
8回	台湾事情⑦ 企業訪問 中国語学習⑧	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
9回	台湾事情⑧ インターシップ 中国語学習⑨	現地体験学習の準備 中国語を学ぶ
10回	台湾事情⑨ 台湾の大学生	元智大学学生との交流
11回	現地体験学習に向けて しおり作成① 中国語学習⑩	しおりの計画 中国語を学ぶ

12回 現地体験学習に向けて  
しおり作成②  
中国語学習⑪

しおりの編集  
中国語を学ぶ

13回 現地体験学習に向けて  
しおり作成③  
中国語学習⑫

しおりの完成  
中国語を学ぶ

14回 前期のまとめ  
中国語学習⑬

現地体験学習への準備  
中国語を学ぶ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・テキストの精読 ・必要な資料収集 ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための72章 (第二版)』明石書店

**【参考書】**

野島 剛 『台湾とは何か』(ちくま新書)

**【成績評価の方法と基準】**

主体的な参加の姿勢 (30%)、課題の遂行 (70%) などをもとに総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

台湾のつながりが感じられるように、授業内容を工夫する。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン

**【その他の重要事項】**

- ・対象者は、2～4年生。
- ・この授業の受講希望者は、3月末のガイダンスに参加し、学部窓口に参加希望を申請するものとする。
- ・受講にあたっては、キャリア体験学習 (国際) の参加条件や現地実習の中止時の対応について十分理解した上で申し込むこと。
- ・参加者は、定員を超えた場合、面接を実施して決定する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Spring semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language, 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, and 4) considering meaning of career design in a global and multicultural society.

**【Learning Objectives】**

Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) use simple Chinese language as a communication tool, 3) interact effectively with Taiwanese people and college students, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study and prepare presentations. Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria/Policy】**

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**キャリア体験学習 (国際)** 展開科目

松尾 知明、郭 艶娜

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業は、日本と関係が深い台湾を事例として、グローバルな視野からキャリアデザインについて検討することを目的としている。秋学期については、①台湾の歴史や社会、文化、人々について学ぶ、②中国語を学ぶ、③台湾につながる人々や大学生と交流する、④現地体験学習を振り返り、ポスターと報告書を作成する、⑤グローバルなキャリア (人生) のデザインについて考える。

**【到達目標】**

①台湾の歴史や社会、文化、人々についての基本的な知識をもつことができる。②交流に必要な最低限の中国語を話すことができる。③台湾につながる人々や大学生と効果的にコミュニケーションをとることができる。④キャリア体験学習 (国際・台湾) プログラムのポスターと報告書を効果的に作成することができる。⑤台湾を事例に、国際的なキャリアデザインについての自分なりの考えをもつことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

①対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。②教科書やインターネットでの調べ学習を通して台湾や国際的なキャリアデザインについての基本的な知識を得る。③中国語の学習をする。④台湾につながる人々や大学生と交流する。⑤春学期と秋学期で学習した成果物をもとにポスター・報告書づくりを行う。課題は授業で発表し合い、フィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション ポスター・報告書づくりの計画①イメージの共有	秋学期の授業の見直し ポスター・報告書制作に向けて
2回	現地体験学習の振り返り：印象に残っていること ポスター・報告書づくりの計画②大枠の決定	発表と討論 ポスター・報告書制作の計画、役割分担
3回	現地体験学習の振り返り：学んだこと ポスター・報告書づくりの計画③テーマの決定	発表と討論 ポスター・報告書制作のテーマの決定
4回	現地体験学習の振り返り：見方や考え方が変化したこと ポスター・報告書づくりの計画④工程表	発表と討論 ポスター・報告書制作の工程表の作成
5回	ポスター・報告書づくり①見直し	ポスター・報告書の構成、レイアウト等の決定
6回	ポスター・報告書づくり②枠組み	ポスター・報告書の骨格の決定
7回	テーマ研究発表	現地体験学習からの問い

8回	ポスター・報告書づくり③原稿集め、編集	原稿の整理
9回	ポスター・報告書づくり④進捗の確認、編集	原稿のチェック
10回	ポスター・報告書づくり⑤編集	印刷しての校正
11回	ポスター・報告書づくり⑥ポスターの最終チェック	ポスターの完成
12回	ポスター・報告書づくり⑦報告書の最終チェック	報告書の完成
13回	ポスター・報告書の合評会	完成したポスター・報告書もとに学習の振り返り
14回	プログラム全体の振り返り	春学期、現地体験学習、秋学期のまとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

資料の整理と読み込み。参考文献の読み込み。ポスター・報告書の原稿執筆、編集作業。ポスター発表会への参加。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

赤松 美和子、若松 大祐編著『台湾を知るための72章 (第二版)』明石書店

**【参考書】**

野嶋 剛『台湾とは何か』ちくま新書

**【成績評価の方法と基準】**

主体的な参加の姿勢 (30%)、課題、ポスター・報告書づくり (70%) などをもとに総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

ポスターと報告書の作成に向けた計画の立て方を工夫するとともに、進捗状況に応じた声かけをする。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン

**【その他の重要事項】**

春学期に引き続き、授業は、松尾知明と郭艶娜が分担して担当する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This class aims to explore career designs in a global society by getting to know Taiwan. The major themes of the Taiwan experience study in the Fall semester are 1) understanding its history, society, culture and people, 2) learning Chinese language, 3) meeting and interacting with Taiwanese people and college students, 4) making a poster and a report and 5) considering meaning of career design in a global and multicultural society.

**【Learning Objectives】**

Students are able to 1) acquire basic knowledge of its history, society, culture and people, 2) interact effectively with Taiwanese people and college students, 3) design and write a poster or a report as a team, and 4) have their own idea on career design in a global and multicultural society.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to read the text and materials, conduct research and study, reflect on their learning and prepare presentations. They also will be expected to plan, write, edit a poster or a report and prepare for the presentation. Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria/Policy】**

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

メディアリテラシー実習Ⅰ 展開科目

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアリテラシーのコア・コンセプトと映像言語の基本を学ぶ。受講生はメディアリテラシーの基本原則を理解し、それを用いて短い映像作品を制作することによって、メディアリテラシーの基礎を実践的に身につける。

【到達目標】

- ・受講生はメディアリテラシーの概念を理解し、メディアリテラシーの概念を説明できる。
- ・メディアリテラシーにおける映像言語の基礎知識を理解する。
- ・基本的な映像制作能力を身につけ、メディアリテラシーの概念を意識した短い映像を制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- メディアリテラシーの歴史を学び、基礎概念 (コア・コンセプト) を学びながら映像制作の基本的な技法を習得する。前半はテレビ番組や映画などの映像を用いて、映像言語とメディアリテラシーの基本的知識を習得する。後半はデジタル・ストーリーテリングや公共広告などの短い映像制作実習を行う。
- 授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- 良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- 課題等の提出・フィードバックはHoppiiを通じて行う予定。
- オフィス・アワーで、課題 (試験やレポート等) に対して講評する。
- 最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。この授業は、基本は対面とし、必要に応じて、オンラインで実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および必要機器の説明 (Zoomによるオンライン授業)
2	メディアリテラシーの基本	メディアリテラシーの基礎概念を学ぶ
3	メディアリテラシーの原理	メディアリテラシーの基本原則を学ぶ
4	メディアリテラシーの歴史	メディアリテラシーの歴史を学ぶ
5	メディアの読み解き	メディアのジャンルと分析の方法を学ぶ
6	デジタル・ストーリーテリングの基礎	デジタル・ストーリーテリングの理論と技法を学ぶ
7	デジタル・ストーリーテリングの作り方	デジタル・ストーリーテリングの制作方法を学ぶ
8	デジタル・ストーリーテリング作品の発表	課題のデジタル・ストーリーテリング作品の発表を行う
9	現代社会のメディア	広告やPV、ニュースなど身の回りにあるさまざまなメディア・メッセージを学ぶ

10	広告メディアとメディアメッセージ	広告映像の中にあるメディア・メッセージの読み解き方を学ぶ
11	広告メディアと表現技法	広告映像の表現技法を学ぶ
12	公共広告の制作方法	公共広告の作り方を学ぶ
13	映像編集の方法	映像編集の基本的な方法を学ぶ
14	公共広告の構想	公共広告の絵コンテの発表会

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外では、授業期間中提示された課題の制作を行う。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年  
坂本・山脇編著『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社、2021年  
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局、2021年

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、提出物50%、平常点20%  
授業評価基準 (ルーブリック)

- ・基本  
積極的に授業に参加し、発言する  
静止画・動画による映像作品を制作する  
締め切りに間に合うように作品を提出する  
振り返りレポートを書いて提出する
- ・発展  
メディアリテラシーの5つのキークエスチョンを理解している  
映像の表現技法を説明することができる  
絵コンテを作ることができる  
映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる
- ・応用  
映像の企画・取材・制作が一人のできる  
他者に適切なアドバイスや支援ができる  
授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

メディアリテラシーの基本を理解することが良い作品制作につながる事が理解できた。

【学生が準備すべき機器他】

映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。  
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ (DavinciResolve) を推奨する。<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>  
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

本授業では動画アップロード用の専用サーバー(OATube)もしくはYouTubeを利用する。

【他の授業との関連】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」は映像制作の基本を学び、「メディアリテラシー実習Ⅱ」はドキュメンタリー映像制作を行う。ⅠとⅡは連続して履修すること。また、3年次以上では「キャリアデザイン学総合演習」を履修することが望ましい。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

To study the core concepts of media literacy  
To explore how the media construct their messages  
To learn how to make a Public Service Announcement

The goal of the course is for students to understand the concept of media literacy and the language of video, to acquire video production skills, and to be able to produce short videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.

Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

メディアリテラシー実習Ⅱ 展開科目

坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

受講生は、メディアリテラシーの基礎概念に関する学習を土台に、ドキュメンタリーの技法と分析手法を学び、キャリアヒストリーをテーマにしたショート・ドキュメンタリーを制作する。

【到達目標】

- ・メディアリテラシーの観点からドキュメンタリーの歴史と理論を学ぶ
- ・メディアリテラシーの概念を用いてドキュメンタリーを分析する
- ・取材による実践的なドキュメンタリー映像の制作および評価を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本授業は、「メディアリテラシー実習Ⅰ」の学習を土台に、短いドキュメンタリー映像制作を行い、基本的な映像制作の方法を学ぶ。なお、本授業は春学期に「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修し、メディアリテラシーの基本概念を学習した学生のみが履修できる。「メディアリテラシー実習Ⅱ」のみの受講は認めないので、注意すること。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックはHoppiiを通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題(試験やレポート等)に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

この授業は、基本は対面とし、必要に応じてオンラインとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・公共広告作品上映会	メディアリテラシー実習Ⅰの受講生が作った公共広告映像作品の上映を行う
2	メディアリテラシーとドキュメンタリーの基礎	ドキュメンタリー映像の基礎理論を学ぶ
3	メディアリテラシーとドキュメンタリーの歴史	ドキュメンタリー映像の歴史を学ぶ
4	メディアリテラシーとドキュメンタリーの構造	ドキュメンタリーのシーンやカットの構造を学ぶ
5	カメラ・マイクの使い方	施設の使い方とカメラとマイクの基本的な使い方を学ぶ。
6	ビデオ撮影実践法	ビデオ撮影の実際のノウハウを実践的に学ぶ。
7	構成・絵コンテの作成	実際に企画書や絵コンテを制作し、映像の構成を組み立てる。
8	企画の発表	受講生ひとりずつによる企画の発表。
9	編集の仕方(1)キャプチャーの仕方	パソコンに撮影した動画を取り込む方法を学ぶ。
10	編集の仕方(2)編集の基本	動画編集の基本を学ぶ。

- |    |                 |                         |
|----|-----------------|-------------------------|
| 11 | 編集の仕方(3)音響とテロップ | 動画に音声・音楽やテロップを入れる方法を学ぶ。 |
| 12 | 編集の仕方(4)仕上げ     | 編集の仕上げの方法を学ぶ。           |
| 13 | 編集作業の点検         | それぞれの編集作業の点検を行う。        |
| 14 | 発表会             | 制作映像のオンライン発表会           |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ロケハンや取材、撮影、編集はすべて各人が課外時間に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店、2022年

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局、2014年

坂本・山脇編著『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社、2021年

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版社、2021年

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%、提出物 50%、平常点 20%

授業評価基準 (ループリック)

・基本

積極的に授業に参加し、発言する

静止画・動画による映像作品を制作する

締め切りに間に合うように作品を提出する

振り返りレポートを書いて提出する

・発展

メディア・リテラシーの5つのキークエスチョンを理解している

映像の表現技法を説明することができる

絵コンテを作ることができる

映像編集の方法を理解し、パソコンで編集ができる

・応用

映像の企画・取材・制作が一人のできる

他者に適切なアドバイスや支援ができる

授業以外のさまざまな社会活動に学んだことを活用できる

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はセルフドキュメンタリーが多かった。今後はより多様な作品が作られることを期待している。

【学生が準備すべき機器他】

映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ (DavinciResolve) を推奨する。 <https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

【その他の重要事項】

「メディアリテラシー実習Ⅰ」で身につけたスキルをもとに、ひとり一つの作品の制作を行う。共同制作は認めないので注意。実践的な学習のため、無断欠席は禁止する。授業時間外の学習活動が多いため、アルバイトやサークル活動が忙しい学生は注意すること。また、春学期の「メディアリテラシー実習Ⅰ」を履修していない学生は原則として履修できない。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、抽選に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【履修条件】

本科目は「メディアリテラシー実習Ⅰ」を習得 (S~C-) した場合はみ履修可能です。

【Outline (in English)】

To explore how the core concepts of media literacy are adapted to the documentary

To study how to make and evaluate the documentary

The goal of the course is for students to understand the history and concepts of documentary video and to be able to produce short documentary videos. Students will produce videos outside of class time. Evaluation will be based on 30% quizzes, 50% submissions, and 20% study attitude.

Students need to work outside of the classroom to create their work. The amount of time varies depending on the student, but Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

地域学習支援 I

展開科目

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は体験型選択必修科目として「地域学習支援Ⅱ」とあわせて履修する。「地域学習支援Ⅰ」ではグローバル化、少子・高齢社会化のもとで、住民が自主的な問題解決能力を高め、地域づくりに参加するうえで求められる学習支援のあり方、コーディネーターの役割、ネットワークの形成について学び、実習の準備をおこなうことをねらいとする。

【到達目標】

地域において学習支援が求められる事情、具体的な支援の方法、支援者に求められる専門性について理解する。また、実習にむけて実習先の現状、活動内容など具体的な事情を理解し、個々人の課題意識を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

地域社会において学習支援の専門性が求められる活動分野は、コミュニティビジネス、NPO・ボランティア団体の発展とともに広がりをみせている。地域課題の解決にむけた地域づくり学習、若者自立支援、外国人との多文化共生教育、文化施設が核となったまちづくり、コミュニティ・メディアの活用などについて学び、コーディネーターの役割や専門性について認識を深める。

対面で授業を行う。前半は、各自で文献の講読を中心に、地域社会の現状について理解を深め、後半は、授業内掲示板などを活用し、グループディスカッションを取り入れながら、地域学習支援Ⅱに向けて学習課題を明確にする。

課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体験型選択必修科目としての「地域学習支援Ⅰ」の内容と履修方法、評価についての説明
2	地域学習支援が求められる背景①コミュニティと学習	公共機関、NPOなどに加え、地場産業、国際機関などにおいてもコミュニティづくりと学習の必要性が高まっていることを理解する。
3	地域学習支援が求められる背景②支援	日本の政策などを踏まえながら、地域における学習を支援するニーズが高まっていることを理解する。
4	地域学習支援とはどのような仕事か	地域学習を支援するコーディネーターの役割、専門性について理解する。
5	実習指導教員との懇談	実習先の選定・プログラムについて実習指導教員と面談し、実習課題を導出する。
6	生涯学習コーディネーターの役割・地域文化の振興と文化施設	コミュニティの活性化にむけたネットワークづくりとコーディネーターの役割、地域の振興における文化施設の役割について考える。

7	共生のまちづくりと多文化教育、若者の自立支援、コミュニティ・メディアの活用	多文化理解、多文化教育の実態と課題を考える。また、学校から仕事への移行の支援や自立支援の活動の実態と課題を考える。さらに、自治体や自治会の広報、コミュニティメディアの多彩な方法と活用について考える。
8	グループの形成と課題の設定	学習してきたことについてレポートを提出し、自らの問題意識を深める。
9	質問する・観察する・記録する・まとめる技術	大学での学びと体験とを結びつける方法について学ぶ。質問したり観察したりしたことを利用可能な資源・データとして記録し、まとめる技術を学ぶ。
10	グループ別事例研究①	実習先に関連する社会的背景、政策、組織の概要など、基礎的な知識について調べる。
11	グループ別事例研究②	実習先に関連する基礎的な知識をもとに、自分たちの実習課題を明確にする。
12	グループ発表①	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。(地域おこし、コミュニティメディア)
13	グループ発表②	研究した成果を発表し、質疑応答を行う。発表内容は個別にレポートにまとめる。(若者自立支援、異文化交流、地域文化)
14	まとめと振り返り	全体の振り返りとまとめを行い、地域学習支援Ⅱへの意識を高める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

地域生涯学習支援のテーマに基づいてデータを収集し、グループでの発表準備をおこなう。分野を選択し、文献やデータを収集し、レポートにまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

とくに指定しない

【参考書】

佐藤一子、2015、「序章 地域学習の思想と方法」佐藤一子編『地域学習の創造』東京大学出版会、pp.1-23

寺崎里水・坂本旬、2021、『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』法政大学出版局

藤田由美子・谷田川ルミ編著 (2018)「外国につながる子ども」『ダイバーシティ時代の教育の原理—多様性と新たなつながりの地平へ』学文社、

江口晋太郎 (2019)「当事者意識が薄い人々を変えられるか—持続可能な経済圏を生み出すには」保井美樹編著『孤立する都市、つながる街』日本経済新聞出版社

山浦晴男 (2015)「第一章 分析」『地域再生入門』ちくま新書

筒井美紀 (2017)「[金網と銅板塀のまち]を再生する」法政大学キャリアデザイン学会『生涯学習とキャリアデザイン』15

【成績評価の方法と基準】

個人レポート 50%、授業内での発言・提出物の内容 20%、最終グループレポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生はコミュニティとの接点をもつことが少ないので、ボランティア活動の体験や出身地・母校での子どもたちの支援など、意識的に関わる必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットが利用できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット (スマホは画面が小さいため、推奨しません)。

【その他の重要事項】

学部認定資格「地域学習支援士」の必修科目に位置付けられています。

**【Outline (in English)】**

**Course Outline:** In this class, students learn how to support learning-groups, the way of networking, and the role of coordinator.

**Learning Objectives:** (1) Understand the background to the need for learning support, specific support methods, and the expertise of supporters. (2) To understand the current situation and activities at the training site, and to form an individual awareness of the issues.

**Learning Activities Outside of Classroom:** Preparation and review time should be 2 hours each.

**Grading Criteria:** Individual reports 50%, class comments and submitted work 20%, final group report 30%.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

**地域学習支援Ⅱ** 展開科目

寺崎 里水、金山 喜昭、久井 英輔、坂本 旬、熊谷 智博、田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：金6/Fri.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「地域学習支援Ⅰ」で学んだことを土台としつつ、分野の選択に応じて地域づくり、多文化教育、若者自立支援、地域文化振興、コミュニティとメディアに関する実践的展開の場で実習をおこない、地域学習支援の意義・方法、コーディネーターに求められる能力、専門性について実践的に学ぶ。

**【到達目標】**

計画した実習プログラムに沿って実習をおこない、現場における学習支援の体験を通じて求められる専門性、プログラム作成やコーディネート能力について習熟する。また実習の終了後、実践を振り返り、自分の役割やコミュニケーション能力の適切性、足りない点などを確認する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

実習は地域の文化施設や学習組織、NPOなどへの訪問、行事・イベント等のサポート、遠隔地における滞在型実習、個々の学習者の支援、フィールド調査など、実習指導教員と現場職員・スタッフの協力によってプログラム作成がなされる。実習参加を通じて地域学習の現場で求められる支援のあり方を体験し、振り返りを通じて専門性について考察をおこなう。担当教員全員が等分に分担して授業を進める。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを利用して行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	実習オリエンテーション	実習先や実習期間、実習の目的等について理解・確認する。(寺崎・金山)
2	実習先に関する事前学習①計画をたてる	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(久井・児美川)
3	実習先に関する事前学習②実習課題を明確にする	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(田澤・熊谷)
4	実習先に関する事前学習③情報収集を行う	実習先に関する情報やデータ、文献資料等をもとに、具体的な実習プログラムを作成する。(坂本)
5	実習：地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(久井・寺崎)
6	実習：青年自立支援	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(児美川・田澤)
7	実習：多文化理解、コミュニティ・メディア	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する(熊谷、坂本)。
8	実習：地域文化	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する(金山)。

9	実習のまとめと報告 ①地域づくり	各自が選択した実習先にて実習プログラムを遂行する。(寺崎、久井)
10	実習のまとめと報告 ②青年自立支援	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(児美川、田澤)
11	実習のまとめと報告 ③地域文化	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(金山)
12	実習のまとめと報告 ④多文化理解、コミュニティ・メディア	実習への参加を通して得た学びを振り返り、報告をまとめる。(熊谷、坂本)
13	成果報告レポートの執筆	実習の成果について各自で課題を決定し、レポートを作成する。(寺崎、久井、児美川、田澤)
14	全体の振り返り	地域学習支援の意義や課題、今後の学習課題などについてディスカッションを行う。(金山、熊谷、坂本)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

実習プログラムの作成、実習期間中の体験記録の作成、実習後の報告書作成など、授業時間外に多くの作業を行うことが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めない。

**【参考書】**

実習先の領域に即して適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

実習中の体験記録作成 30%  
実習報告会における発表・レポート作成 70%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートや授業のレポート内容などの情報を総合的に集約し、担当教員間で進行などを話し合う予定である。

**【その他の重要事項】**

本科目は「地域学習支援Ⅰ (日本文化と人の生き方Ⅰ)」の単位を習得した場合のみ履修可能です。  
本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

**【Outline (in English)】**

**Course Outline:** Students go to practical training based on the studies in the spring semester. In the class, students are going to review their practical trainings and to prepare for the reports of the achievement.

**Learning Objectives:** Through practical training in community learning support, students will become familiar with the required expertise, program creation, and coordinating skills.

**Learning Activities Outside of Classroom:** Preparation and review should be 2 hours each.

**Grading Criteria:** Record keeping during the training 30%. Presentation at the debriefing session and report writing 70%.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 200)

多文化教育 I

展開科目

村田 晶子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、受講者の多文化理解力、多文化協働力を高めることを目的とします。受講者は、本科目を通じて、自己の異文化体験を振り返って分析することができるようになります。また、言語文化的に多様な背景をもつ人々と協働し、学び合うことがなぜ大切なのか理解し、自らイニシアティブをとって、文化紹介、国際交流、学習支援を実践することができるようになります。

【到達目標】

- 本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。
- ・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化することができるようになる
- ・在日外国人が抱える問題を理解し、どのような解決方法があるのかアイデアを出せるようになる。
- ・多文化協働力を高められる
- ・交流活動を企画し、実践することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に対して発表します。

【課題等に対するフィードバック方法】

- ・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。
- ・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (4/11)	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第 2 回 (4/18)	留学・英語神話	大学のグローバル化、留学、英語学習について考える。
第 3 回 (4/25)	日本で学ぶ留学生の視点	留学生の来日動機、来日して抱える問題点について学ぶ。
第 4 回 (5/9)	異文化適応	様々な異文化適応の理論を学ぶ。学内の留学生交流を始める。
第 5 回 (5/16)	「やさしい日本語」は必要か	「やさしい日本語」が提唱されるようになった背景、社会的な意義、具体的な使い方を学ぶ。
第 6 回 (5/23)	外国人労働者をめぐる問題	外国人労働者の在留資格、受け入れの実態、受け入れ制度の問題点について学ぶ。
第 7 回 (5/30)	ステレオタイプについて考える	ステレオタイプのメカニズムを理解し、自分のステレオタイプについて掘り下げる。
第 8 回 (6/6)	「ハーフ」	「ハーフ」という呼び方について考える。当事者の多様な経験を理解する。

第 9 回 「日本人論」 (6/13)

・過去の「日本人論」を知るとともに、現代のメディアによる「日本人」「●●人」の描き方を考える。  
・プロジェクトのトピックをグループで選ぶ。

第 10 回 ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッション (6/20)

・ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッションについて考える。  
・プロジェクトの企画書を作成する。

第 11 回 文化紹介プロジェクトの準備 (6/27)

グループに分かれてプロジェクトの準備

第 12 回 プロジェクトの発表 1 (7/4)

発表とディスカッション (グループ1~3)

第 13 回 プロジェクトの発表 2 (7/11)

発表とディスカッション (グループ4~6)

第 14 回 教場試験 (7/18)

最終レポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は2単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合1回につき4時間以上の授業時間外の学習が必要となります。学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んできてください。また、課外活動として、留学生との国際交流を行ないます (毎週1時間程度)。

【テキスト (教科書)】

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄 (編) (2019) 『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版 (2200円+税)

【参考書】

参加者の理解状況に応じて参考書の情報を知らせます。

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な授業の参加度 25%
- ・課題 35%
- ・最終発表 20%
- ・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

後半の文化紹介プロジェクトの準備の時間が足りなかったというコメントがあったので、プロジェクトの予告と準備時間をもう少し取りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに2回目の授業までに登録してください (クラスコードは初回の授業で伝えます)。
- ・授業の出席のチェックにGoogle Classroomを用いるため、授業には毎回携帯端末かPCを持参すること。

【その他の重要事項】

- ・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。1回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。
- ・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育II」をペアで履修することが単位取得の条件となります。
- ・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】

毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。



**【Outline (in English)】**

The course seeks to enhance students' multicultural awareness and understanding of linguistically and culturally diverse groups of people living in Japan. It also aims to develop students' multicultural collaboration skills.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to 1) critically reflect upon their own multicultural experiences; 2) understand the social issues impacting foreign residents; 3) enhance multicultural communication skills; and 4) conduct cultural exchanges.

**【Learning Activities outside of Classroom】**

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

**【Grading Policy】**

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Paper: 20%

· Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田 晶子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は春学期に学んだことを踏まえて、学内や学外の国際交流や支援活動にボランティアとして参加し、その実践を振り返ります。そして文化の多様性を社会の豊かさにつなげる「多文化共生」の在り方を考えます。

【到達目標】

本科目でボランティア活動に参加することを通じて、学生は多様な背景をもつ人々と協働するためのスキルを高めることができます(例：傾聴力、発信力、文化分析力、偏見やステレオタイプに気づく力、関係性の構築力、対立への対応力、自己省察力、柔軟な態度、自己管理能力、積極的に働きかける力等)。そして、多文化共生社会に貢献するために何が必要なかを理解し、自ら行動することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

\* 授業は以下の流れで進めます。

1. 課題の説明

2. グループディスカッションを行なう。

3. Google Classroomから課題を提出する。

\* 体験学習期間は参加者の活動→振り返り→ディスカッション→次への応用というサイクルが中心になります。

【課題等に対するフィードバック方法】

・よい振り返りのコメントは全員に紹介し、ボランティア活動に活かします。

・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ボランティアプロジェクトの説明	授業内容提示、履修の有無判断、ボランティアプロジェクトの選択
第2回	交流活動計画を立てる	国際交流ボランティアの活動計画の作成
第3回	海外大学とのオンライン交流の開始	海外大学との交流班は、オンライン合同オリエンテーションに参加
第4回	チュートリアル1	小グループに分かれてボランティア活動の初回の振り返りを行う
第5回	チュートリアル2	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第6回	チュートリアル3	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第7回	チュートリアル4	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりのサイクルか機能しているかチェックする

第8回	チュートリアル5	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物のテーマを決める。
第9回	チュートリアル6	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション①
第10回	チュートリアル7	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション②
第11回	チュートリアル8	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション③
第12回	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて成果発表会の準備を行う
第13回	成果発表1	グループの活動報告(グループ1～3)
第14回	成果発表2	グループの活動報告(グループ4～6)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

この授業は2単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合1回につき4時間以上の授業時間外の学習が必要となります。

授業時間外で、学内の留学生との国際交流、そして各自が選んだボランティア活動をします。

【テキスト(教科書)】

自主作成教材を配布

【参考書】

村田晶子(編)(2022)『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄(編)(2019)『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

・積極的な授業の参加度 25%

・課題 35%

・最終発表 15%

・最終成果物 25%

【学生の意見等からの気づき】

学生からはこのクラスの履修を通じて積極的に外国籍の人々と交流できるようになった、自分のステレオタイプに気づき、以前よりも柔軟な態度で他者に接することができるようになった、以前は内向き志向だったが外に目を向けるきっかけになった、広い意味でのコミュニケーション能力の大切さを理解した、交流や協働学習を今後地域ボランティアとして続け、社会貢献をしたい、など様々なコメントが聞かれた。この経験を今後の生活、勉学、キャリア、社会貢献に生かしてもらえたらと考える。そのために、学生が主体的に取り組めるような授業の方法を今後も検討していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに第1週目の授業までに登録してください。

・ハンドアウトが見られるように教室にPCか通信端末を持ってきてください。

【その他の重要事項】

・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、2024年度の春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は2024年4月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。

・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。第1回目、第2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】

ボランティア活動は相手あつての活動です。遅刻やキャンセルは相手に失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得(S~C-)した場合のみ履修可能です。

**【Outline (in English)】**

The course aims to enhance students' multicultural collaboration skills and their awareness of social contributions through international exchange and volunteer activities.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to apply their collaborative skills to promote social diversity and inclusion.

**【Learning Activities outside of Classroom】**

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

**【Grading Policy】**

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Papers: 20%

· Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**キャリア研究調査実習A (行動と意識の測定)** 展開科目

蟹江 教子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

量的調査によって人間の行動と意識を測定するための方法を理解する。具体的には教育や家族、地域に関連したデータを題材として、アンケート調査を行う際の手順や分析方法、効果的な結果のまとめ方について学ぶ。

**【到達目標】**

- (1) 問題意識を明確化し、仮説やリサーチ・クエッションをたてることができる。
- (2) 先行研究の探し方、既存データの利用方法などを学ぶ。
- (3) 簡単なアンケート調査の作成、実施、分析の手順を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習形式で進める。課題レポートについては授業等でその都度フィードバックする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
第2回	2次データ	官庁統計や2次分析等で使用することができるデータアーカイブについて紹介する。
第3回	尺度	名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度など、尺度の特徴を確認する。
第4回	度数分布	都道府県別の大学数などを求め、度数分布表および度数分布図を作成する。
第5回	代表値	学力テストデータを用いて、平均値、中央値、最頻値、偏差値などを求める。
第6回	散布図と相関	学力や大学進学に影響を与えると考えられる要因を検討し、2変数の関係を検討する。
第7回	結果の可視化	第4回～第6回で得られた結果を効果的な図や表にする。
第8回	結果報告会	これまでの結果について報告する。
第9回	心理尺度	満足度、幸福度など見えないものを測定するための方法について理解する。
第10回	心理尺度の作成 (1)	作成したい心理尺度に類似した尺度を調べる。
第11回	心理尺度の作成 (2)	簡単な心理尺度を作成する。
第12回	調査の実施	作成した心理尺度を用いて調査を実施する。
第13回	アンケート分析	仮説に基づいてアンケート分析を行う。
第14回	結果報告会	分析結果を報告する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習、復習時間は各2時間とする。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

小宮あすか、布井雅人,2018,『Excelで今すぐはじめる心理統計』講談社

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題 (50%) とそのプレゼンテーション (20%)、授業への積極的な取り組み (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生の興味・関心にあった内容を例として取り上げる予定

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室を使用する。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

In this class, students will understand how to use quantitative surveys to measure human behavior and attitudes. Specifically, the course will focus on data related to education, family, and community, and will cover the procedures and analysis methods used to conduct surveys and how to effectively summarize the results.

**【Learning Objectives】**

- (1) Clarify the awareness of a problem and formulate a hypothesis.
- (2) Learn how to search for previous research and use existing data.
- (3) Learn how to create, conduct, and analyze a simple questionnaire survey.

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade will be calculated according to the following process report (50%), presentation of results (20%), and in-class contribution (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**キャリア研究調査実習B (恋愛の質的研究)** 展開科目

木村 絵里子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

質的調査によって、日常生活の背後にある社会の仕組みを解き明かしてみよう。本講義は、現代社会における「恋愛」を題材にして、質的調査と量的調査による「社会の見え方」の違いを検討した上で、質的調査を行う際の問いの設定、調査手法、分析方法、調査上の倫理的配慮などについて学ぶ。

**【到達目標】**

- ・具体的な事例と先行研究をもとに、現代の「恋愛」について理解する。
- ・有意なリサーチ・クエスチョンを設定することができる。
- ・質的調査 (インタビュー調査・ドキュメント分析) を実践できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習形式で行う。課題等に対するフィードバックは、授業内で行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	テーマとしての恋愛、講義の概要・目標、方法、計画を説明
第2回	社会調査としての質的調査 (1)	質的調査の意義、質的調査と量的調査の違い、倫理的配慮など
第3回	社会調査としての質的調査 (2)	質的調査の方法 (インタビュー調査)
第4回	社会調査としての質的調査 (3)	質的調査の方法 (ドキュメント分析)
第5回	調査対象としての恋愛 (1)	近代社会と恋愛
第6回	調査対象としての恋愛 (2)	恋愛結婚の誕生
第7回	調査対象としての恋愛 (3)	恋愛の現在——出会いの変容
第8回	調査対象としての恋愛 (4)	恋愛の現在——親密性の変容
第9回	調査研究のデザイン (1)	先行研究を踏まえて研究計画を立てる (グループワーク)
第10回	調査研究のデザイン (2)	研究計画の報告 (グループプレゼンテーション)
第11回	調査研究の実践 (1)	調査を実施する (グループワーク)
第12回	調査研究の実践 (2)	データの分析 (グループワーク)
第13回	調査研究の結果報告 (1)	第1回学生グループプレゼンテーション
第14回	調査研究の結果報告 (2)	第2回学生グループプレゼンテーション

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。下記の教科書から具体的な課題を授業のなかで提示します。

**【テキスト (教科書)】**

授業内で提示する。

**【参考書】**

大谷信介ほか編『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』(ミネルヴァ書房) その他は授業のなかで適宜提示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (報告・授業への感想文) (50%)、グループ・プレゼンテーション (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内でフィードバックします。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業内で提示します。

**【Outline (in English)】**

This course focuses on learning and practicing qualitative research methods related to "romantic relationships."

This class will be conducted in the form of lectures and exercises.

The goal of this class is to understand contemporary "romantic relationships" and the methods of qualitative research, based on specific cases and previous research.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), term-end presentation(50%) .

EDU200MA (教育学 / Education 200)

外書講読 A (発達・教育) 展開科目

福田 紀子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人権に基づいた社会のより良い変化(開発)に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準 (スフィア基準 / Sphere Standards) のテキストや Human Rights Based Development の研修素材を通して、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重の基本的な概念を理解し、どのように伝えようとしているのかをテキストとアクティビティからとらえます。そして、自分たちの社会にある人権問題への理解と関与につなぐ力をつけることを目指します。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方 (手法、概念、進行) を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料 (英・日)、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。

授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートのコメントの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中のディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Sphere Handbook as Humanitarian Standards and background	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。人道支援の国際基準から「人権」に基づく考え方、その背景を概説します。
2	Humanitarian Response with Rights Base Aproach ~ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から人権に基づく課題と対応を考えます

3	Humanitarian Response with Rights Base Aproach ~ Core Humanitarian Standards/CHS flower & reality	CHS (人道支援の必須基準) の構成と内容
4	Humanitarian Response with Rights Base Aproach ~ Real Stuation on NOTO Hanto Earthquake	現実の災害時の状況とスフィアについて (facilitation 準備)
5	From Poverty To Dignity-a learning manual on human rights based development, introduction	From Poverty To Dignity の概説、構成 (facilitation 準備)
6	From Poverty To Dignity Mod- ule2:Understanding Human Rights	ファシリテーション実践 /人権とその理解に必要な概念に触れます
7	From Poverty To Dignity Mod- ule3:Understanding Development	ファシリテーション実践 /開発・発展とは何かについて考えます
8	From Poverty To Dignity Module-Human Rights Based Approaches- Module4: Links to Human Rights Standards	ファシリテーション実践 /人権関連の国際合意について理解します
9	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module5: Links to Human Rights Obligations	ファシリテーション実践 /人権尊重社会をどう作るのかについて考えます
10	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module6:Accountability & Redress	ファシリテーション実践 / Accountability と刷新のための現代的なキーワード「暴力」「同意」他について考えます
11	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module7:Non- discrimination & Attention to Vulnerable Group	ファシリテーション実践 /脆弱性の理解に必要なパワーとエンパワメント, Intersectionality, などについても考えます、
12	From Poverty To Dignity-Human Rights Based Approaches- Module8:Participation	ファシリテーション実践 /参加、Citizenship、Advocacy 等について考えます
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます

14	<b>Conflict Management/ Resolution in Japanese Context</b> ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます
----	---	--

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。

国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心を持ち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

**【参考書】**

The Sphere Handbook

Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf

<https://wunrn.com/2009/01/poverty-to-dignity-learning-manual-on-human-rights-based-development/>

Microaggressions in Everyday Life /

Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman

Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)

Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;

[http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/](http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf)

ParticipationHandbook\_CHAPTER4.pdf

『2030年未来への選択』（西川潤）

『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）

『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート50%

翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など）25%

最終レポート25%

**【学生の意見等からの気づき】**

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと願います。

**【その他の重要事項】**

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

**【Outline (in English)】**

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to

read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards- Chapter of WHAT'S SPHERE & CORE HUMANITARIAN STANDARD, and FROM POVERTY TO DIGNITY, as a training manual. Students are required to read the distribution documents in the classroom, and prepare the group facilitation.

Grading Criteria:

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation/ Facilitation 25%

Final Report 25%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

外書講読 B (発達・教育) 展開科目

長岡 智寿子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会学的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

**【到達目標】**

本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日的課題を問い直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。

授業の到達目標としては、下記のとおり。

- ・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
- ・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
- ・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第2回	Background : data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会学的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life s kills
第7回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women
第8回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning

第10回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ (試験、解説)	本講義全体を振り返って

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各2時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

**【テキスト (教科書)】**

指定テキストは無し。

**【参考書】**

本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。

- ・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
  - ・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012
- 初回のオリエンテーションの際に説明します。

**【成績評価の方法と基準】**

本授業の成績評価は、授業態度や平常点 (40%)、期末レポート (60%) により、総合的に評価します。積極的に授業に参画されることを求めます。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process report (60%) and in-class contribution(40%).



PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

生涯発達心理学 I

展開科目

廣川 進

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水1/Wed.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間は生(誕生)から死に至るまでどのように発達し変化するのか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。前期は生(誕生)から青年期までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題や発達障害が発生するかについても研究する。

【到達目標】

人間の生から死に至る発達とその変化、特性の理解を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

前期と後期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解するために、講義中心の授業を進めます。授業の形式でオンラインにはオンデマンドも含まれます。授業の形式については、授業の初回で説明するが、HOPPIIで毎回確認すること。

前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、フィードバックを行い、双方向型の授業を心がける。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理学より見た人間の発達とは何か	人間の生から死にいたる人間の発達を概観する
第2回	発達段階と発達課題について考える	人間の発達段階とその発達課題について学ぶ
第3回	人間の発達特性-遺伝と環境問題	人間の発達を左右する遺伝的な要因と環境的な要因について学ぶ
第4回	新生児・乳児期の発達とその発達特性	誕生から約1歳半までの乳幼児の発達特性について学ぶ
第5回	幼児期の発達とその発達特性	前期幼児期の2歳～3歳の子どもの発達特性について学ぶ
第6回	幼児期の発達とその発達特性	後期幼児期の4歳～5歳の子どもの発達特性について学ぶ
第7回	児童期の発達とその発達特性	前期児童期の小学校低学年の子どもの発達特性について学ぶ
第8回	児童期の発達とその発達特性	後期児童期の小学校高学年の子どもの発達特性について学ぶ
第9回	思春期の発達とその発達特性	中学生の子どもの発達特性について学ぶ
第10回	思春期の発達とその発達課題	高校生の子どもの発達特性について学ぶ
第11回	青年期の発達とその発達課題	大学生の発達特性とその発達課題について学ぶ

第12回	青年期の発達とその発達課題	大学生から成人期への移行期の特性について学ぶ
第13回	発達課題とキャリア発達	児童期から青年期に至る発達とキャリア発達、キャリア教育について学ぶ
第14回	発達課題とキャリア発達	児童期から青年期に至るキャリア発達、キャリア教育について学ぶ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要な資料をその都度授業の中で配布したり、参考文献を紹介します。授業の中で、参考文献と一緒に読み内容を整理・まとめることを行います。

【参考書】

「生涯発達の心理学」岩波新書など

【成績評価の方法と基準】

授業の中での提出課題、レポートの提出(50%)、最終試験(50%)の両面から、総合して評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

映像教材を効果的に使用する

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

人間の誕生から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今日まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、それと並行してキャリア発達についてさらに理解を深めてください。

【授業中に求められる学習活動】

A,B,C,D,E

【Outline (in English)】

We will study how human beings develop and change from birth to death, the developmental tasks along each human developmental stage, and their developmental characteristics from a psychological perspective. At the same time, by studying human development from the perspective of career development, we will also study how career development changes and develops throughout a person's life. The first semester focuses on development from birth to adolescence, studying each developmental task and what developmental problems and developmental disorders may occur when developmental tasks cannot be accomplished.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Understand human development from life to death, its changes and characteristics.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

The standard preparation and review time for this class, which introduces references, is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Evaluation will be based on both in-class assignments and reports (50%) and a final exam (50%), and will be based on a comprehensive evaluation.

【授業の進め方と方法】

Throughout the first and second semesters, lecture-based classes will be conducted to understand the path of human development and the developmental characteristics and developmental issues at each developmental stage. At the beginning of class, take some feedback from students and say some comments.

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川 進

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間は生(誕生)から死に至るまでどのように発達し変化するのか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

学生がその青年期から死にいたるまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第2回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル(心理社会的発達)理論やモロトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第3回	思春期青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、プロスの分離個体化などを学ぶ
第4回	ひきこもりについて	ひきこもりの実態をデータから把握し、事例からその要因についてさまざまな観点から検討する
第5回	精神分析と心理テスト	心理テスト エゴグラムを自らやって自己理解を深める
第6回	男性の発達、父性の観点	「鬼滅の刃」から父性について考える
第7回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』(村上龍)から中年危機が家族全員にあたる影響、崩壊から再生について考える
第8回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成/関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ

第9回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第10回	成人期の発達とキャリア発達 初期～中期キャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第11回	中年、老年期の発達とキャリア発達 生涯キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第12回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第13回	人間の死とその心理学的特性 死の意味	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第14回	ストレスマネジメント	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

関連図書の手配、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】

- ・発達心理学入門Ⅰ(乳児・幼児・児童) 無藤隆編 東京大学出版会
- ・発達心理学入門Ⅱ(青年・成人・老人) 無藤隆編 東京大学出版会
- ・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む(愛甲修子) 言視舎
- ・父滅の刃～消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析～(樺沢紫苑) みらいパブリッシング
- ・エヴァンゲリオンの心理学 (樺沢紫苑)
- ・〈ほんとうの自分〉のつくり方 (榎本博明) 講談社現代新書
- ・私とは何か 個人から分人へ(平野啓一郎) 講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート(60%)  
期末レポート(40%)

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合は、ZOOM形式の授業を受講できる環境、端末

【その他の重要事項】

青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今日まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth.

We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), late adulthood(65-) in the fall semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved. Students will be able to reflect on their own relationships with themselves, their families, and others from a developmental perspective.

By doing so, Students themselves can do growth and development. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**臨床教育相談論 I**

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

教育相談をおこなう上で必要となる基本的な知識、児童生徒理解の手法を学ぶ。また、教育現場における問題、課題について理解を深め、現場での教育相談のあり方について考える。

**【到達目標】**

- (1) 教育相談をおこなう上で必要な基本的知識を習得する。
- (2) 教育相談をおこなう上で基盤となる児童生徒理解の手法を習得する。
- (3) 教育現場における問題・課題について理解し、主体的に考える。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	人間の発達と課題① ：乳幼児期から児童期	乳幼児期・児童期の発達と課題について学ぶ。
3	人間の発達と課題② ：青年期から成人期以降	青年期から成人期以降の発達と課題について学ぶ。
4	教育相談とは何か	教育相談の対象、位置づけ、目的について学ぶ。
5	教育相談における児童生徒理解の手法① ：心理学的理解と現象学的理解	教育相談の現場で用いられる心理学的手法・現象学的手法について学ぶ。
6	教育相談における児童生徒理解の手法② ：人間学的理解	教育相談の現場で用いられる人間学的理解の方法について学ぶ。
7	教育相談における児童生徒とのコミュニケーション	教育相談の現場でのコミュニケーションについて、心理学的立場・現象学的立場について学ぶ。
8	教育現場の諸問題と教育相談①：発達障害の理解	教育相談の臨床で必要となる発達障害についての基礎的知識を身に着ける。
9	教育現場の諸問題と教育相談②：発達障害の児童生徒の現状	教育現場における発達障害の児童生徒の現状を理解する。
10	教育現場の諸問題と教育相談③：不登校の児童生徒の現状	教育現場における不登校の児童生徒の現状を理解する。
11	教育現場の諸問題と教育相談④：メンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状	教育現場におけるメンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状を理解する。

12	教育現場の諸問題と教育相談⑤：いじめ問題	教育現場におけるいじめ問題について理解する。
13	教育相談における連携の重要性：児童虐待、家庭の諸問題、保護者との連携	家庭の諸問題、児童虐待などについて学び、教育相談において重要となる保護者との連携について考える。
14	まとめ・振り返り：教育相談のあり方について	13回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前学習 (2時間) として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習 (2時間) として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

**【テキスト (教科書)】**

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

**【参考書】**

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>  
厚生労働省HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>  
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト (40%)、期末レポート (50%)、平常点 (10%) とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の皆さんからの質問について、対面授業の際に出席票に記入していただき、全体にとって有意義な質問の場合には、次回の授業の冒頭で回答・説明を行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておください。

**【その他の重要事項】**

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】** This course deals with the basic knowledge and methods of understanding students that are necessary for educational consultation.

The aim of this course is understanding of problems and issues in the field of education and to think about practical educational consultation.

**【Learning Objectives】** By the end of the course, students should be able to the followings:

-A, To acquire the basic knowledge necessary for providing educational consultation.

-B, To acquire the methods of understanding students which are the basis of educational consultation.

-C, Understand and think independently about problems and issues in the educational field.

**【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

**【Grading Criteria /Policies】** Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実際に現場で教育相談をおこなうことを想定して、実践的な内容を学ぶ。児童生徒、保護者との教育相談において留意すべきことを習得し、教育相談のケーススタディを通して具体的な実践について理解する。

【到達目標】

- (1) 児童生徒理解に基づく教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (2) 保護者との教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (3) ケーススタディを通して教育相談の実践について具体的にイメージし、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	教育相談におけるアセスメントと倫理	教育相談におけるアセスメント、プライバシーの保護、守秘義務について学ぶ。
3	児童生徒理解に基づく教育相談①：児童生徒を「見る」(観察)	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒を「見る」ことについて学ぶ。
4	児童生徒理解に基づく教育相談②：児童生徒との対話	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒との対話について学ぶ。
5	保護者の理解：保護者とはどのような存在か	教育相談の基盤をなす保護者理解について学ぶ。
6	保護者との教育相談：児童生徒の成長のための協働を目指す	教育相談において重要な保護者との協働について学ぶ。
7	学校教育現場における諸問題・課題と教育相談	学校教育現場における教育相談の重要性について学ぶ。
8	特別支援教育の現状：通級指導と教育相談	特別支援教育の現状について、おもに通級指導学級と教育相談の関係について学ぶ。
9	現象学的児童生徒理解と教育相談	教育相談の実践において重要な現象学的児童生徒理解について学ぶ。
10	教育相談のケーススタディ①：不登校の児童生徒の理解と対応	不登校の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。

11	教育相談のケーススタディ②：発達障害の児童生徒の理解と対応	発達障害の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
12	教育相談のケーススタディ③：緘黙傾向の児童生徒の理解と対応	緘黙傾向の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
13	教育相談のケーススタディ④：いじめについての教育相談	いじめに関する教育相談の実践について事例から学ぶ。
14	まとめ・振り返り：教育相談の実践について	13回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前学習 (2時間) として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習 (2時間) として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト (教科書)】

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023年、八千代出版

【参考書】

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>  
厚生労働省HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>  
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト (40%)、期末レポート (50%)、平常点 (10%) とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんからの質問について、対面授業の際に出席票に記入していただき、全体にとって有意義な質問の場合には、次回の授業の冒頭で回答・説明を行います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with practical contents assuming that they actually conduct educational consultation in the field.

The aim of this course is to learn what to keep in mind in educational consultation with students and parents, and to understand specific practices through case studies of educational consultation.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A, To think independently about educational consultation based on understanding children and to acquire an attitude that is useful in practice.

-B, To think independently about educational consultation with parents and acquire an attitude that is useful in practice.

-C, Through case studies, to deepen understanding of the practice of educational consultation by imagining it concretely.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution:  
10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**キャリアカウンセリング I** 展開科目

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

**【到達目標】**

学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は基本的には教室でリアル対面で行います。毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいのか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コロナ禍という変化とキャリア転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第2回	キャリア理論では変化への適応をどう捉えるか	変化対応力からみたクランボルト、ジェラット、シュロスバーク等の理論の紹介
第3回	なぜ今キャリアカウンセリングなのか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第4回	あらためてキャリアカウンセリングとは何か	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア形成支援等の違いについて検討する
第5回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第6回	ゲスト講師	企業の人事部で採用責任者を担当していた経験と事例の紹介

第7回	キャリアアカウンセリングのプロセス	キャリアアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第8回	ゲスト講師	ヤングハローワークでの経験からの事例紹介
第9回	自律型キャリア、嫌われる勇気、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第10回	キャリア自律を阻むもの	キャリア自律の阻害要因について考える
第11回	ゲスト講師	大学のキャリア相談員から大学生に多く見受けられる事例の検討課題を提示しレポートを課す
第12回	ゲスト講師	前回の事例検討課題に対する解説を行う
第13回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する
第14回	まとめ	期末レポートの課題のポイントの説明

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書  
木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会  
平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のレポート (60%)  
期末レポート (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン利用の場合はZOOMが利用できる環境と端末

**【その他の重要事項】**

なし

**【Outline (in English)】**

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- career counseling processes, techniques, and resources
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
- Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.
- Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**キャリアカウンセリングⅡ** 展開科目

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリアカウンセリングⅠでは主にキャリア理論を学び、それを踏まえてキャリアカウンセリングⅡではキャリアカウンセリングの理論を中心に紹介しながら事例検討などの活動を組合せて進める。

**【到達目標】**

- ・キャリアカウンセリングの実際の展開について理解する
- ・カウンセリングの基本の理論について理解する
- ・キャリアカウンセリングが活用されている領域、分野での具体的な事例を知る

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

キャリアカウンセリングⅠで学んだキャリア理論を踏まえて、カウンセリングの理論を紹介しながらキャリアカウンセリングの実際の展開、アプローチの方法について学ぶ。各分野での事例検討、ロールプレイング、グループ討議などの双方向、参加型の学習を通して深い理解を図る。

前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、フィードバックを行い、双方向型の授業を心がける。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較から考える
第2回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリングを進める6つのステップについて学ぶ
第3回	カウンセリングの実際 傾聴 来談者中心療法	キャリアカウンセリングで使える代表的な理論について学ぶ (～第10回) 傾聴、受容、共感を学ぶ
第4回	認知行動療法	認知行動療法について学ぶ
第5回	精神分析	精神分析について学ぶ
第6回	アドラー心理学	承認欲求にとらわれすぎない生き方働き方を学ぶ
第7回	ブリーフセラピー	問題志向/解決志向カウンセリングを学ぶ
第8回	マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括折衷的カウンセリングについて学ぶ
第9回	グループ・アプローチ	グループワークの効果を体験する
第10回	ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチについて実習を交えて学ぶ
第11回	キャリアカウンセリングの活用分野ー学校	キャリアカウンセリングの活用分野について学ぶ (～第14回) 学校での事例検討
第12回	キャリアカウンセリングの活用分野ー企業	企業内での事例検討
第13回	キャリアカウンセリングの活用分野ー就労支援	就労支援機関での事例検討

第14回 キャリアカウンセリングの活用分野ー多様性 (ダイバーシティ) 女性、障害者などのキャリア開発の支援の事例検討

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

興味をもったトピックについては授業で紹介する参考書などを積極的に参照する。

**【テキスト (教科書)】**

授業時にプリントを配布する。

**【参考書】**

「キャリアカウンセリング」宮城まり子 駿河台出版社  
 ・「キャリア・コンサルティング 理論と実際 カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周 社団法人 雇用問題研究会  
 ・「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリングリ理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構 (編) 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

**【成績評価の方法と基準】**

授業中のミニレポート50% 期末レポート50%

**【学生の意見等からの気づき】**

前回のコメントシートに書かれた学生からの感想や質問を授業の冒頭に紹介しながら、双方向型の授業を心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【授業中に求められる学習活動】**

A,B,C,D,E

**【Outline (in English)】**

In Career Counseling I, students will mainly study career theory, and based on this, Career Counseling II will proceed with a combination of activities such as case studies while introducing mainly career counseling theory.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

- ・ Understand the actual development of career counseling
- ・ Understand the basic theories of career counseling
- ・ Understand specific examples of areas and fields where career counseling is utilized

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**

Actively refer to reference books and other materials introduced in class on topics of interest.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】**

In-class mini-report 50%, final report 50%.

**【授業の進め方と方法】**

Based on the career theory learned in Career Counseling I, students will learn how to develop and approach career counseling in practice while being introduced to counseling theories. Students will gain a deep understanding through interactive and participatory learning such as case studies, role-playing, and group discussions in each field.

Keep the class interactive, introducing at the beginning of class any comments or questions from students on the previous comment sheet.

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**キャリアカウンセリングⅢ** 展開科目  
(ケーススタディ)

宮脇 優子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

キャリアカウンセリングの様々な事例(ケース)を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項—その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景、また現在のニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力(技能)や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

**【到達目標】**

- ・キャリアカウンセリングの基礎的事項(その独自性、起源と発展の経緯、社会から求められる理由)について理解できている。
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
  - ①現代の産業組織において働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できている。
  - ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助のあり方・援助方法への理解ができている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・前半(第1回～第5回)のキャリアカウンセリングの基礎的事項については講義を中心として進める。第6回以降のケーススタディ(事例検討)は、講義に加え、個人ワークとグループでの意見交換及びグループ発表をおり交ぜて行う。
- ・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の中で前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、全体共有・質問に対するフィードバックを行う。
- ・第10回の講義内容(心理アセスメント)に関連して、アセスメントツール(キャリア・インサイト)をキャリア情報ルームにて体験していただく(希望者)。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、キャリアカウンセリングとは何か	授業の目的と進め方、成績評価について説明。 カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義と独自性(特徴)について学ぶ。
第2回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリング誕生の背景、発展の経緯、産業組織における発達史を学ぶ。
第3回	働く人を取り巻く社会経済・雇用環境の変化とキャリアカウンセリングの役割①	社会経済・雇用環境の変化、現在に至る経緯を知り、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。
第4回	働く人のメンタルヘルスの現状とキャリアカウンセリングの役割②	働く人のメンタルヘルスの現状を理解し、産業組織におけるキャリアカウンセリングの果たせる役割を理解する。

第5回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力(技能)、要件を学ぶ。
第6回	キャリアカウンセリングの具体的展開とケーススタディ①	キャリアカウンセリングの具体的な進め方(プロセス)を学ぶ。ケースを読み、ケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第7回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学ぶ。若者への就職支援のケースを検討する。
第8回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第9回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状及びキャリア支援のあり方について学ぶ。
第10回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義、心理検査の活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、キャリアカウンセリングにおける効果的な心理検査の活用を学ぶ。
第11回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第12回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦	ストレス、ストレス・コーピングについて学び、職場不適応のケース(管理職編)を検討する。
第13回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧	職場のメンタルヘルス問題への対応、キャリアカウンセリングの組織開発への活用について、ケースを通して学ぶ。
第14回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返りと総括のフィードバックを行う。また、期末レポート作成にあたっての復習ポイントを解説する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

各回講義資料の復習、各回の講義に該当するテキスト部分の予習・復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計4時間以上を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

「働く人へのキャリア支援—働く人の悩みに応える27のヒント」  
宮脇優子編著 金剛出版 2015

**【参考書】**

「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス—基礎知識と実践」  
宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(授業へ参加度及び取り組み姿勢)50%  
期末レポート課題 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業の利点を活かし、グループワークでの意見交換等も取り入れながら、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

**【学生が準備すべき機器他】**

第1回の授業のみオンデマンド授業となります。オリエンテーション・講義資料(パワーポイントPDF)は学習支援システムへの掲載となるため、学習支援システムからの読み取りに情報機器(パソコン、スマートフォン等)が必要になります。

**【その他の重要事項】**

担当教員は、人材採用広告・人事コンサルティング関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての22年の経験で支援してきた人は5,000人を超える。



上記の実務経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人々の様々な心理的問題に焦点を当て、それらに対するキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）の援助の実際について授業の中で紹介しながら進めていきます。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling. The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.

By the end of the course, students should be able to do followings:

– Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.

– Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

## 教育相談

展開科目

田澤 実

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

### 【到達目標】

- ・幼児・児童・生徒の心理的特質や教育的課題を適切に理解する
- ・幼児・児童・生徒の発達の状況を把握しながら教育相談を進めるための基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義とリアクションペーパー提出。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学校における教育相談の意義
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児、児童の心理的特質や教育的課題
第3回	青年期の発達	生徒の心理的特質や教育的課題
第4回	成人期の発達	保護者の心理的特質
第5回	カウンセリングの基礎	カウンセリングにおける基本的態度
第6回	カウンセリングの技法	カウンセリングにおける傾聴、質問技法
第7回	教育相談の進め方	教育相談を進める際に必要な基礎的知識
第8回	非行に関する相談	非行に関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第9回	いじめに関する相談	いじめに関連した教育相談の具体的な進め方やポイント
第10回	不登校に関する相談	不登校に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第11回	虐待に関する相談	虐待に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりに関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第13回	発達障害に関する相談	発達障害に関連した教育相談の具体的な進め方やそのポイント
第14回	外部機関との連携	組織的な取組みや連携

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を設ける回がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

渡部昌平（編著）柴田健・田澤実 2018「実践 教育相談～個人と集団を伸ばす「最強のクラス作り」～」川島書店

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%、試験70%にて評価。  
〔※試験は論述試験を含む（持ち込み不可）〕

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の感想や定期試験の回答傾向を総合的に判断して調整する

### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with foundational knowledge in educational counseling and organizational strategies. By the end of this course, students will be able to: Understand the psychological characteristics and educational challenges infants, toddlers, children, and older students face. Develop critical skills necessary for conducting educational consultations, considering the developmental stages of infants, toddlers, children, and older students.

Regular attendance and completion of tasks assigned after each class session are compulsory. Students should plan to allocate more than four hours of study time per class. The final grade for the course will be based on an examination (70%) and in-class participation (30%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

小峰 秀樹

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：金5/Fri.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、子どもの理解とかかわりの基本的な視点、子どもが現実にかかえる不適応の問題、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解することを旨とする。

**【到達目標】**

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒とのかかわりの基本的な視点を身につける。
- ・現代社会で子どもがかかえる問題について理解を深め、そのアセスメントやカウンセリングの方法を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし、リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	子どもの発達	古典的な発達理論を学んだ上で、子どもの対人関係の発達について説明する。
第3回	不適応の子どもの理解とかかわり	発達段階ごとの不適応とつまずきを理解し、子どもとのかかわりを考える。
第4回	ストレス	ストレス理論やそのコーピングストラテジー (対処方略) について説明する。
第5回	精神障害	不安障害やうつ病、統合失調症、摂食障害について説明する。
第6回	発達障がい	自閉症スペクトラムやADHD、LDについて説明する。
第7回	不登校	不登校の子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第8回	いじめ	いじめをする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第9回	暴力行為	暴力行為をする／される子どもを理解するため、その背景や支援について説明する。
第10回	子ども虐待	子ども虐待を受ける子どもやしてしまう親を理解するため、その背景や支援について説明する。
第11回	心理教育的アセスメント	見る・聴く・測るという3つのアセスメント方法について説明する。

第12回	カウンセリングの理論	精神分析療法や行動療法、クライエント中心療法といった、カウンセリングの基本的な理論について説明する。
第13回	カウンセリングの実践	教育機関におけるカウンセリングの方法について説明する。
第14回	外部機関との連携	教員同士だけではなく、保護者や関係機関との連携の重要性とその方法について説明する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

【準備学習】 次回の授業内容について、テキスト該当箇所を一読し、配布資料の穴埋めをする。

【復習】 レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業内での指示に従うこと。

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト50%、平常点 (リアクションペーパーの提出とその質を含む) 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度に引き続き、復習のため資料の掲示期間を長くしてほしいという要望に応え、配布資料の掲示は授業期間終了までとする予定である。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】** The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

**【到達目標 (Learning Objectives)】** The goal of this course is to understand the development of children to learn how to deal with their problems.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】** Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】** Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識 (カウンセリングに関する基礎的事柄等)
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

**【到達目標】**

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要 (授業の進め方、目標、授業時間内の学習など)、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。

第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・第1回「ガイダンス」  
事前学習 (2時間) シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。  
事後学習 (2時間) 授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
- ・第2回「幼児期、児童期の発達」  
事前学習 (2時間) 児童期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第3回「青年期の発達」  
事前学習 (2時間) 青年期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第4回「成人期の発達」  
事前学習 (2時間) 成人期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第5回「カウンセリングの基礎」  
事前学習 (2時間) カウンセリングについて、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
- ・第6回「カウンセリングの技法」  
事前学習 (2時間) カウンセリングの技法について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
- ・第7回「教育相談の進め方」  
事前学習 (2時間) 教育相談の進め方について、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
- ・第8回「非行に関する相談」  
事前学習 (2時間) 非行の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」(Web閲覧可)で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第9回「いじめに関する相談」  
事前学習 (2時間) いじめの現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第10回「不登校に関する相談」

事前学習（2時間）不登校の現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第11回「発達障害に関する相談」

事前学習（2時間）発達障害について、教科書、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第12回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第13回「虐待に関する相談」

事前学習（2時間）虐待の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第14回「外部機関との連携」

事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

#### 【テキスト（教科書）】

『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）

#### 【参考書】

『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省HP「発達障害の理解のために」 <https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」 <https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とする。  
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

#### 【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

山上 真貴子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識 (カウンセリングに関する基礎的事柄等)
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

**【到達目標】**

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。レポート課題については、授業または「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育相談の進め方	一般的な教育相談の進め方について概説する。
第2回	幼児期、児童期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第3回	青年期の発達	この時期の発達について知るとともに、この時期に生じやすい教育相談の案件について考える。
第4回	成人期の発達	小中高を過ぎれば教育相談の範囲外？ 一人はある日突然大人になるわけではない
第5回	不登校に関する相談	不登校の現状について解説し、事例を用いて不登校に関する相談について考える。
第6回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状について解説し、事例を用いて引きこもりに関する相談について考える。
第7回	いじめに関する相談	いじめの現状について解説し、事例を用いていじめに関する相談について考える。
第8回	非行に関する相談	非行の現状について解説し、事例を用いて非行に関する相談について考える。
第9回	虐待に関する相談	虐待の現状について解説し、事例を用いて虐待に関する相談について考える。
第10回	発達障害に関する相談	発達障害の現状について解説し、事例を用いて発達障害に関する相談について考える。
第11回	カウンセリングの基礎	スクールカウンセラーって何をする人？
第12回	カウンセリングの技法	さまざまなカウンセリングの技法を紹介する。

第13回 外部機関との連携 どんな機関と、どう連携すれば

良いか、事例を用いて考える。

第14回 まとめと解説

後期を振り返りまとめを行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

興味を持ったトピックについて、授業内で紹介する文献を含めた関連書を積極的に参照すること。授業で紹介する各事例については、授業後に再度熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。ただし、希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

**【参考書】**

春日井敏之ら (編) 2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

**【成績評価の方法と基準】**

授業に対する理解をもとに関連する文献を読み、考察を行う中間レポート (30%)、期末レポート (30%)、および、各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点 (40%) で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。何かあった時には、早目の報連相を心がけましょう (学期末に相談されても対応できない場合があります！)。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思しますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

**【Outline (in English)】**

COURSE OUTLINE: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

**LEARNING OBJECTIVES:**

1. Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling.
2. Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.
3. Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

**LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM:** Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.

**GRADING CRITERIA/POLICY:** Grading will be decided based on mid-term paper(30%), term paper(30%), and usual performance score(40%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄等)を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携における基本的な考え方を理解することを旨とする。

**【到達目標】**

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切にしながら授業を行います。講義の他、文献講読、グループセッション、授業内での発表などを取り入れて、主体的に学ぶことができるようにします。

オンデマンド教材(動画、資料)の提供を行います。

・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

・第1回授業については「hoppiiのお知らせ」で連絡します。

**1.【教育相談の意義及び理論】(第1回～第4回)**

・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念

**2.【教育相談の方法】(第5回～第6回)**

・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識

**3.【教育相談の展開】(第7回～第14回)**

・幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取組み並びに連携

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第3回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第4回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第5回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第6回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。

第7回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第8回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第9回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第10回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第11回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第13回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第14回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要がある場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.**

**【テキスト(教科書)】**

テキストは指定せず、必要に応じて、文献の紹介や資料の提供を行います。

**【参考書】**

「教育相談の理論と方法」 会沢信彦編著 北樹出版  
文部科学省 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(最新版)

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーや課題(70%)、まとめのレポート(30%)を総合して成績評価を出します。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生のリアクションペーパーに、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続したいと考えています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

**【その他の重要事項】**

授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling

Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.

Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective papers and questions: 70%, Term-end report : 30%



PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育相談**

展開科目

土屋 弥生

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識 (カウンセリングに関する基礎的事柄等)
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

**【到達目標】**

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要 (授業の進め方、目標、授業時間内の学習など)、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。

第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・第1回「ガイダンス」  
事前学習 (2時間) シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。  
事後学習 (2時間) 授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
- ・第2回「幼児期、児童期の発達」  
事前学習 (2時間) 児童期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第3回「青年期の発達」  
事前学習 (2時間) 青年期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第4回「成人期の発達」  
事前学習 (2時間) 成人期の心理、発達について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
- ・第5回「カウンセリングの基礎」  
事前学習 (2時間) カウンセリングについて、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
- ・第6回「カウンセリングの技法」  
事前学習 (2時間) カウンセリングの技法について教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
- ・第7回「教育相談の進め方」  
事前学習 (2時間) 教育相談の進め方について、教科書、参考書、関連書籍等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
- ・第8回「非行に関する相談」  
事前学習 (2時間) 非行の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」(Web閲覧可)で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第9回「いじめに関する相談」  
事前学習 (2時間) いじめの現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。  
事後学習 (2時間) 授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
- ・第10回「不登校に関する相談」

事前学習（2時間）不登校の現状について、教科書、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第11回「発達障害に関する相談」

事前学習（2時間）発達障害について、教科書、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第12回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第13回「虐待に関する相談」

事前学習（2時間）虐待の現状について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第14回「外部機関との連携」

事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、教科書、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

#### 【テキスト（教科書）】

『教師を目指す人たちのための生徒指導・教育相談』望月由起、劉麗鳳編著（学事出版）

#### 【参考書】

『教師と保護者のための子ども理解の現象学』土屋弥生著（八千代出版）

文部科学省HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省HP「発達障害の理解のために」 <https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」 <https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%）、期末レポート（50%）、平常点（10%）とする。  
小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等はPDFで学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

#### 【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

**【到達目標】**

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・ 対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切に授業を行います。
- 講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができるようにします。
- オンデマンド教材の提供を行います。
- ・ 授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・ 第1回授業については「hoppiiのお知らせ」で連絡します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が14回の授業で学ぶことを確認します。
第2回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第3回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりの違いや、学校教育について考えます。
第5回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第6回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第7回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。

第8回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第9回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第10回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第11回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第12回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介します。さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第13回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第14回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.**

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

**【参考書】**

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣 2100円+税  
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(最新版)

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーや課題(70%)、まとめのレポート(30%)を総合して成績評価を出します。

**Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective papers and questions: 70%, Term-end report : 30%**

**【学生の意見等からの気づき】**

これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

**【その他の重要事項】**

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Before each class meeting, students will be expected to have read books or documents. After each class meeting, students will be expected to have review worksheet. It takes 4 hours.

Grading will be decided on short reports that students will submit each class meeting(70%)、 and term-end report(30%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

展開科目

軽部 雄輝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、子どもの健全な成長と発達、および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には、下記に関するトピックについて扱う。

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価のあり方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

**【到達目標】**

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

基本的には講義形式で行うが、適宜グループディスカッションを取り入れる。

対面授業回では、点呼による出席確認を行うとともに、授業の最後に簡単な課題を提示する。当該課題は google form 等を用いて、授業内に教場で回答することを求める。

オンライン授業回では、オンデマンド形式を採用する。出席は、期日までに動画の視聴と提示された課題への回答 (google form 等を採用する予定) をもってカウントする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第2回	教育心理学の研究法	教育心理学の分野で頻繁に用いられる研究の手法について、理解する。
第3回	発達の過程	乳幼児期から青年期における様々な発達について理解する。
第4回	学習のメカニズム	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第5回	記憶の種類と方略	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第6回	問題解決の理論と方法	問題解決についての様々な理論や方法を理解する。
第7回	知能の発達ととらえ方	知的活動を支える知能の発達ととらえ方について理解する。
第8回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第9回	自己と対人関係	自己の発達とそれに伴う対人関係の展開について、理解する。
第10回	学級集団の特徴と機能	学級集団の特徴と教師が与える影響について、理解する。

第11回	学校不適応の理解	ストレスのメカニズムと学校不適応の状態像について、理解する。
第12回	発達障害の理解	発達障害の定義や種類を理解し、特性を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。
第13回	学習指導と教育評価	学習指導のあり方と教育評価の方法について、理解する。
第14回	まとめ・到達度の確認	これまでの内容のまとめと到達度を確認する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業で学んだ内容に関するレポートまたは演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教員が適宜指定する。

**【参考書】**

- 櫻井茂男 (監修) 黒田祐二 (編著) 2012 『実践につながる教育心理学』 北樹出版
- 櫻井茂男 (編) 2017 『改訂版たのしく学べる最新教育学—教職に関わるすべての人に—心理学』 図書文化
- 吉川成司・関田和彦・鈎治雄 (編著) 2010 『はじめて学ぶ教育心理学』 ミネルヴァ書房
- 子安増生ら 2015 『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』 有斐閣
- 文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(最新版)

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験 (60%)、授業への積極的参加 (40%) で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業回では、授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ、受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

対面授業回では、プロジェクターを利用し、教員はパワーポイントを用いて説明する。授業の最後に提示する課題については、web媒体を通じての回答を求めるため、PC等の電子端末を持参してください。

**【その他の重要事項】**

担当者は、適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して、本授業では理論のみならず、可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

展開科目

児玉 佳一

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。

授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎
- ・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

**【到達目標】**

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし、リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第2回	発達や学習を学ぶということ	本授業の導入を行い、本授業で学ぶ目的を明確にする
第3回	運動・言語の発達	子どもの身体や、言語の発達過程について説明する
第4回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第5回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第6回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する
第7回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第8回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第9回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第10回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて、どのような学習指導を行うことが適切か説明し、考える
第11回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すために、教師がどのような介入をすれば良いか考える

第12回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師、子どもたちがどのような関係性を形成し、それが子どもにどのような影響を与えるのか説明する
第13回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期、評価者をどう検討するかを説明する
第14回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

[準備学習] 次回の授業内容について、教科書・参考書該当箇所を一読し、事前配布資料を精読する。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

児玉佳一 (編著) (2019) やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社 (2300円+税)

**【参考書】**

鎌原雅彦・竹鋼誠一郎 (2019) やさしい教育心理学 [第5版] 有斐閣 (2090円)

櫻井茂男 (監修) 黒田祐二 (編) (2018) 実践につながる教育心理学 北樹出版 (2200円)

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト50%、平常点 (リアクションペーパーの提出とその質を含む) 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度に引き続き、資料の掲示は授業終了時まで継続し、いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

**【Outline (in English)】**

Course outline

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

Learning Objectives

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

展開科目

山上 真貴子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・ 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・ 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・ 主体的な学習活動を支える指導の基礎

**【到達目標】**

- ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・ 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は原則として、穴埋めプリントを用いた講義形式で行い、適宜視聴覚教材を使用する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。レポート課題については、授業または「学習支援システム」にて全体講評をフィードバックする予定である。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育における発達理解の意義	発達に応じた学びについて考える。
第2回	認知の発達	学びの背後にある認知発達について考える。
第3回	対人関係の発達	学びを支える家族・仲間・教師との人間関係を考える。
第4回	アイデンティティ	学びと深くつながる自己・アイデンティティについて考える。
第5回	記憶の種類	記憶の仕組みについて知り、学びについての理解を深める。
第6回	学習の理論	学習についてのさまざまな心理学の理論を紹介する。
第7回	学習の指導	理論をもとに、教える方法・学ぶ方法について考える。
第8回	動機づけ	学びを支える「やる気」について考える。
第9回	学習の評価	学びをうながす教育評価について考える。
第10回	性格の理解	学びの中で生じる個人差をはじめとし、さまざまな性格のとらえ方について理解する。
第11回	性格の様々な測定方法	性格は測れるのか。さまざまな測定法から性格に迫る。
第12回	発達障害の理解	近年注目の集まる発達障害とはどんなものかを概説する。
第13回	発達障害の支援・指導	発達障害の具体的な支援・指導とは何かを考える。
第14回	試験・まとめと解説	後期を振り返りまとめを行う。試験も同日に実施する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

興味を持ったトピックについて、積極的に文献を参照し、理解を深めてください。また、授業ごとに出席されるまとめの問題について復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。ただし、希望者には、授業当日に同一内容の印刷資料を配布します。

**【参考書】**

鎌原雅彦ら 2019『やさしい教育心理学 第5版』有斐閣アルマ  
子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣  
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(最新版)

**【成績評価の方法と基準】**

各回のリアクションペーパーの提出および小テストへの解答等をもとにした平常点 (40%)、授業に対する理解をもとに関連する文献を読み、考察を行う期末レポート (30%)、および、小テストの問題から出題する期末テスト (30%) によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回のリアクションペーパーに、その授業での疑問点や感想等を書いていただきます。多かった質問や、授業の進行に関わるコメントについては、極力授業でフィードバックを行います。何かあった時には、早めの報連相を心がけましょう (学期末に相談されても対応できない場合があります! )。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに授業資料をアップします。今後学習支援システム経由でお知らせ発信をすることも多いかと思しますので、このシステムの使い方に慣れておくようにして下さい。

**【Outline (in English)】**

**COURSE OUTLINE:** The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

**LEARNING OBJECTIVES:** The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

**LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM:** Students will be expected to have completed the required assignments after each class meetings. Your study time will be more than four hours for a class.

**GRADING CRITERIA/POLICY:** Grading will be decided based on term paper(30%), term-end examination(30%), and usual performance score(40%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土1/Sat.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

**【到達目標】**

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・対面でもオンラインでも、対話や双方向のやり取りを大切に授業を行います。
- 講義の他、文献講読、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学ぶことができるようにします。
- オンデマンド教材の提供を行います。
- ・授業の始めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・第1回授業については「hoppiiのお知らせ」で連絡します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が14回の授業で学ぶことを確認します。
第2回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第3回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第4回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりや、学校教育について考えます。
第5回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第6回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第7回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。

第8回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第9回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第10回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第11回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第12回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介し、さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。
第13回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第14回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

課題などは授業日に完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートなどを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.**

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定せず、必要に応じて、参考文献の紹介や資料の提供を行います。

**【参考書】**

子安増生ら 2015『教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6)』有斐閣 2100円+税  
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(最新版)

**【成績評価の方法と基準】**

リアクションペーパーや課題(70%)、まとめのレポート(30%)を総合して成績評価を出します。

**Your overall grade in the class will be decided based on the following reflective papers and questions: 70%, Term-end report : 30%**

**【学生の意見等からの気づき】**

これまでの授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

**【その他の重要事項】**

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で学校現場の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.



It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Before each class meeting, students will be expected to have read books or documents. After each class meeting, students will be expected to have review worksheet. It takes 4hours.

Grading will be decided on short reports that students will submit each class meeting(70%)、 and term-end report(30%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

**教育心理学**

展開科目

児玉 佳一

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では教育心理学を学ぶことで、人が学ぶときに心の中で起きていることを学ぶと同時に、その知識をもとに教育に関わる諸問題を考える力を養う。

授業内で扱う主なトピックは以下である。

- ・乳幼児期から青年期の各時期における認知発達や社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎
- ・教育場面で直面し得る現代的課題に関する心理学的検討

**【到達目標】**

- ・乳幼児や児童、および生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
- ・乳幼児や児童、および生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
- ・現代社会で生じる問題について理解を深め、自分なりに考える力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本授業は主に対面での講義である。毎回授業の出席及びリアクションペーパーの提出を課題とし、リアクションペーパーについては次週フィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する
第2回	発達や学習を学ぶということ	本授業の導入を行い、本授業で学ぶ目的を明確にする
第3回	運動・言語の発達	子どもの身体や、言語の発達過程について説明する
第4回	認知の発達	子どもが物事を覚えたり理解する発達過程について説明する
第5回	自我の発達	「自分とは何か」を獲得する過程について説明する
第6回	社会性の発達	アタッチメントを基盤とした共感性など社会性の発達について説明する
第7回	動機づけ	動機づけ理論について説明し、意欲を高めるにはどうすれば良いか考える
第8回	知識の獲得	子どもが知識を獲得するメカニズムについて説明する
第9回	学習の過程	学習のメカニズムについて説明する
第10回	学習指導の形態	教育目的や方法に応じて、どのような学習指導を行うことが適切か説明し、考える
第11回	学習活動を支える指導	子どもの学習を促すために、教師がどのような介入をすれば良いか考える

第12回	学級集団づくり	学級やそこにいる教師、子どもたちがどのような関係性を形成し、それが子どもにどのような影響を与えるのか説明する
第13回	学習に対する評価	教育目的や方法に応じた学習評価の観点や時期、評価者をどう検討するかを説明する
第14回	子どものニーズに応じた教育	発達障がいの特徴や支援について説明する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

[準備学習] 次回の授業内容について、教科書・参考書該当箇所を一読し、事前配布資料を精読する。

[復習] レジュメを参照しながら、学んだ概念、それに関連する先行研究を調べてみたりして理解を深める。

本授業の準備学習および復習時間は合計4時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

児玉佳一 (編著) (2019) やさしく学ぶ教職課程：教育心理学 学文社 (2300円+税)

**【参考書】**

鎌原雅彦・竹鋼誠一郎 (2019) やさしい教育心理学 [第5版] 有斐閣 (2090円)

櫻井茂男 (監修) 黒田祐二 (編) (2018) 実践につながる教育心理学 北樹出版 (2200円)

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト50%、平常点 (リアクションペーパーの提出とその質を含む) 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度に引き続き、資料の掲示は授業終了時まで継続し、いつでも再度ダウンロードして復習可能にしておくこととする。

**【Outline (in English)】**

Course outline

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

Learning Objectives

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria

Grading will be decided based on term-end test (50%), short reports in every class (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**学校論 I (キャリア形成)** 展開科目

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の間としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

**【到達目標】**

- ・キャリアを形成する場、仕事の間としての学校についての基礎的な知識を得ることができる。
- ・自分自身の学校体験を振り返ることができる。
- ・理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

学校というものをキャリア形成の場及び仕事の間という2つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についてのレジュメ、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。授業のなかで課題についての記述をいくつか取り上げフィードバックを行う。なお、授業は対面で実施し、学習支援システムを活用する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの間としての学校
3	ライフコースと学校 (1)就学前	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校 (2)小学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校 (3)中学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校 (4)高等学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校 (1)多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校 (2)グローバル化	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校 (3)不登校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校 (4)問題行動	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、テーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

文献、資料などは指定または配布する。

**【参考書】**

文部科学省「学習指導要領」。  
 荻谷恒彦『学校って何だろう－教育の社会学入門』ちくま文庫、2005年。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への主体的な参加の姿勢 (30%)、課題 (50%)、テスト (20%) をもとに総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

話し合いの問いや発表の進め方について工夫する。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

Students are able to acquire basic knowledge of a school as a place for career formation and as occupation, reflect their own school experiences, and write a proposal of an ideal school effectively.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**

Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】**

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

学校論Ⅱ (キャリア形成) 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響力は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。

それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。

実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようになることを目指す。

以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義科目であるが、毎回グループワークがある。グループワークに参加することを単位履修の必要条件とする。またグループワークのために事前に講読課題を課すことがある。

毎回、授業後に課題 (リアクションペーパー) を提出してもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
2	〈学校に入ることをめぐって〉①オランダ「自由な教育」のしくみ	子どもの幸福度が世界1の国はオランダという調査結果があります。この事例をとおして、外国との比較から日本の教育を考える力を身につけ、と同時に、学校を社会の中に位置づけて考える必要性を考えます。
3	〈学校に入ることをめぐって〉②中学受験の功罪	現在日本では地域によっては4人に1人が中学受験をします。中学受験がもつ機能や、人のキャリアに与える影響から、その功罪を考えます。
4	〈学校に入ることをめぐって〉③「地元化」の時代の地方と都市の違い	地元化の時代といわれ、若者の移動が減っている社会の中で、地方と都市部では、学校の選択肢の数に大きな違いがあります。地方と都市部でのキャリア形成の違いを考えます。

5 〈学校に入ることをめぐって〉④修学支援制度は十分か？ 近年、子育て・教育費用の公費増大の目玉として現在大学でも「修学支援制度」が実施されています。こうした支援は経済格差がキャリア形成にもたらす悪影響を本当に小さくできているのかを考えます。

6 〈学校に入ることをめぐって〉⑤ヤングケアラーからはく奪されるもの 幼いころから家族のケアに時間を割き学校に十分に通えない子どもたち。彼らのキャリア形成の困難のもとを考えます。

7 学校の中で身につけるもの) ①ステレオタイプ・偏見 学校の中ではヒドゥンカリキュラムとして様々なものが機能しています。学校に通っているうちに無意識のうちに身につけるステレオタイプや偏見を再検討します。

8 〈学校の中で身につけるもの) ②日本の障害児教育に対する世界的批判 日本の障害児教育は世界のトレンドとはかなり異なるものになっています。その実態やプロセス、世界からの見方を学び、共生社会の中でのキャリア形成について考えます。

9 〈学校の中で身につけるもの) ③道徳心は学校で涵養されるか？ 日本の学校教育は「道徳」という科目設定があり、世界的に見てこれは珍しいことです。道徳の授業は本当に人々の道徳心を涵養するのか、具体的なケースに沿って考えます。

10 〈学校の中で身につけるもの) ④能力主義は平等か？ 学校教育では「能力」を育むスタンスと「能力以外」とを重視するスタンスとが混ざっています。能力で人を評価することは本当に妥当なのか、具体的に検討していきます。

11 〈学校から出ていくときの課題) ①「学歴」「労働市場にのること」 「日本は学歴社会」という一般論は正しいでしょうか。学歴は人のキャリアにどのような影響をしているのでしょうか。日本の学歴社会の特徴を捉え、学歴がキャリアに及ぼす影響を検討します。

12 〈学校から出ていくときの課題) ②卒業時の能力保証と文系学部批判 国立大学文系学部廃止論争をきっかけに、文系学部の役割について議論されるようになりました。文系学部で学ぶことの意味とは？ キャリアデザイン学部の授業を通して身につける学びをもとに考えます。

13 〈学校から出ていくときの課題) ③「良い子」的な価値観からの脱却の困難 社会に出ると学校とは異なる価値観に沿って生きていくことが求められます。学校的な「良い子」価値観の功罪を考え、そこから脱却していくために必要な教育を考えます。

14 総括・ふりかえり 本講義で考えたことを整理し、理解度を確認します。初回の授業で検討した「学校の機能」は、12回のケーススタディを通してどう変わったのか考えます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

大塚類・遠藤野ゆり共編著 (2014) 『エピソード教育臨床 生きづらさを描く』創元社  
その他は適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業におけるグループワークの成果36%、事後課題26、期末試験48%

**【学生の意見等からの気づき】**

事後課題はHoppiiを利用してほしいという要望がありましたので、Hoppiiを用いることにします。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンを持参してください。

大学のGoogleアカウントにサインインできるようにしておいてください。

**【その他の重要事項】**

受講生の興味関心に応じて授業のテーマは変更する可能性があります。

**【Outline (in English)】**

Course outline : As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

Learning Objectives : Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.

earning activities outside of classroom :

You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Group work results in class: 36%, post-work assignments: 26%, final exam: 48%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

学校論Ⅲ (キャリア教育) 展開科目

福島 創太

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本におけるキャリア教育の現状、課題および可能性

【到達目標】

- ①キャリア教育とはなにか、なぜキャリア教育が必要なのか、その教育方法はいかにあるべきか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
- ②日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯、そして特に、経済界からの要望や学校外部との連携といった側面から今日のキャリア教育の状況を知るとともに、現状における問題点や課題、そして可能性についてを適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業であるが、可能な範囲で受講者同士のグループワーク、質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。特に、昨今の社会、経済的な状況の変化を鑑み、経済界および政治、社会からの要請や連携といった観点から現在のキャリア教育を概観し、批判的に捉えたいうで、今後求められるキャリア教育を構想することを通して、その本質を検討する。提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、次の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
第2回	キャリア教育の現状	様々な事例を手掛かりにして、現在行われているキャリア教育を概観するとともに、社会状況との密接な関連について解説する。
第3回	キャリア教育の起源および歴史	キャリア教育の歴史を概観しながらその変遷を確認するとともに、その展開にはどういった力学が働いてきたのかを確認する。
第4回	職業指導と進路指導とキャリア教育	職業指導・進路指導それぞれの変遷、特徴を確認しながら、それらとの対比からキャリア教育の機能や意義を確認する。
第5回	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかかわって、権利としてのキャリア教育について解説する。
第6回	就職活動 (就職市場) とキャリア教育	主に大卒就職活動、就職市場のこれまでの変遷や現状を確認しながら、キャリア教育の意義や役割について確認する。

第7回	キャリア教育の背景としての経済界	キャリア教育に対する経済界からの具体的な要望や連携を手掛かりに、キャリア教育の在り方に影響を及ぼす経済界からの力学を確認する。
第8回	キャリア教育の背景としての政治	キャリア教育に関する政策や行政文書を手掛かりに、キャリア教育の在り方に影響を及ぼす政治からの力学を確認する。
第9回	多様なキャリア (選択) とキャリア教育	NPOや起業、若年転職等々、現代社会におけるキャリアの多様性を確認したうえで、キャリア教育の課題と可能性を検討する。
第10回	職業体験・インターンとキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
第11回	外部連携とキャリア教育①	外部 (主に企業やNPO) と学校が連携するキャリア教育の事例などを紹介しながら、その課題と可能性を検討する。
第12回	外部連携とキャリア教育②	外部と連携したキャリア教育を学校側の目線からとらえ、その課題と可能性を検討する。
第13回	これからの社会の探索	これからの社会に次世代を送り出す営みであるキャリア教育の未来を探究すべく、社会のいまとこれからの変化について検討する。
第14回	まとめと試験	キャリア教育が行われる背景、力学と、社会のこれからのについて確認してここまでをまとめるとともに、試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたいうで、授業にのぞむこと。それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店  
 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター  
 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書  
 児美川孝一郎『キャリア教育がわかる一実践をデザインするための〈基礎・基本〉』誠信書房  
 福島創太『ゆとり世代はなぜ転職をくり返すのか?: キャリア思考と自己責任の罫』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)  
 レポート提出 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

授業によって学習支援システムを用いたインタラクティブな授業中に行うため、PCやタブレット、スマホなどそれが可能な準備が必要となる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題と今日の就職市場に関する情報共有を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the current status, challenges, and potential of career education in Japan. By the end of the course, students should be able to do the followings:

-to understand fundamental concepts and approaches such as the purpose of career education and educational methods.

-to understand the history and current state of career education, as well as its challenges, issues, and potential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

学校論Ⅳ (キャリア教育) 展開科目

池田 佳代

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の社会的事業 (社会課題を積極的に解決しようとする取り組み) の担い手は、行政・企業そして市民という3つのセクターに分類でき、各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによってつながり合うことで、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態がある。それは、市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みでもある。そこで、本授業では、地域福祉、環境、平和などの分野で活動する市民セクターを対象に、その成果や課題について座学や体験を通して学び、それら活動の意義や可能性について検討する。

関連するキーワード：コミュニティ論、社会運動論、学習論

【到達目標】

1, 「働くこと」や市民セクターにかかわる用語の意味や概念、活動形態や内容・メンバーシップ・社会問題への取り組みについて理解する。それにより多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。

2, 与えられた情報をもとに、さらに調べ、話し合い、発表し合うことで、より学びを発展させる力 (アカデミック・スキル) をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

レジュメや映像資料等を示しながら講義を行うほかグループワーク等の主体的な学びの方法 (アクティブラーニング) を取り入れる。学生はそれらの成果物としてレポートや発表資料を提出する。フィードバックは主に授業の中で講評及び包括的なコメントを述べるなどして行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ～働くとは	1, 授業計画 2, 「働くこと」に関わる言葉の意味や概念から考える
第2回	市民セクターの種類・ 制度・活動形態～	自主事業・行政や企業との協働／助成／委託など多様な実践から考える
第3回	地域福祉の市民セク ター (1)	地域社会で生きる～精神障害の当事者による活動
第4回	地域福祉の市民セク ター (2)	地域力で貧困の連鎖を断ち切る～多様なニーズに寄り添う学習支援活動
第5回	地域福祉の市民セク ター (3)	子どもの話を聴く活動の重要性～子どもの人権どう守る？
第6回	グループワーク	地域福祉分野の市民セクター調べ (自主・助成・委託・連携・協業の実践)～報告、討論、発表
第7回	環境分野の市民セク ター (1)	未来へのアジェンダ～地域NPOが担う行政の環境関連事業
第8回	環境分野の市民セク ター (2)	大学生が始めた脱炭素運動／鉱山開発が起こした悲劇をデータで指摘する～国際環境NGO
第9回	環境分野の市民セク ター (3)	SDGsと気候問題～切っても切れない人権問題のつながり

第10回	グループワーク	気候正義に向けて私たちにできること～報告、討論、発表
第11回	平和分野の市民セク ター (1)	米軍基地と住民そして日本政府～市民グループがなければどうなった？
第12回	平和分野の市民セク ター (2)	核兵器と地域安全保障～NGOの国際的な連携による成果
第13回	平和分野の市民セク ター (3)	生活者の視点が果たす重要な役割～生活協同組合の平和活動
第14回	グループワーク (最 終)	平和な未来社会をどう創る？ 市民セクターの課題と可能性：報告、討論、発表

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間には各2時間を標準とします。文献を読む、調べる、レポートを書くなど個人及びグループでの学習活動とします。

【テキスト (教科書)】

グループワークの進め方については参考書に示した『環境メディア・リテラシー 持続可能な社会に向かって』 p.48-70までの記述を参照してください。

【参考書】

ハード・ガブリエレ著 2016 『環境メディア・リテラシー 持続可能な社会に向かって』 関西学院大学出版会

平田仁子/豊田陽介/ギャッチ・エバン/三谷優衣子著 2023 『気候変動を学ぼう』 合同出版

ほか必要な文献は授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70%  
最終レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

授業を通してそれぞれの分野で活動する市民セクターについて、そのメンバーたちの独自性や働き方のオルタナティブにも注目していきます。グループワークでは自分一人の調査ではたどり着けなかったデータをグループメンバーらから示されること、及び話し合いを通じてさまざまな視点や意見に接することによって知識を増やすことを重視していきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

授業計画等の変更等に関する連絡は授業中もしくは学習支援システムの「お知らせ」から行います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

(Goal)

1, Understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.

2. Students develop their learning ability (academic skills) by investigating, discussing and presenting based on the information provided.

(Learning activities outside of classroom)

Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write.

(Grading Criteria /Policy)

Active participation and contribution, submission of reports: 70%

Final Report: 30%



EDU200MA (教育学 / Education 200)

**生涯学習論 I (生涯学習支援論 I)** 展開科目

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

(授業の概要)

社会教育の場における様々な学習者の特性や、それらの学習活動を支援する手法の基本的な考え方について解説する。

(授業の目的・意義)

多様な学習者の特性に関する議論や学習者への支援手法について、これらを単に手段的な知識として理解するだけでなく、その社会的・歴史的背景をふまえることにより、社会教育における学習支援のあり方を深く理解する。

**【到達目標】**

社会教育における学習者の特性に関する基本的な理論、学習支援の手法に関する基本的な手法を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

各回とも、テーマに関する講義を行った上で、そのテーマにおける重要な論点について各自のコメントシートの提出を求める。コメントシートで提示された重要な視点や質問については、次回授業にて教員からリプライする。必要に応じて、コメントシート提出に代え、重要な論点に関するグループ・ディスカッションと全体での議論の共有などを行う場合もある。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生涯学習・社会教育における多様な学習者	学校教育と比較したときの生涯学習・社会教育における学習者の多様性について概観する。
第2回	自己教育、相互教育の思想と方法①	学習者の自発性と相互性を重視した戦前期日本の先駆的な理念・実践について解説する。
第3回	自己教育、相互教育の思想と方法②	初期公民館構想 (寺中構想) や共同学習論など、学習者の自発性と相互性を重視した戦後日本の主要な理念・実践について解説した上で、そこに見られる学習支援の考え方について理解を深める。
第4回	成人学習論の展開①	M. ノールズの提唱したアンドラゴジー、自己主導的学習など、成人学習論の基礎的な知見とそれらの社会的・歴史的背景について解説する。
第5回	成人学習論の展開②	J. メジローの変容的学習理論など、ノールズ以後の成人学習論の展開とその意義について解説した上で、成人学習論の実践的意義について理解を深める。
第6回	高齢者への学習支援①	学習者としての高齢者の特性や、高齢者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。

第7回	高齢者への学習支援②	高齢者を対象とした学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第8回	子ども・若者への学習支援①	社会教育における学習者としての子ども・若者の特性や、子ども・若者を対象とした学習支援の手法に関する議論について解説する。
第9回	子ども・若者への学習支援②	高齢者を対象とした社会教育の学習プログラムの事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第10回	生涯発達論の展開	R. ハヴィガースト、E. エリクソン、D. レヴィンソンら、生涯にわたる発達を視野に入れた代表的な議論について解説する。
第11回	特別な支援を要する学習者への視点①	学習活動への参加に対して、障害など様々な理由から困難を抱える学習者の状況や、社会教育における「合理的配慮」のあり方について解説する。
第12回	特別な支援を要する学習者への視点②	社会教育施設や学習プログラムにおける「合理的配慮」の事例を検討した上で、理論的な知見を具体的事例に適用する際の課題について理解を深める。
第13回	オンラインによる学習支援の現在	COVID-19対策として現在各地の社会教育現場で取り組まれている、オンラインの学習支援の取り組みの意義と課題について解説する。
第14回	授業の振り返り	前回までの議論について、各受講者から自由に提示された論点を基にグループ・ディスカッション等の形を用いて、授業内容全体についての理解を深める。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・各回の授業後、コメントを提出するとともに、授業内で提示した参考文献の関連箇所、コメントシートに対する教員のリプライの内容を確認すること。  
・最終レポートの課題を意識しつつ、これらの予復習を行うこと。  
・本授業の復習時間は4時間以上を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に使用しない。

**【参考書】**

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年  
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター (清國祐二編集代表)『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

**【成績評価の方法と基準】**

コメントシート 30%  
グループワーク、ディスカッションへの貢献度 40%  
最終レポート 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

各回に提出してもらったコメント (リアクションペーパー) については、これまで授業日の深夜までに学習支援システムで提出してしたが、授業内で完結するほうが望ましいという学生の声があり、また欠席者がその回のコメントを提出してしまうという例も見られたため、基本的には2024年度は紙媒体でコメント提出を求めることとした。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士 (養成課程) の称号取得のための必修科目である。

**【Outline (in English)】**

**(Course Outline)**

The aim of this course is to provide students with knowledge and viewpoints on characteristics of various learners and methods for supporting learners in social education.

**(Learning Objectives)**

The goals of this course are to help students deepen their understanding of various types of learners and basic methods for supporting learning activities, and to widen their perspective with the view to social and historical context.

**(Learning Activities Outside of Classroom)**

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

**(Grading Criteria /Policy)**

Final grade will be calculated according to the following process: Comment for every class (30%), contribution to discussion (40%), term-end report (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**生涯学習論 I (生涯学習支援論 I)** 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会教育・生涯学習における学習支援は、公的社会教育に代表される専門職資格制度と社会教育施設の枠組みに依拠するとともに、社会に広く存在する学習機会においても重要な役割を果たしている。この授業では、社会教育関連法等に規定された代表的な社会教育専門職制度と社会教育施設の役割を学ぶとともに、地域づくりや社会問題解決の枠組みの中で実践されている学習支援のあり方について検討する。

主に生涯学習論の展開を通じて生涯学習・社会教育の本質と意義について学び、生涯学習に関する制度的な発展と家庭教育・学校教育・社会教育についての基礎的な理解を深める。

**【到達目標】**

社会教育・生涯学習における学習支援の本質と意義を理解し、社会教育・生涯学習に関する制度・行政・施策、家庭教育・学校教育・社会教育等との関連、専門職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的な能力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業支援システムを使用し、原則として毎時間何らかの課題提出を求める。また、毎時間グループワークもしくは質疑応答を求めるため、2/3以上の出席を前提とする。期末テスト及び期末レポートは課さない。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学習支援とは何か	社会教育・生涯学習における学習支援は、学校等の定型教育とどのような違いがあるのかについて考える。
第2回	社会教育・生涯学習の関連法令における学習支援の仕組み	社会教育・生涯学習に関する基本法令及び重要関連法令における専門職制度や社会教育施設の役割について理解する。
第3回	社会教育主事制度	社会教育法に規定された社会教育主事資格について学ぶ。
第4回	公民館と主事	公民館の特徴と公民館主事等の専門職の役割について学ぶ。
第5回	図書館と司書	図書館の特徴と専門職としての司書の役割について学ぶ。
第6回	博物館と学芸員	博物館の定義と役割の変化について学ぶ。
第7回	学校一斉休校は正しかったのか？	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) での教育政策のあり方を通して学習支援について考える。
第8回	学校と教育委員会	COVID-19での学校と教育委員会の対応を通して学習支援について考える。
第9回	公民館・社会教育施設	COVID-19での公民館・社会教育施設の対応を通して学習支援について考える。

第10回	図書館	COVID-19での図書館の対応を通して学習支援について考える。
第11回	博物館・美術館・動物園・水族館	COVID-19での博物館・美術館・動物園・水族館の対応を通して学習支援について考える。
第12回	屋外教育施設・自然学校	COVID-19での屋外教育施設・自然学校の対応を通して学習支援について考える。
第13回	生涯学習社会を生みだす力	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)に職員はどう向き合ったのか、どのように対応すべきなのかについて考える。
第14回	ふりかえり	この授業で学んだことを振り返る。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業時ごとの簡単なレポート (ワークシートを含む) を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

水谷哲也・朝岡幸彦編著『学校一斉休校は正しかったのか?』筑波書房 2021年

**【参考書】**

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦編著『社会教育・生涯学習入門』人言洞、2023年 (ISBN978-4-910917-03-0)  
社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所 2017年

**【成績評価の方法と基準】**

テキストを中心に課題レポート (ワークシートを含む) 80% 平常点20%

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業の資料をWeb上に添付します。

**【学生が準備すべき機器他】**

基本的な情報等は「学習支援システム」で確認しなさい。

**【その他の重要事項】**

社会教育主事養成課程等法定科目。

**【その他】**

授業時ごとの課題作成に取り組むこと。

**【Outline (in English)】**

Learning support in social education/lifelong education plays significant role in the context of providing various learning opportunities. It relies on the system of professional qualification ran by the public social education and relies on the framework of social education institution.

In this class, participants will learn the representative system of professional qualification prescribed to social education-related laws and will learn the role of social education institution. Participants will also discuss the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the way of learning support in the context of community development and solving social problems.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**生涯学習論Ⅱ (生涯学習支援論Ⅱ)** 展開科目

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会教育における実践的な学習支援技法、学習プログラムの作成手法について解説し、学んだ知識を活用した学習プログラム案作成のグループワークを行う。

(授業の目的・意義)

グループワークによる学習プログラム案の作成というプロセスを通じて、社会教育職員あるいは支援者にもとめられる実践知(理論知を現実の状況に応じて適切に活用する能力)を体得する。

**【到達目標】**

社会教育における様々な学習支援技法(ワークショップ、ファシリテーションの技法など)や、それらの技法を利用した学習プログラムの作成手法を理解する。また、これらの知識を生かして学習プログラム案を作成する基本的な実践力を獲得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

最初の数回は、学習プログラム作成の基本的な手法に関する講義を行う。その上で、具体的な自治体/地域を想定して、グループワークによって学習プログラム案(対象地域の特性の把握、実際の自治体社会教育計画の把握、学習プログラムの目的・概要と展開案、参加者対象アンケート案、広報案)を作成していく。作成した学習プログラム案については、教員からだけでなく、学生相互にコメントし、個々人により改善を進めたものを最終レポートとして提出する。グループワークでの成果に対する教員からのフィードバックは、授業内でのディスカッションを通して行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
あり/Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：社会教育における学習プログラムとは	社会教育における学習プログラムの特色について概観する
第2回	学習プログラム作成の現場から(ゲストスピーカー講義)	ゲストスピーカー(社会教育施設職員)から学習プログラム作成、実施、評価の実際について、情報提供していただく。
第3回	学習プログラム作成の基本的な手法①	社会教育の学習プログラム案作成の基本的な視点、および標準的な手順について解説する。
第4回	学習プログラム作成の基本的な手法②	学習プログラム案作成にあたって必要な、地域社会の特性・課題把握の方法について解説する。
第5回	学習プログラム作成の基本的な手法③	学習プログラムの広報、および、受講者アンケート実施に必要な基本的事項について解説する。
第6回	学習プログラムの実例検討①	社会教育施設等における既存の学習プログラムを各受講者が選定しその詳細を調査する。
第7回	学習プログラムの実例検討②	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの意義について発表し、質疑応答を行う。

第8回	学習プログラムの実例検討③	社会教育施設等における既存の学習プログラムについて、各受講者が選定したプログラムの改善すべき点について発表し、質疑応答を行う。
第9回	地域課題の把握	任意の地域(市町村など)を各受講者が選定し、その地域の課題、教育・学習・文化環境や、社会教育に関わる政策環境について個人レポートの発表を通じて把握する。
第10回	学習プログラム案の作成①	任意の地域を対象とした個人レポートの成果を基に、グループに分かれて一つの地域を選定し、地域社会の課題について、またその課題を背景とした学習プログラムの目的・概要を作成する。
第11回	学習プログラム案の作成②	グループ毎に、学習プログラム各回実施内容の詳細、受講者アンケート案、広報案を作成する。
第12回	学習プログラム案の発表①	グループ毎に完成した学習プログラム案を発表する。
第13回	学習プログラム案の発表②	グループ毎の学習プログラム案について、学生間の質疑応答を通じてその意義と課題を論じる。
第14回	学習プログラム案の振り返り	グループ毎に学習プログラムの作成プロセスを振り返り、改善すべきポイントを明確化する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

- ・個人ワーク、グループワークともに、授業時間外での準備時間が十分に必要となるので、留意すること。
- ・各回の授業後、参考書や授業内で提示した参考文献の関連箇所を読むこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は合わせて各回4時間以上を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

特に使用しない。

**【参考書】**

高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年  
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(清國祐二編集代表)  
『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年

**【成績評価の方法と基準】**

地域課題把握に関する個人レポート 25%  
学習プログラム案の発表 25%  
グループワーク、ディスカッションへの貢献度 25%  
学習プログラムの改善案(最終の個人レポート) 25%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の人数によってグループワーク、発表、質疑応答にかかる時間が大きく変化する授業であるため、特に学習プログラムの実例検討ではディスカッションに十分な時間を割けなかった。今年度はスケジュール、タイムテーブルについて、学生数に応じてある程度柔軟に対応できるよう心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートPC(グループワーク等で使用)

**【その他の重要事項】**

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「生涯学習支援論」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士(養成課程)の称号取得のための必修科目である。

**【Outline (in English)】  
(Course Outline)**

The aims of this course are to provide students with knowledge on practical methods for supporting learners and for planning learning programs in social education, and to supports group work of students for planning learning programs by utilizing basic knowledge.  
(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students to acquire “practical knowledge” (the ability of utilizing theoretical knowledge according to situation) for staffs or learning supporters of social education, by experiencing the process of planning learning programs.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term

report (25%), Presentation (25%), Contribution to discussion and groupwork (25%), term-end report (25%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**生涯学習論Ⅱ (生涯学習支援論Ⅱ)** 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に理解するために、「厄災の教育学ー感染症と教育を中心に」というテーマを設定し、そこにおける「厄災」への向き合い方から学習支援の方法や課題を学ぶ。学習支援が持つ広がりや専門性を理解することをねらいとする。

**【到達目標】**

社会教育・生涯学習における学習支援の具体像を、課題の特性や地域・市民との関わりの中で理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

社会教育・生涯学習における学習支援とは何かを具体的に考えるために、それぞれの課題に即して調査し、実際の学習支援のあり方について理解を深める。また、毎時間グループワークもしくは質疑応答を求め、2/3以上の出席を前提とする。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「厄災の教育学」と社会教育・生涯学習	社会教育・生涯学習における「厄災」を語り継ぐことの意味を考える。
2	私たちは新型コロナから何を学ぶのか	「感染症と教育」という課題が社会教育・生涯学習においてどのような意味をもつのかを考える。
3	コロナウイルスとは何なのか、何だったのか?	感染症パンデミックとしての新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) について、ウイルス学の視点から考える。
4	国と自治体はコロナ禍にどう向き合ったのか	新型コロナへの自治体の対応から学習支援の意味を考える。
5	教育委員会は新型コロナにどう対応したのか	学校における新型コロナへの対応を通して、学習支援について考える。
6	新型コロナウイルス感染予防のための学校一斉臨時休業	学校等における新型コロナ対応の法や制度から学習支援について考える。
7	社会教育は新型コロナにどう対応したのか	社会教育施設を事例に、コロナ禍における模索と学習支援について考える。
8	新型コロナに教育旅行はどうか	修学旅行を通して、コロナ禍における教育旅行等の学習支援について考える。
9	これから感染症に教育はどうか	教育機関における新型コロナへの対応を通して、感染症等の拡大時における学習支援について考える。
10	健康格差の是正に教育はいかに貢献できるか	倫理学の視点から新型コロナが提起して学習支援の課題について考える。

- |    |                    |                                |
|----|--------------------|--------------------------------|
| 11 | 「厄災」に向き合う教育への学習支援① | 「厄災」としての戦争体験から学習支援について考える。     |
| 12 | 「厄災」に向き合う教育への学習支援② | 「厄災」としての震災体験から学習支援について考える。     |
| 13 | 「厄災」に向き合う教育への学習支援③ | 「厄災」としてのパンデミック体験から学習支援について考える。 |
| 14 | ふりかえり              | この授業で学んだことを振り返る。               |

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

テキストの講読。  
授業時ごとに簡単な課題レポート (ワークシート) を作成する。  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

朝岡幸彦・水谷哲也・岡田知弘編著『感染症と教育』自治体研究社 2024年

**【参考書】**

随時紹介。

**【成績評価の方法と基準】**

テキスト等からの課題レポート (ワークシート) 80%  
平常点 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度授業のアンケートをもとに改善する。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを使用するため、(できれば) 携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

**【その他】**

授業中に出題される課題を提出すること。

**【Outline (in English)】**

To make concrete and profound understanding of learning support, we will place “Infectious diseases and education” to learn the method and problems of learning support. The course’s aim is to understand the expertness and extension of learning support.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertness and extension of learning support.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 80%, in class contribution: 20%.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

**図書館情報学概論 I**

展開科目

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火1/Tue.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

図書館情報学の入門として、生涯学習の観点から、図書館活動の各領域についての基礎的なコンセプトを総合的に学ぶ。

**【到達目標】**

図書館情報学の基礎を学び、生涯学習施設の一つである図書館についての基本的な知識や概念を包括的に習得することができる。

市ヶ谷図書館の現場(事務室)で、図書館の運営方針、予算などを実際に職員に聞くことによって、図書館の実際について深く学ぶことができる。また、現場の見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験をより確実にすることができる。

授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

実際の授業ではテキストを中心に、図書館司書課程e-Learningシステム(HULiC)を活用しながら、図書館情報学に関する多様な知識や概念を総合的に理解することをめざす。必要に応じて、図書館の見学やビデオ視聴、グループディスカッション、図書館見学の省レコーなども課す。

毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

メディア情報リテラシーのアンケート調査等も行う。アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア(HULiC)の利用ガイダンス、図書館とは何か
2	図書館の意義と役割①	図書館法、生涯学習社会の到来、教育観の変化、情報社会と図書館等
3	図書館の意義と役割②	図書館協力・ネットワーク、出版文化と図書館、著作権等
4	図書館の理念と図書館員の職務	図書館の自由、図書館員の倫理綱領(専門職とは何か、図書館員の対応)等
5	図書館法規と行政、施策	図書館の法的基盤、教育基本法と社会教育、地方自治法、国の図書館行政と施策等
6	地域社会と公共図書館(制度・機能)	地域の情報拠点としての図書館、市民参加、公共図書館の機能、制度、諸問題等
7	学校図書館及び大学図書館の制度と機能	学校図書館及び大学図書館に関する法律、機能、諸問題等
8	市ヶ谷図書館ツアー・ガイダンス(予定)	図書館ツアーの小レポートを課す。

9	国立国会図書館及び専門図書館の制度と機能	国立国会図書館及び専門図書館に関する法律、機能、諸問題等
10	日本の図書館の歴史	古代～現代
11	世界の図書館の歴史①	古代～中世
12	世界の図書館の歴史② 外国の図書館	近世～現代 アメリカ、イギリス、北欧、中国等
13	図書館の類縁機関・関係団体 図書館の課題と展望	国際機関、図書館協会、図書館関係団体等 図書館の挑戦と課題(ケース・スタディ)
14	総まとめ	筆記試験・まとめと解説を行う。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジュメを事前に司書資格課程の授業ポータルサイトからダウンロードし、空欄を埋めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

塩見昇 編、『図書館概論』、日本図書館協会、最新版(JLA図書館情報学テキストシリーズ 3-1)

**【参考書】**

高山正也、岸田和明 編集、『図書館概論』樹村房、2017(現代図書館情報学シリーズ)ISBN-10: 4883672719 ISBN-13: 978-4883672714

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の確認アンケートクイズ(40%)、図書館ガイダンスのレポート(20%)、筆記試験(40%)によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。毎回授業の初めに小クイズを行うため、遅刻・欠席が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業の進度が早いという指摘がいくつかあったので、話す内容を精査したい。

**【その他の重要事項】**

本授業では、50人収容の情報実習室で行われる。50人以上の場合は、最初の授業で、(1)上級生(2)図書館資格課程の履修生の優先順位で受講生を確定する。2回目以降の受講は認めない。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) : As an introduction to Library Information Science, students will learn foundations and basic concepts of libraries from the viewpoint of lifelong learning.

(Learning Objectives): Students will learn the basic concepts of library and information science and gain comprehensive knowledge of basic knowledge and concepts about libraries.

(Learning activities outside of classroom) : Students should read the relevant pages of the textbook in advance. In addition, students should download the class learning materials in advance and fill in the blanks. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on each confirmation questionnaire quiz (40%), library guidance report (20%), and written exam (40%).

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

**図書館情報学概論 I** 展開科目

原田 隆史

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

1. 図書館情報学とは何かに関する理解
2. 情報の収集・整理・利用、およびその実践の場である図書館に関する基礎的な知識の習得
3. 情報メディアや情報検索に関わる基礎的な知識の習得

**【到達目標】**

1. 図書館・情報学についての基本的な知識を身につけ、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館や各種の情報提供機関に関して理解できる
2. 現代社会での情報の生産・流通・処理・提供・利用・制度に関して、基本的な考え方・知識・技法、社会に及ぼす影響などについても理解できるようになる
3. 上記のような考え方・知識・技法が、図書館や情報提供機関の仕事およびサービスにどのように生かされるのか、その際に留意すべきことは何かについても考えを深められる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

図書館・情報学とは何かについて、さまざまな新しいトピックを含めて解説していきます。まず、情報の収集・整理・利用およびその実践の場である図書館に関する内容を中心に説明し、続いて情報メディアや情報検索に関わる内容を中心に講義します。図書館は、単に図書を集め、保存し、提供するという役割だけではなく、様々なサービスを行っています。図書館の持つ大きな可能性について知っていただきたいと思います。また、ネットワーク時代の図書館サービスも含め、実際の情報収集活動にも役立つ様々な知識を学ぶことができるように工夫していきます。

授業に対するフィードバックとしては、授業後に受講者からのコメント・質問などを集め、次の授業時に提出されたリコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館情報学とは何か	ガイダンスと授業の概要
2	図書館と情報メディアの歴史	図書館と情報メディアの意義・機能・歴史について述べます
3	図書館の種類	図書館の種類と役割・特徴などについて説明します
4	図書館の諸機能(1)	間接サービス、テクニカルサービスとは何かについて説明していきます
5	図書館の諸機能(2)	直接サービス、レファレンスサービスについて説明していきます
6	図書館と法制度	図書館と関わりがある各種の法規(図書館法、著作権法など)について簡単に解説します

7	図書館行政・図書館政策・図書館の管理と経営	図書館行政や図書館政策などについて説明します。また図書館経営について考えるとともに、図書館業務の評価についても述べます
8	知的自由と図書館	図書館員の専門性についても説明します
9	図書館と出版流通	日本の出版状況などについて説明するとともに、図書館と出版流通の関係についても解説します
10	情報メディアと図書館資料の保存	情報メディアの特徴を説明するとともに、図書館での資料の保存についても解説します
11	図書館における児童サービス	公共図書館で行われる児童サービス、ヤングアダルトサービスについて解説します
12	情報検索(1)	情報検索の基本的な考え方について説明します
13	情報検索(2)	情報検索の手法などについて例示を含めて説明するとともに、情報検索システムについても述べます
14	図書館の将来展望と課題	図書館の将来展望と課題

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

図書館を実際に使用したり(フィールドワーク含む)、情報検索演習などを行う可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

逸村裕(ほか)編. 図書館情報学を学ぶ人のために. 世界思想社. 2017. ISBN : 978-4790716952

**【参考書】**

日本図書館情報学会「図書館情報学用語辞典」第3版(丸善)など(必須ではありませんが、専門用語などでわからない語が出てきた場合に参考にしてください)

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 20%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが、授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また、毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお、もしリアルタイムオンライン授業(ZOOMでの授業)を併用する場合には原則としてビデオをオンにさせていただきます。

レポート 60%

期末試験 20%

現時点では期末試験と4～5回のレポートを課す予定ですが、COVID-19などの影響により期末試験を行わない場合は、全てレポート(レポートの配点を80%)とする可能性があります。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができるように努力いたします。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

対面での授業を原則としますが、COVID-19の状況などによってリアルタイムオンライン授業(ZOOMを使用)や動画を公開して視聴するオンデマンド授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかはHoppiiおよび下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。

<http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/LIS/>

授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは、上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システム Hoppii と併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

**【Outline (in English)】**

[Course outline]



This course introduces "Basic knowledge on Library and Information Science" to students taking this course.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to understand library activities, information media, information retrieval and so on.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated according to the following process  
Mid-term report (40%), Term-end examination (40%), and in-class contribution.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内 明子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人インターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】

この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
- 2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
- 3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(レファ協)の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会 (INFOSTA) 検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか

第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。  
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回のまとめ課題 70% (1回5点×14回)、学期末レポート 30%  
評価の基準：

- 1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
- 2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
- 3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】

調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。  
中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学附属図書館での勤務経験から、図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。  
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.

At the end of the course, students are expected to acquire the information literacy as a librarian.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to spend at least two hours for each class meeting. Every week on the Hoppi, students are required to complete weekly assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1) Weekly short reports: 70%
- 2) Term-end report: 30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

- 3) Evaluation criteria

- ・ Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
- ・ Ability to explain information technology assuming users with special needs.
- ・ Ability to operate information devices in order to create reports.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

原田 隆史

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1. コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識
2. 図書館業務に関する技術(図書館システム, Webページを用いた情報発信など)
3. データの管理を中心とした技術(データベース管理システム, デジタルアーカイブなど)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

1. 図書館をとりまく多様な情報環境について考えるための基礎となる知識を身につける
2. 各種の図書館業務に関わる技術手法について理解し, 取り扱うことができる
3. 図書館活動を行う際に, どのような情報技術が利用可能であるのかを判断する能力を身につける
4. 図書館情報学を学ぶ際に必要な基本的な情報技術を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

図書館をとりまく多様な情報環境, 各種の図書館業務に関わる技術手法について説明します。まず, コンピュータやネットワークの基礎知識について学んだ後, 図書館システムやデータベース管理システム, WebAPIなどについて理解を深めていきます。講義のほか演習も行う場合があります。

授業に対するフィードバックとしては, 授業後に受講者からのコメント・質問などを集め, 次の授業時に提出されたりコメント・質問などからいくつかを取り上げて全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術と図書館	ガイダンスと授業の概要について説明します
2	アナログとデジタル	デジタルとはどういうものなのか説明していきます
3	コンピュータの基礎知識	コンピュータの動作原理などについて解説します
4	ソフトウェアとアルゴリズム	OSやアプリケーションソフトウェアなどについて説明します
5	ネットワークの基礎知識	インターネットやLANなどの仕組みについて解説します
6	ネットワークサービスと電子資料の要素技術	HTML, CSS, XMLなどといった電子資料を作成する際の要素技術について演習します
7	データベース管理システム	データベース管理システムの仕組みと検索技法について学びます
8	図書館業務システム	図書館業務システムやOPACの仕組みについて解説します
9	図書館システムをめぐる最新の動き	ディスカバリーインタフェースや次世代システムと呼ばれる仕組みについて解説します

10	図書館における外部サービスの利用	図書館が他のWebサービスを利用してサービス内容を高度化する手法などについて学びます
11	図書館とオープンデータ, ビッグデータ, 生成AI	最近話題の生成AIや, それを支えるビッグデータ, さらに図書館との関わりなどについて学びます
12	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実例などについて説明します
13	図書館の管理・運営とセキュリティ管理	ネットワークサービスにおける管理・運用について説明するとともに, セキュリティ対策などについても述べます
14	ネットワーク社会の中での図書館サービス	図書館情報技術に関するまとめを行います

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

図書館をとりまくコンピュータやネットワークなどの情報技術に関するレポートをいくつか作成していただきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

杉本重雄編著. 図書館情報技術論(現代図書館情報学シリーズ 3), 2014, 224p. ISBN: 978-4883672035

【参考書】

特定の参考書は指定しません。必要に応じて資料プリントをWeb上で公開して用いることもあります。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

授業に出ているだけの場合成績評価には算入しませんが, 授業に積極的に参加した場合には加点することがあります。逆に教室にいても寝ていたり別の授業のことをしているなどの場合は大幅に減点します。また, 毎回授業に関するコメントを記入していただく予定です。なお, リアルタイムオンライン授業(Zoomでの授業)の場合は原則としてビデオをオンにさせていただきます。

レポート 60%

期末試験 20%

現時点では期末試験と4~5回のレポートを課す予定ですが, COVID-19などの影響により期末試験を行わない場合は, 全てレポート(レポートの配点を80%)とする可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義動画やシラバスなど自習教材の公開をできるだけ早期に行うことができるように努力いたします。

【その他の重要事項】

対面での授業を原則としますが, COVID-19の状況などによってリアルタイムオンライン授業(Zoomを使用)や動画を公開して視聴する授業を併用する可能性があります。どのように授業を行うかはHoppiiおよび下記の授業用ページで告知しますので必要に応じて確認するようにしてください。

<http://www.slis.doshisha.ac.jp/~ushi/IT/>

授業についての最新の授業テーマ内容・授業用スライド・授業動画の公開などは, 上記授業用ページで行います。このページを大学の授業支援システムHoppiiと併用しますので両方見る必要があることに注意してください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

1. Basic knowledge of computers, networks and information technology
2. Information technology in libraries.
3. Database management system, digital archive
4. Network Security
5. Information Technology and Society

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to understand the basic knowledge of computers, Information technology in libraries.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Term-end examination: 40%

Short reports : 40%

In class contribution: 20%

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

菅原 真悟

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土3/Sat.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

図書館司書資格を取得しようとしている学生を対象に、図書館に関わる情報技術について理解を深めることをめざす。授業では主に下記の5つの項目を扱う。

1. コンピュータやネットワークに関する基礎知識
2. 図書館業務に関する技術 (システム・情報発信・検索エンジン)
3. データ管理に関する技術 (電子資料・データベース)
4. ネットワークセキュリティと図書館
5. 情報技術と社会

【到達目標】

図書館に関わる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して基本的な技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

・図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、電子図書館、検索エンジン、コンピュータセキュリティ等について講義を行い、必要に応じて演習を行う。毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。

・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。

・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業支援システム (HULiC) の利用方法に関するガイダンス。
第2回	コンピュータの基礎知識(1)	デジタルとアナログ。2進数と10進数。ビットとバイト。
第3回	コンピュータの基礎知識(2)	コンピュータの歴史。
第4回	ウェブOPAC	ウェブOPACを用いた演習。
第5回	デジタルアーカイブ	デジタルアーカイブの理論と実際。
第6回	ウェブの歴史	ウェブの誕生から普及に至る歴史。ブラウザの種類とシェアの推移。
第7回	AI時代の図書館	コンピュータ研究の現在と未来。人工知能研究の発展と図書館。
第8回	検索エンジン	検索エンジンの種類と仕組み。
第9回	電子図書館(1)	電子資料・出版、電子図書館の現状。
第10回	電子図書館(2)	電子書籍の特性について、タブレット端末を用いた演習。
第11回	図書館業務システム(1)	図書館業務システムの仕組み。
第12回	図書館業務システム(2)	図書館業務システムを用いた演習。
第13回	セキュリティ	コンピュータの管理とセキュリティ対策。
第14回	振り返りとまとめ	半期の授業を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の演習への積極的な参加 (出席状況を含む) 30%

課題 (授業中に課題を数回出す予定) 40%

期末レポート 30%

課題・レポートは「HULiC」へアップロードして提出する。

【学生の意見等からの気づき】

演習やグループディスカッションの時間を増やしたいと考えています。授業に出席すればよいのではなく、演習等への積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (<https://hoppii.hosei.ac.jp/>) のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>) も使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with (1)Computer and network, (2)Technology related to libraries, (3)Database, (4)Network security, and (5)Information Technology and Society.

【Learning Objectives】

Students acquire basic knowledge of ICT related to libraries, and also acquire basic ICT skills through computer-based exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 30%、Short reports : 40%、in class contribution: 30%

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内 明子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人インターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】

この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。

- 1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
- 2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
- 3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PCを利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppiで毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。課題のフィードバックは、授業資料及び授業内でのコメントを通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(レファ協)の解説と事例のまとめ
第2回	検索検定	情報科学技術協会 (INFOSTA) 検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第3回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第4回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ(2)	電子展示会ほか
第5回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第6回	国立国会図書館デジタルアーカイブ(2)	歴史的音源、WARPほか
第7回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第8回	海外のデジタルアーカイブ	Europeanaほか

第9回	OPACの比較	大学図書館と公共図書館
第10回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第11回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第12回	情報ユニバーサルデザイン(1)	Webアクセシビリティ
第13回	情報ユニバーサルデザイン(2)	カラーユニバーサルデザイン
第14回	情報ユニバーサルデザイン(3)	マルチメディアDAISY図書

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppiで、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。  
本授業のための予習・復習の時間は各回2時間以上を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価の方法：毎回のまとめ課題70% (1回5点×14回)、学期末レポート30%  
評価の基準：

- 1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
- 2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
- 3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身につけているか

【学生の意見等からの気づき】

調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

PC教室で実施します。オンライン授業の回はPCを使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。  
中央大学図書館、東京大学駒場図書館、東海大学付属図書館での勤務経験から、図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。  
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.

At the end of the course, students are expected to acquire the information literacy as a librarian.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to spend at least two hours for each class meeting. Every week on the Hoppi, students are required to complete weekly assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1) Weekly short reports: 70%
- 2) Term-end report: 30%

Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.

- 3) Evaluation criteria

- ・ Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
- ・ Ability to explain information technology assuming users with special needs.
- ・ Ability to operate information devices in order to create reports.



EDU200MA (教育学 / Education 200)

メディア教育論 I

展開科目

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念(シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど)に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿(シナリオ)などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育(MILE)の基本概念と分析モデル
3	MILEとシチズンシップ①	メディアの機能と多様性(メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他)
4	MILEとシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会(言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制)
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値(なにがニュースになるのか)

7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力(ビジュアルの力)
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シチズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表① 多様性	多様性に関するテーマのメディア分析 グループ発表(1)、全体討論、振り返り
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析 グループ発表(2)、全体討論、振り返り
14	研究発表③ プロパガンダ	プロパガンダに関するテーマのメディア分析 グループ発表(3)、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

なし。授業のレジメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題(分析)提出物(30%)、グループによる課題制作物、プレゼン(プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業の出席・参加貢献度(20%)、個人レポート(50%)によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppiiのグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINEの活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論II(メディアと教育II)」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修(授業2回目以降)は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) : Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that are based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作(デジタルストーリーング等の動画)を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3回目の授業でアンケート調査を行う。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育(MILE)とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント(PSA)とはなにか(分析と企画)
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動(絵コンテ、ストーリー展開)
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク(ストーリー展開)
8	課題制作①	グループによる素材集め(ビデオ・写真撮影等)
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料(パワポ)の作成および動画やデジスト等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認(パワポ・動画やデジスト等の最終確認)

11	課題発表①(くじで発表初回となった班の発表)	課題のグループ発表(1)、全体討論(何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
12	課題発表②(くじで発表二回目となった班の発表)	課題のグループ発表(2)、全体討論(何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
13	課題発表③(くじで発表三回目となった班の発表)	課題のグループ発表(3)、全体討論(何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする)、グループ発表の評価
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物(個人のデジスト・動画作品、他授業での課題)(30%)、グループによる課題制作物、プレゼン(プレゼン資料、班活動報告など含む)、授業への参加・出席(30%)、個人レポート(40%)によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良(14回中4回以上の欠席)のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席(30%)」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル(文書・パワポ・画像・他)提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(Hoppi)上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士(海外の学生も含む)のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室Hを使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修(授業2回目以降)は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) : Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.

(Learning Objectives) : Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育マネジメント I

展開科目

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

公教育は、人々の教育を受ける権利を積極的に保障していくために全国的に標準的な仕組みを整えています。近年では、地域社会の自然・文化・産業を教育活動に取り入れたり、保護者・住民・地域の組織や諸機関と連携し、特色ある実践を進める動きも広がっています。

本講義では、上記のような地域独自の取り組みが公教育制度の中で進展することの意義と課題について、教育学のみならず、社会学・行政学・政治学等の社会科学からの観点からも考察を行うことで、教育に関して一段深い意見を持てるようにする手がかりを獲得してもらうことを目的とします。

【到達目標】

受講者には、授業終了までに次の3つの目標を達成できることを期待します。

- 1) 地域社会と連携して行われる教育実践や学校経営が、子ども・学校・地域・自治体・保護者等にとってどのような意義と課題を有するか、具体的な実践例を挙げながら説明できる
- 2) 学校と地域社会の連携を進めるための具体的な政策や制度について説明することができる
- 3) 学校と地域社会の連携について、教育学、あるいは社会学・行政学・政治学等の社会科学的概念・視座により分析することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業ですが、受講者からの質疑や意見を求めたり、グループ形式での意見交換や、学生によるプレゼンテーションを組み込みます。オンラインでリアクションペーパーを提出してもらい、必要なフィードバックは、次の授業の最初にまとめて行います。天候等の理由により、臨時にオンラインに変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について説明・合意する
第2回	公教育の成り立ちと地域社会	公教育制度の歴史的な成り立ちと地域社会にとっての意味付けについて説明する
第3回	戦後の学校制度と公教育の課題	戦後の学校制度に焦点を当てて、公教育の課題を説明する
第4回	母校研究 (1)	母校についてのケース・スタディ (地域的特色を含む) を交流し、学びのキャリアを振り返る
第5回	母校研究 (2)	母校研究について代表者の発表を共有する
第6回	学校-地域連携政策 (1)	臨教審以降の「開かれた学校」政策と、「生きる力」の理念について説明する
第7回	学校-地域連携政策 (2)	学校運営参加制度の導入・深化・普及 (・迷走) について説明する
第8回	学校-地域連携政策 (3)	学校支援活動の普及と関連する諸政策の導入について説明する

第9回	学校-地域連携の意義と課題 (1)	教育課程、学習方法等の視点から学校-地域連携の教育学的な意義と課題について説明する
第10回	学校-地域連携の意義と課題 (2)	地域づくり・地域経済・社会関係資本等の視点から学校-地域連携の行政的・社会的な意義と課題について説明する
第11回	地域における教育連携の発展動向 (1)	地域における福祉組織との教育連携について事例をもとに解説する
第12回	地域における教育連携の発展動向 (2)	NPO等による実践展開の可能性について事例をもとに解説する
第13回	レポートの授業内吟味	レポートの第1次提出を行い、受講生による相互吟味・批評を行う
第14回	まとめと内省	授業全体を振り返り、レポートの講評と最終提出までの指示を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

以下のような課題を所定の期日までに実施してもらいます。

- ・レジュメの再読、まとめ (毎時)
- ・アテンダンスチェック課題の提出 (毎時)
- ・母校研究の実施 (所定締切日まで)
- ・最終レポートの作成 (所定締切日まで)

これらを通じた準備学習・復習時間は各回2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

- 『コミュニティと教育』(仲田康一・大木真徳編著/放送大学教育振興会/2024年)
- 『地域教育経営論』(荻野亮吾・丹間康仁編著/大学教育出版/2022年)
- 『コミュニティ・スクールのポリティクス』(仲田康一著/勁草書房/2015年)

【成績評価の方法と基準】

各回の参加度 (主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握) を40%、母校研究の成果を20%、最終レポートを40%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【その他の重要事項】

- ①ピンポイントなテーマではありませんが、現代の教育についての基礎知識をなるべくカバーし、今後の専門的学習に役立つように心がけます。
- ②教育研究の幅広さを知るとともに、教育改革を研究するための資料やデータの在り処を探すスキルと、それらを分析する視点を手にできるよう意識します。
- ③教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

While public schooling has established a nationwide standard system to ensure people's right to education, there has been increasing diversity by collaborating with local communities (parents, residents, local organisations, and institutions). This lecture will explore how region-specific initiatives within the public education system is enacted, examining their consequences from the perspectives of educational studies and other social sciences.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Students are expected to be able to achieve the following three objectives by the end of the course.

At the end of this class, students are expected to be able to

1) explain the significance and challenges of educational practices carried out in collaboration with local communities for children, schools; local authorities and parents, citing specific examples of such practices.

2) explain specific educational policies to promote cooperation between schools and local communities; and

3) analyse the relationships between schools and local communities using concepts and perspectives from educational studies and other social sciences.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before and/or after each class, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class

- Submitting Attendance Check Assignment.

- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 40%, Case study report: 20%, End of semester report: 40%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育マネジメントⅡ

展開科目

櫻井 直輝

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、学校教育を取り巻く様々な教育課題に対し、どのような改革・政策が実施されているのか、具体的な政策やその形成過程を取り上げながら学習する。履修者は、教育政策・行政の形成・実施過程について学習した上(講義)で、具体的な事例を取り上げて調査・報告を行う(ミニ事例研究とディスカッション)。

### 【到達目標】

講義を通して、次の力を身につけることを目標とする。

- 1 教育政策・行政の仕組みを理解する
- 2 法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる
- 3 各種公的統計データを検索・利用することができる
- 4 教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

事前に指定された資料・文献等がある場合はそれを読んだ上で講義に参加する。講義(あるいはオンデマンド学習用の動画配信)では教育政策・行政の仕組みと政策リサーチの方法について解説する。講義の後半ではグループによる政策リサーチ(事例調査)の実施、共同分析の結果報告と報告内容に関するディスカッションを行う。なお、政策リサーチについては講義内で一定の時間を設けるが、原則として講義時間外での調査・分析が必要となる。履修者は予め作業時間を確保しておくことが望ましい。リアクションペーパーに対するコメントは各講義回の冒頭において行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	政策リサーチの進め方：公文書・データベースの活用	論文、政策文書、法令・会議録データベースの検索と利用 ※PC持参
第3回	政策リサーチの進め方：公的統計データの活用	公的統計データの検索と利用 ※PC持参
第4回	国レベルの教育行政システム	国の教育行政機関と政策形成の仕組み
第5回	地方レベルの教育行政システム	都道府県・市町村の教育行政機関と政策形成の仕組み
第6回	ミニ事例研究についての説明	方法、まとめ方、提出方法、グループ分けと協議
第7回	事例解説：学校再編	人口減少地域で行われる学校再編政策について解説する
第8回	事例解説：小中一貫教育	小中一貫教育の導入に関わる改革について解説する
第9回	事例解説：働き方改革	学校の働き方改革・労働安全衛生管理について解説する
第10回	政策リサーチ：グループワーク	グループワーク(発表予定の内容について教員に報告・意見交換)

第11回	政策リサーチ：グループディスカッション	グループ内でのディスカッション
第12回	政策リサーチ：発表準備	資料の最終化や効果的な発表に向けた準備
第13回	政策リサーチ報告：成果報告	各グループの調査結果報告とディスカッション
第14回	講義のまとめと総括的討議	講義全体を通じてのまとめとディスカッション

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料等をweb配信するので各自準備して講義に望むこと。必ずしも印刷する必要はないが、PCやタブレット等を持参して閲覧や作業に支障がないようにすること(スマートフォンでの閲覧は非推奨)。後半の政策リサーチについては、講義時間外の学習や作業が必須となる。グループの運営によって異なるが、資料収集やレジュメ作成等で4時間程度は確保することが望ましい。他の講義や学内・学外活動によって支障がでないよう予め注意してほしい。また、グループ活動になるので他のメンバーに迷惑をかけないように心がけてほしい。

### 【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

青木栄一・川上泰彦『教育の行政・政治・経営[改訂版]』放送大学学術振興会、2023年。

村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年。  
伊藤修一郎『政策リサーチ入門(増補版)』東京大学出版会、2022年。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は以下の点について、グループ活動及び成果報告の結果を通じて評価します。

- 観点1：教育政策・行政の仕組みを理解する
  - 観点2：法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる
  - 観点3：各種公的統計データを検索・利用することができる
  - 観点4：教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる
- すべての観点について、発表資料の記載内容と発表(配点：50点)と個人で作成する最終レポート(発表内容や質疑応答への回答をふまえたもの)とします。配点：40点)で評価します。なお、最終レポートと併せて、自身がグループワークにどのような貢献をなしたか(どのようなアイデアを提示したのか、どのような作業を担当したか等)を記載したペーパー(配点：10点)を提出していただきます。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

「※PC持参」の回はパソコンを持参してください。それ以外も必要に応じてPCやタブレットを活用することを推奨します。

### 【その他の重要事項】

この講義を受講する意思のある学生は初回講義に出席し、講義の概要や受講にかかる負担等を十分に理解した上で履修してください。講義回を欠席をする際は、教員に予め連絡してください。連絡先は初回講義資料で提示する。またグループ活動回を欠席する場合は教員及びグループのメンバーに予め連絡してください。

### 【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, students will learn what kind of reforms and policies are being implemented to address various educational issues surrounding school education, taking up specific policies and their formation process. Students will learn about the formation and implementation process of educational policy and administration, and then research and report on specific cases.

### Learning Objectives

Through the lectures, the course aims to develop the following skills.

students should...

- 1 Understand the structure of education policy and administration in Japan
- 2 be able to search and analyze laws, policy documents, and meeting minutes
- 3 be able to search and use various official statistical data

4 be able to persuasively develop one's own views on education policy and administration based on concrete data and researched facts

Learning activities outside of classroom

Lecture materials and other materials will be distributed via the web, so please prepare for the lecture by yourself. Although it is not necessary to print the lecture materials, students are encouraged to bring their own PCs, tablets, etc. so that there are no obstacles to viewing or working with them (viewing with smartphones is not recommended).

For the policy research in the second half of the course, study and work outside of lecture time will be required. It is desirable to secure about 4 hours for collecting materials and creating a resume, so please adjust your schedule in advance so that you will not be unable to work due to other lectures or on-campus/off-campus activities.

This will be a group activity, so please be mindful not to inconvenience other members.

Grading Criteria /Policy

Grading will be based on the perspectives indicated in the achievement objectives through the results of group activities and reports.

Content and presentation of presentation materials: 50%

Final report to be prepared by each individual: 40%

In addition to the final report, students will be required to submit a document with their own contribution to the group work (10%).



EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれません。しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】

以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。

- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
- 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
- 3) 個人個人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は主に対面での講義形式で実施します。講義形式中心ではありませんが、授業時間中の質疑応答も随時取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。各回、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。いただいたリアクションペーパーは翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第2回	国と地方の教育行政のしくみ	教育政策の実施主体としての教育行政について、国レベルおよび地方自治体レベルそれぞれの構造および政府間関係を、近年の改革動向も含めて理解する。
第3回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第4回	初等中等教育政策	初等中等教育 (小中高) 段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第5回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第6回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第7回	今日のカリキュラム改革	最新の学習指導要領改訂、ICT教育や外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。

第8回	学力テスト政策	国や自治体の学力調査や国際学力調査の結果や、その教育課程への反映状況などを理解する。
第9回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第10回	いじめ問題に関する政策	「いじめ防止対策推進法」など、いじめ問題をめぐる政策の動向を理解する。
第11回	不登校・「子どもの貧困」をめぐる政策	不登校や「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を理解する。
第12回	学校の「働き方改革」	教員の過酷な勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第13回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第14回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】

資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業各回のリアクションペーパーと学期末レポートを総合して行います。比率はリアクションペーパーの合計40%、期末レポート60%です。

【学生の意見等からの気づき】

2020～2022年度はオンラインで授業を実施しておりましたので、2023年度に4年ぶりに対面での授業を実施いたしました。2023年度に関しては特に映像資料の活用が理解を深める上で有意義であったというお声を沢山頂戴しましたので、映像資料に頼り過ぎないよう注意しつつ、2024年度も積極的な活用を図っていきたく思います。一方、比較的少人数の授業であった割には受講生間でのやり取りの機会が少なく、受講生同士での対話の時間がもっと欲しかったというご意見もいただきましたので、2024年度はそうした機会も豊富につくれるよう工夫してまいります。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

【Learning Objectives】

Understanding three points below.

- i) Issues of today's education policy
- ii) Ideals of education policy
- iii) The importance and roles of each school stages

【Learning Activities outside of Classroom】

It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.

【Grading Criteria / Policy】

Comments of each lessons (40%) & Terminal Report (60%)

EDU200MA (教育学 / Education 200)

現代教育思想

展開科目

岩本 俊一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに - 本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第2回	序論 - 教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第3回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第4回	現代社会における教育の諸問題(1) - 「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第5回	現代社会における教育の諸問題(2) - 公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性 (ライシテ) の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第6回	現代社会における教育の諸問題(3) - 「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」(「道徳」の教科化)の問題について論じる。
第7回	現代社会における教育の諸問題(4) - 教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題 - 日本における教員養成政策の変質について論じる。
第8回	教育におけるヒューマンイズムの探究(1) - 近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第9回	教育におけるヒューマンイズムの探究(2) - 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。

第10回	教育におけるヒューマンイズムの探究(3) - ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第11回	教育における体罰の問題(1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論 - 体罰は教育的情熱の発露である - の本質的問題点について論じる。
第12回	教育における体罰の問題(2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第13回	本講義を振り返って (質疑応答)	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第14回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験100%で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点も多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】

Outline:

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

Goal:

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

Learning activities outside of classroom:

After the lecture, try to understand the contents.

Grading Criteria /Policy:

Grade only in the final exam.

Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

生涯学習論Ⅲ (成人教育論Ⅰ) 展開科目

森本 扶

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。学校教育がとらえる学習概念を超えて、生涯を通じた大人による学びの場づくりが、現代的課題 (市民参画、人材開発、識字、多文化共生、環境問題、貧困問題など) に対応するために不可欠となっている。授業では、現代的課題に対応する大人の学びの場づくりの諸相について理解し、その問題解決に向けて、社会教育・生涯学習がもつ可能性について考察していくことを目的とする。

【到達目標】

社会教育・生涯学習にまつわる現代的問題群を把握し、社会教育・生涯学習行政・制度がそうした問題にどのように対応してきた (している) のかを理解し、さまざまな社会教育・生涯学習実践がもつ意義や課題について解釈できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するレジュメデータをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。時折映像学習を取り入れる。終盤にはワークショップも取り入れる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第2回	大人の生活とボランティアによる学習	物質的豊かさから精神的豊かさへ、学習・文化活動の広がり、ボランティア活動への関心の広がり
第3回	市民参画型社会とボランティア・NPO・NGO	市民セクターへの注目とNPOの登場・その実態と課題、グローバル化社会におけるNGOの役割など
第4回	企業内教育やリカレント教育による人材開発と生涯学習	OJT・Off-JT・自己啓発、学び直しとリカレント教育の現代的意義など
第5回	社会貢献活動を通じた生涯学習	ボランティア・NPOによる学び、企業労働とは異なる体験を求める会社員たちの姿など
第6回	教育の「保障」・「補償」としての識字教育	国際的な識字問題の背景と現在、(自主)夜間中学という場の意味など
第7回	多文化共生・地域国際交流が切り拓く未来	在留外国人の増加と多国籍化、グローバル化社会と地域国際交流という課題、多文化共生教育の取り組みなど
第8回	識字教育や多文化共生・地域国際交流の取り組み	(自主)夜間中学の実際の取り組み、地域国際交流、外国人労働者支援の実際の取り組み
第9回	環境問題と持続可能な社会づくりのための生涯学習	発端としての自然保護教育、公害問題学習と環境教育、環境教育思想の国際的展開、今日の環境教育の展開など

第10回	貧困問題と生涯学習が拓く学び	子ども・ひとり親家庭の貧困問題、ニート・引きこもりの自立支援、生活困窮高齢者支援などに関わる学習のあり方
第11回	社会的排除に挑む主体を形成する学習 (映像学習)	公害問題学習、子ども食堂、生活保護支援、貧困学習に取り組む高校など
第12回	生涯学習の学習論と学習を支援すること	生涯学習の学習論の系譜について。ノールズの成人学習論、メジローの認識変容論、エンゲストロームの拡張的学習論など
第13回	生涯学習に関わるワークショップ：意見表明スケール	対話型授業：これまでの授業内容をふまえて論点を抽出し、より深く議論する
第14回	授業内テストと全体のまとめ	授業内テストの実施後、全体のまとめ、テスト内容のふりかえりを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心を持ち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120分程度。

・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120分程度。

・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組んでもらっても構わない。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

佐藤一子編 (1998) 『生涯学習と社会参加』 東京大学出版会  
 川野辺敏・山本慶裕編著 (1999) 『生涯学習論』 福村出版  
 鈴木真理編 (2003) 『シリーズ 生涯学習社会における社会教育1~7』 学文社  
 佐藤一子編 (2003) 『生涯学習がつくる公共空間』 柏書房  
 佐藤一子 (2006) 『現代社会教育学』 東洋館出版社  
 上田幸夫・辻浩編著 (2009) 『現代の貧困と社会教育』 国土社  
 鈴木真理・梨本雄太郎・永井健夫編著 (2011) 『生涯学習の基礎』 学文社  
 社会教育・生涯学習辞典編集委員会編 (2012) 『社会教育・生涯学習辞典』 朝倉書店  
 佐藤一子編 (2015) 『地域学習の創造』 東京大学出版会  
 手打明敏・上田孝典 (2017) 『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』 東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

映像学習時の感想文 (10点×3 = 30点)、期末テスト (70点) およびワークショップでの発言 (+ a) による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

紙プリントは基本的に配布しないので、Hoppiでレジュメや資料を確認するためにPC・タブレットなどの端末が必要。準備できない場合は教官に相談する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In the present age, people learning places and opportunities are spreading widely. Beyond the learning concepts that school education catches, the creation of a place for learning by adults throughout their lives is essential to respond to contemporary issues (Citizen participation, human resource development, literacy, multicultural coexistence, environmental issues, poverty issues, etc.). In the class, we aim to understand the various aspects of adult learning places to respond to contemporary issues, and to consider the possibility of social education and lifelong learning towards solving the problem.

[Learning Objectives]

Understand the contemporary problems related to adult education / lifelong learning, understand how adult education / lifelong learning administration / systems have responded to such problems, and practice various adult education / lifelong learning. The goal is to be able to interpret the significance and challenges of lifelong learning.

[Learning activities outside of classroom]

- ・ Be interested in articles related to adult education and lifelong learning that are dealt with in reference books and newspapers, collect articles, and summarize your impressions and opinions. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ Try to review so that you can deepen your understanding of the terms of adult education and lifelong learning. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ While referring to the contents of the lecture, think about your own way of life for your own self-actualization. The guideline for the time to work is basically different for each person, but it doesn't matter how much you work on it.

[Grading Criteria /Policy]

Impressions during video learning (10 points x 3 = 30 points), term-end report (70 points) and reaction paper content (+ a)

EDU200MA (教育学 / Education 200)

生涯学習論Ⅳ (成人教育論Ⅱ) 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生涯学習は多様な担い手によってとりくまれている。学習機会の供給側 (組織者・学習機会の提供者) の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システムの理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。また、原則として毎時間グループワークもしくは質疑応答を求めため、2/3以上の出席を前提とする。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	動物園と水族館の教育①	SDGsと動物園・水族館の教育について考える
5	動物園と水族館の教育②	水族館の歴史と海洋教育・理科教育について考える。
6	動物園と水族館の教育③	動物園を活用した生活科教育について考える。
7	動物園と水族館の教育④	動物園と学校との連携教育について考える。
8	動物園と水族館の教育⑤	動物園・水族館とツーリズムについて考える。
9	動物園と水族館の教育⑥	ポストコロナ社会における動物園教育について考える。
10	動物園と水族館の教育⑦	ポストコロナ社会における水族館教育について考える。
11	動物園と水族館の教育⑧	博物館としての動物園・水族館について考える。
12	講座のつくりかた③	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。

- 13 講座のつくりかた④ 講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
- 14 ふりかえり 授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの講読。  
授業時ごとに簡単な課題レポート (ワークシート) を作成する。地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案及びポスター (チラシ) を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

朝岡幸彦編著『動物園と水族館の教育』学文社 2023年 (ISBN978-4-7620-3224-9)

【参考書】

朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社 2013年  
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』 2005年  
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009年  
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社 2006年

【成績評価の方法と基準】

課題のうち①及び④は授業実施日より5日以内に提出し、②及び③は課題発題日から提出指定日までに提出してください。  
①テキストから課題レポート (ワークシート) 60%  
②学習プログラム作成 20%  
③学習プログラムのポスター作成 10%  
④期末レポート 10%

【学生の意見等からの気づき】

実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、(できれば) 携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】

授業中に出题される課題を提出すること。

【Outline (in English)】

Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematic way.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertise of learning support in a historical, practical and systematic way.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and plan a learning program. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 60%, learning program : 20%, poster : 10%, final report: 10%.

HIS200MA (史学 / History 200)

**学習の社会史 A**

展開科目

山口 真里

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

私たちは、歴史的にどのような「学び」を経験してきたのでしょうか。そして現在の「教育」や「学習」のかたちは、どのような経緯で形作られてきたのでしょうか。

この授業では、おもに西洋における「学び」の展開を時代背景や地域的な事情に照らしながら辿り、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。また、現代の「教育」や「学校」は多くの問題に直面していますが、それらが歴史とどのように関わっているのかを掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることにより、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

**【到達目標】**

- ・西洋における学びや教育の変遷を、背景にある歴史事象と共に理解する。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察する力を養う。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・対面授業が中心ですが、必要に応じてオンラインで授業を行います。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。
- ・講義中心ですが、授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会も設けます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと 徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの 発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざし の変化
第5回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第7回	家庭、主婦の誕生と 子どもの教育	家庭における女性の位置づけと 教育の変容
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子 どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義 務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救 済事業 権利主体としての子どもと「子 どもの権利条約」

第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学び と諸問題	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第14回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各2時間程度を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

**【参考書】**

適宜、授業内で提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート課題60%、リアクションペーパー30%、授業への貢献・平常点10%を基準に総合的に評価します。  
なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・リアルタイム型のオンライン授業 (Zoom使用) を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクをONにできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システム等を利用します。

**【Outline (in English)】**

In this course, we will trace the development of "learning" mainly in the West in the light of historical backgrounds and regional circumstances, and examine how schools as institutions for children's learning were established and developed.

In addition, we will delve into the many issues facing "education" and "schools" today and consider how these issues relate to history.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

HIS200MA (史学/History 200)

**学習の社会史 B**

展開科目

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。

日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

**【到達目標】**

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。日本史、日本教育史の基礎的な知識をベースとし、教育事象と関連付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

対面で授業を行う。  
知識の定着を促すため、ミニ課題や小テストを課す場合がある。いずれの場合も事前に告知する。  
課題提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第2回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第3回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第4回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのかを考える。
第5回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第6回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第7回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第8回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第9回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。

第10回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第11回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第12回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第13回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートとの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第14回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。授業内試験を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

指定文献や配布資料の精読を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

**【参考書】**

必要に応じて指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内の課題、ミニテスト40%、試験60%

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

**【Outline (in English)】**

**Course Outline:** This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

**Learning Objectives:** To be able to explain historical events using the concepts and theories learned in the class.

**Learning Activities Outside of Classroom:** Preparation and review should be 2 hours each.

**Grading Criteria:**In-class review mini-test 40%, final report 60%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育社会学 I

展開科目

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(学校) 教育は社会においてどのような機能を果たしており、私たちの考え方や価値観にどのような影響を与えているだろうか。そうした機能や影響はどのように理解すればよいただろうか。このクラスでは、教育社会学の思考方法を基礎概念とともに学びます。

【到達目標】

・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的/量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。

・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」という"big word"だけで考えていても府理解は深まらない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI化・・・社会学的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

第1,8,14回をのぞき、対面授業を行ないます。

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメのQuestionを毎回こなし「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。授業で提出されるリアクションペーパーについては、その次の回の冒頭でいくつか取り上げてリプライをします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第2回	中学校長「二人以上産む最も大切」-どう思う？	社会科学の表現作法 (テキスト第1章)、学校の諸機能
第3回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化とAIのインパクト (テキスト第6章)
第4回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	社会化、自己愛、ゆるし (テキスト第3章)
第5回	どうしても働かないきゃダメ？	社会統制と「労働の道徳化」 (テキスト第5章)
第6回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第7回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論
第8回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第6,7回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第9回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識習得 (テキスト第1,4章)
第10回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第11回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論

第12回	給料2割減、週20時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化 (テキスト第4章)
第13回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策 (テキスト第7章)
第14回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメのQuestionをこなし授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

筒井美紀 (2016)『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀 (2014)『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートが30%、期末試験が70%

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業を一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを持ってきてください。ない人はスマホでも構いませんが、画面が小さくて見にくいし、グラフ作成など (授業中にやります) に向きません。

【Outline (in English)】

How does (school) education function in our society and influence our way of thinking and our values? How should we understand such thoughts and values? In this class the students are to learn the sociological way of thinking with its basic concepts. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and final exam 70%.



EDU200MA (教育学 / Education 200)

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本では、労働・福祉・生活・教育などさまざまな領域で歪み・軋みが続いています(リスク社会)。では、どのように再創造していけばよいのでしょうか。自治体や地域が現在、就労困難者・生活困窮者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会学的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会ををデザインしてゆきます。

【到達目標】

就労困難者・生活困窮者への包括支援や教育訓練というと、「どう接したら／教えたらよいか」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源の組織化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、自治体やビジネス、NPOや地域社会、組織や制度へと社会的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

第10回と第14回をのぞき対面で実施します。

毎回、最初の1/5が前回リアペへのリプライ・導入解説、真ん中の2/5が班での議論、最後の2/5がミニ発表と授業者の発展的解説、というスタイルです。毎回、ミニ予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
2	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性(テキスト序章)
3	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応(テキスト第2章)
4	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか?(テキスト第9章)
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題(テキスト3章第3節)
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか(レポート作成のコツ)
7	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題(テキスト第4章)
8	支援と銘打たない支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労働部門の連携(テキスト第8章)
9	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質(テキスト第7章)
10	地域のニーズを掘り起こす	雇用創出と就労につなげるには(テキスト第11章)

11	高齢者と生きづらい若者をつなぐ	協同労働の可能性と課題(テキスト第5章)
12	中間的就労/社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会(とくに労働と福祉と教育の領域)に向けた諸価値(テキスト序章)
13	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする(テキスト終章)
14	期末試験に向けて	基礎概念などの総復習

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジユメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著(2014)『就労支援を問い直す—自治体と地域の取り組み—』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

中間レポート30%、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、就労や学習の支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、企業の社会的責任(CSR)に関心がある人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline (in English)】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life(risk society). Then, how should we recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**教育経済学**

展開科目

荒木 宏子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？なぜ政府は学校や教育政策を運営し、皆さんの学費補助に税金を用いるのでしょうか？皆さん自身や、さらに次の世代の学びに係るこれらの問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

**【到達目標】**

本講義の主な到達目標は2つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方や分析方法を身につけ、教育を含めた社会問題を論理的に考察し、分析を読み解き、選択する力を身につけることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

座学 (インプット) に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーなどの課題があります。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を判断してください。また、講義期間における、新型コロナウイルス感染症にかかる様々な状況等を踏まえ、オンラインでの講義実施 (講義時間リアルタイムでの zoom 配信など) が行われる可能性があります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明をします。課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、レポート等の課題の回収やフィードバックは、講義時間に教室で直接行うほか、学習支援システムを通じて行う場合もあります。受講人数が多くなった場合などには、希望に応じて、オフィス・アワーを設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行う場合もあります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「経済学」を用いて教育を捉えるとは。本講義全般のテーマや問題意識の紹介。受講希望理由書の提出。
第2回	教育投資の基礎理論 (1)	なぜ人は教育を受けるのか？なぜあなたは大学へ進学したのか？教育の効果、需要の目的を経済学的に考える (「消費」と「投資」)。人的資本理論の紹介。
第3回	教育投資の基礎理論 (2)	人的資本理論をベースに教育があなたや社会にもたらす効果を考える。教育投資の収益率の計測方法を学ぶ。
第4回	教育投資の基礎理論 (3)	学歴による賃金格差を説明するその他の理論・考え方の紹介。
第5回	教育投資の基礎理論 (4)	教育投資の基礎理論のまとめ。講義内レポートについての説明。

第6回	教育の効果に係る経済学的実証分析	世界・国内における教育経済学実証研究の系譜と紹介。
第7回	中間レポート発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るレポートの提出、発表など。
第8回	教育政策の経済学的評価 (1)	二つの評価基準：効率性と公平性。教育効果を定量的に「測る」という考え方。教育生産関数。
第9回	教育政策の経済学的評価 (2)	教育生産関数。政策評価手法の基礎、相関分析の紹介。
第10回	教育政策の経済学的評価 (3)	教育の効果、学力の伸びをどのように測るのか？実験的手法等の紹介。
第11回	教育政策の経済学的評価 (4)	日本、世界における教育経済学実証研究における政策評価手法。費用対効果分析の基本的な考え方。
第12回	教育政策の選択	これまで学んだ経済学的理論や分析手法を用いて、一つの教育政策を選ぶことの、総合的な経済学的効果を考察する方法について考える。
第13回	補足及び復習、質疑応答など	12回までの講義内容の復習、時間内に説明できなかった論点の補足、質問の多かった論点の解説など。
第14回	教育のもたらすもの。期末テストについて。	講義全体を振り返り、教育への公費支出の意義、教育が社会の効率・公平にもたらす影響などを整理する。期末テストに係る質問時間を設ける。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。  
・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身につけた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。  
・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。  
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。  
・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

とくに用いません。

**【参考書】**

授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：40%程度 (中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。)  
期末テスト：60%程度

**【学生の意見等からの気づき】**

中間レポート、講義内課題の出題時期、分量、質問への対応の仕方については、前年度以前の学生の皆さんからの感想や意見を取り入れつつ、講義内での学習成果をより公平に評価できるよう、変更を加えさせて頂いています。  
また、感染症の流行状況なども踏まえて、今年度も、適宜オンライン講義を実施いたします。昨年度以前も、講義時間リアルタイムの配信講義を行っていたため、接続トラブルの報告などが講義後に寄せられることもありました。基本的には受講生の皆さんが、授業日時に講義に参加できる環境をご自身で整えて頂くことが、受講の前提となります。しかし、ご自身の責任ではない問題が生じる場合もありますので、皆さんからの状況を伺いつつ、適切な対処と公正な評価への配慮をすべく、その都度、意見を交換させて頂きます。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義時間リアルタイムにオンライン (zoom) での講義を行う回があります。講義中は、質問にチャットまたは音声での回答を求められることがあるため、講義参加が可能なネットワーク環境を整えてください。不明なこと、心配なことがある場合には、受講前に荒木までメールで ([hiroko.araki.45@hosei.ac.jp](mailto:hiroko.araki.45@hosei.ac.jp)) 問い合わせいただくか、あるいは初回の講義で質問をしてください。

### 【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

また、今年度より、本講義も対面での講義を開始することに伴い、期末はテストを実施いたします。

### 【Outline (in English)】

In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of school and educational programs with tax? And why does the government subsidize your school fees?

Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

Learning Objectives:

There are two main goals of this lecture. The first is to deepen the capability to consider various issues related to school education and university education, and to gain an opportunity to reconsider one's own university life. The other is to acquire an economic way of looking at and analyzing things, and to acquire the ability to logically consider not only education but also a wide range of social issues.

Learning activities outside of classroom:

The following preparation and review may be required.

- Find articles and other materials related to the issues discussed in the lecture, summarize the author's arguments, and write a report in which you express your own thoughts.
- Submit reports summarizing your own opinions and answers to the exercises related to the lecture content.
- There is a possibility that you will make a presentation of the above in the lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria:

Usual performance points: about 45% (mid-term report, answers to exercises and reaction papers in the lecture. Active participation such as opinions in lectures.)

Final report: about 55%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)  
**キャリア研究調査実習 C(データで語るキャリア)** 展開科目

久保田 貴文

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

授業を通じて、就業を中心とする働くことに関する調査の実施方法について理解すると同時に、自分自身で調査を計画実施する際に必要なスキルを修得する。この授業では、既存の調査票を参照しながら、調査票の設計方法、対象者の選定や回答依頼方法、分析方法、考察、まとめ、そして報告・プレゼンするまでの一連の作業についてレクチャーし、その一部を体験することを通じて、量的調査のノウハウを身につける事を目標とする。

**【到達目標】**

- (1) 先行研究の調べ方、仮説・リサーチクエッションの立案ができるようになる
- (2) 調査票を作成出来るようになる
- (3) 統計データをグラフで視覚化することが出来るようになる
- (4) 簡単なデータ分析が出来るようになる
- (5) 得られた結果を報告出来るようになる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式で進めるパートと、個人またはグループでの実習形式で進めるパートで構成される。講義では調査を実際に行う際に必要となるスキルをレクチャーし、その一部について実習を行う。実習では、マイクロソフト・エクセルおよびマイクロソフト・パワーポイントを用いる。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方ならびに調査の概要を紹介する。また、論文の書き方について学修する (第1章：論文とは何か)。
第2回	統計グラフの基礎・作成 (1)	統計グラフとは何かについて学修し、実際の調査結果の表・グラフから統計データの視覚化について学修する。また、論文の書き方について学修する (第2章：科学と論文)。
第3回	統計グラフの基礎・作成 (2)	1変数の質的データの視覚化、1変数の量的データの視覚化を行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する (第3章：主題と対象)。
第4回	就労に関するデータの分析 (1)	2変数のデータの視覚化について行う。クロス集計、母比率の差の検定を行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する (第4章：はじめての調べ方)。
第5回	就労に関するデータの分析 (2)	代表値・散らばり、母平均の差の検定を行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、論文の書き方について学修する (第5章：方法論 (調査設計))。
第6回	就労に関するデータの分析 (3)	統計的検定について総まとめを行う。また、エクセルを用いた演習も行う。また、
第7回	就労に関するデータの分析 (4)	就労に関するデータの分析についてまとめを行う。論文の書き方について学修する (第6章：先行研究と学問体系)。
第8回	回帰分析	問いを設定し、答えを見つけるためのリサーチの計画を概観する。また、自身の考えた計画で回帰分析することを想定する。
第9回	量的調査	よくある量的調査について学修する。また、論文の書き方について学修する (第7章：方法 (メソッド))。
第10回	調査計画の立案	調査計画の立案の方法を学修する。
第11回	調査票の作成	調査票を作成する。

第12回	プレゼンテーション (1)	効果的なプレゼンテーションとは
第13回	プレゼンテーション (2)	発表スライドの作成
第14回	プレゼンテーション (3)	プレゼン大会を開催する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各回で情報機器を使った実習を行うため、授業後に実施内容について復習等が必要である (約4時間)。また、毎回の授業において次回の実施内容を説明するので、必要に応じて準備学習を実施すること (約2時間)。

**【テキスト (教科書)】**

指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

**【参考書】**

・基礎からわかる 論文の書き方 (講談社現代新書) / 小熊 英二  
 ・実例でよくわかる アンケート調査と統計解析 / 菅民郎

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な貢献度：50% (5%の課題を10回程度、主にレポート・論文の書き方についての課題、データ分析についての課題。各回の到達度をチェックする。)  
 レポートや課題の提出：50% (10%のレポートを5回。データ分析、アンケート調査計画、アンケート調査票、プレゼン資料、プレゼン (質疑を含む。))

**【学生の意見等からの気づき】**

特にマイクロソフト・エクセルを使った演習、量的調査の結果についての分析のスキルとその統計的な背景や考え方を十分に習得出来るように、演習の際に補助する予定である。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器を利用した授業であるが、持参の必要性については初回の授業にて指示する。オンライン授業になった場合には、マイクロソフト・エクセルを用いてデータ分析を実施し、マイクロソフト・パワーポイントを用いてプレゼンテーションの資料作成・実施するので、その準備が必要な場合がある。

**【その他の重要事項】**

実習を伴う科目のため、原則として初回の授業に出席のこと。(2回目からの出席の場合には、その旨を2回目、もしくは2回目までに相談のこと。)  
 春学期開講の科目である (2023年度以前は秋学期開講)。

**【生成AI使用について】** 当該科目については、統計処理、文章の作文、グラフの作成、プレゼンのための画像その他の素材においても、生成AIを使用して構わないが、その場合には何らかの方法でその旨を示すこと。

**【オフィスアワーについて】** オフィスアワーについては特段に設けては無いが、月曜日3限目はPTの教員室に滞在しているため、事前にアポを取っていただければ対応する。

**【Outline (in English)】**

Through lecture, learn how to conduct surveys related to carrier mainly in employment, and at the same time, acquire the skills necessary to plan and conduct research yourself. In this class, lectures will be given on a series of tasks from the design of the questionnaire, the method of selecting subjects and requesting answers, analysis methods, consideration, and summarization, while referring to the existing questionnaire, and experiencing some of them. Through this, the goal is to acquire the know-how of quantitative research.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 50%、in class contribution: 50%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**キャリア研究調査実習D (仕事とビジネスの質的研究)** 展開科目

岸田 泰則

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、仕事とビジネスの現場を調査することを通して、質的調査のプロセスを体感してもらいます。事前の十分な準備や適切な調査の実施、そして結果の丁寧な分析を行うことで、産業や労働におけるリアリティに迫ることができます。

**【到達目標】**

- ①インタビュー調査を実際に行うことで、質的調査の一連のプロセスを学びます
- ②産業・労働研究における質的調査の活かし方を学びます
- ③ゼミ論・卒論で質的調査を行うための実践的な能力を身に付けます

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

実習を中心に、講義を交えながら授業を行います。講義で質的調査の基礎を学んだうえで、インタビュー調査の実習に活かしていきます。調査の事前準備に始まり、調査の実施、調査結果の取りまとめといった一連のプロセスを実行していきます。調査テーマは、受講者の問題関心を参考のうえ設定します。課題等に対するフィードバックは、授業内で適宜行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標などの説明、インタビュー法の概説 (講義)
第2回	質的調査の概説 (1)	調査テーマについての概説 (講義と若干の実習)
第3回	質的調査の概説 (2)	インタビューの準備の概説 (講義と若干の実習)
第4回	質的調査の概説 (3)	インタビューの実施手法の概説 (講義)
第5回	質的調査の概説 (4)	インタビュー・データの分析にあたっての概説 (講義と若干の実習)
第6回	質的調査の概説 (5)	論文の執筆についての概説 (講義)
第7回	質的調査の活かし方	質的調査を用いた産業・労働研究の紹介 (講義)
第8回	質的調査の実践 (1)	調査対象の産業・企業の実状を把握するための予備調査 (実習)
第9回	質的調査の実践 (2)	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査 (実習)
第10回	質的調査の実践 (3)	仕事の現場を学ぶためのインタビュー調査 (実習)
第11回	質的調査の実践 (4)	調査から得た情報をもとに、記録文書の作成 (実習)
第12回	質的調査の実践 (5)	作成した記録文書の報告、共有 (実習)
第13回	質的調査のまとめ (1)	インタビュー調査の結果報告 (発表)
第14回	質的調査のまとめ (2)	インタビュー調査の結果報告 (発表)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

調査の準備 (調査対象の産業や企業に関する下調べ) と調査の記録文書の作成、調査の取りまとめを行います。準備学習・復習・宿題等の授業時間外の学習は、各回2時間が標準となります。

**【テキスト (教科書)】**

各回の授業において、事前に授業資料を配布します。

**【参考書】**

山口富子編、2023、『インタビュー調査法入門—質的調査実習の工夫と実践』 ミネルヴァ書房。  
梅崎修・池田心豪・藤本真編、2020、『労働・職場調査ガイドブック』 中央経済社。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (授業中の発言など) 50%、提出課題 (「授業時間外の学習」の成果) 50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度から授業担当者が変更となりましたので、フィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業資料 (パワーポイントのスライド) のアップロードなどで、授業支援システム Hoppii を使用します。

**【その他の重要事項】**

製造業で30年以上にわたる実務経験のある教員による授業です。実社会を随所に感じられるような授業にします。

**【Outline (in English)】**

In this class, students will experience the qualitative research process through interviews with working individuals and companies.

Through adequate preparation, proper implementation of the survey, and careful analysis of the results, students will gain insight into the realities of industry and labor.

The grading method and criteria will be 50% for the normal score (e.g., class remarks) and 50% for the submitted assignments (results of "learning outside of class time").

Students will be required to prepare for the survey (preliminary research on the industries and companies to be surveyed), prepare a written record of the survey, and summarize the survey as learning outside of class time.

The standard amount of study outside of class time for preparation, review, homework, etc. is 2 hours for each session.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**外書講読A (ビジネス)**

展開科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな専門文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた学術論文まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は格段に広がります。この授業では、当初、平易な経済文献を取り上げた後、「自然実験」と称される、近年、政策決定上重要視される方法を用いた研究論文に挑戦していきます。先端的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

**【到達目標】**

英語で書かれた専門的な文献(ジャーナルの文献)を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。科目の性格上、履修可能者数を30名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第1回目の授業に必ず出席してください。

なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	経済記事(1)	新聞の経済記事を読みます。
3	経済記事(2)	第2回目に続いて別の新聞の経済記事を読みます。
4	経済記事(3)	雑誌の経済記事を読みます。
5	経済記事(4)	第4回目に続いて別の雑誌の経済記事を読みます。
6	Christensen et al.(2022)(1)	p. 146を読みます。
7	Christensen et al.(2022)(2)	pp. 147-148を読みます。
8	Christensen et al.(2022)(3)	pp. 149-150を読みます。
9	Christensen et al.(2022)(4)	pp. 150-151を読みます。
10	Christensen et al.(2022)(5)	pp. 152-153を読みます。
11	Christensen et al.(2022)(6)	pp. 154-155を読みます。
12	Christensen et al.(2022)(7)	pp. 156-157を読みます。
13	Christensen et al.(2022)(8)	pp. 158-159を読みます。
14	本授業のレビュー	本授業のレビューを行います。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

開講時に指示します。

**【参考書】**

開講時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、次のとおりです。

- ①授業における発言、提出物: 80%
- ②期末試験: 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

英語を深く読むことができたという意見が多かったので、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

**【その他の重要事項】**

- ・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
- ・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
- ・受講希望者が30名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

**【Outline (in English)】**

**\*Course outline**

The aim of this course is to enable students to read academic literature in English. Our field of vision will be broadened if you can read literature in English. No basic knowledge is required. I am looking forward to your challenge.

**\*Learning Objectives**

The goal is to be able to read academic literature in English on your own. The content of the class will be tailored to each student's level, so even those who have difficulty with English are encouraged to take the class.

**\*Learning activities outside of classroom**

Students are required to read the assigned paragraphs before class. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 80%, Term-end examination: 20%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

外書講読 B (ビジネス)

展開科目

杉原 弘恭

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスに必要な知識の基礎を広範に学びつつ、世界標準化している英米のビジネス様式の背景を探ります。

なぜ同じ事柄に関して英文契約書は厚く、日本の契約書は薄いのでしょうか？ また英文契約書において似た意味の動詞を2つ並べて使う意味は？ Steve Jobs が「アップルはTechnologyとLiberal Artsの交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの人々が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。それらは英語の原文を見て理解することで意味がわかります。

また、アメリカでは民間企業でありながら、環境や社会分野での公益提供するBenefit Corporationという新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような企業の役割を社員の内発的動機づけと同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進めて行きます。

【到達目標】

ビジネスに必要な概念をその背景と共に原文でマスターするとともに、キャリアデザインの基本に位置するモチベーション3.0などの考え方を理解することを目標とします。これらがcapable communication, ひいてはいのちの経営(生涯学習とキャリア形成)の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

出典や詳細な解説を行った資料を毎回支援システムの「教材」で配布します。講義ではそれを用いてポイントを説明していきます。

毎回、講義後に資料の英文をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paper(下記参照、以下RPという)を提出してください(学習支援システムの「テスト/アンケート」を使用)。なぜ音読しながら目を読むことが大事かは第1回目と2回目の講義でわかります。

講義に出席できない回は、オンデマンドで資料を読んでRPを提出してください。それらに対するfeedbackは主に次の回の冒頭で行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のパースペクティブとネットワーク等を理解する。
第2回	国際ビジネスの背景にある違いは何か	法律(Common lawと大陸法)の違いと意思決定システムの違いを知る。
第3回	英語と日本語のcommunication構造	3層構造を意識する。英文契約書の世界観を知る。
第4回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal ArtsとServile Artsの反映を知る。
第5回	日米雇用システム比較	雇用慣行の違いと変化、経済情勢、国際法との関係。アメリカの大学制度。為替と金利の基礎を知る。
第6回	AIと雇用	情報、AIの基礎知識と雇用との関係を知る。

第7回	21世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る。
第8回	組織のアーキテクチャ	組織とは何か？ ネットワークとの関係などを知る。
第9回	組織と4つの失敗	市場・政府・ボランティアの失敗、相関と因果、統計の歴史を知る。
第10回	21世紀の会社と協同組合	アメリカと日本の会社の基礎知識とBenefit Corporation、協同組合を知る。
第11回	責任を表す言葉とその源流	ビジネス、アダム・スミスと聖書にみるAccountability。アカウンタブルであるためには？
第12回	DrukerのManagement	MBO-S, SWOT, PDCAなどを理解する。
第13回	Management by commitment	commitmentの重要性、経営の語源、Innovation, Value chain, Co-creationなどを理解する。
第14回	Work Motivation 3.0とTransformation	外発的・内発的動機づけと脳の仕組みを知る。外発的・内発的発展もあわせて知る。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義後に資料の英文をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paperを提出してください。

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがまあります。日頃から他に意味はないのか？ Why?

What if? (もし〜としたらどうなるだろうか) などと考えるクセをつけるようにしてください。

授業の準備学習・復習時間は4時間が標準です。

【テキスト(教科書)】

支援システムの「教材」で、毎回詳細な講義資料を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「ITパスポート」には、(本講義を含めて)辞書代わりに使える『よくわかるマスターITパスポート試験対策テキスト』(FOM出版)がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

Reaction Paper 80%、最終回のTest 20%を予定。

ただし、Testは講義内容の確認の意味がありますので、Reaction PaperとTestの片方の場合は、E(未受験・採点不能)となります。Reaction Paperは白紙提出は未提出扱いで、下記片方に記載がないものは1/2評価。積極的な考察や情報提供には加点があります。最終回のTestは2～4肢択一式と論述を予定。

Reaction Paperの項目:

- 1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？(箇条書き)
- 2) 1)に関する考察・質問・感想・要望など(引用して意見を述べたり質問されるときは、出典を示してください。)

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布の講義資料は、出典や詳細な解説を行っていますので講義に出られない回も読むことでReaction Paperの提出は可能です。なお、就活にも有用な知識を得られるテーマは早い時期に持ってきています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連資格：ITパスポート(一番取得しやすい国家試験で、毎月PC受験可能)IT化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が活かれます！

「実務経験のある教員による授業」です。

元政府系銀行員で外債発行業務やアメリカで米国銀行勤務経験などの国際業務経験、また実際に中小企業だった某半導体メーカーの上場に至る育成業務等は本講義の裏付けとして大いに生かされています。大蔵省に勤務していたときは、NBER Summer Instituteにも参加しました。また、社会人として博士号(工学)を取得していますがそのあたりのアドバイスもできるとと思います。

**【Outline (in English)】**

(Course outline)

The aim of this course is to learn widely the basics of business knowledge and explore the background of English business styles, which are becoming the international standard.

Why are English contract documents thicker and Japanese contracts thinner on the same subject? What is the significance of juxtaposing two verbs with similar meanings in an English contract?

How many people understood when Steve Jobs said, "Apple tries to be at the intersection of technology and the liberal arts"? The Japanese translation has been mistranslated. They make sense by looking at and understanding the original English text.

In the U.S., there is a new corporate system called Benefit Corporation, which is a private company that creates public benefit in the environmental and social fields. These companies tend to try to synchronize such external roles with employees' intrinsic motivations.

This course is designed to provide a multi-dimensional understanding of the international macroeconomic situation surrounding corporations as well as the human condition, with reference to the original English sources.

(Learning Objectives)

Students are expected to master the concepts and background necessary for business with English, and to understand concepts such as Motivation 3.0, which is the basis of career design. We hope that this will be helpful for you to understand the concept of "Capable Communication" and "Management of Lifelong Learning and Career Development".

(Method and Learning activities outside of classroom)

The materials with sources and detailed explanations will be distributed in the "Resources" section of the Learning Support System each time.

The lecture will use these materials to explain the main points of the course.

After the classroom lecture, please read through the materials again while reading aloud the English text of the material and submit a Reaction Paper (hereinafter referred to as "RP") (using the "Test/Questionnaire" in the Learning Support System).

You will see in the first and second lectures why it is important to read aloud while reading with your eyes.

If you cannot attend the lecture, please read the materials on demand and submit the RP. Feedback will be given mainly at the beginning of the next class.

Translated words that seem to be technical terms in Japanese often turn out to be everyday terms in the original language. You should always ask yourself, "Is there any other meaning? Why? What if? "

The standard preparation and review time for the class is 4 hours.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process:

Reaction Papers on each lecture (80%), term-end examination (20%), on condition of submitting both.



MAN200MA (経営学 / Management 200)

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて考えます。ワーク・ライフ・バランスへの配慮や雇用形態の多様化は、評価しうるものなのか、どこに課題があるのか、理解を深めることを通じて、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、働き方の改善に社会人としてみずからかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。雇用形態の多様化が若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。まともな働き方を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを計6回、授業内外で書きます。雇用と労働をめぐる歴史的推移と現状を理解した上での考察であることを重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。加えて中間と期末、2回の授業内試験(論述試験)を実施します。

初回の授業はオンライン (Zoom) で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介 (Zoomで実施)
2	男女雇用機会均等法とコース別雇用管理	男女雇用機会均等法の歴史とコース別雇用管理の実態
3	企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化
4	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
5	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ/企業と労働者の双方から見る非正規雇用
6	非正規雇用の処遇改善/雇用によらない働き方	無期転換と同一労働・同一賃金/雇用によらない働き方の特徴と課題
7	中間試験	中間まとめと中間試験実施
8	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
9	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
10	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
11	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マス
12	転職を考える	転職をめぐる課題と企業の対応
13	雇用の保障とキャリアの保障	離職・転職と雇用の保障・キャリアの保障
14	期末試験	まとめと期末試験実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読 (WEB版の有料購読を含む) を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎 (2009) 『新しい労働社会』 岩波新書
- ・濱口桂一郎 (2013) 『若者と労働』 中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎 (2015) 『働く女子の運命』 文春新書
- ・川人博 (2014) 『過労自殺 第二版』 岩波新書
- ・メアリー・C・プリントン (2022) 『縛られる日本人』 中公新書
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」
- ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子 (2017) 『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ&A』 旬報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で計6回実施するミニ・レポート (配点50点) と中間試験 (配点20点)、期末試験 (配点30点) により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは中間試験・期末試験において代筆・剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない (E評価とする)。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

働き方をめぐる歴史的な変化と今日的な働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

ミニ・レポートのフィードバックに加え、授業時間内における質疑応答も取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。オンラインの授業はZoomで行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 50%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 30%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

人材育成論 I

展開科目

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人材育成論 I では、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1)日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2)日本の組織における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3)職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

人材育成論 I の概要と方法は、人材育成=①<狭義：職業能力の訓練= OJT + OFF-JT + 自己啓発> +②<広義：組織内でヒトが育つ環境=人的資源管理+組織> +③<最広義：ヒトが育つ社会環境：家庭+学校+地域全体社会+労働市場> という枠組みの中で、①と②を中心にその基礎を学びつつ、③への視野の拡大をはかってもらうことにあります。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示します。

初回授業実施日は、4月22日(水曜)3時限としますが、時間非限定形式の開催とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第2回	日本の人材育成システムの特徴——国際比較の視点から	1 日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与が高い 2 学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3 教育システムと雇用システムの補完性

第3回	能力開発とキャリア——これからのキャリア形成	1 これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成 2 能力開発の方法：OJT、Off-JT、自己啓発 3 企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第4回	技術革新と技能の変化	1 学説：高度化説と単純化説；技術決定論と社会決定論 2 戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメーション化、ME化段階、IT化段階、AI段階 3 情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4 情報技術の進展と新しい働き方——テレワーク
第5回	女性の職域とキャリア形成	1 性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2 国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3 職域統合へ向けて：M字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジティブアクション
第6回	失業・転職とキャリア形成	1 失業について：失業者の定義 2 失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3 転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要さ
第7回	若者のキャリア形成——学校から職場へ	1 「就社」社会とその得失 2 初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3 若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第8回	非典型労働者のキャリア形成	1 非典型雇用の様々な働き方 2 企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3 働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4 問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第9回	高齢化とキャリア形成	1 高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2 定年制とライフスタイルの変化；就労・非就労の規定要因 3 安定した高齢期生活を支える政策課題：高齢者雇用安定法の改正
第10回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1 「ホワイトカラー」とは：職業大分類の4つの職種の総称 2 企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ(昇進)とヨコ(異動) 3 国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4 人材育成からみたポイントと課題

第11回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1 専門的・技術的職業従事者の増加 2 技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3 研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4 日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第12回	中小企業労働者のキャリア形成	1 中小企業の労働市場の特徴 2 中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3 中小企業従業員の就業意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4 事業主からみたましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第13回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1 いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2 仕事と生活が両立しにくい現実 3 WLBを支える制度及び現状と目標 4 WLB施策実現にむけての課題——仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第14回	講義のまとめと試験について	1 講義全体の振り返りとまとめを行う 2 定期試験の傾向と対策 3 受講生との質疑応答

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.  
(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.  
(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.  
【Learning activities outside classroom】  
Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.  
【Grading Criteria/Policy】  
Attendance points 30 points. 20 interim reports. Final report (or exam) 50 points.  
If there are major changes, we will contact you via the learning support system.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣（2014年）に準拠しているので、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましい。

**【参考書】**

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011年）、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を購入し、併読することが望ましい。

**【成績評価の方法と基準】**

・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようである。  
出席点30点。中間レポート20点。期末レポート（もしくは試験）50点。  
なお、大きな変更がある場合は、学習支援システムで連絡する。

**【学生の意見等からの気づき】**

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

人材育成論Ⅰと人材育成論Ⅱをあわせて受講することが望ましい。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop thier skill.

**【Learning Objectives】**

MAN200MA (経営学 / Management 200)

人材育成論Ⅱ

展開科目

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。(2) 日本における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。
- (4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じた日本の特徴についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。

講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ——人材育成論Ⅱの 進め方	講義の進め方、概要、成績評価の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第1回から第6回までを、また後半とは第7回から第13回までを指します。
2	組織のなかで人を育てるといふこと	第2回では、以下のことを学びます。 1 組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2 人材育成を考えるための枠組み 3 人材開発の実践モデル 4 人材開発の二つの視点 5 企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6 日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題

3	日本企業の人材育成の特徴とは—— OJT、Off-JTと人事制度の関係	第3回では以下のことを学びます。 1 職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2 日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JTの意義と課題 3 企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4 マネージャーやリーダーの育成 (プレイングマネージャー)
4	大企業の人材育成の事例	第4回では以下のことを学びます。 1 人事制度と教育訓練体系の事例 2 教育訓練体系の概要：フォーマルなOJTとインフォーマルなOJT 3 インフォーマルなOJTとしての職場学習：仕事管理のPDCAサイクル 4 インフォーマルなOJTとしてのキャリア：大企業部長のキャリア事例
5	大企業マネージャーのキャリア形成	第5回では以下のことを学びます。 1 インフォーマルなOJTとしてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3 インタビュー調査の対象と調査項目 4 マネージャーの育成に必要なもの
6	タレントマネジメントとリーダー人材育成—これまでの人材育成の課題	第6回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成について学びます。
7	雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較——日本の位置と特徴	第7回から第13回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。第7回は以下のことを学びます。 1 スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2 職業教育訓練 (VET) の国際比較研究 3 日本の位置と特徴
8	企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律	第8回では以下のことを学びます。 1 企業コミュニティと個人のキャリア 2 内部労働市場の生成と衰退 3 キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 4 企業コミュニティの変化と初期キャリア 5 企業コミュニティの変化と中期キャリア 6 企業コミュニティの変化と後期キャリア 7 「新しい」コミュニティとキャリア形成

9	企業コミュニティと人事方針及び人材育成——実証データによる英独日比較	<p>第9回では以下のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 労働者の意識についての国際比較研究（一覽）</li> <li>2 人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較</li> <li>3 「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？</li> <li>4 人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？ —英独日比較</li> <li>5 考察とまとめ——日本と英独との差異の背景にあるものは何か？</li> </ol>	<p>14 人材育成論Ⅱのまとめ</p> <p>講義全体の振り返りとまとめを行います。 定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。 学生との質疑応答を行います。</p>
10	ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較——大企業管理職を中心に	<p>第10回では以下のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究</li> <li>2 ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア</li> <li>3 リーダーシップの特定と開発——</li> <li>4 イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観</li> <li>5 望ましいキャリアコース</li> </ol>	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。</p>
11	職業資格の日本の特質——独英との比較を中心に	<p>第11回では以下のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の職業資格制度の理念と概要</li> <li>2 職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連——ドイツの特徴と日本の特徴</li> <li>3 職業資格制度と労働市場との関係についての研究</li> <li>4 教育制度と職業資格との関連——日独比較、日英比較の視点から</li> <li>5 まとめ——教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性</li> </ol>	<p>【テキスト（教科書）】 講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016年）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』中央経済社、2022年を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約したpptレジメを配布（配信）する。また人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。</p>
12	職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化——ドイツとの比較を中心に	<p>第12回では以下のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 今回のフレームワーク——ドイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム</li> <li>2 ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化</li> <li>3 日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化</li> <li>4 まとめ</li> </ol>	<p>【参考書】 人材育成論Ⅰの内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣2004年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂2011年を併読をお勧めする。</p>
13	日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意	<p>第13回では以下のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見</li> <li>2 日本の特徴の意味するもの——生涯学習（リカレント教育）に対する含意</li> <li>3 日本の特徴の歴史的背景——徒弟制の歴史にみる英独日の差異</li> <li>4 最後に——日本の課題</li> </ol>	<p>【成績評価の方法と基準】 1 毎回の授業への参加が30点です。 2 授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は20点です。 3 期末に定期試験を実施する。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は50点です。</p>
			<p>【学生の意見等からの気づき】 各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。</p>
			<p>【授業中に求められる学習活動】 C,D</p>
			<p>【Outline (in English)】 【Course outline】</p>
			<p>In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.</p>
			<p>【Learning Objectives】 The learning goals of this class are as follows.</p>
			<p>(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages. (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations. (3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development. (4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.</p>
			<p>【Learning activities outside of classroom】 Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.</p>
			<p>【Grading Criteria /Policy】 1 Participation in each class is 30 points. 2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.</p>

We plan to conduct a regular test at the end of the term, but it may be a term-end report depending on the infection status of the new corona. The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**産業・組織心理学 I**

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

**【到達目標】**

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持てるようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別の関係性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人間の暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

山口裕幸・金井篤子編

『よくわかる産業・組織心理学』2007年、ミネルヴァ書房

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト 80%

授業内で実施するリアクションペーパー 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

前回の授業についてでた質問について、よりわかりやすく解説する

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

**【その他の重要事項】**

授業計画は予定となります。1-2回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性があります。

**【Outline (in English)】**

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、Short reports :20%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**産業・組織心理学Ⅱ**

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

**【到達目標】**

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリア発達段階の理論と職業興味理論について紹介します
第3回	キャリアを理解する②	キャリア探索段階におけるインターンシップの意義について紹介します
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリアについて紹介します
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの成功とは何かについて紹介します
第6回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第7回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第8回	ダイバーシティ①	WLBの考え方と企業の施策の動向を紹介します
第9回	ダイバーシティ②	男性の子育て参加と育児休業取得について紹介します
第10回	ダイバーシティ③	女性ならびにシニアの活用について紹介します
第11回	ダイバーシティ④	ダイバーシティ経営の課題について紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習①	働く人の学習について紹介します
第13回	職場の学習・職場以外の学習②	企業の育成の広がりについて紹介します
第14回	まとめ	授業全体を振り返ります

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しない

**【参考書】**

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書  
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

**【成績評価の方法と基準】**

期末テスト 80%  
授業内で実施するリアクションペーパー 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

zoomでの授業実施時に、これまでに授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む機会を作るようにします。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で用いるPPTを事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

**【その他の重要事項】**

1-2回外部講師による講演を実施する可能性があります。

**【Outline (in English)】**

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management. The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、Short reports :20%



MAN200MA (経営学 / Management 200)

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。

今、社会は大きく変化しています。「人生100年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、ビジネスキャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必要性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学のwebサイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしてることが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する。
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題

9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病気治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスピードについてこれられません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う (第2版)』(中央経済社)です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介いたします。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容 (ミニレポート形式、内容も重視する) を加味して評価します。

期末試験60%、平常点40%。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**リーダーシップ論**

展開科目

佐野 達

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャングルとよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。

本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

**【到達目標】**

- ・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
- ・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
- ・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・講義形式を基本とする。
- ・一部の講義では、可能な範囲で演習(グループディスカッションやグループ・ワーク)を行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
- ・課題のフィードバックとして、全体的な概要について講義で解説する。
- ・受講者数等によって変更することがある。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第2回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？ リーダーシップの定義を紹介する
第3回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第4回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第5回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第6回	新たなリーダーシップ研究④	交流的アプローチによる研究を紹介する
第7回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第8回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第9回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバント・リーダーシップ研究を紹介する
第10回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する

第11回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について紹介する。
第12回	リーダーシップ演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第13回	リーダーシップ演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第14回	講義のまとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること。授業時間内課題のふりかえり、授業時間外の課題に取り組み提出すること。  
(本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。)

**【テキスト (教科書)】**

【新版】グロービスMBAリーダーシップ,グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社 ;2014)

**【参考書】**

最強のリーダーシップ理論集中講義,小野善生,(日本実業出版社)  
リーダーシップ入門,金井壽宏,(日本経済新聞社)  
M.M. チェマーズ,リーダーシップの統合理論 (北大路書房)

**【成績評価の方法と基準】**

- ・期末試験 (60%)
- ・授業内課題ワークシート・レポート等 および 授業活動への貢献度 (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・情報機器 (パソコンもしくは大型のタブレットを推奨)
- ・資料の事前配布および課題提出のために学習支援システムを使用することがある。
- ただし、授業中は情報機器の使用を前提としない。

**【その他の重要事項】**

- ・授業中の私語は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
- ・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

**【Outline (in English)】**

Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also groupdynamics.

In this class students will be aware of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding the foundation of leadership theories.
- B. Understanding the foundation of group dynamics.
- C. Deepening the understanding of and developing one's Leadership Styles.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting and to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports(Worksheets) and in-class contribution: 40%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**経営統計論A (心理データ)** 展開科目

鎌倉 哲史

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。このようなスキルは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差の把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握等で活用されます。実際には、調査対象者の行動データや質問紙等の回答データを集約し、得られたデータに対する統計処理を通じて、仮説の検証や傾向の把握を行っています。この一連のプロセスや、得られた結果の解釈方法等を、講義や実習 (excel等のソフトを使用する) を通じて習得します。

**【到達目標】**

統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。  
質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。  
代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。  
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。  
分析結果を正確に記述 (解釈) できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査の一連のプロセスを統計処理のスキルを含めて獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学びます。次に、得られたデータの集計方法 (例：サンプル数、平均値、標準偏差) のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈について学習します。その後、目的に応じたデータ分析手法を紹介します。

質問紙調査でよく用いられる基礎的な分析手法として、集団間の比較のための単変量比較であるt検定、分散分析、 $\chi^2$ 検定等があり、複数の説明変数 (独立変数) によって1つの目的変数 (従属変数) を説明・予測する重回帰分析があります。この授業ではこれらの基礎的な分析手法を学ぶことに重点を置きます。

一方、心理学の論文を読む上ではロジスティック回帰分析、クラスター分析、因子分析、共分散構造分析 (構造方程式モデリング) 等についても最低限の知識が必要となります。これらについてはひとまず論文を「読める」ようになることを目指します。

毎回、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次の授業の冒頭で行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等についての説明、データとは、尺度水準
第2回	1変数の標本統計量	代表値 / 散布度 / 標準化
第3回	2変数の関係	クロス集計表 / 連関係数 / 散布図 / 共分散 / 相関係数 / 尺度水準に応じた統計量
第4回	相関と回帰	回帰の考え方 / 回帰係数 / 残差 / 決定係数
第5回	相関と因果	因果関係 / 疑似相関 / 相関的研究と実験的研究

第6回	実験的研究と要因計画	実験的研究の変数・要因と水準 / 要因の主効果と交互作用 / 群内・群間・混合計画 / 効果量
第7回	母集団と標本	標本の抽出 / 母数と統計量 / 確率と推測統計
第8回	統計的推定	推定量とその性質 / 標準誤差 / 点推定から区間推定 / 信頼区間 / エラーバー (推測統計学の結果の可視化)
第9回	統計的仮説検定	帰無仮説と対立仮説 / 2種類の過誤 / 帰無仮説検定の具体例 / さまざまな検定の例
第10回	平均値の差の検定	2つの平均値の差の検定の利用場面 / 独立した2群の (対応のない) 平均値の差の検定 / 対応のある平均値の差の検定 / 差の効果量 / 平均値の差の検定結果の読み取り
第11回	分散分析	分散分析 / 1要因多水準の分散分析 / 2要因の分散分析 / 単純効果 / 分散分析の結果の読み取り
第12回	統計的仮説検定の注意点	片側検定と両側検定 / 検定の多重性 / 検定の仮定・補正方法 / ノンパラメトリック検定
第13回	重回帰分析	重回帰分析 / 標準化係数 / 回帰係数の推定・検定 / 重回帰分析の注意点 /
第14回	その他の分析手法	心理学論文で見られるその他の分析手法に関する紹介と解釈方法

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

実習が時間内に終了しなかった場合、次の授業までに取り組みしておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特定の教科書は使用しません。

**【参考書】**

特に参考書の指定はありません。授業中に適宜参考文献等を示し、授業終了後に意欲のある方は発展的に調べられるようにします。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・授業への積極的な貢献度とミニテスト：60%
- ・学期末のレポート課題：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

**【その他の重要事項】**

クラス (教室) の収容人数を超える履修希望がみこまれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

This course is designed to deepen students' knowledge of statistical surveys while acquainting them with survey procedures, analytical methods, and methods for interpreting results.

< Learning Objectives >

Acquire knowledge of statistical data and statistical surveys. To be able to perform the procedures necessary for surveys, such as questionnaire design, data collection, and statistical processing.

Understand the aims and mechanisms of typical statistical analysis methods.

To be able to select appropriate statistical methods according to the purpose and data.

To be able to accurately describe (interpret) the results of analysis.

< Learning activities outside of classroom >

If the practical training is not completed in time, it must be worked on before the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Positive contribution to class and mini-test: 60%.

End of semester report assignment: 40%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**企業会計論**

展開科目

**松本 徹**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「黒字決算」「売上」「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

**【到達目標】**

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

最新の事例を盛り込みながら、主に講義形式で行っていきます。まずは各章のウォーミングアップで講義内容の概略を示し、本文およびパワーポイント資料で基本的会計用語・時事問題などを学びます。その際は各自で事前に会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次に各章のクールダウンで総括を行い、各講義の最後に行う授業内ミニテストを解いて講義内容の確認と応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含まれます。なおこの講義は、対面で実施します。また授業内ミニテストの総評等については、適宜授業内で紹介します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (オンデマンド授業)	本講義の主題と到達目標を説明します。資料をポータルサイトの教材に添付しておきますので確認してください。
第2回	会計の守備範囲	企業会計の対象と簿記一巡について学びます。
第3回	損益計算書(1)	損益計算書の表示方法について学びます。
第4回	損益計算書(2)	収益、費用の測定方法について学びます。
第5回	貸借対照表(1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
第6回	貸借対照表(2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
第7回	中間試験・解説 会計を取り巻くルール	中間試験を実施し、解説します。金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
第8回	会計の開国	会計基準について学びます。
第9回	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
第10回	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。

第11回	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
第12回	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
第13回	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
第14回	期末試験・解説および本講義のまとめ	期末試験を実施し、解説します。また本講義の学習内容について要約・整理します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習として各章のウォーミングアップを読んでください。わからない用語は各自で調べてください。復習・宿題等として授業内ミニテストの見直し等を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とします。また、日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進みますので、授業の進行に合わせて各自が興味のある企業について調べてください。

**【テキスト（教科書）】**

鈴木一道『会計学はじめの一步』第2版 中央経済社 2,000円  
その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

**【参考書】**

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

**【成績評価の方法と基準】**

授業内に実施する中間・期末試験70%（中間・期末試験各35%）、ミニテスト（またはレポート）30%により評価します。授業をしつかり聞くとともに、積極的に授業参加することが必要です。なお各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とほぼ同じ答案とみなされる場合やテキスト・ネットなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べたものを自分の言葉で書きましよう。

**【学生の意見等からの気づき】**

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

**【Outline (in English)】**

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting. It'll be also useful in case of job hunting.

The aim of this course is to help students acquire knowledge of corporate accounting.

This goals of this course is to understanding of various accounting.

Before/after each class meeting, students will be to spend two hours to understand to the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (in-class):70% Small tests(reports):30%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**経営統計論B (企業データ)** 展開科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義では、大量の経営・企業データを、パソコンを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excelの基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立つちます。

**【到達目標】**

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、統計を用いた専門的論文を読めるように指導します。高度な統計学は扱いません。あくまで統計分析の基礎を、実践で使えるようになることを目標に置きます。また、経済・経営のデータに精通できるように指導します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを体験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めていきますが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフトRの基本操作について学びます。
3	記述統計(1)	中心的尺度(平均、中位数、最頻値)について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計(2)	ちらばりの尺度(レンジ、分散、標準偏差)について企業データを用いて学びます。
5	記述統計(3)	標準化(Z値)について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計(4)	2変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析(1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析(2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変数により理解できるようになります。
9	回帰分析(3)	ダミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。

10	回帰分析(4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析(5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定(1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定(2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。
14	各種検定(3)	回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

開講時に指示します。

**【参考書】**

開講時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

- ①授業における発言、取り組み: 30%
- ②授業内および期末レポート: 70%

**【学生の意見等からの気づき】**

統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

**【その他の重要事項】**

- ・本講義は、「キャリア研究調査法(量的調査)」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
- ・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法(量的調査)」を履修していない人でも大丈夫です。
- ・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

**【Outline (in English)】**

**\*Course outline**

The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.

**\*Learning Objectives**

The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.

**\*Learning activities outside of classroom**

If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.  
in class contribution: 30%, short and long reports: 70%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**経営組織論 I**

展開科目

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人及び小集団に焦点を当てて学んでいく。

**【到達目標】**

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方 (認知システム) や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論 (1)	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論 (2)	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践 (1)	動機付けの実践/MBO (目標による管理) 他
10	動機付けの実践 (2)	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人の意思決定 (1)	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人の意思決定 (2)	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動 (1)	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動 (2)	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

ステイーブンP.ロビンズ (高木晴夫訳) 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

**【参考書】**

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストのglobal versionです)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験で90%評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでいきます (決定次第、授業支援システムで告知します)。

また、授業中の小課題で10%の加点を行います。

成績評価基準は以下の通りです。

**A+**

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

**A-以上**

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

**B-以上**

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

**C以上**

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

**D以下**

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

**【学生の意見等からの気づき】**

具体的な事例などを取り上げつつ、できるだけわかりやすい授業を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

**【Outline (in English)】**

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focuses on individuals within the organization.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.

Outside of classroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

**A +**

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

**A-below**

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

**B-or higher**

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

**C or above**

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

**D or less**

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ヒトを動かす、組織を動かす、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

### 【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション (1)	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション (2)	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ (1)	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ (2)	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発 (1)	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発 (2)	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

ステイブンP.ロビンズ (高木晴夫訳) 『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

### 【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストの global version です)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験で90%評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでいきます (決定次第、授業支援システムで告知します)。また、授業中の小課題で10%評価します。

成績評価基準は以下の通りです。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的な事例、手法などを示すことによってわかりやすい授業を心がけていきます。

### 【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.

The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.



MAN200MA (経営学 / Management 200)

**戦略経営論 I**

展開科目

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

概要

戦略経営論の基礎として経営戦略に関する主な理論を学ぶ。また、デジタル・トランスフォーメーションが戦略形成に与える影響に関する最近のトピックおよび研究結果を学ぶ。

到達目標

- ・経営戦略に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- ・デジタル・トランスフォーメーションに関する基礎用語を説明できる。
- ・企業のビジネスモデルを分析できる

**【到達目標】**

以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。

- ・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
- ・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
- ・企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションと人工知能技術に関する基礎的な用語を説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義、リアクションペーパーによる個人ワーク、グループディスカッション

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	戦略的経営とは	戦略的経営の全体的フレームワーク
第3回	外部環境分析	P E S T L E分析、ファイブフォース分析
第4回	内部環境分析	資源ベース視点。V R I Oフレームワークによる分析法
第5回	SWOT分析	SWOT分析の方法と実践
第6回	事業戦略 (1)	差別化戦略
第7回	事業戦略 (2)	コスト・リーダーシップ戦略
第8回	企業戦略	多角化戦略。アンゾフマトリクスを用いた分析法
第9回	ビジネスモデル (1)	ビジネスモデルの定義と主なタイプ
第10回	ビジネスモデル (2)	ビジネスモデル・キャンパスを用いた分析法
第11回	デジタル・トランスフォーメーション (DX)	DXの定義・特徴とビジネスへの応用例
第12回	ダイナミック・ケイパビリティ	ダイナミック・ケイパビリティの定義、DXへの応用
第13回	戦略形成の現代的課題	DXがもたらす戦略形成上の課題
第14回	まとめ	総括と理解度確認

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・講義スライドによる事前学習 (各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う)。
- ・講義内容の復習 (各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う)。
- ・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

講義スライド (学習支援システム上にて配付)

**【参考書】**

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

**【成績評価の方法と基準】**

授業内課題 (配点20%)

期末試験 (配点80%)

実施形式：選択式。参照不可

評価基準：

- ・経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
- ・経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
- ・経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
- ・企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションに関する基礎的な用語を説明できる。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度に引き続き、各回とも講義→グループ・ディスカッションまたはグループワーク→フィードバック、の構成を主とする。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

**【その他の重要事項】**

期末試験の回答内容において他の学生と著しい類似性が見られたときは、該当する学生に対して別途、口述試験により理解度の確認をする場合がある。

**【Outline (in English)】**

Couse outline

This course covers basic constructs and theories of corporate strategy and business strategy, focusing on strategy formation. It also covers the impact of digital transformation on strategy formation.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can explain basis terms of digital transformation.

Can analyze a firm's business model.

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

In-class Assignment: 20%

Final exam: 80%

Assess whether learners can

1. Explain the basic constructs and theories of strategy formation

2. Explain the basic terms of digital transformation

3. Interpret business cases using the framework learned in this course

focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**戦略経営論Ⅱ**

展開科目

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

概要

戦略経営論の基礎として意思決定、戦略実行に関する主な理論を学ぶ。  
到達目標  
・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。  
・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。  
・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

**【到達目標】**

以下の能力を習得することにより、戦略実行に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。  
・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。  
・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。  
・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義、リアクションペーパーによる個人ワーク、グループディスカッション

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第2回	意思決定 (1)	意思決定のプロセス、意思決定のモデル
第3回	意思決定 (2)	意思決定におけるバイアス
第4回	意思決定 (3)	意思決定における倫理
第5回	組織内パワー (1)	パワーの定義、5つのパワー
第6回	組織内パワー (2)	パワーの社会学理論、心理学理論
第7回	組織内パワー (3)	リーダーとの関係性と組織内パワー
第8回	組織内政治 (1)	組織の政治的性質、政治行動のタイプ
第9回	組織内政治 (2)	組織内政治知覚モデル
第10回	組織内政治 (3)	政治スキルとその効果
第11回	イシュー・セリング (1)	注目ベースの組織理論、イシューセリングモデル
第12回	イシュー・セリング (2)	組織内での提案の方法
第13回	戦略実行の現代的課題	意思決定、パワー、組織内政治の要点
第14回	まとめ	総括、理解度確認

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・講義スライドによる事前学習 (各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う)。  
・講義内容の復習 (各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う)。

・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

講義スライド (学習支援システム上で配付)

**【参考書】**

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

**【成績評価の方法と基準】**

**【成績評価の方法と基準】**

授業内課題 (配点20%)

期末試験 (配点100%)

実施形式：選択式、参照不可

評価基準：

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度に引き続き、各回とも講義→グループ・ディスカッションまたはグループワーク→フィードバック、の構成を主とする。

**【Outline (in English)】**

Couse outline

This course covers basic constructs and theories of strategic decision making and strategy implementation. It also covers power and politics within an organization.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of strategic decision making, power and politics within organizations.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

In-class Assignment: 20%

Final exam: 80%

Assess whether learners can explain the basic constructs and theories of decision making, power and politics within organizations.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**経営分析論 I**

展開科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

企業は、貸借対照表および損益計算書等を公表しています。企業を理解するには、これらの財務諸表を読むことは必須です。この授業では、貸借対照表・損益計算書がどのように作られているのか、その基礎を学びます。さらにそれらの分析方法の基礎を学びます。

**【到達目標】**

貸借対照表、損益計算書はなぜ公表されているのか、またどのように作られているのか、さらにそれらの分析方法の基礎を習得することを目標にします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

会計処理方法等の説明を行った上で、各自、実際に計算などを行って理解していくことを重視して進めていきます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	会計の意義	会計の意義について学びます。
3	簿記の手続	簿記の手続の概要について学びます。
4	資産会計 (総論)	資産会計の全体について学びます。
5	資産会計 (流動資産)	流動資産について学びます。
6	資産会計 (有形固定資産)	有形固定資産について学びます。
7	資産会計 (無形固定資産・投資その他の資産)	無形固定資産・投資その他の資産について学びます。
8	中間レビュー	第7回までの学習内容についてレビューを行います。
9	負債会計 (総論・流動負債)	負債の全体および流動資産について学びます。
10	負債会計 (固定負債)	固定負債について学びます。
11	資本会計	資本会計について学びます。
12	損益会計	損益会計について学びます。
13	財務会計の展開	財務諸表のディスクロージャー、監査、サステナビリティ開示等について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・復習をこまめに行うことが知識の定着に有効です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

川村義則『会計学』(放送大学教育振興会)

**【参考書】**

開講時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は次のとおりです。

①平常点10% (授業内のQuiz、レポートの得点)

②定期試験90%

**【学生の意見等からの気づき】**

・抽象度の高い概念について、具体的な事例を用いた説明をすることを心がけます。  
・また、実例を多く取り上げ、受講者が主体的に取り組めるように工夫します。

**【その他の重要事項】**

・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。  
・本講義は、経営分析IIの基礎となります。会計学は専門性が高いですが、一度身に着けると、ずっと使うことができるやりがいのある勉強です。

**【Outline (in English)】**

**\*Course outline**

Listed Companies publish financial statements. It is essential to be able to read these financial statements in order to understand companies. In this lesson, you will learn the basics of how the balance sheet and the income statement are made. We will also learn the basics of analysis methods.

**\*Learning Objectives**

The objective of this course is to understand why and how balance sheets and income statements are published and how they are prepared, as well as to learn the basics of how to analyze them.

**\*Learning activities outside of classroom**

Students are encouraged to review the class on a regular basis. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Quiz and short reports: 10%, Term-end examination: 90%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**経営分析論Ⅱ**

展開科目

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は、「経営分析論Ⅰ」の続きです。具体的な企業分析の手法の習得、また、現実的な場面への適用が主な内容です。

**【到達目標】**

経営分析論Ⅰの続きですが、本講義は経営分析を独力で行うことができるようになることが目標です。それには練習が必要です。したがって、経営分析論Ⅰに比べ作業量が多く、大変ですが、よりやりがいもあります。経営分析は、ビジネスパーソンにとって必須ですので、この授業にまじめに取り組めば大学卒業後もずっと使うことができる有用な知識を獲得できます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行っていきませんが、経営分析の演習を多く行っていきます。また、分析のレポートを作成してもらい、フィードバックをしながら、分析能力を高めていきます。このため、受講者が主体的に取り組む授業として位置づけられます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明します。
2	ディスクジャー制度 (1)	法定開示制度の概要について学びます。
3	ディスクロージャー制度 (2)	法定開示の主要媒体である有価証券報告書について学びます。
4	ディスクロージャー制度 (3)	企業への投資とディスクロージャーの関係について学びます。
5	収益性の分析 (1)	資本利益率を基礎として、企業全体の収益性分析について学びます。
6	収益性の分析 (2)	投下資本別に収益性分析を詳しく行う手法について学びます。
7	収益性の分析 (3)	セグメント情報の分析について学びます。
8	中間レビュー	第7回までの講義内容についてレビューします。
9	収益性の分析 (4)	効率性分析について学びます。
10	生産性分析	付加価値の概念および生産性分析について学びます。
11	安全性の分析 (1)	貸借対照表に基づく安全性分析について学びます。
12	安全性の分析 (2)	企業の事業リスク、財務リスクの分析について学びます。
13	会計情報と証券市場	会計情報と証券市場の関係について学びます。
14	本講義のレビュー	本講義のレビューを行います。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・授業外で経営分析を行うことが習得の早道です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

開講時に指示します。

**【参考書】**

開講時に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は次のとおりです。

- ① 平常点 (授業内のレポート、Quiz) (40%)
- ② 定期試験 (参照不可) : 60%

**【学生の意見等からの気づき】**

演習に積極的に取り組むように、レポートのフィードバックを積極的に行うようにします。

**【その他の重要事項】**

- ・「企業会計論」を学ぶと、本講義の内容を一層よく理解できます。同科目を履修済でない場合には、同時履修することを勧めます。
- ・経営分析の方法は、米国を中心に体系的に発展してきているため、専門性が高く、難しいと感じるかもしれません。その理解には、積み重ねが重要ですので、遅刻・欠席をしないように心掛けてください。

**【Outline (in English)】**

**\*Course outline**

This lecture continues from 'Business Analysis I'. The main focus is on acquiring specific techniques for corporate analysis and applying them to actual business activities.

**\*Learning Objectives**

This class is a sequel to 'Business Analysis I'. Its purpose is to enable students to independently conduct business analysis. This requires practice. Business analysis is essential for professionals, so if students earnestly engage in this course, they can acquire valuable knowledge that they will continue to use long after graduating from our collage.

**\*Learning activities outside of classroom**

I recommend that students repeatedly practice business analysis outside of class. With consistent experience, you should find analysis enjoyable. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Quiz and short reports: 40%, Term-end examination: 60%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**職業キャリア論**

展開科目

岩月 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

**【到達目標】**

以下を到達目標とします。

- ①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
- ②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
- ③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

- ①初回はオンライン型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
- ②毎回学習支援システムに授業の資料（PDFファイル）を、授業の週の月曜日中にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出していただくか、当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
- ③オンライン型の回については、ZoomのURLを学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の5分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
- ④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは3回程度の提出を予定しています。
- ⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
- ⑥受講の状況などによって、授業計画を一部変更することがあります。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション (同時双方向型)	①授業のオリエンテーション ②職業についてのイントロダクション
第2回	社会環境変化と職業	①社会環境変化が職業キャリアに与える影響 ②社会環境変化と職業キャリアについて考える ③課題レポート1の説明
第3回	デジタル革新と職業	①デジタル革新の動向 ②デジタル革新が職業に与える影響について考える
第4回	職業と人材のマッチング	①職業と人材のミスマッチの現状 ②職業と人材のマッチングのための仕組み

第5回	職業と組織・倫理	①組織の意義や役割 ②組織の中で働くことと職業倫理について考える
第6回	職業キャリアに関する理論	①職業キャリアに関する主な理論の概説 ②課題レポート2の説明
第7回	日本的雇用システムと職業	①日本の雇用システムの現状と課題 ②新卒採用と職業
第8回	職業教育と職業能力評価	①職業教育、職業資格と職業能力評価の概説 ②企業における人材育成の現状と課題
第9回	職業人の講話	職業人の講話と意見交換
第10回	ジェンダーと職業	①職業選択におけるジェンダーの影響 ②女性のキャリアについて考える ③課題レポート3の説明
第11回	販売や営業の仕事	①販売と営業 ②営業職の仕事とキャリア
第12回	人事の仕事	①人事の職業観 ②人事の仕事とキャリア
第13回	公共的な仕事～公務員を事例として	①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第14回	授業の振り返り	①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポート（3回提出を想定、各1000～1500字程度）を求めます。課題レポートについては、授業時間外で作成いただくこととなります。本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しません。授業の資料は授業の週の月曜日中に学習支援システムにアップします。

**【参考書】**

授業のなかで必要に応じて紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題レポート（60%）、確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換（40%）で評価します。課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかとも評価対象とします）。課題レポートは必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申し上げます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及び質問・意見交換に積極的にご参加いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【学生の意見等からの気づき】**

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals. < Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

ECN200MA (経済学 / Economics 200)

**労働経済学**

展開科目

佐藤 一磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関する標準的なテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や扱い方についても学習し、理解を深めていきます。

**【到達目標】**

労働経済に関する基礎的な理論を理解できるようになることを到達目標とします。また、労働市場に関する代表的なデータの内容やその利用方法を理解し、今後のキャリア形成を行っていく上でそれらの情報を応用できるようになることも目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業では、テキストに基づいた授業資料(PPT)を用い、毎回一つのトピックスに関する理論とデータを紹介します。労働経済に関する理論では数式を使わずにその内容を直感的に説明します。また、データでは政府統計等を用い、現実の労働市場の現状をさまざまな視点から説明していきます。なお、毎回の授業の冒頭に前回の授業の復習を行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 及び労働経済の概要	履修内容について全体解説。経済学を学ぶ意味について説明する。
第2回	働く者を取り巻く環境の変化	近年の労働市場の変化をさまざまな側面から説明。
第3回	労働サービスの特性	他の財とは異なる労働の特徴について説明。
第4回	労働供給①	所得・余暇平面、無差別曲線、所得制約線を説明。
第5回	労働供給②	理論モデルを用い、労働者の就業の意思決定を説明。
第6回	労働需要①	資本・労働平面、等量曲線、等費用線を説明。
第7回	労働需要②	企業の最適労働需要モデルを説明。
第8回	失業	失業の種類、実際に動向、失業の経験法則について説明。
第9回	雇用調整	雇用調整係数について説明。
第10回	労働市場における情報の役割	情報探索コストが労働市場に及ぼす影響や雇用主が労働者を監視する上で発生するコストについて説明。
第11回	経済の構造変化と雇用制度	人口構造・競争構造・意識の変化について説明。
第12回	賃金と労働時間の経済分析	日本の賃金と労働時間がどのように変化してきたのかを理論とデータの側面から説明。
第13回	女性労働力	結婚・出産前後の女性就業の変化を中心にその実態を説明。

第14回 高齢者雇用の経済分析 高齢者雇用の実態とその直面する課題を説明。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前学習として、次回授業の教科書の章を読み、内容を把握するようにしましょう。復習として、もう一度授業で扱った章を読み、インターネット等で関連する内容を調べてみましょう。さらに、教科書の練習問題に挑戦してみましょう。

**【テキスト (教科書)】**

清家篤・風神佐知子(2020)『労働経済』, 東洋経済新報社

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内小テスト(40%)と学期末のテスト(60%)で評価します。なお、授業内小テストは毎回の授業で実施します。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

本授業では毎回の授業で教科書に基づいた授業資料(PPT)を用いますので、必ずその資料を印刷またはPC等で見れるように準備してください。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

Understanding the social environment, especially the labor market situation, is extremely important in shaping your career. Therefore, in this lecture, we will use standard textbooks on labor economics to learn about the current status of Japan's labor market from both theory and reality. In addition, students will learn about the content and how to use statistical data that is effective in researching career development, which will deepen their understanding.

**【Learning Objectives】**

The goal of this class is to be able to understand the fundamental theories of labor economics. We also aim to help students understand the content of representative data on the labor market and how to use it, as well as to be able to apply this information in building their future careers.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

**【Grading Criteria / Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports: 40%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年度：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

●授業概要

IT/ICTからデジタルの時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAFANAなどの巨大IT企業が世界を支配し始め、政治は保護主義や専制主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行います。ただし、新型コロナウイルスの影響によって指針に変更があった場合はそれに従います。
- ・なお第1回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっておりますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。
- ・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの課題レポート提出機能を使って行います。そのため授業でPC (またはタブレット端末やスマホ) を使うこととなりますのでご注意ください。具体的には授業内で提示した課題についてコメントを記入してもら (授業終了後30分まで) かたちを考えています。
- ・また、学習支援システムについては、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第2回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの

第3回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方 (価値の相克)
第4回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第5回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第6回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第7回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしてのIT、技術革新 (IT) の可能性と課題
第8回	地域を変革する有効なITモデルとエクイティ文化	3つの成功事例と2つの失敗事例から探るITによる活性化の条件、地域経済活性化5段階モデルとエクイティ文化の関係
第9回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例 (第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野)、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第10回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第11回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第12回	新しい動き：地域課題を発見するツール (RESAS)	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法
第13回	新しい動き：シビッククテック	技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第14回	新しい動き：AI/IoTやDX、スマートシティ、web3・メタバースなど	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
		AI/IoTやDXなど技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の学習時間は準備・復習を含め、各回4時間を標準とします。
- ・なお、第3回から第6回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第8回から第10回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト (教科書)】

- ※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。
- ・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン、K. ウォレッシュ、J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005年1月
- ・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014年8月

【参考書】

- ・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995年
- ・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996年
- ・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007年



- ・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006年
  - ・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002年
  - ・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008年
  - ・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBSブリタニカ 1986年
- そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍やURLを紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40%、最終レポート60%を目的に評価します。100点満点で、60点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は出席点で評価します。出席をカウントするため、授業内で課題レポート提出機能を使ってコメントを記入してもらいますので、PC等の準備をお願いします。

※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が60点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。（最終レポートの提出は、同じく課題レポート提出機能を使って行います）

#### 【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの提出は、学習支援システムから課題レポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」）のみです。形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません。そのため、あらかじめWord等で文書を作成したうえで、それをコピー&ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

課題レポート提出機能を使って授業の出席をカウントするため、授業内でPC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等でPCを使用します。

#### 【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、地方活性化レストランの実現やマイナンバー制度の実現といった講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話しします。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

生成AIについては特に禁止事項を設けません。自分の考えを深めるために使うなど、良識的な使い方を求めます。

#### 【Outline (in English)】

【Course outline】 In the era of digitalization from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFAs begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.

- ・ To understand the citizenship
- ・ To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

【Learning activities outside of classroom】 This course requires 4-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.

【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40% learning attitude and 60% term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

生産システム論

展開科目

北原 成憲

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

かつて日本はものづくり大国と呼ばれ、世界が驚くイノベティブな製品を数多く生んできました。しかし、現在の日本は主要先進国と比べて労働生産性が低く、かつての面影は失われつつあります。そこで本講義では、さまざまな企業と共に多くの斬新な新製品・新サービスの誕生に携わってきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーが講師となり、一般的な商品開発のプロセスやそこに潜む課題を解説した上で、ヒット商品の共通項やヒット商品を企画する際のコツ、また前例のない商品案であってもその必要性を証明しビジネス化への足掛かりを作る手法を体験形式で学びます。

【到達目標】

本講義は、「イノベティブな商品をいかにスピーディーに生み出しビジネスに育てるか」そのプロセスやポイントについて理解することを目的とします。①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解すること、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解すること、③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てることができ、この3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講義は、大きく3つのパートに分かれます。①商品が生まれるプロセスとイノベーションを阻む課題を理解する「課題理解パート」、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出手法を学ぶ「課題解決手法パート」、③自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てる「アイデア発想・テスト販売パート」です。講義には、実際にメーカーで新商品開発に携わるゲストもお呼びし、ものづくりの現場で生まれている課題や課題を乗り越えたエピソード、ヒット商品事例の裏側についてお話いただくことで、より深い学びが得られる機会も用意します。受講者には商品開発の知識がないことを前提としていますので、商品が生まれる生産プロセスの基礎から学び、イノベティブな商品を創出するためのポイントや方法が理解できるように進めます。

また、講義は体験形式とし、楽しみながらより実践につなげやすい学びが得られるように工夫していきたいと思ひます。わからないことなどを相談する機会を設けて、皆さんと伴走しながら進めていくことを心がけ、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、日本で生まれたイノベティブな商品事例を元に、日本のものづくりが辿ってきた変遷や現在の状況について解説します。
第2回	イノベーションを阻む商品開発プロセス	日本における一般的な商品開発プロセスを解説します。また、その商品開発プロセスに潜む「イノベーションを阻む課題」について触れ、どうやったらその課題が解決できるかを考えます。

第3回	イノベーションを促す商品開発プロセス	イノベーションを阻む課題やその課題を解決する突破口をおさらいした上で、具体的な課題解決手法について解説します。また、その手法によって生まれたイノベティブな商品事例について、その商品を実際に企画したゲストをお呼びし対談形式で解説します。
第4回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説した上で、自分の好きなことから学生の皆さんにも商品アイデアを企画してもらいます。また、自分の好きなことからヒット商品を生んだゲストをお呼びし、その開発背景やヒットを生むポイントを事例から学びます。
第5回	商品アイデアのブラッシュアップ①	課題の途中経過を見ながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第6回	商品アイデアのブラッシュアップ②	いくつかのアイデアについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら再度自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第7回	N1インタビューについて理解する	考えたアイデアを「売れる」アイデアにブラッシュアップするために、「買いたい」と言ってくれる人を見つけるためのN1インタビュー手法を解説します。
第8回	N1インタビューを行う①	N1インタビューのやり方についておさらいした後、学生同士でペアを組んでもらってお互いにN1インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第9回	N1インタビューを行う②	ブラッシュアップしたアイデアを発表してもらいます。また、再度学生同士でペアを組んでもらってお互いにN1インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第10回	テストマーケティングについて理解する	考えたアイデアが世の中に受け入れられるものなのか検証するためのテストマーケティング手法について解説します。また、自分のアイデアをテストマーケティングするためのMakuakeページの作成方法について解説します。
第11回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ①	自分のアイデアをテストマーケティングするために、Makuakeページを作成し学生がお互いに協力しながら自分のMakuakeページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。

- 第12回 テストマーケティング グランのブラッシュアップ② 作成してもらったいくつかのMakuakeページについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分のMakuakeページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
- 第13回 商品アイデア・テストマーケティンググランの講評 ここまでブラッシュアップしてきた商品アイデアとそのアイデアをテストマーケティングするために作成したMakuakeページに対して講評を行います。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
- 第14回 Web試験・まとめと解説 ここまでの総括としてWeb試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通して、どんな商品がどんな人に人気なのか？ その商品はどの企業がどのような意図やプロセスで生んだものなのか？ なぜその商品はヒットしているのか？ など、商品が生まれるプロセスやヒットの裏側について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

#### 【参考書】

中山亮太郎「日本最大級 Makuake が仕掛ける！ クラウドファンディング革命 面白いアイデアに1億円集まる時代」  
坊垣佳奈「Makuake式『売れる』の新法則」  
小霜和也「ここで広告コピーの本当の話をします。」  
クレイトン・クリステンセン「イノベーションのジレンマ」  
エリック・リース「リーンスタートアップ」  
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解できたか
  - ②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解できたか
  - ③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売（テストマーケティング）のイメージを立てることができたか
- 以上3点をWeb試験、商品アイデア課題、商品テスト販売課題によって評価します。

Web定期試験60%、商品アイデア課題20%、商品テスト販売課題20%の割合で評価します。

成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppiiを使用します。

Webでの小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

#### 【その他の重要事項】

実務経験として、これまで35,000件（2023年9月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&Dプロデューサーによる授業です。

#### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lecture, the executive officer and research and development producer of Makuake, who has been involved in the birth of many innovative new products and services together with various companies, will be the lecturer. He will explain the general product development process and challenges that may arise. The course will mainly cover the common elements of successful products, tips for marketing such products, and methods showing the demand for unprecedented product ideas and how to gain a foothold in the business world through hands-on experience.

#### 【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to understand the process and key points of how to produce innovative products and efficiently develop them into a business.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to read newspapers, magazines, and use the Internet on a regular basis. This will help make connections about the process of creating successful products, and understanding what happens behind-the-scenes. Also, please spend two hours before every lecture preparing and reviewing ahead.

#### 【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on the following percentage: Web-based periodic exam (60%), Product idea assignment (20%), Product test sales assignment (20%).

The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**国際経営論**

展開科目

森 直子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この授業の受講生は、ダイナミックにグローバル展開されている国際経営とは何かを理解するための背景と基礎知識を得ることができます。

また、代表的な経営分析モデル・手法を学びます。こうした基本的な知識の理解度は、短い授業のまとめの提出を通して評価されます。

さらに授業で学んだ知識をもとに、国際的な企業経営が持つ意味を理解するための視角、考え方を学ぶことができます。

最終的には、グローバル時代の現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

**【到達目標】**

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様で複雑な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、基本的に対面授業形式で進める予定です。

全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち1回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、簡単なグループディスカッションをしたいと思います。また、月に1~2回は課題(テスト)の代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は授業時間内に行う予定です。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論を学ぶということ — グローバル社会に生きるために—	授業の概要説明
第2回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第3回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT化社会以降のグローバルな企業活動
第4回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第5回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第6回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第7回	国際M&A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第8回	研究開発と国際経営	R&Dと立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理

第9回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第10回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第11回	国際協力と国際ビジネス	ODA事業と国際ビジネスの関係、BOPビジネス、ソーシャルビジネス
第12回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第13回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第14回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

月1~2回提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌(オンライン配信含む)等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

教科書は特にちいず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

**【参考書】**

吉原英樹(2021)『国際経営〔第5版〕』有斐閣アルマ  
大石芳裕(2017)『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学2、ミネルバ書房  
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編(2013)『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

(1) 授業への積極的な貢献 60%  
(2) 学期末レポート 40%  
※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。  
※(1)の内訳：  
各回の授業後にクイズへの回答提出 19%  
計4回提出する「授業のまとめ」 32%  
授業への積極的なフィードバックなど貢献点 9%

**【学生の意見等からの気づき】**

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) The aim of this course is to help students learn the background of global business unfolding all over the world in the rapidly and dynamically transforming business environment. Merely memorizing individual business management methods or business analysis models for global business is not the target of this course.

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand the basic history, current status, and theories of globalization of corporate activities and to acquire an international perspective and viewpoint by learning about the diverse and complex elements and backgrounds that form international business.

(Learning activities outside of classroom) After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand and review the contents of the course to prepare for the summaries that must be submitted once or twice a month.

(Grading Criteria /Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following  
in class contribution: 60%, term end report: 40%

ECN200MA (経済学 / Economics 200)

日本経済論

展開科目

長谷部 弘道

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業概要：1990年代末以降、日本経済はその凋落が頻繁に叫ばれ、「失われた20年」といった言葉がメディアを賑わせた。こうした議論は、あたかもそれまでの日本経済が一貫して順調な経済発展を遂げてきたかのような歴史理解を前提としているようにもとれる。しかしながら、戦後日本経済の歴史を辿ると、高度経済成長以降、常に日本経済の危機という問題意識は繰り返し登場してきた。では実際のところ、そうした歴史的な経路をたどり、この国の経済の動向をみたときに直面する、この国の課題は何なのだろうか。本授業では、これらの日本経済の歴史を戦後復興期、高度成長期、石油危機後の安定成長期、バブル成長期とその崩壊の時期、長期不況期、現代の6つの時期区分に分けて解説する。

授業の目的・意義：本講義では、戦後日本経済の変化の文脈を理解することで、地に足をつけて今日の日本経済を観察しつづけることができるようになることを目指す。

【到達目標】

・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。

・戦後日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。

・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業前半20分を前回講義のフィードバックとし、後半70分は教員による講義、最後の10分間は質疑応答の時間とする。2日前を目処に、翌週の講義スライドを所定のwebスペースにアップロードしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。授業終了後、毎回コメントペーパーを提出してもらう。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなったうえで、戦後日本経済を歴史的に振り返る意義について講義する。
第2回	戦後改革と復興	戦時の変化と戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、経済復興の流れについて解説する。
第3回	高度成長のメカニズム1	高度成長の概要と、産業政策の効果について解説する。
第4回	高度成長のメカニズム2	メインバンクシステム、および大企業のガバナンス構造の確立(安定株主化)について解説する。

第5回	高度成長のメカニズム3	同時期に輸出世界一となった鉄鋼業について解説する。あわせて、同時期に日本社会に現出した大量消費社会の到来、およびエネルギー革命について解説する。
第6回	石油危機と安定成長への転換1	石油危機が日本経済にもたらしたインパクトについて概説し、赤字国債の問題と、同時期にこれと並行して生産台数世界一となった自動車産業について解説する。
第7回	石油危機と安定成長への転換2	製造業、そして日本経済を下支えた下請制のしくみについてふれ、当時の日本企業の国際競争力について解説する。 ※中間課題の出題あり
第8回	振り返り # 1	1970年代までの日本経済の論点について振り返りながら、重要概念・用語について解説する。また、中間課題の講評もおこなう。
第9回	バブルの形成と崩壊1	バブル経済と同時期に進展した産業構造の転換について触れ、債券大国化していく日本を概観し、特に金融自由化・金融ビッグバンを中心にとりあげる。
第10回	バブルの形成と崩壊2	トヨタ生産システム、流通革命について解説する。
第11回	長期停滞と日本型企業システムの転換1	1990年代以降の日本経済の長期停滞と、日本型企業システムの転換についてその概要を解説し、そうしたなかにあっても新たなビジネスモデルを探索する日本の企業経営者や、流通再編と情報化のインパクト、そして企業制度改革と企業組織の変化などについて解説する。
第12回	長期停滞と日本型企業システムの転換2	日本企業の対外進出、日本型企業システムの転換、そしてアベノミクスの制作的評価について検討を行う。
第13回	振り返り # 2	1990年代以降の日本経済の論点について振り返りながら、重要概念・用語について解説する。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、あわせて期末課題について解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回で予定している講義内容は下記のテキストに沿って行われる。受講生は、以下のような予習・復習を行ってほしい。

【授業前】事前に該当ページに目を通し、分からない用語についてもインターネットや使用書(テキスト)内で示される参考文献などを用いて調べておく(時間配分目安:約3時間)。

【授業後】もう一度使用書(テキスト)を読み直し、各自が興味をもった内容に関して授業中に紹介した文献等から理解を深める。その際、大学図書館を活用することが望ましい。なお、授業では視聴覚教材を使用することもある(時間配分目安:約1時間)。

【各回の教科書該当ページ】

第1回:「イントロダクション」(序章+第1章、P1~32)

第2回:「戦後改革と復興」(第2章、P33~50)

第3回:「高度成長のメカニズム1」(第3章~第4章、P51~85)

第4回:「高度成長のメカニズム2」(第5章~第6章、P86~109)

第5回:「高度成長のメカニズム3」(第7章~第9章、P110~135)

第6回:「石油危機と安定成長への転換1」(第10章~第11章、P142~184)

第7回:「石油危機と安定成長への転換2」(第12章~第14章、P185~221)

第8回:第7回までのすべての範囲

第9回:「バブルの形成と崩壊1」(第15章~第17章、P226~273)

- 第10回：「バブルの形成と崩壊2」（第19章、P274~296）  
 第11回：「長期停滞と日本型企業システムの転換1」（第20章～第25章、P302~413）  
 第12回：「長期停滞と日本型企業システムの転換2」（第26章～終章、P414~488）  
 第13回：第9回から第12回までのすべての範囲  
 第14回：上記すべての範囲

**【テキスト（教科書）】**

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済[第4版]』（有斐閣アルマ、2019年、2,800円+税）

**【参考書】**

沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』（有斐閣、2016年、3,700円+税）

宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橋川武郎著『日本経営史 江戸時代から21世紀へ』（有斐閣、2007年）

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポート：戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する（50％）。

中間レポート：講義内容前半の理解度をチェックする。（20％）

平常点：授業における発言、コメントペーパーの提出を評価する（30％）。

**【学生の意見等からの気づき】**

コメントペーパーへのレスポンスを授業冒頭に行い、フィードバックとする。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自、大学で付与されるGoogleアカウントおよび関連アプリを利用できるようにしておくこと。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

Course outline: Since the end of the 1990s, the decline of the Japanese economy has been a frequent topic of discussion in the media, with terms such as "the lost 20 years" being bandied about. Such discussions seem to be based on an understanding of history as if the Japanese economy had consistently achieved steady economic development up to that point. However, tracing the history of the postwar Japanese economy, the issue of a crisis in the Japanese economy has always appeared repeatedly since the high economic growth. So, what are the actual issues that Japan faces when it traces this historical path and looks at the economic trends of the country? In this class, the history of the Japanese economy will be divided into six periods: the postwar reconstruction period, the high growth period, the stable growth period after the oil crisis, the bubble growth period and its collapse, the long-term recession period, and the present day.

Learning Objectives: This lecture aims to help students understand the context of changes in the postwar Japanese economy, so that they can continue to observe the Japanese economy today with their feet on the ground.

Learning activities outside of classroom

The lecture content scheduled for each session will follow the textbook. Students are expected to prepare for and review the following.

[Before class] Read through the relevant pages in advance, and look up unfamiliar terms on the Internet or in the references provided in the textbook (approximate time allocation: 3 hours).

[After class] Re-read the textbook and deepen your understanding of the contents of interest to you, using the references introduced in class. It is advisable to use the university library for this purpose. Audiovisual materials may be used in class (approx. 1 hour).

[Textbook pages for each session]

Session 1: "Introduction" (Introduction + Chapter 1, p. 1~32)

Session 2: "Postwar Reform and Reconstruction" (Chapter 2, p. 33~50)

Part 3: "Mechanisms of High Growth 1" (Chapters 3-4, p. 51-85)

Session 4: "Mechanisms of High Growth 2" (Chapters 5-6, P86~109)

Part 5: "Mechanisms of Rapid Growth 3" (Chapters 7-9, P110~135)

Part 6: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 1" (Chapters 10-11, P142~184)

Session 7: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 2" (Chapters 12-14, P185~221)

Session 8: "The Formation and Collapse of Bubble 1" (Chapters 15-16, p. 226~263)

Part 9: "Bubble Formation and Collapse 2" (Chapters 17-18, p. 264~283)

Part 10: "Bubble Formation and Collapse 3" (Chapter 19, P284~296)

Part 11: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 1" (Chapters 20-23, P302~381)

Part 12: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 2" (Chapters 24-26, P359~427)

Session 13: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 3" (Chapters 27 to the end, P428~486)

Session 14: "Summary" (last chapter, p. 461~486)

Grading Criteria / Policy:

Final exam: Students will be evaluated on whether they can logically describe the historical transition of the postwar Japanese economy based on historical facts, and whether they can consider the issues of the Japanese economy based on these circumstances through a written exam (50%).

Mid-term exam: To check the level of understanding of the first half of the lecture content. (20%)

Commitment to the class: Students will be evaluated on their comments in class and submission of comment papers (30%).

ECN200MA (経済学 / Economics 200)

**産業論**

展開科目

青木 成樹

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく2つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働力が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働力が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

**【到達目標】**

本授業を通して、以下の5点について理解を高めることを目標とする。

- ①我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる。
- ②我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる。
- ③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる。
- ④世界的な産業分析ツールである『産業連関表』について理解できる。
- ⑤イノベーションの意味と意義が理解できる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

産業論は、マクロ経済（一国や地域全体の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全14回の講義内容は大きく4つに分けて行う。最初の3回（第1回～第3回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の3回（第4回～第6回）では、世界的な産業分析ツールである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の4回（第7回～第10回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の3回（第11回～第13回）は、イノベーションについて学ぶ。そして最後の14回は全体のまとめとする。

なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設けQ&Aに充てる(対面型の場合)、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形(オンラインの場合)とし、学生との対話に努める。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	本講義の全体像をまず説明する。次に、我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。なお、第1回の授業はオンラインで実施する。
2	少子高齢化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）を取り上げる。少子化、高齢化の意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。

3	グローバル化・情報化	我が国の産業に影響を与える他の大きな要因のうち、グローバル化と情報化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業に関する世界的な分析ツールである産業連関表 (Input-Output Tables) について、その見方を学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和元年に公表された「平成27年産業連関表」の概要を学ぶとともに、都道府県表を活用し、地域の『比較優位』産業の抽出方法について学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向 (農業)	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向 (農業の6次産業化、等) について学ぶ。
8	主要産業の動向 (自動車産業)	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向 (電気機械産業)	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向 (商業)	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	イノベーションの概要	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型について学ぶ。
12	イノベーションの担い手	イノベーションの担い手として、特徴ある中小企業群やベンチャー企業を取り上げ、具体的な事例を学ぶ。
13	身近にあるイノベーション	健康・環境・観光分野を対象に我々の身の回りにあるイノベーションの代表的な事例を取り上げ、多様な観点からその特徴を学ぶ。
14	まとめ	第1回から13回の各回における皆さんからの意見等も踏まえ、各テーマのポイントについて学ぶ。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

毎回レジュメ (PPT) を前日までに配布致します。

**【参考書】**

以下、順不同(五十音順)

- ①岩尾俊兵『日本企業はなぜ「強み」を捨てるのか』 光文社新書 (2023年)
- ②入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社 (2019年)
- ③岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社 (2015年)
- ④桂幹『日本の電機産業はなぜ凋落したのか』集英社新書 (2023年)
- ⑤経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑥経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑦経済産業省編『通商白書』各年版

- ⑧清水洋『イノベーションの考え方』日経文庫（2023年）
- ⑨H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004年）
- ⑩富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP新書（2014年）
- ⑪中村良平『まちづくり構造改革Ⅰ、Ⅱ』日本加除出版（2014年、2019年）
- ⑫中室・津川『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社（2017年）
- ⑬西山圭太『DXの思考法』文芸春秋（2021年）
- ⑭日本経済新聞社編『日経業界地図』（毎年8月発行）
- ⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017年）
- ⑯藤波匠『なぜ少子化は止められないのか』日経プレミアシリーズ（2023年）
- ⑰前野隆司・前野マドカ『ウェルビーイング』日経文庫（2022年）
- ⑱牧野百恵『ジェンダー格差』中央公論新社（2023年）
- ⑲宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018年）
- ⑳宮沢健一、編『産業連関分析入門』日本経済新聞社（1979年）
- ㉑山口栄一『イノベーションはなぜ途絶えたか』ちくま新書（2016年）
- ㉒吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学ぶ』ダイヤモンド社（2009年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 30%、産業レポート30%、定期試験 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

今年で本講義は13年目である。昨年度の授業改善アンケート（有効回答13人）において「この授業を履修してよかったと思いますか」に対する評価（5段階）の平均は4.62であり、学部の全科目の平均（4.33）を上回っている。授業内容の理解（4.23）も学部平均（4.13）を若干上回る。

しかし一方、授業の工夫についての評価は4.31と学部平均（4.30）と変わらず、自由意見においても「パワポ資料が少しだけ見づらく感じました」や「たまにうるさくする学生がいて、それを注意してくれたらいいなと思った」等の意見を頂いており、このような点を中心に改善を図っていきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

私は1985年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約40年に渡り国や地方の産業政策の調査に係ってきております。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思っております。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えています。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要(demand)」と「供給(supply)」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

I think there are two main meanings for you to graduate from university and work. One is to supply one's own labor force, get wages and salaries as compensation, and use it as a means of living. The other is that one's labor creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful to individuals, businesses, and society.

In this class, you will learn about Japanese industry, which is the foundation where your labor force creates new value, from various perspectives such as (1) the overall picture and changes in the industrial structure, (2) the characteristics and changes of major industries, and (3) the characteristics of major companies.

< Learning Objectives >

Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.

- ① Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure
- ② Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure
- ③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.
- ④ Understand the "input-output table" which is a worldwide industrial analysis tool.
- ⑤ Understand the meaning and significance of innovation

< Learning activities outside of classroom >

In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy. In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Normal point 30%, Industry report 30%, Term-end examination 40%



MAN200MA (経営学 / Management 200)

広告ビジネス論

展開科目

石原 篤

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

広告は自己紹介だと言われます。上から目線の自己紹介は嫌われるかもしれないし、一目置かれるかもしれません。下から目線の自己紹介は舐められるかもしれないし、意外と共感されるかもしれません。商品やサービスを広告する際、自己紹介の仕方が受け取り手の印象を左右します。いつ、どこで、誰に向かって、どんな内容を、どのように話すか。その結果として、どう自分のことを知ってもらえるか、さらに好感をもってもらえるか、また会いたいと思ってもらえるか。こういったことを考えるのが広告ビジネスなのです。その広告ビジネスを劇的に変化させたのは、メディア環境です。端的に言えばテレビなどのマスメディアの影響力の変化と、様々なネットメディアの台頭です。2022年のサッカーW杯をテレビ局の一方通行の放送で観戦した人もいれば、ABEMAで本田さんの解説と共に自分の好きなカメラアングルでゲームを楽しんだ人もいるように。広告による自己紹介の手法も内容も、大きく変わりました。本授業では、多くの人を相手にする商品やサービスの広告、地域に根ざした行政やローカルブランドの広告、さらに海外ブランドの広告などを通して、最前線の広告ビジネスを学んでいきます。また受講生の皆さん自身が、社会に対して自己紹介する際に役立つスキルを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) マーケティングにおける広告の役割を理解し、説明できる。
- (2) 広告ビジネスにおける戦略・戦術が何を意味するかを理解し、説明できる。
- (3) 広告ビジネスにおける実践的なコミュニケーションを理解し、設計できる。
- (4) 社会に対して自己紹介するための、自分自身のコミュニケーションの方法論が構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・講義は、博報堂出身で現もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。
- ・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。
- ・中盤から後半の授業は、多様化する広告ビジネスの理解を深めるために、事業会社、コンサルティング会社、メディア会社、広告会社等からのゲストに招き、お話を伺います。(ゲストは変更になる可能性があります)
- ・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
- ・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立ちます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、授業計画の説明、受講動機等に関するアンケート
第2回	広告の役割	ブランディングやマーケティングにおける広告の役割

第3回	広告の歴史	メディアビジネスと共に成長した日本の広告史
第4回	広告の最前線	広告から広告へ、最新事例から読み取る広告の変化
第5回	マスメディアの広告	映像からマス広告の現在地を捉える ゲスト) 博報堂キャビン クリエイティブディレクター・CMプランナー吉兼啓介氏
第6回	広告メディアの現場	書籍では学べないリアルな現場のメディア論 ゲスト) 博報堂第23BD局メディアチーム金子杏奈氏
第7回	統合的な広告	多様化した時代に機能する統合的なコミュニケーションの形 ゲスト) OOAA ストラテジックプランナー矢野真理子氏
第8回	ソーシャルメディアの広告	SNSを中心にしたデジタルメディアの台頭によって広告はどう変化したか ゲスト) 株式会社チョコレイト クリエイティブディレクター大澤創太氏
第9回	体験型の広告	リアルとデジタルの境界を超えた体験型コミュニケーションの形 ゲスト) TOW プロデューサー甲斐智大氏+橋本彩月氏 (キャリアデザイン学部卒業生)
第10回	アイデアの発想法	演習課題を発表し、課題の内容に合わせたアイデアの出し方・発想法を学ぶ
第11回	地域の広告	地域に根づくブランドや行政のコミュニケーションの形 ゲスト) 博報堂ケトル チーフプロデューサー日野昌暢氏
第12回	広告の限界	もう広告はオワコンなのか？ 広告ビジネスに幻滅したこと、まだ期待すること ゲスト) 広告会社9年目のプロデューサー2人とクリエイター1名による鼎談 関谷葉月氏 (博報堂) + 渡辺佑太氏 (博報堂) + 南俊輔氏 (博報堂ケトル)
第13回	演習課題講評	テーマ (仮) : 法政大学を広告する。
第14回	あなたをどう広告するか？	授業の振り返りと共に、これからの時代に自分をどう広告していくかを考える

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
- (2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- (3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
- (4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

- ・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
- ・広告の仕事 広告と社会、希望について 杉山恒太郎
- ・クリエイティブ合気道 箭内道彦
- ・佐藤可士和のクリエイティブシンキング 佐藤可士和
- ・嶋浩一郎のアイデアのつくり方 嶋浩一郎
- ・世界のマーケターは、いま何を考えているのか? 廣田周作
- ・カイトイ新書 博報堂ヒット習慣メーカーズ+中川悠

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline (in English)】**

■ Course outline

It is said that advertising is self-introduction. A pompous self-introduction may be disliked or respected. A humble self-introduction may be belittled or unexpectedly resonated with.

When you advertise a product or service, think about it by replacing it with a self-introduction. Consider when, where, to whom, what kind of content and how to talk about it. Also, pay attention to how this results in people getting to know you, liking you even more, and wanting to see you again. This is what advertising business is all about.

The advertising business has changed dramatically with the media environment. The changes, simply put, are the changing influence of mass media such as television and the rise of various online media. Just as some people watched the 2022 Soccer World Cup on one-way broadcasts from TV stations, others enjoyed the game at ABEMA with Honda's commentary from their favorite camera angle.

In this course, students will learn about the front-line advertising business through advertisements for products and services that reach a large number of people, advertisements for government agencies and local brands that are rooted in the community, and advertisements for foreign brands. It also aims to help students learn skills that will help them introduce themselves to society.

■ Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain the role of advertising in marketing.
- (2) To be able to understand and explain what strategies and tactics mean in the advertising business.
- (3) To be able to understand and design practical communication in the advertising business.
- (4) To be able to build your own communication methodology to introduce yourself to society.

■ Learning activities outside of classroom

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

■ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%

MAN200MA (経営学 / Management 200)		第3回	ポジショニング	STPのうち、競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスであるポジショニングを理解する。マーケティング戦略の基本となる差別化を決定づけるポジショニングの重要性を理解する
<b>マーケティング論</b>		展開科目		
小川 浩孝		第4回	マーケティング・ミックス	マッカーシーの4Pといわれる近代マーケティングを支える概念を理解する。マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていくことが求められる現代の経営について理解する。
単位数：2単位   開講セメスター：春学期授業/Spring		第5回	プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて理解する。またアイデア発想のグループワークを行います。ブレインライティング、デザイン思考、オズボーンのチェックリストなどのアイデア発想のメソッドも取り入れながらグループに分かれて取り組む。
曜日・時限：月4/Mon.4   配当年次：2～4年		第6回	コミュニケーション (プロモーション)	企業のプロモーション、広告について理解する。営業などのセールスも含め幅広くプロモーションについて理解する。
その他属性：〈優〉		第7回	プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを理解する。消費者視点、企業視点、競争視点などから価格決定プロセスを理解する。
<b>【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】</b>		第8回	チャネル(プレイス)	チャネルの種類、どのような製品であればどのような店舗で売った方がいいのか、どのようなチャネルが有効なのか等の概要を理解する。チャネルの構成など詳細は秋学期の流通・マーケティング戦略論にてさらに深く理解する。
「マーケティング」という概念は1900年代初頭にアメリカで生まれ、1950年代から順次体系化・学習され実務に利用されてきた。日本でも60年代ごろから徐々に浸透を始め、今では企業や組織で働く人たちにとって必須の知識・ツールと理解されるようになってきた。しかしながら、「マーケティングとは何か?」「どんな要素が含まれているのか?」と聞かれても明確に答えられる人は意外と少ない。販売や広告活動、あるいは経営陣が決定する(一社員である自分とは無関係な)企業戦略だと混同している人たちも多い。また、マーケティングは営利企業が「儲ける」ための概念・ツールであって、非営利組織や政府機関には関係ないと思っている人たちも多い。大学卒業後に皆さんが進む道は様々だろうが、この授業が、誰にとっても必須の知識・ツールとしての「マーケティング」への入口となり、変化の激しい社会にあっても活かせる原理として習得されることを目指す。さらに、秋学期に実施される「流通・マーケティング戦略論」と有機的にコネクすることで、SDGs活動やITと深く関わる現代マーケティングの先端領域までカバーすることを目指す。		第9回	消費者心理と消費者行動	消費者行動理論とマーケティングとの関わりについて理解する。多属性態度モデル、刺激反応モデルなどの代表的な消費者モデルを取り上げて消費者がどのように購買行動をおこなうかの理論を理解する。
<b>【到達目標】</b>		第10回	顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを理解する。マーケティングリサーチの種類や特徴について理解する。また、ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを事例をもとに理解する。
1. マーケティングに関する基本的な用語を理解し説明できるようになる		第11回	マーケティング・リサーチの実際とブランドマネジメント	売上・原価・粗利・営業利益、資産と負債などマーケティング戦略の計画決定と成果を測る上で不可欠な会計の基礎的知識を理解する。
2. マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する		第12回	マーケティングと会計	今日のマーケティング
3. 社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する		第13回		ソーシャルマーケティング、SDGsに関わるマーケティング、SNSやAIを用いたマーケティング、DIYマーケティングなど、マーケティングの先端領域に触れるについて理解する。
4. 最先端のマーケティング分野 (SDGs、ソーシャルマーケティング、ITを用いたマーケティング、DIYマーケティングなど)の一旦に触れる。		第14回	試験・まとめと解説	筆記試験を実施。ここまでの話を総括し、これからのマーケティングを展望する。
<b>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】</b>				
<b>【授業の進め方と方法】</b>				
授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、課題提出を併用する。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。事例には、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞などを予定する。				
<b>【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】</b>				
あり / Yes				
<b>【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】</b>				
あり / Yes				
<b>【授業計画】</b> 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
第1回	マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解する。マーケティングをとりまく価値交換、顧客価値について理解する。		
第2回	セグメンテーションとターゲットマーケティング	マーケティングにおける基本的概念であるSTPのうち、セグメンテーション(市場細分化)とターゲットマーケティングの重要性について考察する。セグメンテーションという考え方、有効なセグメンテーションとは何かを理解する。		

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に教科書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

2回に1回、A4で1ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。

毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。

**【テキスト（教科書）】**

恩蔵直人『マーケティング 第2版』日本経済新聞出版、2019/2/1 990円

**【参考書】**

和田充夫他『マーケティング戦略 第6版(有斐閣アルマ)』2022、有斐閣。

Kotler, P., Armstrong, G., Opresnik, M.O., Principles of MARKETING 18e GLOBAL EDITION, Pearson Education, 2020

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、

1. マーケティングに関する一般的知識を習得したか
2. マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか
3. 社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか
4. 最先端のマーケティング分野を理解したか

の4点を試験によって評価する方法で行います。成績評価は、平常点60%、最終試験40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度(Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。成績評価は合計で100点満点とし、60点以上が合格となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッションが刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思いますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するようご協力をお願いします。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システムHoppii、googleclassroomを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなど、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

**【Outline (in English)】**

Marketing was born in the U.S. around 1900 and developed and used gradually from 1950. In Japan, it started to penetrate into the business arena from 1960's and is now conceived as a necessity among business and public organizations.

However, many people don't fully understand "what the marketing is" or its various aspects. It can be perceived as sales or advertising activities, or something only related to top business executives, not for ordinary employees. Also, Marketing is a concept/tool to earn profit, not relating to NGO or public sectors.

This lecture aims to give students an opportunity to overview and understand basic marketing concept that can help guide them to work and live effectively in their various career paths in the future. Also, it is designed to synergize with "Distribution and Marketing Strategies" class in Fall Semester to overview latest marketing trends relating to social marketing, SDGs activities, and marketing with IT.

< Goal >

- 1) Understand/be able to explain basic terminologies of marketing

- 2) Acquire/understand general knowledge and concepts of marketing

- 3) Connect empirical/practical marketing activities with concepts

- 4) Broadly understand latest marketing elements such as SDGs, Social Marketing, Marketing with IT, and DIY Marketing

< Work to be done outside of class (preparation, etc.) >

Before attending the class, please read the textbook and prepare for questions. Read newspaper etc. and pay attention to daily social/economic happenings.

2 hours each for preparation/review for the class are necessary. A4 one page homework will be assigned roughly once in 2 classes. Also, group discussion/work/report will be provided.

< Grading Criteria >

Evaluation will be given based on combination of examination (60%) and class contribution and participation (40%). When group work is assigned, team members' contribution evaluation is used. 60 points out of 100 evaluation points will be needed to pass for credit.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**流通・マーケティング戦略論** 展開科目

小川 浩孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

これまで、グローバル化、IT革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらに今回のパンデミック、ウクライナ侵襲、地政学的リスク、近年の自然災害多発などは、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらし、存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となる IT ネイティブな考え方を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングを共に考えることによって、変化を先取り変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つ流通やチャネルマネジメントに関連した基本概念と知識・経験を習得する。春学期に開講する「マーケティング論」での学習知識をさらに深め、ソーシャルマーケティングや IT・AI を用いたマーケティング、DIYマーケティング、スタートアップ/SME 組織でのマーケティングなど新分野への視野を広げることも目的とする。

**【到達目標】**

- 1 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B2B/B2C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
- 2 流通業・販売業 (あるいは企業経営) に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らし理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
- 3 起業家、流通サービスやそれに付随するマーケティングの経験豊富な実務者を登壇者として招いたり、ビデオを鑑賞することで、実務の世界で役立つ知識や事例に触れ、将来の実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。また、理論と関連付けられた理解が十分にできるよう、都度質問に答える。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

テキストや資料を用いた講義と、実務家・起業家の講演・質疑応答、ビデオを鑑賞し、グループに分かれて討議・発表するなどの授業を交互に行なう。またグループごとに店舗を訪問し、観察を行うなどのプロジェクトも計画する。なお、実務家の招聘予定等は変更される場合があります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	流通・販売チャネルと	国内外における流通・販売チャネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第2回	流通戦略とマーケティング(1)	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。
第3回	流通戦略とマーケティング(2)	B2BとB2Cマーケティングの共通点と相違点を理解する。

第4回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業(1)	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。
第5回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業(2)	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。
第6回	店舗訪問の準備	店舗を訪問し観察するためのグループ分け、観察ポイントなどを共有する。
第7回	立地戦略と店舗設計	実店舗の立地と店舗の設計について理解をする。
第8回	流通とマーケティングの新潮流(1)	SDGs, SNS, AIを使用したマーケティング、DIYマーケティングなど、流通・マーケティングで起きている新潮流を確認し、社会に対してどのような影響があるか理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第9回	流通とマーケティングの新潮流(2)	SDGs, SNS, AIを使用したマーケティング、DIYマーケティングなど、流通・マーケティングで起きている新潮流を確認し、社会に対してどのような影響があるか理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第10回	流通やマーケティングと会計	売上、原価、粗利、販売管理費、一般管理費、営業利益、資産と負債など、計画立案に不可欠な基礎的会計知識と用語を学ぶ。
第11回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答(店舗づくり)(1)	グループに分かれて店舗を訪問し、観察したことをまとめ、提言を作る。提言を発表し、実務家からのフィードバックをもらう。第11回と第12回は2コマ連続した授業とする(予定)。
第12回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答(店舗づくり)(2)とまとめ	グループに分かれて店舗を訪問し、観察したことをまとめ、提言を作る。提言を発表し、実務家からのフィードバックをもらう。第11回と第12回は2コマ連続した授業とする(予定)。
第13回	流通運営における人事評価やチームづくり	テキストを基に、効果的で生産性の高いチームづくりについて理解する。
第14回	まとめと質疑応答	全授業のまとめを行い知識・理解が深まり定着したかを確認する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

復習と課題提出に重点を置いた学習になります。A4で1ページくらいの短い提出物が2回に1回ほどあります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。前回の授業の資料を確認し、次回の授業に備えます。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけ、レポートにして発表・提出を行います。毎回授業開始の直前に授業で使用するスライドのPDFをHoppiiに掲載します。ダウンロードしてメモを取るなどに利用してください。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

Levy, M., Weitz, B.A., Grewal, D., Retailing Management 9th Ed., McGraw-Hill Higher Education, 2014『流通チャネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社、2011  
『1からのリテール・マネジメント』清水信年、坂田隆文、碩学舎、2012

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、平常点60%、課題40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度 (Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

教員からの一方的な説明だけでなく、グループワークやグループディスカッションが刺激となり、学びが深まったという意見が見られました。出来るだけこのような要素を取り入れた授業構成をします。また、授業に双方向なコミュニケーションを取り入れるようにします。受講生の多い授業ですが、出来るだけこのような形での授業運営をしたいと思っておりますので、バラバラに教室の後方に着席するのではなく、参加しやすいように教室の前の方に固まって着席するようにご協力をお願いします。

グループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム Hoppii、googleclassroom を使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

**【その他の重要事項】**

東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

**【Outline (in English)】**

Until now, things like Globalization, IT revolution, Work Style reform, Diversity, Sustainability have brought significant changes in Distribution/Sales and Marketing.

Pandemic, Ukraine War, Geopolitical Issues and Natural disasters resulting in significant inflation and instabilities across globe have brought even more substantial changes to each person/corporation/organization and forced us to change ourselves and the way we act. These changes also seem further accelerating right now.

Under such environment, no matter where to work at any position, all students are invited to think together about new way of Distribution/Sales/Marketing and acquire broader perspective to cope with the current changes and lead the changes. Furthermore, they will need to acquire skills and knowledges that would be useful for them in the future.

We will synergize with and deepen the learnings from Marketing Class in spring semester by highlightening new areas of Social Marketing, Marketing with IT/AI, DIY Marketing and Marketing at startups and SMEs.

< Goal >

- 1) Understand development of retail industry in Japan/global and relating basic B2B/B2C marketing concepts
- 2) Understand significant changes and those implications in retail industry
- 3) Listen experiences/examples from industry practitioners and develop basic understanding of real business

< Work to be done outside of class (preparation, etc.) >

Pre and post studies (2 hours each) are required. A4 one page short assignment will be given once in 2 classes. Visit real retail shops around Tokyo area by assigned team and project paper will need to turn in as a team. Transportation costs will be paid by the student.

We will post materials on Hoppii just before each class starts. Please download and take notes.

< Grading Criteria >

Class participation 60%, Assignment submission and contents 40%. If team assignment, team members evaluate other members' contribution and cooperations each other.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**流通・サービスビジネス論** 展開科目

村田 茂

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト (DX化) の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けた産業の中で、メディア産業と流通産業を取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

**【到達目標】**

本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア (ビジネスモデル) の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。

- ①流通・サービスビジネスに関する一般知識、基本的用語を説明できるか
- ②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
- ③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

インターネットの普及について、その発展とそれともなう社会 (ビジネス) への影響を学びます。なぜ、GAFAMが巨大企業に成長し得たのか? あらゆるビジネスに影響を与えている構造的な変化を理解し、メディアと流通の2つの産業の事例をもとに学んでいきます。出版業界、新聞業界、放送業界、eコマース業界、インターネット広告業界を解説します。具体的なビジネスモデルや重要な用語解説などを理解し、ビジネスマインド、リテラシーの向上を目指します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	流通・サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力 ②本質を見抜く力 ③問題意識を持つ力 ④未来を予想する力
第2回	流通・サービスビジネス業界研究①	第1回目は、出版業界 (雑誌、コミック、電子書籍)
第3回	流通・サービスビジネス業界研究②	第2回目は、新聞業界。
第4回	流通・サービスビジネス業界研究③	第3回目は、放送業界 (テレビ、ラジオ)。
第5回	web1.0、web2.0、web3.0の理解	流通・サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりからNFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第6回	クリエイターエコノミー=個人発信 (SNS)	SNSの普及による個人発信の時代が到来。UGCサイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。

第7回	流通・サービスビジネス業界研究④	第4回目は、eコマース業界。
第8回	流通・サービスビジネス業界研究⑤	第5回目は、インターネット広告業界。
第9回	新しいビジネスモデルの発明 (ゲストスピーカー)	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は? ゲストスピーカーとともに、流通・サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第10回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第11回	業界研究のまとめ	これまでの学習について総括します。
第12回	知の探究①…ビジネス環境変化、ビジネストレンド	グローバルで激変するビジネス環境、AIなどのトレンドを理解し、俯瞰で考える力を学修します。
第13回	知の探究②…ビジネス論、ビジネス用語	ビジネス論 (古典から現代まで) の基礎と、重要なビジネス用語 (定番からトレンドまで) から、ビジネス構造を理解する力を学修します。
第14回	試験・課題レポート	試験と課題レポートを実施します。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

日頃から情報メディア (ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌) に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。流通・サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分は何で、このアプリを活用しているのか? このビジネスはどのように成り立っているのか? を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書は使用しません。  
毎回、参考資料を用意します。

**【参考書】**

毎回、参考資料を用意します。  
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、以下の3点を評価します。  
①流通・サービスビジネスに関する一般知識、基本的用語を説明できるか  
②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか  
③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか  
授業でおこなう小課題 30%  
授業でおこなう中課題 20%  
課題 (レポート) 50%  
成績評価は100点満点とし60点以上が合格となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。  
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、PCなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

**【その他の重要事項】**

<実務経験のある教員による授業>

出版・放送メディアや各種コンテンツ制作などのエンタテインメントビジネスと、eコマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.

**【Learning Objectives】**

The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

**【Learning activities outside of classroom】**

Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.

**【Grading Criteria /Policy】**

Grading will be based on the following three points.

- ① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
- ② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
- ③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

Small assignments in class 10%

Test 40%

Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.



MAN200MA (経営学 / Management 200)

**就業機会発見実務**

展開科目

今井 道子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作れる人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

**【到達目標】**

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間を目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じて多様なジョブ、これから注目される業界について理解します。④演習を通じて実社会で生きていくためのさまざまなスキルトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験(オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可)を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、第2回目以降の授業内容、成績評価方法についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概要を紹介します。
第2回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。演習を通じて興味がある企業のエンプロイアビリティについて考えます。
第3回	自己理解1 (特性因子理論より)	演習を通じてRIASECの理論(ホランド)を体感し、自己理解・自己開示への啓発的体験を得ます。
第4回	自己理解2 (発達理論より)	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが重要かを理解し、演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験を得ます。
第5回	自己理解3 (トランジションへの対応として)	4S理論(シュロスバーグ)を背景に、具体的事例を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解と自己肯定感を高める啓発的体験を得ます。

第6回	職業理解1 (採用)	採用に際して重要視されていることを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通してインターン先企業を決める手法について考えます。
第7回	職業理解2 (職務)	ジョブ(職務)の概念を会得し、ジョブ(職務)を中心として人事制度ができあがっていることを把握します。また、企業で導入が進むジョブ型人事制度での働き方について考えます。
第8回	職業理解3 (職場コミュニケーション)	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解します。また、多様なジョブについて学び、演習を通してジョブごとの課題解決手法について考えます。
第9回	職業理解4 (起業)	起業を志す人の特性について思索します。また、「起業とキャリア」に関する経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通して、興味がある起業分野のビジネスモデルについて考えます。
第10回	成長できる仕事選び1 (やりたいジョブ)	自分のやりたいジョブについて思索し、演習を通してジョブごとの課題解決手法について考えます。
第11回	第11回: 成長できる仕事選び2 (業界理解、グループ討議)	業界の構造を知り、各業界の特徴、これから注目される業界について考えます。演習を通して、興味がある業界について理解を深めます。
第12回	成長できる仕事選び3 (就活のプロセス)	就活のプロセスについて理解し、相手に伝わるES(エントリーシート)の文章の書き方、直前対策について学びます。
第13回	成長できる仕事選び4 (試験。面接の意義、グループ討議)	自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。
第14回	振り返り	13回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティが高まったか、興味をもつ業界、ジョブについて振り返ります。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**  
ときどき簡単なレポートを出します。本授業の準備学習・復習時間は計4時間程度を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**  
『キャリア開発論 (改訂版)』(武石恵美子著:中央経済社)

**【参考書】**  
適宜提示します。

**【成績評価の方法と基準】**  
試験(25)、レポート(25)、リアクションペーパーのコメント(50)を基準とします。質問・発表などによる積極的な授業参加を最重視します。期末試験はオープンブック方式(電子機器以外は持ち込み可)で、到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

**【学生の意見等からの気づき】**  
「就活で、グループディスカッションの経験が少ないことが不安です」というフィードバックをいただきましたので、グループ全体で議論をまとめる力、それを元に時間内でプレゼンを行う力が自然に身に付くように訓練します。ディスカッション力は、就活のみならず、就職後、日々の仕事の中で生きてきます。

**【学生が準備すべき機器他】**  
学習支援システムを通じて資料等を配布します。

**【その他の重要事項】**

ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたってビジネス社会を取材し見つけてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様な仕事に携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえてエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める方法について考察し、今後のキャリアについて思索する機会をつくります。その上で、いま起きている変化に対応し、今後実社会で生きていくためのさまざまな力を身に付けます。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to create opportunities to enhance your own employability and entrepreneurship by considering "what makes the difference between those who increase employment opportunities and those who do not" and "who can create business opportunities."

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Creating an opportunity to understand methods to deepen your understanding of the labour market and the times.
2. Promoting and checking your self-understanding, and increasing your awareness of social role and employability.
3. Providing time for contemplation on what it means to be a 'people expert', which is one of the greatest strengths of being a career design graduate.

Occasionally a brief report will be given. Your study time will be more than 4 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination(25%), Reports(25%), Comments on reaction papers(50%),and in-class contribution. The final examination will be open-book (students may bring in all but electronic equipment) and will include questions to see whether the achievement objectives have been met.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**キャリア研究調査実習E (幸福論)** 展開科目

林 洋一郎

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本講義は、幸福をウェルビーイングという観点から捉える試みを通して心理測定と量的調査の基礎を学びます。ウェルビーイングとは、どのようにとらえられるのでしょうか。キャリアデザインは、様々な学問分野から構成される学際領域ですが、個人の思考、態度、感情といった観察できない概念を研究対象とします。このような観察できない対象を心理学においては構成概念と呼びます。

構成概念とは、例えば、知能、能力、パーソナリティ、態度、行動などです。構成概念を測定するための方法を体系化した心理測定 (psychometric) という領域があります。本講義は、心理測定の哲学を重視しながら量的調査法について学びます。キャリアに関わる研究の多くは人を対象にしております。キャリアを実証的に研究する上で、心理測定の方法や考え方はきっと役に立つと思われまます。また、心理測定は、統計学と密接に関連しています。よって統計学の知識が不可欠です。

そこで本講義は、心理測定に基づく量的調査法を学びます。統計分析には、フリーの統計ソフトであるRを使う予定です。分析の実習は、講師が提供するウェルビーイングを含むサンプル・データを使います。本講義は、Rを使いやすくするためのR studioという統合開発環境 (IDE) を使って分析を進める予定ですが、使用するソフトウェアについては変更することありえます。

**【到達目標】**

学生の皆さんが、以下の内容に関する知識、考え方、スキルを身につけることを目標とします。具体的には下記のような内容の習得を目指します。

- ・心理学的な調査法の基礎概念について学ぶ。具体的には、構成概念の考え方や捉え方、質問紙(questionnaire)の設計や分析方法についてのスキルを得る。
- ・信頼性や妥当性など心理測定の基礎概念について学ぶ。
- ・統計ソフトを使った多変量解析の基本を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

講義と実習を組み合わせる授業を進めていきます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体概要
第2回	心理学研究法と研究倫理	調査と調査法以外の研究方法を対比させながら調査法について学ぶ
第3回	リサーチ・クエスチョンと仮説	リサーチ・クエスチョンや仮説の具体的な設定の仕方について学ぶ
第4回	テスト理論の基礎①	信頼性の概念について学ぶ
第5回	テスト理論の基礎②	構成概念妥当性と項目反応理論
第6回	質問紙の作成	SD法、リッカート尺度、google form
第7回	統計ソフトウェアの導入	R、HAD、JPSPなど無料の統計ソフトを紹介
第8回	基礎統計量①	記述統計量、ヒストグラム、箱ひげ図

第9回	基礎統計量②	変数間の関連。クロス集計や相関係数の概念とその算出。
第10回	探索的因子分析と信頼性係数	psych packageを使って探索的因子分析を行う。平行分析やMAPなど、統計的に因子数を決定する方法についても言及する。また、信頼性係数 $\alpha$ の算出方法について学ぶ。
第11回	重回帰分析	pequodパッケージを用いた重回帰分析の方法を学ぶ
第12回	平均値の差の検定	t検定と一元配置の分散分析
第13回	平均値の差の検定②	二元配置の分散分析と交互作用
第14回	Q & A	Rの操作法など不明な点があれば質問を受ける。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Rの操作に重点をおくため、統計の詳細な解説については概略にとどめます。よって基本的な統計知識については、指定の参考書などを参考にして、自習によって補ってください。

**【テキスト (教科書)】**

緒賀郷志(2019) Rによる心理・調査データ解析 第2版 東京都書

**【参考書】**

清水裕士ほか(2021) 『心理学統計法』 放送大学教育振興会  
デニー・ボースブーム (著)・仲嶺真 (監修, 翻訳) 『心を測る』 金子書房

**【成績評価の方法と基準】**

統計ソフトの使用を含むので、クラスへの出席と実習への積極的参加を重視します。分析の結果は、卒論のみならず何らかのレポートという形式で公表されると思います。よって最終レポートも重視します。

平常点：60% 最終レポート：40%

※欠席が3回以上の場合、自動的に成績不可とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

データやエビデンスに基づく主張は、説得力があることを学んでもらえればと思います。

**【学生が準備すべき機器他】**

自前のノートパソコンをお持ちください。Windowsでも、Macでも構いませんがWindowsを前提として説明を進めていきます。ただ、どちらのユーザーであっても学習に大きな支障にはなりません。

**【Outline (in English)】**

This lecture will cover the basics of psychometrics and quantitative research through an attempt to view well-being in terms of well-being. How can well-being be understood? Career design is an interdisciplinary field consisting of various academic disciplines, and the object of study is unobservable concepts such as thoughts, attitudes, and feelings of individuals. Such unobservable objects are called constructs in psychology.

Constructs include, for example, intelligence, ability, personality, attitudes, and behavior. There is a field of psychometrics that systematizes methods for measuring constructs. This course will focus on quantitative research methods with an emphasis on the philosophy of psychometrics. Most career-related research is conducted on people. We believe that psychometric methods and concepts will be useful in empirically studying careers. In addition, psychometrics is closely related to statistics. Therefore, knowledge of statistics is essential.

Therefore, this lecture will cover quantitative research methods based on psychometrics. For statistical analysis, we will use R, a free statistical software. The analysis will be practiced using sample data including well-being provided by the lecturer. This lecture will be conducted using R studio, an integrated development environment (IDE) that makes R easy to use, but the software to be used is subject to change.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**キャリア研究調査実習F (まちづくり論)** 展開科目

大西 未希

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

近年、「まちづくり」の在り方が注目されている。地域に根ざしたまちづくりを考えるためには、まずはつぶさな視点でまちを調査すること、そのデータを検討し、地域にある資産と課題を浮かび上がらせることが重要である。そこで本授業では「まちづくり」をテーマとした社会調査(質的調査)のプロセスを学び、実践的な能力を身につけることを目指す。

**【到達目標】**

- (1) 質的調査の調査デザイン、調査手続きについて説明できる。
- (2) 質的調査におけるデータ収集、分析の手法について説明できる。
- (3) 対象地域において適切な調査デザインを採用し、調査・分析を進めることができる。
- (4) 対象地域への調査結果からまちづくりの提案を行うことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

一方向的講義を行うだけでなく、講義内外でのフィールドワーク演習、グループディスカッションを行うことでスキル獲得を目指す。能動的姿勢が必要となる(参画度も授業評価対象となる)。

▼演習：提示された演習課題(主に観察調査)を期限までに行い、学習支援システムより方法で提出。提出された課題を講義内で発表したり、講師からフィードバックすることがある。

▼自習：学習支援システムなどを利用して講師からのお知らせ、補足資料提示などを行う。それを元に予習・復習をする。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
あり/Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション(オンデマンド)	授業の到達目標、概要、方法の解説と履修希望アンケート実施 ※希望人数により履修選抜
第2回	質的調査の概要	質的調査と量的調査の調査法の違い、質的調査を元にした研究の事例、情報機器を用いたデータ収集演習
第3回	質的調査の方法 情報機器を使ったデータ取得	前回の演習のフィードバック、フィールドワークの姿勢について、考現学の発想の解説とデータ収集演習
第4回	質的調査の方法 フィールドノート	前回の演習のフィードバック、考現学の発想に基づいたデータ収集バリエーション・フィールドノートの書き方の解説と演習
第5回	質的調査の方法 スケッチ・メモ	前回の演習のフィードバック、路上観察におけるスケッチやメモのデータを用いた研究成果、定点観測の手法解説、定点観測の調査設計・データ収集演習
第6回	質的調査の実践 データ検討	データセッションの手法、データ分類の手法解説、データセッションの実践

第7回	質的調査の実践 調査の手続き	調 質的調査デザインの組み立て方、問いと作業仮説について、調査対象地域の選定方法、アポイントメントの取り方、依頼書の書き方解説と演習
第8回	質的調査の実践 参与観察	参 参与観察の手法、ラポール、現場へのアクセス権に関する解説、質的調査デザインのブラッシュアップ演習
第9回	質的調査の実践 事前調査	事 まちづくりの現在、地域資産、地域研究の事例、文献や既存の資料の調査、地域の歴史等事実関係の整理、作業仮説の立て方の解説と演習(フィールドワーク実習1週目)
第10回	質的調査の実践 調査デザイン	調 定性的コーディングとコード化の解説、実践、データ整理演習(フィールドワーク実習2週目)
第11回	質的調査の実践 実査	実 データセッション実習、コーディングの実践、グループで分析を進める、(フィールドワーク実習3週目)
第12回	質的調査の実践 実査	実 データセッション実習、フィールドワークのまちづくりへの活かし方事例、課題と資産の考え方解説
第13回	質的調査の実践 実査	実 データ整理の手法、まちづくりのアイデアの考え方の解説と演習
第14回	調査結果の発表	質的調査の成果から「まちづくりへの提案」をテーマにした構想を発表

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

- ・ 授業の中で実習課題が課されることがある。
- ・ 授業外に調査実習を行うことがある。
- ・ 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト(教科書)】**

指定なし。

**【参考書】**

佐藤郁哉(2006)『フィールドワーク- 書を持って街へ出よう(増訂版)』新曜社  
前田拓也・秋谷直矩・林沙羅・木下衆編(2016)『最強の社会調査入門——これから質的調査をはじめるときのために』ナカニシヤ出版

**【成績評価の方法と基準】**

授業への積極的な貢献度：20% 授業内課題：30% 最終課題：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・ パソコンを利用する回がある。事前に告知するので、ノートパソコンを持参の上講義に出席すること。
- ・ スマホを利用する回がある。

**【その他の重要事項】**

- ・ 履修選抜の可能性がありますので、初回講義をメ切り日までにオンデマンドで受講の上履修希望アンケートを提出してください。
- ・ 演習授業のため、基本的に遅刻欠席は原則NG。
- ・ 授業外で行う課題もあります。締め切り厳禁。
- ・ 欠席した場合は、授業支援システムから講義資料を確認し、演習を各自行っておくこと。

・ 課題は共有し、講評をシェアすることがあります。プライベートにできる限り配慮いたしますが気になることがある方はご相談ください。  
・ 不明点は大西まで質問してください。オフィスアワーを設定いたしますので、ご希望の方は事前にメールをいただけますと助かります。  
連絡先：大西 未希 [miki.onishi.35@hosei.ac.jp](mailto:miki.onishi.35@hosei.ac.jp)

私たちの生活は、地続きに「まち」とつながっています。例えば、家の近所にはどんな張り紙があるでしょうか。屋外に何が置いてあるでしょうか。ゴミ捨てるルールをどんな方法でアナウンスしているでしょうか。これはほんの一例ですが、落ち着いて家の周りをめぐるだけでも、豊かなフィールドワークはできます。

直接人と向き合いにくい期間が続きましたが、会話なしにも共同生活がしやすいようどのように創意工夫をし、人々が動かされているかよりクリアに見えるようにもなっているようにも思えます。それはまちにある特性を考える上で非常に興味深いテーマとなります。皆さんには実際にまちを歩いたり、日常過ごす中でデータを取得してきてもらいます。演習の内容は、この講義の受講生のみでシェアします。人びとの個別具体的な暮らし、営みを丁寧に観察しましょう。ミクロな視点でまちを見ると、なぜか人が集まって談笑している場所、待ちあわせがよくされている場所などがあることなどが見えてきます。人びとの暮らしと「まち」との関係にもフォーカスし、まちと人びとのどのような関係性があり得るのか、考える時間になりたいと思います。

まちづくりの施策に関心がある方はもちろん、散歩や、ものを観察することが好きという関心の方も歓迎します。

講師はこれまで東京都立川市や三宅島をはじめとした地域で官民と共同しながら地域での取り組みを行ってきましたので、実践の中でのお話もシェアできればと思います。

**【Outline (in English)】**

**【Outline and objectives】**

Qualitative research involves the collection and rigorous analysis of observations, interviews, and other records of human activity so that we can come to a richer understanding of structures, processes, and perspectives that drive or shape human behavior. We will also practice some of the activities associated with executing a qualitative research study relevant to community development.

**【Learning Objectives】**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Skills related to survey design and survey procedures for qualitative research
- Skills to explain and practice the methods of study, participant observation, and interviews
- Skills to conduct appropriate surveys in the target area
- Skills to make proposals for community development based on the results of surveys in the target area

**【Learning activities outside of classroom】**

Students will be expected to have completed the required fieldwork assignments after each class. Your study time will be more than two hours for a class.

**【Grading Criteria /Policy】**

Final grade will be calculated according to homework (20%), term-end report(50%), and in-class contribution(30%)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

外書講読A (ライフ)

展開科目

門脇 仁

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、映像、広告、ルポルタージュなどの英文を毎回1本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的ノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。なお、この授業は後期科目「外書講読B」のテーマと一部重複するが、取り上げる情報(課題文)は同一ではなく、バリエーションを加える。

【到達目標】

外国語のメッセージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみる。また、A4版1枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上2種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また海外の情報ソースを利用して情報検索する際の手順をアローダイアグラムつきで解説。授業後のリアクションペーパーでは、受講者が各自の具体的な到達目標を掲げる。
2	世界の最新情報を英語で入手	現在、世界的に注目されているGAF関連の書'Post Corona'の読み解きを通じて、英語による国際情勢へのアプローチを実践。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。

5	ルポルタージュの英語	National Geographic誌のルポルタージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special EnglishやCNN Student Newsをテキストに、音声情報の活用方法を身につける。
8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ガイドブック&マニユアルの英語	旅行ガイドブックや製品取扱説明書など、実用的な英語に触れ、こうした情報を効率的に使いこなす方法を学ぶ。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
11	TOEIC/TOEFLの活用法	ETS (Educational Testing Service)が行なう英語試験TOEFL iBTやTOEIC L&Rを参考に、英語による情報伝達の基本を学ぶ。
12	海外に紹介された日本	日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
13	個人発表	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
14	総括	前回の個人発表に対するフィードバックも含め、これまでの授業のポイントを総括する。リアクションペーパーでは、受講者各自が最初に掲げた目標に到達できたかどうかを報告。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト(教科書)】

各回の授業で資料を配布。

【参考書】

『広葉樹の国フランス』(門脇仁著、築地書館)  
『エコカルチャーから見た世界ー思考・伝統・アートで読み解く』(門脇仁著、ミネルヴァ書房)  
Tree ThievesーCrime and Survival in North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)

【成績評価の方法と基準】

筆記試験50%、平常点50%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。また、映像のナレーションやラジオ番組といった英語音声も併せて活用して行く。

【学生が準備すべき機器他】

PC(教室への持参は不要)

**【その他の重要事項】**

背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

**【Outline (in English)】**

How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.

By the end of this course, students are expected to do followings:

-Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.

-Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.

-Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

外書講読 B (ライフ)

展開科目

門脇 仁

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する (なお、この授業は前期科目「外書講読 A」のテーマと一部重複するが、取り上げる情報 (課題文) は同一ではなく、バリエーションを加える)。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標 (速読スピード、TOEICスコアなど) を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回 A 4 版 1 ~ 2 枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。

大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また、海外の情報ソースから情報検索する際の手順をアローダイアグラムつきで解説。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー (自伝) の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学び取る。

第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバル 이슈の読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。
第 10 回	プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。
第 11 回	TOEIC の活用法	TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力をともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第 12 回	メッセージを読み解く	2016 年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達メカニズムを探る。
第 13 回	広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第 14 回	個人発表	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト (教科書)】

授業で配布するレジュメと課題文がテキストとなる。

【参考書】

『広葉樹の国フランス』(門脇仁著、築地書館刊)  
 Tree Thieves—Crime and Survival In North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)  
 『エコカルチャーから見た世界』(門脇仁著、ミネルヴァ書房刊)

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (50%)、平常点 (50%)  
 リアクションペーパーの内容を特に重視する。



**【学生の意見等からの気づき】**

この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながる。これまでよりも一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室設置のPC、プロジェクター、DVDプレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

**【その他の重要事項】**

全てのコースのベースとなる科目です。

**【その他】**

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

**【Outline (in English)】**

How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

By the end of this course, students are expected to do followings:

- Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.
- Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.
- Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.

Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.

Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%

Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

コミュニティ社会論 I

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

(1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

(2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業 (Zoom) を行う可能性もあります。

オンライン授業の場合、Zoomへのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げること、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー (小レポート) としてまとめ提出してもらいます。次の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・前近代・近代・現代における家族と絆
第2回	前近代・近代・現代における結婚と<子ども>の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、<子ども>へのまなごしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する

第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワークの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなごし方の変化	第3回の<子ども>の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目 (1)	コミュニティの健全性に関するデュルケムの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目 (2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第13回	歴史と社会を見る目 (3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第14回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに適用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)、平常点 (30%)。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー (小レポート)、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします (個別の問い合わせには応じられません)。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、状況によって、オンライン授業 (Zoom) を行う可能性もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー (小レポート) としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・子ども問題の歴史
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する

第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点 (1)	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点 (2)	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点 (3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点 (4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第13回	歴史と社会の再生産	第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第14回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (70%)、平常点 (30%)。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー (小レポート)、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします (個別の問い合わせには応じられません)。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**家族論**

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

**【到達目標】**

本講義の目標は、2つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。

初回から学習支援システムを確認すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生”から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生”から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『親になれない親たち』（斎藤嘉孝、2009年、新曜社）

**【参考書】**

- ・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009年、ミネルヴァ書房）
- ・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009年、世界思想社）
- ・他は随時紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への貢献度(40%)・小レポート(10%)・期末試験(50%)と総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

**【その他の重要事項】**

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

**【Outline (in English)】**

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society. Learning objectives of this course are to understand variation of contemporary family issues and to get ideas about career design of students themselves. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 40%, reports 10% and final exam 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

若者文化論

展開科目

玉川 博章

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面(産業構造やビジネスモデル)と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の1960年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンターテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の1960年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業のため(初回など一部授業回を除く)、基本的に講義形式となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。なお、オンラインの場合は、動画視聴と配付資料によるオンデマンド方式を前提とします。なお、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、いくつか代表的な内容等を次回・次々回に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション メディアと若者文化 (サブカルチャー)	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第2回	文化と消費×消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第3回	物語消費論	大塚英志による1980年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第4回	80年代のバブル・消費文化	1970～80年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第5回	80年代における「オタク」と消費文化	1980年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と鳥宇宙化・若者文化の細分化について
第6回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察

第7回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第8回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第9回	メディアミックス② 角川商法(映画と出版)	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第10回	メディアミックス③ 角川(アニメ・ゲーム・コミック)とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980年代～2000年代のアニメ・マンガについて
第11回	アイドルとメディア	アイドル文化が戦後～現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第12回	アイドルと「消費者」(オタク)	アイドル文化が趣味集団、そして消費とどう関係しているのかを分析
第13回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーショへと変化する消費と若者文化について
第14回	まとめ サブカルチャーと後期近代	これまでの授業内容の整理と発展的議論ならびに授業の理解度確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間(計4時間)を標準とします。また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト(教科書)】

なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】

大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・提出物(小テストや感想、小レポート等提出課題)50%+試験(または期末レポート)50%  
試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大人数講義が予想されるが、一方通行とならないように、複数回の課題のフィードバックや授業時のアンケートなどでインタラクティブな取組をとり、受講生の動向や意見も参考にしつつ授業を進行したい。また、初めに注意もしているが私語などは厳禁でお願いしたい。なお、時短で寺領や論文を読むことで理解が深まる内容の場合はオンデマンドのオンライン授業として、対面と組み合わせるので注意して欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用

【Outline (in English)】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.

In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.

Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50% and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

世代間交流論

展開科目

安田 節之

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】

- ①地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
- ②世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方をまず学び、それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。この授業はオンライン(リアルタイム型)での実施を予定しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第2回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ① (事例：駄菓子屋)。
第3回	理論的背景②	学際的視点から世代間交流を学ぶ② (課題学習文献：プログラム評価の学び)。
第4回	理論的背景③	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第5回	理論的背景④	多様な交流のあり方とアイデンティティ (事例：シェアハウス)。
第6回	理論的背景⑤	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第7回	実践的課題	世代間交流の視点から社会課題を検討する (演習：問題分析ワーク)。
第8回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討 (演習：ゴール設定)。
第9回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える (演習：ロジックモデル開発①)。
第10回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する (演習：ロジックモデル開発②)。
第11回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する (演習：アウトカムとデータ収集計画の計画)。

第12回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する (演習：評価クエスチョンの設定)。
第13回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第14回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の指定箇所を必ず読んでうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之, 2011, 新曜社)

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(50%), グループワーク (演習参加・発表・レポート作成) (30%), 授業への積極的な貢献(20%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline (in English)】

This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

Learning Objectives:

- ・ Understand social and cultural issues relating to intergenerational programs
- ・ Develop skills to design and evaluation intergenerational programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

- 50 points (%) for final report
- 30 points (%) for group assignments
- 20 points (%) for active participation in classroom activities

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

身体表現論

展開科目

叶 雄大

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演劇的手法のエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。また様々な表現方法を体験することで、コミュニケーションについて考える。

【到達目標】

感性と感覚を磨き、自己発見・他者理解・想像・コミュニケーションの力を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

教科書内にある身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と全体の概要を説明。
第2回	ウォーミングアップ	表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第3回	身体・感覚1	身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第4回	身体・感覚2	感覚の一つを遮断する事で、他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第5回	身体・感覚3	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第6回	表現力を高める為に	感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。
第7回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第8回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第9回	インプロヴィゼーション1基礎	創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第10回	インプロヴィゼーション2言語	言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義
第11回	インプロヴィゼーション3非言語	言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。

第12回	グループ創作	グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する
第13回	グループ創作と発表	創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第14回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題(30分程度で課題に対して自由筆記のレポート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業内にミニレポートを提出。ミニレポートの返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。本授業の復習・予習時間は、各2時間を標準とする。授業の記録を元に、復習として2時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として2時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。

【テキスト (教科書)】

アイデアとバリエーションで広がる表現活動プログラムレシピBOOK 太宰久夫 (監修) 大塚恵美子・叶雄大・下川涼子・中根久寧 (共著) アートインライフ刊 2023年11月12日初版 3600円 (送料込み)

<http://www.artinlife.jp/books.html>

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として1/5以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢70% レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

火曜日から水曜日へと授業時間が変更となりました。また、理論についてのレクチャーを充実させるために、テキストを使用します。昨年度の授業内で好評だった身体を動かすエクササイズは今年も同様に行う。マスクの着用に関しては個人の判断とする。感染症対策(換気・消毒など)も昨年と同様に行う。体験を重視はするが、理論についてのガイダンスも適宜入れ、体験した事の理解を目指す。本年度は授業の予習復習時間のため、授業期間中にレポート課題を出し、指定日に提出する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。水分補給用の飲み物など

【その他の重要事項】

動きやすい服装(体操着・レオタード等の着用の必要はない)で参加する事。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。頭で考えるよりも体験を通して気がついた事、感じた事を元に自分自身の表現方法を発見していきましょう。なお、教室のサイズにより、受講者数を制限(選抜)することがあります。履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style. 【Learning Objectives】 Improving communication skills from consideration of self and others' expressions 【Learning activities outside of classroom】 Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson 【Grading Criteria/Policy】 Class attitude and attendance 70%.In-class report and Last day free writing report 30%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

地域文化論

展開科目

古屋 星斗

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近い将来極めて厳しい状況が推定される地域社会の人口動態や労働需給見通しなどをもとに、2040年の地域での生活を実際の・具体的に想像し、いま打つことができる手を探っていきます。特に「その地域でのひとづくり」の観点で、行政・地域企業としてできることを考えていきます。

本講義に参加される方は、それぞれ深める対象にする都道府県や市区町村を選んで頂き、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち3回となります。

【到達目標】

本講義のテーマは「日本社会の地域課題を解決できるような、ひとづくりの仕組みを考える」です。選んだ地域における人材政策を起点に、その地域ならではの人材育成・人材活用の可能性を整理し、地方の現場で提言・実践できるような構想力の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

受講生は、自身が選んだ地域について講義におけるインプットをもとに、ワークショップを通じて最終的にレポートをまとめ講義に参加いただきます。インプットを中心とする回でも双方向で行うため、小規模なグループワークを行うことがあります。すべての分析や検討について、一般論に留まらない今後の地域社会・地域文化のリアルを反映させた意見が求められます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義はひとづくりを通じて地域課題を解決するという点を中心に、講義の進め方や評価方法についてガイダンスを行います。
第2回	地域文化におけるひとづくりの歴史	近代以前からの日本各地における多様なひとづくりの歴史を確認し、その多様性がどう変化してきたか整理します。
第3回	なぜ地域で「ひとづくり」が論点となっているか (前編)	労働需給シミュレーションなどの結果をインプットし、各地域に生きる人々の生活がどう変化していくのかシーン別でイメージします。
第4回	地域課題の現実① (地域の人づくり)	地方における若者・女性活躍支援や人材育成等に取り組む当事者 (行政官・非営利団体等) の話を聞いたうえで、課題のポイントを確認・共有します。
第5回	地域課題の現実② (地方創生・地域の魅力)	地方自治体の地方創生、地域文化発信等を担当する行政官の話聞いたうえで、課題のポイントを確認・共有します。
第6回	地域課題の現実③ (産業・企業)	地域ごとの産業構造の差異や、地域の中小企業が抱える問題や課題感を知り、課題のポイントを確認・共有します。

第7回	なぜ地域で「ひとづくり」が論点となっているか (後編)	若年労働市場、若手社会人の働き方・キャリア形成の変化の観点から、地域のひとづくりの可能性を考えます。
第8回	人づくりのボトルネックを知る	財源、法制度など、地域での人づくりの前提・ボトルネックになっている諸要素を学びます。
第9回	地域の未来の芽①	地域文化の振興を行うために人材育成を行っている企業事例をケーススタディとして聞き、質疑応答等を行います。
第10回	地域の未来の芽②	地域文化に根差した新たな若者づくりを実践している事例をケーススタディとして聞き、質疑応答等を行います。
第11回	地域課題の小括	本講義のインプットを受けて、各自が地域のひとづくりに向けて課題を整理し、最終課題で取り組む地域を選定します。
第12回	ワークショップ①	各自が選定した地域ごとに、その地域の現状と課題を整理し、「その地域ならではの」強みと最も解決すべき課題を特定します。
第13回	ワークショップ②	各自が選定した地域に対して、解決策案の検討・ディスカッションを行います。
第14回	期末・まとめ	対象とした地域のひとづくりについて提言をレポートにして提出、それを発表します。レポートは、対象となる地域の分析精度・課題設定の妥当性・解決策の構想力・解決策の実現可能性の4点について評価を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自分が選んだ都道府県・市区町村の施策やデータを調べ・整理することが前提となる最終課題を課します。

そのため、特に講義後半のワークショップの回以降は講義外で一定の作業時間が発生します。また、ゲスト講師回への事前質問の提出を出席点としており、それまでの講義内容やゲスト講師のインプットなどを行ったうえでの質問提出が望まれます。以上、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】

「働き手不足1100万人」の衝撃, 古屋星斗+リクルートワークス研究所, プレジデント社, 2024, 1870円

「なぜ『若手を育てる』のは今、こんなに難しいのか」, 古屋星斗, 日本経済新聞出版, 2023, 1760円

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献および最終課題とワークショップ提出物の内容で評価します。最終課題は、対象となる地域の分析精度・課題設定の妥当性・解決策の構想力・解決策の実現可能性の4点について評価を行います。

・出席点 (貢献点) : 40% (ゲスト講師回での事前質問・当日質問等、講義への貢献度合いを評価)

・ワークショップ : 20%

・期末試験 : 40% (期末試験はなく、プレゼンテーション形式の最終課題提出となります)

【学生の意見等からの気づき】

選択授業ですので、受講生の自主性を重んじたいと思います。ただ、単に「自由」だと方向性が明確でないことから、本講義における評価ポイントを明確に示すことを心掛けています。また、提出物に対しては講義中・システム上でのフィードバックを行い、そのねらいと改善点を伝えます。

また、ワークショップにあたっては地域のひとづくり課題を考えるうえで有用な思考の枠を示し、同様の企画にあたって再現性が高められるような進め方を行います。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報機器（パソコン）の使用を前提とし、パワーポイントやKeynoteといったプレゼンテーションソフトが必須となります。

**【その他の重要事項】**

考える力を養いますので、インタラクティブに進めます。受講生の皆さんには、質問や意見の提示などによる講義への貢献を望みます。また、貢献を評価します。

なお、生成AIの利用は自由です。

講師は、リクルートワークス研究所で地域ごとの労働需給シミュレーションや人材政策のアドバイザーに携わっており、例えば大阪商工会議所で若手キャリアデザイン塾塾長を務めているなど地域での人材育成に取り組んでいます。過去には経済産業省において産業人材政策、福島復興支援、政府成長戦略立案などに携わっており、本講義でも検索して出てくる情報だけでなく現場で奮闘する当事者の声を聞きながら、新しい地域文化創出に貢献できる人材を生み出す提案を考えていきます。

**【Outline (in English)】**

Course outline:

Rethinking community-initiated people development.

Based on demographic trends and labor supply and demand forecasts, it is estimated that local communities will face extremely difficult conditions in the near future. In this lecture, we will imagine life in the region in 2040 and explore solutions. In particular, we will consider what the government and local businesses can do from the perspective of human resource development in the region.

Learning Objectives:

Each student will choose a prefecture or city to research, and will make comments and do group work. Group work will be three times out of the whole course.

Learning activities outside of classroom:

Preparation takes about 2 hours per session. Students are required to research the policies and data of their chosen prefecture or municipality. Therefore, homework will be assigned for each workshop session.

Grading Criteria /Policy:

The evaluation is based on contribution to lectures and the content of the final report and workshop submissions.

The report is evaluated on the following four points: accuracy of analysis of the target area, appropriateness of the problem setting, conceptual ability of the solution, and feasibility of the solution.

Points are allocated as follows

Contribution to lectures: 40%.

Workshop: 20%.

Final report: 40% (There will be no final exam, but a report in the form of a presentation)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**アイデンティティ論**

展開科目

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的である。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

**【到達目標】**

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業内課題はHoppiiを利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション及び基礎知識の解説	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第2回	自己とはなにか：心理学から見たアイデンティティ	自己に関する諸理論からアイデンティティについて議論する。
第3回	自己とはなにか：社会心理学的アプローチ	社会心理学の観点から自己とアイデンティティの研究を解説する。
第4回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューする。
第5回	社会的アイデンティティ (集団間関係)	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程に関する研究成果を解説する。
第6回	社会的アイデンティティ (集団間葛藤)	集団成員となることで生じる集団間葛藤について、特に解決の観点から解説する。
第7回	社会的アイデンティティ (集団内過程)	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程について、主に集団内に対する影響について解説する。
第8回	グループダイナミクス	社会的促進と社会的手抜き心の心理、及びその解決方法について解説する。
第9回	アイデンティティと意思決定	集団の一員としてのアイデンティティが、集団内での意思決定に与える影響について、共有バイアスや集団極性化などを取り上げて解説する。

第10回	社会的公正とアイデンティティ	アイデンティティの獲得が不正感に与える影響について解説する。
第11回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢 (例えば世代論) 等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説する。
第12回	差別の正当化とアイデンティティ	自我脅威と差別の正当化の関係について、先行研究を元に解説する。
第13回	過激化とアイデンティティ	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第14回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

**【参考書】**

脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題+質問で40%、学期末試験 (授業内に実施予定であるが、受講者数などによっては試験期間に実施の可能性もある。突発的な自体の場合はレポート課題への変更もありえる) 60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に説明する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

**【学生が準備すべき機器他】**

一部課題はwindows PCを利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。また授業中にアンケートを取る際に、Google formを利用することもあるので、スマートフォンなども利用可能である事が望ましい。

**【その他の重要事項】**

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

**【Outline (in English)】**

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

Goals of this course are when students try to design their own career, they are able to think about the effects of identity and use it for better designing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

余暇集団論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけでは無く、社会的活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

【到達目標】

人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には日常生活における余暇活動の理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業内課題はHoppiiを利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第2回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第3回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第4回	産業としての余暇	余暇が与える経済的影響について、統計データを用いて解説する。
第5回	日常生活における余暇の心理：動機について	余暇に関する心理のうち、動機に関する知見を解説する。
第6回	日常生活における余暇の心理：心理的報酬について	余暇活動が持つ心理的報酬としての側面と、その逆機能について解説する。
第7回	日常生活における余暇の心理：欲求と満足	余暇活動に対する満足度の測定方法について解説する。
第8回	日常生活における余暇の心理：発達と社会化	発達過程における余暇活動の影響について解説する。
第9回	日常生活における余暇の心理：損と得	余暇活動に伴う、損失と利得の計算の心理を解説する。
第10回	余暇活動としての観光旅行	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第11回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。

第12回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第13回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験して記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第14回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

瀬沼克彰・園田碩哉 (編) 日本余暇学会 (監修) 「余暇学を学ぶ人のために」 世界思想社、2004

【成績評価の方法と基準】

学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題+質問で40%、学期末試験(授業内試験を予定しているが、受講者数などによっては試験期間での実施へ変更することもある。また突発的な事態が生じた場合はレポート課題にて代替する可能性もある)60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題はインターネットへの接続が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "leisure" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the leisure study.

Goals of this course are that students understand leisure activity in Japan theoretically, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**NPO論**

展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

**【到達目標】**

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPOの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に一部変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。授業ごとのリアクションペーパーの提出等含め、今期も授業支援システムを使用します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるNPOの社会的役割について理解する。
第4回	NPOの具体的事例①	NPOの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第5回	NPOの具体的事例②	実際にNPOで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第6回	NPOの組織と運営について	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第7回	NPOと行政との協働	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第8回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例を紹介する。

第9回	NPOと雇用	NPOの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第10回	中間振り返り	前半の知識の整理、質疑応答、ディスカッションなど。
第11回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第12回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第13回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第14回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

参考文献は、授業で随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

最終試験（50％）と、小レポート（10％）、授業への積極的貢献（20％）、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度（20％）によって成績を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

学期の後半の授業ではグループワークを行いながら、NPOへの理解を深めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

2009年に特定非営利活動法人アルファルファを設立し、以降代表理事をつとめています。今年は法人化15周年となりました。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思ひます。

**【Outline (in English)】**

・ Course outline : In this course, we will examine how and how to improve management to develop NPO activities through concrete examples. ・ Learning Objectives : The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them. ・ Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 10%, in-class contribution: 20%, Group work and presentations contribution : 20%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

公共サービス論

展開科目

前浦 穂高

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

公共サービスとは何か？と問いかげられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】

公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面式の授業 (講義形式) を行う。授業は、教員が作成する資料を基に進めていく。授業で使用する資料は、前日までに教育支援システム上にアップする。授業では、資料を配布しないため、受講者は資料を持参すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要説明、公共サービスの定義
第2回	公共サービスの提供と評価 (1)	公共サービスと公共政策の手段、公共サービスを提供する仕組み
第3回	公共サービスの提供と評価 (2)	公共サービスを評価する仕組み
第4回	政府と市場の役割分担 (1)	民間委託の歴史・現状・課題
第5回	政府と市場の役割分担 (2)	民営化の歴史と現状 (道路公団の民営化)
第6回	政府と市場の役割分担 (3)	民営化の歴史と現状 (郵政民営化)
第7回	政府と市場の役割分担 (4)	指定管理者制度の背景・現状・課題
第8回	働く環境の変化と人事行政 (1)	地方公務員を取り囲む環境の変化、人事管理制度とその実態
第9回	働く環境の変化と人事行政 (2)	給与構造改革、能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第10回	働く環境の変化と人事行政 (3)	非常勤職員の活用と課題、正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第11回	公共サービスの現状 (1)	資金交付行政
第12回	公共サービスの現状 (2)	子育て行政
第13回	公共サービスの現状 (3)	コロナ禍の医療従事者
第14回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り、質疑応答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておく方が良い。授業後は講義内容を復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

本授業では、テキストは指定しない。

【参考書】

- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 (2017) 『公共政策学の基礎 新版』有斐閣  
ブックス、
- ・井上雅雄+立教大学キャリアセンター編 (2008) 『講義 仕事と人生』新曜社。
- ・外山公美他著 (2014) 『日本の公共経営』北樹出版。
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次 (2014) 『ホーンブック 地方自治 [第3版]』北樹出版。
- ・岩崎馨・田口和雄編著 (2012) 『賃金・人事制度改革の軌跡—再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房。
- ・大谷基道・河合晃一編著 (2019) 『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規。
- ・前浦穂高 (2023) 『コロナ禍の教訓をいかに生かすか—医療従事者の働き方から考える』ぎょうせい

【成績評価の方法と基準】

成績は期末レポートで決定する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方や内容に関する質問等は、授業後に受け付けるほか、メールでも受け付ける。教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, I would like to think about the future of public service with the students. The goals of this course are to deepen your understanding of public service and enable students to have clear ideas of what public service should be in the future. Preparations for class and the review are necessary for two hours each. Grading will be decided based on term-end report (100%).



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

アート・マネジメント論 展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方、働き方などにおいて、「創造性 (クリエイティビティ)」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産 (創造) され、流通 (普及) し、消費 (鑑賞) されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」(アーティスト)と、アートを「見る人」(観客、愛好家、市民など)のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」(サポーター、マネージャー、プランナーなど)に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。

なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

個別の質問等は随時教室内やメール等で受け付けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第2回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第2回	コロナ禍におけるアートの現状と変化	コロナ禍における文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第3回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第4回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第5回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第6回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第8回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。

第9回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。場合により、オンラインでのフィールドワークも可とする。
第10回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実際について学ぶ。
第11回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第12回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこの課題や問題点を学ぶ。
第13回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。
第14回	授業のまとめ・最終課題説明	これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社 (2009)

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会 (2018)

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点 (50%) と最終課題 (50%) から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

美術、デザイン、舞台芸術、様々なアートにかかわる事象を紹介しながら学んでいきます。また、授業内のゲストは、皆さんの関心に応じて決定していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

・ Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to research art sites such as museums, theatres, live music venues, music festivals and local art projects and conduct field research on various aspects of art and its challenges in contemporary Japan. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on regular marks such as in-class short reports and assignment reports (50%), and the final assignment (50%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

文化経営論

展開科目

武田 知也

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2020年2月26日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。本授業では、この状況で起きたいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体(創り手・企業・行政・NPO等)の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面での講義とオンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー(小レポート)の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進行します。また、毎回の授業の際に、その前の回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。初回は授業概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行います。前期期間中のフィールドワーク課題も出します。具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第3回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第4回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた2020年までの最新の文化政策の動向を探る。
第5回	芸術文化と行政(地方自治体)	都市と芸術文化(創造都市)、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第6回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第7回	フィールドワーク	公立セクターが主体となった芸術文化事業を自身の関心に応じて視察・見学します。
第8回	芸術文化とNPO、ソーシャルアクション	芸術文化を通じたNPOの多様な活動を学ぶ

第9回	アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か? なにをする人たちのなか? アーティストという存在を作品映像等も鑑賞しながら考える
第10回	アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第11回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	マネジメント、プロデュースの実践について、舞台芸術を中心に知る
第12回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践について、他分野との協働事例を中心に知る
第13回	芸術文化とキャリア形成	講師自身のキャリアも含め、芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第14回	授業内試験	授業内試験を実施し、ここまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業(劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等)の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験(70%)と授業内の小レポート(リアクションペーパー)、課題レポートなどの平常点(30%)から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用する資料から更に調査・研究に繋がる資料をなるべく多く提示したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアートNPOに就職し、その後フェスティバル/トーキョー(国際舞台芸術祭)、ロームシアター京都(公立劇場)、さいたま国際芸術祭2020(国際芸術祭)などで企画・制作、キュレーターなどを担い、2021年に自身が代表を務める法人を設立し現在に至っています。

そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline (in English)】

On 26 February 2020, in order to prevent the spread of the new coronavirus, the Japanese government requested that arts and cultural activities, along with sporting events, be refrained from being held as "unnecessary". On the other hand, many people who are interested in art and culture have also voiced their opinions, and it can be said that this occasion has made the position of art and culture in Japanese society visible again. In this class, we will begin by unravelling the current state of arts and culture in Japan by referring to some of the cases that occurred in this situation, and examine the relationship between art and society.

(Learning Objectives)

Students will study from the perspective of management and production that links the arts and society, based on an overview of the current status of the various actors (creators, companies, government, NPOs, etc.) responsible for arts and culture, examples of their initiatives, and their background and history. Students will gain new insights into the diverse relationships between arts and culture and their own lives, including the arts themselves, creative industries, community development, welfare, and education.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be asked to research the actual development of the case studies introduced in the class, visit the sites of arts and culture projects (theaters, museums, live performances, festivals, etc.), conduct field research, and summarize their findings in a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Comprehensive evaluation will be made based on the final examination (70%) and regular marks (30%) such as in-class small reports (reaction papers) and assignment reports.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

メディア文化論

展開科目

堤 信子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】

各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、プロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しています。表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第2回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第3回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第4回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関するDVD視聴などを通して、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第5回	テレビメディアの文化論①	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ること、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第6回	テレビメディアの文化論②	人気バラエティー番組を取り上げ、その内容や裏側を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く。

第7回	メディアを作る：ビジネス本やエッセイ本の事例	『ありがとう上手の習慣』や「旅靴いっぱいシリーズ」の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通して、書籍メディアを理解する。
第8回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談1	雑誌や新聞などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第9回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談2	通信社の現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第10回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。編集長をゲストに迎えることも。
第11回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第12回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談3	テレビ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第13回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談4	ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第14回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時々、レポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は、使用しない予定です。パワーポイント中心です。

【参考書】

堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」デイスカヴァー21  
堤信子著「旅靴いっぱいのバリ・ミラノ」本の泉社  
「旅靴いっぱいの京都・奈良」エイ出版社  
「旅靴いっぱいのバリふたたび」実業之日本社  
「旅靴いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社  
「東京文具雑貨散歩～旅靴いっぱいの東京」辰巳出版  
「14歳からの情報学」晶文社 (2024年出版予定)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業のコメントカードや授業態度) 50%と 課題レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生とのやりとりを重視した授業にしていきたいと思っています。メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、2023年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントやDVD映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

・ By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.

In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

・ Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

文化マーケティング論

展開科目

横石 崇

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にとまない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。

今後さらに複雑化するマーケティング領域における事業性検討や戦略策定、製品開発などの具体的なアプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。

この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】

キャリアデザインおよびコミュニケーションデザインの視点から、文化志向のマーケティングを考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを授業にて行なう。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、良いコメントや内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業全体の説明 (第1回のみオンライン授業)
第2回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第3回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方 (ポジショニング戦略)
第4回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方 (ブランディング戦略)
第5回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方 (エンゲージメント戦略)
第6回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介 (コミュニティ領域)
第7回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介 (広告・メディア領域)
第8回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介 (アート・エンタテインメント領域)
第9回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介 (コミュニティ領域)

第10回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介 (広告・メディア領域)
第11回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介 (アート・エンタテインメント領域)
第12回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第13回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第14回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施 (参考資料持ち込み可)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への積極的な参加70%、授業内レポートの提出30%)

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義形式に限らず、実際に記述作業を行いながら双方向性を重視し、文化マーケティング論の習得を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline (in English)】

① 【Course outline】

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. It is predicted. In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

② 【Learning Objectives】

The goals of this course are Learning about culture-oriented marketing thinking and methods.

③ 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

④ 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 30%, in class contribution: 70%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## ブランド創造論

展開科目

石原 篤

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報が溢れる時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。

かつてブランド創造は、対象となるブランドに対する良質なイメージをつくること、表面を装うことだと誤解されていました。例えば、ブランドロゴやビジュアルづくりだけがブランド創造だとされていたのもその現れです。一方で、いま皆さんがブランドに触れる時にどこに目を向けるか。おそらくブランドの態度や行動ではないでしょうか。ブランドの表面だけではなく内面に目が向けられているわけです。このようにブランド創造の形はここ数十年で大きく変化し、現在も進化を続けています。

この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどう作るか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。

また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのようにつくり上げていくかを学ぶことも目的とします。

### 【到達目標】

- (1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- (2) ブランド創造のアプローチを理解し、実践する。
- (3) ブランド創造に必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- (4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。

・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。

・中盤から後半の授業は、リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）

・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第2回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性

第3回	ブランド創造史	1980年から2020年まで40年間にわたる日本のブランディングの変遷
第4回	ブランド創造とアートディレクション	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論（ゲスト）株式会社アンドディアートディレクター小栗卓巳氏
第5回	ブランド創造とコピーライティング	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論（ゲスト）未定
第6回	ブランド創造の新しい潮流①	地球環境・社会環境の変化に伴うサステイナブルなブランド創造
第7回	ブランド創造の新しい潮流②	WEB3.0時代におけるリアルとデジタルの境界線のないブランド創造
第8回	社会と接続するブランド創造	ブランドづくりにおけるPR（パブリックリレーションズ）という方法論（ゲスト）株式会社HASHIクリエイティブディレクター橋田和明
第9回	ブランド戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方 「ブランド創造実習」課題発表
第10回	商品とブランド創造	わたしが欲しい！を、みんなが欲しい！に昇華させるブランドづくり （ゲスト）株式会社ISHI ブランナー板谷晴子氏
第11回	お店とブランド創造	店舗を起点にしたniko and ...のブランド創造 （ゲスト）株式会社アグストリア増田太一氏
第12回	社会とブランド創造	社会課題を解決し実現したい世界をつくるためのブランドづくり （ゲスト）SHIFT 80創業者 坂田ミギー氏
第13回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第14回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 （ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。
- (2) また、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
- (3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。
- (4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

### 【テキスト（教科書）】

使用しません。

### 【参考書】

- ・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
- ・手書きの戦略論 「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略 磯部光毅
- ・私とは何か 「個人」から「分人」へ 平野啓一郎
- ・なめらかなお金がめぐる社会。あるいは、なぜあなたは小さな経済圏で生きるべきなのか、ということ。 家入一真

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 50%  
実習課題の提出物 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

演習課題にかける時間がもう少し欲しかったという意見をいただきましたので、22年度よりも課題発表を前倒しした授業スケジュールに変更しています。

**【Outline (in English)】****■ Course outline**

In this age of overflowing goods and information, what do people base their shopping and information choices on? Brands play a big role in moving people's minds and creating behavior. There used to be a misconception that brand creation was about creating a good image of the target brand, that is, creating a surface. For example, the fact that only brand logos and visuals were considered brand creation is a manifestation of this. On the other hand, where do you pay attention when you look at brands today? Perhaps it is the attitude and behavior of the brand to which you direct your attention? In other words, you are looking inside the brand, not just on the surface. Thus, the nature of brand creation has changed dramatically in recent decades and continues to evolve.

In this course, students will learn what a brand is and how to create a brand, not only from a logical point of view, but also by taking into account the actual situation and realities in the field of brand creation.

In addition to understanding how brands work in corporate marketing and how to create them, this course also aims to help students learn how to build their own brand as a person.

**■ Learning Objectives**

- (1) To be able to understand and explain what a brand is.
- (2) Understand and practice the brand creation approach.
- (3) Learn how to create a "project proposal," a consensus-building tool needed to create a brand.
- (4) In an age of diversity without a right answer, understand the importance of self-branding and practice it.

**■ Learning activities outside of classroom**

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

**■ Grading Criteria /Policy**

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

産業文化論

展開科目

上原 義子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた叡知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。

そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思ってしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見えていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義に興味関心のきっかけとして、より発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】

- 1、文化を通して産業を考える
- 2、産業を通して文化を考える
- 3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業はスライドを示しながら、そのスライドについて解説をしていく形で進めます。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。感染症への対応として変則的な授業が必要な場合が起りえますので、学習支援システムや授業内の連絡を聞くようにしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第2回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第3回	日本の産業文化 (1)	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第4回	日本の産業文化 (2)	雇用者と従業員を取り巻く組織文化—サービス・マーケティングの視点から
第5回	日本の産業文化 (3)	日本のモノ作り文化と産業
第6回	日本の産業文化 (4)	日本の伝統産業の成り立ちと現在—藩の殖産から産業集積へ
第7回	日本の産業文化 (5)	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第8回	日本の産業文化 (6)	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第9回	日本の近代産業 (1)	日本の経済成長を支えた風土—流通チャンネルの視点から

第10回	日本の近代産業 (2)	環境問題と文化、産業
第11回	日本の近代産業 (3)	観光産業と文化
第12回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化—観光立国としての日本を事例に
第13回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学 流通チャンネル構造と機会主義 ネットワーク
第14回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【テキスト (教科書)】

講義内で適宜紹介する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題100%

Grading will be decided based on reports (100%),

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

対面とオンラインのタイミングに関しては、その時の内容や状況で適宜調整します。授業内での告示を聞くようにしてください。

【Outline (in English)】

This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.

Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term 'multi-culture', the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

① This course introduces culture and industry to students taking this course.

② The goals of this course are to acquire knowledge about culture.

③ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

④ Your overall grade in the class will be decided based on the reports.

CUM200MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200)

ミュージアム概論

展開科目

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土5/Sat.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育や学術、文化施設としての博物館について理解し、その社会的な役割や意義を学ぶ。

【到達目標】

博物館に関する基礎的な知識を修得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

博物館学やその歴史を概観した上で、博物館の定義(種類、目的、機能など)を示す。さらに日本と海外の博物館の歴史や現状を説明するとともに、学芸員論や博物館法、関連法令などを取り上げる。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	博物館とは何か? 博物館の定義などについて概説する。
第2回	ミュージアムの誕生	西洋の博物館の歴史について解説する。
第3回	日本の博物館史	日本の博物館の歴史について解説する。
第4回	博物館学史	博物館学の学史を概観する。
第5回	博物館の制度(博物館法と関連法令)	博物館法ならびに関連する法律・制度について解説する。
第6回	博物館の分類	博物館の種類・設置者・対象にする領域など、多角的に博物館を分類して定義する。
第7回	日本の博物館の現状	博物館に関する統計データから博物館の現状と課題を解説する。
第8回	博物館の資料論	博物館が取り扱う資料について解説する。
第9回	博物館機能論	資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及など、博物館の特徴的な機能について説明する。
第10回	博物館と地域社会 I	地域と市民生活にとって博物館が果たす役割や可能性を解説する。
第11回	博物館と地域社会 II	各種の地域博物館の事例を取り上げ、その理念と現状について解説する。
第12回	博物館と災害	博物館学芸員による特別講義 現代の災害のリスク管理について解説する
第13回	学芸員の役割	博物館で働く専門職としての学芸員の仕事について解説する。
第14回	総括	授業内容を総括する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。

東京国立博物館、国立科学博物館、国立美術館(国立西洋美術館、国立近代美術館等)はキャンパスメンバーであるために常設展を無料で見学できるので活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

金山 喜昭『博物館学入門』(慶友社、2003)

【参考書】

金山 喜昭『日本の博物館史』(慶友社、2001)

金山 喜昭『公立博物館をNPOに任せたら-市民・自治体・地域の連』(同成社、2012)

金山 喜昭『博物館と地方再生-市民・自治体・企業・地域との連携-』(同成社、2017)

【成績評価の方法と基準】

平常点(宿題提出)(40%)

課題レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

授業で不明な点は積極的に質問してください。

【Outline (in English)】

Outline)

This course aims to understand “What is a museum?” as a cultural facility and learn its social role and significance.

(Learning Objectives)

The goals of this course is for students to become museum literate.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be do preliminary research on the museums discussed in each class.

Your required study times is at least four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (homework submission) (40%), Assignment report (60%)

CUM200MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200)

ミュージアム経営論

展開科目

杉長 敬治

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と博物館経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】

博物館の根拠法である博物館法が制定された1951年から60年代、博物館が急増した1970年代から80年代、バブル経済の崩壊以降の経済的低迷の時代、そしてグローバル化と情報化が急激に進み、社会構造が大きく変化した現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営(ミュージアム・マネジメント)の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業では、博物館経営に関する基本知識を講義します。講義内容を踏まえて、受講生には、①授業内容に関連した課題への回答と②各自が選択した博物館について、実地調査その他のリサーチに基づいて経営分析(当該博物館の課題を解決するための取組)をしてもらいます。授業時のリアクションペーパーでのコメントは、講義を活性化するためのツールとして活用しますので、受講者は積極的にコメントしてください。最終授業では、受講生の学習成果を相互に確認するために、博物館の現状認識を交換する場を設ける予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスー博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営(マネジメント)の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命(ミッション)・事業計画、評価・改善の取組	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなるPDCAサイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源(ヒト・モノ・カネ・経営力)に着目して、我が国の博物館の現状(経営資源が乏しい館が多いこととその背景、資金調達を巡る問題)について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の概要や歴史について学習する。

5	国立博物館の経営ー現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状と課題について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、日本の国立博物館の現状について理解を深める。
6	公立博物館の経営ー現状と課題	指定管理者制度や地方独立行政法人制度によって運営している館と直営館の違いに着目しながら、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営ー現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館経営とマーケティング	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの視点から博物館経営の在り方を考える。
9	博物館のプロモーション・会員制度・ブランド戦略	博物館のマーケティング活動のうち、プロモーション活動、会員制度、ブランド戦略を中心に学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力ー現状と課題	博物館運営を支援する組織(友の会・後援会)とボランティアについて学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題	ミュージアムショップ、レストランその他の利用者サービス施設と博物館の施設設備に係わる諸問題(老朽化やバリアフリーへの対応)について学習する。
12	博物館経営におけるイノベーション	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
13	博物館の倫理規程・行動規範	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方(危機管理)について学習する。最後に、授業のまとめとして、講義と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や参考書に目を通して講義を受講してください。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト(教科書)】

特定の教科書は使用しません。レポートを作成する場合に参照が望まれる参考書を、授業時に適宜紹介します。

【参考書】

①転換期の博物館経営、金山喜昭、同成社、②ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、③マネジメント、P. F. ドラッカー、ダイヤモンド社、④ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、⑤博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑥ザ・ミュージアム；世界の知と美の殿堂、O・ホブキンズ、河出書房新社、⑦国(文科省)の博物館統計である社会教育調査([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa02/shakai/](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/))、⑧その他(授業内で適宜紹介します。)

**【成績評価の方法と基準】**

博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出する「課題レポート」（授業をより深く理解するために、受講生が課題を5つ選択して作成するもの）が50%、②最終（第14回）授業時に提出する「博物館経営分析レポート」が50%です。②のレポートは、受講生が博物館を実地調査その他の方法でリサーチし、その成果を基に経営分析（経営状況の把握、経営上の課題の抽出、課題の解決策の提案）を行うものです。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容に関する質問には、授業時又は学習支援システムを使って回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業に関する諸連絡・教材配付は、学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

**【その他の重要事項】**

この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある受講者も念頭に置いて、授業を進行していきます。①質問やご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業を興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館での勤務や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館の現状と国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきます。

**【Outline (in English)】**

(Course outline) Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums. The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.

(Learning Objectives) The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on term-end report (50%), short reports(50%).

CUM200MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200)

**ミュージアム経営論** 展開科目

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：土3/Sat.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

博物館の経営の現状とその課題や解決策を学ぶ。

**【到達目標】**

博物館の適切な管理・運営について理解するとともに、博物館経営(ミュージアム・マネジメント)に関する基礎的能力と応用力を養うことを目的とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

博物館や美術館の運営形態や運営に関する基礎的知識に加えて、組織管理・経営戦略・経営評価について学ぶ。実際の博物館の経営調査・報告発表等のグループワークを通じて、博物館経営に関する理解を深める。

最終授業では、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博物館経営とは何か?	授業ガイダンスに加え、博物館・美術館を「ミュージアム経営」の視点から考える必要性を概説する。「ミュージアム・マネジメント」の概念の理解。
第2回	博物館の経営基盤	博物館の経営基盤について概説する。特に、組織体や職種のほか、関連する行財政制度や人材育成面について、その特徴を解説する。
第3回	博物館経営の現状Ⅰ(公立博物館)	公立博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第4回	博物館経営の現状Ⅱ(民間博物館)	民間博物館について、財務管理、施設・設備・職員体制などの運営面をはじめ、施設・設備や近年の経営動向について解説する。
第5回	指定管理者制度と博物館経営①	NPO指定管理館の経営・企業指定管理館の経営・財団法人指定管理館の経営をみる。
第6回	指定管理者制度と博物館経営②	博物館の経営調査をNPO指定管理館の経営・企業指定管理館の経営・財団法人指定管理館の経営をみる。
第7回	独立行政法人博物館、地方独立行政法人博物館の経営と課題	東京国立博物館・国立科学博物館、地方独立行政法人の経営状態と課題や展望について解説する。
第8回	博物館行政と博物館経営	博物館経営に関する制度を解説する。

第9回	インバウンド観光と博物館経営	博物館経営における観光の考え方や展望について解説する。
第10回	博物館と地域コミュニティの連携①	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第11回	博物館と地域コミュニティの連携②	博物館における連携・ネットワークについて説明する。特に「博物館とまちづくり」「地域と市民生活」「キャリア開発」の視点からボランティア活動など市民参画の事例を扱う。
第12回	博物館評価と博物館経営	博物館の経営状況について調査・分析し、その成果をまとめる。
第13回	博物館経営の展望	博物館法改正と今後の博物館の在り方を展望する。
第14回	本授業の総括(授業内試験)	本授業の内容を総括する。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に文献や現地調査をするなどして裏づけ作業をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

金山喜昭 編『転換期の博物館経営』(同成社、2020)

**【参考書】**

金山喜昭『博物館と地方再生』(同成社、2017)

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(40%)、レポート課題(60%)で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業で不明な点は積極的に質問してください。

**【Outline (in English)】**

(Outline)

This course aims to learn the present conditions of museum management and consider its problems and improvement plans.

(Learning Objectives)

The goals of this course is for students to understand the management and administration of museums, and to develop basic and applied skills in museum management.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be do preliminary research on the museums discussed in each class.

Your required study times is at least four hours for a class.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (homework submission) (40%), Assignment report (60%)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論 I

展開科目

小田 昌教

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：金5/Fri.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きたるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

今学期の授業は、対面授業でおこないますが、授業内容にあわせて、5回か6回程度、Zoomを使ったオンライン授業をおこないます。URLとパスワードは以下のとおりです。

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226556628>

この授業の目的は、次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチャラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

この授業の内容は4つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インパウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています(第一学習社「高等学校 倫理」)。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きたること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

授業で使用する教材は「学習支援システム」で配布します。授業では毎回、リアクションペーパーを使用します。授業内での質問はPadletで行います。

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcup0vhc8jn>

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb事件(2017年) 全日空「羽田国際線大増便CM」(2014年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件(2014年) ・ユナイテッド航空事件(2017年) ・ザイン制作「ラムダーン月のほんとうの意味 2017年」
2	A-1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇1 映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961年) ・映画「007は二度死ぬ」(1961年) ・映画「東京画」(1985年) ・映画「ブラックレイン」(1989年) ・映画「ミスターベースボール」(1992年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003年) ・映画「キルビル」(2003年)
3	A-2：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇2	海外のTVCやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナプロパガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化
4	A-3：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇3	・ダン・ゴードン「ボパイ～ばかなジャップ」(1942年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョキオ」(1943年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008年) ・ジェームズ・マンゴールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013年)
5	B-1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「HEROES」(2006年) ・小島淳二「日本の形」(2006年) ・田中健一「ジャパン ストレンジな国」(2010年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011年)

- 6 B-2：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」  
 ・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003年)  
 ・日本オリンピック委員会「IOC総会プレゼンテーション」(2013年)  
 ・きゃりーぱみゅぱみゅ「にんじやりばんばん」(2013年)  
 ・日清食品「SAMURAI」(2014年)  
 ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017年)
- 7 B-3：インバウンドの視点から見た日本の文化  
 ・地味「外国人が日本に来て撮ったwtkk動画集」(2008年)  
 ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012年)  
 ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014年)  
 ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013年)
- 8 B-4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化  
 ・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010年)  
 ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015年)
- 9 C-1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム  
 ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007年)  
 ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014年)  
 ・フレディ・グレイ死亡事件(2015年)  
 ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件(2015年)  
 ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言(2015年)
- 10 C-2：人種差別の起源とその歴史  
 ・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951年)  
 ・山口敏「『人種』は虚構か」  
 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013年)  
 ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言50周年記念CM」  
 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008年)  
 ・映画「アミスタッド」(1997年)  
 ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004年)  
 ・映画「リンカーン」(2012年)  
 ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012年)  
 ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013年)  
 ・映画「グロリー 明日への行進」(2014年)
- 11 C-3：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう  
 ・日本テレビ「21世紀への伝言 キング牧師」(2000年)  
 ・PBS制作「分断されたクラス」(1985年)  
 ・ABC制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003年)  
 ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年)
- 12 D-1：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況  
 ・映画「スワロウテイル」(1996年)  
 ・映画「サウダーヂ」(2011年)  
 ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーブじゃないんだ」(2012年)  
 ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013年)  
 ・リンダ三世「愛犬アンソニー」(2013年)  
 ・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008年)

- 13 D-2：「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来  
 ・映画「HAFU」(2013年)  
 ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」
- 14 D-3：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神  
 ・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005年)  
 ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年)  
 ・モ・モンド社「The DNA Journey」(2016年)  
 ・アシュラ・K・ルグイン「ゲド戦記を観て」  
 ・マックルモア&ライアン・ルイス「セイムラヴ」(2013年)  
 ・アド・カウンスル「Love Has No Labels」(2015年-2017年)  
 ・アップル社「プライド」(2014年)  
 ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017年)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で指定したPDFや動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使いません。授業ごとに、PDFを配布します。

**【参考書】**

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は、学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します(100%)。リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内におこないます。テストの方法については授業内で詳しく説明します。

評価の基準は次の5つです。

- ①オーセンティック・ラーニング
- ②クロスカルチュラル・ラーニング
- ③アンチバイアス・ラーニング
- ④メディアコンピテンシーラーニング
- ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、スマートフォン、WIFIルーター、ネット回線（WEBカメラとマイクは不要です）

**【その他の重要事項】**

この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館やAmazon、YouTubeなどを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。

**【授業中に求められる学習活動について】**

A、C、D、E、F

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression", "Stereotype", "Hate speech", "Hate crime", "Cultural representation", "Racism", "Orientalism", "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality,".

**1.Course outline**

This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows  
<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>  
 556628

**2.Learning Objectives**

The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society.

**3.Learning activities outside of classroom**

Use the PDF files uploaded to Hoppi as learning materials according to your own interests and concerns. A total of 4 hours of preparation and review time is required for each session.

#### 4. Grading Criteria /Policy

Evaluated by a final exam using an active learning method. The following five points are to be evaluated.

- a. Authentic Learning
- b. Cross-Cultural Learning
- c. Anti-Bias Learning
- d. Media Competency Learning
- e. Evidence-Based Learning

In-class questions will be answered via Padlet.

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhc8jn>

\*This class will cover current issues, so the content of the class may be subject to change.



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金 泰植

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人たちも射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】

日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にある多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人々が尊重される社会の形成のためのアイデアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第2回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の「外国人」問題の起源とも言える在日コリアンについて
第3回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人在日コリアンの法的地位問題及び、今日のヘイトスピーチの燃料となっている日韓の歴史問題について
第4回	日韓条約	
第5回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学級と朝鮮学校、韓国学校への整備
第6回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組みについて
第7回	日本の入管制度について	成り立ちと、現在入国管理施設に収容されている外国人たちの人権問題について
第8回	公正という概念について	公正という概念がマイノリティのためにならず既に既得権益のために使われる状況について主に韓国の事例から学ぶ
第9回	ホームレスと排除アート	社会的排除について
第10回	LGTBQ	日本におけるセクシャルマイノリティをめぐる状況について

第11回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第12回	ヘイト・スピーチ	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について
第13回	技能実習生制度について	外国人技能実習生制度の問題点について
第14回	マイクロアグレッションについて	マイクロアグレッションについて学ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】

田中宏『在日外国人第三版』(岩波新書)、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポートの作成とし70%、授業のリアクションペーパー(メールなどで提出)を特に重視した平常点30%の配分とする。レポートは論理の整合性を重視する。不適切なデータの引用などは厳しく採点する。また独創的な意見や着眼点は高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業においてマイクロアグレッションの概念や排除アートについて関心の高い学生が多かった。在日コリアンの問題とこれらの問題をうまく接続させて講義を行えるようにする。

【その他の重要事項】

初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners. This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan. The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

【到達目標 (Learning Objectives)】 Learn how the multicultural situation in Japan was created. And have ideas for forming a society where everyone is respected.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】 Prepare to write on the reaction paper after the lesson what you noticed in the lesson and the questions that led to you. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Year-end report 70%

Class assignments (reaction paper, etc.) 30%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

多文化社会論Ⅲ

展開科目

挽地 康彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」(multiculturalism)について批判的に検討し、その後提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をめぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて考察する。

【到達目標】

多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業を基本とし、半期のうち7回までの授業を同時双方向型のオンライン授業 (Zoom) で行う。各回の授業資料は、データ (PDF) で配信しながら進める (受講者が多いため、紙資料の配布は行わない)。ZoomのURLとパスワードは、以下のとおりです。  
<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/84704315877?pwd=Q3F1QlJlTlRlXkUUNrNEppUVNKRUhBdz09>  
 ミーティングID：847 0431 5877  
 パスワード：552669

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第2回	欧州移民政策の変遷①	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第3回	欧州移民政策の変遷②	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第4回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第5回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第6回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。

第7回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第8回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ (多文化主義と普遍主義の対立) の観点から概説する。
第9回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ (多文化主義と分離主義の対立) の観点から概説する。
第10回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ (多文化主義と個人主義の対立) の観点から概説する。
第11回	日本における多文化共生①	日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。
第12回	日本における多文化共生②	日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。
第13回	ポスト多文化主義	多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にある諸問題について示唆する。
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に2時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に2時間を必要とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト (30%) と、学期末に提出する課題レポートの内容で評価する (70%)。学期末レポートの課題は、提出期限の約1カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の3つに設定する (①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独善的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか)。なお、小テストや学期末レポートの課題は、授業に出席しないと作成困難な内容となる。配信する授業レジュメのパッチワークでは単位取得の基準をクリアできない。とりわけ、期末レポートでは課題を正確に理解したうえで、受講者自身が主体的に調べ考察した内容が展開されてはじめて基準をクリアできる。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。また、学習効果の高さの理由の他に、体調の優れない受講者が授業参加を希望するケースが少なくないことから、7回分の授業をオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業 (Zoom) の場合  
 ・パソコン (カメラ付き)  
 ・インターネット接続が可能な環境  
 ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

・本科目では、初回授業を含めた7回分の授業をZoomを用いたオンライン形式で行う。  
 ・初回の授業は、4月9日 (火) 3限 (13:10～14:50) である。  
 ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.

**Learning Objectives :**

Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.

**Learning activities outside of classroom :**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

**Grading Criteria /Policies :**

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(30%) and term-end report(70%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARSx200MA (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

アジア社会論 I

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月1/Mon.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの8つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は15億人を超えており、世界人口の5分の1以上がこの地域で暮らしています。講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】

- 1、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
- 2、南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
- 3、南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第2回	世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第3回	南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第4回	南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第5回	南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第6回	映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第7回	映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第8回	南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築
第9回	グローバリゼーションのなかの南アジア	船舶解体産業を事例に
第10回	南アジア社会各論①歴史と文化	バングラデシュの歴史と文化
第11回	南アジア社会各論②経済発展	バングラデシュの経済発展
第12回	南アジア社会各論③貧困	南アジアの農村事例から考える貧困
第13回	南アジアと開発援助	南アジア社会とわたしたちのつながり

第14回 まとめと授業内レポート解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
  2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
  3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
  4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト (教科書)】

①大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための66章』(明石書店、2017年)

【参考書】

- ①石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編『ようこそ南アジア世界へ(シリーズ地域研究のすすめ)』(昭和堂、2020年)
- ②臼田雅之・佐藤宏・谷口晋吉(編)『もっと知りたいバングラデシュ』(弘文堂、1993年)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー / Reaction paper/in-class assignments (56%)  
レポート課題 / Report assignments, mid-term/final paper (44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia. On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues. Learning Objectives

1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)  
Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARSx200MA (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

アジア社会論Ⅱ

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】

1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
第2回	南アジアの地域概要	政治と経済 (インド・バングラデシュを中心に)
第3回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
第4回	南アジアと新型コロナウイルス：バングラデシュを中心に	バングラデシュの新型コロナウイルス対応
第5回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
第6回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
第7回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
第8回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
第9回	南アジアの災害とその対策	バングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
第10回	南アジアの紛争とその背景	チッタゴン丘陵問題を事例に
第11回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
第12回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
第13回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。

第14回 南アジアの社会問題のまとめとレポート解説  
アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
  2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
  3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
  4. 次の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト (教科書)】

- ①日下部尚徳『わたし8歳、職業、家事使用人。－世界の児童労働者1億5200万人の1人』(合同出版、2018年)
- ②日下部尚徳・石川和雅『ロヒンギャ問題とは何か－難民になれない難民』(明石書店、2019年)

【参考書】

- ①粟屋利江・井上貴子編『インドジェンダー研究ハンドブック』(東京外国語大学出版会、2018)
- ②大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための66章』(明石書店、2017年)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー / Reaction paper/in-class assignments (56%)  
レポート / Report assignments, mid-term/final paper (44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.

Learning Objectives

- 1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.
- 2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)  
Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARSx200MA (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

## 国際関係論 I

展開科目

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の国際関係を理解する為に必要となる理論的枠組みについて概説し、どのような問題が現在進行中なのかに関して、データを交えて解説する。合わせて国際関係が私達に与える影響について、心理学の観点から解説する。

### 【到達目標】

現代の国際情勢を学術的に考えるための視点、知識、スキルの獲得を目指す。更にはそれらを用いる事で現代社会での国際問題に対して学生自身で考え、心理学的視点を応用してそれらに対する問題解決について議論出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業内課題はHoppiiを利用して提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際関係論とは	授業全体の概略を説明し、国際関係論の基本的な考え方について解説する。
第2回	20世紀の国際関係と今日の国際関係	20世紀から現在に至る歴史に焦点を当て、国際関係の変化について解説する。
第3回	グローバリゼーション	グローバリゼーションについての理論的分析を解説する。
第4回	安全保障	国際社会における安全保障とは何か、地域、伝統的問題と関連づけて解説する。
第5回	国際関係の理論	国際関係に関する代表的な理論について解説する。
第6回	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論	国際レジーム論とは何か、グローバル・ガバナンスの問題点は何かについて、平和実現の問題と関連づけて解説する。
第7回	リージョナリズムとEU	リージョナリズム、特にEUの特徴について解説する。
第8回	非国家アクターの台頭	国際関係における非国家アクターの影響について解説する。
第9回	紛争解決	現代の国際紛争解決について、理論と実践の点から解説する。
第10回	国際関係と集団間関係の心理	国際関係の内、特に集団間関係に対する人々の反応について心理学の観点から解説する。
第11回	国際関係と集団内関係の心理	国際関係が人々の所属する集団内部に対して与える影響について、心理学の観点から解説する。
第12回	国際関係における第三者の影響	国際関係における第三者の影響について、心理学の観点から解説する。

第13回 国際関係と個人の心理 国際関係に対する人々の反応について、個人内での心理的反応に焦点を当てて解説する。

第14回 まとめと総括 授業全体の振り返り。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

### 【参考書】

特に無し。

### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問、期末の試験の成績に基づき成績評価を行う。具体的には課題+質問で40%、学期末試験(授業内試験野予定、ただし受講者数などによっては試験期間に実施することもある。突発的な事態が生じた場合はレポート課題で代替することもある)60%の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生からのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

### 【学生が準備すべき機器他】

一部課題はインターネットへの接続が必要となるので、利用可能環境を整えておくように。

### 【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、Google classroomを利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内やHoppii等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

### 【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning international relationship, from political and social psychological perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods by using the statistic al data.

Goals of this course are understanding and acquiring perspective knowledge and skills concerning international relationship, and thinking how to use those knowledge for problem solution.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 40%

ARSx200MA (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

**国際関係論Ⅱ**

展開科目

塩田 潤

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ジェンダー/フェミニズムの視座から国際関係・国際政治を学ぶ。授業前半では、国際関係論におけるジェンダー分析について説明し、それをふまえて安全保障、戦争と性暴力、グローバリゼーション、移民、環境問題などの具体的なイシューについて検討する。

**【到達目標】**

- ・国際関係論におけるフェミニスト・アプローチの基礎を理解する。
- ・国際政治および国際社会の動向をフェミニズムの視座から捉える。
- ・ジェンダーの観点をふまえて、より公正なグローバル社会を考える力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

・受講者には毎回の授業後、hoppiiを通してコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにおいて出された質問等へのフィードバックは次回授業時に行う。また、授業内ではグループディスカッションなどを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明
第2回	ジェンダー/フェミニズム	ジェンダー概念およびフェミニズムとはなにか
第3回	フェミニズム理論と国際関係論	ジェンダーから見た国際関係論
第4回	「安全保障」とは何か	伝統的安全保障論の検討
第5回	「安全保障」を問い直す	伝統的安全保障論に潜む「男らしさ」
第6回	「人間の安全保障」	「人間の安全保障」の理論と実践
第7回	安全保障とケアの倫理	ケアの倫理からの安全保障の再検討
第8回	戦争と性暴力	戦時性暴力、「暴力連続体」
第9回	「戦争」と「生」	参加者間で、「戦争」と「生きること」についての対話
第10回	軍隊と女性	軍隊というジェンダー化された制度、女性の軍事化、軍隊内の女性
第11回	難民問題	ジェンダーから見る難民・強制移動
第12回	環境問題とフェミニズム	気候危機に抗するエコフェミニズム
第13回	「ジェンダー平等」の国々の実像	北欧諸国におけるジェンダー平等の歴史と実態
第14回	まとめ	講義のまとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。  
準備学習：日頃から新聞の国際面などを通して、国際政治や国際社会の動きに関心を持ってください。海外メディアのチェックなども役立ちます。  
復習：授業の内容や授業中に示された問いについて自身で再考し、コメントをhoppiiを通して毎回提出してもらいます。また、授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりするとより理解が深まります。

宿題など：適宜、指示を出します。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

**【参考書】**

- ・大澤真理編『公正なグローバル・コミュニティを』岩波書店、2011年。
- ・岡野八代『戦争に抗する一ケアの倫理と平和の構想』岩波書店、2015年。
- ・J.アン・ティックナー『国際関係論とジェンダー』進藤久美子・進藤榮一訳、岩波書店、2005年。
- ・シンシア・エンロー『策略』上野千鶴子監訳、岩波書店、2006年。
- ・土佐弘之『グローバル/ジェンダー・ポリティクス—国際関係論とフェミニズム』世界思想社、2000年。

その他、授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

40%・・・毎回のコメント・ペーパーおよび授業内でのグループディスカッション  
60%・・・学期末試験  
※学期末試験について、新型コロナウイルスの感染状況によってはレポートやオンライン形式の試験に変更する可能性もあります。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ・スライドの見やすさ、レジュメの情報など、情報保障をより向上させる。
- ・アクティブラーニングの手法を実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義資料の配布やコメント・ペーパーの提出は基本的にhoppiiを通して行う予定です。したがって、受講者には授業にノートPC、ipadなどの電子機器を持ち込むことを推奨します。

**【その他の重要事項】**

- ・質問などに関しては、授業の前後、コメントペーパーまたはメールで対応します。初回の授業時に連絡先を伝えます。
- ・シラバスで記載している授業計画は時間の都合などで若干変更される可能性があります。
- ・グループディスカッションなどを行うため、授業への積極的な参加姿勢が求められる。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This course introduces feminist works in International Relations (IR) and explores global issues with gender perspective. After a review of integration of gender analysis into IR theory, this course examines specific current global topics including (national) security, war and sexual violence, globalization, migration, and environmental issues etc.

**【Learning Objectives】**

- ・ Understand the basics of feminist approach to IR
- ・ Acquire feminist perspective on international politics and social trends
- ・ Develop ability to think about more just global society with gender perspective

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation - Students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international pages of domestic newspaper. It is also useful to check the international media.

Review - Students are encouraged to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Others - Instructions will be given as appropriate.

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

40% - Short reports for each session, group discussion in classroom

60% - Final examination

※ In this class, the examination may be changed to an online format depending on the situation of the Covid-19 pandemic.

ARSx200MA (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

国際地域研究 I

展開科目

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちがつながりのある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

授業を通じて「地域」「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえつつ理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります (以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください)。

授業2回分をあてている地域・国 (第4回・第5回のイングランド社会・文化、第7回・第8回スコットランド社会・文化、第10回・第11回のアイルランド社会・文化) については、②はオンライン (オンデマンド) での授業となります。

授業が1回分のみの地域 (ウェールズと北アイルランド) は対面になります。また、まとめの回についても対面です。

対面授業の際には、映像などを用いて、より具体的にイメージできるように進めます。

毎回授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや重要な質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、授業内やHoppiiで連絡をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第2回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。

第3回	イギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにイギリス (UK) の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第4回	イングランド社会・文化①	イギリス (UK) 内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第5回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第6回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景をふまえて考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。
第7回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第8回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりやEUとの関係性について考える。
第9回	イギリスのまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題について考える。
第10回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。イギリスとの関係、文化とナショナリズムの関係について解説する。
第11回	アイルランド社会・文化②	アイルランドとアメリカとの関係について、歴史的なつながり、現在の関係について考える。
第12回	アイルランドの二つの国	北アイルランドの成立期である1920年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、現在アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第13回	アイルランドのまとめ	イギリス、EUとの関係から、考える。
第14回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布した資料、関連文献を読む。授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、2回程度ミニレポート (第5回、第9回での実施を予定。変更がある場合は授業でお知らせします。) の提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017年 岩波新書。  
井野瀬 久美子編、『イギリス文化史』、2010年、昭和堂。  
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (ミニレポート・リアクションペーパーの内容、授業への積極的参加) : 40%  
期末試験 (論述式) : 60%



\*欠席が授業時間数の3分の1を超えた場合、単位取得の資格を失う。

**【学生の意見等からの気づき】**

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

**【その他の重要事項】**

\*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

\*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this course is to reconsider the concepts of “region”(or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. The course will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). At the end of the course, students are expected to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

Grading criteria: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in class contribution 40%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ARSx200MA (地域研究 (その他) / Area studies(Others) 200)

国際地域研究 II

展開科目

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスと北アイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげる。〈異〉文化と〈異なる〉国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する(北アイルランドの事例以外の地域の例も言及する予定である)。

【到達目標】

現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンライン(オンデマンド)で実施する回があります(以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください)。

授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。ただし、授業内でグループワークをすることがあります。また、毎回リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、授業内やHoppiiで連絡をします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方・方針	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第2回	北アイルランドの成り立ちと歴史	エスニック集団関係について考える(アイルランド島にある二つの国の歴史背景を理解する)。
第3回	〈異なる〉住民集団間関係と紛争	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第4回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第5回	和平合意と集合的アイデンティティ	どのような仕組みで和平が可能になったのか。国籍と帰属意識について考える。
第6回	レビュー	前半のまとめを行う。
第7回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、具体的な例をもとに考える。

第8回	階級・文化・紛争経験の関係	どんな人が紛争の影響をより強く受けるのか考える。
第9回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	「当事者」は何を考えているのだろうか。「壁画」というコミュニティメディアから考える。
第10回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第11回	学校教育と〈歴史〉(前半)	実際の教材をもとに、歴史教育について検討する。
第12回	学校教育と〈歴史〉(後半)	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題についてまとめる。
第13回	北アイルランドとEU、英国、アイルランド	イギリスのEU離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。
第14回	まとめ	まとめ・試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布した資料、関連文献を読む。授業後には毎回リアクションペーパーの提出をする。また、ミニレポートの提出がある場合は、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

・尹慧瑛『暴力と和解のあいだ北アイルランド紛争を生きる人びと』2007年 法政大学出版局。  
 ・福井令恵、『紛争の記憶と生きる：北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015年、青弓社。  
 その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(ミニレポート・リアクションペーパーの内容、授業への積極的参加)：40%  
 期末試験(論述式)：60%  
 \*なお、原則として欠席数が授業時間数の3分の1を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。

【その他の重要事項】

\*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。  
 \*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。  
 \*本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連する点があるため、国際地域研究Iを受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years of conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), the momentous peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. At the end of the course, students will be able to explain their thoughts on what is important for understanding others and building better relationships.

Grading criteria: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in class contribution 40%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキル I** 展開科目  
【2022年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考(履修条件等)：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目(体験型)  
2021年度以前入学者→展開科目(総合)

詳細は履修の手引きをご確認ください。  
その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくことよ基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。  
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション(話す、聴く、文章で伝える、メールの基本)、②ビジネスマナー(挨拶、敬語、礼儀)、③人間関係の築き方(報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス)、④プレゼンテーション等(個人の発表及びチーム発表)をとりあげます。  
学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

**【到達目標】**

本授業の目標です。  
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。  
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。  
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は、講義と実習(各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー)形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。  
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。  
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。  
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。  
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。  
実施方法は、原則「対面」で実施します。(状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。)

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要(ビジネスコミュニケーションとマナー)と目標、授業の進め方、注意事項の説明、受講動機の確認。
第2回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。

第3回	意思を伝える話し方	話す目的は?相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第4回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築きききかたを学ぶ。
第5回	スピーチ実習	第2回～第4回の成果として1分間スピーチの実施。
第6回	情報伝達	報・連・相とは?指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第7回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ(よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方)。
第8回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とTPOに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第9回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第10回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第11回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第12回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第11回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第13回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第12回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第14回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**  
必要な資料をその都度配布します。

**【参考書】**  
授業中に随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**  
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合30%  
②受講態度(積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等)50%、最終回に実施する理解度テスト20%  
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください(授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止)。  
注)資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**  
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**  
オンラインで実施する時には、情報機器(パソコン・ネットワーク環境)を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所を受講し、発言できる環境にしてください。

**【その他の重要事項】**

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

**【Outline (in English)】**

Basic career skills I

**【Course outline】**

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキル I** 展開科目  
【2021年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考(履修条件等)：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目(体験型)  
2021年度以前入学者→展開科目(総合)

詳細は履修の手引きをご確認ください。  
その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくことよ基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。  
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション(話す、聴く、文章で伝える、メールの基本)、②ビジネスマナー(挨拶、敬語、礼儀)、③人間関係の築き方(報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス)、④プレゼンテーション等(個人の発表及びチーム発表)をとりあげます。  
学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

**【到達目標】**

本授業の目標です。  
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。  
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。  
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は、講義と実習(各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー)形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。  
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。  
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。  
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋がります。  
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。  
実施方法は、原則「対面」で実施します。(状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。)

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 授業概要と受講上の 注意受講動機の確認	受講概要(ビジネスコミュニケーションとマナー)と目標、 授業の進め方、注意事項の説明。 受講動機の確認。
第2回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、 ビジネスマナーが必要な理由について 考えて理解を深める。

第3回	意思を伝える話し方	話す目的は?相手の立場にたつて、 伝わるように話すポイント、 敬語について学ぶ。
第4回	状況にあわせたききかた	3つの「きく」。状況にあわせた 使い方、聞き上手になるための ポイント、人間関係を築ききかたを 学ぶ。
第5回	スピーチ実習	第2回～第4回の成果として1分 間スピーチの実施。
第6回	情報伝達	報・連・相とは?指示の受け方 とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の 考えを切り分けることの重要性 を学ぶ。事例検討。
第7回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方につ いて学ぶ(よくある間違いやビ ジネス文書とメールの書き方)。
第8回	挨拶と身だしなみと 態度	第一印象の重要性、挨拶のしか た、敬語の使い方など基本動作 とTPOに合わせた身だしなみ について学ぶ。
第9回	面談、訪問、電話の マナー	インターンシップや就職活動を 意識して、面談時、訪問時のマ ナー、電話でのマナーとアポイ ントの取り方等を学ぶ。
第10回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したと きの対応など、人間関係を築く ためのマナーを学ぶ。また、事 例を通して議論を行う。
第11回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマにつ いて話し合い、コンセンサスを得 る体験学習で、理解を深める。
第12回	プレゼンテーション 資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方 などポイントを理解して第11回 で話し合った結果をプレゼン テーションするための資料作 成・準備を行う。
第13回	プレゼンテーション スキルを身につける	【グループワーク】第12回で作 成した資料で、プレゼンテー ションをおこない、プレゼン テーション力を身につける。
第14回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試 験で確認。

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**  
必要な資料をその都度配布します。

**【参考書】**  
授業中に随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**  
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合  
30%  
②受講態度(積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等)  
50%、最終回に実施する理解度テスト20%  
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください(授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止)。  
注)資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

**【学生の意見等からの気づき】**  
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。  
演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**  
オンラインで実施する時には、情報機器(パソコン・ネットワーク環境)を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所  
で受講し、発言できる環境にしてください。

**【その他の重要事項】**

本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

**【Outline (in English)】**

Basic career skills I

**【Course outline】**

The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.

Students who want to take this course should take the first lesson.

**【Learning Objectives】**

The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.

**【Learning activities outside of classroom】**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

**【Grading Criteria /Policy】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキルⅡ** 展開科目  
【2022年度以降入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目（体験型）  
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。  
その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。

【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。

2年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

**【到達目標】**

- 本授業の目標です。
- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
  - ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
  - ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
  - ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
  - ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。  
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用して調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。  
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。  
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。  
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。  
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・授業内容、身につけておくべきスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、各業界の内容と求められる職業能力について
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第2回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第8回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	【自己理解】 キャリア・プランシート作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プランシート完成と履歴書作成	第9回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第13回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

#### 【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度とレポート40%、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20%を総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。

グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

#### 【その他の重要事項】

本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

#### 【Outline (in English)】

Basic career skills II

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

#### 【Learning Objectives】

The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%



BSP200MA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200)

**職業能力ベーシックスキルⅡ** 展開科目  
【2021年度以前入学者用】

島村 泰子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年  
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022年度以降入学者→選択必修科目（体験型）  
2021年度以前入学者→展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。  
その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。

【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。

2年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

**【到達目標】**

- 本授業の目標です。
- ①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
  - ②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
  - ③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
  - ④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
  - ⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。  
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用して調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。  
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期～大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。  
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第13回の模擬面接を臨場感をもって体験できます。学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。  
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。  
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日3限目にZoomで「リアルタイム型・オンライン授業」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介・授業内容、身につけておくべきスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第2回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、各業界の内容と求められる職業能力について
第3回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第2回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第4回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第5回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第3回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第6回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第7回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第8回	「業界・職種・企業」 研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第9回	【自己理解】 キャリア・プランシート作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第10回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業におけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第11回	【自己理解】 キャリア・プランシート完成と履歴書作成	第9回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面接の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第12回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第13回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第14回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

#### 【参考書】

『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度とレポート40%、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接40%、最後の確認試験20%を総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

業界研究をする場合は各自PCの持参、またはキャリアセンターを利用してください。

グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom等を活用できるようにしておいてください。

#### 【その他の重要事項】

本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。

また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。

本授業は、2022年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従ってください。

2021年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

#### 【Outline (in English)】

Basic career skills II

#### 【Course outline】

The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.

Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested

Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person

#### 【Learning Objectives】

The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40%、Term-end examination: 20%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

興味関心のあるテーマについてデータや先行研究を調べる力を身につけます。

レジュメの切り方、プレゼンの仕方を身につけます。

ディスカッションの基本、司会進行の仕方を身につけます。

自分の身近な出来事やその分析を文章で表現する力を身につけます。

**【到達目標】**

興味関心のあるテーマについて自分なりに調べ、適切なレジュメの作成、プレゼン、文章化ができる。

授業内で質の高いディスカッションができる。

教育課題に主体的に取り組み積極的に社会に参画できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

原則として対面授業です。毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全14回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミとは何か 本ゼミの進め方 担当者決め。
2	ゼミにおけるレジュメ作成の力	レジュメを作成するとはどういうことかを考えます。
3	レジュメの作成 (実践編)	課題図書について自分なりのレジュメを作成します。それについての講評を行い、よりよいレジュメ作りの方法を学びます。
4	プレゼンの仕方	プレゼンの大事なポイント、問題提起で欠かせないポイントを考えます。
5	発表①	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
6	発表②	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
7	発表③	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
8	発表④	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
9	発表⑤	担当者によるテーマ発表とディスカッション。
10	事例の記述	事例を記述するとはどういうことかを学びます。
11	事例の記述 (実践) ①	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。
12	事例の修正	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。

13	事例の記述 (実践) ③	事例として記述したものをそれぞれ読み合い、良い点、不足している点などを考えます。最終的な事例を書きあげます。
14	ゼミの総括・先輩の卒業論文講読	自分たちの発表や事例の書き方を確認し、先輩の書いた卒業論文を講読し最終的な目標を見定めます。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

テキストの講読、事例の記述、プレゼンの準備などを行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業でのプレゼンテーション 30% ディスカッション 30% その他授業活動への貢献 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生が主体的に参加できる演習を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

発表に際して投影機器を使う場合には事前に準備しておくこと。パソコンを用意してください。

**【Outline (in English)】**

Course outline

Students will acquire the ability to research data and previous research on topics of interest.

Students will learn how to write a resume and give a presentation and the basics of discussions and how to moderate them.

Students will acquire the ability to express their own familiar events and their analysis in writing.

Learning Objectives

This class aims to acquire the ability to examine data and previous researches about issue of interest.

To learn how to make resume and how to present it.

To learn how to do "discussion" and "moderator work."

To acquire the ability to express your familiar events and its analysis with writing.

Learning activities outside of classroom

Students will read texts, write case studies, and prepare presentations. The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Grading Criteria /Policy

Presentation in class 30% Discussion 30% Contribution to other class activities 40%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

学術図書の講読をとおして教育問題への学術的なアプローチに触れます。質的研究の方法について学び、教育現場についての記述ができるように目指します。教育現場における課題発見と解決に主体的に取り組みその経験を整理します。

**【到達目標】**

学術的な教育研究を理解できる。  
社会参画の責任感と企画の遂行能力を身に着ける。  
自身の研究テーマを設定し探求する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

原則として対面授業です。  
プロジェクトの時間と文献講読の時間とを設けます。  
文献講読では小グループでのディスカッションの実施の後全体での議論をします。  
プロジェクトに関しては授業時間外も含め活動します。校外学習を多く実施します。  
毎週の事前課題レポートをメールで提出してもらい、それに対してはコメントを入れて返却します。授業内でのディスカッションに対して、最後に教員からのフィードバックを行います。全14回授業の後、最終レポートを提出してもらい、これに対してフィードバックをコメントにて入れて返却します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 読書報告	ゼミの予定、方針を決めます。 春休みに各自がした読書についての報告をしてもらいます。
2	プロジェクト策定	これから実施していくプロジェクトを決めます。
3	文献講読①1冊目第1章	共通の文献の1冊目第1章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
4	文献講読②1冊目第2章	共通の文献の1冊目第2章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
5	文献講読③1冊目第3章	共通の文献の1冊目第3章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
6	文献講読④1冊目第4章	共通の文献1冊目第4章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
7	文献講読⑤	共通の文献の1冊目第5章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。

8	プロジェクトの報告	プロジェクトの状況を確認し後半の計画を立てます
9	論文執筆の方法	質的研究の方法を学びます。
10	論文の書き方	事例に基づく論文を執筆します。
11	文献講読⑥2冊目第1章	共通の文献の2冊目第一章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
12	文献講読⑦2冊目第3章	共通の文献2冊目第二章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
13	文献講読⑧2冊目第4章	共通の文献2冊目第三章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。
14	文献講読⑨2冊目第5章	共通の文献2冊目第四章を講読します。問題意識をもってテキストを分析しディスカッションをします。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

文献の講読 レジユメの作成 論文執筆等をおこないます。  
教育現場の課題解決に向けてプロジェクトを実施します。  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業内で決定します。

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点100% (毎回のレポート、授業での貢献度)

**【学生の意見等からの気づき】**

引き続き同じ形式を踏襲しますが状況を見て適宜判断します。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンを持参してください。

**【その他の重要事項】**

無断欠席は認められません。

**【Outline (in English)】**

Course outline : In this class you are required to know the academic approach way to educational problems through reading academic books; to learn about qualitative research methods and to describe the educational site; to train to write an episode as a case.

**Learning Objectives:**

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A; to understand academic education and research.

B; to acquire a sense of responsibility for social participation and the ability to carry out projects.

C: Set and explore your own research theme.

**Learning activities outside of classroom:**

You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.

You need to implement projects to solve problems in educational settings.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria /Policy:**

Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

プロジェクトに関してゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。学術論文を読む力を身につけます。卒論の構想をたて、調査を進めます。

### 【到達目標】

ゼミでの調査結果を記述・分析・考察します。興味関心のあるテーマについて先行研究を洗い出します。学術論文を読む力を身につけます。卒論の構想をたてます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ディスカッション形式で行います。先行研究と学術論文の講読は輪番制です。事前に提出されたレポートはコメントを入れてメールにてそれぞれにゼミの前に返却いたします。またslack等を通じて全体で共有できるようにいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期の計画をたてます。
2	調査結果の分析	調査で得られたデータをデータ化する作業、すなわち事例を記述する力を身につけます。
3	結果の報告	事例について記述の仕方、考察等を検討します。
4	事例と考察の修正	検討内容に基づいて事例や考察を修正します。報告集を作ります。
5	図書館の使い方 (確認)	図書館の利用について指導を受けます。
6	学術論文の講読①	第一担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
7	学術論文の講読②	第二担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
8	学術論文の講読③	第三担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
9	学術論文の講読④	第四担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
10	学術論文の講読⑤	第五担当者の選んだ学術論文を講読し学術論文の書き方に慣れます。
11	卒業論文執筆に向けて① テーマの設定	卒業論文の執筆に向けてテーマを絞ります。
12	卒業論文執筆に向けて② 事例の確認	卒業論文の執筆に向けて事例を読み合い確認します。

13 卒業論文執筆に向けて③  
章の組み方

論文の基本構成を学びます。

14 懸賞論文構想発表

来年度の懸賞論文の構想を発表し検討します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事例の記述や論文講読、レジュメ作成などをおこないます。毎週レポートとして事前に提出してもらいます。講読論文の読解など本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜指示します。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(毎回のレポート、授業への貢献度) 100%

### 【学生の意見等からの気づき】

特に改善点は指摘されていません。計画を引き継ぎますが受講生の要望を取り入れて臨機応変に対応します。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを用意してください。

### 【Outline (in English)】

TCourse outline : This course aims to help students gain the ability to describe, analyze and discuss the results of the survey at the seminar; to identify the prior research on the subjects of interest; to acquire the ability to read academic paper; to make the plan of the graduation thesis and proceed with the investigation.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

A: you will, analyze, consider and write the results of their research in seminars.

B: you will identify previous research on a topic that interests you.

C: You will get the ability to read academic papers.

D: You will make the plan of your thesis.

Learning activities outside of classroom:

You need to read literature, writing resumes, writing papers, etc.

You need to implement projects to solve problems in educational settings.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on in class contribution: 100%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化の進展に伴い、多様性を価値ある資源として捉え直し、多様な人々の共生をいかに進めるのかが大きな課題となっている。本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関わる基本的な概念や事象を検討することを通して、多文化共生のあり方を追究したい。

### 【到達目標】

- ・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などの基本的な知識を得ることができる。
- ・担当する課題や興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的な発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、授業支援システムを活用する。担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。課題についてはいくつかの記述を取り上げ、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方、自己紹介
2回	多文化マップ(1)調査	散策とマップ作成
3回	多文化マップ(2)発表	マップ作成と発表
4回	多文化共生のパス ペクティブ	発表と討議
5回	文化とは	発表と討議
6回	外国人と日本人	発表と討議
7回	研究レポートに向け た中間報告	発表と討議
8回	図書館の使い方	説明 図書を検索
9回	現実はつくられる	発表と討議
10回	つながる世界	発表と討議
11回	環境問題を考える	発表と討議
12回	南北問題を考える	発表と討議
13回	研究レポートの発表 (1)多文化	プレゼンと質疑
14回	研究レポートの発表 (2)共生	プレゼンと質疑

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備として、教科書や関連文献などを読んでくる。担当テーマについてのプレゼンをする。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

松尾知明『多文化共生をデザインする』明石書店、2013年。

### 【参考書】

松尾知明『「移民時代」の多文化共生論』明石書店、2020年。その他、授業において適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況 (30%)、レジュメと発表 (30%)、研究レポートとプレゼン (40%) をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

主体的に討論ができるように進め方を工夫する。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

Along with the progress of globalization, a big issue is how to rethink diversity as a valuable resource and how to enhance symbiosis of diverse people. In this course, focusing on various issues related to a multicultural society, basic concepts and phenomena related to multicultural education are examined to explore ways of multicultural symbiosis.

#### 【到達目標 / Goal】

Students are able to acquire basic knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural symbiosis and education.

Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and make the presentation effectively.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare presentations.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

若者のキャリア形成とその支援

**【到達目標】**

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探索の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探索・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②個人またはグループによる研究発表と討論、等である。

学生の発表等に対するフィードバックはその場で、提出された課題等へのフィードバックは、次回の授業の最初にまとめて行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し、各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	ゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し、共有化をはかる。ゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。

- 11 個人研究発表⑥ 報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
- 12 個人研究発表⑦ 報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
- 13 個人研究発表⑧ 報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
- 14 まとめ 学習全体の振り返りを行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読しておく。発表の担当者は、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めない。

**【参考書】**

- 児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』(明石書店)
- 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』(日本図書センター)
- 児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』(徳間書店)
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書)
- 児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』(ベスト新書)
- その他、授業時に、随時紹介していく。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、平常点によって行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

**【その他の重要事項】**

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

**【Outline (in English)】**

This course is a seminar on youth and career development. The goal of this course is to complete and present personal research. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Final grade will be calculated according to in-class contribution.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

若者のキャリア形成とその支援

**【到達目標】**

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探索の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探索・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②ワークショップ形式等でのテーマ討論、③個人またはグループによる研究発表と討論、④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施、等である。授業時以外での課外活動として、夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究会等への参加、若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。

秋学期授業と併せて履修することを原則とする。年度末には、「ゼミ紀要 (学生による研究論文集)」を発行する。

学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは、授業時および次回の授業の最初に行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者の問題関心を交流し、各自の小テーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	春学期のゼミ運営計画の策定	参加者の小テーマについて交流し、共有化をはかる。春学期のゼミ運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告者からの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	個人研究発表①	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	個人研究発表②	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
8	個人研究発表③	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。

9	個人研究発表④	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	個人研究発表⑤	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	個人研究発表⑥	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	個人研究発表⑦	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	個人研究発表⑧	報告者が自らの小テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
14	春学期のまとめ	春学期の学習全体について振り返りを行い、ディスカッションを通じて、夏合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当者は、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

個人研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分以外の参加者の発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めない。

**【参考書】**

- 児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』(明石書店)
- 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』(日本図書センター)
- 児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』(徳間書店)
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書)
- 児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』(ベスト新書)
- その他、授業時に、随時紹介していく。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、平常点で行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

**【その他の重要事項】**

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

**【Outline (in English)】**

This course is a seminar on youth and career development. The goal of this course is to complete and present personal research. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Final grade will be calculated according to in-class contribution.



EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

児美川 孝一郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

若者のキャリア形成とその支援

**【到達目標】**

- ① 今日の若者のキャリア形成上の諸問題、および対応するキャリア支援の諸課題について、主として教育場面を探索の対象としつつ、その実践的および専門的理解を深める。
- ② 参加者各自が設定した小テーマについて、それを探索・調査・分析するためのスキルを獲得するとともに、研究発表を通じて、プレゼンテーションとコミュニケーションの力量向上をはかる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

演習の具体的な運営方法については、参加者と相談しながら、随時決めていく。

想定される学習活動は、①共通文献の輪読と検討、②ワークショップ形式等でのテーマ討論、③個人またはグループによる研究発表と討論、④ゲストスピーカーを招いてのヒアリングの実施、等である。授業時以外での課外活動として、夏冬にゼミ合宿を実施する。学外の研究会・研究会等への参加、若者に対するキャリア形成支援の現場への訪問調査の実施等についても検討したい。

春学期授業から引き続き履修することを原則とする。年度末には、「ゼミ紀要 (学生による研究論文集)」を発行する。

学生の発表や提出された課題等へのフィードバックは、授業時および次回の授業の最初に行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	共同研究のテーマ設定	春学期における個人研究発表の内容も踏まえ、秋学期の共同研究のテーマ設定のためのディスカッションを行う。
2	秋学期のゼミ運営計画の策定	共同研究を進めるためのグループ分けを行い、秋学期のゼミの運営計画を策定する。
3	共通文献の検討①	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
4	共通文献の検討②	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
5	共通文献の検討③	事前に指定した共通文献について、報告グループからの発表を受けて、全体でディスカッションする。
6	グループ研究発表①	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
7	グループ研究発表②	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。

8	グループ研究発表③	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
9	グループ研究発表④	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
10	グループ研究発表⑤	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
11	グループ研究発表⑥	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
12	グループ研究発表⑦	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
13	グループ研究発表⑧	報告グループが担当テーマについて研究発表を行い、全体でディスカッションする。
14	秋学期のまとめ	秋学期の学習全体について振り返りを行い、ディスカッションを通じて、冬合宿および秋学期の研究課題を抽出する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

共通文献の検討の際には、事前に指定文献を熟読してくる。発表の担当グループは、入念な準備と発表用レジュメを作成する。

グループ研究発表に際しては、先行研究の収集・読解、仮説的な理論フレームの考案など、ふだんから準備を重ねておく。自分の属するグループ以外のグループ発表に際しても、テーマは前週に周知されるので、関連情報を調べたり、提示された参考文献を熟読しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めない。

**【参考書】**

- 児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』(明石書店)
- 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』(日本図書センター)
- 児美川孝一郎『「親活」の非ススメ』(徳間書店)
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』(ちくまプリマー新書)
- 児美川孝一郎『夢があふれる社会に希望はあるか』(ベスト新書)
- その他、授業時に、随時紹介していく。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、平常点で行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

**【その他の重要事項】**

少人数形式の演習授業であり、学生参加型の主体的学習を重視している。かつ、受講生には、調査、研究、レジュメ作成、プレゼンテーション、論文執筆のサイクルを経験してもらうため、本授業は、結果として、学生の就業力向上に資するところが少なくない。

**【Outline (in English)】**

This course is a seminar on youth and career development. The goal of this course is to complete and present joint research. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Final grade will be calculated according to in-class contribution.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

### 坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デジタル市民とメディアリテラシーの実践的研究

受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESDやSDGsの理論を学び、学校や地域でのESDおよび実践的なメディアリテラシー支援能力を身につける。

#### 【到達目標】

- ・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
- ・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
- ・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
- ・ESDやSDGsの実践知を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

- ・課題等の提出・フィードバックは「Classroom」を通じて行う。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたClassroomのコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・オフィス・アワーで、課題 (作品やレポート等) に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	新たな教育の潮流	SDGsの教育学の基礎理論の学習
4	ビデオレターの教育理論	SDGsの教育学の基礎理論の学習 (異文化交流の基礎理論)
5	ビデオレター制作実習	SDGsの教育学の基礎理論の学習 (異文化交流の実践)
6	自主夜間中学校の理論	自主夜間中学校の理論的背景を学ぶ
7	自主夜間中学校における映像制作実習	自主夜間中学校での映像制作を実践する
8	市民メディア活動の基礎理論	市民メディア活動の基本的理論を学ぶ
9	市民メディア活動実習	市民メディア団体との活動を企画実施する
10	ユネスコの活動とSDGsの教育について学ぶ	SDGsの教育学の基礎理論を学ぶ (ユネスコの教育理論)
11	ユネスコスクールにおけるESD活動(1)	ユネスコスクールにおける映像制作支援を行う
12	ユネスコスクールにおけるESD活動(2)	ユネスコスクールにおける活動の記録をまとめる
13	ゼミ活動のまとめ	これまでのゼミ活動をまとめる
14	ゼミ活動成果発表会	ゼミ活動の成果を発表する

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。合宿は福島で取材活動を行う。なお、海外研修が行われる場合は正規の授業ではなく、課外活動の一環であることを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』(2022年)

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

#### 【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局 (2014年)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等の提出物50%

授業評価基準 (ルーブリック)

##### ●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的(グローバル)な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

##### ●受講態度 (4段階)

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
- 3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
- 4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

##### ●映像制作態度 (4段階)

- 1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
- 2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
- 3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
- 4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

##### ●映像制作技術 (4段階)

- 1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
- 2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。
- 3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
- 4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

##### ●ファシリテーション (4段階)

- 1 小中高校の授業支援に参加する。
- 2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
- 3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
- 4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

##### ●異文化対話 (4段階)

- 1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
- 2 異文化に対するステレオタイプなものの方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
- 3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
- 4 異文化を越えた協働(コラボレーション)を主体的に企画し、実践することができる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室 (精密) と CALS (キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ) を併用する。映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ (DaVinci Resolve) をインストールしておくこと。 <https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

**【その他の重要事項】**

演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。(絶対条件ではない。)

「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」(秋期)、「卒業論文」(4年)「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」(坂本担当)、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」(コミュニティ・メディア)

**【Outline (in English)】**

Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustainable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

**坂本 旬**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

デジタル市民とメディアリテラシーの実践的研究  
受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESDやSDGsの理論を学び、学校や地域でのESDおよび実践的なメディアリテラシー支援能力を身につける。

**【到達目標】**

- ・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
- ・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
- ・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
- ・ESDやSDGsの実践知を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

- ・課題等の提出・フィードバックは「Classroom」を通じて行う。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたClassroomのコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・オフィス・アワーで、課題 (作品やレポート等) に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	ESDの基礎学習	ゼミが制作したESD動画を用いて基礎理論を学ぶ
4	SDGsと映像の理論(1)	SDGsの教育学の基礎理論を学ぶ
5	SDGsと映像の実践(2)	ビデオレターを用いた実践事例を学ぶ
6	SDGsと映像の実践(3)	ユネスコスクールにおける実践事例を学ぶ
7	SDGsと映像の実践(4)	映像制作ワークショップを行う
8	市民メディア活動の基礎(1)	市民メディア活動の基礎理論を学ぶ
9	市民メディア活動の基礎(2)	市民メディア活動の実践を学ぶ
10	市民メディア活動の基礎(3)	市民メディア団体との協働学習を企画する
11	市民メディア活動の基礎(4)	市民メディア団体とメディアに関するティーチインを行う
12	地域・異文化交流の概要	地域・異文化交流に関する基礎を学ぶ
13	地域・異文化交流の計画	地域・異文化交流を計画する
14	授業の振り返り	これまでの学習活動を振り返る

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。なお、夏季休業中の海外研修活動は正規の授業ではなく、課外活動の一環として行うことを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』(2022年)  
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

**【参考書】**

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局 (2014年)

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、レポート等の提出物50%

授業評価基準 (ルーブリック)

●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的(グローバル)な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

●受講態度 (4段階)

- 1 8割以上ゼミに出席している。
- 2 ゼミでの討論に参加し、発言する。
- 3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。
- 4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

●映像制作態度 (4段階)

- 1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。
- 2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。
- 3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。
- 4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

●映像制作技術 (4段階)

- 1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。
- 2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。
- 3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。
- 4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

●ファシリテーション (4段階)

- 1 小中高校の授業支援に参加する。
- 2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。
- 3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。
- 4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

●異文化対話 (4段階)

- 1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。
- 2 異文化に対するステレオタイプなものの方見方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。
- 3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。
- 4 異文化を越えた協働(コラボレーション)を主体的に企画し、実践することができる。

**【学生の意見等からの気づき】**

教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業は資格課程実習室 (精密) とCALS (キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ) を併用する。映像編集可能なWindowsまたはMacノートブックPCを用意すること。  
編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ(DavinciResolve)をインストールしておくこと。<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>  
カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

**【その他の重要事項】**

演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。(絶対条件ではない。)

「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」(秋期)、「卒業論文」(4年)「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」(坂本担当)、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」(コミュニティ・メディア)

**【Outline (in English)】**

Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustainable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

### 坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

デジタル市民とメディアリテラシーの実践的研究

受講生はショート・ドキュメンタリーを制作するスキルを身につけ、ESDやSDGsの理論を学び、学校や地域でのESDおよび実践的なメディアリテラシー支援能力を身につける。

#### 【到達目標】

- ・多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加する。
- ・メディアリテラシーを用いた探究学習を行う。
- ・異文化交流・協働を実行するための基礎能力を身につける。
- ・ESDやSDGsの実践知を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

- ・課題等の提出・フィードバックは「Classroom」を通じて行う。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたClassroomのコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・コメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・オフィス・アワーで、課題 (作品やレポート等) に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のあらましの解説と分担決定
2	基礎学習	市民メディアおよび異文化探究学習の基本的理論と方法の学習
3	新たな教育の潮流	SDGsの教育学の基礎理論の学習
4	ビデオレターの教育理論	SDGsの教育学の基礎理論の学習 (異文化交流の基礎理論)
5	ビデオレター制作実習	SDGsの教育学の基礎理論の学習 (異文化交流の実践)
6	自主夜間中学校の理論	自主夜間中学校の理論的背景を学ぶ
7	自主夜間中学校における映像制作実習	自主夜間中学校での映像制作を実践する
8	市民メディア活動の基礎理論	市民メディア活動の基本的理論を学ぶ
9	市民メディア活動実習	市民メディア団体との活動を企画実施する
10	ユネスコの活動とSDGsの教育について学ぶ	SDGsの教育学の基礎理論を学ぶ (ユネスコの教育理論)
11	ユネスコスクールにおけるESD活動(1)	ユネスコスクールにおける映像制作支援を行う
12	ユネスコスクールにおけるESD活動(2)	ユネスコスクールにおける活動の記録をまとめる
13	ゼミ活動のまとめ	これまでのゼミ活動をまとめる
14	ゼミ活動成果発表会	ゼミ活動の成果を発表する

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学外の学校での授業支援、地域での取材や映像制作など主要な活動のほとんどが課外活動となる。合宿は福島で取材活動を行う。なお、海外研修が行われる場合は正規の授業ではなく、課外活動の一環であることを理解されたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』(2022年)

寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

#### 【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局 (2014年)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート等の提出物50%

授業評価基準 (ルーブリック)

##### ●コンピテンシー

多様なメディアを活用しながら、自ら進んで市民メディア活動に参加し、異文化対話を行い、他者の異文化対話を支援し、全地球的(グローバル)な異文化対話の発展に対して、自覚的に寄与することができる。

##### ●受講態度 (4段階)

1 8割以上ゼミに出席している。

2 ゼミでの討論に参加し、発言する。

3 グループやゼミをまとめ、意見をまとめることができる。

4 自主的に新しい企画を立て、ゼミをまとめて引っ張っていくことができる。

##### ●映像制作態度 (4段階)

1 メディアにかかわるさまざまな社会問題に関心を持つ。

2 メディアにかかわる人権や倫理の問題について、自分の意見を発表することができる。

3 メディアにかかわる社会問題をテーマとした映像制作や論文執筆ができる。

4 メディアにかかわる社会問題について、主体的に社会に対して発信することができる。

##### ●映像制作技術 (4段階)

1 ビデオカメラや三脚等の撮影に使用する機材を正しく使うことができる。

2 ビデオカメラを使って、カメラワークを意識した撮影ができる。

3 作品の企画・構成を作り、パソコンを用いて5分程度の映像編集ができる。

4 ドキュメンタリー映像制作のための企画・構成・取材・撮影・編集等のスキルを身につける。

##### ●ファシリテーション (4段階)

1 小中高校の授業支援に参加する。

2 小中高校生や他の学生の映像制作を適切に支援することができる。

3 他国の学生への映像制作を適切に支援することができる。

4 ゼミ内外での映像制作の他者支援を自分で企画して、実施することができる。

##### ●異文化対話 (4段階)

1 異文化対話が必要な理由を自覚し、他者に説明できる。

2 異文化に対するステレオタイプなものの方や偏見を理解し、それを乗り越えようとする。

3 国内外での異文化を持った他者とさまざまなメディアを活用して積極的にコミュニケーションをする。

4 異文化を越えた協働(コラボレーション)を主体的に企画し、実践することができる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いて基礎理論を学ぶことは地域でのフィールドワークに大いに役立つ。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業は資格課程実習室 (精密) と CALS (キャリア・アクティブ・ラーニング・スタジオ) を併用する。映像編集可能な Windows または Mac ノートブック PC を用意すること。

編集ソフトとして無料版ダビンチ・リゾルブ (DaVinci Resolve) をインストールしておくこと。 <https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve/>

カメラとして使用できるスマートフォンやデジタルカメラを用意すること。

**【その他の重要事項】**

演習参加にあたって、次の授業を履修することが望ましい。(絶対条件ではない。)

「メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ」、「キャリアデザイン学総合演習」(秋期)、「卒業論文」(4年)「メディア教育論Ⅰ・Ⅱ」、「図書館演習」(坂本担当)、「地域学習支援Ⅰ・Ⅱ」(コミュニティ・メディア)

**【Outline (in English)】**

Students will learn the concepts of digital citizenship and media literacy in a practical way. Students will learn basic theories of media literacy and cross-cultural exchange and Education for Sustainable Development (ESD) and the SDGs, and plan fieldwork in schools and communities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Learning outcomes will be evaluated by video works and reflection reports.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(授業の概要)

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) を中心とした基礎文献の講読をすすめるとともに、教育の実践現場 (公民館等の社会教育施設、その他) への見学・参加を実施する。

(授業の目的・意義)

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、基礎文献の講読と実践現場への参加を通じて獲得することを目的とする。

### 【到達目標】

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域) における主要な知識・視点を、基礎文献講読や実践現場 (公民館等の社会教育施設) への参加を通じて把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域) を中心に、基礎文献を講読していく。それと並行して、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等の取り組みを見学し、職員の助言の下に事業の企画運営にも参加する。受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、問題関心の共有	授業の進め方について説明するとともに、問題関心を教員・受講者間で共有する。
第2回	文献講読①	社会教育史研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。(文献の領域や具体的な選択については、学生の希望を勘案して決定する。以下も同様)
第3回	文献講読②	社会教育の国際比較研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第4回	文献講読③	社会教育・生涯学習の理念に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第5回	文献講読④	社会教育行政・制度研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。

第6回	文献講読⑤	学校・地域の連携・協働に関する研究として代表的な文献を講読し、この研究領域における研究方法や重要な論点を理解する。
第7回	社会教育施設等での事業企画①	社会教育施設の情報について把握した上で、地域住民を対象とした事業計画 (学習プログラム) の概要を作成する。
第8回	社会教育施設等での事業企画②	地域住民を対象とした事業計画の細部 (学習活動の展開) を確定する。
第9回	社会教育施設等での事業企画③	地域住民を対象とした事業計画の細部 (広報、評価方法) を確定する。
第10回	社会教育施設等での事業準備	社会教育施設にて企画に基づいて事業実施の事前準備を行う。
第11回	社会教育施設等での事業実施	企画に基づき、実際に社会教育施設において事業に実施者として参加する。
第12回	社会教育施設等での事業の振り返り	受講者アンケート結果などを基に、今回の事業企画の評価を行う。
第13回	個人研究の報告①	4年生の卒論要旨報告を基に、討論を行う。
第14回	個人研究の報告②	3年生の現時点での研究進捗状況を基に、討論を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・講読文献は予め熟読し、コメント、疑問点を整理しておくこと。
- ・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスタコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

### 【参考書】

津田英二、久井英輔、鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

### 【成績評価の方法と基準】

基礎文献の発表 (要約・コメント) 30%

ディスカッションへの貢献度 40%

教育活動 (学生企画事業) への貢献度 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は社会教育現場での活動への参加とインタビュー調査を基にした共同研究を進めたが、今年度は共同研究の成果発表というゴールにはこだわらず、社会教育実践の見学、参加等の体験学習を、個々人の研究進捗と無理なく両立できるようなスケジュールとすることを重視したい。

### 【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to discuss topics on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on presentation for review of basic literature. Additionally, we will conduct visits and participation in educational activities.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students). This is to be done by considering practical concerns, and by developing the capability to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through presentation for review of basic literature, a comprehensive examination of previous research, the creation of research plans, and active participation in educational activities.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)



Final grade will be calculated according to the following process: Presentation for review of basic literature reading (30%), contribution to discussion (40%), contribution to educational activities (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

(授業の概要)

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) を中心とした先行研究の検討、研究構想の作成をすすめるとともに、教育の実践現場 (公民館等の社会教育施設、その他) への見学・参加を実施する。

(授業の目的・意義)

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、先行研究の検討、研究構想の作成と実践現場への参加を通じて獲得することを目的とする。

**【到達目標】**

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域) における主要な知識・視点を、先行研究検討、研究構想作成や実践現場 (公民館等の社会教育施設) への参加を通じて把握できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域) から各自でテーマを立てて、先行研究を検討するとともに研究構想を作成していく。それと並行して、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等の取り組みを見学し、職員の下に事業の企画運営にも参加する。受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	問題関心の共有	授業の進め方について説明するとともに、問題関心を教員・受講者間で共有する。
第2回	先行研究検討①	社会教育史研究の領域で、学生の研究関心に近い先行研究を検討し、研究構想の作成に資する示唆を得る (領域や具体的な文献の選定については、学生の希望を基に決定する。いかについても同様)。
第3回	先行研究検討②	社会教育の国際比較研究の領域で、学生の研究関心に近い先行研究を検討し、研究構想の作成に資する示唆を得る。
第4回	先行研究検討③	社会教育・生涯学習の理念の領域で、学生の研究関心に近い先行研究を検討し、研究構想の作成に資する示唆を得る。
第5回	先行研究検討④	社会教育行政・制度研究の領域で、学生の研究関心に近い先行研究を検討し、研究構想の作成に資する示唆を得る。

第6回	先行研究検討⑤	学校・地域の連携・協働に関する研究の領域で、学生の研究関心に近い先行研究を検討し、研究構想の作成に資する示唆を得る。
第7回	研究構想発表①	社会教育史研究に関連したテーマで、学生の具体的な研究構想 (問題関心、研究方法など) を発表する (具体的な研究テーマについては学生の希望を最大限尊重する。以下同様)。
第8回	研究構想発表②	社会教育の国際比較研究に関連したテーマで、学生の具体的な研究構想 (問題関心、研究方法など) を発表する。
第9回	研究構想発表③	社会教育・生涯学習の理念に関連したテーマで、学生の具体的な研究構想 (問題関心、研究方法など) を発表する。
第10回	研究構想発表④	社会教育行政・制度研究に関連したテーマで、学生の具体的な研究構想 (問題関心、研究方法など) を発表する。
第11回	研究構想発表⑤	学校・地域の連携・協働に関する研究に関連したテーマで、学生の具体的な研究構想 (問題関心、研究方法など) を発表する。
第12回	社会教育施設等の実地視察①	実際に社会教育施設に赴き、施設経営の概要や地域社会の状況について職員から情報収集する。
第13回	社会教育施設等の実地視察②	実際に社会教育施設に赴き、現在行われている事業の状況について職員から情報収集する。
第14回	社会教育施設等の実地視察③	実際に社会教育施設に赴き、学生による事業 (学習プログラム) 企画に当たっての要望、必要な情報を把握する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

- ・先行研究検討の際には参加者全員が予め熟読し、コメント、疑問点を整理しておくこと。
- ・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

**【参考書】**

津田英二、久井英輔、鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

**【成績評価の方法と基準】**

先行研究検討、研究構想報告 30%  
ディスカッションへの貢献度 40%  
教育活動 (学生企画事業) への貢献度 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度は社会教育現場での活動への参加とインタビュー調査を基にした共同研究を進めたが、今年度は共同研究の成果発表というゴールにはこだわらず、社会教育実践の見学、参加等の体験学習を、個々人の研究進捗と無理なく両立できるようなスケジュールとすることを重視したい。

**【Outline (in English)】**  
(Course Outline)

The aim of this course is to discuss topics on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on presentation for a comprehensive examination of previous research and for original research plans. Additionally, we will conduct visits and participation in educational activities.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students). This is to be done by considering practical concerns, and by developing the capability to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through presentation for a comprehensive examination of previous research and for an original research plan, and active participation in educational activities.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: Presentation for an examination of previous research and for original research plan (30%), contribution to discussion (40%), contribution to educational activities (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

久井 英輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(授業の概要)

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) を中心とした研究進捗の報告をすすめるとともに、教育の実践現場 (公民館等の社会教育施設、その他) への見学・参加を実施する。

(授業の目的・意義)

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いを提示できる力を、研究進捗報告と実践現場への参加を通じて獲得することを目的とする。

### 【到達目標】

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域) における主要な知識・視点を、研究進捗報告や実践現場 (公民館等の社会教育施設) への参加を通じて把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域) から各自でテーマを立てて、研究の進捗状況を報告する。それと並行して、実際の地域住民の学びを支援する社会教育施設等の取り組みを見学し、職員の助言の下に事業の企画運営にも参加する。

受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答の中で行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、問題関心の共有	授業の進め方について説明するとともに、問題関心を教員・受講者間で共有する。
第2回	研究進捗報告①	社会教育史研究に関連したテーマでの学生の研究進捗報告を行う (具体的なテーマ設定については、学生の希望を最大限尊重する。以下も同様)。
第3回	研究進捗報告②	社会教育の国際比較研究に関連したテーマでの学生の研究進捗報告を行う。
第4回	研究進捗報告③	社会教育・生涯学習の理念に関連したテーマでの学生の研究進捗報告を行う。
第5回	研究進捗報告④	社会教育行政・制度研究に関連したテーマでの学生の研究進捗報告を行う。
第6回	研究進捗報告⑤	学校・地域の連携・協働に関連したテーマでの学生の研究進捗報告を行う。

第7回	社会教育施設等での事業企画①	社会教育施設の情報について把握した上で、地域住民を対象とした事業計画 (学習プログラム) の概要を作成する。
第8回	社会教育施設等での事業企画②	地域住民を対象とした事業計画の細部 (学習活動の展開) を確定する。
第9回	社会教育施設等での事業企画③	地域住民を対象とした事業計画の細部 (広報、評価方法) を確定する。
第10回	社会教育施設等での事業準備	社会教育施設にて企画に基づいて事業実施の事前準備を行う。
第11回	社会教育施設等での事業実施	企画に基づき、実際に社会教育施設において事業に実施者として参加する。
第12回	社会教育施設等での事業の振り返り	受講者アンケート結果などを基に、今回の事業企画の評価を行う。
第13回	個人研究の報告①	4年生の卒論要旨の報告を基に、討論を行い。
第14回	個人研究の報告②	3年生の研究進捗状況の報告を基に、討論を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・発表準備は基本的に授業時間外で行うものとする。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスタコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

### 【参考書】

津田英二、久井英輔、鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

### 【成績評価の方法と基準】

研究進捗報告 30%  
ディスカッションへの貢献度 40%  
教育活動 (学生企画事業) への貢献度 30%

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は社会教育現場での活動への参加とインタビュー調査を基にした共同研究を進めたが、今年度は共同研究の成果発表というゴールにはこだわらず、社会教育実践の見学、参加等の体験学習を、個々人の研究進捗と無理なく両立できるようなスケジュールとすることを重視したい。

### 【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to discuss topics on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on presentation for report of research progress. Additionally, we will conduct visits and participation in educational activities.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students). This is to be done by considering practical concerns, and developing the capability to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through presentation for report of research progress, and active participation in educational activities.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria / Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: presentation for report of research progress (30%), contribution to discussion (40%), contribution to educational activities (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに、事例を通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

### 【到達目標】

- ・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
- ・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。担当したテーマについてレジュメを作成し発表を行い話し合う。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	多文化化と学校
2回	チーム研究の進め方	研究の計画づくり
3回	2つの言語や文化を生きる	グループワークと討論
4回	文化とアイデンティティ	グループワークと討論
5回	外国につながる子どもと学校	グループワークと討論
6回	多様な子どもと学校	グループワークと討論
7回	外国人児童生徒と公立学校	グループワークと討論
8回	夜間中学校	グループワークと討論
9回	外国人学校・インターナショナルスクール	グループワークと討論
10回	外国人児童生徒教育と公立学校	発表(1)と討論
11回	外国人学校とアイデンティティ	発表(2)と討論
12回	夜間中学校と居場所	発表(3)と討論
第13回	インターナショナルスクール/IBプログラム	発表(4)と討論
第14回	授業のまとめ	振り返り

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備として、教科書や関連する文献や資料を読んでみる。興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

松尾知明『多文化クラスの授業デザインー外国につながる子どものために』明石書店、2021年。

### 【参考書】

授業において適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況 (30%)、課題、パワーポイントスライド、プレゼン、研究レポート (70%) をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究の進め方について指導に留意する。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural conviviality are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.

#### 【到達目標 / Goal】

Students are able to deepen knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural conviviality and education.

Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and write an effective report.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木6/Thu.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、多文化社会をめぐる諸課題に焦点をあて、多文化共生と教育に関する調査研究を進めることを通して、多文化共生のあり方を追究したい。具体的には、多文化共生をテーマに事例研究を遂行することを通して、基本的な研究の考え方や進め方について学ぶとともに、自分の設定したテーマを追究して、研究レポートにまとめる。

### 【到達目標】

- ・多文化共生と教育に関する概念、動向や課題などについての知識を深めることができる。
- ・興味あるテーマについて調査研究を進め、効果的に研究レポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。調査研究の進め方や研究レポートの書き方について、具体的な事例を検討しながら学ぶ。また、個人の興味・関心に従い問いを立て、調査研究を進めて研究レポートを作成し発表を行う。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	テーマの設定	調査研究の構想
3	先行研究の収集	発表と質疑
4	先行研究の検討	発表と質疑
5	リサーチクエッションと研究計画	研究の計画
6	テーマ設定の理由	先行研究への位置づけ
7	調査研究のデザイン	発表と質疑
8	中間発表	進捗状況の報告と質疑
9	調査研究の実施(1)研究方法	進捗状況の報告と質疑
10	調査研究の実施(2)データの収集	進捗状況の報告と質疑
11	調査研究の実施(3)データの分析	進捗状況の報告と質疑
12	研究レポートの発表(1)4年	プレゼンと質疑
13	研究レポートの発表(2)3年	プレゼンと質疑
14	授業のまとめ	成果と課題の検討

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備として、文献などを読み、課題をやってくる。また、興味・関心に従って調査研究を進め、研究レポートを作成し、プレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業において適宜紹介する。

### 【参考書】

授業において適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況 (30%)、研究レポートとプレゼン (70%) をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

進捗状況を把握する。学び合いの機会を入れる。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

In this course, focusing on cases of multicultural education in Japan, trends and issues related to multicultural symbiosis are explored. Also, with the theme of multicultural symbiosis, research reports are written by conducted by conducting case studies. Through these learning activities, how to actualize multicultural coexistence is discussed and explored.

#### 【到達目標 / Goal】

Students are able to deepen knowledge of concepts, trends and issues related to multicultural symbiosis and education.

Students are able to conduct research on themes of multicultural issues and write an effective report.

#### 【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided based on in class contribution (30%) and assignments and presentations (70%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に基づいて検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、3年・4年次の演習に向け、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会的なものを見方や、アカデミックスキルを養う。

**【到達目標】**

身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視点と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。

自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

①共通の文献をもとに、担当者が作成したレポートに基づくプレゼンを行い、全員でディスカッションする。また、②自身の設定したテーマについてのミニ研究発表を行う。受講生は、①②について1回ずつは発表担当を担うものとする。

フィードバックは、各授業時間の中で行うことを基本とするが、授業以外の時間における個別の相談にも柔軟に応じることとする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介や、各々の問題関心を交流する。授業の大まかな方針を共有する。
第2回	運営計画の策定	役割分担や、具体的な計画を、共同で策定する。
第3回	共通文献の検討①	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第4回	共通文献の検討②	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第5回	共通文献の検討③	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第6回	共通文献の検討④	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第7回	共通文献の検討⑤	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第8回	後半運営計画の策定 (見直し)	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第9回	ミニ研究報告①	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする

第10回	ミニ研究報告②	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第11回	ミニ研究報告③	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第12回	ミニ研究報告④	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第13回	ミニ研究報告⑤	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第14回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

**【参考書】**

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

**【成績評価の方法と基準】**

2回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ50%として評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

フィールドワークを共同で行えればと考えている。

**【その他の重要事項】**

自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。演習の具体的な運営方法 (行事含む) については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

Seminar on Educational policy, management, and administration

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study. Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**  
All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.

Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.

Students' study time will be more than two hours for a class

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に基づいて検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、卒論に向け、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会科学的なものの方方や、アカデミックスキルを養う。

**【到達目標】**

身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視点と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。

自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

①共通の文献をもとに、担当者が作成したレポートに基づくプレゼンを行い、全員でディスカッションする。また、②自身の設定したテーマについてのミニ研究発表を行う。受講生は、①②について1回ずつは発表担当を担うものとする。

フィードバックは、各授業時間の中で行うことを基本とするが、授業以外の時間における個別の相談にも柔軟に応じることとする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介や、各々の問題関心を交流する。授業の大まかな方針を共有する。
第2回	運営計画の策定	役割分担や、具体的な計画を、共同で策定する。
第3回	共通文献の検討①	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第4回	共通文献の検討②	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第5回	共通文献の検討③	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第6回	共通文献の検討④	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第7回	共通文献の検討⑤	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第8回	後半運営計画の策定 (見直し)	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第9回	ミニ研究報告①	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする

第10回	ミニ研究報告②	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第11回	ミニ研究報告③	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第12回	ミニ研究報告④	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第13回	ミニ研究報告⑤	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第14回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

**【参考書】**

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

**【成績評価の方法と基準】**

2回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ50%として評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

フィールドワークを共同で行えればと考えている。

**【その他の重要事項】**

自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。演習の具体的な運営方法 (行事含む) については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

Seminar on Educational policy, management, and administration

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study. Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**  
All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.

Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.

Students' study time will be more than two hours for a class

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%



EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

テーマを「教育改革の社会学」とし、国・自治体・学校・民間団体などによって進められる様々な教育改革について、広い社会的視野と、事実に基づいて検証するための基礎的な考え方・見方を学ぶ演習とする。

具体的には、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などに関わる課題について、専門的な理解を深める。また、プレゼンテーション、議論、レポートの作成を通じて、社会科学的なもの見方や、アカデミックスキルを養う。

**【到達目標】**

身近な教育問題を、学校経営、教育行政、教育制度、教育政策などの領域で用いられる概念や視点と関わりあわせながら理解し、説明できるようになること。

自らの問題関心を明確にし、言語化できるようにすること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

①共通の文献をもとに、担当者が作成したレポートに基づくプレゼンを行い、全員でディスカッションする。また、②自身の設定したテーマについてのミニ研究発表を行う。受講生は、①②について1回ずつは発表担当を担うものとする。

フィードバックは、各授業時間の中で行うことを基本とするが、授業以外の時間における個別の相談にも柔軟に応じることとする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	自己紹介や、各々の問題関心を交流する。授業の大まかな方針を共有する。
第2回	運営計画の策定	役割分担や、具体的な計画を、共同で策定する。
第3回	共通文献の検討①	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第4回	共通文献の検討②	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第5回	共通文献の検討③	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第6回	共通文献の検討④	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第7回	共通文献の検討⑤	共通文献について、担当者の報告を受け、全体での質疑応答を行う。
第8回	後半運営計画の策定 (見直し)	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第9回	ミニ研究報告①	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする

第10回	ミニ研究報告②	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第11回	ミニ研究報告③	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第12回	ミニ研究報告④	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第13回	ミニ研究報告⑤	参加者が設定したテーマに関するミニ研究の報告を行い、全体でディスカッションする
第14回	全体総括	授業全体の振り返りを行い、春休みの課題を共有する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

**【参考書】**

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

**【成績評価の方法と基準】**

2回の報告と、ディスカッションへの貢献を、それぞれ50%として評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

フィールドワークを共同で行えればと考えている。

**【その他の重要事項】**

自分がこだわりたい問題と出会い、しつこく調べ、いろいろな角度から解釈し、自分なりの言葉で論じられるようになることを目指す。演習の具体的な運営方法 (行事含む) については、学生と相談しながら共同で考えていきたい。各々がゼミ運営についての意見を持ち、誰かが感じるゼミの問題を皆の問題にできるような場にできればと考えている。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

Seminar on Educational policy, management, and administration

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

Students will develop their understanding on issues relating to education policy, management, and administration to prepare for the third and fourth year of study. Students will learn critical thinking and build academic skills through presentations, discussions and report writing.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**  
All students, not just the presenter, are required to read the literature in advance.

Students are expected to prepare for the presentation and revise their presentations based on feedback.

Students' study time will be more than two hours for a class

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】**

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Presentations: 50%, Contribution to discussion: 50%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアデザインに関連した先行研究の基本的な原理を学ぶ。また、口頭発表および自己調整的な学習習慣のスキルの獲得も目指す。

### 【到達目標】

- ・自ら研究を深めたいと思うようなテーマを探るために、関心事に関連した社会現象や政策・施策等について基本的な知識を得るための方法を知っている。
- ・上記で得た知識を総合的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

課題等の提出・フィードバックは「hoppii」を通じて行う予定である。

### 【集団で話し合うためのスキル】

- ・実演を通してワークショップの進め方を理解する。

### 【自らの研究テーマ】

自分が関心のある新聞記事を発表する。図書館の端末やスマートフォンを活用しながら「いかにして関心のあるテーマの最新ニュースを集めるのか」という方法についても学ぶ。この発表を参考にしながら、教員がそのゼミ生の関心事についての発表資料を決める。ゼミ生はそれぞれ自分の関心事に近いテーマの資料で発表し、それについてゼミ生間でディスカッションする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の流れを説明する。
第2回	集団で話し合うためのスキル (1)	ワークショップの進め方について理解する。
第3回	集団で話し合うためのスキル (2)	ワークショップを実演する。
第4回	写真を用いた自己紹介 (1)	自分らしいと思われる過去・現在・未来の写真を撮影して、まとめる。
第5回	写真を用いた自己紹介 (2)	上記を基にしてプレゼンテーションをする。
第6回	情報収集のスキル (1)	新聞記事の情報の集め方を身につける。
第7回	情報収集のスキル (2)	集めた新聞記事を発表する。自らの関心事を探る。
第8回	文献講読 (1)	自らの関心事にあわせて担当文献を決める。
第9回	文献講読 (2)	文献の内容を発表する。
第10回	文献講読 (3)	内容に基づいた疑問や論点を整理する。
第11回	文献講読 (4)	論点を基にしてディスカッションする。
第12回	文献講読 (5)	今までに発表した文献と文献のつながりについて考察する。
第13回	文献講読 (6)	上記の論点を整理し、ディスカッションする。
第14回	まとめ	演習での学びを振り返り、言語化する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献講読の回数は、受講者人数によって変更する可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

なし

### 【参考書】

田澤実 2016「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題50%にて評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

集団で話し合うためのスキルを学んだあとに、自らの研究テーマを探る流れは好評であった。今年度も継続することにする。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行う回がある。

### 【その他】

ホームページの参考のこと

### 【田澤実研究室】

<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/lab/>

### 【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the fundamentals of academic research to students enrolled in the program. Upon successful completion of the course, students will acquire the skills to:

Gain a comprehensive understanding of social phenomena, policies, and measures within their specific areas of interest. Communicate and articulate their acquired knowledge effectively.

Students are required to complete tasks assigned after each class session. A minimum commitment of four hours of study time per class is expected. Student assessment will be based on report submissions (50%) and in-class performance (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

田澤 実

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

生涯発達心理学や教育心理学の観点から「問い」を探求する。アカデミックライティング、心理学に基づいた引用表記および研究方法の基礎について学ぶ。

**【到達目標】**

- ・アメリカ心理学会 (American Psychological Association) 引用スタイル、アカデミックライティング、学術研究の基礎を身につける。
- ・キーワード検索を用いて、先行研究を探ることができる。
- ・Excelを使って数値データから視覚的に理解しやすい図表を作成できる。
- ・それらの図表から読み取れることを解釈し、他者に説明できる。
- ・問題と目的、方法、結果、考察という一連の論文の書き方を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

課題等の提出・フィードバックは「hoppii」を通じて行う予定である。演習および授業内での発表。

**■3年次**

- ・数グループに分かれて、調査を行う対象者を決定。
- ・その対象者には現在、どのような問題が起こっているのか先行研究を探す。
- ・グループごとに、その対象者にアンケートやインタビューを行い、分析。
- ・グループごとに最終レポートを作成。

**■4年次**

- ・各自テーマを深めて卒論に取り組む。
- ・自分でデータを収集することが必須である。必要に応じて統計分析の仕方も教える。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キックオフミーティング	到達目標を共有する。
第2回	卒論関心発表 (1)	卒論の関心に関連するキーワードを探る。
第3回	卒論関心発表 (2)	キーワード検索を用いて、先行研究を探した結果を報告する。
第4回	共同調査 (1)	共同研究で扱うテーマについて議論する。
第5回	共同調査 (2)	共同研究のテーマのキーワードを探る。
第6回	共同調査 (3)	キーワード検索を用いて、先行研究を探して、まとめる。
第7回	共同調査 (4)	共同研究で扱うデータを収集する。
第8回	共同調査 (5)	収集したデータを分析する。
第9回	共同調査 (6)	データを解釈して、どのような図表にまとめて表現するか考える。
第10回	共同調査 (7)	グループ内で結果の解釈について議論する。
第11回	共同調査 (8)	結果について本文で記述する。

第12回	共同調査 (9)	得られた結果と先行研究の対比をする。考察を深める。
第13回	共同調査 (10)	問題と目的、方法、結果、考察という一連の流れで書く。
第14回	卒論中間発表	予備調査の計画を含めて卒論の中間発表をする。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

年に数度の課題がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

文献の探し方@法政大学  
<http://www.i.hosei.ac.jp/~mtazawa/ref/>

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、課題50%にて評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度の評価をもとにして、4月の最初の授業で改めて意見を聞く。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室を利用する。

**【Outline (in English)】**

This course offers an in-depth understanding of the fundamental principles of academic research, tailored for students enrolled in the program. By the conclusion of this course, students will be equipped to:

Acquire knowledge of the basics of the American Psychological Association (APA) citation style, academic writing, and research methodologies.

Execute keyword searches for sourcing previous research studies.

Develop visually appealing charts and graphs from numerical data using Excel.

Interpret data presented in figures and tables and effectively communicate their findings.

Understand the structure involved in writing a series of academic papers, encompassing aspects such as the problem statement, purpose, methodology, results, and discussion.

Students are required to complete assignments after each class session. They should anticipate dedicating over four hours per class session to coursework. Assessment will be based on report submissions (50%) and class participation (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

田澤 実

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木6/Thu.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ゼミ論および卒業論文を完成させる。

### 【到達目標】

授業終了時に以下の能力を身につけていることを目標とする。

- ・重要な理論と方法論を説明できる
- ・重要な研究成果について、その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

課題等の提出・フィードバックは「hoppii」等を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期のスケジュール、課題、発表順などを確認する。
第2回	3年生関心発表 (1)	個人の関心事を発表する。
第3回	3年生関心発表 (2)	先行研究を探すためのキーワードを探る。
第4回	文献の探し方	キーワードから先行研究を探す技法を紹介する。
第5回	4年生中間発表 (1)	卒業論文の中間発表を行う。
第6回	4年生中間発表 (2)	予備調査の結果について考察を加える。
第7回	4年生中間発表 (3)	本調査を視野に入れて全体の構成を検討する。
第8回	3年生中間発表 (1)	なぜそのテーマを扱う意義があるのか。イントロダクションに該当する文言を考える。
第9回	3年生中間発表 (2)	そのテーマはどこまでのことが明らかになっているのか概観する。
第10回	3年生中間発表 (3)	先行研究の問題点およびまだ明らかになっていない点を探る。
第11回	3年生中間発表 (4)	上記の問題点に対して代案を示す。文献レビューのオリジナリティーを探る。
第12回	3年生中間発表 (5)	上記までの流れを精緻化する。およその章立てを確定する。
第13回	図表のまとめ方	視覚的に理解しやすい図表の作成方法を紹介する。
第14回	4年生卒論発表	卒論の要旨を報告する。質疑応答を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読み込む作業や調査の実施。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

なし

### 【参考書】

田澤実 2016 「図書館情報とスマートフォンを併用した文献の探し方」『法政大学キャリアデザイン学部紀要』13, p227-251.

### 【成績評価の方法と基準】

課題 (5割)、平常点 (5割) にて評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

計画上は現状維持とした。ゼミの進行については必要に応じて話し合いの時間を設ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を利用する。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will develop the proficiency required for writing academic reports, as demonstrated through the senior thesis project. By the conclusion of this course, students will be able to:

Clearly explain and describe the primary methods and theories relevant to their field of study.

Critically assess various studies, focusing on their methodologies, results, conclusions, and overall impact.

Students are obligated to submit assignments following each class session. They are also expected to allocate over four hours for study and coursework preparation per class. Evaluation of students' performance will be based on a combination of report submissions (50%) and active class participation (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文完成をゴールに、＜学術論文7つの構成要素＞という基本中の基本である作法をマスターしたうえで、現時点での卒論構想（プロポーザル）を書いてみる。

### 【到達目標】

世の中にはさまざまなタイプ・レベルの論文がある。その良しあしを見抜く眼力を磨くこと。論文の名に値する論文には、この7つが入っている——それが＜学術論文7つの構成要素＞だ。そのうえで、自分でも卒論構想を書いてみて、自分は何にパッションがあるのか、本当に研究したいことは何か、これからどんな本を読み、何を対象にしたらいのか——などなど悩みぬくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ生の問題関心（入ゼミ時の志望理由書に書かれたこと）に基づき、筒井が書籍や論文をピックアップし、毎回みんなで検討する。報告者は毎回1名だが、全員が要約とコメントを書いてくること。議論はゼミ生に「お任せ」、筒井は最後に20分程度解説するのみ。全員のレジュメにコメントを入れて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方、ミニ・レクチャー ＜学術論文7つの構成要素＞
2	聴き取り・観察調査 の論文を検討する①	要約方法の解説を中心とする
3	聴き取り・観察調査 の論文を検討する②	議論を中心とする
4	聴き取り・観察調査 の論文を検討する③	社会学的諸概念を理解する
5	聴き取り・観察調査 の論文を検討する④	調査方法と知見の関係を理解する
6	既存統計データの加工と分析（ミニレクチャー）	政府統計の活用法を習得する
7	既存統計データの加工と分析（発表）	各自のテーマに沿って分析した結果を報告する
8	ブレイディみかこ (2022) その①	ボランティア活動、企業の社会的責任、NPO
9	ブレイディみかこ (2022) その②	緊縮財政
10	ブレイディみかこ (2022) その③	フェミニズム、ジェンダー
11	ブレイディみかこ (2022) その④	社会運動、住民運動、労働運動
12	ブレイディみかこ (2022) その⑤	教育、学校
13	卒論構想発表のペーパー準備	次回本番に向けてペーパーの検討
14	卒論構想発表	複数人報告、質疑応答

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回議論する文献について、要約とコメントを書いてくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

ブレイディみかこ (2022) 『ヨーロッパ・コーリング・リターンズ』岩波現代文庫。ほか、入ゼミ生の関心に合わせて選択します。

### 【参考書】

適時指示。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回提出の課題：50% ゼミでの議論：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回レジュメの前日までの掲示板提出が好評なので続けます。

### 【その他の重要事項】

5・6限全体が「筒井ゼミ」なので、2年生は両方出席のこと

### 【Outline (in English)】

In order to write a sociological graduation thesis, the students are to master the < the seven components of academic paper >, the basic skill, and then to write a provisional proposal for it. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and write some comments. Study time will be averagely two hours for a class. Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」  
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？——などなど、つつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法(≒大学の学び)を身体にし込みませ、上記5領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと(それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く)が、この演習のゴールである。

**【到達目標】**

筒井ゼミでは2年間かけて卒業論文を完成してゆく。3年生春学期では、その土台部分を固める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

対面実施。

前年度秋学期・春休みの進捗を踏まえて、卒論研究の進捗を報告する。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士の議論ののち、最後に教員からフィードバックを行なう。発表レジュメに対するコメントを学習支援システム上にて返却する。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春休みの進捗報告①	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
2	春休みの進捗報告②	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
3	春休みの進捗報告③	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
4	春休みの進捗報告④	順番に、読んだ文献やデータ分析について紹介する
5	卒論構想発表①	<学術論文7つの構成要素>の(1)～(5)に沿ったレジュメにて報告し議論する
6	卒論構想発表②	<学術論文7つの構成要素>の(1)～(5)に沿ったレジュメにて報告し議論する
7	卒論構想発表③	<学術論文7つの構成要素>の(1)～(5)に沿ったレジュメにて報告し議論する
8	卒論構想発表④	<学術論文7つの構成要素>の(1)～(5)に沿ったレジュメにて報告し議論する
9	卒論進捗報告①	順番に、進んだところまでを報告し議論する
10	卒論進捗報告②	順番に、進んだところまでを報告し議論する

11	卒論進捗報告③	順番に、進んだところまでを報告し議論する
12	卒論進捗報告④	順番に、進んだところまでを報告し議論する
13	卒論進捗報告⑤	順番に、進んだところまでを報告し議論する
14	卒論進捗報告⑥	順番に、進んだところまでを報告し議論する

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

卒論研究に必要なすべてのことを行なう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

各自の卒論研究に応じて、各自が決定する(“選球眼”を養う！)。

**【参考書】**

適宜助言

**【成績評価の方法と基準】**

発表(レジュメ)の出来具合50%、ディスカッション(仲間に対する知的貢献)50%

**【学生の意見等からの気づき】**

学習支援システムへの、発表レジュメへのコメントの掲載、続けます。

**【Outline (in English)】**

Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy

Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? — In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work! Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents and/or read those of others. Study time will be averagely two hours for a class. Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

テーマ：「教育・生活・文化・労働・政策」  
なぜ、何らかの社会問題が生じると、人びとは何かと教育に期待する／解決を求めるのだろうか？ 教育はそんなに万能だろうか？「働くことはいいことだ」「働くことで人間は成長する」、その根拠は？「地方分権の方が住民の目が届くから、より良い政策が展開できる」、本当だろうか？——などなど、ついつい私たちが自明視していることへ疑いの目を向けること。では本当はどうなのか？をとことん調査し文献を紐解き、集めた資料・データに基づいて分かりやすく論理的な文章にすること。このような、研究・学術論文の作法(≒大学の学び)を身体にしみ込ませ、上記5領域の少なくともいずれか1つに関わる、あなたが好きなテーマをやり抜くこと(それによって身につく総合力は、どこへ行っても応用が効く)が、この演習のゴールである。

**【到達目標】**

筒井ゼミでは2年間かけて卒業論文を完成してゆく。3年生秋学期では、各自がより一層具体的に研究を進めてゆく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

夏休みの進捗を踏まえて、引き続きどんどん進める。先行研究の検討や質問紙項目案、インタビュー項目案など、適宜進捗報告をする。学生同士で議論したあと、教員が最後にフィードバックする。発表レジュメへのコメントを学習支援システムにて返却する。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
あり/Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夏休みの進捗報告①	順番に、行なった作業について報告し議論する
2	夏休みの進捗報告②	順番に、行なった作業について報告し議論する
3	夏休みの進捗報告③	順番に、行なった作業について報告し議論する
4	夏休みの進捗報告④	順番に、行なった作業について報告し議論する
5	卒論進捗報告①	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
6	卒論進捗報告②	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
7	卒論進捗報告③	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
8	卒論進捗報告④	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
9	卒論進捗報告⑤	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
10	卒論進捗報告⑥	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
11	卒論進捗報告⑦	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
12	卒論進捗報告⑧	前回報告時以降の進捗について報告す議論する
13	卒論進捗報告⑨	前回報告時以降の進捗について報告す議論する

14 卒論進捗報告⑩ 前回報告時以降の進捗について報告す議論する

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**  
卒論研究に必要なすべてのことを行なう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**  
各自の卒論研究に応じて、各自が決定する(“選球眼”を養う!)

**【参考書】**  
適宜助言

**【成績評価の方法と基準】**  
発表(レジュメ)の出来具合50%、ディスカッション(仲間に対する知的貢献)50%

**【学生の意見等からの気づき】**  
卒論執筆者には、11月中旬ごろから卒論草稿へのフィードバック(コメント)を行ないます。

**【Outline (in English)】**  
Theme: Education, Life, Culture, Labour and Policy  
Why are people likely to expect education to solve the social problems when they have happened? Is education so almighty? "Working makes a person develop." On what ground do you think so? "Decentralization can implement better policies because the distance to the residents is shorter." Is it true? — In this class we are to deconstruct what we usually take it for granted, to do the research, analyze data and write a logical and relevant paper. Devote yourself to this both hard and joyful work! Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents and/or read those of others. Study time will be averagely two hours for a class. Grading will be based on the quality of the presentation (50%) and discussion (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

興味関心のあるテーマを見つけるために、社会認識をつくるための力を身につけます。スキルとしては、文献の探し方、データの読み方、情報のまとめ方、プレゼンの仕方といったことを身につけます。勉強ができる、成績が良い、頭がいい、いい人、地頭がよい、先生からの評価が高いなど、学校や社会でよいパフォーマンスを示す人を指すことばはたくさんあります。自分はいったいどういうふうになりたいのか、興味関心のあるテーマを探しながら、かつアカデミック・スキルを身につけながら、自分自身の社会への位置づき方を考えていきましょう。

**【到達目標】**

世の中の出来事が自分とどのようにつながっているのかが実感できるようになること、自分の身の回りの出来事や、ある学説や理論に則って、専門用語を使いながら説明しようと試みるようになることを目標とします。  
人に説得的に自分の意見を説明できる、人の発表に対して建設的な意見を言える、質の良いディスカッションができるようにファシリテイトするといった技術についても学びます。人の能力の発揮の仕方にはいろいろなタイプがありますので、いろいろな活動を体験して、自分がどんなことが得意なのか、自分のつよみを理解してください。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

論文講読、ワークショップをもとに、ディスカッション形式で行います。  
あらかじめ与えられたテーマや課題について取り組む力よりも、自分自身でテーマを設定し、課題を発見して取り組む力を重視します。そのためのサポートをします。課題に対するフィードバックは授業内で行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	アイスブレイキング。 ゼミの進め方。 ゼミでのルールの確認。
第2回	プレゼンテーションの種類と方法	レジュメをつくる、パワポをつくる、ポスターをつくる、論文を書くといった方法について、それぞれの特性と作法を学ぶ。
第3回	文献を読む-学力論①	学歴をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第4回	文献を読む-学力論②	学力や階層格差をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第5回	ディスカッション	学力論の2本の論文を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第6回	文献を読む-ジェンダー①	ジェンダーとはなにかについて、最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。

第7回	文献を読む-ジェンダー②	差別とジェンダーについて扱った文献を読み、知識と語彙を増やす。
第8回	ディスカッション	ジェンダーに関する2つの文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第9回	文献を読む-家族①	家族と子供の教育をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第10回	文献を読む-家族②	近代家族をめぐる最先端の文献を読み、知識と語彙を増やす。
第11回	ディスカッション	文献を読んで増えた語彙をつかって、自らの経験や問題意識をとらえなおす。
第12回	自らの問題関心を明確にする	これから考えたいことを人に説明する。
第13回	文献リストをつくる	情報を収集して、自らのテーマに基づく文献リストをつくる。その方法を学ぶ。
第14回	まとめ	情報を収集し、知識や語彙を増やしていく方法について、具体的に学ぶ。 課題レポートを作成する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

指定された文献の講読、プレゼンの準備を必ず行うこと。自らのテーマについて考えるためにも、ニュースを見る、映画を見る、本や漫画を読む、旅行に行く、コンサートに行く、筋トレするなど、積極的な活動を行って、経験の幅をひろげること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

プレゼンテーションの出来30%、提出物50%、授業への貢献20%。

**【学生の意見等からの気づき】**

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムをチェックできる機器を自分で用意すること。

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline (in English)】**

Course Outline: It is a small seminar that learns about education, social strata, and gender issues.

Learning Objectives: To be able to explain your opinions persuasively to others, to give constructive opinions on others' presentations, and to facilitate good quality discussions

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: 30% for presentation, 50% for work submitted, and 20% for contribution to the class.



EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

興味関心のあるテーマに基づき、質的、量的いずれかの調査を実施し、関連文献を講読し、卒業論文執筆を進めます。

### 【到達目標】

自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果を学習支援システムの課題提出機能を用いて提出します。授業内で提出物に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。
第2回	方法論を学ぶ①	問いをたてるということについて学ぶ。
第3回	方法論を学ぶ②	仮説をたて、調査計画を練る方法について学ぶ。
第4回	方法論を学ぶ③	フィールドワークについて学ぶ。
第5回	テーマの検討①	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第6回	文献を読む①	学校観察をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第7回	文献を読む②	インタビューをもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第8回	文献を読む③	雑誌分析をもとにした文献を読み、これまでの方法論の学習を振り返る。
第9回	テーマの検討②	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第10回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第11回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第12回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第13回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第14回	まとめ	ディスカッションを行い、最終レポート執筆作業をすすめる。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

とくになし

### 【参考書】

大谷信介ほか2013『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房  
石川淳志ほか1998『見えないものを見る力』八千代出版  
佐藤郁哉2002『フィールドワークの技法』新曜社

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の発言30%、読書ノート10%、レポート60%

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切にして授業運営をすすめる。

### 【Outline (in English)】

Course Outline: It is a small seminar dealing with issues of education, social class, gender. We may conduct qualitative surveys or quantitative surveys.

Learning Objectives: Students will acquire the ability to summarize their own ideas theoretically and persuasively, develop a view of society, and connect their ideas to learning and action.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: In-class remarks: 30%, reading notes: 10%, report: 60%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

興味関心のあるテーマに基づき、文献講読および卒業論文執筆を進めます。

また、それとは別に、社会の出来事と大学の学びとを結びつける活動として、合宿や学外のセミナー、シンポジウムなどの機会を積極的に利用します。

### 【到達目標】

自らの考えを理論的、説得的にまとめる力、社会の見かたを養い、学習や行動につなげていく力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

方法論についてまとめたテキスト、論文をいくつか読みます。その後は各人の関心に基づいて文献を収集、整理し、その成果をゼミで発表します。その場で内容について議論を行います。フィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、分担決め、指定文献の配布等。 夏休み中の課題の回収、講評。 合宿の振り返り。
第2回	合宿報告	合宿の活動成果について報告し、レポートの執筆分担などを決める。
第3回	個人研究発表①	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第4回	個人研究発表②	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第5回	個人研究発表③	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第6回	文献を読む①教育領域	最新の学会誌から論文を1つ選び、精読する。
第7回	文献を読む②心理領域	最新の学会誌から論文を1つ選び、精読する。
第8回	文献を読む③その他の領域	最新の学会誌から論文を1つ選び、精読する。
第9回	個人研究発表④	各自の現在のテーマ設定、作業の進捗状況について報告する。
第10回	個人研究発表⑤	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第11回	個人研究発表⑥	各自のテーマに基づき文献を収集し、整理して発表する。
第12回	振り返り	ここまでの作業を振り返り、今後の課題を明確化し、レポート執筆への意欲を高める。
第13回	レポート執筆準備	最終レポート提出にむけ、ディスカッションを行い、執筆作業をすすめる。
第14回	まとめ	卒論構想発表に向けて、プレゼンの練習をする。 最終レポートを提出する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献収集、整理、語句調べなどを各自で行うこと。また、レジュメ作成、レポート執筆を課す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

とくになし

### 【参考書】

とくになし

### 【成績評価の方法と基準】

授業中の発言、発表、レジュメの出来 30%、読書ノート 10%、レポート 60%

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

### 【学生が準備すべき機器他】

参加者からのフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

### 【Outline (in English)】

Course Outline: It is a seminar that discusses social issues such as education, social stratum, gender, etc.

Learning Objectives: Develop the ability to summarize one's own ideas theoretically and persuasively, develop a social perspective, and connect it to learning and action.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: In-class remarks, presentations, resume work 30%, reading notes 10%, report 60%.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 演習 (発達・教育)

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

### 【到達目標】

学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討議を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第2回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める 討議を行う
第3回	グループ研究発表1	グループで与えられた課題について発表し討議を行う
第4回	グループ研究発表2	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討議を行う
第5回	個人研究発表1	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生①
第6回	個人研究発表2	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生②
第7回	個人研究発表3	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生③
第8回	個人研究発表4	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生④
第9回	個人研究発表5	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑤
第10回	個人研究発表6	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑥
第11回	個人研究発表7	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑦
第12回	個人研究発表8	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑧
第13回	個人研究発表9	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑨
第14回	個人研究発表10	個人研究発表を行い討議を行う ゼミ生⑩

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業内で紹介する

### 【参考書】

私とは何か 「個人」から「分人」へ (平野啓一郎) 講談社現代新書  
 <ほんとうの自分>のつくり方 自己物語の心理学 (榎本博明) 講談社現代新書  
 アニメに学ぶ心理学 『千と千尋の神隠し』を読む (愛甲修子) 言視舎  
 生きる意味 (上田紀行) 岩波新書  
 認められたいの正体 (山竹伸二) 講談社現代新書  
 愛着障害 子ども時代を引きずる人びと (岡田尊司) 光文社新書  
 母という病 (岡田尊司) ポプラ新書  
 発想法 川喜田二郎 中公新書

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (個人研究発表、ゼミへの積極的参画度 50%)  
 発表 30%  
 期末レポート 20%

### 【学生の意見等からの気づき】

SNSやYOUTUBEなども取り入れた活動にしていく

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインで行う際に可能な環境と端末

### 【その他の重要事項】

主体性、自主性を重視する

### 【Outline (in English)】

You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research. In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.  
 ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.  
 ・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.  
 ・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

**【到達目標】**

学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第2回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める 討論を行う
第3回	グループ研究発表1	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第4回	グループ研究発表2	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第5回	個人研究発表1	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生①
第6回	個人研究発表2	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生②
第7回	個人研究発表3	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生③
第8回	個人研究発表4	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生④
第9回	個人研究発表5	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑤
第10回	個人研究発表6	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑥
第11回	個人研究発表7	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑦
第12回	個人研究発表8	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑧
第13回	個人研究発表9	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑨
第14回	個人研究発表10	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑩

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業内で紹介する

**【参考書】**

私とは何か 「個人」から「分人」へ (平野啓一郎) 講談社現代新書  
 <ほんとうの自分>のつくり方 自己物語の心理学 (榎本博明) 講談社現代新書  
 アニメに学ぶ心理学 『千と千尋の神隠し』を読む (愛甲修子) 言視舎  
 生きる意味 (上田紀行) 岩波新書  
 認められたいの正体 (山竹伸二) 講談社現代新書  
 愛着障害 子ども時代を引きずる人びと (岡田尊司) 光文社新書  
 母という病 (岡田尊司) ポプラ新書  
 発想法 川喜田二郎 中公新書

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (個人研究発表、ゼミへの積極的参画度 50%)  
 発表 30%  
 期末レポート 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

SNSやYOUTUBEなども取り入れた活動にしていく

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで行う際に可能な環境と端末

**【その他の重要事項】**

主体性、自主性を重視する

**【Outline (in English)】**

You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research. In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.  
 ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.  
 ・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.  
 ・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**演習 (発達・教育)**

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
 曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

ゼミ生は個人個人が最も研究したいテーマを選択し、自ら情報集を行い、情報を整理し、独自の情報を再構築し、研究をまとめ発表することを目的とする。その過程において、情報収集の力、整理まとめる力、分析する力、自分の頭で考える力、そして、ゼミで皆の前で発表するプレゼンテーションの力を涵養することをゼミの目的とする。

**【到達目標】**

学生は研究発表により、自己の研究内容をまとめ、発表し、ゼミ生、教員との討議からさらに研究を深める。研究過程とその発表結果、評価により、研究に対する興味関心をさらに強化し、学ぶ意欲をさらに動機づけられ、自己効力感を得ることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

授業での発表の際に必要なフィードバックを行う。個々に研究テーマを決め、研究を個々に実施し、ゼミの中で発表を行う。また、そのテーマに関して、ゼミで討論を行い、テーマをさらに深める。互いに自己の意見を発表し、交換し合うことにより、多角的に物事を考え、見る目を養う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミのオリエンテーション	概要の説明
第2回	相互理解を深める	ゼミ生同士で相互理解を深める 討論を行う
第3回	グループ研究発表1	グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第4回	グループ研究発表2	前回の討議を踏まえて再度グループで与えられた課題について発表し討論を行う
第5回	個人研究発表1	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生①
第6回	個人研究発表2	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生②
第7回	個人研究発表3	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生③
第8回	個人研究発表4	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生④
第9回	個人研究発表5	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑤
第10回	個人研究発表6	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑥
第11回	個人研究発表7	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑦
第12回	個人研究発表8	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑧
第13回	個人研究発表9	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑨
第14回	個人研究発表10	個人研究発表を行い討論を行う ゼミ生⑩

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

自己の研究発表のための情報収集、学習を行い、発表の資料を作成する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業内で紹介する

**【参考書】**

私とは何か 「個人」から「分人」へ (平野啓一郎) 講談社現代新書  
 <ほんとうの自分>のつくり方 自己物語の心理学 (榎本博明) 講談社現代新書  
 アニメに学ぶ心理学 『千と千尋の神隠し』を読む (愛甲修子) 言視舎  
 生きる意味 (上田紀行) 岩波新書  
 認められたいの正体 (山竹伸二) 講談社現代新書  
 愛着障害 子ども時代を引きずる人びと (岡田尊司) 光文社新書  
 母という病 (岡田尊司) ポプラ新書  
 発想法 川喜田二郎 中公新書

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (個人研究発表、ゼミへの積極的参画度 50%)  
 発表 30%  
 期末レポート 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

SNSやYOUTUBEなども取り入れた活動にしていく

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで行う際に可能な環境と端末

**【その他の重要事項】**

主体性、自主性を重視する

**【Outline (in English)】**

You can select the theme that you wants to study most. Do information collections yourself, organize information, rebuild your own information, and make presentation your research. In the process, the purpose of seminars is to gain the power of information gathering, organizing, analyzing, thinking with one's own mind, and making presentations at seminars.  
 ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.  
 ・ Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.  
 ・ Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ (=キャリア選択と形成) の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

### 【到達目標】

人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。

- ①テーマに関わる基礎知識を習得する。
- ②文献の批判的読解力を獲得する。
- ③①と②を通じて、課題設定→情報収集→情報分析+まとめ、といった3~4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解→レジュメ作成→報告+討論、③まとめ (自分なりの要約とコメント) の作成と発表という形で展開されます。

・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

なお、授業形式について、対面授業を想定しています。大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
2	テーマに関する文献の収集と読み込み (1)	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
3	テーマに関する文献の収集と読み込み (2)	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
4	テーマに関する文献の収集と読み込み (3)	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
5	テーマに関する文献の収集と読み込み (4)	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
6	テーマに関する文献の収集と読み込み (5)	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に

7	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (1)	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
8	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (2)	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
9	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (3)	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
10	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (4)	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
11	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (5)	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
12	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
13	クリティカル・リーディング・レポートの報告 (1)	報告に基づくプレゼンと討論 (1)
14	クリティカル・リーディング・レポートの報告 (2)	報告に基づくプレゼンと討論 (2)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

### 【参考書】

- 佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣
- 佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂
- 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣
- 佐藤 厚『ホワイカラーの世界』日本労働研究機構
- 『日本労働研究雑誌』のバックナンバー
- 『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。

演習への出席と取り組み姿勢50%。演習の課題レポート50%です。

通常の対面授業を想定して行います。大学の方針によりオンラインに変更の場合の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

### 【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回担当者は担当箇所につきレジュメを作成し、報告すること。

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and knowledge.

This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.

You can get knowledge and skill about these theme through this class.

**【Learning Objectives】**

We will read the basic literature on human resource development and career development, and aim to acquire the following.

- ① Acquire basic knowledge related to the theme.
- (2) Acquire critical reading comprehension of documents.
- (3) Through (1) and (2), aim to form the basic abilities necessary for learning in 3-4 year exercises such as task setting → information gathering → information analysis + summary.

**【Learning activities outside of classroom】**

- ・ Please be proactive in collecting literature, preparing reports, and creating critical reading reports outside of class.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

Evaluate your participation and reporting in the exercises and the creation of critical reading reports.

Attendance at the exercise and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

It will be conducted assuming a normal face-to-face class. Specific methods and criteria for changing online due to university policy will be presented in the learning support system on the day of class start.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木6/Thu.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では「人事管理とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ (=キャリア選択と形成) の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

### 【到達目標】

春学期をベースにグループテーマを設定し、仮説→調査→検証のPDCAサイクルを主体的に回す力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期で編成したグループをベースに、サブテーマを設定し、論点の整理、資料の収集及びフィールドワークを行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

なお、授業形式について、対面授業を想定しています。大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	各班ごとに合宿までの総括と秋学期の進め方の確認を行う
2	文献研究 (和文)	グループ研究(各班)：主に和文の文献レビューと問題意識の整理を行う
3	文献研究 (欧米)	グループ研究(各班)：主に欧米の文献レビューと問題意識の整理を行う
4	ゲストスピーカーヒアリング (ゼミのOB)	ゼミのOBをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
5	ヒアリング調査の質問表の企画	グループ研究(各班)のうち、訪問ヒアリングの質問紙の検討を行う
6	ヒアリング調査の仮説の検討	グループ研究(各班)のうち、訪問ヒアリングの質問紙及び仮説の検討を行う

7	ゲストスピーカーヒアリング (ゼミのOG)	ゼミのOGをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
8	グループ研究の骨子のまとめ	グループ研究(各班)のうち、グループ研究のまとめ方の骨子の検討とレポートの作成を行う
9	グループ研究の内容のまとめ	グループ研究(各班)のうち、グループ研究のまとめ方の内容の検討とレポートの作成を行う
10	ゲストスピーカーヒアリング (大学院のOB)	大学院のOBをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
11	グループ研究の個人まとめの報告	グループ研究：レポートのまとめの報告 個人まとめを行う
12	グループ研究全体のまとめの報告と討論	グループ研究：レポートのまとめの報告 班ごとのまとめを行う
13	ゲストスピーカーヒアリング (大学院のOG)	ゼミのOGをゲストとして招待し、自身のこれまでのキャリア、今の勤務先の仕事を聞く。あわせてグループ研究の問題意識について聞いてもらうことを通じて当初の問題意識をより明確化する
14	グループ研究まとめの報告と討論及び振り返り	グループ研究：レポートのまとめの報告 ゼミ全体のまとめを行う 振り返りを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・通常の演習とは別にサブゼミを班ごとに行い、文献レビューやヒアリング調査の準備をする必要があります。

・また企業への訪問とヒアリングの実施も通常の演習とは別に行う必要があります。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣

佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣

佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構

佐藤 厚『組織のなかで人を育てるー企業内人材育成とキャリア形成の方法』有斐閣

### 【成績評価の方法と基準】

演習への出席と取り組み姿勢50%。演習の課題レポート50%です。

通常の対面授業を想定して行います。なお、大学の方針によりオンライン授業になった場合は具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

### 【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

### 【学生が準備すべき機器他】

担当者はレジメを作成し、報告すること。

### 【その他の重要事項】

特になし



**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and kowledge.

This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.

You can get kowledge and skill about these theme through this class.

**【Learning Objectives】**

Group themes will be set based on the spring semester, and the ability to independently run the PDCA cycle of hypothesis → research → verification will be cultivated.

**【Learning activities outside of classroom】**

- ・ In addition to regular exercises, it is necessary to hold sub-seminars for each group to prepare for literature reviews and hearing surveys.
- ・ It is also necessary to visit the company and conduct hearings separately from the usual exercises.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

Attendance at exercises and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

It is supposed to be a regular face-to-face class. In addition, if the online class is conducted according to the university policy, the specific method and criteria will be presented on the learning support system on the day the class starts.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**演習 (ビジネス)**

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、文献やデータに基づく多角的な理解を目指します。働く者の側の事情、働かせる側の事情、さらにその両者のあり方に影響を与える労働市場や法制度のあり方を視野に入れながらテーマの考察を深めていきます。

**【到達目標】**

テーマに関わる基礎知識を習得する。  
文献を読み、情報収集を行う中で、論点を把握することができる。  
論点をめぐる考察を深め、その結果を適切に発表・論述できる。  
論点をめぐって受講生同士で考察を深め合うことができる。  
みずからが探求したい「問い」を見つけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

2年次秋学期は、文献を読み込み、論点を明らかにしていくこと、その論点についてディスカッションを行う中でみずからの「問い」を形成していくこと、書式に従った論文を書くこと、データや文献を収集することなど、3年次にゼミ論を書くための準備をする期間と位置づけます。

課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。取り上げるテーマは参加者の関心に応じて変更があります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	参加者の問題意識の共有、ゼミの進め方の検討
第2回	テーマをめぐるディスカッション	テーマをめぐるディスカッションに慣れる
第3回	労働時間と生活時間をめぐる文献Aの検討	文献Aに関するレジユメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第4回	労働時間と生活時間をめぐる文献Bの検討	文献Bに関するレジユメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第5回	労働時間と生活時間をめぐる論点の整理	労働時間と生活時間をめぐる論点の整理と発表
第6回	労働時間と生活時間をめぐる論点の考察	労働時間と生活時間をめぐる論点の考察とディスカッション
第7回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる文献Cの検討	文献Cに関するレジユメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第8回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる文献Dの検討	文献Dに関するレジユメの作成と内容の理解。論点をめぐるディスカッション
第9回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の整理	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の整理と発表
第10回	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の考察	キャリア形成と企業の労務管理をめぐる論点の考察とディスカッション
第11回	データの読解	データの読解と検討

- 第12回 関連文献・データの 文献・データの所在と収集方法  
収集方法
- 第13回 関連文献・データの 文献・データの収集と発表  
収集
- 第14回 「問い」の明確化 各自の「問い」の発表と明確化

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

文献の読解、レジユメの作成、レポートの執筆、プレゼンの準備、文献の収集など、入念な準備を求める。  
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めない。

**【参考書】**

・木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫  
ゼミで取り上げる文献については、授業内で随時指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

ゼミへの主体的な参加 (レジユメの作成と発表、ディスカッションへの参加等) : 60%  
レポート : 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

一人一人の力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

The course will focus on various issues related to work, according to each student's interest. Students are expected to have a multifaceted understanding based on literature and data.

**【Learning Objectives】**

At the end of this course, students are expected to acquire basic knowledge on the subject and improve important skills for independent research.

**【Learning activities outside of classroom】**

Careful preparation is required, including reading the assigned literature, writing resumes and reports, preparing presentations, and collecting literature.

Your study time will be more than four hours for a class.

**【Grading Criteria/Policies】**

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and reports (40%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域を対象として、社会調査の実践的な学習を進めていきます。まず、地域データ分析やインタビューの理論や方法を学びます。その後、実際に地域調査を実施する中で、調査のスキルを身に付けることを目指します。また、同時に地域経済や地域活性化政策について文献を読みながら議論をし、現代における地域経済について学びます。

### 【到達目標】

2年生秋学期の授業なので、3年次以降の演習に繋がるように調査スキルの学習を第一に考えます。一人で地域経済の官庁統計を理解し、分析できること。さらに、人物にアポイントメントをとり、インタビュー調査を実施できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門」(朝倉書店)や岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊ー市民のための地域調査入門」(自治体研究社)の数章を基礎に調査法を学び、実際に地域調査を行います。調査対象地域に関しては、学生と一緒に相談しながら決めたいと思いますが、繰り返し調査地域を訪れるので、大学から近い地域になります。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゼミの運営方針の説明。班分けなど。	ゼミの運営方針を説明し、お互いの自己紹介を行います。
第2回	地域の官庁統計の説明。	地域統計を解説。
第3回	統計情報の分析 (1)	実際の官庁統計を分析してみる。
第4回	統計情報の分析 (2)	前回講義に引き続き、官庁統計を分析してみる。
第5回	統計分析の実習	ある地域を決めて、統計分析を実際に行う。
第6回	報告会	統計分析のレポート報告会
第7回	地域資料の利用方法 (地図、行政資料、歴史資料)	地域の文献資料の探し方を解説。
第8回	地域図書館・資料館の訪問。	実際に地域の図書館・資料館を訪問する。
第9回	インタビュー調査方法の説明	インタビュー調査方法について、解説。
第10回	インタビュー調査の企画会議	インタビュー調査の計画を練る。
第11回	地域まちあるき	外に出て、調査対象を探す。
第12回	インタビュー調査実習①	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第13回	インタビュー調査実習②	インタビューを実施。その経験を振り返る。
第14回	報告会	インタビュー調査のレポート報告会。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

地域調査を軸とした演習運営なので、授業時間外に調査の時間を確保してもらいます。実際は、班分けをして調査を行いますので、学生の自主性が重んじられます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

西村幸夫・野澤康「まちの見方・調べ方ー地域づくりのための調査法入門」(朝倉書店)

### 【参考書】

岡田知弘・品田茂「行け行け！ わがまち調査隊ー市民のための地域調査入門」(自治体研究社)

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度(50%) + 報告内容 (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

地理的情報など、基礎的な地域情報を適宜抗議していく。授業の中で皆さんの意見を取り入れてより良いものにしていければと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンやicレコーダーを使用します。

### 【Outline (in English)】

The main objects of this course are to get method of social research and conduct research about local economy or community by yourself. To achieve this goal, this course is to study how to use official statistics, conduct literature searching, interview somebody and carry out an observation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

### 【到達目標】

身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

3年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4年生はプロジェクトの完成と卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方を話し合う。班分けなどを決める。
2	調査法解説	これまでの調査経験を振り返り、新たに身に付けるべき調査法について検討。
3	論文・レポートの書き方	論文・レポートの書き方を解説。
4	論文・レポートの発表の仕方	論文・レポートの発表の仕方を解説。
5	地域経済学 (文献) を読む。	地域経済学に関する文献を読み、議論する。
6	オーラルヒストリー (文献) を読む	オーラルヒストリーに関する文献を読み、議論する。
7	まちづくり (文献) を読む。	まちづくりに関する文献を読み、議論する。
8	調査企画報告①	約5名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
9	調査企画報告②	約5名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
10	調査企画報告③	約5名が調査企画を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
11	調査経過報告①	約5名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
12	調査経過報告②	約5名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。

- 13 調査経過報告③ 約5名が調査経過を報告。調査企画について教員、学生からのコメントを受ける。
- 14 夏休み合宿準備 合宿先での調査を全員で議論。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

### 【参考書】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度50%、レポート・論文の報告内容50%

### 【学生の意見等からの気づき】

卒業論文に関しては、長文を書くのに苦勞をするので、春学期の段階から論文の書き方を講義していく。

### 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

調査を通じた地域研究・地域マネジメントが授業のテーマである。具体的な調査実習を通して地域活動について考えてもらう。梅崎演習では、調査報告だけでなく、各地域での地域連携プロジェクトも実施してきた。プロジェクトの企画運営を通じて、地域マネジメントの課題解決について議論する。

### 【到達目標】

春学期に引き続き、身に付けた調査スキルを使って実際の調査を企画、実施、論文・レポートにまとめる。秋学期は、レポートや論文の完成を目指す。地域が抱える課題を調査で浮き彫りにし、その上で地域活性化やまちづくりに対する具体的な提案ができるようになる。地域との連携プロジェクトでは、プロジェクトの企画力、チーム運営力などを身に付けてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

3年生は、班ごとの地域調査レポートの作成と地域プロジェクト運営、4年生は卒業論文の作成を第一に考える。春学期の授業では、調査の企画、開始までを指導を受けながら少しずつ進める。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夏休み合宿の振り返り	夏休み合宿の振り返り、議論をする。
2	文章力向上のための講義	長文を論理的に書くためのノウハウを講義する。
3	プレゼンテーション向上のための講義	プレゼンテーションを時間内にわかりやすく行うためのノウハウを講義する。
4	文献購読 (アクションリサーチ)	地域連携プロジェクトを最終的な課題提案につなげるために、アクションリサーチの文献を読む。
5	文献購読 (地域政策)	地域政策の論文を輪読し、議論する。
6	レポート・論文の中間報告①	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
7	レポート・論文の中間報告②	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
8	レポート・論文の中間報告③	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
9	レポート・論文の中間報告④	約5名がレポート・論文の経過を報告。教員、学生からのコメントを受ける。
10	ゲスト講師の講義	地域活性化に携わるゲスト講師の講義

11	地域連携プロジェクトのワークショップ①	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
12	地域連携プロジェクトのワークショップ②	サブゼミ中心に進めてきた地域連携プロジェクトの成果報告とワークショップ形式で議論。
13	レポート・論文の最終報告①	10名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間も使う。
14	レポート・論文の最終報告②	10名ずつ、論文・レポートの最終報告会。サブゼミの時間をを使う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

調査は、基本的に授業外の時間で行います。時間を確保して、事前準備、調査実施、調査のまとめを行ってもらいます。また、授業時間とは別にサブゼミに参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。必要に応じてコピーを配ります。

### 【参考書】

河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」慶應義塾大学出版会

### 【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度50%、レポート・論文の報告内容50%

### 【学生の意見等からの気づき】

レポート・卒業論文作成は、長文を書くことに苦勞するので、細かいチェックポイントを設けて指導していく。

### 【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn regional management through investigations. Seminar students plan and conduct research while learning the survey method. At the Umezaki seminar, we have managed research reports as well as regional cooperation projects in each region. We will discuss the problem solving of regional management through project planning and management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Report(50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

実証研究論文を執筆するための基礎的な知識・スキルとして、調査研究のプロセスの全体像および方法論の基礎を習得する。

### 【到達目標】

実証研究を社会科学的手法によりデザインすることができ、先行研究の学術的レビューに基づいて研究課題を発見し、研究計画を立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

教員による講義、学生による講義、およびグループワークを中心とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要、演習の目的、演習の到達目標、授業実施の方法、成績評価の方法
第2回	学術研究の考え方	科学的調査とは何か、科学研究の方法、一般の調査研究との違い
第3回	学術研究の基礎用語	学術研究の基礎用語 (概念、変数、理論、命題、仮説など)
第4回	調査研究のプロセス	調査研究の実施プロセスと調査上よくあるミス
第5回	科学研究における理論	科学研究における理論とは何か、理論の構成要素、理論の要件。
第6回	実証研究のデザイン	一般的な実証研究の方法、研究方法の選び方
第7回	概念の測定法	変数の操作化、変数のタイプ
第8回	先行研究の調査	先行研究調査の意義、先行研究の探し方、研究レビューの方法
第9回	フィールド調査の基礎	アンケート調査およびインタビュー調査の方法論
第10回	実験研究の基礎	実験研究のタイプと方法論
第11回	事例研究の基礎	事例研究のタイプと方法論
第12回	実証研究論文の書き方 (1)	研究計画の立て方、リサーチ・プロポーザルの作成法
第13回	実証研究論文の書き方 (2)	研究論文の構成、項目ごとの執筆上の要点
第14回	まとめ	総括、理解度の確認

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配付資料の予復習、プレゼンテーションを作成。各回4時間を基準。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

授業内で適宜指定

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30点)：各回のプレゼンテーション、討議、研究計画

期末試験 (70点)：授業全体の理解度を問う筆記試験

※基準：実証研究のデザイン、学術研究の基本概念、先行研究レビューの意義、研究方法に関する基礎知識の理解度を評価

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の実施に向けた基礎学習へと内容を変更

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the whole picture of research process and basics of research methodology to acquire basic knowledge and skill for implementing empirical studies.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can explain basis terms of digital transformation.

Can analyze a firm's business model.

Learning activities outside of classroom

Review materials.

Prepare presentation.

Grading Criteria

In-class Assignment: 30%

Final exam: 70%

Assess whether learners can

1. Explain how to design and plan an empirical research project.
2. Explain the basic constructs in academic research
3. Explain why literature review is important
4. Explain the essentials of popular research methods

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

概要

ビジネスキャリアに関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。

目的

自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得する。

### 【到達目標】

リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告では、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。報告内容に基づき授業内で個別にフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	参考論文の輪読(1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第2回	参考論文の輪読(2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第3回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第4回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第5回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第6回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第7回	質的調査法(1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第8回	質的調査法(2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第9回	量的調査法(1)	アンケート調査の実施方法の説明
第10回	量的調査法(2)	公開データの分析方法の説明
第11回	先行研究の調査結果発表(1)	第1グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第12回	先行研究の調査結果発表(2)	第2グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第13回	先行研究の調査結果発表(3)	第3グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表

第14回 調査計画の決定(1) 調査の計画を発表し、計画を確定

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間を使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

### 【参考書】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

・研究計画の水準 (70%)、口述試験 (30%)

・研究計画の評価基準：

テーマの重要性 (20点)、論理性 (20点)、調査方法・分析の妥当性 (20点)、独創性 (10点) の4要素の合計点で評価する。

・口述試験の評価基準

論文の正確かつ明瞭な説明 (10点)、的確な質疑応答 (20点)

※研究計画の評価要素4つのうち独創性以外の3要素すべてにおいて10点以上であること、および口述試験が15点以上であることを単位認定の最低要件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない (参考図書を読んで各自行うこと)。指導は研究の進め方内容に関することに集中して行う。

### 【Outline (in English)】

Course Outline

This course is designed to complete a research project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

### Learning Objectives

1. Can design and implement research project.
2. Can develop hypotheses or research questions based on prior studies
3. Can implement empirical analysis or theoretical analysis in proper ways.

### Learning activities outside of classroom

1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.

Summarize the key issues in the lectures

Analyze literature and quantitative or qualitative data to write an academic paper.

### Grading Criteria

1. Final thesis (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

木村 琢磨

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

概要

ビジネスキャリアに関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。

目的

自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得する。

### 【到達目標】

リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告では、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。報告内容に基づき授業内で個別にフィードバックを行う。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	調査から研究発表へのまとめ方の全体像を学ぶ
第2回	研究発表のイントロダクション	研究発表におけるイントロダクションの書き方を学ぶ
第3回	イントロダクションの発表	各自のイントロダクションの発表
第4回	先行研究レビューの視点	先行研究レビューの着眼点を研究事例を用いて学ぶ
第5回	先行研究のまとめ方	先行研究の体系的なレビューの方法を学ぶ
第6回	先行研究レビューの発表	各自の先行研究のレビューを発表する
第7回	リサーチ・クエスチョン、仮説の提示方法	リサーチ・クエスチョン、仮説の提示方法を学ぶ
第8回	研究方法のまとめ方	研究方法の説明・技術方法を学ぶ
第9回	結果のまとめ方	実証結果の解釈とまとめ方を学ぶ
第10回	考察のまとめ方	研究発表の考察のまとめ方を学ぶ
第11回	結論のまとめ方	研究発表の結論の書き方を学ぶ
第12回	研究成果のまとめ方	研究発表のための研究成果のまとめ方を学ぶ
第13回	研究成果のプレゼンテーション方法	研究発表のためのプレゼンテーション技術の学ぶ
第14回	研究成果の発表	研究成果の全体を発表する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間が使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

### 【参考書】

受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

・研究発表の水準 (70%)、口述試験 (30%)

・研究計画の評価基準：

テーマの重要性 (20点)、論理性 (20点)、調査方法・分析の妥当性 (20点)、独創性 (10点) の4要素の合計点で評価する。

・口述試験の評価基準

論文の正確かつ明瞭な説明 (10点)、的確な質疑応答 (20点)

※研究計画の評価要素4つのうち独創性以外の3要素すべてにおいて10点以上であること、および口述試験が15点以上であることを単位認定の最低要件とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない (参考図書を読んで各自行うこと)。指導は研究の進め方と内容に関することに集中して行う。

### 【Outline (in English)】

#### Course Outline

This course is designed to complete a research project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

#### Learning Objectives

1. Can design and implement research project.
2. Can develop hypotheses or research questions based on prior studies
3. Can implement empirical analysis or theoretical analysis in proper ways.

#### Learning activities outside of classroom

1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.

#### Summarize the key issues in the lectures

Analyze literature and quantitative or qualitative data to write an academic paper.

#### Grading Criteria

1. Final thesis (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)



MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、企画力、構想力、実行力を身につけます。

### 【到達目標】

秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。プロジェクトを実施します。また3年と合同でビジネスプランコンテストに参加します。毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	ゼミ計画とチームビルディング	秋学期の2年生プロジェクトの計画を立てるとともに、チームを形成してプロジェクトに臨む準備をします
3	マーケティングコンテストプラン作成1	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
4	マーケティングコンテストプラン作成2	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
5	マーケティングコンテストプラン中間発表	コンテストに提出するプランの途中経過を発表します。
6	マーケティングコンテストプラン作成3	マーケティングコンテストに参加するための準備をします。
7	マーケティングコンテスト提出プランの発表	ブラッシュアップした最終提案を発表します
8	マーケティングコンテストの振り返り	PDCAのチェックを行います。実践をゼミ全体で振り返ります。
9	プロジェクトの準備	プロジェクトのテーマを決定して、計画を立てます
10	プロジェクトパートナーとの打合せ	ともにプロジェクトを進める外部機関との調整を行います
11	プロジェクトの実施1	提案に基づいて実践を行います。
12	プロジェクトの実施2	実践しながら計画や運用を修正して実践内容を改善します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクト実施までのプロセスを振り返ります。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始後に決定します。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度40%、プロジェクトへの取り組み姿勢40%、プロジェクトの成果20%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

### 【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

### 【Outline (in English)】

[Course outline]

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.

[Learning Objectives]

The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the fall semester. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.

[Method]

The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. Projects will be implemented. We also participate in business plan contests. Feedback on weekly activities and assignments will be provided in each class.

[Learning activities outside of classroom]

To ensure the success of projects, be sure to gain a variety of experiences on a regular basis. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The evaluation will be based on 40% contribution to the seminar, 40% attitude toward the project, and 20% results of the project.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

酒井 理

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業では、実践的にマーケティングを学びます。少人数でマーケティングに関わるプロジェクトを自分たちで企画して、実際に運営します。プロジェクトベースラーニングを通して、創造力、構想力、実行力を身につけます。

### 【到達目標】

春学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。春学期では文献資料を集める経験を経ることで情報収集の技術を獲得することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミはPBL (プロジェクトベースラーニング) によって進めます。ある課題に対してそれを解決するためのプロセスを通してさまざまなことを学んでいこうとする方法です。実際の行動をとらないので、「協調性」「責任感」「リーダーシップ」「実行力」がすべてのゼミ生に求められます。

ゼミの取り組みは大きく2つあります。①プロジェクトの企画と運営、②新たなビジネスプランの考案です。プロジェクトは現実に何かを動かす経験をするることになります。ビジネスプランの考案は、ビジネスプランコンテストに参加して外部の評価を受けます。毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について意見を交換します。学生主体で運営していけるような形を話し合いで決めていきます。
2	プロジェクトビルディング(コンセプトの構築)	プロジェクトを作り上げるためにアイデア発想、プロジェクトコンセプトの構築をグループワークをしながら進めます。
3	プロジェクトビルディング (計画策定)	プロジェクト実践を想定した計画を策定するためのグループワークをおこないます。
4	ビジネスプラン (アイデア発想ワーク)	ビジネスプランコンテストに向けてアイデア出しを行います。グループワークでアイデアを洗練させます。
5	ビジネスプラン (プランの作成)	ビジネスプランコンテストのテーマに合わせた内容をかためます。
6	ビジネスプラン (プレゼンテーション)	ゼミ内でプレゼンテーションを行ってプランのブラッシュアップを行います。
7	プロジェクト実施に向けたリサーチ準備	プロジェクトを実際にローンチする前に、事前のマーケティングリサーチを計画します。
8	リサーチの実行	プロジェクトを行うにあたって必要なマーケティングリサーチを実施します。

9	リサーチデータの収集と分析	マーケティングリサーチを行うて集めたデータを分析します。
10	プロジェクトビルディング (実装準備)	プロジェクトを実際にローンチするための最終的な調整を行います。
11	プロジェクトのローンチ	プロジェクト実際に立ち上げて実行していきます。
12	プロジェクトのモニタリング	プロジェクトのを実行し、その経過をモニタリングして、分析します。
13	プロジェクトの修正	プロジェクトの問題点を抽出して分析します。
14	春学期まとめ	夏期休暇中のゼミの活動計画と秋学期の準備をおこないます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

社会の出来事はすべて現場で起きています。とにかく何ごととも実践です。現場で体験する、実際にアクションを起こして経験していくことが大事です。机に向かって勉強するよりは、外に出かけてさまざまな事象に向き合うようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指示しません。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度50%、プロジェクトへの取り組み姿勢50%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションを活発にする工夫をしていきます。

### 【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In class, we will learn marketing practically. We plan and manage the projects involved in marketing by a small group and actually manage it. Through project-based learning, we will acquire creativity, structure-building ability, and execution skill.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to acquire specialized knowledge of marketing throughout the spring and fall semesters. Students will further deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills. In the spring semester, students will also acquire information-gathering skills through experience in gathering literature.

#### 【earning activities outside of classroom】

All social events are happening on the ground. Anyway, everything is a practice. Experience in the field, take action, and experience.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on 50% contribution to the seminar and 50% commitment to the project.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

酒井 理

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマは『マーケティング実践』です。世の中に役立つ、人々にとって価値のあるものを創造して相手に提供していくことがマーケティングの役割ですから、それに関することであればよしとして、研究課題は幅広く受け入れたいと思います。

### 【到達目標】

秋学期を通じてマーケティングに関する専門的知識を獲得することを目標とします。またグループワークによって協調性を養いつつ、他者とのディスカッションを通して理解をさらに深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミはグループワークを中心に進めます。何事もゼミ生相互に協働しながら活動を行います。秋学期は、春学期と同様にプロジェクトを実施します。また、半期に1度のビジネスプランコンテストに参加します。3年生は卒業論文のベースとなるようにプロジェクトの内容を深く掘り下げてまとめる作業を行います。

毎週の活動や課題に関しては、毎回の授業時にフィードバックします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	秋学期のゼミの運営方法について意見を交換します。
2	マーケティング研究論文のレビュー1 (サービスマーケティング)	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービス・マーケティング。
3	マーケティング研究論文のレビュー2 (サービタイゼーション)	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはサービタイゼーション。
4	マーケティング研究論文のレビュー3 (AIとIoT)	プロジェクトに関わるマーケティングの研究論文を渉猟して整理して要約する作業を行います。テーマはAIとIoT。
5	ゲスト講師とのディスカッション (マーケティング)	マーケティングをゲストに、実際に行われているマーケティングを題材にディスカッションを行います。
6	ゲスト講師とのディスカッション (スタートアップ)	起業のノウハウ、マインドセットなどをテーマにディスカッションを行います。
7	バーチャルビジネスゲームの実施	インターネット広告企業の人事部を招いてビジネスゲームを行います。ビジネスセンス修得のヒントを得ます。
8	プロジェクトのロジック構築	研究的視点からプロジェクトのロジックを組み立てます。
9	プロジェクトのコンセプト再考	研究の視点からプロジェクトを捉え直してコンセプトを再考する作業を行います。

10	プロジェクト計画のリファイン	プロジェクトを走らせながら新たなロジックとコンセプトで計画をリファインします。
11	プロジェクトの実施	プロジェクトを運営して、マーケティングの実際、プロジェクトマネジメントの実際を学びます
12	検証データの収集と分析	プロジェクトを通して、仮説の検証を行います。得られたデータを分析して結論を導き出します。
13	プロジェクトの振り返り	プロジェクトをクロージングして、ここまでのプロセスの振り返りを行います。
14	まとめ	プロジェクトを報告書にまとめるための活動総括を行います。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プロジェクトを成功させるために、日常生活のなかで、さまざまな経験を積む事を心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始後に決定します。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの貢献度50%、取り組み姿勢50%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生同士、学生と教員のディスカッションが活発になるように工夫をします。

### 【学生が準備すべき機器他】

ゼミで配布する資料はすべてデジタルドキュメントです。PC、タブレット、スマートフォンなどコミュニケーションサービスの"Slack"にアクセスできる環境が必要です。

### 【その他の重要事項】

ゼミを運営するにあたって、学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The theme of the class is practical marketing. The role of marketing is to create something that is useful to the world and valuable to people and provide it to others. The seminar accepts a wide range of research projects.

#### 【Learning Objectives】

The goal is to acquire specialized knowledge of marketing through the spring and fall semesters. Students will also deepen their understanding through discussions with others while developing cooperative skills through group work.

#### 【Method】

The seminar will focus on group work. All activities are conducted in collaboration with each other. In the fall semester, projects are conducted in the same manner as in the spring semester. Third-year students will work in-depth to summarize the contents of their projects as the basis for their graduation thesis.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Be sure to gain a variety of experiences to ensure the success of your project. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on 50% contribution to the seminar and 50% attitude toward the seminar.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて広くとらえた上で、考えていきます。具体的には個人のwell-beingを追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。

ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

### 【到達目標】

到達目標は大きく分けて2つあります。

- (1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
- (2) 3年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

導入時期は、グループディスカッションになれることを目的に、ディベートならびにグループワークを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、企業から提示されたテーマに対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。

ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第3回	第1回ディベート	指定されたテーマについて調べる
第4回	第1回ディベート	ディベートの実施
第5回	第2回ディベート	指定されたテーマについて調べる
第6回	第2回ディベート	ディベートの実施
第7回	企業に向けた提案	グループに分かれて、現状分析を行う
第8回	企業に向けた提案	グループに分かれて、提案内容を検討する
第9回	企業に向けた提案	グループに分かれて、提案内容を検討する
第10回	企業に向けた提案	プレゼンテーション練習を行う。
第11回	企業に向けた提案	プレゼンテーション
第12回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第13回	卒論発表会 (1)	卒論に対してコメントを行う

第14回 次年度に向けた準備 次年度のゼミ活動にむけた提案をする

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

□ディベートならびに企業からの課題に向けた提案について

指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫

### 【参考書】

授業内に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与) : 6割  
調査報告 (報告書とプレゼンテーション) : 4割

### 【学生の意見等からの気づき】

よりゆとりのあるスケジュールでの進行とします。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

In this course, we will consider the state of working people and human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past few years, in the first few sessions of the course, each student prepared materials on a pre-designated theme (e.g., one-day internship) and had a group discussion to deepen their understanding of the theme. In the latter half of the course, students made proposals on themes presented by companies.

There were two objectives of this course.

- (1) To understand the basic concepts of industrial/organizational psychology, and to be able to propose solutions to the issues presented by companies.
- (2) To be able to collect necessary information and data to solve problems, and to be able to logically derive solutions.
- (3) To acquire the communication skills necessary for group work

Students are expected to collect and organize information on the assigned topic by themselves as necessary. During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%. Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、産業組織心理学の観点から、働く人々（これから働く人々を含む）に関わる課題についての調査を行いレポートを作成します。この活動を通じて、学生は働く人々の現状や課題について理解を深め、それらを解決するために有益な視点を獲得することを目指します。

### 【到達目標】

到達目標は2つです。

- (1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること
- (2) 仮説を立ててデータを収集し、統計的な分析を行い、結果についてのレポートを作成するといった調査実施からレポート作成、プレゼンテーションに関わる幅広いスキルの獲得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミ生をグループに分けて、グループごとに調査テーマを設定し、調査を進め、最終手kにレポートを作成する。教員は、毎回その日の進捗に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	調査に向けて	調査アイデアの検討とグループ分け
第3回	調査テーマの設定	各グループで調査テーマを決定する
第4回	先行研究の整理①	関連分野の先行研究を集める
第5回	先行研究の整理②	関連分野の先行研究を整理する
第6回	調査案の確定	調査案を決定する
第7回	調査の実施①	実際に調査を実施する
第8回	調査の実施②	実際に調査を実施する
第9回	分析①	収集されたデータの分析を行う
第10回	分析②	データ分析に基づいた考察を行う
第11回	レポート作成①	調査をレポートとして完成させる
第12回	レポート作成②	教員からの指摘に基づいてレポートをブラッシュアップする
第13回	プレゼンテーション練習	翌週の報告会に向けて発表練習を行う
第14回	報告会	各グループの結果を共有する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の調査テーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。授業の時間内はメンバーとのディスカッションを中心に行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫

### 【参考書】

授業内に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与) : 6割  
調査報告 (報告書とプレゼンテーション) : 4割

### 【学生の意見等からの気づき】

収集されたデータ分析にかかる時間をやや増やす

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

In this class, students learn how to conduct research on issues involving working people (including those who will be working) and how to write a report describing the findings. Through these studies, students aim to gain a better understanding of the current situation and problems of working people and gain useful perspectives to solve them.

There are two goals for this class.

- (1) To understand the basic concepts of industrial and organizational psychology and to be able to explain the problems of working people using these concepts
- (2) Acquisition of a wide range of skills from conducting research to reporting and presentation, including hypothesizing, collecting data, performing statistical analysis, and reporting on analysis results

Students are required to collect and organize information on their research topics before the start of the class. Activities during class hours will focus on discussions based on data collected in advance. The standard time for preparatory study and review in this class is 2 hours each.

The criteria for grading in this class are as follows. Active involvement in resumes, presentation discussions and surveys: 60%

Research reports (prepared reports and presentations): 40%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、産業・組織心理学の視点から、働く人々や人材マネジメントについて広くとらえた上で、考えていきます。具体的には個人のwell-beingを追及する心理学と、人材の活用を通じたパフォーマンスの向上を求める組織との間で生じる様々な現象について理解を深めます。

ここ数年は、前半は、グループディスカッションを通じて議論を深め、後半は、企業とのコラボで提案をしています。

### 【到達目標】

到達目標は大きく分けて2つあります。

(1) 産業・組織心理学の基礎概念について、①正しく理解した上で、自分の言葉で説明できるようになること、②働く場の様々な問題への対応策を個人レベル、職場レベル、組織レベルで考えられるようになること

(2) 3年次以降のゼミ活動につながるように、①仮説を立てて検証し、レポートを作成するまでの調査実施、レポート作成、プレゼンテーションのスキル獲得、②グループワークに必要なコミュニケーション力、を身に着けること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

導入時期は、グループディスカッションになれることを目的に、ディベートならびにグループワークを数回実施する。中盤以降は、グループに分かれて、企業から提示されたテーマに対する提案を検討し、最終報告に向けてプレゼンテーションの準備を行う。

ゼミの中で出た質問や意見に対しては、その授業内で全体に対してコメントする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方と自己紹介
第2回	ディベートに向けて	ディベートについての説明
第3回	第1回ディベート	指定されたテーマについて調べる
第4回	第1回ディベート	ディベートの実施
第5回	第2回ディベート	指定されたテーマについて調べる
第6回	第2回ディベート	ディベートの実施
第7回	企業に向けた提案	グループに分かれて、現状分析を行う
第8回	企業に向けた提案	グループに分かれて、提案内容を検討する
第9回	企業に向けた提案	グループに分かれて、提案内容を検討する
第10回	企業に向けた提案	プレゼンテーション練習を行う。
第11回	企業に向けた提案	プレゼンテーション
第12回	活動の振り返り	ゼミ活動について振り返りを行う
第13回	卒論発表会 (1)	卒論に対してコメントを行う

第14回 次年度に向けた準備 次年度のゼミ活動にむけた提案をする

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

□ディベートならびに企業からの課題に向けた提案について

指定されたテーマに関する情報収集ならびに整理は、必要に応じて各自で行うこと。ゼミの時間内はメンバーとのディスカッションと意見の整理を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫

### 【参考書】

授業内に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (レジュメ・プレゼンテーション・ディスカッションや調査実施における積極的な関与) : 6割  
調査報告 (報告書とプレゼンテーション) : 4割

### 【学生の意見等からの気づき】

よりゆとりのあるスケジュールとなるように、内容を絞り込んで進める。

### 【授業中に求められる学習活動について】

I

### 【Outline (in English)】

In this course, we will consider the state of working people and human resource management from the perspective of industrial and organizational psychology. For the past few years, in the first few sessions of the course, each student prepared materials on a pre-designated theme (e.g., one-day internship) and had a group discussion to deepen their understanding of the theme. In the latter half of the course, students made proposals on themes presented by companies. There were two objectives of this course.

(1) To understand the basic concepts of industrial/organizational psychology, and to be able to propose solutions to the issues presented by companies.

(2) To be able to collect necessary information and data to solve problems, and to be able to logically derive solutions.

(3) To acquire the communication skills necessary for group work

Students are expected to collect and organize information on the assigned topic by themselves as necessary. During the seminar time, students will discuss and organize their opinions with other members. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The criteria for grading are as follows. Active involvement during resume creation, discussion, and survey implementation: 60%. Preparation and reporting of presentation materials: 40%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「これからの働き方を考える」をテーマに授業を進めます。働く人の多様化(ダイバーシティ)、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、問題意識の明確化など、研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

### 【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成をとらえる問題意識をもち、その解明のために研究を進めることができる基礎力を身に付けることを目標とします。

具体的には、文献サーベイ、データの収集・分析、レポート・論文の書き方など、研究を進める上での基礎を身に付けることに加え、世の中で起きている事象について問題意識をもち、その課題を掘り下げるといった課題設定・課題解決能力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

演習は、少人数で、特定のテーマを集中的に議論、研究する場です。大学での学びは、自分が知りたいことを主体的に追求すること、が基本なので、与えられたものではなく、自分で探究心をもって学習することが重要となります。ゼミはそのための貴重な機会であり、ゼミでは積極的に発言し、他の人の考えにも耳を傾けることに努めてください。

特に、キャリアデザインに関して正解はないことが多いので、他者の意見をききながら自分の意見をまとめて発言する、ということが重要です。本を読むときも「自分の意見との違い、批判」を忘れないようにしてください。

授業は、講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施します。3年次以降の演習が効果的に進むことを視野に入れた授業展開となります。

課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施していきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	レジュメの作り方、文献の読み方	ゼミを進める上での基本的なスキルとしてのレジュメ作成、文献講読の基礎を習得する。
3	共通文献 (1章) の講読	共通文献の1章について、内容理解とテーマ討議を行う。
4	共通文献 (2章) の講読	共通文献の2章について、内容理解とテーマ討議を行う。
5	共通文献 (3章) の講読	共通文献の3章について、内容理解とテーマ討議を行う。
6	共通文献 (4章) の講読	共通文献の4章について、内容理解とテーマ討議を行う。
7	研究の進め方、レポート・論文の書き方	文献の集め方や読み方を含めた研究の進め方、レポート、論文の書き方について講義する。
8	グループ別テーマ研究のテーマ設定	秋学期後半のグループ別テーマ研究のテーマを決定する。

9	グループ別テーマ研究における現状分析	グループ別テーマ研究に関して、現状の把握・分析を進める。
10	グループ別テーマ研究における課題分析	グループ別テーマ研究に関して、課題や政策等についての分析を進める。
11	グループ別テーマ研究の発表	グループ別テーマ研究の発表を行い相互にコメントをする。
12	次年度のグループ研究のテーマ設定	次年度実施するグループ研究のテーマ、メンバーを決定する。
13	卒業論文発表会	4年生の卒業論文の発表をきいて、質疑を行う。
14	授業の総括、まとめ	授業の振り返り、総括を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要です。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むことを重視します。本授業の各回における準備学習・復習時間は3時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

講読テキストは適宜授業内で指定します。

### 【参考書】

授業の中で適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究課題への取組姿勢、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

レポート等課題対応50%、授業の参加姿勢50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

### 【その他の重要事項】

2年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましいと考えます。

### 【Outline (in English)】

Course outline : In this seminar, the theme is "how the coming work-style changes". In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

Learning Objectives : The goal of this course is to develop awareness of issues related to business career development and to acquire basic skills in conducting empirical research and analysis to clarify these issues.

Learning activities outside of classroom : In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 3 hours.

Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process ; Mid-term/Term-end report (50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進めます。働く人の多様化(ダイバーシティ)、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

### 【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができるようにすることを目標とします。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆します。講義、発表、ディスカッション、調査等を組み合わせて実施することになります。特に、実証的な調査(インタビューやアンケートなど)を実施し、そのデータを加工・分析して結論を導くことを重視します。

課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施します。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
2	研究テーマの設定	研究テーマの設定、その内容の具体化を行う
3	研究テーマの深め方	研究テーマについてテーマの絞り込みや深化を行う
4	文献収集の方法、文献の読み方	文献収集の方法、その読み方について
5	研究の企画	研究の企画を行う
6	研究方法の検討	研究の方法を検討する
7	調査内容の検討	調査対象や内容の検討を行う
8	中間報告	研究の中間報告を行う
9	調査の実施	フィールド調査を実施する
10	調査の実施の継続	フィールド調査を継続する
11	調査の実施とデータの集約	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を行う
12	調査の実施とデータの集約の継続	引き続きフィールド調査を実施しデータの集約を継続する
13	データの収集、分析方法	データの整理方法についての講義
14	総括	半期の進捗の振り返り、まとめ、夏休みの課題など

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外には、研究のための文献サーベイや調査の実施等を行うことになります。本授業の各回における準備学習・復習時間は3時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは適宜授業内で指定します。

### 【参考書】

授業の中で適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

レポート等課題対応50%、授業の参加姿勢50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

全体のディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

### 【その他の重要事項】

2年次までに、「ライフコース論」「キャリア開発論」を含めて、職業キャリアや企業の人材マネジメントに関する授業を受講していることが望ましいと考えます。

### 【Outline (in English)】

Course outline : In this seminar, the theme is "how the coming work-style changes". In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing.

Learning Objectives : The goal of this course is to enable students to have awareness of problems related to business career development and to conduct empirical research and analysis to elucidate them.

Learning activities outside of classroom : In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 3 hours.

Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process ; Term-end report (50%) and in-class contribution(50%).



MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木6/Thu.6 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「これからの働き方を考える」を年間テーマに授業を進めます。働く人の多様化(ダイバーシティ)、それに伴う働き方の現状や課題を題材にして、少人数によるディスカッション、文献講読、実証研究の進め方、論文作成など研究の基礎を学ぶとともに、キャリアデザインについての理解を深めることを目指します。

### 【到達目標】

現代社会におけるビジネスキャリア形成に関する問題意識をもち、その解明のために実証的な研究、分析ができることを目標とします。具体的には、研究テーマの設定、課題意識の明確化、文献研究の進め方、問題意識への実証的なアプローチの方法、実証的なデータ等から結論を導く方法、論文やレポートの書き方など、一連の研究の流れを習得することを到達目標とします。また、次年度の卒業論文のテーマについて検討を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は、年間を通じてグループ別の研究テーマを設定し、その研究課題を解決するための文献講読、データ等の収集などを行い、論文を執筆します。

秋学期の前半は、春学期から進めてきたグループ別の研究課題について、文献講読、データ等の収集などを行った内容を論文としてグループごとに執筆します。また研究成果の発表と発表内容に関するディスカッションを行います。

後半は、新たに視野を広げるために、共通文献を講読して簡単なグループ研究を行い、ディスカッションを行いながらテーマにアプローチをします。卒業論文執筆のためのテーマを検討するプロセスと位置付けて、研究を進めます。

課題等の提出・フィードバックは各授業の中で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業のオリエンテーション	秋学期の概要についてのオリエンテーション
2	テーマに関する論文の執筆	春学期から取り組んできた研究を論文に取りまとめる。
3	研究発表の準備	研究発表のための準備を行う。
4	研究発表会	研究の発表を行い、内容について相互にコメントをする。
5	共通文献 (1章、2章) の講読	指定した共通文献の1章、2章について、内容理解とテーマ討議を行う。
6	共通文献 (3章、4章) の講読	指定した共通文献の3章、4章について、内容理解とテーマ討議を行う。
7	卒業論文のテーマ設定の基礎理解	卒業論文のテーマを設定するための、文献講読や方法について講義を行う。
8	グループ別テーマ研究のテーマ設定	秋学期後半のグループ別テーマ研究のテーマを設定する。
9	グループ別テーマ研究における現状分析	グループ別テーマ研究に関して、現状の把握・分析を進める。

10	グループ別テーマ研究における課題分析	グループ別テーマ研究に関して、課題や政策等についての分析を進める。
11	グループ別テーマ研究の発表	グループ別テーマ研究の発表を行い、相互にコメントする。
12	卒業論文のテーマ構想の発表	次年度の卒業論文のテーマについての構想を発表し、相互にコメントする。
13	卒業論文発表会	4年生の卒業論文の発表をきいて、質疑を行う。
14	授業の総括、まとめ	授業の振り返り、総括を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

問題意識を持ったり、事実を発見したりするために、多くの文献を読むことが必要です。また、実態把握のための調査等、授業内では対応できないことも多いので、主体的、積極的に取り組むことを重視します。本授業の各回における準備学習・復習時間は3時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは適宜授業内で指定します。

### 【参考書】

授業の中で適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

出席と受講態度、研究への取組姿勢、研究論文、ゼミ活動への貢献等を総合的に評価します。

レポート等課題対応50%、授業の参加姿勢50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションやグループで研究する作業を重視していきます。

### 【Outline (in English)】

Course outline : In this seminar, the theme of the course is "how the coming work-style changes". In this course, I will pick it up about the agenda of current situation of the work-style. Students will be able to deepen the understanding about the carrier design through a discussion, documents reading and article writing. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

Learning Objectives : The goal of this course is to enable students to have awareness of problems related to business career development and to conduct empirical research and analysis to elucidate them.

Learning activities outside of classroom : In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis. Students required study time is at least 3 hours.

Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process ; Term-end report (50%) and in-class contribution(50%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、計量分析の基礎を演習を行いながら学んでいく。

### 【到達目標】

各種計量分析が一通りできるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義と演習双方を行う。レポートの提出を求めるが、受講者の意見  
等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	パソコン操作の基本	パソコン操作の基本を学ぶ。
3	データ処理の基礎	データ処理の基礎について学ぶ。
4	データの種類	研究で用いるデータの種類について学ぶ。
5	データセットの構築 (1)	統計パッケージにおいて、データセットを構築する方法を概説する。
6	データセットの構築 (2)	グループワークを通じて、データセットの構築をより深く学ぶ。
7	データセットの構築 (3)	データセットの構築を効率的に行えるように、簡単なプログラミングを学ぶ。
8	変数の相関(1)	変数の相関の基本を学ぶ。
9	変数の相関(2)	変数の相関の解釈方法やより高度な相関係数について学ぶ。
10	単変量分析	単変量分析の方法を学ぶ。
11	多変量分析	多変量分析の方法を学ぶ。
12	計量分析の演習(1)	財務データを用いた演習を行う。
13	計量分析の演習(2)	アンケート・データを用いた演習を行う。
14	計量分析の演習(3)	作表について演習を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

### 【参考書】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ①授業への取り組み姿勢 (70%)
- ②他大学とのインゼミ大会への参加、報告 (20%)
- ③レポート (10%)

### 【学生の意見等からの気づき】

前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

### 【Outline (in English)】

\*Course outline

The aim of this course is to master the basics of quantitative analysis.

\*Learning Objectives

The goal of this class is to be able to perform various types of quantitative analysis.

\*Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

\*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 70%, Participation in the inner seminar: 20%, reports: 10%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、春学期に学習した知識を踏まえて、実際に研究主題を選択し、実証的な研究を実施し、一定の研究成果を残すことを目的とする。各自、具体的な研究テーマを設定し、研究発表に向けた作業を行っていく。

### 【到達目標】

各自研究を実施し、論文等の形態で研究成果を残すことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

主に実証的な作業を行っていく。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	研究テーマの設定(1)	研究テーマについて、グループで検討する。
3	研究テーマの設定(2)	研究テーマを、各グループで具体的に絞り込む。
4	先行研究の検討	先行研究の検討を各グループで行う。
5	仮説の構築(1)	検証仮説について検討する。
6	仮説の構築(2)	候補となる検証仮説を具体的に特定する。
7	データ分析(1)	データの分析を開始する。
8	データ分析(2)	データの分析をグループワークにより進める。
9	データ分析(3)	前回に続いて、データの分析をグループワークにより進める。
10	検証結果の考察	検証結果について、グループにおいて議論する。
11	検証結果の再検討	各グループにおいて再検証を行う。
12	発表資料の作成(1)	発表資料の作成を行う。
13	発表資料の作成(2)	前回に続いて、発表資料の作成を行う。
14	発表	各グループの発表を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

### 【参考書】

開講時に指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

- ①授業への取り組み姿勢 (70%)
- ②他大学とのインゼミ大会への参加、報告 (20%)
- ③レポートの提出状況、内容 (10%)

### 【学生の意見等からの気づき】

本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

### 【Outline (in English)】

#### \*Course outline

The purpose of this course is for students to choose a research topic and conduct empirical research. Each student will set a specific research theme and work toward presenting their research.

#### \*Learning Objectives

The goal of this class is for students to write and present their research results in a paper.

#### \*Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

#### \*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 70%, Participation in the inner seminar: 20%, reports: 10%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

**演習 (ビジネス)**

中野 貴之

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本演習では、春学期に学習した知識を踏まえて、実際に研究主題を選択し、実証的な研究を実施し、一定の研究成果を残すことを目的とする。各自、具体的な研究テーマを設定し、研究発表に向けた作業を行っていく。

**【到達目標】**

各自研究を実施し、論文等の形態で研究成果を残すことを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

主に実証的な作業を行っていく。レポートの提出を求めるが、受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	研究テーマの設定(1)	研究テーマについて、グループで検討する。
3	研究テーマの設定(2)	研究テーマを、各グループで具体的に絞り込む。
4	先行研究の検討	先行研究の検討を各グループで行う。
5	仮説の構築(1)	検証仮説について検討する。
6	仮説の構築(2)	候補となる検証仮説を具体的に特定する。
7	データ分析(1)	データの分析を開始する。
8	データ分析(2)	データの分析をグループワークにより進める。
9	データ分析(3)	前回に続いて、データの分析をグループワークにより進める。
10	検証結果の考察	検証結果について、グループにおいて議論する。
11	検証結果の再検討	各グループにおいて再検証を行う。
12	発表資料の作成(1)	発表資料の作成を行う。
13	発表資料の作成(2)	前回に続いて、発表資料の作成を行う。
14	発表	各グループの発表を行う。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

新聞をよく読むなど、自らを取り巻く動向に関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

開講時に指示する。

**【参考書】**

開講時に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

- ①授業への取り組み姿勢 (70%)
- ②他大学とのインゼミ大会への参加、報告 (20%)
- ③レポートの提出状況、内容 (10%)

**【学生の意見等からの気づき】**

本演習の内容に前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていく。

**【Outline (in English)】****\*Course outline**

The purpose of this course is for students to choose a research topic and conduct empirical research. Each student will set a specific research theme and work toward presenting their research.

**\*Learning Objectives**

The goal of this class is for students to write and present their research results in a paper.

**\*Learning activities outside of classroom**

Students are encouraged to take an interest in the trends surrounding them, for example by reading newspapers. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

**\*Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

in class contribution: 70%, Participation in the inner seminar: 20%, reports: 10%.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

佐藤 厚

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習では「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとします。テーマから知られるように、人材育成というキーワードをベースにしながら、a) 人事管理の側での働き方と、b) 働く側の長期的な働き方のニーズ (=キャリア選択と形成) の調整・両立が最大のポイントとなり、そのあり方を探ることが演習のねらいとなります。

### 【到達目標】

人材育成とキャリア形成に関する基本的な文献を読み込み、以下の獲得を到達目標とします。

- ①テーマに関わる基礎知識を習得する。
- ②文献の批判的読解力を獲得する。
- ③①と②を通じて、課題設定→情報収集→情報分析+まとめ、といった3~4年演習での学習に必要な基礎的能力の形成をはかる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この演習では、グループを編成し、文献についてグループごとに担当者を決めて、①上記テーマに関わる文献のレビュー、②読解→レジメ作成→報告+討論、③まとめ (自分なりの要約とコメント) の作成と発表という形で展開されます。

・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行います。

なお、授業形式について、対面授業を想定しています。大学の方針によってはオンライン形式になることがあります。学習支援システムでご連絡します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方について
2	テーマに関する文献の収集と読み込み (1)	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
3	テーマに関する文献の収集と読み込み (2)	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
4	テーマに関する文献の収集と読み込み (3)	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
5	テーマに関する文献の収集と読み込み (4)	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
6	テーマに関する文献の収集と読み込み (5)	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に

7	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (1)	キャリア教育、フリーター、中高年非正規雇用などに関する文献を中心に
8	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (2)	人材育成、能力開発に関する文献を中心に
9	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (3)	女性のキャリア形成に関する文献を中心に
10	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (4)	リーダーシップ開発やリーダー人材育成に関する文献を中心に
11	テーマに関する文献のクリティカル・リーディング・レポートの作成 (5)	職場学習や中小企業の能力開発に関する文献を中心に
12	クリティカル・リーディング・レポートの報告に向けた論点整理	これまでのテーマにそった主要論点を整理しプレゼンの準備を行う
13	クリティカル・リーディング・レポートの報告 (1)	報告に基づくプレゼンと討論 (1)
14	クリティカル・リーディング・レポートの報告 (2)	報告に基づくプレゼンと討論 (2)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・文献収集、報告準備、クリティカル・リーディング・レポートの作成などは授業外で積極的に行うようにして下さい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

とくに指定はしない。必要に応じて参考文献を演習時に指示します。

### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚『仕事の社会学』有斐閣  
 佐藤 厚『キャリア社会学序説』泉文堂  
 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣  
 佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構  
 『日本労働研究雑誌』のバックナンバー  
 『労政時報』などの実務雑誌のバックナンバー

### 【成績評価の方法と基準】

演習への参加と報告、およびクリティカル・リーディング・レポートの作成を評価します。

演習への出席と取り組み姿勢50%。演習の課題レポート50%です。

通常の対面授業を想定して行います。大学の方針によりオンラインに変更の場合の具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

### 【学生の意見等からの気づき】

先輩の作成したグループレポート論集を参考にしながら、自分たちの到達目標を自覚し、明確化してもらう。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回担当者は担当箇所につきレジメを作成し、報告すること。

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### 【Outline】

The theme of this class is "Human Resource Development and Career Formation".

You can learn the way how employer develop human resource and how employees develop thier skill and knowledge.

This theme can be divided into some subtheme,such as work way of younger workers,womens worker,white collar worker.

You can get knowledge and skill about these theme through this class.

**【Learning Objectives】**

We will read the basic literature on human resource development and career development, and aim to acquire the following.

- ① Acquire basic knowledge related to the theme.
- (2) Acquire critical reading comprehension of documents.
- (3) Through (1) and (2), aim to form the basic abilities necessary for learning in 3-4 year exercises such as task setting → information gathering → information analysis + summary.

**【Learning activities outside of classroom】**

- ・ Please be proactive in collecting literature, preparing reports, and creating critical reading reports outside of class.
- ・ The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

Evaluate your participation and reporting in the exercises and the creation of critical reading reports.

Attendance at the exercise and 50% attitude. It is 50% of the exercise report.

It will be conducted assuming a normal face-to-face class. Specific methods and criteria for changing online due to university policy will be presented in the learning support system on the day of class start.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、ゼミ論の執筆に向けた準備を進めます。

### 【到達目標】

関連文献を読み込み、みずからの「問い」を深めることができる。ゼミ論の執筆に向けて、独自調査の計画を立てて実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

卒論の執筆に向け、3年次にはゼミ論の完成を目指します。春学期は、各自が設定したゼミ論の「問い」に関連した文献・データを適切に収集して検討した上で、「問い」を改めて文章化し、その「問い」を深めるための独自調査の計画を立てて発表し、実行していきます。課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。4年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文 (ビジネス)」を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ論の「問い」の発表と検討	各自が設定したゼミ論テーマの「問い」を発表し、ディスカッションする
2	ゼミ論の「問い」の再検討	前回の発表とコメントを受けて、改めて各自がゼミ論テーマの「問い」を再検討し、ディスカッションする
3	論文の構成の理解	論文の基本的な構成を理解する
4	先行研究の収集	文献収集状況の発表
5	先行研究の検討	収集した文献の重要度の検討
6	先行研究の論点整理	収集した文献の論点整理
7	独自調査の計画の策定	先行研究を踏まえた独自調査の内容と方法を検討する
8	独自調査の計画の発表	各自が独自調査の計画を発表する
9	独自調査の計画の再検討	フィードバックをふまえて各自が独自調査の計画を再検討する
10	独自調査の実施の中間報告	各自が独自調査に着手し、その状況を中間報告する
11	中間報告をめぐるディスカッション	各自の中間報告について、ディスカッションする
12	研究計画の再検討	独自調査の実施を踏まえ、さらなる文献検討や独自調査の必要性を再検討する
13	今後の研究計画の検討	今後の研究計画を検討する
14	振り返りとまとめ	各自の進捗状況を振り返り、ゼミ論の中間発表に向けた各自の課題を検討する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献・データを収集し、論点を整理し、発表の準備を行う。

独自調査を企画し、実施する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に定めない

### 【参考書】

・木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫  
その他の文献については、授業内で随時指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加：30%

先行研究の収集と理解：30%

独自調査の企画と実施：40%

### 【学生の意見等からの気づき】

一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

### 【その他の重要事項】

2年次の演習からの継続受講を原則とします。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will take up themes from various issues related to work, according to their own interests, and prepare to write their seminar papers.

#### 【Learning Objectives】

Students are expected to deepen their "questions" by reading related literature and begin research for writing their seminar papers.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to plan and conduct their own research.

Your study time will be more than four hours for a class.

#### 【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution : 30%

Collecting and understanding related literature : 30%

Planning and conducting original research : 40%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

働くことをめぐる諸問題から各自の問題関心に合わせたテーマを取り上げ、ゼミ論の執筆に取り組みます。

### 【到達目標】

適切な論文構成により、ゼミ論を完成させることができる。  
ゼミ論執筆のプロセスを通じて、みずからの卒論の研究課題と研究方法を固めていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

秋学期はゼミ論の執筆に取り組みます。論文の構成の方法、先行研究への適切な言及方法、研究結果の整理の方法などを実践的に学びながら、ゼミ論を完成させます。  
課題レポートについては順次、具体的にフィードバックを行います。4年次は卒業論文執筆指導となります。シラバスの「卒業論文 (ビジネス)」を参照すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の文章化	研究課題を文章化し、検討する
2	ゼミ論中間発表	各自のゼミ論の構想を中間発表する
3	ゼミ論中間発表の検討	各自のゼミ論の構想を相互に検討する
4	論文の構成	論文の構成を検討する
5	既存の文献から学ぶ	すぐれた論文の構成を既存の文献を通じて検討する
6	論文構成の検討	みずからの論文構成を再検討する
7	ゼミ論の執筆状況の確認	ゼミ論の執筆状況を確認する
8	ゼミ論の執筆指導	ゼミ論の執筆状況を確認し、個別指導を行う
9	ゼミ論の執筆内容の再検討	ゼミ論の執筆内容を再検討し、個別指導を行う
10	ゼミ論の発表	ゼミ論を発表する
11	ゼミ論へのコメント	各自のゼミ論に相互にコメントを行う
12	ゼミ論に対するコメントの検討	ゼミ論の発表に対し、寄せられたコメントを検討する
13	振り返り	ゼミ論執筆を振り返る
14	今後に向けた課題設定	ゼミ論執筆を振り返り、卒論に向けた課題設定を行う

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

独自調査結果を整理し、中間発表の準備を行う。

ゼミ論の執筆を進める。

ゼミ論発表に向けた準備を行う。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に定めない

### 【参考書】

・木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』 ちくま学芸文庫

その他の文献については、授業内で随時指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミへの主体的な参加：30%

発表：20%

ゼミ論：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

一人ひとりの力量形成に、より力を入れていきたいと考えています。

### 【その他の重要事項】

2年次の演習からの継続受講を原則とします。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this course, students will take up themes from various issues related to work, according to their own interests, and work on writing seminar papers.

#### 【Learning Objectives】

Students are expected to complete a seminar paper with an appropriate structure.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare a presentation and write a seminar paper.

Your study time will be more than four hours for a class.

#### 【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution : 30%

Presentation : 20%

Seminar paper : 50%



MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3・4年次の演習に向けて、2年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

### 【到達目標】

- ①働き方に関する基礎的な知識を身につける
- ②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
- ③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。

まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書を使って議論を行っていただきます (アクティブブックダイアログ：Active Book Dialogueを参考に)。

3年生の共同研究、4年生の卒論発表会などについては2年生にもご参加いただけます。5限のみならず6限も使って3年生や4年生と合同でゼミ活動を実施することもございますので、水曜5・6限は他の予定を入れないようにしてください。学期全体のスケジュール (予定) は最初の授業で配布します。

ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。

また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション <2・3・4年生合同>	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
第2回	課題図書とアクティブブックダイアログの説明とグループ分け	①課題図書とアクティブブックダイアログの説明 ②グループ分け
第3回	校外学習 (予定)	校外学習 (予定)
第4回	校外学習の振り返り	校外学習の振り返りと議論
第5回	課題図書 (1)	課題図書 (1) に関するアクティブブックダイアログ
第6回	課題図書 (2)	課題図書 (2) に関するアクティブブックダイアログ
第7回	課題図書 (3)	課題図書 (3) に関するアクティブブックダイアログ
第8回	3年共同研究<中間>発表 <2・3・4年生合同>	①3共同研究<中間>発表 ②発表に関する質疑・意見交換

第9回	問いの設定に関する概説	①問いの設定に関する概説とグループワーク ②3年共同研究<最終>発表の進め方相談
第10回	調査方法に関する概説	①調査方法に関する概説 ②3年共同研究<最終>発表の当日運営の確認
第11回	3年共同研究<最終>発表 <2・3年生・社会人合同>	①3年共同研究<最終>発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第12回	発表の振り返りと今後の進め方	①共同研究発表の振り返り (ロジと内容) ②共同研究の準備に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
第13回	4年生卒論発表 (1) <2・3・4年生・社会人合同>	①卒論の発表 (前半) ②質疑と社会人・教員コメント
第14回	4年生卒論発表 (2) <2・3・4年生・社会人合同>	①卒論の発表 (後半) ②質疑と社会人・教員コメント

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題図書のアクティブブックダイアログの準備、研究テーマ案の作成とそのための先行研究サーベイ等が必要になります。ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、準備はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

課題図書については授業で候補を提示します。

### 【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容 (70%)、ゼミの運営・活動への貢献 (30%) により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

アクティブ・ブック・ダイアログと校外学習を継続したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

### 【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお祈りします。

不定期で3・4年生との合同ゼミがあり、その場合原則として5・6限またがって実施することになりますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.

< Learning Objectives >

1. Obtain basic knowledge on work styles
2. Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3. Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を持てるように、共同研究や卒業研究の実践を通じて、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実施を通じて、調査の基礎的なスキルを醸成します。

### 【到達目標】

- ① 研究対象とするテーマについて、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
- ② 研究対象とするテーマについて、十分な理解のもとで独創性のある問いを設定し、説得的な論旨を展開できるようになること
- ③ 調査を企画・実施することを通じて、調査の基礎的なスキルを身につけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。3年生は共同研究、4年生は卒論に関する構想発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人(研究者・実務家)からもコメントを頂きます。ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。

また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと卒論研究計画案の発表 (3・4年生合同)	①オリエンテーション ②4年生による卒業研究の研究計画案の発表 ③質疑と教員コメント
第2回	3年生の研究テーマ案の発表	①3年生による研究テーマ案の発表 ②質疑と3・4年生による議論
第3回	3年生共同研究のテーマ案に関する先行研究サーベイと議論	①3年生の共同研究テーマに関する先行研究 ②共同研究テーマ案に関する議論
第4回	3年生共同研究のテーマ案の仮決定	①3年生による研究テーマ改訂案の発表 ②質疑と教員コメント ③テーマ案の決定とグループ分け
第5回	3年生共同研究の構想の検討	①先行研究サーベイの共有 ②先行研究サーベイを踏まえた共同研究の問いや切り口の検討
第6回	3年生共同研究の構想の再検討	①問いや切り口の再検討 ②調査方法の検討 ③中間発表資料の作成
第7回	3年生共同研究構想中間発表	①共同研究の構想に関する中間発表 ②質疑と教員コメント

第8回	構想発表会の準備	①中間発表のコメントを踏まえた共同研究の練り直し ②構想発表会の資料の作成と発表準備
第9回	構想発表会1回目 <3・4年生・社会人合同>	①構想発表会1回目(3年生共同研究等) ②質疑と社会人・教員コメント
第10回	構想発表会2回目 <3・4年生・社会人合同>	①3年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会2回目(4年生卒論・前半) ③質疑と社会人・教員コメント
第11回	構想発表会3回目 <3・4年生・社会人合同>	①3年生共同研究進捗確認 ②論構想発表会2回目(4年生卒論・後半) ③質疑と社会人・教員コメント
第12回	3年生共同研究 調査設計	①調査方法の確定 ②依頼状や調査票の案の作成
第13回	3年生共同研究 調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施
第14回	ゼミ活動の振り返り・諸連絡と今後に関する意見交換 <3・4年生合同>	①ゼミ活動の振り返り ②諸連絡 ③今後に関する意見交換

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

ゼミの時間の大部分は発表の場となりますので、発表準備(研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等)はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容(70%)、ゼミの運営・活動への貢献(30%)により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

構想発表会・発表会などにおける、社会人との交流を継続・発展させていきたいと考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献。オンライン接続環境。

### 【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願ひします。

5・6時にわたって、ゼミを実施したり共同研究の作業が必要になりますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

「思いを実現できる実務家」を社会に送り出せるように、ゼミ活動を展開したいと考えております。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.

< Learning Objectives >

1.To be able to survey academic literature and articles on the subject of research

2.Ability to set original questions and develop persuasive arguments with a full understanding of the subject under study  
3.Developing basic research skills through the planning and implementation of surveys

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%)  
and contributions to seminar activities and management(30%).

MAN200MA (経営学 / Management 200)

## 演習 (ビジネス)

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3年生は、共同研究のなかで、調査結果の分析・解釈の訓練を行い、結論や示唆について考察を深めます。また、卒業論文の執筆に向けた準備に入ります。4年生は卒業論文を完成させます。

### 【到達目標】

- ①調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ②論理的・説得的な資料や論文を執筆できるようになること
- ③わかりやすく発表し、質問やコメントに対して論理的に回答ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。共同研究の分析や発表を行います。3年生は共同研究、4年生は卒論に関する成果発表の機会を設け、教員のフィードバックに加えて、社会人 (研究者・実務家) からもコメントを頂きます。

ゼミは原則として対面で実施しますが、社会人の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。

また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション <2・3・4年生合同>	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ②3年生共同研究、4年生卒論の進捗共有
2	3年生共同研究進捗確認・共有	①3年生共同研究の進捗の確認と共有 ②質疑と教員コメント
3	3年生共同研究 分析方法の検討	共同研究の分析方法の検討・役割分担の確認等
4	データ分析の解説	データ分析の解説とHADによる実践
5	3年生共同研究・中間発表資料の作成 (1)	①発表資料の作成 ②意見交換と教員コメント
6	3年生共同研究・中間発表資料の作成 (2)	①教員コメントを踏まえた発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント
7	3年生共同研究・中間発表資料の作成 (3)	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の再改訂 ②意見交換と教員コメント
8	3年生共同研究中間発表 <2・3・4年生合同>	①中間発表 ②意見交換と教員コメント
9	3年生共同研究・<最終> 発表資料の作成 (1)	①中間発表を踏まえた共同研究の発表資料の改訂 ②意見交換と教員コメント

10	3年生共同研究・<最終> 発表資料の作成 (2)	①教員コメントを踏まえた共同研究の発表資料の改訂と発表準備 ②意見交換と教員コメント
11	3年生共同研究<最終>発表 <2・3年生・社会人合同>	①3年生共同研究<最終>発表 ②発表に関する質疑・意見交換
12	発表の振り返りと今後の進め方	①3年生共同研究発表の振り返り ②卒業論文の研究計画案作成に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
13	4年生卒論発表 (1) <2・3・4年生・社会人合同>	①卒論の発表 (前半) ②質疑と社会人・教員コメント
14	4年生卒論発表 (2) <2・3・4年生・社会人合同>	①卒論の発表 (後半) ②質疑と社会人・教員コメント

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、発表準備 (研究のための文献サーベイや調査の実施、結果のとりまとめ、発表資料の作成等) はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容 (70%)、ゼミの運営・活動への貢献 (30%) により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

研究のより効率的な進め方を、ゼミ生と相談しながら模索していきたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。オンライン接続環境。

### 【その他の重要事項】

各自が必要なアイデアをどんどん出して、主体的に改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしく願います。5・6時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。

思いを実現できる実務家を、社会に送り出したいと思っております。

### 【Outline (in English)】

< Course outline >

Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.

< Learning Objectives >

- 1.To be able to analyze and interpret survey results
- 2.To be able to write logical and persuasive materials and papers
- 3.Ability to present clearly and respond logically to questions and comments

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

演習 (ライフ)

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習 (調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々) を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域 (美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等) についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料 (論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など) を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します (そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します)。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。授業のフィールドバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	前半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	後半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。

11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	前半のグループが研究の成果を報告し、全体でディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	後半のグループが研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環として学内外でさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、適宜文献資料を配布します。

【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など)：50%  
期末レポート：50%  
※単位取得の要件として、2年次の終わりにはレポート執筆、3年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また4年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

【Outline (in English)】

In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions. Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習 (調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々) を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域 (美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等) についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

### 【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料 (論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など) を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します (そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します)。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。授業のフィールドバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	前半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	後半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。

11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	前半のグループが研究の成果を報告し、全体でディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	後半のグループが研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環として学内外でさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、適宜文献資料を配布します。

### 【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など)：50%  
期末レポート：50%  
※単位取得の要件として、2年次の終わりにはレポート執筆、3年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また4年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

### 【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

### 【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions. Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
Final report (50%) and in class contribution (50%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「アート」「文化」「創造性」「趣味」「地域コミュニティ」といったキーワードをもとに、これらをわたしたちの生き方や働き方にどう活かしていくことができるのかを、演習 (調べる・発表する・議論する・企画する・実践する、等々) を通じて追求していきます。学生各自が興味を持っている領域 (美術、音楽、文芸、映画、舞踏、服飾、サブカルチャー、アートマネジメント、文化政策、まちづくり、等) についての研究を深めていくと同時に、プレゼンテーションやディスカッションを通して、他のゼミ生たちの研究の成果を共有します。

### 【到達目標】

文化やアートと社会との関わりをめぐる多角的・多層的な視野を養います。アカデミックな研究の手法を修得するとともに、教室での座学に終始せず、学外でさまざまなフィールド活動を実施することにより、現場でのマネジメント能力も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

原則として学年の別なく合同でゼミを実施します。幾つかの文献資料 (論文、芸術批評、新聞・雑誌記事など) を手がかりにしながら、アートに関わるさまざまなトピックスについて、グループもしくは個人で研究を進め、その成果を発表します。併せて、ゼミ生が共同で文化芸術に関連するプロジェクトを実施します (そのための企画や準備は、サブゼミの時間を利用します)。そのほか、ゼミ活動に必要な文献検索の方法やインタビュー調査法などのレクチャーも随時実施します。授業のフィールドバックは、ゼミの時間のはじめに随時行うとともに、必要に応じて面談の機会も設けます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	文献研究①	文化やアートをめぐる現状を理解するために文献研究を行う。
3	文献研究②	文献から課題を抽出し、問題設定を行う。
4	文献研究③	設定したテーマについて先行研究のサーベイを行う。
5	文献研究④	テーマに関連した資料やデータを収集する。
6	文献研究⑤	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
7	プレゼンテーション①	前半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
8	プレゼンテーション②	後半のグループが研究の途中経過を報告し、全体でディスカッションを行う。
9	研究の実践①	ゼミ論の執筆に向けて、研究テーマを設定する。
10	研究の実践②	研究テーマに関する先行研究のサーベイを行う。

11	研究の実践③	テーマに関連した資料やデータを収集し、必要に応じてフィールド調査を実施する。
12	研究の実践④	収集した資料やデータを用いながら論を組み立てる。
13	プレゼンテーション③	前半のグループが研究の成果を報告し、全体でディスカッションを行う。
14	プレゼンテーション④	後半のグループが研究の成果を報告し、ディスカッションを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究成果のプレゼンテーションに向けて、文献調査やデータ収集などの作業を積極的に行うことが求められます。また、ゼミ活動の一環として学内外でさまざまなプロジェクトを行うため、企画立案から実施までかなりの時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しませんが、適宜文献資料を配布します。

### 【参考書】

ゼミにおいて適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (プレゼンテーションの成果、ディスカッションへの参加など)：50%  
期末レポート：50%  
※単位取得の要件として、2年次の終わりにはレポート執筆、3年次の終わりにはゼミ論ないしゼミ活動報告書を作成することが求められます。また4年次には、大学での学習・研究の総まとめとして、卒業論文を執筆することを原則として義務づけます。

### 【学生の意見等からの気づき】

サブゼミにおけるさまざまな活動にもかなりの時間を割く必要がありますが、それによって充実したゼミ活動を行っているという認識が非常に高いようです。

### 【その他の重要事項】

ゼミは、学生たちが自ら主体的に作り上げていくものです。皆さんの積極的な参加を期待します。ゼミ活動には、発表の準備や資料収集・調査など、授業以外にもかなりの時間を割くことが求められます。また、学外の美術館や文化施設に出かける際、入館料や交通費等の費用が若干かかることを予めご了承ください。

### 【Outline (in English)】

In this course, students will explore how elements such as art, culture and, creativity can be applied to the way we live and work. Each student will deepen their research in their own area of interest and share the results of their research with other students through presentations and discussions. Students will develop a multifaceted and multi-layered perspective on the relationship between culture, art and society. In addition to mastering academic research methods, students will also acquire management skills through a variety of field activities outside the university. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following:  
Final report (50%) and in class contribution (50%).



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習では、アイルランド・イギリスを対象とした地域研究をテーマにします。今後の日本社会、また国際社会において、私たちはこれまで以上に多様な社会・文化的背景をもつ人々とともに生きていくこととなります。その際、困難が伴う場合もあるでしょう。アイルランドやイギリスの経験は、その際の参考になると考えられます。「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。

スキルとしては、文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、情報まとめ方といったことを身につけます。

### 【到達目標】

以下の4点を到達目標とする。

1. テーマに関する基本的な知識の習得。
2. 文献を読むスキルの向上 (それぞれの文献の論点・エッセンスをきちんとつかむこと)。
3. 必要文献の探し方の習得。
4. 問題関心を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

文献購読・発表、グループディスカッション、グループワークを中心に進めます。文献を読み、各自が毎回レジュメを作成し演習に参加します。レジュメのフィードバックを行うとともに、良い内容については、授業内で共有し、さらなる考察につなげていきます。

【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更の場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、ゼミでのルール<3・4年生との合同>
第2回	レジュメのつくり方、文献の読み方	ゼミにおいて必要な、基本的なスキル——読書ノートのつくり方、報告の仕方、文献講読の基礎——を習得する。
第3回	基本文献講読①	文献を読み、内容の理解を深めたいうでディスカッションをする。(基礎編 文献1)
第4回	基本文献講読②	文献を読み、内容の理解を深めたいうでディスカッションをする。(基礎編 文献2)
第5回	基本文献講読③	文献を読み、内容の理解を深めたいうでディスカッションをする。(基礎編 文献3)
第6回	基本文献講読④	文献を読み、内容の理解を深めたいうでディスカッションをする。(基礎編 文献4)
第7回	後半運営計画の策定 (見直し)	これまでの授業を振り返り、後半の計画について見直しを含めた具体化を行う。
第8回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①	文献サーベイのための、文献の集め方について理解する。

第9回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方②	論文の読み方について理解する (論文の基本構成にもついても確認する)。
第10回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方③	レポートの書き方を習得する (基礎ゼミの内容を踏まえたうえで、より良いレポートを書くにはどうしたらよいか、検討する)。
第11回	文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方④	自分の関心にもとづいたテーマを発表をする (文献の集め方、論文の読み方、レポートの書き方①～③をふまえる)。
第12回	研究発表① <3年生との合同>	研究発表とディスカッション (前半)。
第13回	研究発表② <3・4年生との合同>	研究発表とディスカッション (後半)。
第14回	まとめ <3・4年生との合同>	4年生の卒論発表 全体を振り返り、総括をする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献講読に当たっては、毎回必ず念入りに文献を読み、指定されたやり方にしたがって予習をした上で討論に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業内で指示する。

### 【参考書】

適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。

具体的には、  
授業への参加姿勢・ゼミへの貢献度 50%  
レポートやレジュメ等課題対応・内容 50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

フィードバックを重視しつつ授業運営をすすめます。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

### 【その他の重要事項】

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。3年生終了時までには、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修すること。

### 【Outline (in English)】

The theme of this seminar is British/Irish studies mainly from the perspectives of sociology and culture studies. Students consider issues of multi-cultural coexistence — how people of different cultural and ethnic backgrounds facing difficulties have tackled the issues to solve various social problems in order to create a better civil society.

This course is also designed to develop research and writing skills (finding sources, learning citation styles, and critical reading and writing skills).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading criteria: (1) Seminar report・handouts 50%, (2) In class contribution, seminar discussions 50%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

**演習 (ライフ)****福井 令恵**

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

**【到達目標】**

ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的なかかわりの中で考えることができるようにします。またアカデミックスキルズ (適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力) を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容について、全体および個別のフィードバックを行います。

【注】下記の授業計画は、状況によって一部変更の場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と進め方について説明する。
2	春休みの進捗発表	明する。
3	研究テーマの検討	問いを考える。
4	文献研究①	発表と討論を行う (前半)。
5	文献研究②	発表と討論を行う (中間)。
6	文献研究③	発表と討論を行う (後半)。
7	ここまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
8	調査について学ぶ	情報を収集し、分析する方法について考える。
9	調査について考える	各自の関心、調査の計画を発表する。
10	文献リスト作成	研究テーマに関する先行研究を調べる。
11	研究発表①	研究構想の発表と議論 (前半)。
12	研究発表②	研究構想の発表と議論 (後半)。
13	研究テーマの進め方について計画を立てる①	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する (前半)。
14	研究テーマの進め方について計画を立てる②	研究構想発表と議論を受けて、今後の具体的な進め方を検討する (後半)。
15	総括	まとめ、夏の課題について検討する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

授業で適宜紹介する。

**【参考書】**

ゼミにおいて適宜提示・助言する。

**【成績評価の方法と基準】**

研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。具体的には、発表・レジュメ等の内容 50%、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度 (仲間に対する知的貢献) 50%。

**【学生の意見等からの気づき】**

卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期から論文の書き方を紹介・指導する。

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコンを持参すること。

**【その他の重要事項】**

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。3年生終了時までには、国際地域研究Ⅰ・Ⅱを履修すること。

**【Outline (in English)】**

This course examines the issue of multi-cultural coexistence from the perspectives of sociology and cultural studies. Students will consider what challenges have existed in building a better civil society, what approaches have been taken to address these challenges, and consider how to construct a better civil society. The course is also designed to develop research, and writing skills (finding sources, learning citation styles, and critical reading and writing skills).

Grading criteria: 1) Presentations and handouts 50%, 2) In class contribution, discussions 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

福井 令恵

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考えていきます。テーマに基づき、文献購読、ディスカッション、発表を行います。文献の読解力の向上、必要な文献の探し方、論理的・説得的な議論の展開といったスキルを身につけます。

### 【到達目標】

ゼミのグループ研究を進めるとともに、自分の興味関心をもとにしたテーマを設定し、それを社会的な関わりの中から考えることができるようにします。またアカデミックスキル (適切な文献の探し方・読み方、自分の考えを理論的・説得的にまとめる力) を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

共通文献の読み込みによりさらに知識を習得し、グループでの議論を通じて理解を深めます。また、各自の関心に基づいて文献を収集、整理し、成果をゼミで発表します。その内容について、全体および個別のフィードバックを行います。

【注】下記の授業計画は、受講状況等によって一部変更場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夏休みまでの振り返りと今後の進め方についての意見交換 <2年生との合同>	演習の目的と進め方について説明する。
2	テーマの設定	調査研究の構想。
3	文献研究①	発表と討議を行う (前半)。
4	文献研究②	発表と討議を行う (後半)。
5	研究計画	研究計画を練る。
6	調査研究のデザイン	発表と討議を行う。
7	これまでのまとめ	これまでの内容をまとめ、課題や問題設定について議論する。
8	研究の実践①	進捗状況の報告と質疑 (前半)。
9	研究の実践②	進捗状況の報告と質疑 (中間)。
10	研究の実践③	進捗状況の報告と質疑 (後半)。
11	研究の実践④	テーマに関連した資料やデータを収集し、議論を組み立てる。
12	研究発表① <2年生との合同>	研究発表とディスカッション (前半)。
13	研究発表② <2年生との合同>	研究発表とディスカッション (後半)。
14	まとめ・総括 <2年生と合同>	ゼミ全体のまとめ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究成果の発表に向けて、文献調査やデータ収集などの作業をサブゼミの時間に行うなど、積極的な参加が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業で適宜紹介します。

### 【参考書】

ゼミにおいて適宜提示・助言します。

### 【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み姿勢、ゼミ活動への貢献等を評価する。具体的には、発表・レジュメ・レポートの内容 50%、授業の参加姿勢・ゼミへの貢献度 (仲間に対する知的貢献) 50%。

### 【学生の意見等からの気づき】

卒業論文執筆に関して、長い分量を書くことに対する不安を少なくするために、春学期の段階から論文の書き方を紹介・指導します。

### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

### 【その他の重要事項】

不定期で5・6限にまたがってゼミを実施することがあるので、ゼミの日は、5・6限とも他の予定を入れないようにしてください。3年生終了時までには、国際地域研究 I・II を履修すること。

### 【Outline (in English)】

This course examines the issue of multi-cultural coexistence from the perspectives of sociology and cultural studies. Students will consider what challenges have existed in building a better civil society, what approaches have been taken to address these challenges, and consider how to construct a better civil society.

The course is also designed to develop research, and writing skills (finding sources, learning citation styles, and critical reading and writing skills).

Grading criteria: 1) Presentations, handouts and a seminar report 50%, 2) In class contribution, seminar discussions 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。

人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

### 【到達目標】

- ①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
- ②各地の事例をみる。
- ③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④小論文作成。最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する。
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する。
3	基本文献の講読 (1)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
4	基本文献の講読 (2)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
5	基本文献の講読 (3)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
6	基本文献の購読 (4)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
7	テーマに関する文献の講読 (1)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
8	テーマに関する文献の講読 (2)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
9	テーマに関する文献の講読 (3)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
10	テーマに関する文献の講読 (4)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。

11	小論文発表 (1)	基本文献とテーマによる文献購読をもとに小論文を作成し、意見交換する。
12	小論文発表 (2)	基本文献とテーマによる文献購読をもとに小論文を作成し、意見交換する。
13	小論文発表 (3)	基本文献とテーマによる文献購読をもとに小論文を作成し、意見交換する。
14	現地見学会	参加者の関心のあるテーマについて現地見学する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①基本文献は事前に知らせる。
- ②見学会の行先は参加者と検討する。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書：広井良典『コミュニティを問い直す』2009年、ちくま新書

### 【参考書】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)  
 討論を含む授業への積極的参加 (30%)  
 個人またはグループ発表 (20%)  
 レポート (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

### 【学生が準備すべき機器他】

随時使用。

### 【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to be will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (20%),Active participation in class, including discussion (30%),Individual or group presentation (20%),Reports(30%)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。  
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

### 【到達目標】

- ①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
- ②各地の事例をみる。
- ③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④小論文作成。  
最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する
3	基本文献の講読 (1)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
4	基本文献の講読 (2)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
5	基本文献の講読 (3)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
6	基本文献の購読 (4)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
7	テーマに関する文献の講読 (1)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
8	テーマに関する文献の講読 (2)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
9	テーマに関する文献の講読 (3)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
10	テーマに関する文献の講読 (4)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。

11	小論文発表 (1)	受講生の関心のあるテーマについて小論文を作成し、意見交換する。
12	小論文発表 (2)	受講生の関心のあるテーマについて小論文を作成し、意見交換する。
13	小論文発表 (3)	受講生の関心のあるテーマについて小論文を作成し、意見交換する。
14	現地見学会	参加者の関心のあるテーマについて現地見学する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①基本文献は事前に知らせる。
- ②見学会の行先は参加者と検討する。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書：広井良典『コミュニティを問い直す』2009年、ちくま新書

### 【参考書】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会  
金山喜昭『公立博物館をNPOに任せたらー市民・地域・自治体の連携ー』同成社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)  
討論を含む授業への積極的参加 (30%)  
個人またはグループ発表 (20%)  
レポート (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

### 【学生が準備すべき機器他】

随時使用。

### 【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to be will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (20%),Active participation in class, including discussion (30%),Individual or group presentation (20%), Reports(30%)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

金山 喜昭

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木6/Thu.6 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。  
人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

### 【到達目標】

- ①「地域コミュニティ」に関する考え方を理解する。
- ②各地の事例をみる。
- ③参加者のそれぞれのテーマを実現することができるスキルや方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

基本的な授業の流れは、①共通するテーマに関する文献の購読、②現地見学、③プレゼンテーションと討論、④小論文作成。  
最終授業で、授業内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題や発表に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	参加者のテーマの確認と、授業の進め方を確認する
2	ゼミ運営の作成	具体的にゼミの進行計画を作成する
3	基本文献の講読 (1)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
4	基本文献の講読 (2)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
5	基本文献の講読 (3)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
6	基本文献の購読 (4)	基本文献のテキスト批評と意見交換。「地域コミュニティ」をテーマにする (教科書による)。
7	テーマに関する文献の講読 (1)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
8	テーマに関する文献の講読 (2)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
9	テーマに関する文献の講読 (3)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。
10	テーマに関する文献の講読 (4)	基本文献のテキスト批評と意見交換 (受講生が関心をもつテーマに則して選書する)。

11	小論文発表 (1)	受講生の関心のあるテーマについて小論文を作成し、意見交換する。
12	小論文発表 (2)	受講生の関心のあるテーマについて小論文を作成し、意見交換する。
13	小論文発表 (3)	受講生の関心のあるテーマについて小論文を作成し、意見交換する。
14	現地見学会	受講生の関心のあるテーマについて現地見学する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ①基本文献は事前に知らせる。発表に先立ち、(参考文献：河野、P14-29) の形式に則して、発表資料を用意する。
- ②見学会の行先は参加者と検討する。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書：広井良典『人口減少社会という希望——コミュニティ経済の生成と地球倫理』2013年(朝日選書)

### 【参考書】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会  
金山喜昭『公立博物館をNPOに任せたらー市民・地域・自治体の連携ー』同成社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)  
討論を含む授業への積極的参加 (30%)  
個人またはグループ発表 (20%)  
レポート (30%)

### 【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切に授業を運営する。

### 【学生が準備すべき機器他】

随時使用。

### 【Outline (in English)】

(Outline)

This course aims to be will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least two hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (20%),Active participation in class, including discussion (30%),Individual or group presentation (20%),Reports(30%)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦 (パートナー)」というものをテーマとする。

### 【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。  
 ・自己理解 (自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する)。  
 ・他者理解 (現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる)。  
 ・家族生活を通じた将来のデザイン (自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活 (恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等) や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える)。  
 ・調査スキルの獲得 (実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査 (アンケート調査) を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己理解・他者理解 にむけたワーク 1	自己や他者を理解するため、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を始める。
2	自己理解・他者理解 にむけたワーク 2	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を進める。
3	自己理解・他者理解 にむけたワーク 3	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解を深める。
4	自己理解・他者理解 にむけたワーク 4	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解だけでなく、他者理解も行う。
5	自己理解・他者理解 にむけたワーク 5	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を進める。
6	自己理解・他者理解 にむけたワーク 6	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解および他者理解を深める。
7	自己理解・他者理解 にむけたワーク 7	各種のワークを行うことにより、家族生活を中心にした自己理解・他者理解を洗練させ、整理する。
8	文献購読 1	家族に関する文献を読み始め、ディスカッションを行う。

9	文献購読 2	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。
10	文献購読 3	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
11	文献購読 4	家族に関する文献を読み、ディスカッションをさらに洗練させる。
12	文献購読 5	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、さらに理解を深める。
13	総合的整理 1	既読の文献を整理し、各自で見解をまとめる。
14	総合的整理 2	既読の文献をまとめ、その総括的な議論を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

### 【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題50%

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

### 【Outline (in English)】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦 (パートナー)」というものをテーマとする。

### 【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。  
 ・自己理解 (自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する)。  
 ・他者理解 (現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる)。  
 ・家族生活を通じた将来のデザイン (自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活 (恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等) や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える)。  
 ・調査スキルの獲得 (実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査 (アンケート調査) を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献購読ガイダンス	家族に関する文献を検索し、ディスカッションを行う。
2	文献購読1	家族に関する文献を実際に読み、ディスカッションを行う。
3	文献購読2	家族に関する文献を読み、ディスカッションを深める。
4	文献購読3	家族に関する文献を読み、ディスカッションを行い、各自スビーチをする。
5	文献購読4	家族に関する文献を読み、ディスカッションしてきたことを整理する。
6	社会調査1	ゼミ生共同で1つの調査 (アンケート) を行うための調査デザインを始める。
7	社会調査2	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める (仮説作成)。
8	社会調査3	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める (標本設定)。

9	社会調査4	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める (質問紙作成)。
10	社会調査5	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める (質問紙洗練)。また、各自で質的調査 (インタビュー) を進める。
11	社会調査6	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める (予備調査)。また、各自で質的調査 (インタビュー) を進める。
12	社会調査7	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める (予備調査結果の解釈)。また、各自で質的調査 (インタビュー) を進める。
13	社会調査8	ゼミ生共同で1つの調査を行うための調査デザインを進める。また、各自で質的調査 (インタビュー) を進める。
14	総合的整理	調査デザインの進展や不備を振り返り、さらに洗練させる。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

### 【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題50%

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

### 【Outline (in English)】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

齋藤 嘉孝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代の日本では、虐待・DV、あるいは“でき婚”・子育て不安・夫婦不仲・離婚・不妊・晩婚化・熟年離婚など、家族に関する話題に事欠かない。本演習では「家族」あるいは「親子」「夫婦 (パートナー)」というものをテーマとする。

### 【到達目標】

次のような事項を具体的な目標として、キャリアデザインを学ぶ。  
 ・自己理解 (自分自身のこれまでの家族生活を振り返り、自己を洞察する)。  
 ・他者理解 (現代の家族は自分の経験している家族ばかりでなく、多様であることを理解し、自己の視野の枠組みやこだわりなどを自覚することで、他者の家族への偏見や差別を軽減させる)。  
 ・家族生活を通じた将来のデザイン (自己や他者を理解することにより視野を広げ、今後の自己の家族生活 (恋愛および結婚・夫婦関係・子育て・介護等) や就業・働き方、交友関係や地域生活の築き方について考える)。  
 ・調査スキルの獲得 (実際に調査を行うことで、情報収集や分析の具体的スキルを修得する)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

まず自己理解・他者理解を、いくつかのワークを通して進める。次に、家族に関する文献を読み、ディスカッションを行う。同時に、興味ある家族生活を送る人や、家族を支援する専門職などを対象に、各自でインタビュー調査をおこなう。また、のちに量的調査 (アンケート調査) を共同で行うため、調査デザインを進める。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会調査 1	ゼミ生共同で1つの調査 (アンケート) を行うための調査を進める。本調査に向けた手続きをする。
2	社会調査 2	質問紙の整理をする。標本デザインを洗練させる。
3	社会調査 3	質問紙を配布 (回収) するとともに、整理・管理の仕方を学ぶ。
4	社会調査 4	質問紙の回収を終え、有効票・無効票などのチェックを行う。
5	社会調査 5	データ入力の仕方を学ぶ。欠損値等の扱いについて学ぶ。
6	社会調査 6	データ入力を完了させる。
7	社会調査 7	データクリーニングを行う。
8	統計的分析 1	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。記述統計を学ぶ。
9	統計的分析 2	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を学ぶ。
10	統計的分析 3	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。クロス表分析を深める。
11	統計的分析 4	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を学ぶ。

12	統計的分析 5	卒論にむけて、統計的な分析を学習する。分散分析を深める。
13	各自報告	各自で進めた統計分析の結果を報告する。
14	総合的整理	調査結果や分析結果を整理し、ディスカッションする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ふだんから、家族やそれを取り巻く環境に興味を持っておくことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

### 【参考書】

授業内で必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題50%

### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の目線に立ち、実践的かつ学術的な内容でありたい。

### 【Outline (in English)】

This course deals with families, parent and children, and partners. We see many family problems in this society such as abuse, domestic violence, marriage before child-birth, anxiety of child-rearing, marital discord, divorce, too late marriage, and old-age divorce. We learn these problems through many ways (e.g., discussion, paper-reading, analyses, surveys, interviews). Learning objectives of this course are to understand students themselves and others, to design their careers regarding family life and to get research methodology skills. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習テーマは「自分で考える力を身につけよう!」です。

ニュース記事等をもとにしたディスカッションを通して、ゼミ生同様の多様な意見に触れ、ものの見方の幅を広げつつ、自分なりの考えをまとめ、説明するトレーニングを行います。

さらに、年度末の研究発表会に向けたグループワークにおいて、関心のある社会学的テーマを選択し、データ・資料を収集しながら、中間報告・ディスカッションを行い、自分たちの考えをまとめあげていきます。

### 【到達目標】

ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッションを通して、自分で考え説明できる力を身につけるとともに、グループワークにおいて自分たちでテーマを選択し、データ・資料を収集しながら、研究発表会に向けて考えをまとめあげることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ニュース記事等の読解をもとに行うディスカッション、②研究発表会に向けたグループワーク (中間報告・ディスカッション) です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきます。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の到達目標・テーマ、概要・方法
2	テキスト購読 (1)	社会的存在としての人間
3	テキスト購読 (2)	社会学の考え方
4	テキスト購読 (3)	社会生活の諸相
5	学生研究発表会準備 (1)	研究における問いという観点から
6	学生研究発表会準備 (2)	仮説構成という観点から
7	学生研究発表会準備 (3)	先行研究のサーベイという観点から
8	ニュース記事ディスカッション (1)	行為の分析
9	ニュース記事ディスカッション (2)	秩序の解説
10	ニュース記事ディスカッション (3)	社会の構想
11	研究発表会中間報告 (1)	データの整理・分析を中心に
12	研究発表会中間報告 (2)	論理整合性・ストーリーラインを中心に
13	研究発表会中間報告 (3)	問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に

14 総括

ゼミ内容の総合的なまとめ・振り返り

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

研究発表に必要なデータ・資料を収集しつつ、可能な範囲で構想を練り、中間報告に備えてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講後にお伝えします。

### 【参考書】

授業中に随時、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

提出課題 (50%)、平常点 (50%)。

提出課題については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、課題の達成度の状況を基準とします。

平常点については、授業への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The practice theme is "Develop Your Thinking Skill!"

Through discussions based on news articles, etc., students mutually share diverse opinions with other classmates, widen their scopes, and cultivate skills to form their own opinions and explain them.

Furthermore, in the groupwork for the year-end presentation, students select social and cultural themes they are interested in, collect data and materials, and form their collective opinions through interim reports and discussions.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

- A. Acquiring the abilities for thinking and explaining by yourselves through the discussions about various news articles.

- B. Assembling considerations for the workshop by selecting the topics and gleaning literature and data by yourselves.

(Learning activities outside of classroom)

Before the workshop, you will be expected to make the concept gleaning literature and data by yourselves.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Assignments : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会学的に研究し、ゼミ論 (3年次)、卒論 (4年次) を作成できるようになることをめざします。社会学的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

### 【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- (3) ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表・全体ディスカッション、②テキスト講読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週のゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して、ゼミ論・卒論の完成をめざしていく予定です。なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション：春学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト講読 (1)	社会の中の人間、集団と個人
3	テキスト講読 (2)	文化と価値
4	テキスト講読 (3)	システムと生活世界
5	テキスト講読 (4)	場面と対面
6	テキスト講読 (5)	変容する家族
7	テキスト講読 (6)	都市の人間関係
8	テキスト講読 (7)	階層移動と学歴
9	テキスト講読 (8)	逸脱と社会変動
10	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表 (1)	研究における問いという観点から
11	ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表 (2)	仮説構成という観点から

- |    |                      |                      |
|----|----------------------|----------------------|
| 12 | ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表 (3) | 調査の方法という観点から         |
| 13 | ゼミ論・卒論作成に向けた構想発表 (4) | データの整理・分析という観点から     |
| 14 | 春学期総括                | 春学期ゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る |

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、構想発表に備えてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

開講後にお伝えします。

### 【参考書】

授業中に随時、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ論・卒論 (50%)、平常点 (50%)。

ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The practice theme is "Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!"

Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.

As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to A, B, and C.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.

- C. Completing seminar essays and graduation theses with the certain standards in quantity and quality.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the presentation by deep consideration with gleaning literature and data.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Seminar essay Graduation thesis : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習テーマは「社会学の考え方：『常識を疑え！』」です。

社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

当ゼミでは、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、ゼミ参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会的に研究し、ゼミ論(3年次)、卒論(4年次)を作成できるようにすることをめざします。社会的な視点・発想に基づいていれば、各自のゼミ論・卒論のテーマは自由です。

### 【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- (3) ゼミ論・卒論を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表・全体ディスカッション、②テキスト講読とそれに基づくディスカッション、③ニュース記事に基づくディスカッション等です。

進行方法に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めますが、毎週のゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して、ゼミ論・卒論の完成をめざしていく予定です。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期オリエンテーション	ゼミ論・卒論完成に向けたオリエンテーション：秋学期ゼミ運営方法に関する話し合い
2	テキスト講読(1)	意味と相互主観性
3	テキスト講読(2)	社会的アイデンティティ
4	テキスト講読(3)	ラベリング・スティグマ、正常／異常
5	テキスト講読(4)	社会構築主義
6	テキスト講読(5)	ジェンダー
7	テキスト講読(6)	社会の中の権力
8	テキスト講読(7)	共同体、国家、市民社会
9	テキスト講読(8)	移民、国民国家、グローバル化
10	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表(1)	問題意識の明確化を中心に
11	ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表(2)	論理整合性・ストーリーラインを中心に

- |    |                     |                       |
|----|---------------------|-----------------------|
| 12 | ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表(3) | 学術的意義・独自性を中心に         |
| 13 | ゼミ論・卒論完成に向けた中間発表(4) | 問いに対応したかたちでの結論の提示を中心に |
| 14 | 年間総括                | 1年間のゼミ内容を総合的にまとめ、振り返る |

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自のゼミ論・卒論執筆に必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表に備えてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

開講後にお伝えします。

### 【参考書】

授業中に随時、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミ論・卒論(50%)、平常点(50%)。

ゼミ論・卒論については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、論文内容の達成度の状況を基準とします。

平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を通して社会学理論をできる限り分かりやすく解説していきます。

また、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等、少人数の参加型授業という側面を重視していきたいと思えます。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

The practice theme is "Invitation to Sociology: Doubt Your Common Sense!"

Upon obtaining basic sociological viewpoints and way of thinking, students cultivate individual ability to sociologically analyze themes they are personally interested in.

As long as the discourse is based on sociological views and ideas (which are covered in textbook-based lessons), students may choose their own themes for seminar essays and graduation theses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to A, B, and C.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

- B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.

- C. Completing seminar essays and graduation theses with the certain standards in quantity and quality.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the presentation by deepen consideration with gleaning literature and data.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Seminar essay Graduation thesis : 50%, in class contribution: 50%

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

演習 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
- ②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
- ③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク

6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロテアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロテアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク
9	プロテアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロテアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロテアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】  
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】  
必要に応じて参考資料を配付します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（70％）、期末レポートや講義内課題（30％）による総合評価

**【学生の意見等からの気づき】**

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

**【その他の重要事項】**

\*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものをばせるようサポートしていきます。

**【Outline (in English)】**

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills, as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

演習 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
- ②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
- ③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク

6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロテアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロテアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク
9	プロテアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロテアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロテアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】  
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】  
必要に応じて参考資料を配付します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（70％）、期末レポートや講義内課題（30％）による総合評価

**【学生の意見等からの気づき】**

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

**【その他の重要事項】**

\*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものをばせるようサポートしていきます。

**【Outline (in English)】**

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills, as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.



SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

演習 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木6/Thu.6 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア理論の最新動向を英文ジャーナルを通じて理解を深め、社会動態の動向を経験的事例と個人的な関心にひきつけて考えていくことを狙いとしています。

【到達目標】

- ①毎週の英文ジャーナルの輪読により、英文のリーディングスキルを向上させることができます。
- ②共通課題のグループワークを通じて、他の受講者の考えを理解した上で自分の考えを述べるできるようになります。
- ③プレゼンテーションの機会を通じて、伝える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本講座は、キャリア理論の最先端の動向を把握する為に、①最新英文ジャーナルを読み、②グループワークで共通テーマを深堀していきます。議論から導き出されたテーマを翌週に③プレゼンテーションをして、知識の相互理解を深めていきます。尚、本講座の取り組みと卒業論文の執筆は連動しています。理論の理解と経験的事例の分析をもとに、個人研究もまとめていきます。フィードバックは、リアクションペーパーへの全体総括と適宜、個別コメントを各講義の冒頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	キャリア理論の包括的な理解①	THE BIG FIVE CAREER THEORIES S. Alvin Leung のディスカッションとグループワーク
2	キャリア理論の包括的な理解②	Holland's theory of career choice John Holland のディスカッションとグループワーク
3	キャリア理論の包括的な理解③	THE SYSTEMS THEORY FRAMEWORK OF CAREER DEVELOPMENT AND COUNSELING: CONNECTING THEORY AND PRACTICE Wendy Patton のディスカッションとグループワーク
4	グローバルキャリア理論の包括的な理解①	REVIEWING GLOBAL CAREER DIMENSIONS: TOWARDS A FUTURE RESEARCH MODEL TINEKE CAPPELLEN のディスカッションとグループワーク
5	グローバルキャリア理論の包括的な理解②	Developing Career Capital for Global Careers: The Role of International Michael Dickmann のディスカッションとグループワーク

6	グローバルキャリア理論の包括的な理解③	CONTEXT AND GLOBAL MOBILITY: DIVERSE GLOBAL WORK ARRANGEMENTS Wolfgang Mayrhofer のディスカッションとグループワーク
7	プロテアンキャリア理論の包括的な理解①	SUCCESS IN THE PROTEAN CAREER: A PREDICTIVE STUDY OF PROFESSIONAL ARTISTS AND TERTIARY ARTS GRADUATES Ruth Bridgstock のディスカッションとグループワーク
8	プロテアンキャリア理論の包括的な理解②	Reassessing the protean career concept: empirical findings, conceptual components, and measurement GUBLER, M., ARNOLD のディスカッションとグループワーク
9	プロテアンキャリア理論の包括的な理解③	THE MEDIATING EFFECT OF PERCEIVED EMPLOYABILITY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN PROTEAN CAREER ORIENTATION, AFFECTIVE COMMITMENT AND SUBJECTIVE CAREER SUCCESS AMONG ACADEMICS IN PAKISTAN By JUNAID ZAFAR のディスカッションとグループワーク
10	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解①	Traditional to Boundaryless Career : Redefining Career in 21st Centaury Anshu Lochab
11	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解②	Is the Boundaryless Career Applicable to all?An Investigation of Black Knowledge Intensive Workers in the UK のディスカッションとグループワーク
12	バウンダリーレスキャリア理論の包括的な理解③	Boundaryless career and career success: the impact of emotional and social competencies Fabrizio Gerli のディスカッションとグループワーク
13	プロテアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解①	Protean and boundaryless careers: An empirical exploration Jon P. Briscoe のディスカッションとグループワーク
14	プロテアンキャリアとバウンダリーレスキャリアの理論的相違に関する理解②	Protean and boundaryless career attitudes scale: Spanish translation and validation Mihaela Enache のディスカッションとグループワーク

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】  
課題英文の輪読とクリティカルレビューコメントの準備本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】  
必要に応じて参考資料を配付します。

【参考書】  
必要に応じて参考資料を配付します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（70％）、期末レポートや講義内課題（30％）による総合評価

**【学生の意見等からの気づき】**

適宜、補足論文を共有サイトにアップします。

**【その他の重要事項】**

\*ゼミでは、英語文献を読んでいく機会が多くなると思います。ただし、履修時に英語が苦手でも問題ありません。具体的でわかりやすい事例を取り上げていきながら、英語にも次第に慣れていきましょう。もちろん、英語が得意だという学生も歓迎します。そのような学生には、さらに、飛躍的に英語力ものをばせるようサポートしていきます。

**【Outline (in English)】**

This course introduces research methods, academic writing and practical presentation skills, as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

**【Work to be done outside of class】**

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading criteria】**

Submission assignment (20%), normal score (80%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of qualitative research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習 (ゼミ) の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この2つの柱をもとに、どのような人間の行動や心理が社会のなかでより良く生きる (live a good life), よい人生を送ること、つまりライフキャリアの質を高めることにつながるのかについて検討します。そして、どのような取り組み (プログラム) がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。

### 【到達目標】

- ① 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
- ② 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因(問題)の分析が行えるようになる。
- ③ 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び、研究していく形で全く問題ありません。ただ、そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく、より広く社会の関心事 (例：社会課題) であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように、つまり“そんなことが分かってどうするのか (so what?)”あるいは“そんなことを研究して何になるのか (for what?)”とならないように、できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み、個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また3年生と共同で調査データの収集・分析を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など
第2回	ウェルビーイング①	ライフキャリア支援の考え方について、ウェルビーイングの視点から学ぶ。(概念の復習・映像資料)
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングについての論点整理および仮説生成。(グループワークによる論点整理・仮説生成)
第4回	学年別ゼミ①	ゼミ論構想発表 (2年)、ゼミ論データ分析演習 (3年)
第5回	コミュニティ感覚①	コミュニティ感覚についての論点整理と仮説生成。
第6回	コミュニティ感覚②	前回の仮説生成に基づく研究アイデアの検討。
第7回	学年別ゼミ②	データ分析演習 (2年)、ゼミ論進捗報告 (3年)。
第8回	エンパワメント①	エンパワメント概念の論点整理。

第9回	エンパワメント②	グループワークによる仮説生成。
第10回	予防科学①	コミュニティ心理学に基づく予防科学の論点整理と仮説生成。
第11回	予防科学②	予防科学の仮説生成 (続)
第12回	ゼミ論構想発表会	3年のゼミ論構想発表会およびディスカッション。
第13回	今後の研究課題の検討	コミュニティ心理学に基づく研究課題の設定。
第14回	卒業論文発表会	4年の卒論発表会およびディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を活用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布する。また課題図書(テキスト)は授業時に検討・決定する。

### 【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之, 2011, 新曜社)

### 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表 (50%)、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.

#### Goal

- ・ Know programs that are relevant to individual and community well-being
- ・ Understand ways of analyzing social issues and solving those problems.
- ・ Understand your own quality of life from psychological points of view.

#### Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom (2hrs for reading and 2hrs for outreach studies).

#### Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities

50 points (%) for class presentations

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ライフキャリア支援を目的として実施されるプログラムの分析を行う。またキャリアデザインに関する量的調査研究の計画・実施・分析方法を学ぶ。

### 【到達目標】

- ① 各自が関心をもつプログラムの分析・評価スキルを習得する。
- ② 量的調査研究の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この授業(演習)では、各自の研究テーマに沿ったプログラムの分析を行う。2年次に行った社会課題の分析を通して、課題解決に向けたプログラムのゴールの明確化を行う。そして、各自のプログラムのロジックモデルを完成させる。

またキャリアデザインの調査研究の演習として、グループで量的調査を計画・実施する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ内容の説明。
第2回	個人研究テーマの検討と共有①	2年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する (前半)。
第3回	個人研究テーマの検討と共有②	2年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する (後半)。
第4回	個人研究テーマの検討と共有③	2年次に検討した課題の分析結果をもとに各自の研究テーマを共有する (まとめ)。
第5回	ライフキャリア調査研究の検討①	ゼミでのワークとして、グループで量的調査の計画・準備を行う。
第6回	ライフキャリア調査研究の検討②	ゼミでのワークとして、テーマの設定・先行研究の検討・質問項目の作成を行う。
第7回	ライフキャリア調査研究の検討③	ゼミでのワークのまとめを行う。
第8回	ライフキャリア調査研究の実施①	調査を実施し、データの分析を行う。
第9回	ライフキャリア調査研究の実施②	調査を実施し、結果の考察を行う。
第10回	ライフキャリア調査研究の実施③	調査を実施し、データの分析および結果の考察の整合性を確認する。
第11回	ライフキャリア調査研究の実施④	調査を実施し、データの分析および結果の考察の最終確認をする。
第12回	ライフキャリア調査研究の実施⑤	調査実施に関して全体のまとめを行う。
第13回	個人研究の進捗状況の確認	各自の研究についてゼミで共有し進捗状況を確認する。
第14回	総括	半期のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

個人の研究テーマ(プログラム評価の準備)に関しては、ゼミ以外の時間(個人学習やサブゼミ活用)で継続的に進め、しっかりとプレゼンテーションできるようにしてください。また4年生は、秋学期での卒業論文完成に向けて、サブゼミ等を活用して積極的に論文執筆に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布する。

### 【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之, 2011, 新曜社)

### 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表 (50%)、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【Outline (in English)】

Students will acquire knowledge and skills to develop and evaluation life-designing programs in this seminar. Particular attention will be placed on helping students to develop quantitative-analytic techniques to conduct related research studies.

Learning Objectives:

- ・ Build analytic skills to evaluation programs that you are interested in

2. Gain skills to conduct quantitative research

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom. Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities

50 points (%) for class presentations

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この演習 (ゼミ) の学びの柱はコミュニティ心理学とプログラム評価です。この2つの柱をもとに、どのような人間の行動や心理が社会のなかでより良く生きる (live a good life), よい人生を送ること、つまりライフキャリアの質を高めることにつながるのかについて検討します。そして、どのような取り組み (プログラム) がライフキャリアの質向上に貢献できるのかについて各自の研究テーマをもとに考えていきます。前半のコミュニティ心理学につづき、後半ではプログラム評価について学びます。

### 【到達目標】

- 個人や集団に対して実施されるライフキャリア・プログラムの実情を知る。
- 自らが関心をもつ社会課題を理解し、その原因(問題)の分析が行えるようになる。
- 今後のライフキャリアについて心理学の視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

皆さんが興味・関心のあるテーマは人それぞれだと思います。各自がゼミで取り組みたいというテーマを自主的に選び、研究していく形で全く問題ありません。ただ、そのテーマが単なる自分の関心事というだけでなく、より広く社会の関心事 (例：社会課題) であることが大切であると考えています。自己満足の研究で終わってしまわないように、つまり“そんなことが分かってどうするのか (so what?)”あるいは“そんなことを研究して何になるのか (for what?)”とならないように、できるだけ「自分だけでない誰かのライフキャリアの質を高めるための視点」から問いを立てるところからスタートしてください。ゼミでは課題図書や論文を読み、個人研究テーマに関するディスカッションを行います。また3年生と共同で調査データの収集・分析を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。以上の方法を用いて、プログラム評価の基礎と応用を学びます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など
第2回	プログラム評価とは	プログラム評価研究に関する主要概念の確認
第3回	プログラム評価の方法論	課題学習の資料を基にしたプログラム評価の基礎の学び
第4回	評価の検討①	ライフキャリア入門C・世代間交流論で扱ったプログラムの検討 (グループワーク)
第5回	学年別ゼミ	構想発表 (2年), データ分析演習 (3年)
第6回	評価の検討②	ライフキャリア入門C・世代間交流論で扱ったプログラムの検討 (グループワーク)
第7回	ロジックモデルの作成①	ロジックモデルの開発に向けた情報収集・整理

第8回	学年別ゼミ	データ分析演習 (2年), ゼミ論進捗状況の報告 (3年)
第9回	ロジックモデルの作成②	ロジックモデルの開発・精査
第10回	ロジックモデルの作成②	コミュニティ心理学に基づく予防科学の論点整理と仮説生成。
第11回	評価クエスチョン・実験デザインによるプログラム評価①	評価における疑問点と実験デザインの検討
第12回	実験デザインによるプログラム評価②	実験デザインを活用したプログラム評価の検討
第13回	今後の研究課題の検討	プログラム評価に基づく研究課題の設定。
第14回	卒業論文発表会	4年の卒論発表会およびディスカッション

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

地域社会や様々な人々のライフキャリアの課題について考えるようにしてください。ゼミの時間以外の個人学習およびサブゼミ等を利用して、自分自身が探求したい研究テーマの設定をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布する。また課題図書(テキスト)は授業時に検討・決定する。

### 【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために(ワードマップ)」(安田節之, 2011, 新曜社)

### 【成績評価の方法と基準】

個人・グループ発表 (50%)、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (50%) を総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

ゼミで学ぶ専門知識とライフキャリアの学びとのバランスをとる。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this seminar is to help students understand the theory and methods of community psychology and program evaluation. Based on those understanding, students are to learn about how they can build their careers in the future for the purpose of living a good live in the future.

#### Goal

- Know programs that are relevant to individual and community well-being
- Understand ways of analyzing social issues and solving those problems.
- Understand your own quality of life from psychological points of view.

#### Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(2hrs for reading and 2hrs for outreach studies)..

#### Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for participation, class assignments, and group activities

50 points (%) for class presentations

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

### 【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

3年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第3回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第4回	社会心理学研究の実施・発表①	3人程度のグループを作り、研究テーマについて検討します。
第5回	社会心理学研究の実施・発表②	グループでの研究テーマを再度検討します。
第6回	社会心理学研究の実施・発表③	グループでの研究テーマについて決定します。
第7回	社会心理学研究の実施・発表④	決定したテーマについて、検討対象を具体化します。
第8回	社会心理学研究の実施・発表⑤	決定したテーマに対して研究方法について議論します。
第9回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究方法について決定します。
第10回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立てます。
第11回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を発表します。
第12回	社会心理学研究の実施・発表⑨	発表に対するコメントに基づいて、研究結果を修正します。
第13回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集を行います。
第14回	社会心理学研究の実施・発表⑪	収集したデータの分析を行い、結果を発表します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

### 【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表内容の出来 (50%) とディスカッションの内容 (50%) から評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

### 【Outline (in English)】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

### 【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

3年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第3回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第4回	社会心理学研究の実施・発表①	3人程度のグループを作り、研究テーマについて検討します。
第5回	社会心理学研究の実施・発表②	グループでの研究テーマを再度検討します。
第6回	社会心理学研究の実施・発表③	グループでの研究テーマについて決定します。
第7回	社会心理学研究の実施・発表④	決定したテーマについて、検討対象を具体化します。
第8回	社会心理学研究の実施・発表⑤	決定したテーマに対して研究方法について議論します。
第9回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究方法について決定します。
第10回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立てます。
第11回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を発表します。
第12回	社会心理学研究の実施・発表⑨	発表に対するコメントに基づいて、研究結果を修正します。
第13回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集を行います。
第14回	社会心理学研究の実施・発表⑪	収集したデータの分析を行い、結果を発表します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

### 【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表内容の出来 (50%) とディスカッションの内容 (50%) から評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

### 【Outline (in English)】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 演習 (ライフ)

熊谷 智博

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水6/Wed.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私達が生活している社会では様々な問題が生じます。これらについて社会心理学を中心に人間科学や社会科学の知識を用いて、その原因と変化の過程について「診断」し、それが人々の生活に対して深刻な問題を与えるならばそれを解決する「治療」のためにはどうすれば良いかをゼミ生ともに考え、体系化していきます。z

### 【到達目標】

ゼミ生が各自で取り上げた問題点について、科学的な研究方法を用いて検討できる能力を身につけ、将来のキャリア形成に役立てられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

3年次ゼミでは先行研究を元に、研究を計画、実施することでデータを収集し、それを分析・考察することで、社会心理学研究を実際に経験して貰います。同時に各ゼミ生が既に獲得している知識についてもプレゼンテーションをして貰います。また必要に応じて学外にて文化的活動を行い、教養を高めます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ゼミの活動方針、全体としての目標、扱うテーマの範囲等について説明します。
第2回	社会心理学研究の基礎知識	社会心理学の基本的知識について議論します。
第3回	社会心理学の研究計画法	社会心理学研究を実際に行う方法について議論します。
第4回	社会心理学研究の実施・発表①	3人程度のグループを作り、研究テーマについて検討します。
第5回	社会心理学研究の実施・発表②	グループでの研究テーマを再度検討します。
第6回	社会心理学研究の実施・発表③	グループでの研究テーマについて決定します。
第7回	社会心理学研究の実施・発表④	決定したテーマについて、検討対象を具体化します。
第8回	社会心理学研究の実施・発表⑤	決定したテーマに対して研究方法について議論します。
第9回	社会心理学研究の実施・発表⑥	研究方法について決定します。
第10回	社会心理学研究の実施・発表⑦	研究計画を立てます。
第11回	社会心理学研究の実施・発表⑧	研究計画を発表します。
第12回	社会心理学研究の実施・発表⑨	発表に対するコメントに基づいて、研究結果を修正します。
第13回	社会心理学研究の実施・発表⑩	研究計画を立て、それに基づいてデータの収集を行います。
第14回	社会心理学研究の実施・発表⑪	収集したデータの分析を行い、結果を発表します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ゼミでは発表が中心となるため、授業時間外に各自で事前に調査、準備しておく必要があります。グループワークなどではゼミ生同士で予定の調整などをして貰います。また必要に応じてゼミの時間外に個別に指導する場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

### 【参考書】

授業開始時点では特定の参考書の指定は行いません。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介いたします。

### 【成績評価の方法と基準】

ゼミでの発表内容の出来 (50%) とディスカッションの内容 (50%) から評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを中心に授業を進めますので、その際に出てきた意見を積極的に取り入れます。

### 【Outline (in English)】

In this seminar course, students will learn how to conduct social psychological study and discuss about results.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation of your study: 50%, discussion with other members: 50%.



EDU400MA (教育学 / Education 400)

**卒業論文 (発達・教育)**

遠藤 野ゆり

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

質の高い卒業論文を書きます。データを収集する方法、根拠を示しながら論理的に読者を説得する力を習得します。考えを文章でまとめ、わかりやすく表現する能力を習得します。

**【到達目標】**

明確な問いを立ててそれに対する適切なデータ・資料を収集し価値ある考察をする。それを文章で適切に表現する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

4年生は卒業論文の報告とディスカッションの繰り返しです。1カ月に1度、進捗状況を確認する面談もしくはメールでの相談を行います。卒業論文の執筆状況を鑑みながら適宜個別面談にてフィードバックを行います。11月中旬に時間外授業にて卒業論文の全員報告会を行います。これに対するフィードバックはメールにて行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	卒業論文構想発表	卒業論文の構想を発表します。授業全体の計画を立てます。
2	卒業論文進捗状況発表①	卒業論文執筆者1人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
3	卒業論文進捗状況発表②	卒業論文執筆者2人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
4	卒業論文進捗状況発表③	卒業論文執筆者3人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
5	卒業論文進捗状況発表④	卒業論文執筆者4人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
6	卒業論文進捗状況発表⑤	卒業論文執筆者5人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
7	卒業論文進捗状況発表⑥	卒業論文執筆者6人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
8	卒業論文進捗状況発表⑦	卒業論文執筆者により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。

9	卒業論文進捗状況発表⑧	卒業論文執筆者7人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
10	卒業論文進捗状況発表⑨	卒業論文執筆者8人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
11	卒業論文進捗状況発表⑩	卒業論文執筆者9人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
12	卒業論文進捗状況発表⑪	卒業論文執筆者10人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
13	卒業論文進捗状況発表⑫	卒業論文執筆者11人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
14	卒業論文進捗状況発表⑬	卒業論文執筆者12人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
15	卒業論文進捗状況発表⑭	卒業論文執筆者1・2人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
16	卒業論文進捗状況発表⑮	卒業論文執筆者3・4人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
17	卒業論文進捗状況発表⑯	卒業論文執筆者5・6人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
18	卒業論文進捗状況発表⑰	卒業論文執筆者7・8人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
19	卒業論文進捗状況発表⑱	卒業論文執筆者9・10人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
20	卒業論文進捗状況発表⑲	卒業論文執筆者11・12人目により卒業論文の進捗状況の報告と今後の方針についてのディスカッションを行います。
21	卒業論文最終報告前半	卒業論文の最後の報告会を行います (前半)
22	卒業論文最終報告後半	卒業論文の最後の報告会を行います (後半)
23	卒業論文口述試験前半	卒業論文の口述試験を行います (前半)
24	卒業論文口述試験後半	卒業論文の口述試験を行います (後半)。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

データを取り卒業論文を執筆する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。卒業論文の調査、執筆は各自が授業時間外で行い、授業では、進捗状況の報告と合評を行います。

**【テキスト (教科書)】**

なし

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

卒業論文100%

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートからは特に要望はありませんが、受講生の要望に応じて柔軟に対応します。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンを持参してください。

**【その他の重要事項】**

授業時間外でも必要に応じて適宜質問、相談にくること。就職活動等のスケジュールによって授業に参加できない場合は、1カ月に1回程度は進捗状況の報告をすること。

**【Outline (in English)】**

**Course outline**

This class aims to write a high quality thesis.

The aims are to learn how to collect data, to gain the ability to persuade the reader logically with evidences. We will compile sentences with ideas and master the ability to express them clearly.

**Learning Objectives**

The goal of this class is to ask clear questions, collect appropriate data and materials to answer them, conduct valuable considerations, and express them appropriately in writing.

**Learning activities outside of classroom**

The standard time for preparation and review for this class, in which students collect data and write their graduation thesis, is two hours each. Each student will research and write their graduation thesis outside of class hours, and in class they will report on their progress and provide a collective review.

**Grading Criteria /Policy**

Graduation thesis evaluation 100%.

EDU400MA (教育学 / Education 400)

**卒業論文 (発達・教育)**

児美川 孝一郎

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

**【到達目標】**

卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

卒業論文の執筆に向けて、「授業の概要と目的」に書いたように指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックは、そのつど行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。
3	研究方法の概説②	それぞれの研究方法を活用した文献を検討する。
4	研究方法の概説③	それぞれの研究方法の特徴を理解する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
6	テーマの設定②	論文執筆にあたっての問題意識を探究する。
7	テーマの設定③	自らの問題意識を踏まえて、候補となるテーマを考案する。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を幅広く調査する。
9	先行研究の調査②	調査した先行研究を小テーマごとに整理する。
10	先行研究の調査③	先行研究の知見について整理する。
11	先行研究の調査④	先行研究において残された課題を探究する。
12	先行研究の調査⑤	先行研究についての検討をまとめる。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定する。
14	研究計画の確定②	データ収集の方法、分析方法等、実質的な研究内容を構想する。
15	調査データの整備①	論文執筆のための調査を結成する。
16	調査データの整備②	調査データを収集し、整理する。
17	調査データの整備③	収集した調査データデータベース化する。
18	検証仮説の検討①	検証すべき仮説等を設定する。
19	検証仮説の検討②	検証すべき仮説等と先行研究との関連を整理する。

20	検証仮説の検討③	検証すべき仮説等と調査の設計の整合性について検討する。
21	分析の実施①	調査データを用いて仮説の妥当性を検討する。
22	分析の実施②	調査データと仮説との不整合の理由・要因を考察する。
23	論文執筆①	論文の目的、先行研究について執筆する。
24	論文執筆②	検証すべき仮説、調査の設計について執筆する。
25	論文執筆③	調査データに基づいて仮説を検証する。
26	論文執筆④	調査から得られた知見やインプリケーション等について執筆する。
27	リファインの作業①	論文全体を振りかえり、加筆・修正等を行う。
28	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

卒業論文以前に、3年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

特に定めない

**【参考書】**

開講時に指示する

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、研究への取り組み (50%) および論文の内容 (50%) に基づいて行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者からのフィードバックを生かして、卒業論文指導を行う。

**【Outline (in English)】**

This course gives guidance for writing graduation thesis. The goal of this course is to write graduation thesis. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Final grade will be calculated according to the evaluation of graduation thesis.

EDU400MA (教育学 / Education 400)

**卒業論文 (発達・教育)**

**坂本 旬**

単位数：4単位 | 開講semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

3年間の学習成果を論文執筆または映像作品の制作  
 受講生は卒業論文の執筆または卒業制作として映像作品を制作する。

**【到達目標】**

3年間の学習成果をふまえ、自己の問題意識をよりいっそう高めて、学問的社会的に価値のある論文の執筆または映像作品を制作することができる。(要件等については「履修の手引き」参照。)

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

卒論指導は原則として月曜5限または6限目を中心に行う。(3年ゼミに重ならないように調整)。卒論は論文またはドキュメンタリー映像作品(ドキュメンタリードラマも含む)のいずれかとする。どちらを選ぶか、あらかじめ選択しておくこと。

「演習 (発達・教育)」を履修すること。  
 ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。  
 ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックはHOPSを通じて行う予定。  
 ・オフィス・アワーで、課題(試験やレポート等)に対して講評する。  
 ・最終授業で、27回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし/No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学習方法を解説する (Zoomによるオンライン授業)
2	卒論の書き方・作品の作り方(1)	メディアを活用した基本的な論文の書き方と映像作品の作り方
3	卒論の書き方・作品の作り方(2)	テーマの決め方と論文・映像の構成
4	卒論の書き方・作品の作り方(3)	仮のテーマを決める
5	卒論の書き方・作品の作り方(4)	さまざまな情報収集の方法 (Evernoteの活用)
6	卒論の書き方・作品の作り方(5)	OPACによる書誌情報の収集の仕方
7	卒論の書き方・作品の作り方(6)	各種のオンラインデータベースの使い方
8	卒論の書き方・作品の作り方(7)	RefWorks等を活用した情報を管理方法
9	卒論の書き方・作品の作り方(8)	アウトラインプロセッサを活用した論文や作品の構成の作り方
10	卒論の書き方・作品の作り方(9)	情報共有のためのGoogleDocsの使い方
11	テーマの設定と構成(1)	論文や作品のテーマの設定
12	テーマの設定と構成(2)	テーマに関する事前情報の収集と構成

13	テーマの設定と構成(3)	問題意識を整理して文章とリストにまとめる
14	春期授業の振り返り	春期の授業で学んだことを振り返り秋期学習の準備をする
15	テーマの発表	テーマを発表し、いろいろな人の意見を聞く (夏合宿)
16	情報の収集と構成(1)	情報の収集と構成を考える (映像の場合は絵コンテの制作)
17	情報の収集と構成(2)	情報の収集と構成を考える (映像の場合は絵コンテの制作)
18	情報の収集と構成(3)	情報の収集と構成を考える (映像の場合は絵コンテの制作)
19	情報の整理と執筆・撮影の準備	収集した情報をパソコンに取り込んで整理し、執筆や撮影に備える
20	執筆 (撮影・編集) ~完成	完成に向けた論文の執筆 (映像の場合は撮影・編集) と個別指導
21	卒論・卒業制作企画書の制作	企画書のフォーマットに沿って書ける制作
22	卒論・卒業制作企画書の検討	作成した企画書・絵コンテを全員で検討する
23	卒論・卒業制作の分担の決定	執筆または撮影、編集など個々人の分担を決める
24	卒論・卒業制作の制作・撮影の下準備	データの収集および映像撮影のロケハンを行う
25	執筆・撮影の実施	企画書や絵コンテにもとづいて執筆や撮影を行う
26	執筆・撮影の中間報告	執筆・撮影内容を検討し、不足がある場合は執筆や撮影を追加する
27	編集と完成	編集作業を行い、完成させる
28	卒業論文または卒業制作の発表	ゼミの最終日に卒論または卒業制作を発表する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

卒論・卒業作品は基本的に課外学習として行い、授業ではそのためのアドバイスをする場とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**  
 特に指定しない。

**【参考書】**

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)  
 坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局 (2014年)  
 寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

**【成績評価の方法と基準】**

構成、引用・参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。  
 卒業論文の場合は、論文としての形式50%、内容50%、合計100%。  
 卒業制作の場合は、提出文書 (絵コンテを含む) 50%、コンテンツ50%、合計100%。

**【学生の意見等からの気づき】**

論文・卒業作品のテーマはできるだけ早めに決定し、必要なスケジュールをたてる必要がある。

**【学生が準備すべき機器他】**

論文作成にはパソコンを用いる。ドキュメンタリー作品の制作については、DVカメラとパソコンを用いる。

**【その他の重要事項】**

ドキュメンタリービデオを卒論として選択する場合、ビデオ制作は一人一作品とするが、制作過程にゼミ生同士が協力し合うことは可とする。一作品の長さは一人で制作する場合15~20分程度。複数人で制作する場合はこの数字に人数をかけたものとなる。  
 また、ビデオ作品は、映像制作の意図を含む企画書、シナリオ (絵コンテ)、ナレーション原稿、参考文献一覧表、制作記録、等を含め、1万2000字以上の文字原稿を付けて一つの作品とみなす。ビデオだけでは作品と見なさないの、注意すること。  
 その他の詳細については、卒論指導時に紹介する。

**【Outline (in English)】**

Students will choose either a paper or a video work as the outcome of their three-year study. In the case of a paper, the student will write an academic paper on the theme of the seminar. In the case of a video work, students will produce a documentary film. Writing of the paper and video work will be done mainly outside of class, and students will receive guidance as necessary. The paper and video work will be reviewed after completion. Grading will be decided based on paper or video work content(80%) and formality(20%),

EDU400MA (教育学 / Education 400)

**卒業論文 (発達・教育)**

久井 英輔

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：年  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

(授業の概要)  
 発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) における学術研究としての基本を踏まえた卒業論文の作成をすすめる。  
 (授業の目的・意義)  
 発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、または学生が関心を持つその他の領域) に関わるテーマを中心に、実践的関心を踏まえつつ客観的にこれらの対象を把握し、学問的な問いとそれに対する答えを提示できる力を、卒業論文執筆を通じて獲得することを目的とする。

**【到達目標】**

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいはその他学生の関心のある領域) における学術的考察 (問題状況の提示、先行研究の検討、仮説の提示、客観的研究方法に基づいた論証) を提示できる力を、卒業論文執筆を通じて獲得できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

発達・教育領域 (社会教育・生涯学習研究、あるいは学生が関心のあるその他の領域) から各自でテーマを立てて、卒業論文の執筆状況を報告する。基本的には個別指導であるが、必要に応じて複数学生間で報告内容を共有する時間も設ける  
 受講生に対するフィードバックは、基本的に授業内の質疑応答、およびメール等で行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
 あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマに関する問題状況の概観①	自分が関心を持つ研究テーマに関連する問題状況について情報収集する。
第2回	研究テーマに関する問題状況の概観②	自分が関心を持つ研究テーマに関連する問題状況について収集した情報を整理する。
第3回	先行研究の整理・検討①	自分が関心を持つテーマに関わる先行研究を収集する。
第4回	先行研究の整理・検討②	収集した先行研究を整理し、論じられてきた点、論じられていない点を明確にする。
第5回	中間報告①	研究テーマに関する問題状況、先行研究の整理・検討についてこれまでの成果を発表する。
第6回	中間報告②	研究テーマに関する問題状況、先行研究の整理・検討についての発表を基に、学生同士の質疑応答も交えて研究の方向性を討議する。
第7回	仮説の提示①	研究テーマに関する問題状況、先行研究の整理・検討を踏まえて、どのような仮説が提示できるかを検討する。

第8回	仮説の提示②	いくつかの仮説の候補を比較したうえで、どのような仮説の提示を行うかを確定する。
第9回	研究手法の確定①	仮説検証のために必要な研究手法について、複数の可能性を取り上げて検討する。
第10回	研究手法の確定②	仮説検証のために望ましい研究手法を確定する。
第11回	論文構成の検討①	自身の関心や先行研究などをもとに、論文構成案をいくつか作成する。
第12回	論文構成の検討②	複数の論文構成案を検討した上で、構成を確定する。
第13回	中間報告③	仮説、研究手法、論文構成についてこれまでの研究成果を発表する。
第14回	中間報告④	仮説、研究手法、論文構成についての発表を基に、学生同士の質疑応答も交えて研究の方向性を討議する。
第15回	収集データの検討①	仮説検証のため収集したデータを整理する。
第16回	収集データの検討②	収集データについて、予定していた研究手法で分析可能か、再確認する。
第17回	収集データの分析①	収集データについて、自分の仮説検証に最も資する手法で分析を行う。
第18回	収集データの分析②	収集データの分析結果を整理する。
第19回	仮説の検証、考察①	データ分析から仮説の検証を行う。
第20回	仮説の検証、考察②	仮説の検証結果がもたらす学術的意義、実践的意義について考察する。
第21回	中間報告⑤	収集データの分析、仮説の検証とそれを踏まえた考察についてこれまでの研究成果を発表する。
第22回	中間報告⑥	収集データの分析、仮説の検証とそれを踏まえた考察についての発表を基に、学生同士の質疑応答も交えて、論文の完成に向けて必要な作業について討議する。
第23回	論文構成の再検討	ここまでの研究作業を再検討し、以前決定した論文構成の妥当性について再検討する。
第24回	論文草稿の検討①	卒業論文の草稿を作成した上で、論理的な整合性について最終的な確認を行う。
第25回	論文草稿の検討②	卒業論文の草稿を作成した上で、学術論文としての形式について最終的に確認する。
第26回	卒業論文の報告と共有①	完成した卒業論文の内容を発表する。
第27回	卒業論文の報告と共有②	卒業論文の発表をもとに、学生相互でディスカッション (コメント、疑問点の提示など) を行う。
第28回	卒業論文の報告と共有③	卒業論文執筆のプロセスを振り返り、各自の研究上の課題について再確認する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**  
 ・卒業論文の進捗状況の報告作成は、基本的に授業時間外に行うものとする。  
 ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**  
 特に使用しない。

**【参考書】**

津田英二・久井英輔・鈴木真理編『社会教育・生涯学習研究のすすめ：社会教育の研究を考える』学文社、2015年

**【成績評価の方法と基準】**

問題設定・仮説の妥当性とオリジナリティ：20%

先行研究の検討状況：20%

研究方法の妥当性：20%

記述の論理性・形式性：20%

結論の学問的・実践的示唆：20%

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度以前担当していなかったため、フィードバックはありません。

**【Outline (in English)】**

**(Course Outline)**

The aim of this course is to complete graduation thesis on education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students) based on academic formality and logical structure.

**(Learning Objectives)**

The goal of this course is to help students to objectively grasp subjects related to the education (social education, lifelong learning, and other areas of interest to students), and to present scholarly inquiries. This goal will be achieved through writing graduation thesis.

**(Learning Activities Outside of Classroom)**

Your study time will be more than four hours for a class.

**(Grading Criteria /Policy)**

Final grade will be calculated according to the following process: validity and originality of problem formulation and hypotheses (20%), review of previous studies (20%), validity of research methods (20%), logical coherence and formality (20%), academic and practical Implications of the conclusion (20%)

EDU400MA (教育学 / Education 400)

卒業論文 (発達・教育)

仲田 康一

単位数：4単位 | 開講semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

【到達目標】

卒業論文としての要件を備えた論文を執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆に向けて、「授業の概要と目的」に書いたように指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックは、そのつど行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	文献の種類やその収集・整理の方法について説明する。
3	研究方法の概説②	主に質的研究に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の概説③	主に量的研究に依拠した文献を検討する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
6	テーマの設定②	執筆者の問題意識を探る。
7	テーマの設定③	候補となるテーマを洗い出す。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を広く調査する。
9	先行研究の調査②	テーマに関連する先行研究の知見を整理する。
10	先行研究の調査③	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
11	先行研究の調査④	テーマに関連する先行研究について残された課題を整理する。
12	先行研究の調査⑤	テーマに関連する先行研究を踏まえ、自らの研究のオリジナリティを見出す。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを、具体的なデータ収集方法および分析方法等を含めて設定する。
14	研究計画の確定②	研究計画を確定する。
15	調査データの整備①	調査データの収集を行う。
16	調査データの整備②	調査データの整理を行う。
17	調査データの整備③	調査データのデータベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	仮説等に即して暫定的な分析を行い、仮説やリサーチエスチョンにどのような修正が必要か考える。

19	検証仮説の検討②	仮説やリサーチエスチョンの再吟味を行う。
20	検証仮説の検討③	データの状況を踏まえて、仮説やリサーチエスチョンを修正する。
21	分析の実施①	新たな仮説やリサーチエスチョンに基づき、データを分析する。
22	分析の実施②	データ分析を継続し、主要な知見となりそうな結果を明確化する。
23	論文執筆①	論文の目的、先行研究の各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	仮説、研究デザインの各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	検証結果、発見事項とインプリケーションの各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	各パーツを通観し、用語の統一や論理的整合性について確認する。
27	リファインの作業②	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
28	リファインの作業③	誤字脱字や書式の確認を行い、提出版として完成させる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文以前に、3年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に定めない

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、研究への取り組み (50%) および論文の内容 (50%) に基づいて行う。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを生かして、卒業論文指導を行う。

【Outline (in English)】

This course gives guidance for writing graduation thesis.  
 The goal of this course is to write graduation thesis.  
 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.  
 Final grade will be calculated according to the evaluation of graduation thesis.



EDU400MA (教育学 / Education 400)

## 卒業論文 (発達・教育)

田澤 実

単位数：4単位 | 開講semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法、インプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

### 【到達目標】

- ・重要な理論と方法論を説明できる
- ・重要な研究成果について、その研究方法・結果・含意の重要性を判断できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆に向けて指導を進めていく。学生の発表等に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	研究方法の概説①	実証研究および文献サーベイ等について説明する。
3	研究方法の概説②	各方法に依拠した文献を検討する。
4	研究方法の決定	自らの関心事に基づいて研究方法を決定する。
5	テーマの設定①	テーマ選択の意義について説明する。
6	テーマの設定②	自らの問題意識を探り、候補となるテーマのキーワードを洗い出す。
7	テーマの設定③	候補となるテーマを決定する。
8	先行研究の調査①	テーマに関連する先行研究を収集する。
9	先行研究の調査②	収集した先行研究から要点を抜き出す。
10	先行研究の調査③	先行研究で明らかになっていることをまとめる。
11	先行研究の調査④	先行研究の知見と残された課題を識別する。
12	先行研究の調査⑤	先行研究を通じて、自らが扱う研究の位置づけを明らかにする。
13	研究計画の確定①	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法に要する時間を見積もる。
14	研究計画の確定②	実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
15	調査データの整備①	調査データを収集する。
16	調査データの整備②	収集した調査データの概要を把握する。
17	調査データの整備③	調査データについてデータベース化を行う。
18	検証仮説の検討①	問題背景について再検討を行う。
19	検証仮説の検討②	目的について再検討を行う。

20	検証仮説の検討③	仮説検証等々について再検討を行う。
21	分析の実施①	仮説を決定する。
22	分析の実施②	データを用いて分析を行う。
23	論文執筆①	研究デザイン等との各パーツについて執筆を行う。
24	論文執筆②	検証結果、発見事項等の各パーツについて執筆を行う。
25	論文執筆③	インプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
26	リファインの作業①	ゼミにおいて論文を発表する。
27	リファインの作業②	寄せられた意見を踏まえて論文をリファインする。
28	リファインの作業③	リファインの作業を経て、論文を完成させる。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文以前に、3年生からのゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に定めない

### 【参考書】

開講時に指示する

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文に書かれた内容 (100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

受講者からのフィードバックを取り入れながら卒業論文指導を行う。

### 【Outline (in English)】

Students will develop the skill of writing academic reports. By the end of the period, students should have the following competencies:

- ・ Explain and describe primary methods and theories.
- ・ Assess critical studies in their ways, results, conclusions, and impact.

Students are required to submit assignments after each class session. Students are expected to dedicate over four hours of study time per class. Grades will be determined based on reports (100%).

EDU400MA (教育学 / Education 400)

卒業論文 (発達・教育)

筒井 美紀

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育・生活・文化・労働・政策の、少なくともいずれか1つをテーマとして、社会学の卒業論文を完成させる。

【到達目標】

「嗚呼、その答えが知りたい！」と読者に思わせ、社会的意義のある、かつ、学術論文の型・作法をマスターした「美しい」、内容の濃い、社会学の卒業論文を書き上げること、それがこの演習のゴールである。そのプロセスであなたは、より高次の精神性をもって生きてゆくことの意味を実感するだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

【授業形態】

発表担当者が自身の研究の報告をし、それをもとに自由闊達に議論をする。

【授業の進め方】

学術論文を書き上げるには、実にたくさんの作業をこなし、そのなかで習熟していくことが不可欠である。それゆえ筒井ゼミでは、「仕上がった学術論文・本ってのはこういうものなのだな」という、「美しい完成品」の「審美眼 (どうやって組み立てられ、何が部材として使われているから素晴らしいのかの理解)」を養う。卒論執筆は、「じゃあ自分も一丁やってみるか」とそれを実践に移すものだ。怒涛のような作業のなかで、自分の初発の問題関心とセンスを信じて失わずに続けられるか。我流では難しい。だから適宜フィードバックする。その大前提は自力でどんどん進めることだ。課題である発表レジュメへのコメントを支援システム上で返却する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究計画の発表①	「学術論文7つの構成要素」の①～⑤を盛り込んで書き、それを発表する。
2	研究計画の発表②	前回続き (順番に発表)。リファインする。ゴーサインが出次第、実査に入る。
3	研究計画の発表③	前回続き (順番に発表)。リファインする。丹念のロジックを心がける。
4	研究計画の発表④	前回続き (順番に発表)。リファインする。概念定義をしっかりとる。
5	分析結果の発表と検討①	データ分析・知見の検討。収集したデータの性質に留意。
6	分析結果の発表と検討②	データ分析・知見の検討。分析手法の妥当性に留意。
7	分析結果の発表と検討③	データ分析・知見の検討。分析から知見を導出するロジックに留意。
8	分析結果の発表と検討④	データ分析・知見の検討。知見の含意に留意。
9	分析結果の発表と検討⑤	考察と解釈の検討。論理性と妥当性に留意。

10	分析結果の発表と検討⑥	考察と解釈の検討。先行研究との関係に留意。
11	分析結果の発表と検討⑦	考察と解釈の検討。収集したデータの限界性との関係に留意。
12	分析結果の発表と検討⑧	考察と解釈の検討。自分の研究の独自性は何か。
13	章立ての検討①	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。目次の作成。
14	章立ての検討②	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。序章に必要な構成要素が入っているか。
15	章立ての検討③	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。第二章で先行研究の検討と自分の視点が対比できているか。
16	章立ての検討④	リファインした論文全体の構成案について発表し検討する。分析の諸章がしっかり組み立てられているか。
17	草稿の一部をもとにアドバイス①	1章分を目安に指導する。
18	草稿の一部をもとにアドバイス②	イントロの章に関して指導する。
19	草稿の一部をもとにアドバイス③	先行研究に関する章に関して指導する。
20	草稿の一部をもとにアドバイス④	分析の諸章に関して指導する。問と知見がきれいに対応しているか。
21	草稿の一部をもとにアドバイス⑤	分析の諸章に関して指導する。分析の流れが論理的か。
22	草稿の一部をもとにアドバイス⑥	序章と終章に関して指導する。分析の諸章をうまく挟み込んでいるか。
23	草稿の一部をもとにアドバイス⑦	序章と終章に関して指導する。序章が読者を誘う力強さを持っているか。
24	草稿の一部をもとにアドバイス⑧	序章と終章に関して指導する。終章が力強いダメ押しになっているか。
25	第一稿の朱入れ①	リライトのポイントを助言。曖昧に書いたところを厳密に書く。
26	第一稿の朱入れ②	リライトのポイントを助言。類似概念を必要に応じてきちんと統一する。
27	第一稿の朱入れ③	リライトのポイントを助言。説得力を持たせる文章の運び。
28	第一稿の朱入れ④	リライトのポイントを助言。効果的な繰り返しと強調方法。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒論執筆に必要なこと全てを行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

適宜指示。

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の出来具合100%。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムの掲示板にアップされたレジュメに対して、同じく掲示板を用いたコメントのフィードバックが好評なので続けます。

【Outline (in English)】

The students are to write a sociological graduation thesis, choosing the theme from education, life, culture, labour, and/or policy. Before each class meeting, students will be expected to have written the presentation documents on your thesis. Study time will a few hours for a class. Grading will be based on the quality of the graduation thesis.

EDU400MA (教育学 / Education 400)

**卒業論文 (発達・教育)**

寺崎 里水

単位数：4単位 | 開講semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

大学における学修の集大成として卒業論文に取り組みます。卒業論文としてふさわしい課題設定、論文構成、議論、考察を行います。

**【到達目標】**

論文としてふさわしい形にすること、他者に自分の考察を伝えられることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

個人の作業と全体での検討を並行して行います。随時、メールや対面で指導をします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	卒業論文の位置づけ、意義について説明します。卒業論文に取り組むという意識を高めます。	10	先行研究の調査 (3) テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。(データの読み方)
2	テーマの設定 (1)	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら検討します。	11	先行研究の調査 (4) テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。(データのとり方)
3	テーマの設定 (2)	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見と前回の検討を踏まえながらさらに検討します。	12	先行研究の調査 (5) テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。(結論の導き方)
4	テーマの設定 (3)	個人が課題とする研究テーマについて、先行研究の知見を踏まえながら、さらに検討します。	13	中間報告 (1) テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、発表します。
5	調査方法の設定 (1)	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について検討します。	14	中間報告 (2) テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、前回の検討内容を踏まえ、発表します。
6	調査方法の設定 (2)	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について、前回の検討を踏まえながら検討します。	15	中間報告 (3) テーマ、方法、先行研究を踏まえ、調査計画を立案し、最終的な案を発表します。
7	調査方法の設定 (3)	調査方法の選び方について概説したあと、理論研究、実証研究および文献サーベイ等各人が選択する方法について、さらに検討します。	16	分析の実施と経過発表 (1) 各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。(調査の状況)
8	先行研究の調査 (1)	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。(専門書)	17	分析の実施と経過発表 (2) 各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。(データの整理)
9	先行研究の調査 (2)	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別し、各自のテーマを明確にします。(学会誌)	18	分析の実施と経過発表 (3) 各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。(データクリーニング)
			19	分析の実施と経過発表 (4) 各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。(仮説の妥当性)
			20	分析の実施と経過発表 (5) 各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。(基礎的な分析)
			21	分析の実施と経過発表 (6) 各自で研究テーマに基づいて分析を進めます。分析の結果生じた課題等について検討しながら、考察を深めます。(考察)
			22	論文完成にむけた個別指導 (1) それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。(量的)
			23	論文完成にむけた個別指導 (2) それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。(質的)
			24	論文完成にむけた個別指導 (3) それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。(分析の精緻化)
			25	論文完成にむけた個別指導 (4) それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。(分析のやり直し)
			26	論文完成にむけた個別指導 (5) それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。(仮説が成立しなかったら)
			27	論文完成にむけた個別指導 (6) それぞれの進行状況に応じて個別に指導します。(知見から考察へ)

28 最終仕上げ 論文としてふさわしい構成になっているかどうかを確認しながら、最終的な仕上げを行います。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テーマに関する文献を空き時間に探し、計画的に読んでいくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。フィードバックは必要性のあるときに行います。

**【テキスト（教科書）】**

特に定めない

**【参考書】**

特に定めない

**【成績評価の方法と基準】**

論文の内容100%

**【学生の意見等からの気づき】**

互いの学修を助けあうような雰囲気醸成していきたい。

**【Outline (in English)】**

Course Outline: In this class, the students are going to write on graduation thesis as a compilation of their studies at the university.

Learning Objectives: The goal is to make it suitable for a paper and to be able to communicate your thoughts to others.

Learning Activities Outside of Classroom: Preparation and review should be 2 hours each.

Grading Criteria: 100% determined by the content of the paper.

EDU400MA (教育学 / Education 400)

卒業論文 (発達・教育)

廣川 進

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の作成の方法と手順を理解し、獲得し、実際に論文を完成させる。

【到達目標】

各自が卒業論文として研究するテーマを選び、そのテーマについて調査、文献調査、文章の推敲、討論、等々をとおして、自らの主張としての論文を完成させ、大学卒業にふさわしい知的探求者へと成長することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

卒業論文の作成の方法と手順について、ステップごとに指導していく。問題意識とテーマ設定、研究課題の確定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導し、スキルを蓄積していく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文作成に取り組む意義と準備すべき点について説明する。
2	研究方法の概説①	理論研究、実証研究という二つの研究手法の特徴と性格について概説する。
3	研究方法の概説②	理論研究、実証研究それぞれの手順の概要を説明する。
4	研究方法の概説③	前回の続きに加えて文献の探し方を紹介する。
5	テーマの設定①	執筆者の問題意識を整理する。
6	テーマの設定②	問題意識から、候補となるテーマを洗い出す。
7	テーマの設定③	テーマを報告し、他者の批判に応え説明する。
8	先行研究の調査	洗い出したテーマに関する先行研究を広く調査し、そこに示されている知見と残された課題を識別する。その上で、先行研究に何が足りないか、いかなる課題や問題が残されているかを把握する。
9	研究計画の策定	具体的な研究テーマを設定し、先行研究のレビューと批判、検証仮説の作成、データ収集方法および分析方法など、計画する。
10	小論文の執筆	課題、論点など明確にし、いくつかの点について、実際に論文を書き、書くことの意味を実感する。
11	個人研究発表①	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。

12	個人研究発表②	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
13	個人研究発表③	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
14	個人研究発表④	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
15	個人研究発表⑤	これまで調査研究した内容を各自プレゼン、討議を行い論文の質を高める。
16	研究計画の再検討	研究テーマ・課題、検証すべき仮説、用いる研究手法を再検討し、研究計画を再検討する。
17	調査データの収集と整理①	それぞれの研究計画に従いつつ、量的データ、質的データを収集し、データベース化を行う。
18	調査データの収集と整理②	調査を一定読み込み、自分の研究テーマに照らしてその意味を検討する。
19	調査データによる検証仮説の検討①	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
20	調査データによる検証仮説の検討②	収集・整理したデータと検証仮説を照合し、仮説の補強や修正の必要がある場合はそれを行う。
21	分析の実施①～②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
22	分析の実施②	仮説およびデータを用いて分析を行う。この分析が論文の中核部分となる。
23	論文執筆	実際の論文執筆体制に入る。
24	論文のリファイン	ゼミで論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
25	論文の完成①	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
26	論文の完成②	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
27	論文の完成③	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
28	論文の完成④	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

3年生からのゼミ活動に熱心に取り組み、卒業論文作成のイメージと課題意識を培っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

論文完成に至るまでの研究への取り組み (50%)、および論文の内容 (50%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の探究したいテーマを重視して、研究計画を作っていく指導を行う。

【Outline (in English)】

This course will help you to write your graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

EDU400MA (教育学 / Education 400)

**卒業論文 (発達・教育)**

松尾 知明

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

独自のテーマを追究して、多文化共生と教育に関する卒業論文を完成させる。多文化社会と教育に関連する調査研究を進めることを通して、多文化共生の実現に向けた方策やあり方の一端を検討して、そのための示唆を得る。

**【到達目標】**

・自分の興味・関心に基づき、多文化共生と教育に関するテーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。  
 ・調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

春学期は、演習内で指導を行う。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文にまとめる。課題は、授業のなかでフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の考え方・進め方について
2	テーマの検討	調査研究の構想
3	テーマの設定	テーマと調査研究の立案
4	先行研究の収集	先行研究の進め方
5	先行研究の検討	文献リストの発表と質疑
6	先行研究の整理	文献リストの発表と質疑
7	リサーチクエッションと研究計画の検討	リサーチクエッションの設定
8	リサーチクエッションと研究計画の構想	リサーチクエッションに応える研究計画の構想
9	データの収集の考え方	データの収集と整理の考え方・進め方
10	データの収集	進捗状況の報告と質疑
11	データの収集と検討	進捗状況の報告と質疑
12	データの整理	進捗状況の報告と質疑
13	中間発表①前半	発表と質疑
14	中間発表②後半	発表と質疑
15	進捗状況の報告と計画の見直し	研究活動の振り返り
16	データ分析の考え方	データ分析の考え方・進め方
17	データ分析の方法	進捗状況の報告と質疑
18	データ分析の実際	進捗状況の報告と質疑
19	データ分析の見直し	進捗状況の報告と質疑
20	データ分析の完了	進捗状況の報告と質疑
21	卒業論文の執筆①論文とは	卒業論文の執筆の考え方・進め方
22	卒業論文の執筆②アウトライン	進捗状況の報告と質疑
23	卒業論文の執筆③論文の表現	進捗状況の報告と質疑

24	卒業論文の執筆④論文の展開	進捗状況の報告と質疑
25	卒業論文の執筆⑤校正	卒業論文の推敲の考え方・進め方
26	卒業論文の執筆⑥仕上げ	進捗状況の報告と質疑
27	卒論発表①前半	プレゼンと質疑
28	卒論発表②後半	プレゼンと質疑

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

基本文献を読み、先行研究を深める。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

授業において適宜紹介する。

**【参考書】**

授業において適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

主体的な参加の姿勢、課題やプレゼン (30%)、論文の形式や内容 (70%) などをもとに総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

計画的に進められるように留意する。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

Graduate theses on multicultural conviviality and education are completed by setting up and exploring individually selected themes. Through conducting research projects related to multicultural society and education, how to actualize multicultural coexistence is discussed and implicated.

**【到達目標 / Goal】**

Students are able to set up a theme, plan the research design, and conduct a research on issues related to multicultural conviviality and education.

Students are able to complete graduate thesis on the multicultural issue according to the notes of thesis preparation.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**  
Students will be expected to read the text, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】**

Grading will be decided based on assignments and presentations (30%) and graduate thesis (70%).

MAN400MA (経営学 / Management 400)

卒業論文 (ビジネス)

上西 充子

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の完成に向けて、自らの問題意識に即した研究テーマの設定、論文の構成、先行研究の調査、データの収集と分析、調査結果の整理と記述の方法などを段階的に学び、卒業論文を完成させる。

【到達目標】

自らが明らかにすべき問いを立てることができる。  
 研究課題を絞り込み、先行研究への適切な言及と適切な研究方法によって、その研究課題を明らかにすることができる。  
 読み手に説得的な論述を行った卒論を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

下記の授業計画に従って、演習内で指導を行います。秋学期には適宜個別指導を並行して行います。フィードバックはその都度、授業内で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	卒論ガイダンス	卒論執筆の意義について説明する
2	卒論執筆スケジュールの検討	卒論執筆スケジュールを検討する
3	卒論構想の発表	各自の問題意識を発表する
4	卒論構想の検討	各自の問題意識を深める
5	研究方法の概説	研究方法について概説する
6	量的調査法の検討	量的調査法に基づく文献を検討する
7	質的調査法の検討	質的調査法に基づく文献を検討する
8	研究課題の設定	各自の問題意識を深め研究課題を絞り込む
9	研究課題の文章化	研究課題を文章化する
10	先行研究の調査	先行研究の探し方を学ぶ
11	先行研究の検討	収集した先行研究を検討する
12	先行研究の整理	先行研究から得られる知見を理解し、分析の視点から学ぶとともに、残された課題を認識する
13	研究計画の検討	研究課題に即した研究計画を検討する
14	研究計画の策定	調査方法を具体的に検討し、調査・執筆スケジュールを検討する
15	調査結果の発表	調査結果を整理して発表する
16	分析方法の検討	調査結果の分析方法を改めて検討する
17	分析結果の発表	分析結果を発表する
18	知見の検討	調査結果から得られた知見を検討する
19	知見の文章化	得られた知見を文章化する
20	章立ての検討	論文全体の構成案を検討する
21	執筆内容の検討：課題設定	課題設定の執筆内容を検討する

22	執筆内容の検討：先行研究	先行研究の検討の執筆内容を検討する
23	執筆内容の検討：調査結果	調査結果の執筆内容を検討する
24	執筆内容の検討：まとめ	まとめの執筆内容を検討する
25	執筆内容の検討：文献リスト	文献リストの内容を検討する
26	論文の発表	論文を発表し、寄せられたコメントを検討する
27	論文のリファイン	コメントを踏まえて論文を修正する
28	卒論発表	提出した卒論の要旨を発表し、その内容と意義について議論する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基本文献・関連文献を読み込む。  
 データの収集と分析を行う。  
 卒論の完成に向けて、執筆を進める。  
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

・木下是雄 (1994) 『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫  
 その他の参考書については、必要に応じて、随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

先行研究の論旨の的確な把握、引用や記述のルールへの順守、分析方法の的確さ (40%)、文章の明確さ、論理構成の的確さ (40%)、課題設定の獨創性、知見の獨創性 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究課題の絞り込みが難しいと感じる学生が多いように見受けられます。先行研究の収集・分析と並行しての研究課題の絞り込みを早期からサポートしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn step-by-step how to set up a research theme in line with their interests, structure a thesis, research previous studies, collect and analyze data, and organize and describe the results of their research.

【Learning Objectives】

Students are expected to complete their thesis using appropriate research methods.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to survey previous research, collect and analyze data, and work towards the completion of the thesis. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Accurate understanding of previous research and appropriate analysis methods: 40%  
 Logical description: 40%  
 Originality 20%

MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

梅崎 修

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

4年生を対象に、キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。  
 学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。

### 【到達目標】

学術論文のための論文作成方法を学ぶ。具体的には、調査から意味解釈や因果関係の推測、さらには検証ができる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

春学期は論文の書き方を指導し、秋学期は論文に具体的コメントを行う。個別指導が中心であるが、春学期に1回、秋学期1回、発表会を行う。なお、課題等の提出は授業支援システムを利用し、フィードバックは授業とオフィスアワーを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のスケジュール	卒論執筆の年間スケジュールを確認
2	卒論テーマ報告 (1)	1人30分×3名で卒論テーマを発表し、議論する。
3	卒論テーマ報告 (2)	1人30分×3名で卒論テーマを発表し、議論する。
4	卒論テーマ報告 (3)	1人30分×3名で卒論テーマを発表し、議論する。
5	卒論テーマ報告 (4)	1人30分×2名で卒論テーマを発表し、議論する。
6	調査方法講義 (ヒアリング調査)	卒業論文で使える方法論について講義する。
7	調査方法講義 (観察法)	卒業論文で使える方法論について講義する。
8	調査計画発表 (5)	1人30分×3名で調査計画を発表し、議論する。
9	調査計画発表 (6)	1人30分×3名で調査計画を発表し、議論する。
10	調査計画発表 (7)	1人30分×3名で調査計画を発表し、議論する。
11	調査計画発表 (8)	1人30分×2名で調査計画を発表し、議論する。
12	論文構成	論文構成の書き方を講義。
13	図書館と情報検索のやり方	情報検索の方法を講義。
14	先行研究のまとめ方	先行研究を整理する方法を講義。
15	相談	調査計画の個別相談を受ける。
16	調査結果の報告 (9)	1人30分×3名で調査結果を発表し、議論する。
17	調査結果の報告 (10)	1人30分×3名で調査結果を発表し、議論する。
18	調査結果の報告 (11)	1人30分×3名で調査結果を発表し、議論する。
19	調査結果の報告 (12)	1人30分×2名で調査結果を発表し、議論する。

20	調査結果の分析・解釈 (1)	1人30分×3名で分析・解釈を発表し、議論する。
21	調査結果の分析・解釈 (2)	1人30分×3名で分析・解釈を発表し、議論する。
22	調査結果の分析・解釈 (3)	1人30分×3名で分析・解釈を発表し、議論する。
23	調査結果の分析・解釈 (4)	1人30分×2名で分析・解釈を発表し、議論する。
24	発表方法	プレゼンテーションの方法を講義する。
25	議論の方法	質問、批判の方法を学ぶ。
26	卒論発表会 (1)	1人約30分×3名で卒論発表。
27	卒論発表会 (2)	1人約30分×3名で卒論発表。
28	卒論発表会 (3)	1人約30分×3名で卒論発表。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外に調査、執筆を行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし

### 【参考書】

特になし

### 【成績評価の方法と基準】

作品の完成度を80%、授業での発言など貢献度を20%で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

論文作成だけでなく、論文の発表方法も教授し、簡潔でわかりやすい発表ができるようにする。

### 【Outline (in English)】

I will provide support to fourth graders for writing their graduation thesis and producing academically valuable papers. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process  
 Term-end report(80%) and in-class contribution(20%).



MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

木村 琢磨

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

**概要**  
 ビジネスキャリアに関わる研究テーマを学生自身で設定し、先行研究に基づいてリサーチ・クエスチョンまたは仮説を立て、それを検証し、論文にまとめる。  
**目的**  
 自ら問題を発見し、その問題に適用できるフレームワークを用いてリサーチ・クエスチョンまたは仮説の検証を行い、問題の因果関係の背後にある原因・理由を解明する能力を習得する。

### 【到達目標】

卒業論文の完成を到達目標とし、リサーチ・クエスチョンの設定方法、研究計画の作成方法、先行研究の調査と批判的レビューの方法、仮説の設定方法、仮説検証の方法、調査方法、論文の構成の方法を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

### 【授業の進め方と方法】

受講者各自が1本の論文を完成させるため、各自の中間報告を受け、進捗状況も踏まえて論文作成の方法についてステップごとに指導する。中間報告のスケジューリングは、受講生を複数のグループに分けて設定し、報告担当以外のグループはコメンテーターとして参加する。各回のテーマ・内容は、下記の通り事前に設定しているが、論文作成はスケジュール通りに進むものではないので、各回のテーマ・内容は各自の進捗状況に応じて変更する。報告内容に基づき授業内で個別にフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	参考論文の輪読(1)	仮説検証型の論文を読み、仮説検証型研究の方法を理解する
第2回	参考論文の輪読(2)	仮説探索型の論文を読み、仮説探索型研究の方法を理解する
第3回	研究計画の作成方法	研究を計画的に進めるための計画の立て方を理解する
第4回	リサーチ・クエスチョンの設定方法	論文のテーマ設定、テーマの改訂を行うための考え方を理解する
第5回	先行研究の調査方法	先行研究となる論文・調査の参照の方法、まとめ方・分析方法について理解する
第6回	仮説設定の方法	仮説検証型研究における仮説の設定方法を理解する
第7回	質的調査法(1)	インタビュー調査の実施方法の説明
第8回	質的調査法(2)	参与観察・観察調査の実施方法の説明
第9回	量的調査法(1)	アンケート調査の実施方法の説明
第10回	量的調査法(2)	公開データの分析方法の説明
第11回	先行研究の調査結果発表(1)	第1グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表

第12回	先行研究の調査結果発表(2)	第2グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第13回	先行研究の調査結果発表(3)	第3グループ。先行研究のまとめと論点整理の結果を発表
第14回	調査計画の決定(1)	第1グループ、第2グループ。9月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第15回	調査計画の決定(2)	第2グループ、第3グループ。9月までに行う調査の計画を発表し、計画を確定
第16回	第1次調査結果の発表(1)	第1グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第17回	第1次調査結果の発表(2)	第2グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第18回	第1次調査結果の発表(3)	第3グループ。夏休み中に実施した調査結果の報告と追加調査の方法について議論
第19回	論文の全体構成の検討(1)	第1グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第20回	論文の全体構成の検討(2)	第2グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第21回	論文の全体構成の検討(3)	第3グループ。これまでの調査結果に基づき全体の構成を議論する
第22回	第2次調査結果報告(1)	第1グループ、第2グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第23回	第2次調査結果報告(2)	第2グループ、第3グループ。後期に実施した追加調査の結果報告
第24回	論文の草稿作成(1)	第1グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第25回	論文の草稿作成(2)	第2グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第26回	論文の草稿作成(3)	第3グループ。これまでの議論・調査に基づき草稿を作成する
第27回	最終プレゼンテーション(1)	第1グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる
第28回	最終プレゼンテーション(2)	第2グループ。完成原稿とレジュメに基づく発表とディスカッションを行い、論文の内容を確定させる

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**  
 授業内で発表するための調査・分析・執筆。授業ではそれらの作業ではなく、発表と議論に時間が使えるように準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**  
 受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

**【参考書】**  
 渡辺知明 (2015)『文章添削の教科書』芸術新聞社  
 井下千以子 (2014)『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第2版)』慶應義塾大学出版会  
 そのほか、受講者の研究テーマに合わせて適宜指示する。

**【成績評価の方法と基準】**  
 ・卒業論文の水準 (70%)、口述試験 (30%)  
 ・卒業論文の評価基準：  
 テーマの重要性 (20点)、論理性 (20点)、調査方法・分析の妥当性 (20点)、独創性 (10点) の4要素の合計点で評価する。  
 ・口述試験の評価基準  
 論文の正確かつ明瞭な説明 (10点)、的確な質疑応答 (20点)  
 ※卒業論文の評価要素4つのうち独創性以外の3要素すべてにおいて10点以上であること、および口述試験が15点以上であることを単位認定の最低要件とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

文章校正・推敲および書式・形式に関する指導は原則として行わない（参考図書を読んで各自行うこと）。論文指導は研究内容に関することに集中して行う。

**【Outline (in English)】**

**Course Outline**

This course is designed to complete the undergraduate thesis project. It provides the student with theoretical and practical knowledge of organizational behavior and human resource management. The contents of the course are dependent on the thematic areas in which each student is working on their thesis.

**Learning Objectives**

1. Can design and implement research project.
2. Can develop hypotheses or research questions based on prior studies
3. Can implement empirical analysis or theoretical analysis in proper ways.

**Learning activities outside of classroom**

1. Research planning
2. Literature Review
3. Data collection and analysis
4. Writing mid-term report and final thesis.

**Summarize the key issues in the lectures**

Analyze literature and quantitative or qualitative data to write an academic paper.

**Grading Criteria**

1. Final thesis (70%): Topic (20), Theory and Logic (20), Research and Analysis (20), Uniqueness (10)
2. Oral presentation (30%): Explanation (10), Discussion (20)

MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

酒井 理

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業では、自分たちが手がけたマーケティングに関わるプロジェクトを論文にします。現状を把握するための分析、実際の問題を解決するための実践のプロセスを通して、仮説設定と検証実験による学術的なアプローチを学びます。

### 【到達目標】

卒業論文の完成が最終目標です。アンケート調査、インタビュー調査などで集めたデータを使用した実証的な研究方法によって論文を完成させます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

必ず実証データを使用して研究を進めてもらいます。アンケートでデータを集めても結構ですし、消費者へのインタビューや街頭観察でデータを収集することも結構です。さらに企業訪問してインタビューを行うのも推奨します。とにかく、実際に現場に向いて自分でデータを集めて現象について考察することを求めます。自分の足で現場に向いてデータを直接集めます。学生の提出された課題のフィードバックは、毎回、授業時の指導としておこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文研究の進め方について説明します。
2	テーマ・仮説の設定1	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
3	テーマ・仮説の設定2	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
4	テーマ・仮説の設定3	研究テーマを発表して、ゼミ内で意見を交換します。
5	文献サーベイ1	実際に現場に出てリサーチした結果 (集めたデータの分析結果) を報告します。
6	文献サーベイ2	実際に現場に出てリサーチした結果 (集めたデータの分析結果) を報告します
7	文献サーベイ3	実際に現場に出てリサーチした結果 (集めたデータの分析結果) を報告します
8	リサーチデザイン1	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
9	リサーチデザイン2	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
10	リサーチデザイン3	自分で考えたリサーチの進め方を報告します。
11	リサーチ結果報告1	実際に現場に出てリサーチした結果 (集めたデータの分析結果) を報告します。

12	リサーチ結果報告2	実際に現場に出てリサーチした結果 (集めたデータの分析結果) を報告します。
13	リサーチ方法の改善1	本格的なりサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
14	リサーチ方法の改善2	本格的なりサーチの実施に向けて、テストリサーチの反省を踏まえた改善を考えて報告します。
15	オリエンテーション	秋学期の進め方について意見交換を行います。
16	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
17	論文執筆作法	論文の執筆ルールについて説明します。
18	個別指導1	各自執筆と個別指導を行います。
19	個別指導2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
20	個別指導3	各自執筆と個別指導を行います。
21	中間発表1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
22	中間発表2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
23	個別指導1	論文執筆の途中経過の報告を行います。
24	個別指導2	論文執筆の途中経過の報告を行います。
25	個別指導3	論文執筆の途中経過の報告を行います。
26	研究成果の発表1	最終的に完成した論文の内容を発表します。
27	研究成果の発表2	最終的に完成した論文の内容を発表します。
28	研究成果の発表3	最終的に完成した論文の内容を発表します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

社会の出来事はすべて現場で起きています。フィールド (現場) に向いて研究を進めることを強く推奨します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

各自の研究成果である卒業論文の評価が100%です。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

### 【その他の重要事項】

学生の専門的知識の獲得の他、行動力、判断力、創造力、コミュニケーション能力、主体性を涵養あるいは向上させることを意識しています。これらは社会に出たときに重要と思われる資質・能力だと考えます。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lesson, we will make a paper on marketing projects which we have conducted.

We will learn academic approaches based on hypothesis setting and verification experiments on analysis to understand the current situation and practice process to solve problems in a "real" world.

#### 【Learning Objectives】

The final goal is to complete a graduation thesis. The thesis will be completed through empirical research methods using data collected through questionnaires, interviews, and other surveys.

#### 【Method】

Students are encouraged to use empirical data, whether quantitative or qualitative, to guide their research. Empirical data can be surveys, log data, consumer interviews, or street observations. Visits to companies to conduct interviews are also encouraged. Students are asked to actually go to the field and collect their own data to discuss the phenomenon. Please visit the field with your own feet and collect data directly. Feedback on student's submitted assignments will be given as guidance in each class.

[Learning activities outside of classroom]

All social events are happening on the ground. Students are strongly encouraged to go into the field to conduct research. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The evaluation of the graduation thesis is 100%.

Logic, contribution to society, and empirical research are the evaluation criteria.

MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

坂爪 洋美

単位数：4単位 | 開講Semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

4年間の学習の集大成として、自らの興味関心に基づき研究テーマを設定し、テーマに基づく調査の実施、調査結果の検討を通じて、卒業論文を完成させます。

### 【到達目標】

卒業論文作成上の到達目標は以下の通りです

- (1) 興味関心を研究テーマとして構築できるようになる
- (2) 研究テーマに関連する先行研究をレビューしまとめられるようになる
- (3) 調査を設計し実施できるようになる
- (4) 調査結果の分析ができるようになる
- (5) 分析結果をふまえて論文を執筆できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

前期については論文執筆に進め方ならびに調査の実施に関するレクチャーが中心になる。後期は調査実施状況に応じた個別指導が中心となる。  
 毎回提出されたレジュメに対して、個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
 なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマについての検討 (1)	各自の興味に基づき研究テーマを抽出する
第2回	研究テーマについての検討 (2)	各自の興味に基づき研究テーマを精査する
第3回	論文の書き方について理解する (1)	卒業論文の構成と書き方について講義と実習を行う
第4回	論文の書き方について理解する (2)	論文を読みつつ、論文の基本的な書き方について学習する
第5回	先行研究のレビューを理解する (1)	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第6回	先行研究のレビューを理解する (2)	各自のテーマに関連する先行研究を持ちより発表する
第7回	先行研究のレビューを理解する (3)	先行研究のまとめ方をレクチャーし、集めた資料をまとめる
第8回	調査計画を立案する (1)	研究テーマを仮説として構築する
第9回	調査計画を立案する (2)	研究テーマを仮説として構築する
第10回	調査計画を立案する (3)	仮説のブラッシュアップを図る
第11回	調査票の作成 (1)	仮説検証に必要な調査票を作成する (1)
第12回	調査票の作成 (2)	仮説検証に必要な調査票を作成する (2)
第13回	中間報告 (1)	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う

第14回	中間報告 (2)	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第15回	中間報告 (3)	それまでの作業についてパワーポイントにまとめて発表し、ディスカッションを行う
第16回	夏休みの報告	夏休み中の進捗について報告する
第17回	分析方法を学ぶ (1)	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第18回	分析方法を学ぶ (2)	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第19回	分析方法を学ぶ (3)	調査の分析方法に関するレクチャーを行った上で各自で分析を行う
第20回	結果をまとめる (1)	分析結果を論文としてまとめる方法について講義を行った上で、各自結果をまとめる
第21回	結果をまとめる (2)	結果を論文としてまとめる
第22回	考察の進め方を学ぶ (1)	考察の進め方をレクチャーした上で、各自考察の進め方を検討する
第23回	考察の進め方を学ぶ (2)	各自考察をまとめる
第24回	論文の書き方 (1)	論文の書き方についてのレクチャーを行い、各自これまでの成果を論文としてまとめる
第25回	論文の書き方 (2)	論文として書き上げたものについて検討する
第26回	論文の書き方 (3)	論文として書き上げたものについて検討する
第27回	論文発表 (1)	論文を発表しコメントをもらう
第28回	論文発表 (2)	論文を発表しコメントをもらう

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の作成は各自が主体的に行うものである。授業は進捗の確認と進捗のサポートが中心であることから、何よりも主体的・積極的な準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特になし。

### 【参考書】

各自のテーマに合わせて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度に基づいて評価します。

具体的には、①問題設定の明確さ20%、②先行研究の充実度20%、③調査結果の適切な分析20%、④仮説に基づいた考察20%、⑤文章の明確さ20%、です。

### 【学生の意見等からの気づき】

調査の実施時期を前倒しにし、余裕を持ったスケジュールとします。

### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis. This course provide the student with knowledge of how to seek facts and how to plan, carry out and present work as well as theoretical and practical specialization within a industrial/organizational psychological subject area.

The objectives for writing the graduation thesis are as follows:

- (1) To be able to construct a research theme based on one's interests
- (2) To be able to review and summarize previous research related to the research theme
- (3) To be able to design and conduct a survey
- (4) To be able to analyze the results of a survey
- (5) To be able to analyze the research results

The preparation of the graduation thesis is a self-initiated process. Since the class focuses on checking progress and supporting progress, proactive and active preparation is required above all. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The criteria for grading are as follows. Specifically, they are as follows. (1) clarity of problem formulation 20%, (2) thoroughness of prior research 20%, (3) appropriate analysis of research results 20%, (4) hypothesis-based discussion 20%, and (5) clarity of writing 20%.

MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

佐藤 厚

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒論作成を演習及び学部での学びの総決算として位置づけて指導します。参加者各自の研究テーマを設定し、関連文献の収集とレビュー、実証的データの収集と分析に基づき、論理一貫性のある論旨を展開しながら、説得力ある結論を導く文章の作成および作成能力の獲得を目標とします。

### 【到達目標】

各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。

各自の卒論テーマに関連した文献レビューを幅広く行い、内容を理解してもらう。

また先行研究の知見と自分の考えを区別して論述する力を養成する。

以上の学習を通じて、①テーマ設定力、②テーマに基づく情報収集力、③収集した情報を分析する方法、④分析結果を論理的な文章にまとめる思考力と編集力、を形成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

各自の問題意識とテーマにそって個別に執筆指導を行います。春学期は、問題意識とテーマの明確化と鍵文献の収集とレビューに主眼を置きます。

合宿をはさんで、秋学期は、文章全体の章別構成の明確化と説得力ある文章の作成、および論文の完成を目標とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒論執筆の意義、執筆のプロセスなど
第2回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (1)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第3回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (2)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第4回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (3)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第5回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (4)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第6回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (5)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第7回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (6)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第8回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (7)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う

第9回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (8)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第10回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (9)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第11回	研究テーマの明確化と関連文献の収集及びレビュー (10)	各自の研究テーマにとって重要な文献を収集し、系統的に読み込み、かつ進捗の報告を行う
第12回	卒論骨子の発表とコメント (1)	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第13回	卒論骨子の発表とコメント (2)	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第14回	卒論骨子の発表とコメント (3)	各自執筆した卒論の骨子を発表し、ゼミ生、教員からコメントをもらう
第15回	テーマ設定、章別構成、構造化された文章の書き方について	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる際の留意事項を理解する
第16回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (1)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第17回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (2)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第18回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (3)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第19回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (4)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第20回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (5)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第21回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (6)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第22回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (7)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第23回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (8)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第24回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (9)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第25回	論旨、章別構成の明確化と執筆 (10)	各自の研究テーマにそった論旨と章別構成を明確化し文章化を図りつつ、執筆を完成させる
第26回	執筆と推敲 (1)	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲 (1)
第27回	執筆と推敲 (2)	文章化の完成を目指しての可能な限りの推敲 (2)
第28回	口頭試問	論旨を口頭で説明し、コメントについてリプライする

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

系統的な文献の収集と読み込みが必要です。執筆にむけた一定の執筆時間の確保が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

適宜、授業時に指示します。

### 【参考書】

各自の関心に応じて適宜、文献を指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回のゼミでの報告への取り組みと論文の到達水準、完成度 (70%)

口頭試問での論旨の口頭説明及びコメントへのリプライの的確さ (30%)

**【学生の意見等からの気づき】**

中間段階での到達点を明確化し、課題を意識してもらう。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

In this class, students study each topic through writing paper for graduation.

Main purpose of this class is to complete paper for graduation, collecting useful information for each topic, then analysing the information based on some research method, and writing structured sentences.

**【Goal】**

We will provide individual writing guidance according to each person's awareness of the problem and the theme.

The spring semester will focus on problem awareness, clarification of themes, and collection and review of key literature.

Perform a wide range of literature reviews related to your bachelor thesis theme and have them understand the content.

In addition, develop the ability to distinguish and discuss the findings of previous research and one's own ideas.

Through the above learning, you will develop (1) theme setting ability, (2) theme-based information gathering ability, (3) method of analyzing collected information, and (4) thinking ability and editing ability to summarize the analysis results into logical sentences.

**【Learning activities outside of classroom】**

It is necessary to collect and read systematic literature.

It is necessary to secure a certain amount of writing time for writing. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

We will evaluate each seminar's efforts to report, the achievement level of the dissertation, and the degree of completion.

Emphasis is placed on the accuracy of oral explanations and replies to comments in oral examinations.



MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

武石 恵美子

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアデザイン学に関する卒業論文執筆のための研究指導を行う。キャリアデザイン学の視点から自分の問題意識を掘り下げ、4年間の学びの集大成とする。

### 【到達目標】

卒業論文執筆により、自らの問題意識をもとに課題を設定し、その課題解決のために実証的な方法によって論証を行い、課題に対する結論を導く能力の開発を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

演習の進め方は、春学期は論文の書き方等の指導を講義形式で行い、秋学期は個別指導を中心に進め論文の完成を目指す。課題等の提出・フィードバックは各授業の中で個別に実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論文テーマの発表	論文の構想、テーマを報告し、研究にあたっての問題意識を明確にする。
2	論文の書き方	卒業研究とは何か、論文の書き方の基礎を知り、論文の事例を学ぶ。
3	研究方法の解説	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。
4	テーマに関連する研究サーベイ	研究内容や方法を定めるために、テーマに関連する研究をサーベイする。
5	研究の背景・意義の明確化	研究テーマに関する現状や課題等を把握し、自身の研究の背景や意義を明確にする。
6	研究内容・研究計画の策定	研究内容を決定し、研究計画を策定する。
7	先行研究のサーベイ	テーマに関連する先行研究をサーベイする。
8	先行研究内容の検討	先行研究を調査し、それらの知見と残された課題を識別する。
9	実証方法の検討、具体化	研究テーマを明らかにするための方法を検討し、実証方法を具体的に決定する (調査対象、内容等の決定)。
10	データ等の収集のための課題や内容の明確化	データ収集のために、研究課題を明確にし、それにアプローチするための調査内容等を決定する。
11	データ等の収集	データを収集する。
12	データの収集 (継続) と集約	データ収集を継続的に進めるとともに、データの集約を行う。
13	論文の中間とりまとめ	進捗した内容について、論文を中間的にまとめる。

14	春学期のまとめと総括	各自の論文の経過報告を行い、総括する。
15	中間報告会	進捗についての中間報告を行う。
16	中間報告会の講評	中間報告の講評を行い、今後の進め方について検討する。
17	収集したデータ整理	収集したデータの整理を行う。
18	現状分析	収集したデータから現状分析を行い、その内容を論文としてまとめる。
19	データの解釈	データの解釈を行い、その内容を論文としてまとめる。
20	仮説の検証、論証	自分の研究において、仮説の検証、論証を行う。
21	論文執筆	論文の執筆を行う。
22	論文執筆へのフィードバック	執筆した論文の内容について、教員からフィードバックを行う。
23	論文の中間発表	論文の中間発表を行い、相互にフィードバックを行う。
24	論文の修正	論文についてのフィードバックを踏まえた修正を行う。
25	論文の修正 (継続) と精査	論文の修正を継続し、図表や文献などの精査を行う。
26	論文完成	論文を完成させて、提出する。
27	卒業論文発表会	2,3,4年生合同ゼミにおいて、卒業論文の発表および質疑を行う。
28	卒業論文の振り返りとフィードバック	卒業論文の執筆に対して学生自身が振り返り (省察) を行うとともに、教員及び学生同士のフィードバックを行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

論文執筆のための文献研究や調査・分析等を自主的に行う必要がある。卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが何より重要であり、当然であるが、授業に出席するだけでは論文は執筆できない。本授業の各回における準備学習・復習時間は3時間以上を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

個人のテーマに応じて適宜指定する。

### 【参考書】

個人のテーマに応じて適宜指定する。

### 【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する。具体的には、問題意識の設定、先行研究サーベイの的確さ、現状分析を踏まえた結論と考察が論理的に導かれているという点を重視し、論文の成果で評価する (論文の成果が100%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

進行に関して互いの報告会を行い、情報を共有しつつ、互いの問題意識から触発を受けるようにする。

### 【学生が準備すべき機器他】

研究の内容によってパソコンが必要になる。

### 【Outline (in English)】

【Course outline】 In this seminar, students will write the graduation thesis about carrier design studies. They will examine own article theme and complete learning of 4 years.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to develop the ability to set a problem based on students' own awareness of the problem, to solve it by an empirical method, and to draw conclusions.

【Learning activities outside of classroom】 In addition to class time, students will be expected to voluntarily conduct literature surveys, research, and analysis for their graduation thesis. Students required study time is at least 3 hours.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on the quality of the students' graduation thesis.

MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

中野 貴之

単位数：4単位 | 開講semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の作成に沿って、各ステップごとに指導していく。先行研究の調査、データ分析方法およびインプリケーションの捉え方等、具体的に指導していく。

### 【到達目標】

一定水準以上の論文として、卒業論文を仕上げるのが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は、講義と発表とを組み合わせて行う。卒業論文の構想、草稿については、議論の上、「朱」を入れるなど随時フィードバックを行っていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
第2回	研究方法の概説(1)	理論研究、実証研究および文献サーベイ等、研究方法について説明する。また、各方法に依拠した文献を検討する。3回に分けて考察する。
第3回	研究方法の概説(2)	実証研究の意義と限界について考察する。
第4回	研究方法の概説(3)	文献サーベイの方法について検討する。
第5回	テーマの設定(1)	テーマ選択の意義について説明するとともに執筆者の問題意識を探り、候補となるテーマを洗い出す。
第6回	テーマの設定(2)	受講者が研究テーマについて発表する (第1回目)。
第7回	テーマの設定(3)	受講者が研究テーマについて発表する (第2回目)。
第8回	先行研究の調査(1)	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する方法について概説する。
第9回	先行研究の調査(2)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第1回目)。
第10回	先行研究の調査(3)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第2回目)。
第11回	先行研究の調査(4)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第3回目)。
第12回	先行研究の調査(5)	受講者の研究テーマの主たる先行研究について発表する (第4回目)。

第13回	研究計画の策定(1)	具体的な研究テーマを設定し、データ収集方法および分析方法等、実質的な研究内容とそれに要する時間を見積もる。
第14回	研究計画の策定(2)	受講者の研究計画について発表する。
第15回	調査データの整備(1)	調査データの収集、データベース化の方法について指導する。
第16回	調査データの整備(2)	受講者別にデータ、文献のデータベース化について指導する。
第17回	検証仮説の検討(1)	検証仮説等について再検討を行う。
第18回	検証仮説の検討(2)	受講者の検証仮説等について発表を行う。
第19回	分析の実施(1)	仮説およびデータを用いて分析を行う。
第20回	分析の実施(2)	分析結果の解釈および追加分析を行う。
第21回	論文執筆(1)	論文の目的、先行研究、仮説、研究デザイン、検証結果、発見事項とインプリケーション等の各パーツについて執筆を行う。
第22回	論文執筆(2)	原稿を具体的に遂行していく (第1回目)。
第23回	論文執筆(3)	原稿を具体的に遂行していく (第2回目)。
第24回	リファインの作業(1)	ゼミにおいて論文を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文をリファインする。
第25回	リファインの作業(2)	リファインした点を中心に発表を行う (第1回目)。
第26回	リファインの作業(3)	リファインした点を中心に発表を行う (第2回目)。
第27回	最終調整(1)	論文提出に向けた、最終的な仕上げ作業を行う。
第28回	最終調整(2)	最終原稿の最終確認を行う。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文以前に、ゼミ活動に熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

開講時に指示する

### 【参考書】

開講時に指示する

### 【成績評価の方法と基準】

- ①研究への取り組みおよび研究指導への対応 (40%)
- ②論文の形式的完成度 (20%)
- ③先行研究文献に対する研究の新規性、信頼性および独自性 (40%)

### 【学生の意見等からの気づき】

前向きに取り組んだとの意見が多いため、同様のスタイルで授業を行っていきます。

### 【Outline (in English)】

#### \*Course outline

The purpose of this course is to provide students with a comprehensive method of writing a graduation thesis. I will provide specific guidance on surveying previous research, data analysis and interpretation.

#### \*Learning Objectives

The goal is to complete the graduation thesis as a paper of a certain level or higher.

#### \*Learning activities outside of classroom

It is important to work diligently on the seminar activities. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

#### \*Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Attitude toward research: 40%, Formality and completeness of the paper: 20%, Novelty, reliability, and originality of the research: 40%.

MAN400MA (経営学 / Management 400)

## 卒業論文 (ビジネス)

松浦 民恵

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

### 【到達目標】

- ①論文の問いが設定できるようになること
- ②調査を企画・設計し、実施できるようになること
- ③調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ④分析結果を踏まえて、説得力のある論理的な文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

春学期は研究計画書や調査に関する相談、秋学期は分析や執筆に関する相談を行う。

授業計画はアンケート調査を実施する場合を想定して記述しているが、テーマや調査方法に応じて進め方は変更する。受講生と相談のうえ、卒論指導の方法を一部オンラインに変更する可能性がある。

なお、フィードバックは卒論指導や発表の都度行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと卒業論文の研究計画書の発表<3・4年生合同>	①オリエンテーション ②4年生による卒業論文の研究計画書の発表 ③質疑と教員コメント
第2回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第3回	問いの検討 (1)	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討 (第1グループ)
第4回	問いの検討 (2)	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 (第2グループ)
第5回	問いの検討 (3)	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討 (第3グループ)
第6回	問いの再検討	①先行研究の追加サーベイ ②コメントを踏まえた問いの再検討
第7回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第8回	資料作成	構想発表会資料の準備
第9回	構想発表会 (1) <3・4年生・社会人合同>	研究計画の提示と検討 (第1グループ)
第10回	構想発表会 (2) <3・4年生・社会人合同>	研究計画の提示と検討 (第2グループ)

第11回	構想発表会 (3) <3・4年生・社会人合同>	研究計画の提示と検討 (第3グループ)
第12回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第13回	調査方法の策定	問いに答えられる、仮説を検証できる調査方法の検討・策定
第14回	調査項目・調査票の作成	調査方法に応じて調査項目や調査票を作成
第15回	オリエンテーション	①オリエンテーション ②研究の進捗共有と意見交換
第16回	分析の相談 (1)	調査の分析方法に関する相談 (第1グループ)
第17回	分析の相談 (2)	調査の分析方法に関する相談 (第2グループ)
第18回	データ分析の解説	データ分析の解説とHADによる実践
第19回	分析の相談 (3)	調査の分析方法に関する相談 (第3グループ)
第20回	分析	各自分析を進める
第21回	執筆の相談 (1)	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する (第1グループ)
第22回	執筆の相談 (2)	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する (第2グループ)
第23回	執筆の相談 (3)	分析結果を踏まえて論文骨子を作成し、論文を執筆する (第3グループ)
第24回	論文の推敲 (1)	論文をお互いに推敲する
第25回	論文の推敲 (2)	論文をお互いに推敲する (続き)
第26回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第27回	論文発表 (1) <2・3・4年生・社会人合同>	論文の発表と質疑 (第1グループ)
第28回	論文発表 (2) <2・3・4年生・社会人合同>	論文の発表と質疑 (第2グループ)

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくこととなります (授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

### 【成績評価の方法と基準】

取り組みの進め方 (30%)、卒業論文の内容 (40%)、口述試験等の発表・質疑 (30%) によって評価します。

卒業論文の内容は、以下の観点から評価します。

- ①問いの立て方 (自己の関心が絞られているか、独創性があるか等)
- ②先行研究レビュー (十分にサーベイがなされているか等)
- ③調査の企画・設計・実施・分析 (適切な手順、方法か等)
- ④文章の展開 (論理的な説得力があるか等)

### 【学生の意見等からの気づき】

スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けます。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

### 【その他の重要事項】

演習 (ビジネス) 3・4年生 (春5限・秋6限) とは別に卒論指導を行うことがあります。演習 (ビジネス) 3・4年生 (春・秋) にも出席してください。秋学期の2年生との合同ゼミは5限スタートになります。

演習の時限が内容によって変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。

**【Outline (in English)】**

< Course outline >

Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

< Learning Objectives >

- Ability to set appropriate questions
- To be able to plan, design and conduct surveys
- To be able to analyze and interpret survey results
- To be able to write persuasive and logical sentences based on the results of analysis

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on how to proceed with the graduation thesis (30%), the content of the graduation thesis (40%), and the presentation of graduation thesis (30%).

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

卒業論文 (ライフ)

荒川 裕子

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化やアート、趣味、生き甲斐、地域コミュニティといった観点からキャリアデザインにアプローチし、論文を作成します。問題提起(研究テーマの設定)、先行研究のサーベイ、論文の構成(章立て)、ヒアリングやアンケート、文献などによる調査のしかた等を段階的に学んでいき、最終的にアカデミックな論文を完成させることを目指します。

【到達目標】

大学における四年間の学びの集大成として、アカデミックな形式にのっとった論文を執筆します。自分自身の関心領域や問題意識を明確にし、仮説を組み立て、それを論証していくために必要な資料やデータを収集し、説得力のある文章にまとめていく力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

各自が自らのテーマにそって個別に研究を進めると同時に、適宜、教室において論文作成の経過報告を行い、他の受講生たちとのディスカッションを通じて考察を深めていきます。必要に応じて、教員による個別指導も複数回実施します。学生へのフィードバックは適宜授業内に時間を設けて行うとともに、学習支援システムでも共有します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	学術論文とは何か、について説明する。
第2回	研究方法の概要①	理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方について説明するとともに、具体的な研究事例を紹介する。
第3回	研究方法の概要②	前回に引き続き、理論研究と実証研究、文献のサーベイや検索方法など、研究の進め方についてより詳しく説明するとともに、より広範な研究事例を紹介する。
第4回	研究テーマの設定①	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく (チーム1)。
第5回	研究テーマの設定②	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく (チーム2)。
第6回	研究テーマの設定③	自身の問題意識にもとづいて適切なテーマを設定するために、ディスカッションを交えながら検討していく (チーム3)。
第7回	先行研究の調査①	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく (チーム1)。

第8回	先行研究の調査②	自身の研究テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見をもとに、自らの課題を明確にしていく (チーム2)。
第9回	研究計画の策定①	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる (チーム1)。
第10回	研究計画の策定②	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる (チーム2)。
第11回	研究計画の策定③	具体的な研究テーマを設定し、おおまかな論文構成を組み立て、必要な調査等の計画を立てる (チーム3)。
第12回	中間報告①	第一グループが各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する。
第13回	中間報告②	第二グループが各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する。
第14回	中間報告③	第三グループが各自の研究テーマや論文構成、文献表等を発表し、ゼミ内で共有する。
第15回	調査の実施とデータの集積①	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく (チーム1)。
第16回	調査の実施とデータの集積②	説得力のある論を展開していくために必要な調査を実施し、データを集積していく (チーム2)。
第17回	仮説の検討①	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる (チーム1)。
第18回	仮説の検討②	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる (チーム2)。
第19回	仮説の検討③	これまでに得られたデータをもとに、仮説の検討を試みる (チーム3)。
第20回	論文の組み立て①	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う (チーム1)。
第21回	論文の組み立て②	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う (チーム2)。
第22回	論文の組み立て③	論の展開にそって説得力のある明快な章立てを行う (チーム3)。
第23回	論文の執筆①	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う (チーム1)。
第24回	論文の執筆②	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う (チーム2)。
第25回	論文の執筆③	論文の目的、先行研究、仮説、調査のプロセスとその結果、自分自身の考察、という流れにそって、適宜個別指導を受けながら執筆を行う (チーム3)。
第26回	リファインの作業①	ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う (チーム1)。

- 第27回 リファインの作業② ゼミにおいて論文の内容を発表し、寄せられた意見を踏まえて、論文のリファインを行う（チーム2）。
- 第28回 論文の完成 論文の提出に向けて書式等を整え、最終的な仕上げを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

論文執筆に向けて、文献の収集やフィールド調査など、各自の研究テーマにそってさまざまな課外活動が必要となります。また、ときどきの発表に向けて、スライドやレジユメの作成等の準備作業を行うことも求められます。こうした準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

適宜プリント資料等を配布します。

また、一年次に履修した基礎ゼミのテキストやノートを適宜活用するのが望ましいです。

**【参考書】**

授業中に適宜提示します。各自のテーマにそった文献の紹介も適宜個別に行います。

**【成績評価の方法と基準】**

研究への取り組み姿勢：50%

論文の完成度：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート対象外科目のため非実施

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students develop the ability to write an academic paper exploring a human way of life based on a theme using key words such as culture and art.

The goal of this course is to write a thesis in an academic format as the culmination of your four years of study at university.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Commitment to research (50%) and completeness of the thesis (50%).

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

卒業論文 (ライフ)

金山 喜昭

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマは「地域コミュニティを探る」です。  
 人の生き方は、地域との関係を抜きにしては考えられません。生活、仕事、NPO活動、行政、文化活動、福祉活動などを通して、人は地域との関わりをもち生きています。地域でのボランティア活動やイベント、ミュージアムなどの文化施設のあり方や、地域を活性化させることなど、「地域コミュニティにおける人の生き方」に関することを題材にします。

【到達目標】

卒業論文の作成を目標とする。4年間の学業の集大成として位置づけ、卒業後のキャリア形成にとってのコア形成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

卒業論文の準備と中間報告・論文を完成させる。課題等に対するフィードバック方法としては、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の意義について説明する。
2	テーマの設定	卒論で扱うテーマと問題意識について説明する。
3	小論文の発表 (1)	春学期宿題 (小論文) を発表し、意見交換する。2名
4	小論文の発表 (2)	春学期宿題 (小論文) を発表し、意見交換する。2名
5	小論文の発表 (3)	春学期宿題 (小論文) を発表し、意見交換する。3名
6	再検討したテーマの発表 (1)	小論文の発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表し、意見交換する。2名
7	再検討したテーマの発表 (2)	小論文の発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表し、意見交換する。2名
8	再検討したテーマの発表 (3)	小論文の発表を基にして再度テーマの妥当性について再検討して発表し、意見交換する。3名
9	卒論計画発表 (1)	卒論執筆のスケジュール概要とそれに要する時間を見積もり発表する。2名
10	卒論計画発表 (2)	卒論執筆のスケジュール概要とそれに要する時間を見積もり発表する。2名
11	卒論計画発表 (3)	卒論執筆のスケジュール概要とそれに要する時間を見積もり発表する。3名
12	先行研究 (文献) 評価の発表 (1)	先行研究で明らかになっていることや課題をまとめる。3名
13	先行研究 (文献) 評価の発表 (2)	先行研究で明らかになっていることや課題をまとめる。4名

14	調査の計画	データ収集や現地調査のスケジュールを発表する。
15	中間発表 (1)	夏休み中に実施したデータ収集、現地調査の状況を発表する。2名
16	中間発表 (2)	夏休み中に実施したデータ収集、現地調査の状況を発表する。2名
17	中間発表 (3)	夏休み中に実施したデータ収集、現地調査の状況を発表する。3名
18	分析の実施 (1)	文献調査、データ収集、現地調査の状況に基づき分析する。
19	分析の実施 (2)	文献調査、データ収集、現地調査の状況に基づき分析する。
20	分析の実施 (3)	文献調査、データ収集、現地調査の状況に基づき分析する。
21	論文執筆 (1)	問題と目的を中心に扱う。
22	論文執筆 (2)	先行研究を中心に扱う。
23	論文執筆 (3)	調査方法と分析結果を中心に扱う。
24	論文執筆 (4)	分析結果についての考察、結論を中心に扱う。
25	論文執筆 (5)	引用参考文献を中心に扱う。論文全体を推敲する。
26	卒論経過発表	ゼミ内で発表、質疑応答を行う。最終的な確認を行う。
27	卒論発表	卒論を発表し講評を行う。
28	授業の総括	卒業論文の意義や今後の課題についてゼミ生で意見を出し合い確認する。最後に講評を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自、卒論に必要とされる調査をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会

【参考書】

随時、資料などを配布する。  
 個別に指導する中で、参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)  
 討論を含む授業への積極的参加 (20%)  
 卒業論文 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

参加者からの意見を大切にして授業を運営する。

【Outline (in English)】  
 (Outline)

This course aims to be will learn "how people live in local communities," including volunteer activities, events, museums and other cultural facilities, and revitalizing local communities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do followings;

Understand the concept of local communities.

To look at case studies from around the world

Acquire skills and methods that will enable participants to realize their respective themes.

(Learning activities outside of classroom)

Your required study times is at least four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in this class will be decided based on the following.

Ordinary points (10%), Active participation in class, including discussion (20%),graduation thesis(70%)

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

卒業論文 (ライフ)

齋藤 嘉孝

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の完成を最終目標とする。そのために必要な学問的知識や技術、視点などを学ぶ。各自がそれぞれのテーマで取り組むことになるが、共通するテーマとして「家族」に関するものを選ぶこととする。

【到達目標】

卒業論文の執筆を目標とする。論文を書き上げるのであって、レポートやエッセイではないことに注意したい。学術的な論理やエビデンス、文章法などが必要となるが、それらの習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

卒業論文を作成するため、各段階ごとに指導する。先行研究の読み込み方や引用のしかた、データの収集や分析方法、および社会や政策への提言の書き方等について、具体的に取りあげる。履修者は各自で学習していき、その進展に応じて指導を行う。課題に対するフィードバックは、個別添削やコメント等を通じて毎回おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	学術論文の概要や意義等について
2	研究方法 1	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法について学ぶ
3	研究方法 2	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についてより深く学ぶ
4	研究方法 3	理論研究、量的／質的実証研究、文献サーベイ等の研究方法についての学びを洗練させる
5	テーマ設定 1	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考え始める
6	テーマ設定 2	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかを考える
7	テーマ設定 3	問題意識やテーマを明確化し、具体的にどのような研究スタイルが適しているかをより深く吟味する
8	先行研究の探索 1	テーマに関連する先行研究を調査し始め、それらの知見と残された課題を識別する
9	先行研究の探索 2	テーマに関連する先行研究を広く調査し、それらの知見と残された課題を識別する
10	先行研究の探索 3	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題の識別を深める

11	先行研究の探索 4	テーマに関連する先行研究をより広く調査し、それらの知見と残された課題を整理する
12	先行研究の探索 5	テーマに関連する先行研究をさらにより広く調査し、それらの知見と残された課題の整理を洗練させる
13	研究・調査計画の策定 1	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等を計画する
14	研究・調査計画の策定 2	具体的な研究・調査のテーマを設定し、データ収集方法および分析方法等の計画を洗練させる
15	データ収集 1	調査データの収集・入力・整理等の準備をおこなう
16	データ収集 2	調査データの収集・入力・整理等を始める
17	データ収集 3	調査データの収集・入力・整理等を実際におこなう
18	データ収集 4	調査データの収集・入力・整理等の作業をまとめる
19	データ分析 1	検証仮説を再検討し、データを分析し始める
20	データ分析 2	検証仮説を再検討し、データを分析する
21	データ分析 3	検証仮説を再検討し、データ分析を深める
22	データ分析 4	検証仮説を再検討し、データを分析結果を解釈する
23	論文執筆 1	論文における形式・書式・文章作成等を学び、実際に執筆する
24	論文執筆 2	論文における形式・書式・文章作成等を学び、執筆内容を深める
25	報告およびディスカッション 1	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を作成する
26	報告およびディスカッション 2	論文を口頭発表し、各側面に関する意見やディスカッションを参考にして論文を洗練させる
27	論文完成 1	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等をおこなう
28	論文完成 2	論文提出に向け、最終的な仕上げ作業や推敲等を洗練させる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

2年次からのゼミ活動やこれまでの各授業等において、熱心に取り組むことが重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、課題50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】

The aim of this course is to complete an academic paper. Learn necessary academic knowledge, skills and perspectives along with each student's theme. The individual theme must be chosen among the topics concerning families. Learning objective of this course is to write academic papers. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 50% and homework 50%.



SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

## 卒業論文 (ライフ)

佐藤 恵

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学は、「常識を疑う」というスタンスのもとで、社会・文化についての研究を行う学問です。ただし、「常識を疑う」ということは、何も、今まで誰も思いつかなかったような大発見をするということではありません。自分のものの見方・考え方の幅を広げ、自分にとっての新たな気づき・学びを得ていく実践を指します。そうした実践は、どのようなキャリアを築いていくにしても、必要不可欠となるものです。

この授業では、以上のような社会学の基本的な視点・発想に立脚した上で、参加者が自分なりの関心あるテーマについて社会的に研究し、卒業論文を作成できるようになることをめざします。社会的な視点・発想に基づいていれば、各自の論文のテーマは自由です。

### 【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象について理解を深め、説明することができる。
- (3) 卒業論文を執筆し、質・量ともに十分な水準の論文として完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。

具体的な内容としては、①ゼミ論 (卒論のベース) における発見のシェア、②卒業論文作成に向けた中間発表・全体ディスカッション、③卒業論文執筆です。

進行方法等に関しては、参加者と相談の上、状況に応じて決めていきますが、毎週の卒論ゼミの時間以外に、論文構想発表会を年に数回開催して、卒論の完成をめざしていく予定です。

なお、課題等に対するフィードバック方法としては、授業時間内に講評・解説の時間を設けることとします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーション
2	論文執筆のテーマ、研究計画の検討	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定
3	先行研究の検討 (1)	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討
4	先行研究の検討 (2)	研究テーマに関連する先行研究の検討結果を発表
5	調査内容の決定と調査の実施に関する指導	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討:質的調査 (インタビュー法、観察法、ライフストーリー法) や文献研究
6	研究方法の決定、調査内容等の検討	調査対象、調査時期、調査内容について発表と指導

7	研究の中間とりまとめ (1)	中間発表に向けた準備: 研究における問いという観点から
8	研究の中間とりまとめ (2)	中間発表に向けた準備: 仮説構成という観点から
9	研究の中間のとりまとめ (3)	中間発表に向けた準備: 調査の方法という観点から
10	調査研究データの分析 (1)	収集したデータの整理
11	調査研究データの分析 (2)	収集したデータの分析
12	論文の構成・考察に関する検討	論理整合性、独自性の検討
13	論文の結論に関する検討	問いに対応したかたちでの結論の提示
14	春学期総括	春学期授業内容を総合的にまとめ、振り返る
15	秋学期オリエンテーション	論文執筆・完成に向けたオリエンテーション
16	中間発表会 (1)	問題意識の明確化を中心に
17	中間発表会 (2)	データの読解を中心に
18	中間発表会 (3)	論文のストーリーラインを中心に
19	中間発表会 (4)	結論を中心に
20	調査の実施状況の確認 (1)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認 (データ収集の側面)
21	調査の実施状況の確認 (2)	研究テーマに即した調査が適切に行われているか進捗状況の確認 (データ分析の側面)
22	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション (1)	調査結果の取りまとめ方を改めて検討
23	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する発表とディスカッション (2)	研究方法・研究テーマに即した分析と解釈になっているか検討
24	論文のブラッシュアップ (1)	論文の構成に留意して
25	論文のブラッシュアップ (2)	先行研究との差別化、オリジナリティのアピールに留意して
26	論文のブラッシュアップ (3)	データ読解の掘り下げ方に留意して
27	論文の最終チェック	論文の構成の確認: 各章のつながり、ストーリーラインの観点から
28	年間総括	1年間の授業内容を総合的にまとめ、振り返る

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自の研究を進める上で必要なデータ・資料を収集しつつ、時間をかけて構想を練り、中間発表および論文執筆に備えてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

### 【参考書】

授業中に随時、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

論文内容 (70%)、平常点 (30%)。  
 論文内容については、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、卒業論文の達成度の状況を基準とします。  
 平常点については、ゼミ活動への参加・貢献度、受講態度の状況を基準とします。  
 欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

【Outline (in English)】  
 (Course outline)

Based on their respective seminar essays, the participants of the graduation thesis seminar sociologically analyze their own choice of themes and prepare graduation theses through several interim reports and discussions taking place during the course.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to A, B, and C.

- A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
- B. Explaining the problems by the deep understandings of various human relationships and social phenomena in the community.
- C. Completing graduation theses with the certain standards in quantity and quality.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the presentation and writing theses by deepen consideration with gleaning literature and data.

Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Thesis : 70%, in class contribution: 30%

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

## 卒業論文 (ライフ)

田中 研之輔

単位数：4単位 | 開講semester：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座は、①ライフキャリアに関する理論整理、②方法論の選定と検討、③質的調査の実施と分析、④執筆を通じて、個人研究論文を仕上げていくことを目的としています。

### 【到達目標】

①ライフキャリアに関する理論レビューができるようになります。  
 ②質的調査に基づいたアカデミックライティングの基礎がみにつきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

本ゼミの主要テーマは、「人生100年時代のライフキャリアを理論的、経験的に分析する」です。現代都市東京は、疑いもなく、文化・経済・政治の集積都市として世界的に注目されています。しかし、東京に身を置かれわれですら、東京の全貌を捉えることは難しいことです。また逆に、東京で生活しているからこそ、東京がみえにくいのだともいえるかもしれません。本ゼミでは、ライフキャリア論の理論的視座、フィールドワークの認識論、インタビュー方法論を学びながら、それぞれの身体資本を最大限に活かす「現場」で参与観察 (可能ならば、観察的参与) を実施していくための実践的サポートをしていきます。一筋縄ではいかない「現場」の選択、コミットメント、のプロセスそのものをゼミの中で議論し共有していきましょう。その意味で、本ゼミは、ゼミ生の個人プロジェクトではなく、ゼミ生の集合的な協働プロジェクトとしてフィールドワークを位置づけています。また、大学から社会への移行とその後のライフキャリア戦略を実践的に学ぶ機会でもあります。フィードバックは、卒論への個別フィードバックを全員に対して、定期的に行っていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ設定「ライフキャリア、労働・情報・現代社会論・都市社会論」から個人テーマを選定、検討	個人研究論文の関心テーマの絞り込みを行う
2	卒論テーマの候補選択	個人研究テーマの候補を3つに絞る
3	卒論テーマの選定	3つの候補から一つに絞る
4	卒論テーマに関する関連文献の検討	主要先行研究の検討を行う
5	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築①	卒論テーマに関する理論的視座を構築する
6	卒論テーマに関する理論的枠組みの構築②	卒論テーマに関する理論的視座を構築し、精査する
7	先行研究に関する検討会①	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い検討する
8	先行研究に関する検討会②	先行研究の整理に関して、プレゼンを行い、精査する
9	研究対象の選定	研究対象を具体的に選定する

10	研究方法の整理	研究方法を整理する
11	インタビュー法の検討	インタビュー法の検討を行う
12	ブレインタビューの実施	模擬インタビューを実施する
13	フィールドワーク法の検討	フィールドワーク法の検討を行う
14	フィールドワーク法のプレワーク	フィールドワーク法を模擬的に実施する
15	調査の設計	調査スケジュールを具体的に検討する
16	調査の開始	研究対象への調査を行う
17	調査の中間報告	調査状況の報告と確認を行う
18	理論整理・方法論の記述	理論整理と方法論に関する記述を行う
19	理論・方法論の記述内容の検討	理論・方法論の記述内容の検討を行う
20	調査データの収集と分析	調査データを収集し、分析する
21	調査データの体系化と考察	調査データの体系化を行い、考察を加える
22	調査データの分析と記述	調査データの分析と記述をする
23	調査データの考察と結論	調査データの考察と結論を導き出す
24	調査データの考察と結論の記述	調査データの考察と結論を記述する
25	卒論全体の記述を検討する	卒論全体の記述の精度を高める
26	卒論研究発表会①	研究報告15分 質疑応答15分の研究発表会を実施する (前半組)
27	卒論研究発表会②	研究報告15分 質疑応答15分の研究発表会を実施する (後半組)
28	卒業論文集の制作	完成させた卒業論文集をまとめ、デジタル論集を作成する

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

英文課題&理論整理論文を毎週、読み続け、議論にそなえる。計画的に質的調査を実施し、論文を執筆していきます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

毎週、電子版英文資料を共有サイトにアップします。

### 【参考書】

必要に応じて参考資料を配付します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%)、各段階での課題 (25%)、卒業論文 (50%) による総合評価

### 【学生の意見等からの気づき】

補足論文の検討と個人研究報告会をさらに充実化させる。

### 【Outline (in English)】

This course introduces research methods and academic writing as they require to the undergraduate degree of career studies. This practical academic session provides a macro-micro perspective of the methods associated with conducting scholarly research in all follow-on core, qualitative courses, and the academic thesis.

### 【Work to be done outside of class】

Each student will conduct survey training outside of class to prepare for the presentation.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

### 【Grading criteria】

Submission assignment (50%), normal score (50%).

The submitted assignments will be based on the achievement level of the assignments, based on the basic viewpoint of career studies research and the degree of understanding of ideas.

The normal score is based on the writing research paper and the degree of participation / contribution to the class and the attitude of attending the class.

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

卒業論文 (ライフ)

安田 節之

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3年次に執筆・提出したライフキャリア研究またはプログラム評価研究に関するゼミ論をもとに卒業論文を完成させることを目的とする。

【到達目標】

・ライフキャリアまたはプログラム評価に関する卒業研究を論文としてまとめあげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ゼミ論執筆の段階では、先行研究のレビューやデータ収集・分析などに個人差があると予想されるため、ゼミ全体での報告 (中間発表) やディスカッションでの学びを各自の卒論にする。またゼミおよびサブゼミでの個人の卒論指導を通して、研究報告としての論文の質を高める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	卒業研究および卒業論文の意義や卒論執筆・提出の流れについて確認する。
2	問題と目的および先行研究の確認①	研究テーマに関する問題設定や研究目的を改めて自身のリサーチクエスチョンに反映させる。
3	問題と目的および先行研究の確認②	研究テーマの先行研究に関する調査を開始する。
4	問題と目的および先行研究の確認③	先行研究に関して、適切な論文・書籍のレビューが行われているかを確認する。
5	研究方法①	量的調査について、質問紙データの設定に関する背景 (理論・実践) を確認する。
6	研究方法②	量的調査について、質問紙データの設定に関する理論背景を確認する。
7	研究方法③	量的調査について、質問紙データの設定に関する実践を確認する。
8	研究方法④	質的調査について、データ収集の方法 (インタビューガイド) などの確認を行う。
9	研究方法⑤	質的調査については、データ収集の方法 (インタビューガイド) などの再確認を行う。
10	研究方法⑥	量的調査と質的調査の内容や方法の整合性について確認を行う。
11	研究結果①	集中的なデータ分析を行い、結果の算出方法に向けた論点の明確化を行う。
12	研究結果②	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の明確化を行う。

13	研究結果③	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の明確化の再確認を行う。
14	研究結果④	集中的なデータ分析を行い、考察執筆に向けた論点の明確化を行う。
15	研究結果⑤	集中的なデータ分析を行い、考察執筆に向けた論点の明確化の再確認を行う。
16	研究結果⑥	集中的なデータ分析を行い、結果の解釈の方法や考察執筆の整合性について確認を行う。
17	追加データ収集の検討①	前段階の研究結果の状況を踏まえ、各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。必要であれば、追加データの収集計画を立てる。
18	追加データ収集の検討②	前段階の研究結果の状況を踏まえ、各自のリサーチクエスチョンに対して必要十分なデータが収集できたかを再確認する。
19	追加データ収集の検討③	前段階の研究結果の状況を踏まえ、必要であれば、追加データの収集計画を立てる。
20	中間報告①	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告 (前半) を行う。
21	中間報告②	ゼミ全体の卒論執筆状況の確認のための中間報告 (後半) を行う。
22	考察 (ディスカッション) ①	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を行う。
23	考察 (ディスカッション) ②	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察の執筆を継続する。
24	考察 (ディスカッション) ③	中間報告でのフィードバックを参考に執筆した考察を完成させる。
25	論文完成①	問題・目的、先行研究レビュー、研究方法と結果の分析を行う。
26	論文完成②	考察の全体を確認し、卒論完成・提出にむけた作業を行う。
27	成果報告①	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う (前半)。
28	成果報告②	卒論の最終報告および卒論執筆を通しての成果の報告を行う (後半)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

卒業論文の執筆については各自のペースで進めてもらう形で結構ですが、個人の卒論指導やゼミ内でのディスカッション (中間報告) を通しての学びやアドバイスを十分に反映させた卒論にしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の完成度 (80%)、授業への積極的な貢献度 (20%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループでのディスカッションの時間と個人の卒業論文の指導のバランスをとる。

【Outline (in English)】

This seminar focuses attention on completing an individual thesis that is based on issues related to life-designing problems and/or program evaluation.

**Goal**

·Complete undergraduate thesis that are related to community psychology and/or program evaluation

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom (two hours for reading and two hours for outreach studies).

Grading Criteria /Policy:

80 points (%) for thesis paper

50 points (%) for class presentations

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

卒業論文 (ライフ)

福井 令恵

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ともに生きる」という課題を文化の問題などの視点から考え、独自のテーマを追究して、卒業論文を完成させる。自分の問題意識を掘り下げ、4年間の集大成とする。

【到達目標】

自分の興味・関心に基づき、テーマを自ら設定して、計画を立て、調査研究を進めることができる。また、調査研究から得られた結果をもとに、論文作成の留意事項に従って卒業論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は、演習時に指導を行う予定である。授業計画に従い、各自の研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて研究計画を立て、調査研究を進める。秋学期は必要に応じて個別指導を行う。進捗状況をもとに各自が研究計画の見直しを行い、調査研究を遂行して、卒業論文を完成させる。

課題等のフィードバックは、春学期は授業のなかで講評や解説を行う時間を設ける。秋学期は個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方について、説明する。
2	テーマの設定 (1)	調査研究の構想 (1)。
3	テーマの設定 (2)	調査研究の構想 (2)。
4	先行研究の検討 (1)	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する (1)。
5	先行研究の検討 (2)	先行研究の検討をもとに自らの課題を明確化する (2)。
6	リサーチクエストと研究計画 (1)	リサーチクエストと研究計画の策定 (1)。
7	リサーチクエストと研究計画 (2)	リサーチクエストと研究計画の策定 (2)。
8	リサーチクエストと研究計画 (3)	研究テーマ、リサーチクエストの発表をし、今後の計画を提出する。
9	データの収集と整理 (1)	データの収集 (1)。
10	データの収集と整理 (2)	データの収集 (2)。
11	データの収集と整理 (3)	これまでに得られたデータの整理をする。
12	仮説の検討	データのもとに、仮説の検討を試みる。
13	中間発表 (1)	中間報告 (章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定) (1)。
14	中間発表 (2)	中間報告 (章立て、これまでの研究活動内容と今後の予定) (2)。
15	進捗状況の報告と見直し	研究活動の報告。

16	データの蓄積・整理・分析 (1)	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う (1)。
17	データの蓄積・整理・分析 (2)	説得力のある議論の展開に必要なデータの収集・整理・分析を行う (2)。
18	論文の組み立て	明確な章立ての確認。
19	卒業論文の執筆 (1)	適宜指導を受けながら、論文を執筆する (1)。
20	卒業論文の執筆 (2)	適宜指導を受けながら、論文を執筆する (2)。
21	卒業論文の執筆 (3)	適宜指導を受けながら、論文を執筆する (3)。
22	卒業論文の執筆 (4)	適宜指導を受けながら、論文を執筆する (4)。
23	卒業論文の執筆 (5)	適宜指導を受けながら、論文を執筆する (5)。
24	卒業論文の執筆 (6)	適宜指導を受けながら、論文を執筆する (6)。
25	卒業論文の見直し (1)	論文全体を書きあげ、見直しをする (1)。
26	卒業論文の見直し (2)	論文全体を書きあげ、見直しをする (2)。
27	卒業論文の完成	卒業論文の完成。
28	卒論発表	ゼミ生 (2・3年生) などへの卒論発表。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を読み、先行研究の整理と、問いの設定をする。調査研究を主体的に進める。また、報告やプレゼンの準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業において適宜紹介する。

【参考書】

授業において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論文の内容を総合的に評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to write a high-quality thesis. Students learn the necessary process to complete their research paper such as how to collect data and gain the ability to write lucidly and present ideas rationally. In this course, students will report on the progress of their research and discuss with other students. Individual guidance will be carried out several times as necessary. Students are expected to spend about 4 hours per week for required and optional readings and research activities. Grading criteria: Thesis 100%.

SOC400MA (社会学 / Sociology 400)

卒業論文 (ライフ)

熊谷 智博

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：4年  
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文執筆のための研究指導を行う。学術的に価値のある論文執筆を目指した指導を行う。論文執筆のベースとなる先行研究のレビュー、論文のフレームワーク及び仮説の構成、調査の企画を中心に習得する。

【到達目標】

卒業論文執筆に必要な一連の知識と技法—問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施、データの分析と解釈の仕方、論理的な文章を展開する方法など—を習得する。

そのうち春学期は問題意識の明確化とテーマ設定、テーマに関連した先行研究のレビュー、テーマに合致した調査方法の習得と調査の実施を中心に習得する。秋学期は調査の実施、分析、まとめを中心に指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

演習の進め方は個別指導を中心に展開する。担当教員と学生の意向も踏まえて開講形態や内容を決定する。卒業論文の執筆過程で、中間発表会において報告が求められる。本シラバスでは、一般的な指導の進め方を書いており、テーマによっては変更がありうる。授業計画は、研究テーマや方法論によって異なるが、以下に基本的な内容を記す。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文の基本的な構成や意義、執筆に向けた年間計画に関するオリエンテーションを行う。
第2回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討①	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第3回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討②	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第4回	論文執筆のテーマ、研究計画の検討③	自らの問題意識を明らかにし、社会的な重要性を踏まえて研究テーマを設定するための指導を行う。
第5回	先行研究の検討①	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第6回	先行研究の検討②	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。

第7回	先行研究の検討③	研究テーマに関連する先行研究を体系的に収集し、読み込み、検討することを通じて、研究の論点をより明らかにしていくための指導を行う。
第8回	研究方法の決定、調査内容等の検討①	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第9回	研究方法の決定、調査内容等の検討②	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第10回	研究方法の決定、調査内容等の検討③	適切な方法論に基づき、実現可能な研究方法を検討し、決定するための指導を行う。調査対象、調査時期、調査内容について指導を行う。
第11回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導①	調査の実施について適宜指導を行う。
第12回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導②	調査の実施について適宜指導を行う。
第13回	調査内容の決定と調査の実施に関する指導③	調査の実施について適宜指導を行う。
第14回	研究の中間とりまとめ	中間発表会に向けた準備を、研究の枠組み、仮説構成、調査の方法という観点から行う。
第15回	オリエンテーション	中間発表会を踏まえて執筆に向けた後半の計画に関するオリエンテーションを行う。
第16回	調査の実施状況の確認①	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第17回	調査の実施状況の確認②	研究テーマに即した調査が適切に行われているか、進捗状況を確認し、適宜指導を行う。
第18回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導①	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第19回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導②	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第20回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導③	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第21回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導④	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第22回	調査結果のとりまとめ、分析、解釈に関する指導⑤	調査結果のとりまとめ方を改めて検討し、研究方法・研究テーマに即した分析と解釈に関する指導を行う。
第23回	論文執筆の助言、指導①	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第24回	論文執筆の助言、指導②	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。

第25回	論文執筆の助言、指導③	論文の構成、論述方法、先行研究への言及の方法、データ解析結果の提示の方法などの指導を行い、学術論文へと仕上げていく。
第26回	論文の最終チェック①	卒業論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第27回	論文の最終チェック②	卒業論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。
第28回	論文の最終チェック③	卒業論文の完成度を高めるための指導を、論文全体の構成の観点から行う。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on your graduation thesis.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

基本文献・関連文献の読み込み、データの収集と分析、執筆など、卒業論文完成までの基本的な活動は授業外において主体的に行うことが求められる。

演習の時間を有効に活用するためには、論文執筆のための過程を授業外において順次進めておくだけでなく、演習当日に指導を求めポイントをあらかじめ明示的に担当教員に伝えておくことが重要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて、担当の教員が指定する。

**【参考書】**

参考書は、必要に応じて、担当の教員が指定する。

**【成績評価の方法と基準】**

論文の内容を総合的に評価する（100%）。

卒業論文は個々の問題意識をもとに主体的に取り組むことが重要であり、授業内での研究に関する議論への参加が基本要件である。

卒業論文については、先行研究を踏まえた研究の理論的枠組みの確かさ、現状認識に基づく問題意識の明確さ、実証分析の手堅さと妥当性、論理的な論文の展開、テーマの重要性・斬新性などが評価される。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の問題意識に合致した指導体制の推進およびそのための中間発表会での学生、教員からのコメントの活用など。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じて、担当の教員が指定する。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>

社会心理学、グループダイナミクス、紛争解決。

<研究テーマ>

集団間紛争の心理過程について研究しています。最近では集団間の協力や援助を促進する要因についても研究を進めています。

<主要研究業績>

熊谷智博（2019）. 第3章 集団間の紛争はどのように悪化するのかー キャンプ実験を例に 日本心理学会監修 大淵憲一編 紛争と和解を考える：集団の心理と行動 誠信書房 pp.46-72.

Tomohiro Kumagai (2017). Social Psychological Factors of Peace-Building. Conflicts and Peacebuilding: Toward the Sustainable Society (pp.101-108). GRM program, Doshisha University.

熊谷智博（2016）. 第15章：集団間紛争とその解決および和解 大淵憲一監修 紛争・暴力・公正の心理学 北大路書房 pp.192-203.

熊谷智博（2014）. 第9章：集団の中の個人、第10章：集団間関係. 脇本竜太郎編著、熊谷智博、竹橋洋毅、下田俊介共著 基礎からまなぶ社会心理学 サイエンス社 pp.153-192.

熊谷智博（2013）. 集団間不公正に対する報復としての非当事者攻撃の検討 社会心理学研究, 29, 2. 86-93.

熊谷智博・大淵憲一 監訳（2012）紛争と平和構築の社会心理学: 集団間の葛藤とその解決 北大路書房 Intergroup Conflicts and Their Resolution: A Social Psychological Perspective. D. Bar-Tal (Ed.) New York, NY: Psychology Press.

**【Outline (in English)】**

In this course, I instruct how to use preceding studies, to make hypothesis, and to plan survey for a graduation thesis.

Goals of this course are that students understand scientific way of study, and become to write a graduation thesis.



OTR400MA (その他 / Others 400)

## キャリアデザイン学総合演習

### 坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学の学習成果の総集として映画を制作する

- ①社会人を含む多様な学習者に会い、それぞれのキャリアの形成を支援もしくはライフストーリーとして描くことにより、キャリアデザイン学部で学んだ成果を振り返る。
- ②上記の目標を達成するために、キャリアデザイン学部での学びをテーマとした映画を制作する。

#### 【到達目標】

- ①キャリアデザイン学部での多様な学びを振り返り、映画にまとめる力を身につける。
- ②実社会で通用する映画制作実践知を身につける。
- ③メディアリテラシーの「アクセス—分析—創造—振り返り—行動」の力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

授業は次の方法で進める。

- ・ディスカッションを中心としたグループ学習
- ・映画関連のゲストを招いた特別講義
- ・自主夜間中学校における学習支援活動と映像制作
- ・土業コミュニティである「Aコモンズ・ミーティング」に参加する
- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・レポート等の提出・フィードバックは授業支援システムを通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、レポートに対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス1	授業の内容と方法の紹介
第2回	課外活動の解説	「Aコモンズ・ミーティング」の紹介（外部講師）
第3回	映画制作論1	映画制作の基礎
第4回	映画制作論2	映画制作の撮影方法
第5回	映画制作論3	映画制作の編集技術
第6回	地域における学習支援1	自主夜間中学校での学習支援活動ガイダンス
第7回	地域における学習支援2	自主夜間中学校での学習支援活動1
第8回	地域における学習支援3	自主夜間中学校での学習支援活動2
第9回	社会人特別授業	特別講師による社会人講座
第10回	映像撮影(1)	学内外における映像撮影1
第11回	映像撮影(2)	学内外における映像撮影2
第12回	映像編集(1)	撮影した映像の編集と修正
第13回	映像編集(2)	撮影した映像の編集と完成
第14回	発表会	これまでの授業を振り返り、上映会を行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

映画制作のため、授業時間外の取材や映像編集を行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は特にありません。必要に応じて、議論に必要な資料を配布します。

#### 【参考書】

特にありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加、プレゼンテーションの内容、振り返りレポートを元に評価を行う。授業及び課外活動への参加は30%、映像制作の内容40%、振り返りレポート30%の配分となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

自主夜間中学校などの学外組織との継続的な関係づくりが重要であることが信頼性の醸成に欠かせない。

#### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、iPhone等、映像を制作するための機器。

#### 【その他の重要事項】

ディスカッションやワークショップへの継続して参加すること。映像制作の経験がなくても、役者や脚本、監督などさまざまな役を担うことによって履修することができる。キャリアデザイン学の集大成として、積極的な履修をお勧めする。

#### 【Outline (in English)】

To review your learning at collage and make a presentation material or movie

To participate a outside meeting and make a movie about your career and learning

The goals are to synthesize the results of previous learning into a film, to acquire practical skills in filmmaking, and to develop the four skills of access, analysis, creation, reflection, and action.

Grading criteria are as follows. Class participation is 30%, filmmaking 40%, and reports 30%. For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学  
(英語 I)**

Robert Durham

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

**【到達目標】**

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions might be necessary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]	Introducing yourself, in smooth, natural, friendly English.
第2回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第3回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第4回	"How was your Golden Week?"	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.

第5回	"How are you?"/ "How are you doing?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第6回	Further practice, re: "How goes it?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第7回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第8回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第9回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第10回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第11回	Video/ News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第12回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第13回	Speaking EXAM about all of the topics we studied during the semester.	Speaking EXAM, re: all of the topics studied during the semester.
第14回	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト (教科書)】**

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

**【参考書】**

-

**【成績評価の方法と基準】**

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

**\*IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.\***

**【学生の意見等からの気づき】**

—

**【学生が準備すべき機器他】**

Please make sure to bring a binder & binder paper, every class; pens; & a black marker pen.

{+ Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, Students MIGHT need 'Online Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

So, please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.)

**【その他の重要事項】**

If you're sick/ have a fever/ coughing/ sneezing: please STAY HOME & recover. (Please DON'T bring Cold/ Influenza/ Covid viruses to class.)

Manners: whenever anyone coughs/ sneezes: that person should fully cover nose/mouth, to protect other people from virus spread.

Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, please prepare EARLY: a fully-working computer AND microphone; fast Wi-Fi; and a fully-working microphone.

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

**\* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT!\***

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学  
(英語Ⅱ)**

Robert Durham

単位数：1単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

**【到達目標】**

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.

第2回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第3回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第4回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.
第5回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第6回	"The Seven W's": (Who...?/ What...?/ When...?/ Where...?/ Why...?/ Which...?/ How...?)	Students will learn how to verbally ask others, and to reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第7回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第8回	"What time is it?", & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第9回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S./Canada.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第10回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第11回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第12回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.

- 第13回 Speaking EXAM, re: all topics that students learned and practiced during the Fall semester. Speaking EXAM: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in the Fall semester.
- 第14回 "How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?" Students will be asked to write down (and practice with classmates) adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke"]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト（教科書）】**

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

**【参考書】**

—

**【成績評価の方法と基準】**

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

\*IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.\*

**【学生の意見等からの気づき】**

—

**【学生が準備すべき機器他】**

Please make sure to bring a binder & binder paper, every class; pens; & a black marker pen.

{+ Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, Students MIGHT need 'Online Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

So, please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.}

**【その他の重要事項】**

If you're sick/ have a fever/ coughing/ sneezing: please STAY HOME & recover. (Please DON'T bring Cold/ Influenza/ Covid viruses to class.)

Manners: whenever anyone coughs/ sneezes: that person should fully cover nose/mouth, to protect other people from virus spread.

Up to 7 out of 14 classes MIGHT be conducted online, depending on Health Issues & Virus problems. Therefore, please prepare EARLY: a fully-working computer AND microphone; fast Wi-Fi; and a fully-working microphone.

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

\* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.\*

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞）に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学  
(英語Ⅲ)**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

**【到達目標】**

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals

Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト (教科書)】**

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners  
New edition 2021, Harrington, LeBeau  
ISBN 9784863123854

**【参考書】**

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2021, Harrington, LeBeau  
ISBN 9784863123854

**【成績評価の方法と基準】**

Quizzes-20%

Homework-15%,

Participation 20%

Presentations 45%

\*In principle, no more than three absences per term are allowed

**【学生の意見等からの気づき】**

Added emphasis on eye contact and use of transitions in presentations.

**【学生が準備すべき機器他】**

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

**【その他の重要事項】**

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学  
(英語Ⅳ)**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

アカデミック・スキルズ (講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方、意見の述べ方など) を学び、伸ばします。また、語彙力の向上にも役立ちます (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

**【到達目標】**

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions

Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing
Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 3 Unit 4: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 4 Unit 5: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 5 Unit 6: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review & wrap-up

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト (教科書)】**

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost  
ISBN: 9780134400648

**【参考書】**

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost  
ISBN: 9780134400648

**【成績評価の方法と基準】**

Quizzes-60%  
Homework-20%,  
Participation 10%  
Presentations/ Discussion activities 10%

**【学生の意見等からの気づき】**

Increased emphasis on discussion of issues in small groups and vocabulary development



**【学生が準備すべき機器他】**

**【教室必要備品】** OHC & projector, DVD & CD player in classroom

**【その他の重要事項】**

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞）に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**国際コミュニケーション語学  
(英語V)**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈優〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

高校までに学んだ英語と文法の知識を定着させながら、自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書けるようになることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます (詳細は以下の英文の記載を読んでもください)。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

**【到達目標】**

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第2回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第3回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第4回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer review
第5回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence

第6回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第7回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第8回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第9回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第10回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs
第11回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第12回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第13回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第14回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Homework exercises contained in the course digital handouts Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト (教科書)】**

Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

**【参考書】**

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

[www.englishgrammar.org](http://www.englishgrammar.org)

Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

**【成績評価の方法と基準】**

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

**【学生の意見等からの気づき】**

Increased work on sentence cohesion and use of outside sources as evidence.

**【学生が準備すべき機器他】**

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, and submitted through the Google Classroom page for the course. All students taking the class will need to join the Google Classroom page, for which details will be provided in the first week of class.

**【その他の重要事項】**

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA (キャリア教育 / Career education 200)

**就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-**

梅崎 修、上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業は、連合(日本労働組合総連合会)と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の中に、働く現場のリアルで最新の情報を開けるのはとても貴重な機会です。

**【到達目標】**

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。

企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する

2	<p><b>【開講の辞】</b> 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと</p> <p><b>【課題提起①】</b> 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～</p>	<p><b>【開講の辞】</b> 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらおう。</p> <p><b>【課題提起①】</b> 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらう。 (2023年度ゲストは教育文化協会)</p>
3	<p><b>【課題提起②】</b> いま働く現場で何が起きているのか～職場における課題と労働組合の役割～</p>	<p>若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割(職場における課題解決に向けてどのような取り組みを行っているのか)と意義について理解してもらおう。 (2023年度ゲストは連合事務局)</p>
4	<p><b>【ケーススタディ①】</b> 労働時間の短縮に向けた取り組み</p>	<p>働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらおう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。 (2023年度ゲストは生保労連)</p>
5	<p><b>【ケーススタディ②】</b> 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み</p>	<p>なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 (2023年度ゲストは伊藤ハム労働組合)</p>
6	<p><b>【ケーススタディ③】</b> 公務労働の現状と公共サービスの役割</p>	<p>「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス(新しい公共)の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらおう。 (2023年度ゲストは自治労)</p>
7	<p><b>【ケーススタディ④】</b> 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み</p>	<p>男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 (2023年度ゲストはJP労組)</p>
8	<p><b>【ケーススタディ⑤】</b> AI技術やDXの進展に伴う課題と労働組合の役割</p>	<p>AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 (2023年度ゲストはKDDI労働組合)。</p>

- 9 **【ケーススタディ⑥】** 雇用と生活を守る取り組み  
技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。(2023年度ゲストはJAM)
- 10 **【課題への対応①】** 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み  
働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みを聴き、理解してもらう。(2023年度ゲストは連合労働法制局)
- 11 **【課題への対応②】** 国際労働運動の役割～グローバル化への対応～  
進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考えてもらう。(2023年度ゲストはITUC/ ILO)
- 12 **【課題への対応③】** 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み  
労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。(2023年度ゲストは連合労働条件・中小地域対策局)
- 13 **【修了講義】** 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～  
すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。(2023年度ゲストは連合事務局)
- 14 **【論点整理】** 「働くということ」と労働組合  
ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特にありません。

**【参考書】**

授業内で随時、紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（コメント内容含む）が50%、レポートが50%。  
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

**【学生の意見等からの気づき】**

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

**【Outline (in English)】**

**【Course outline】**

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

**【Learning Objectives】**

Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.

**【Learning activities outside of classroom】**

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

CAR300MA (キャリア教育 / Career education 300)

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3~4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学後期は社会へのトランジション (移行) 期であり、大学で修得すべき必須の知見 (アカデミックスキル) を確認し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の理解・修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

\*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部(発揮) ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
  - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
  - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
  - ⇒ データの収集 (質問票調査) を行い定量調査スキル
  - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
  - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
  - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
  - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
  - ⇒ 社会人 (企業) に対して説得的な提言 (プレゼンテーション力)
  - ⇒ チームビルディングとイノベーション (ファシリテーション力)
5. 組織を活性化するリーダーシップ
  - ⇒ モチベーション・マネジメント
  - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
  - ⇒ キャリアモデルの発見 (文献調査、フィールドワーク等)
  - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
  - ⇒ 暗黙知 (体験) を形式知 (言語) 化するメタ認知能力
  - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL (プロジェクトベースラーニング) 型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心にを行い、最終的には大学・企業に対しての提言 (プレゼンテーション&レポート) を行います。

公開授業 (全学部対象) の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

\*受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	ビジネス事例研究-1 半導体業界 世界を制した経営者	起業者精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	ビジネス事例研究-2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー-1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用するBtoB技術 知られざる世界の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワーク ショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング (PBL) -1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発 (マーケティング) ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー-2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング (PBL) -2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力

- |    |   |   |
|----|---|---|
| 13 | 金融業界事例研究<br>地方創生事業の実際<br>六次産業への挑戦       | 金融機関の底力<br>・起業家行動の支援<br>・全国ネットワークの活用<br>・中小企業診断士の力    |
| 14 | プロジェクトベース<br>ラーニング（P B<br>L）- 3<br>課題発表 | 企業へのプレゼンテーション<br>・課題解決力<br>・プレゼンテーション力<br>・ゲスト企業からの講評 |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。  
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

\* 事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

#### 【参考書】

授業のなかで紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績配点

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| ・受講態度（発言数・発言内容）        | ⇒ 30点 |
| ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） | ⇒ 30点 |
| ・授業期間中レポート             | ⇒ 20点 |
| ・期末レポート                | ⇒ 20点 |

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

授業期間中レポートは、1000～2000字程度でレポート作成・提出の基本を確認し、社会のビジネス常識で評価&フィードバックします。総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

\* 遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシート の書き方にも役立つとのこと。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

#### 【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

\* 全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

#### ▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

#### 【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

\* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

#### Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks)

⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

\* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA (キャリア教育 / Career education 300)

**就業応用力養成Ⅱ**

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。

未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。

アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

\*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

**【到達目標】**

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力 (事実と意見を峻別する)
2. 3つの分析手法力 (時間・空間・実験分析)
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力 (データから情報へ)
4. 問題解決の視点力 (What? Why? How?)
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力 (定量と定性調査力)
7. 一次情報に触れる取材力 (但、百聞一見を盲信しない)
8. 上記のスキルを統合・応用する力

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL (プロジェクトベースラーニング) 型の運営です。履修人数によりですが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言 (プレゼンテーション&レポート) を行います。

公開授業 (全学部対象) の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回提出のリアクションペーパーを、次回授業でフィードバックします。

\*受講者の学習進捗状況とゲスト講師の都合で、授業順が変更になることがあります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具 体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデ ミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 共感・質問・提案	応談スキル ・カウンセリング ・コーチング ・コンサルティング

3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとは どういう意味か? 組織を動かすには (ビデオ教材使用)	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル 研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル 研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループ ワーク マスコミ情報の分析 理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル 研究-3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス 企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベース ラーニング (PBL) -1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベース ラーニング (PBL) -2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	人生の3つのカーブ 文献・統計・フィールドワーク	世代別の課題 ・J字カーブ (20代) ・M字カーブ (30代) ・U字カーブ (40代)
13	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
14	授業総括 課題発表ふりかえり	アカデミックスキル確認 ・受講生講評・プレゼンテーション力 ・課題確認

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査 (質問票調査)、定性調査 (企業訪問調査) では相当量の作業を求めます。  
・統計学や社会調査の素養があると有効です。  
\*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、



事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。

但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

#### 【参考書】

授業のなかで紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 20点
- ・期末レポート ⇒ 20点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

\*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのこと。

\*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。

大学用意のPCを理由すれば結構です。

#### 【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

\*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

#### ▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

#### 【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

\* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 20 points

・ Term-end report ⇒ 20 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

\* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

SOC100MA (社会学 / Sociology 100)

## 異文化適応論

浅川 希洋志

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金4/Fri.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えてとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考えられる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

### 【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD等があれば適宜紹介する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像はそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。
第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。

第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

### 【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

### 【Outline (in English)】

#### (1) Course Outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

#### (2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

#### (3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

#### (4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

## 市民社会と政治

山内 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、①市民社会とは何か、健全な市民社会を築き維持するために何が必要か、②政治とは何か、市民として政治に参加するために何が必要か、③市民社会と政治の関係、について学びます。政治がどのように機能しているか (あるいは機能していないか) を考え、より良い社会をつくるために市民として政治に参加するための方法論や知識を学びます。

### 【到達目標】

市民社会における民主主義の担い手として適切な判断ができる基礎づくりを目指します。より良い社会をつくるためのアドボカシー (政策提言) 活動や政策形成に市民として参加するためのスキルや知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。必要に応じてグループに分かれて議論します。毎回終了後にリアクションペーパー (質問、感想、意見、提案など) の提出を求め、次の授業でふり返ります。最後に学生の皆さんに具体的な政策を立案し、最終レポートにまとめて発表することを求めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション およびイントロダクション	授業の目標、授業の方針、授業計画、授業の進め方、学び方、最終レポートの発表方法と提出について説明。参考書の紹介。講師自己紹介。市民社会と政治の概観。
第2回	政治はなぜ大切か？	民主政治と専制政治 (北朝鮮と韓国、国境の街ノグレス)。豊かな国と貧しい国のちがいを生む理由。政治不信の時代にそれでも政治を擁護する理由。
第3回	市民社会とは何か？	市民社会、政府、市場 (企業) の関係。市民社会組織 (CSO) やNPO、NGO。国際NGO、発展途上国のCSO (CBO)、国連機関。
第4回	日本の政治 (体験的政治論) : 国会議員の仕事とは？	国会の仕組み。議院内閣制の仕組み。政と官の関係。政党や野党の意義。
第5回	市民が政治を動かす方法	NPOや市民向け「ロビー活動マニュアル」の解説。「政策起業家」という職業。
第6回	政府、市民社会、市場	経済発展の条件：教育、公正な市場、イノベーション。「小さな政府」の終わりや政府の復権。貧困と再分配。世界で一番幸せな国はどこか？
第7回	公共政策の議論の演習 (ワークショップ)	いくつかの具体的な政策について議論し、政策を形成するトレーニング。

第8回	気候崩壊と向き合う	気候崩壊時代を生きる。持続可能な社会への道筋。気候崩壊後の世界。
第9回	SDGs (持続可能な開発目標) とその先の課題	SDGsに至る背景、現状、次の目標のあるべき姿 (Beyond SDGs)
第10回	民主主義の退潮と未来	権威主義の世界的流行。政治的無関心。ジェンダーと政治。若者の政治参加。ファシズムを防ぐ。陰謀論やポピュリズムにだまされない方法。
第11回	シティズンシップ教育	健全な市民社会を築くための教育。民主主義のための教育。
第12回	政治とメディア	メディアと市民。メディア・リテラシー。ネットの弊害。政治報道 (番記者という制度)。
第13回	最終レポート発表会 「市民や職業人として 何ができるか？」	学生の最終レポート (政策提言) の発表と議論。
第14回	まとめ：より良い社会を築くためにできること	授業のふり返り。積み残したテーマの講義など。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習および復習時間は各回2時間を標準とします。毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。必要に応じて宿題を出します。教科書は指定しませんが、参考書はできるだけ読んで下さい。授業でも推薦図書を紹介するので可能なら読んでみて下さい。

### 【テキスト (教科書)】

特に教科書は使用しません。

### 【参考書】

明日香壽川『グリーン・ニューディール』2021年 岩波新書  
エステル・デュフロ『貧困と闘う知』2017年 みすず書房  
ジャレッド・ダイアモンド『危機と人類』2019年 日本経済新聞出版社  
ジュリー・ストーカー『政治をあきらめない理由』2013年 岩波書店  
ダロン・アセモグル、ジェイムズ・ロビンソン『自由の命運』2020年 早川書房  
南博、稲場雅紀『SDGs：危機の時代の羅針盤』2020年 岩波新書  
ニール・ファーガソン『劣化国家』2013年 東洋経済新報社

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%)、リアクションペーパー (40%)、最終レポート (45%) で評価します。なお、自己都合で4回以上欠席した者は原則として成績評価を行いません (やむを得ない事情があれば個別に相談に応じます)。

### 【学生の意見等からの気づき】

政治の動きや国際情勢などを踏まえ、また学生の皆さんの意見を聞きながら、授業の進め方やテーマを調整します。授業計画は学期途中でも柔軟に見直し改善したいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

### 【その他の重要事項】

本授業を担当するのは初めてなので、最初に決めた授業計画に固執せず、学生の皆さんの反応や意見を踏まえつつ改善していきたいと思っています。学問の基本は読むことです。教科書は指定しませんが、参考書や授業で紹介する本を読むことを強くお勧めします。政治の世界では唯一の正しい答えがないテーマが多数あります。答えのない問題にどうやって向き合っていくかを考え議論する授業にしたいと思っています。

### 【Outline (in English)】

We will learn about ① what constitutes a civil society, what is necessary to build and maintain a sound civil society, ② what politics entails, and what is required for citizens to engage in politics, and ③ the relationship between civil society and politics. We will consider how politics functions (or doesn't) and acquire methodologies and knowledge to participate in politics as a citizen, with the goal of contributing to the creation of a sound society.

The preparation and review time for each session will be standardized to two hours. The submission of reaction papers after each class will be required. Homework may be assigned as needed. While a specific textbook will not be designated, reading relevant reference materials is encouraged. Recommended readings will also be introduced during the classes, so please consider exploring them if possible.

Students will be evaluated based on regular participation (15%), reaction papers (40%), and the final report (45%). Furthermore, as a general rule, individuals who are absent for four or more sessions due to personal reasons will not be evaluated for their grades (individual consultations will be considered for unavoidable circumstances).

CAR200MA (キャリア教育 / Career education 200)

## 労働環境法

櫻井 洋介

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、労働者として自律的なキャリアを形成していく上で必要な労働法の基礎知識の習得を目指します。労働法の役割は、使用者と比べて相対的に立場の弱い労働者を保護し、労使対等の理念を実現することであり、全ての労働者が知っておくべき法律であるといえます。社会に出る前に労働法の基礎知識を習得しておくことは、将来的に自身の身を守ることもつながります。

### 【到達目標】

労働法の基礎知識の習得を通じて、身近な労働に関する諸問題について、法的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業形態は基本的に講義形式となります。授業ごとに小テストを課すことを予定しています。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境法の全体像	労働関連法令の構成や全体像、役割等について学ぶ
第2回	労働者、使用者の概念と労働条件の決定	労働法のアクターである労働者や使用者の概念を学ぶとともに、労働条件の決定に関するプロセスを理解する。
第3回	募集・採用と様々な雇用形態	募集・採用時のルールや、採用内定および試用期間の法的性格、有期労働契約の特徴等について学ぶ。
第4回	賃金と労働時間・休憩・休日	賃金の支払いに関する規制や労働時間・休日・休憩に関する基本的な法的ルールを学ぶ。
第5回	様々な働き方と労働時間制度	フレックスタイム制や裁量労働制等といった労働時間管理の諸制度の構造について学ぶ。
第6回	配置転換・労働条件の変更	配置転換や出向・転籍等の命令権に関する法律上の考え方を理解するとともに、労働条件を変更する際の手続について学ぶ。
第7回	安全衛生と労災補償	使用者の安全配慮義務や労災補償制度の概要を学ぶ。
第8回	労働組合の役割	労働組合の加入や脱退、権利の概要を学ぶとともに、団体交渉の意義や労働協約の法的効力等について学ぶ。
第9回	労働契約の終了：解雇規制と定年退職	解雇に関する法的な規制や定年退職および定年後の再雇用等に関するルールについて学ぶ。
第10回	労働者の人権保障とハラスメント規制	労働者の人権や労働契約上の権利義務、ハラスメントに関する法的規制の現況等について学ぶ。

第11回	平等原則と差別の禁止 (女性、年齢、国籍等)	男女雇用機会均等法の制定や改正を中心として、労働法上の平等原則や均等待遇、差別禁止に関連する法令の全体像や概要を学ぶ。
第12回	障害者雇用を取り巻く状況	障害者差別解消法と障害者雇用促進法を中心に、差別の禁止や合理的配慮義務、障害者雇用率制度の概要等を学ぶ。
第13回	新しい働き方と労働法の現代的課題	非典型雇用の他、フリーランス、ギグワーカー等といった新しい働き方を取り巻く労働環境や法の適用状況等について学ぶ。
第14回	紛争解決制度とまとめ	労使紛争の解決手段等について学ぶとともに、これまでの講義を通じて学んできた労働環境法の意義や役割、課題等を総括する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各講義の終わりに、次回講義に向けた予習内容 (教科書の該当ページ等) を指示しますので、指示に従って該当箇所を熟読してから講義に臨むようにしてください。また、復習を行う場合は、レジュメや教科書に目を通すだけでなく、講義内で紹介した判例の内容をしっかり理解するようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

中窪裕也・野田進『労働法の世界 (第13版)』(有斐閣, 2019年)

### 【参考書】

初学者向けの参考書として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』(有斐閣アルマ, 2023年)、判例を確認する際の参考書として、②『労働判例百選 (第10版)』(有斐閣, 2022年) を挙げておきます。

### 【成績評価の方法と基準】

授業ごとに行われる小テスト (基本的な法規制や重要判例についての理解を確認するための選択・穴埋め式問題) を30%、期末試験を70%とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【その他の重要事項】

本講義は、労働環境論Ⅰ、Ⅱと関係しています。本講義は主に「法律」に焦点を当てますが、労働環境論Ⅰ、Ⅱの講義を通じて、法律の背景にある労働環境の現状や変遷について学んでおくと、より理解が深まると思います。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course aims to provide students with the basic knowledge of labor law necessary to develop an autonomous career. The role of labor law is to protect workers who are in a relatively weaker position compared to employers and to realize the principle of equality between workers and employers, and it is a law that all workers should know. It is important for all workers to have a basic knowledge of labor law before starting their careers, so that they can protect themselves.

#### 【Learning Objectives】

Students will be able to legally explain various labor-related issues in their daily lives through acquiring a basic knowledge of labor law.

#### 【Learning activities outside of classroom】

At the end of each lecture, students will be given instructions on how to prepare for the next lecture (e.g., the relevant pages in the textbook). Please follow the instructions and read the relevant sections carefully before attending the lecture.

When students review the lectures, they should not only read through the resumes and textbooks, but also make sure that they fully understand the content of the precedents introduced in the lectures.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

**【Grading Criteria /Policy】**

The quiz given in each class (multiple choice/fill-in-the-blank type questions to check understanding of basic laws and regulations and important judicial precedents) will be 30%, and the final exam will be 70%.

## 財務会計論 I

川島 健司

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。財務会計の学習においては、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、財務会計の実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り手の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、各項目について詳細に解説することには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、財務会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

### 【到達目標】

- ①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
- ②日本の会計基準、およびIFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要となる基礎概念について理解する。
- ③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
- ④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面方式とオンラインによるオンデマンド方式を併用する。教室での対面授業では、必ず隣を1座席空けて着席すること。

### 【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計という技術的・制度的な印象を強くもたれがらだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

### 【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルな会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえらるはずである。

### 【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率(ROE)、1株当たり当期純利益(EPS)、時価簿価比率(PBR)、経済的付加価値(EVA)

### 【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
第2回	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。

第3回	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
第4回	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
第5回	複式簿記の方法	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
第6回	複式簿記の実践	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
第7回	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	損益法と財産法の特性を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
第8回	利益計算の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
第9回	資産の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
第10回	負債と資本の会計	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
第11回	会計学の実践	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
第12回	簿記・会計の発展史	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
第13回	CFOとの対話実践	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。
第14回	簿記・会計の学びの先へ	

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業のIR資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年。  
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

### 【参考書】

- 1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版。
- 2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、2024年4月現在の最新版。
- 3 飯野利夫『財務会計論』三訂版、同文館、1993年。
- 4 佐藤彦彦『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第9版、中央経済社、2015年。同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第9版、中央経済社、2015年。
- 5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第3版、白桃書房、2010年。
- 6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』（新版）中央経済社、2022年。
- 7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
- 8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

### 【成績評価の方法と基準】

以下の4点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①対面授業の出席、授業動画の視聴状況（10%）
  - ②各回の確認テスト（40%）
  - ③各回の課題作文（30%）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
  - ④指定教科書の書き込み状況（20%）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
- ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

### 【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。  
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくとい。その場合、各種専門学校（TAC、大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

### 【Outline (in English)】

This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
- (2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
- (3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
- (4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the following four points. Weights are in parentheses.

- ① Attendance at face-to-face classes and viewing status of class videos (10%)
- ② Each confirmation test (40%)
- ③ Essay assignments for each class (30%): After each class, students submit questions and comments using Google Form. The content will be shared anonymously with all students.
- ④ Writing status of designated textbook (20%): Similar to the assignment text in ③ above, submit an image of the writing status and share it among students.



## 財務会計論Ⅱ

川島 健司

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な簿記・会計（簿記入門Ⅰ／Ⅱ、会計学入門Ⅰ／Ⅱ）を習得した学生を対象に、財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に講義する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを旨とするが、この財務会計論Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の種類の種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。

近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生には実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察してもらいたい。

### 【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種IR情報を利用して、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は教室での対面方式とオンラインによるオンデマンド方式を併用する。教室での対面授業では、必ず隣を1座席空けて着席すること。

秋学期の全体を以下の2つのパートに分割する。「財務諸表分析」（秋学期・第1回～第7回）、「会社の価値分析」（秋学期・第8回～第14回）

会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
第2回	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
第3回	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第4回	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROSや損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用するROA、回転率、ROEなどの指標を学ぶ。
第5回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC分析により資金回収の速さを評価する。
第6回	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
第7回	起業ストーリーⅣ：ポストIPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポストIPO）に関するケースから理解を深める。

第8回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。
第9回	DCFモデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。
第10回	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。
第11回	価値分析の実践	実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。
第12回	財務分析・価値分析の歴史	財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。
第13回	経営者との対話実践	実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する。
第14回	まとめ	本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書やIR資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社、2021年。

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

### 【参考書】

- ・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版。
- ・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社、2024年4月現在の最新版。
- ・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版、白桃書房、2005年。
- ・新田忠誓編『決算書分析の方法と論理』第5版、ネットスクール出版、2023年。
- ・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第12版、白桃書房、2014年。
- ・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫、2016年。
- ・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス、2019年。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の4点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。

- ①対面授業の出席、授業動画の視聴状況（10%）
  - ②各回の確認テスト（40%）
  - ③各回の課題作文（30%）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想をGoogle Formで提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
  - ④指定教科書の書き込み状況（20%）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
- ※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するためのPC。表計算ソフトのExcel。

### 【その他の重要事項】

・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。  
・「簿記入門Ⅰ／Ⅱ」および「会計学入門Ⅰ／Ⅱ」を履修していることを前提に授業を進める。もし未履修の場合には、日商簿記検定3級の内容を学んでおくことよい。その場合、各種専門学校（TAC、大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

### 【Outline (in English)】

This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.

Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.

With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.

The goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.

(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).

(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.

(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the following four points. Weights are in parentheses.

① Attendance at face-to-face classes and viewing status of class videos (10%)

② Each confirmation test (40%)

③ Essay assignments for each class (30%): After each class, students submit questions and comments using Google Form. The content will be shared anonymously with all students.

④ Writing status of designated textbook (20%): Similar to the assignment text in ③ above, submit an image of the writing status and share it among students.

## 監査論 I

小澤 康裕

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：3~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計監査（財務諸表監査）とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査のプロセス全般を対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。

本講義の目的は、受講者が保証業務を含む会計監査の目的、意義、内容等についての基本的知識を修得し、監査が果たす役割の重要性について理解を深めることである。

### 【到達目標】

受講者が、会計監査の目的や内容等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解し、説明することができるようになることが、本講義の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。本講義では、監査のプロセスを説明することはもちろん、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。したがって、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。

この授業はグループディスカッションや個人での発言を求め、インタラクティブに行われる。また、必要に応じて動画を用いる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・監査とは何か	講義全体の概要や受講のルールを説明し、「監査」についての初歩的な理解を促す。
第2回	会計監査と財務諸表の虚偽表示	会計監査と財務諸表の虚偽表示との関係について説明する。
第3回	監査のニーズ	監査には自発的なニーズが存在することを解説する。
第4回	監査人としての公認会計士・監査法人	公認会計士とは何か、また、監査法人とはどのようなものかを説明する。
第5回	監査人の責任	監査人に課されている責任とはどのようなものかを解説する。
第6回	監査の品質管理	監査の質を担保するためにどのような方法があり、実施されているのかを説明する。
第7回	監査基準	監査基準のうち、主に一般基準について解説する。
第8回	監査戦略	「戦略的に監査を実施する」とはどのようなことを説明する。
第9回	監査リスク・アプローチ	現在の監査方法の基本である「監査リスク・アプローチ」について解説する。
第10回	事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ	「事業上のリスクを考慮したリスク・アプローチ」とはどのようなものかについて説明する。
第11回	監査計画と監査上の重要性	「監査計画」と「重要性」について解説する。
第12回	サンプリングと監査手続	サンプリングとは何か、また、監査手続にはどのようなものが存在するかについて説明する。
第13回	分析的手続	分析的手続とは何か、また、その具体的な手法について演習問題を用いて解説する。
第14回	まとめと振り返り	監査論 I の授業全体のまとめと振り返りを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。復習は必須である。

レポート（1回以上）の提出を求める。

また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際、受講者を指名して回答を求めるので、回答できるように前回の復習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

初回の授業で説明する。

山浦久司『監査論テキスト』（中央経済社）（最新版）  
※旧版は、基準等が改正されていて内容が異なるので、最新版を購入すること。

### 【参考書】

亀岡恵理子, 福川裕徳, 永見尊, 鳥羽至英『財務諸表監査 改訂版』（国元書房）

### 【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。

-レポート：20%

-期末テスト：80%

評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

### 【学生の意見等からの気づき】

授業に集中できるように静かな環境で授業を受けられるよう協力してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

一部、オンラインで学習支援システムを用いて、動画の視聴やレポートの提出を求めるため、パソコン等の機器が必要となる。

### 【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門 I/II」と「会計学入門 I/II」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論 I/II」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

### 【Outline (in English)】

・ Outline and objectives

Financial statement audit (audit of financial statements) is the act of an auditor expressing an opinion from a professional perspective on the fairness (correctness or otherwise) of the financial statements published by an entity. This lecture covers the entire auditing process. It also emphasizes the latest topics, such as internal control of companies and window dressing cases, and includes case studies.

This course aims to enable participants to acquire a basic knowledge of the purpose, significance, and content of financial auditing, including assurance engagements, and to deepen their understanding of the importance of the role of auditing.

・ Learning activities outside of classroom

As preparatory learning, students may be asked to watch a video.

Review is compulsory.

Students are required to submit reports (at least once).

In addition, at the beginning of each session, a handout is used to review the previous session. The students will be nominated and asked to answer the questions, so the students should review the previous lesson so that they can answer the questions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ Grading Criteria /Policy

The following distribution of grades will be given.

-Report: 20%.

-Final exam: 80%.

## 監査論Ⅱ

小澤 康裕

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表監査の制度論および報告論の領域ならびに内部統制等について解説し、これらの基礎的な考え方を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

学生が、財務諸表監査の制度の枠組みや監査報告書の内容、内部統制ならびに不正会計等について基本的知識を修得し、現代社会において監査が果たす役割の重要性について理解することを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなう。財務諸表監査とは、企業が公表する財務諸表の適正性（正しいか否か）について、監査人が専門的見地から意見を表明する行為である。本講義では、この監査の結果を報告する監査報告書、監査制度、監査の歴史等を主たる対象とする。また、企業の内部統制や粉飾決算事件等の最新のトピックを重視し、事例を含めて解説する。そのため、本講義では、新聞や雑誌等の記事を補助資料として用いて、現在、われわれの社会において生じている種々の問題に「監査」がどのように関わっているのかを説明し、監査が果たす役割の重要性について理解を促す。

この授業はグループディスカッションや個人での発言を求め、インタラクティブに行われる。また、必要に応じて動画を用いる。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方、評価方法等について説明する。また、監査意見とは何か、その概略を解説する。
第2回	監査の実施に係る制約事項と監査意見	監査の実施に係る制約事項と監査意見の関係について解説する。
第3回	財務諸表中の不不正事項と監査意見	財務諸表中の不不正事項と監査意見の関係、GC等について解説する。
第4回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法監査制度について解説する。
第5回	半期報告書と期中レビュー	半期報告書制度と期中レビューについて解説する。
第6回	会社機構と監査制度・会計監査人	会社機構と監査制度ならびに会計監査人について説明する。
第7回	不正と内部統制	様々な不正とそれに対応する内部統制について簡単に説明し、内部統制について理解を促す。
第8回	内部統制の基本的要素1	内部統制の基本的要素について解説する。
第9回	内部統制の基本的要素2・内部統制の限界	前回到続いて、内部統制の基本的要素について解説し、あわせて、内部統制の限界についても説明する。
第10回	内部統制の監査・監査の歴史	内部統制の監査について簡単に説明した後、監査の歴史を概観する。
第11回	粉飾決算の方法と事例	粉飾決算の方法と事例について説明する。
第12回	AIと会計・監査	人工知能技術の発展と会計・監査への影響について解説する。
第13回	KAMと演習問題	監査上の主要な検討事項（KAM）と監査における分析の演習
第14回	不正会計の具体例と監査の意義	数値例を用いて不正会計を具体的に説明し、監査の意義を再確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、動画の視聴を求める場合がある。復習は必須である。レポート（1回以上）の提出を求める。また、各回の冒頭でハンドアウトを用いて前回の復習を行う。その際、受講者を指名して回答を求めるので、回答できるように前回の復習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

初回の授業で説明する。  
山浦久司『監査論テキスト』（中央経済社）（最新版）  
※旧版は、基準等が改正されていて内容が異なるので、最新版を購入すること。

### 【参考書】

亀岡恵理子、福川裕徳、永見尊、鳥羽至英『財務諸表監査 改訂版』（国元書房）

### 【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評点をつける予定である。  
-レポート：20%  
-期末テスト：80%  
評点を基に、以下のとおり評価を行う。

100-90:S

87-89:A+

86-83:A

82-80:A-

79-77:B+

76-73:B

72-70:B-

69-67:C+

66-63:C

62-60:C-

59-0:D

期末テスト未受験: E

### 【学生の意見等からの気づき】

授業に集中できるように静寂な環境で授業を受けられるよう協力してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

一部、オンラインで学習支援システムを用いて、動画の視聴やレポートの提出を求めるため、パソコン等の機器が必要となる。

### 【その他の重要事項】

【関連科目】

会計学の基本的な知識があることを前提として講義を進めるので、「簿記入門Ⅰ/Ⅱ」と「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」を履修していることが望ましい。また財務諸表に関する知識も必要になるので、「財務会計論Ⅰ/Ⅱ」を平行して履修するなどして知識の獲得に努めてほしい。

### 【関連科目】

None

### 【Outline (in English)】

・ Learning Objectives)

This course aims to explain the areas of institutional and reporting theory of financial statement auditing, as well as internal control and other aspects, and to provide an understanding of the basic concepts of these areas.

・ Learning activities outside of classroom

As preparatory learning, students may be asked to watch a video. Review is compulsory.

Students are required to submit reports (at least once).

In addition, at the beginning of each session, a handout is used to review the previous session. The students will be nominated and asked to answer the questions, so the students should review the previous lesson so that they can answer the questions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

・ Grading Criteria /Policy

The following distribution of grades will be given.

-Report: 20%.

-Final exam: 80%

## 税務会計論 I

大下 勇二

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的な考え方を学習します。例えば、法人税の性質、会計利益と課税所得、売買損益、受取配当、売上原価、有価証券譲渡原価、固定資産の減価償却、繰延資産の償却等、課税所得計算の基礎を取り上げます。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる基礎的能力の涵養を目的とします。

### 【到達目標】

受講生は、経営学部の学生として必要と思われる法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することができる。これにより、法人課税上の諸問題を理論的に考え整理できる基礎的能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本としています(初回のみZoomによるオンライン授業です)。学習支援システム上には、毎回、講義スライドと小テスト(第1回～第13回)をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしております。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	法人税の基礎(1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
第2回	法人税の基礎(2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
第3回	課税所得計算の基礎(1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
第4回	課税所得計算の基礎(2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税取得計算の特徴を理解する。
第5回	売買損益等の計算(1)	売上収益の認識等を中心に、売買損益計算の基礎を学習する。
第6回	売買損益等の計算(2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
第7回	その他の収益の計算(1)	受贈益、受取配当等(前半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第8回	その他の収益の計算(2)	受取配当等(後半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第9回	売上原価の計算(1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
第10回	売上原価の計算(2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
第11回	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を学習する。
第12回	固定資産の減価償却(1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
第13回	固定資産の減価償却(2)および繰延資産の償却	固定資産の減価償却(2)では耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習します。さらに繰延資産の償却では、税法上の繰延資産を取り上げ、その考え方を学習します。
第14回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

・講義スライド(学習支援システムの「教材」にアップロード)。

### 【参考書】

・大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』(2019年)法政大学通信教育テキスト(図書館所蔵・生協販売)  
・渡辺淑夫・山本守之著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会

・渡辺淑夫著『法人税法』(最新版)中央経済社  
・成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

### 【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト(第1回～第13回)を受けてもらい、これを成績に反映します。
  - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します(1回程度)。
  - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト(全13回)45%、課題レポート(1回程度)5%、最終テスト50%です。

### 【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して、授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらには初回のオンライン授業ではZoomを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

### 【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1年次の簿記入門Ⅰ/Ⅱ、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱを履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱを履修し、会計学の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の税金関連の新聞記事をはば理解できるように頑張りましょう。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline

This course deals with corporate income tax and the basic framework of tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company (for example, nature of corporate income tax, accounting profit and taxable income, sales of products, securities and fixed assets, depreciation of fixed assets, amortization of deferred assets, revenues of dividends etc).

#### Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts and principles of corporate income tax and basic structure of taxable income compared to accounting profit. This course also enhances the development of students' skill in tax accounting practice.

#### Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

#### Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

## 税務会計論Ⅱ

大下 勇二

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題(新しい事業体の問題、交際費・寄附金の課税問題、役員給与の課税問題、不良債権の課税問題、減価償却の諸問題、企業組織再編とグループ課税の問題、国際課税の問題など)を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方から理論的にこれら諸問題をいかに整理し考察するのかを学習します。

### 【到達目標】

受講生は、法人税課税の基礎的な考え方に基づいて、新しい事業体の課税問題、交際費・寄附金と企業の社会的責任、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日の法人課税上の重要な諸問題を個別具体的に考え、これを理論的に考察できる能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業を基本としています(初回、第8回および第11回はZoomによるオンライン授業です)。学習支援システム上には、講義スライドと小テスト(全13回)をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事業形態の多様化と課税問題	ペイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
第2回	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第3回	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第4回	給与の支給形態の多様化と課税問題(1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
第5回	給与の支給形態の多様化と課税問題(2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
第6回	不良債権の償却の課税問題(1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
第7回	不良債権の償却の課税問題(2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
第8回	固定資産の減価償却-その2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
第9回	固定資産の減価償却-その2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
第10回	企業活動の集団化と課税問題(1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
第11回	企業活動の集団化と課税問題(2)	グループ法人税制(グループ法人単体課税制度、旧連結納税制度およびグループ通算制度)の特徴とその考え方を学習する。
第12回	企業活動の国際化と課税問題(1)	国際課税の基礎理論を学習する。
第13回	企業活動の国際化と課税問題(2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて理解し、移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。
第14回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

・講義スライド(学習支援システムの「教材」にアップロード)

### 【参考書】

・大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』(2019年)法政大学通信教育テキスト(図書館所蔵・生協販売)  
・成松洋一著『法人税法 理論と計算』(最新版)税務経理協会  
・渡辺淑夫著『法人税法』(最新版)中央経済社  
・大河原健・マーク・キャンベル・水野正夫著『税務コストの減らし方』中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト(第1回～第13回)を受けてもらいますが、これを成績に反映します。
  - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します(1回程度)。
  - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト(全13回)45%、課題レポート(1回程度)5%、最終テスト(50%)です。

### 【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらにはオンライン授業ではZoomを用いますので、これらを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

### 【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。春学期の「税務会計論Ⅰ」を履修しておくことが望ましく、税務会計の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。会社の法人課税の今日的な問題をほぼ理解できるように頑張りましょう。

### 【Outline (in English)】

#### Course outline

This course deals with the problems of the current corporate income taxation in Japan. In this course, after learning the basics of taxable income of corporate income tax in "Tax Accounting 1", we will take up various problems of current corporate income taxation (for example, new business entities, executive compensation, entertainment expense, donation, disposal of bad loans, corporate reorganization, group taxation and international taxation).

#### Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the relationship and differences between tax accounting and financial accounting.

#### Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

## 管理会計論 I

北田 皓嗣

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：3～4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

### 【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツをYouTubeで配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答するようにしておいてください。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費1	固定費と変動費、貢献利益
第3回	固定費と変動費2	損益分岐点
第4回	固定費と変動費3	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費4	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費5	セールズミックス
第7回	固定費と変動費6	固定費分解
第8回	マネジメントコントロールシステム1	PDCAサイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム2	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム3	4つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム4	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画1	計画の種類
第13回	経営計画2	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画3	短期利益計画

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

谷武幸(2013)『エッセシャル管理会計（第3版）』中央経済社  
 浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験(30%)

期末試験(70%)

授業形式はオンデマンドですが、中間試験、期末試験は大学で実施することを予定しております。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.
- This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.
- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
- Media content viewing (30%), mid-term exam (30%), final exam (40%)

## 管理会計論Ⅱ

北田 皓嗣

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | 配当年次：3～4年  
 その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

### 【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のコンテンツを配信し、中間試験、期末試験により理解度の確認を行います。授業中に提示される問題についても、適宜、解答するようにしておいてください。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基本	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター、プロフィットセンター
第3回	事業部制組織の管理会計1	事業部の業績評価、内部振替価格、事業部の利益概念
第4回	事業部制組織の管理会計2	ROCE, RI, 本社費・共通費の配賦
第5回	バランスド・スコアカード (BSC)	4つの視点
第6回	コストマネジメント1	原価計算の考え方
第7回	コストマネジメント2	ABCとABM
第8回	コストマネジメント3	原価企画
第9回	コストマネジメント4	原価維持, 原価低減
第10回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第11回	CSR 2	CSRマネジメントの基礎
第12回	ESG投資	環境, 社会, ガバナンスを考慮した投資活動
第13回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第14回	MFCA (マテリアルフローコスト会計)	資源生産性の管理

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館  
 谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計(第3版)』中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験(30%)

期末試験(70%)

授業形式はオンデマンドですが、中間試験、期末試験は大学で実施することを予定しております。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

- Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.  
 - This course aims to provide students with knowledge of the relationship between business management issues and management accounting.

- Please review after the lecture to acquire knowledge. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

- Media content viewing (30%), mid-term exam (30%), final exam (40%)



## 原価計算論 I

福田 淳児

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品単当たり製造原価を計算するための一連の手続きです。この手続きは費目別原価計算、部門別原価計算そして製品別原価計算から構成されています。この授業では、原価計算論を学習する上で必要な基本的な用語および諸概念を理解し、それらの用語について、自分の言葉で説明することができることを目的とします。また、原価計算の一連の原価計算手続きを理解するとともに、それらの手続きの背後にある理論的な意味を説明できることを目的とします。

### 【到達目標】

原価計算論 I の到達目標は次の諸点です。第1に、原価計算に関連した基本的な用語および概念を簡潔に自分の言葉で説明できる。第2に、原価計算の一連の手続きである費目別原価計算、部門別原価計算、製品別原価計算のそれぞれを理解し、説明できること。第3に、これらの理解に基づき、原価計算の基本的な中級程度の計算問題または理論的な問題を解ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

原価計算論 I は対面または授業回の特徴に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。

授業では学習支援システムを通じて事前配布した資料に基づいて、原価計算の一連の手続き、およびその背後にある理論などを説明します。また、授業中に折り紙を利用した模擬生産を行い、原価計算の概念やその計算方法を確認します。さらに、計算問題を解いてみることで理解を深めます。授業内または授業後に確認および応用問題を課題として出すこともありますので、必ず自分の力で問題を解いてください。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要説明と原価計算の意義について	本授業の目的、内容または授業の実施方法や評価方法などの概要を説明する。また、原価計算の意義について説明する。
第2回	原価計算の目的と諸概念	原価計算の諸目的および原価の一般概念について説明する。また、これから原価計算を学習する上で特に必要となる重要ないくつかの原価分類について紹介する。
第3回	材料費の計算	材料費の意味、その内訳および材料費の計算について、そのプロセスを追いながら説明する。
第4回	労務費の計算	直接労務費と間接労務費の区別を説明する。その後、直接労務費の計算方法を中心に説明する。
第5回	材料費、労務費の計算に関わる重要な論点の復習と計算演習	ここまで学習してきた材料費・労務費に関するまとめと計算演習を中心に行う。
第6回	製造間接費の計算	製造間接費の意義およびその配賦について説明する。特に、製造間接費の配賦基準の選択、またその背後にある論理を詳しく説明する。
第7回	製造間接費に関する計算演習	製造間接費特に差異分析についての補足説明および計算演習を中心に行う。
第8回	折り紙による模擬生産と個別原価計算	折り紙による模擬生産を行い、自分達で個別原価計算表を作成する。そのプロセスで個別原価計算が適する生産形態およびその計算プロセスを説明する。
第9回	個別原価計算の追加説明と仕損の評価	個別原価計算における仕損じの評価方法及びその計算例を紹介する。
第10回	部門別原価計算の計算手続き	部門別原価計算を伴う個別原価計算を前提に、部門別原価計算を行う意義およびその計算手続きについて説明する。
第11回	部門別原価計算の補足と計算演習	部門別原価計算の一連の計算手続きを確認するとともに、例題を解く。
第12回	総合原価計算の意義およびその計算プロセス	総合原価計算の意義、および仕掛品評価方法について説明する。

第13回	総合原価計算の計算演習	総合原価計算における仕掛品評価の平均法と先入先出法についての計算演習を行う。
第14回	工程別総合原価計算について	工程別総合原価計算の意味また累加法による計算手続について説明する。非累加法という方法についても紹介する予定である。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受けるまたはオンデマンドの教材を見る前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通しておいてください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして対面またはオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて、授業内または授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

### 【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年(2,640円)

### 【参考書】

参考文献や自主学習において役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原価計算論 I の評価は期末試験および毎回の授業での課題の提出によって評価します。なお、成績評価の配分は期末テスト75%、授業中または授業後の課題の提出25%とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容について、比較的やさしいという学生と難しいという学生がいます。授業では、初学者を対象に基礎的なところから説明を始めます。その上で、発展的な問題についてはできるだけ課題およびその解説の形で補足を行いたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布しますので、必ず資料をダウンロードしておいてください。

### 【その他の重要事項】

関連科目として管理会計論 I / II および財務会計論 I / II などがありますので同時に履修することを勧めます。

### 【Outline (in English)】

Cost accounting is a series of procedures for calculating the manufacturing cost per unit of product. This procedure is divided into costing by item, costing by department, and costing by product. The purpose of this module is to help students understand the basic terms and concepts necessary for learning costing theory, and to be able to explain these terms in their own words. The objective of this module is to understand a series of calculation procedures of cost accounting and to be able to explain the theories behind these procedures.

The objectives of this course are as follows. First, to be able to concisely explain basic terms and concepts related to cost accounting in one's own words. Second, to understand a series of cost accounting procedures: cost accounting by item, cost accounting by department, and cost accounting by product. Third, to be able to solve basic problems based on this understanding.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. Also, be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

## 原価計算論Ⅱ

福田 淳児

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムを通じて提供される原価情報が、企業内における原価管理および短期利益計画といった経営管理に果たす役割を理解することを目的とします。また、1980年代に実務の観察に基づいて提唱されたActivity-Based Costingの計算メカニズムまたそれが経営意思決定にもたらす影響を伝統的な製造間接費の配賦方法との対比で理解することを目的とします。

### 【到達目標】

原価計算論Ⅱでは、原価計算システムによる経営管理目的に有用な情報の提供について理解することを目標とします。具体的には、以下の点を目標とします。第1に、経営管理目的での原価計算としての標準原価計算や直接原価計算およびCVP分析が提供する原価情報の役立ちを自分の言葉で説明できること。第2に、1980年代に登場したActivity-Based Costingの基本的なメカニズムを伝統的な製造間接費の配賦方法と比較して自分の言葉で簡潔に説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

原価計算論Ⅱは対面または授業回の特徴に応じてオンデマンドでの講義形式の授業を想定しています。

授業では、原価管理目的に有用な原価計算である標準原価計算、短期利益計画の策定に有用な直接原価計算ならびにCVP分析、さらに伝統的な製造間接費の配賦方法との比較を行うことでActivity-Based Costingのメカニズムについて学習します。標準原価計算による原価標準の設定および原価差異分析を理解してもらうために、折り紙による模擬生産を行う予定です。また、必要に応じて授業中または授業終了後に課題を提示しますので、必ず自分の力で問題を解いてみてください。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要紹介およびコスト・マネジメントの概要	原価計算論Ⅱで取り扱うテーマの概要および評価方法について説明するとともに、コスト・マネジメントの技法としての原価企画について簡単に紹介する
第2回	標準原価計算の意義および原価標準の設定	標準原価計算の意義とその目的および原価標準の設定方法について説明する。
第3回	折り紙による模擬生産	折り紙を使った模擬生産を行い、標準原価による原価管理の一連の手続きを実施する。
第4回	標準原価計算における原価差異分析（製造直接費を中心に）	製造直接費の原価差異分析の方法について説明する。
第5回	標準原価計算における原価差異分析（製造間接費を中心に）	製造間接費の原価差異分析の方法について説明する。
第6回	原価差異分析の計算演習	標準原価計算における差異分析の補足説明を行うとともに、計算演習を行う。
第7回	CVP分析の意義	CVP分析の意義、ならびに貢献利益（限界利益）の意味およびその役立ちを説明する。
第8回	原価態様の分析	原価の固定分解の方法を示すとともに、その計算例を紹介する。
第9回	CVP分析の問題演習	CVP分析の復習とその問題演習を行う。
第10回	直接原価計算の意義と損益計算書の作成	全部原価計算との対比で直接原価計算の意義および直接原価計算の短期利益計画目的での有用性について説明する。さらに、
第11回	直接原価計算と全部原価計算における営業利益の比較	直接原価計算と全部原価計算に基づく損益計算書において営業利益に差異が生じる状況ならびに差異が生じる原因を明らかにする。直接原価計算に基づく損益計算書の作成を全部原価計算に基づく損益計算書との対比で、例題を交えながら説明する。

第12回	直接原価計算の計算演習	直接原価計算の計算プロセスの確認と計算演習を行う。
第13回	ABCの基礎的な概念と伝統的な製造間接費の配賦計算との比較	ABCの概念を説明するとともに、伝統的な製造間接費の配賦方法との違いを両者の相違点に焦点を当てて説明する。
第14回	ABCの計算例	ABCの事例に基づいて、実際の計算プロセスを検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受けるまたはオンデマンドの教材を見る前に、各回のテーマに関連するテキストの該当箇所を必ず読んでおくこと。また、学習支援システムを通じて事前配布した資料にも必ず目を通してください。さらに、テキストの例題を自分なりに解いてみて、わからない箇所を明確にして対面またはオンデマンドによる授業に臨んでください。必要に応じて、授業内または授業後に課題を提示することがあります。これは授業で学んだ内容を復習するため、さらに発展的学習のための問題です。これらの問題については、必ず自分の力で解いてみてください。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

### 【テキスト（教科書）】

山北晴雄・福田淳児『ファーストステップ原価計算を学ぶ』中央経済社2016年（2400円税別）

### 【参考書】

参考文献または自主学習に役立つと考えられる文献については、講義の中で必要に応じて適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

原価計算論Ⅱの成績評価は、期末試験および毎回の授業での課題の提出に基づきます。成績評価の配分は期末テスト75%、課題または宿題の提出25%とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

折り紙による模擬生産について楽しいという意見をもらっています。できるだけ身近なもので生産という活動を体験し、なお原価計算が理解できる方法を考えたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

事前配布資料は学習支援システムを通じて配布します。

### 【Outline (in English)】

The objective of Cost Accounting II is to understand how cost information provided through cost accounting systems plays a role in cost control and short-term profit planning within companies. It also aims to understand the calculation mechanism of activity-based costing, which was proposed based on practical observations in the 1980s, and its impact on management decision making.

In this module, the objective is to understand that cost accounting systems can provide useful information for business management purposes. Specifically, the following points are targeted. First, to be able to explain the usefulness of accounting information provided by standard costing, direct costing, and CVP analysis as costing for business management purposes. Secondly, to be able to explain the basic mechanism of Activity-Based Costing, which was introduced in the 1980s, in comparison with the traditional method of allocating manufacturing overhead.

Before attending the lecture, be sure to read the relevant part of the textbook related to the theme of each session. In addition, please be sure to read through the materials distributed in advance through the learning support system. In addition, please try to solve the examples in the textbook in your own way and clarify the parts you do not understand before attending the lecture. If necessary, assignments will be given after each class. These are problems related to the content learned in the class, as well as problems for further study. These problems will be explained in detail in the next lecture, with the problems with the most errors and their solutions introduced. The standard study time for preparation and review of this class is 2 hours each.

Grading in Cost Accounting I is based on the final exam and the assignments submitted in each class. The distribution of grades is 75% for the final exam and 25% for the homework (assignment).

## 経営分析 I

高橋 美穂子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、まずはじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記2の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第2回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第3回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第4回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第5回	事業の理解（3）	セグメント分析
第6回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第7回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第8回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第9回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第10回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROAとROEの関係、ROEの基本分解
第11回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第12回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第13回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第14回	財務比率分析（5）	成長性の分析

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。  
S.H.ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。  
ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015年。  
K.G.パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

### 【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門 I / II、会計学入門 I / II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

### 【関連科目】

財務会計論 I / II、国際会計論 I / II

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
  2. Understand major financial ratios and performance indicators
  3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis
- (Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to review the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the term-end test (100%).

## 経営分析Ⅱ

高橋 美穂子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROEを事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級ROE分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響がROEに与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

### 【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率（ROA・ROE）と資本コスト、企業（株主）価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

授業は原則、講義形式で進めます。ただし、学生の積極的な参加を促すため、授業中にグループで問題を考えたり、計算を行ったりと、適宜アウトプットを行う時間も設けます。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習（1）	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習（2）	ROEの基本分解
第4回	収益性の分析（1）	ROEの上級分解（1）：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第5回	収益性の分析（2）	ROEの上級分解（2）：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析（3）	ROEの上級分解（3）：純金融資産の保有がROEに与える影響を理解する
第7回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第8回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第9回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第10回	貸借対照表項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表を作成する
第11回	損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測損益計算書を作成する
第12回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第13回	株主価値評価の理論（1）	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第14回	株主価値評価の理論（2）	予測財務諸表と超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ベンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 evalによる財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015年

K.G. パレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001年。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(100%)で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

### 【その他の重要事項】

簿記3級程度（簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ）ならびに企業評価Ⅰ（春学期）の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

### 【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. Prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to review the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the term-end test (100%).

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教職入門

吉田 直子

単位数：2単位 | 開講semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水1/Wed.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

### 【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、場合によっては動画配信を併用するなど、状況に応じた形態をとる。また学生同士の学び合いを促進するため、グループワークやグループディスカッション等の活動を重視する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成(履修)・採用制度の概要と4年間の学びのイメージ	教職履修の全体イメージ、本授業の構成、進め方と評価
第2回	教師という職業の特徴	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	教職の歴史	教職観の変遷と今日の教員の役割
第4回	専門職としての教師の成長・育成	身分保障・服務義務、教員研修
第5回	現代学校と教職員の権利・職責	学校改革の展開、教職員の種類と職責、教師の権利と「働き方改革」
第6回	教育指導の全体像	教育の専門家としての教師、教師の指導文化、教員評価
第7回	学校組織のなかの教師	教職員の構成、校務分掌とチームワーク(同僚性)、年間指導計画

第8回	職務内容①：教科指導	学習指導要領改訂の概要と教科の変更点
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒指導の日本の特質、校則指導、いじめ指導
第10回	職務内容③：総合的な学習の時間と進路指導	総合的な学習の時間の位置づけ、職業・進路指導、キャリア教育
第11回	職務内容④：学級経営	学級の歴史、学級規模、担任教師の役割
第12回	教師の課題①：多様な子どもへの課題	子どもたちの今日的課題(子どもの貧困、学力格差、不登校など)
第13回	教師の課題②：多様な関係者との連携	「チーム学校」への対応、保護者や地域との協働・連携、「共生」社会
第14回	まとめ：変わる学校、学び続ける教師	変わる子どもの学び、学び続ける教師

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業後のリアクションペーパーの作成、次回の準備課題への取り組み、学習指導要領の内容に関する小テストの準備、ショートプレゼンテーション、最終レポート作成の関して必要な調査・研究を進めることをふくめ、本授業の準備学習・復習等の時間は各4時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

特に定めない。学習にかかわる資料等は授業の中で教員が適宜準備する。

### 【参考書】

中学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省)  
高等学校学習指導要領(平成30年3月公示、文部科学省)  
上記は、文部科学省のウェブサイトより、PDFでダウンロード可。  
その他の参考文献等は、授業内で適宜提示する。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加状況(学習支援システムを活用し、授業終了後3日以内にコメント、次回の授業開始までに準備課題を提出)に対する評価(40%)、小テスト(20%)、ショートプレゼンテーション(15%)、最終レポートに対する評価(25%)を総合的に見る。定期テストは行わない。

### 【学生の意見等からの気づき】

・教員に求められるコミュニケーションスキルについて、学生同士で体験・実践する場を丁寧につくる。  
・講師自身の民間企業勤務経験および教員経験も共有しつつ、「教育」について、幅広い視点から捉える機会を提供する。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義はPowerPointやビデオ教材などを活用して進めるが、講義資料は基本的にデジタルデータで学習支援システムより提供する。また授業ごとのリアクションペーパーや準備課題、最終レポートの提出も学習支援システムを介して行う形式をとるため、スマホ、PC等、ネット接続が可能な機器を必要とする。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession. We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

The standard amount of time for learning activities outside of classroom is four hours each, including writing a reaction paper after class and preparing to submit two scheduled assignments.

Evaluations will be based on a comprehensive assessment of the student's independent participation in the class (submitting comments before/after class) (40%) mini test(20%), short presentation(15%) and final report(25%).

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教職入門

天野 一哉

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring  
曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること、「主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状、かれらを取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を、対話を通して実践的に深めていく。

また教職課程コアカリキュラムに記載されている「各教科の指導法」の目標、内容、指導法、授業設計を理解し、身につける。

### 【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	4年間の学びをイメージする
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と 大学・教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度、教員採用
第4回	職業としての教師としての成長	研修・服務義務

第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営、公務分掌
第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子供たち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教職の課題①	子供の貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教職の課題②	「チーム学校」への対応、協働と連携、「共生」社会
第14回	教職の方向性	変わる子供の学び・学び続ける教師

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書(教育史を含む)の引用・参照を必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・伊藤亜希子・藤田由美子・寺崎里水 (2017)『改訂版教職概論』協同出版

### 【参考書】

天野一哉 (2013)『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社  
中学校学習指導要領 (平成29年3月公示)、高等学校学習指導要領 (平成30年7月)、  
生徒指導提要 (令和4年12月) ※いずれもPDFでダウンロード可能

### 【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。具体的には、授業中に提示される課題：40%、レポート：60%で評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

### 【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

### 【その他の重要事項】

春学期 (本講)・秋学期 (教育原理) 合わせて履修の推奨する。授業形態は、基本的には対面を予定しているが、グループワーク等の対話を実施するので、感染状況によってはオンラインとすることもある。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, people aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

Learning activities outside of classroom

When creating presentations and reports, it is essential to cite academic technical books (including educational history) related to the theme and fieldwork, so we will select them. The method etc. will be explained in the class. In addition, instruct preparatory learning in advance according to the theme of the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**Grading Criteria /Policy**

Comprehensively evaluate that you can understand basic knowledge and ideas, and that you are willing to take the initiative in learning the four-year teaching profession. Specifically, the evaluation will be based on the tasks presented during class: 40% and the regular exam: 60%.



EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教職入門

猪股 大輝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目では、受講生が教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解できること、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主に学習する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に教育するという行為への強い気持ちと生涯にわたって学び続けるという自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に組織として諸課題に対応することも期待されている。受講生が本科目を通じ、今日の学校教育や学校教員の現状、教師を取り巻く諸問題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、教職について理解を深めることを目指す。

### 【到達目標】

本科目は、受講生が、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解できること、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断することで、将来の選択肢の一つとして教職を捉え、教職への意欲を高めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

レジュメ配布による講義形式を中心とするが、授業中に適宜ペアワークやディスカッションを導入し、学生の教職への理解を深める。また、毎回の授業後にコメントペーパーを作成してもらい、必要に応じて次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件：免許・養成 (履修)・採用制度の概要と4年間の学びのイメージ	本講義の概要、方法、評価を説明する。また、開放性を基本とする教員養成制度の仕組みと意義、教師になるために学ぶべき内容を概観する。
第2回	教師という職業の特徴	自身の被教育体験・教師像を相対化し、家庭・学校・社会それぞれとの関係の中での教師の職業的特徴を考える。
第3回	教職の歴史	「近代学校」成立以降の教師の役割や養成制度の変遷を知る。
第4回	専門職としての教師の成長・育成：研修等の制度	教師の専門職性を巡る歴史的・国際的議論を検討し、「よい教師」の基本的資質を考える。また、特に「反省的実践家」としての教師の役割と可能性を知る。

第5回	現代の学校と教師の資質・役割	近年の教育改革における教師像について理解する。なかでも、「対話的、主体的で深い学び」の時代に改めて「教える」ことの意義を考える。
第6回	教師の権利と義務：服務規律や身分保障	教師の権利・身分保障と服務、及び教師を取り巻く行政制度の仕組みを理解する。また、部活動問題を中心とした教師の多忙化問題や、教師のメンタルヘルスなど近年の諸問題を知る。
第7回	職務の全体像	学校における教職員の構成や校務分掌とチームワーク (同僚性)を理解するとともに、1年間のスケジュールを手がかりに職務の全体像を知る。
第8回	職務内容①：教科指導	「授業」のもつ教育的・社会的意義を考えるとともに、「授業」を通じ子どもと向き合うための教師の仕事や役割を知る。
第9回	職務内容②：生徒・生活指導	生徒・生活指導をめぐる教師の役割の歴史や、多忙化・ブラック校則・いじめ問題など今日的課題を知る。また、戦後生活指導論を手がかりに、子どもの自主性と教師の指導性との関係を考える。
第10回	職務内容③：進路指導・キャリア教育	学校教育と労働世界・企業社会との接続について考える。また、特に歴史的観点から検討し、進路指導・キャリア教育の特徴とその展開について理解する。
第11回	職務内容④：学級経営	「学級」の歴史や「学級づくり」を巡る戦後の議論を手がかりに、「よい学級」の基本的資質と教師の役割を考える。
第12回	「チームとしての学校」：学校組織のなかの教師	「チームとしての学校」をめぐる今日的議論の展開を理解する。また、子どもの貧困、学力格差、不登校など今日的課題に向かう教師の役割を考える。
第13回	地域・家庭・多様な専門家との連携	「コミュニティ・スクール」や保護者・地域の学校参加による「開かれた学校」をめぐる今日的議論を理解するとともに、その意義と課題を考える。
第14回	試験・まとめと解説：変わる学校、学び続ける教師	試験を実施し、講評として知識基盤社会において「学び続ける教師」の意義と可能性、教師の公共的使命について考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【事前学習】

授業中に提示された参考書等を適宜確認し、授業内容を予習する (各2時間)。

【事後学習】

各回で講義内容を整理しリアクション・ペーパーを作成するとともに、課題として与えられたレポート等に取り組む (各2時間)。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない

【参考書】

- ・中学校学習指導要領 (平成29年3月公示 文部科学省)
- ・高等学校学習指導要領 (平成30年3月公示、文部科学省)
- ・生徒指導提要 (令和4年12月、文部科学省)
- ※PDFでダウンロード可能
- ・その他、授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを下記をもとに総合的に評価する。  
・毎授業ごとのリアクション・ペーパー：30%

- ・授業内で指示する課題：20%
- ・定期試験（授業内試験）：50%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

授業中に適宜指示する

**【Outline (in English)】**

The purpose of this lecture is to increase students' motivation to become teachers by considering teaching as a future option, understanding basic knowledge and ideas about the significance of teaching, the role, qualifications, and duties of teachers, what it means to be a teacher, and what they need to learn and acquire in order to become a teacher, and determining their own aptitude for the teaching profession.

Specifically, the course will be structured with the significance of the teaching profession, the role of teachers, and the duties of teachers as the main elements. In recent years, the challenges that teachers face have become more diverse and complex, such as dealing with students who have difficulties in their daily lives and learning, and dealing with parents and community issues. The profession of teaching requires more than ever an awareness of the need to face the changing times and society, and to continue learning throughout one's life. In addition, there is an increasing emphasis on cooperation with people inside and outside the school, such as in response to "team schools," and teachers are expected to understand their individual roles and to respond to various issues as an organization. The course aims to deepen each student's understanding of the teaching profession by providing an overview of the current state of school education and school teachers and the various issues they face, and by examining specific aspects of the work of teachers and their way of life.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教職入門

寺崎 里水

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、教職を将来の選択肢のひとつとして考え、教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自らの適性を判断して教職への意欲を高めることを目的としている。

具体的には、教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。近年、日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増している。教職という職業にはこれまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。また「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視されてきており、教員一人ひとりの役割を理解すると同時に、組織として諸課題に対応することも期待されている。今日の学校教育や学校教員の現状や諸課題についての概要をおさえながら、教員の仕事のありよう、生き方等について具体的な検討を行い、受講生一人ひとりの教職についての理解を深めていきたい。

### 【到達目標】

教職を将来の選択肢のひとつとして考えることを前提に、以下の事柄を到達目標とする。

- ①教職意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方が理解できること。
- ②教職に就くとはどういうことか、そのためにどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかが理解できること。
- ③授業を通して、自らの適性を判断して教職への意欲を高めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は対面で行います。

教職課程の入門科目として位置付けられており、指定された教科書をもとに講義を行うほか、個人やグループでワークをしたり、課題レポートを提出したりしてもらいます。

課題提出やそのフィードバックは授業内と学習支援システムの両方を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入と教職への条件	職業を選択するということ、教職を選択するということ
第2回	教師像の構築	教師という職業世界への接近と大学における教職課程
第3回	職業としての教師へのハードル	教員免許・養成制度・教員採用
第4回	専門職としての教師の成長・育成	研修・免許更新・服務義務
第5回	教育指導の本質と意義	教育の専門家としての教師
第6回	教職の歴史的特質	教職観の変遷と今日の教員の役割
第7回	教職に関する実務①	学校という組織の運営・校務分掌

第8回	教職に関する実務②	教師としてのキャリア
第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	教師の職務実態①	学級経営、多様化する子どもたち
第11回	教師の職務実態②	生徒指導・進路指導
第12回	教師の課題①	子どもの貧困、学力格差、力のある学校
第13回	教師の課題②	チーム学校への対応、協働と連携
第14回	試験、振り返り、教職の方向性	試験とその振り返り、変わる子どもの学び、学び続ける教師

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された課題をすることが予習になるように講義内容を考えています。必ず課題を終わらせ、提出したのちに、授業に参加してください。

教科書の内容すべてを授業内で扱えるわけではないので、授業で触れた章はもちろん、関連文献・資料として紹介されたものを各自で読んだり調べたりしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

高妻紳二郎・植上一希・佐藤仁・寺崎里水・伊藤亜希子・藤田由美子 (2023) 『新版教職概論』協同出版

### 【参考書】

生徒指導提要 (平成22年3月、文部科学省) ※PDFでダウンロード可能

植上一希・寺崎里水 (2018) 『わかる・役立つ教育学入門』大月書店

### 【成績評価の方法と基準】

基本的な知識や考え方を理解できること、4年間の教職課程の学びに主体的に取り組む意思があることを総合的に評価する。

具体的には、提出課題の内容：50%、試験：50%で評価を行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場面があるので、インターネットに接続し、必要な資料をダウンロードしてプリントアウトしたり、重要だと感じた内容を自身でノートにまとめることが必要です。ネットに接続できる環境、パソコン、パソコンが用意できない場合はタブレット (スマホは画面が小さいので推奨しません) が必要です。

### 【その他の重要事項】

教職課程を履修する学生を対象に開講する科目です。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要 (Course outline)】

In this lecture, students aiming for the teaching profession will learn fundamental matters related to teaching jobs, and will decide their aptitude and will aim to raise motivation for the teaching profession.

We will examine the current situations of school education and school teachers, their careers, future issues and so on.

#### 【到達目標 (Learning Objectives)】

In this class, students will consider teaching as one of their future options, and will gain a basic understanding of the significance of the teaching profession, the role of teachers, their qualifications and abilities, and their duties. They will also consider what it means to be a teacher, what they need to learn and acquire in order to do so, and determine their own aptitude and motivation for the teaching profession.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】  
Students may be required to reflect their learning through the class. Furthermore, it is expected that students will study and research the opinions about teaching professions.  
Your required study time is at least four hours.

#### 【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria / Policy)】

Grading will be decided based on the following process:

- In-class assignments: 50%

- Final exam: 50%

EDU100MA (教育学 / Education 100)

教育原理

筒井 美紀

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：1~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と云っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして?」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

最終回をのぞき対面実施します。

授業は予習を大前提に進むので、履修者はテキストブックを読み、毎回の「予習&授業プリント」にある質問 (Qや■や [ ] など) や「~しよう」に対して回答し (ノートに書く、など) 授業に臨んでください。

なお、授業終了時に毎回の課題が出されるので、学習支援システムに解・考察を書き込んで提出のこと。課題へのフィードバックは次回授業冒頭で行ないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テキストのまえがきと序章 ：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義
第2回	近代以前の教育 (1) 古代の教育：教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか? (テキスト第1章第1・2節)
第3回	近代以前の教育 (2) 中世における「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか? (テキスト第1章第3節)
第4回	近代の教育 (1)：近代初期・中期の社会と教育思想	社会階層の形成と教育の関係 (テキスト第1章第4節)
第5回	近代の教育 (1)：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想は (ルソーとコメニウス) (テキスト第1章第4節)

第6回	近代の教育 (2)：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化はもたらした教育観・方法論への影響 (助教法) (テキスト第2章第3,4節)
第7回	現代の教育 (1)：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ・どのように近代公教育制度の成立を促したか? (テキスト第2章第5節)
第8回	現代の教育 (2)：公教育成立完成期、新教育 (進歩主義教育)	「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景 (テキスト第2章第5節)
第9回	近代化以前の日本の教育	近世までの政治・社会と教育 (テキスト第3章)
第10回	日本の近代教育システムの誕生とその歩み	支配層の教育と民衆の教育、近代化によるその統合 (テキスト第4章第1,2節)
第11回	第二次世界大戦後の教育	揺れ動いてきた教育政策 (テキスト第4章第3節)
第12回	現代公教育の課題 (1) 教育を受けられない世界の子どものたち	(義務)教育の重要性とそこから排除 (テキスト第5章第1節)
第13回	現代公教育の課題 (2) 多様な子どもがともにまなぶ教育	インクルーシブ教育とは何か (テキスト第5章第2節)
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	基礎的諸概念を中心に総復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の進め方と方法を参照。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

遠藤野ゆり・筒井美紀 (2023) 『まなぶことのみちと成り立ち——公教育の原理的探究』法政大学出版社

【参考書】

・筒井美紀 (2014) 『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニスト社  
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 (本文、解説、資料) (最新版、文部科学省)  
→文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a\_menu/01\_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それをを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の2つの方法で確認し評価します。

毎回授業終了時提出の課題26% (2×13回), 期末論述試験74%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドは、図や表によるまとめを多くしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはパソコンやタブレットを持ってくる。紙は配りません。また、毎回の課題提出はオンラインです。無い人はスマートフォンでも構いませんが、画面小さくて見えにくかったりします。

【Outline (in English)】

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural," but it is not "natural" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will be an hour for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mini-work after every class 26% and term-end examination 74%.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

教育原理

天野 一哉

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：1~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要

教育の諸問題は私たちが生きている今ここで起こっている現実であることから、書籍やネットなど閉じた媒体のみに学ぶのではなく、生身の人間、動いている世の中から発掘すべきである。そこで、授業では学生諸君と担当教員、ゲスト・スピーカーとの対話、そして教育現場へのフィールドワークから「教育とは何か」「問題点は何か」「いかに改革すべきか」などを考察してもらう。また「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけることを目的としている。

ZOOM接続先、課題等はHoppii学習支援システムで告知するので定期的に確認すること。

【到達目標】

教育の基本的な諸概念、教育に関する歴史及び思想を踏まえ、教員・同学及び専門家との対話や教育現場への取材を通して、現在の教育を知り、自分自身の“教育原理”を探究する。具体的には教員として、あるいは社会人としての知識のみならず、意識とスキルの向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

実践力育成のため、対話によるPBL(Project Based Learning)の手法を用いて、課題設定・調査・分析・考察・発表等の方法を学ぶ。学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」が1つの柱となることから、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを用い、実践的に進めていく。従って下の【授業計画】は、あくまでもモデルケースであり、学生の理解度、対話の進捗によって柔軟に再構築していく。

リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。新型コロナウイルスの感染状況による変更も含め、授業の課題等、詳細については、「学習支援システム」を通じて告知する。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的及び方法、「教育原理」についてディスカッション(ZOOM接続先等はHoppii学習支援システムで告知する)
第2回	「教育」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第3回	「学習」とは何か	解説とグループ・ディスカッション
第4回	「教員」「学校」とは何か	教育制度の成立 解説とグループ・ディスカッション
第5回	教育史①	世界の教育史の概観
第6回	教育史②	日本の教育史の概観
第7回	教育思想①	世界の思想の概観
第8回	教育思想②	日本の思想の概観 家庭/家族

第9回	教育の方法	学習指導要領の位置づけ、能動的な学習への参加
第10回	ゲスト①	現任教員によるキャリア教育等の学校現場報告と対話
第11回	教育評価	自己評価・ルーブリック評価・ゴールフリー評価
第12回	プレゼンテーション①	第11回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第13回	プレゼンテーション②	第11回までの講義を踏まえた学生によるプレゼン
第14回	総まとめ	全授業テーマの総括と学生の省察

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

プレゼンテーション、レポートの作成にあたってはテーマに関連した学術的専門書(教育史を含む)の引用・参照を必須とするので、その選定をおこなう。方法等については授業内で説明する。その他、授業のテーマに合わせて事前に準備学習を指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

筒井美紀・遠藤野ゆり(2023)『まなぶことの歩みと成り立ち: 公教育の原理的探究』法政大学出版局

【参考書】

天野一哉(2013)『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか-格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社  
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領(本分、解説、資料)、※いずれも文部科学省HPより最新版をダウンロード可能

【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的な諸概念を理解しているか、それを用いて、教育の諸問題について考察する力がついているかを毎回の「100字以上省察」：40%、レポート(またはプレゼンテーション)：60%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーション等のスキルは、1回、2回では身につかないので、発展的要素を加えながら、各回に実践の場を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、スマートホン、パソコン等の通信端末。

【その他の重要事項】

春学期(教職入門)・秋学期(本講義)合わせて履修を推奨する。授業形態は、基本的には対面であるが、グループワーク等の対話を実施するので、感染状況によってはオンラインとする場合もある。

【Outline (in English)】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues.

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

When creating presentations and reports, it is essential to cite academic technical books (including educational history) and fieldwork related to the theme, so we will select them. The method etc. will be explained in the class. In addition, instruct preparatory learning in advance according to the theme of the lesson. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Evaluate whether you understand the basic concepts of pedagogy and use them to think about the problems of education.

Evaluate with 40% reflection sheet and 60% report (or presentation).

In order to develop practical skills, learn methods such as task setting, survey, analysis, consideration, and presentation using the method of PBL (Project Based Learning) through dialogue. Since "independent, interactive and deep learning (active learning)" is one of the pillars of the course of study, we will use group work, fieldwork, and presentations to proceed practically. Therefore, the [Class Plan] below is just a model case, and will be flexibly reconstructed according to the degree of understanding of the students and the progress of the dialogue.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教育原理

飯窪 真也

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをととして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

### 【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をととして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。フィードバックは次回授業時に行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	授業で扱う内容を俯瞰します。
第2回	古代の教育、近代以前の教育 (1) 教育と教育思想の発祥	古代ギリシア・ローマ時代における教育の発祥について、当時の社会背景と結び付けながら考察します。
第3回	中世の教育 (1) : 近代以前の教育 (2) 「学校」の諸形態	キリスト教社会の文脈とその文脈における教育の意味を考察します。
第4回	中世の教育 (2) : 近代以前の教育 (3) 「こども」とは	時代によって異なる「こども」の捉え方について考察します。
第5回	近代の教育 (1) : 市民社会と教育思想	ルネッサンス期の社会やものの見方の変化に基づく教育についての考えを考察します。
第6回	近代の教育 (2) : 産業革命と教育思想	産業革命を背景にした公教育黎明期の教育システムについて考察します。

第7回	現代の教育 (1) : 近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	近代的な国家の成立に伴う国家による教育の基本的な枠組みについて考察します。
第8回	現代の教育 (2) : 現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	現代日本の教育整備の向かう方向について、その背景にある考え方から考察します。
第9回	発達と学習	教育を考える際の基本になる発達と学習の基礎的な考え方を学びます。
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭、地域社会の関係について、今日的な課題をとりあげ考察します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	教科指導・生徒指導の諸理論について学びます。
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育思想の背景にある個性・能力・学力の考え方について掘り下げます。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割について、総合的に考察します。
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり (授業内試験)	授業で扱った内容を振り返り、次の学びへつなぎます。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義の内容について復習を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

・遠藤野ゆり・筒井美紀『まなぶことの歩みと成り立ち 公教育の原理的探究』法政大学出版局、2300円+税

### 【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 (本文、解説、資料) (最新版、文部科学省)  
→文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a\_menu/01\_c.htm

### 【成績評価の方法と基準】

教育学の基本的諸概念を理解しているか、それをを用いて学校・教育の歴史の変遷や現状・その課題を記述し、教育の理念と照らし合わせながら考察する力がついているかを、以下の3つの方法で確認し評価します。  
授業への参加姿勢30%、リアクションペーパー30%、授業内論述試験40%等により総合的に判断する。

### 【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

In this lecture, you will learn the history of education, in the relationship of politics, economy, society family and some basic concepts of education, some educational thoughts.

#### 【Learning Objectives】

Students will acquire the basic concepts of education accurately and understand the essence and philosophy of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, students will hone their ability to delve deeply into actual education and school activities, taking into account the changes that have taken place.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】



The following evaluations are conducted to check whether students understand the basic concepts of pedagogy, and whether they have the ability to describe the historical changes, current situation, and issues of schools and education using them, and to examine them in light of educational principles.

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

**教育原理**

澤里 翼

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring  
曜日・時限：水2/Wed.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

**【到達目標】**

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的变化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

序盤は講義中心ですが、中盤以後は授業前半でグループで調べた内容を発表してもらい後半で解説や不足部分の講義を行います。毎回の授業後に学習支援システムを通して意見や感想を提出してもらい、全体で共有したり、個別にコメントを返したりしています。

授業は原則として対面で行う予定ですが、感染状況等に応じて柔軟に対応できるようにしています。詳細は初回の授業の際に口頭で説明し、学習支援システムで伝達します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の紹介、今後の授業内容、 ：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義
第2回	古代の教育、近代以前の教育 (1) 教育と教育思想の発祥	教育や教育学に影響を与えた、ギリシャの哲学者や中国の思想家等を紹介します
第3回	中世の教育 (1) : 近代以前の教育 (2) 「学校」の諸形態	「学校」の成立とその形態について扱います
第4回	中世の教育 (2) : 近代以前の教育 (3) 「こども」とは	子どもを生まれながらに「善」「悪」あるいは「白紙」とみる見方について発表してもらい・解説します。
第5回	近代の教育 (1) : 市民社会と教育思想	教育における遺伝と環境の役割について過去の思想を追ったうえで、現在の展開について紹介します

第6回	近代の教育 (2) : 産業革命と教育思想	一斉教授の成立とそのメリット デメリットについて考えます
第7回	現代の教育 (1) : 近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	教育費負担のしくみがどうあるべきかについて議論します
第8回	現代の教育 (2) : 現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	学校に通うことの意義/遠隔授業、不登校、オルタナティブな教育について考えます
第9回	発達と学習	系統的学習と経験的学習について比較・考察します
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	学校運営への家庭や地域の関わり方について議論します。
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	いじめや体罰などの教育問題について考えます
第12回	個性・能力・学力と教育思想	教育格差、学力格差の問題について扱います。
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	学校の運営や教師の働き方について考えます
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	小テスト実施予定です

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

グループの担当箇所について調べ、発表してもらおう予定です。最低1回は授業外でグループの打ち合わせが必要になると思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

特に指定しません

**【参考書】**

・筒井美紀・遠藤野ゆり (2013) 『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版社・筒井美紀 (2014) 『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社  
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 (本文、解説、資料) (最新版、文部科学省)  
→文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a\_menu/01\_c.htm

**【成績評価の方法と基準】**

授業への貢献度 (各回提出してもらおうリアクションペーパー) 20%  
授業への貢献度 (ミニ・グループ・ディスカッション) 20%  
期末テスト 60%

**【学生の意見等からの気づき】**

授業支援システムにできるだけ資料をアップするようにしています。

**【学生が準備すべき機器他】**

Hoppi上に課題を提出してもらおうことが多いので情報機器を適宜使用してください。

**【その他の重要事項】**

・授業に出席の際にはマスクの着用をお願いします。  
・授業支援システムなどを利用して課題等を提示しますので、体調がすぐれない時などには無理をせずご相談ください。

**【Outline (in English)】**

This course introduce basic concepts and theories of education by learning about the history of education and the current education system in relation to politics, economics, society and family.

This class includes active learning; group discussion about today's educational issues.

**Goals**

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words- "development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

Work to be done outside of class

You will need to have at least one group meeting outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Criteria

attendance 20%

group work 20%

final exam 60%

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教育の制度・経営

植竹 丘

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

### 【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関する基礎的な内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (現代社会と学校改革)	講義の内容、進め方、評価方法、社会科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCAサイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけでなく、構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について

第14回 地域・家庭・多様な 学校外部との連携が求められる  
専門家に開かれた学 ようになった背景及び課題につ  
校づくり いて

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指定しない

### 【参考書】

青木栄一・川上泰彦 (2023) 『[改訂版] 教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。

村上祐介・橋野晶寛 (2020) 『教育政策・行政の考え方』有斐閣。

勝野正章・村上祐介 (2020) 『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。

小川正人 (2019) 『日本社会の変動と教育政策』左右社。

小川正人 (2010) 『教育改革のゆくえ』筑摩書房。

小川正人 (2010) 『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。

藤田英典・大桃敏行編著 (2010) 『学校改革』(リーディングス日本の教育と社会11) 日本図書センター。

藤田英典 (1997) 『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編 『日本教育経営学会紀要』各年版。

文部科学省「学習指導要領」(最新版)、同ホームページ上の資料 (法令、審議会答申等)

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験70% (オフラインでの実施が叶わない場合、レポートとすることがある)

疑問点の内容30%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

大学設置基準第21条第2項の規定に基づき、一単位時間あたり最低4.5時間の自主学習が求められる。

### 【Outline (in English)】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

Grade evaluation is based on 70% of the final exam and 30% of questions.

Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教育の制度・経営

植竹 丘

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金1/Fri.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

### 【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必要な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関する基礎的な内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

原則として担当者による講義を行う。毎回講義終了時に疑問点を提出してもらい、発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション (現代社会と学校改革)	講義の内容、進め方、評価方法、社会科学的に教育現象を見る
第2回	世界の教育改革	日本の教育制度や教育改革の内容と諸外国における教育制度や教育改革の比較について
第3回	憲法・教育基本法	戦後日本の教育行政の理念である「法律主義」及びその中心に位置づく「憲法・教育基本法体制」について
第4回	教育行政のしくみ	文部科学省及び教育委員会の仕組みと役割、教育政策決定過程について
第5回	学習指導要領と教科書制度	教育課程の基準について
第6回	教育財政制度と無償化	予算中の教育費の使われ方について、義務教育費国庫負担金制度、教員給与制度について
第7回	学校組織の法としくみ	学校組織の特性及び教員の勤務の特徴と課題について
第8回	学級経営	「学級」の特殊性及び教員の業務について
第9回	学校と教員の評価	「PDCAサイクル」下での学校評価及び教員評価
第10回	教員の成長と同僚性	教職の専門職性とラーフコースについて
第11回	子どもの人権と学校	パターナリズムに基づく教員の統治について
第12回	学校の危機管理と安全対策	学校の安全管理が教員に求められるようになった背景及び課題について
第13回	「チームとしての学校」	学校が教員だけでなく、構成されるのではなく、専門職と協働して学校運営を行う際の課題について

第14回 地域・家庭・多様な学校外部との連携が求められる専門家に開かれた学校づくり  
学校外部との連携が求められるようになった背景及び課題について

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の参考文献に記載されている文献を入手し読了すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

指定しない

### 【参考書】

青木栄一・川上泰彦 (2023) 『[改訂版] 教育の行政・政治・経営』放送大学教育振興会。

村上祐介・橋野晶寛 (2020) 『教育政策・行政の考え方』有斐閣。

勝野正章・村上祐介 (2020) 『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会。

小川正人 (2019) 『日本社会の変動と教育政策』左右社。

小川正人 (2010) 『教育改革のゆくえ』筑摩書房。

小川正人 (2010) 『現代の教育改革と教育行政』放送大学教育振興会。

藤田英典・大桃敏行編著 (2010) 『学校改革』(リーディングス日本の教育と社会11) 日本図書センター。

藤田英典 (1997) 『教育改革』岩波書店。

日本教育経営学会編 『日本教育経営学会紀要』各年版。

文部科学省「学習指導要領」(最新版)、同ホームページ上の資料 (法令、審議会答申等)

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験70% (オフラインでの実施が叶わない場合、レポートとすることがある)

疑問点の内容30%

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントシートとして疑問点を提出させ、続回にリアクションを行うことで理解が深まることが確認できたため継続する予定である。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

大学設置基準第21条第2項の規定に基づき、一単位時間あたり最低4.5時間の自主学習が求められる。

### 【Outline (in English)】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

Grade evaluation is based on 70% of the final exam and 30% of questions.

Outside class, read the literature listed in the bibliography for each class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

**教育の制度・経営**

仲田 康一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

**【到達目標】**

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、受講生が、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を得ることを目標とする。なお、学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

講義を行う。毎回講義終了時にオンラインでコメントを提出してもらい、疑問や発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代社会と学校改革
第2回	世界の教育改革	イギリス・アメリカなどの教育改革
第3回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第4回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第5回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第6回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第7回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第8回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第9回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第10回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第11回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第12回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第13回	チームとしての学校	学校教育活動と教職員の協同
第14回	地域・家庭・多様な専門家に関わった学校づくり	学習指導要領と「社会に開かれた教育課程」

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習は、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等を書いておく。復習は、授業内容を振り返りノート等に整理しておく。本授業の準備学習・復習は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社  
文部科学省「学習指導要領」(最新版)、同ホームページ上の資料(法令、審議会答申等)  
佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』岩波ブックレットNo. 1045

**【成績評価の方法と基準】**

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等(40%程度)、定期試験(60%程度)によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

ゲストスピーカーの招聘については、高評価を得た。授業の進行や先方の都合に依存する部分もあるが、引き続き実現できるよう検討する。

**【その他の重要事項】**

教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

**【Outline (in English)】****【授業の概要（Course outline）】**

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

**【到達目標（Learning Objectives）】**

To understand the basic concepts and legal system of the Japanese school education system and its management. Be able to explain how various educational issues relate to the legal system.

**【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】**

Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as  
- Rereading and summarising the material handed out in class  
- Submitting Attendance Check Assignment.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

**【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】**

Grading is determined by the students' understanding of basic knowledge as well as their competence to argue and support their own ideas with knowledge and data. Evaluation will be based on in-class presentations, comment papers, etc. (approx. 40%) and an in-class end-of-term examination (approx. 60%).

EDU100MA (教育学 / Education 100)

## 教育の制度・経営

小池 由美子

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の構成は、大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えることである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、危機管理や安全対策、地域との連携も取り上げる。

### 【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的理解を促すことができる。学校組織・経営の基礎知識には、地域との連携、安全と危機管理もふくまれる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

講義を行う。毎回講義終了時にコメントペーパーに記入し提出してもらい、疑問や発展的な考察がなされているものや全体で共有すべきものについては、続回でリアクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代社会と学校改革
第2回	世界の教育改革	イギリス・アメリカなどの教育改革
第3回	憲法・教育基本法	教育を受ける権利・教育の目的等
第4回	教育行政のしくみ	教育政策と教育行政、教育委員会と学校
第5回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領準拠の意味、教科書検定と教師の選択権
第6回	教育行財政制度と教育の無償化	国際比較、経済格差と教育格差
第7回	学校組織の法としくみ	学校教育法の理解と学校組織の在り方
第8回	学級経営	生活指導などを踏まえ不登校・いじめ問題を考える
第9回	学校と教員の評価	学校評価制度と教員評価制度に法律と学校の実態
第10回	教員の成長と同僚性	教員に求められる資質・能力と同僚性の構築
第11回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約と体罰・校則等について考える
第12回	学校の危機管理と安全対策	パンデミックと学校、自然災害と防災教育など
第13回	チームとしての学校	学校教育活動と教職員の協同
第14回	地域・家庭・多様な専門家に関わった学校づくり	学習指導要領と「社会に開かれた教育課程」

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は、授業で指定された文献などを読んでおく。新聞等で教育や子どもに関わる記事を読み、コメントをノート等を書いておく。復習は、授業内容を振り返りノート等に整理しておく。本授業の準備学習・復習は各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

勝野正章・藤本典裕返書『教育行政学(改訂新版)』学文社  
文部科学省「学習指導要領」(最新版)、同ホームページ上の資料(法令、審議会答申等)  
佐藤学著『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』 岩波ブックレットNo. 1045

### 【成績評価の方法と基準】

基礎知識の理解度だけでなく、自らの考えを知識やデータで裏付けて論述できるかを評価する。授業内の発表やコメントペーパー等(40%程度)、定期試験(60%程度)によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

### 【その他の重要事項】

公立高校教諭の経験があり、その視座から教育関連法規や学校経営等に関する知見を活かし、学校の実態を踏まえて講義を行う。

### 【Outline (in English)】

#### 【授業の概要（Course outline）】

The content of this class consists of the two parts. The first one is focused on Japanese laws and systems in educational administration and finance. The second is related to the topics on school organization and management including risk management, safety measure and cooperation with local community. It is necessary for those who attend the class to understand the basic knowledge of them and consider these matters by themselves.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育課程論

飯窪 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画 - 通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画 - 教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義内容の復習を行ってください。

指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)  
→文部科学省ホームページよりダウンロードできます。[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_c.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm)

### 【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 (30%)、リアクションペーパー (30%)、授業内試験 (40%) 等をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

#### 【Learning Objectives】

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.



EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育課程論

黄 郁倫

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、カリキュラムに関して、その概念の歴史の変遷、近年の改革動向、特徴的な開発事例、という3つの観点から扱うことによって、より多角的に理解することを目指す。また、カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントとカリキュラムに基づいたICTの活用の考え方・進み方について理解する。

### 【到達目標】

21世紀社会の資質・能力の育成を目指した教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進み方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションを行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第2回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第3回	教育内容の選択	教育の目的
第4回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第5回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第6回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第7回	学習指導要領改訂のポイント	教育課程編成の目的及び基本原理
第8回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進み方
第9回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第10回	教育課程と指導計画(1)	指導計画のデザイン
第11回	教育課程と指導計画(2)	学年・学期・単元をまたぐ視点
第12回	教育課程と指導計画(3)	教科・領域の横断およびICT教育の活用
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムの改善
第14回	授業のまとめ	日本における特徴的なカリキュラム

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年

佐藤学『教育の方法』左右社、2010年

秋田喜代美／藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、2010年

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40%

ホームワーク 20%

期末レポート 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

### 【Outline (in English)】

Course outline:

This class aims at providing diverse understanding of the concept of curriculum by introducing it from three perspectives: historical changes of the concept, recent reform trends, and characteristic reform cases. In addition, through studying researches on curriculum and the curriculum guidelines, it is hoped to help students to understand the significance of curriculum and the usage of ICT as well as the practical way to organize, design, study, and evaluate it.

Learning objectives:

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum for competency building.

Learning activities outside of classroom:

Since the concepts and theories are diverse, students are required to carefully review resumes and references. In addition, depending on the content of each lecture, reading and investigating information on particular topics may be assigned as homework. The preparation and review time for this class is about 4 hours every week.

Grading criteria/ Policy:

Attendance and learning attitude 40%

Homework 20%

Report 40%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育課程論

飯窪 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画 - 通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画 - 教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義内容の復習を行ってください。

指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)  
→文部科学省ホームページよりダウンロードできます。[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_c.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm)

### 【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 (30%)、リアクションペーパー (30%)、授業内試験 (40%) 等をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

#### 【Learning Objectives】

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育課程論

飯窪 真也

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木1/Thu.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回、講義とグループワークを交えた形式で行い、リアクションペーパーを提出していただきます。

講義の後半では、グループで指導計画の作成と発表を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業で扱う内容の全体像を俯瞰します
第2回	カリキュラムとは	カリキュラムデザインの基本的な考え方について学びます
第3回	学習指導要領とは	教育課程編成の基準となる学習指導要領について学びます
第4回	学習指導要領の変遷	教育課程編成の基準となる学習指導要領の移り変わりについて考察します
第5回	学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領改訂の要点について学びます
第6回	教育内容の選択	教育内容選択の原理について学びます
第7回	教育内容の組織化	教育内容を組織化する際の基本的な考え方について学びます
第8回	学力論の系譜	学力についての考え方を学びます
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方について学びます
第10回	社会に開かれた教育課程	社会に開かれた教育課程の考え方について学びます
第11回	教育課程と指導計画 - 通時性と共時性	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案します
第12回	教育課程と指導計画 - 教科・領域の横断	これまで学習した考え方を基に指導計画を立案・検討します
第13回	カリキュラム評価	カリキュラムデザインにおける評価の考え方について学びます
第14回	授業のまとめとテスト	授業内容を振り返り、今後につなげます

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義内容の復習を行ってください。

指導計画の作成と発表にあたって授業時間外の準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)  
→文部科学省ホームページよりダウンロードできます。[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_c.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm)

### 【参考書】

松尾知明『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 (30%)、リアクションペーパー (30%)、授業内試験 (40%) 等をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

活動の時間を十分に確保するようにします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

#### 【Learning Objectives】

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Review the content of each lecture. Preparation outside of class time is required for creating and presenting a lesson plan. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive judgment will be made based on 30% of participation in class, 30% of reaction papers, 40% of essay test in class.

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**教育課程論**

川津 貴司

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金6/Fri.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

カリキュラム研究及び学習指導要領の検討をもとに、教育課程の意義や編成の方法を考察するとともに、事例研究や指導計画の立案や評価を実践することを通して、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方について理解する。

**【到達目標】**

資質・能力の育成をめざした教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解している。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」(テキストの内容説明)と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	コンテンツからコンピテンシーへ
第2回	カリキュラムとは	学びの経験のデザイン
第3回	教育内容の選択	教育の目的
第4回	教育内容の組織化	教育内容の選択・配列
第5回	学習指導要領とは	性格及び位置付け
第6回	学習指導要領の変遷	歴史的な展開
第7回	学習指導要領改訂の要点	教育課程編成の目的及び基本原理
第8回	学力論の系譜	学力はどのように問題となってきたか
第9回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方
第10回	社会に開かれた教育課程	教育課程のデザイン
第11回	教育課程と指導計画	指導計画のデザイン
第12回	教育課程と指導計画	学年・学期・単元をまたぐ視点
第13回	カリキュラム評価	P D C A サイクルとカリキュラムの改善
第14回	授業のまとめとテスト	総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

毎回の授業の前にテキストを読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

テキスト (教科書) は指定なし。プリントを配布する。

**【参考書】**

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)

松尾知明『新版 教育課程・方法論－コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

**【成績評価の方法と基準】**

教育課程の意義や編成の方法及びカリキュラム・マネジメントの考え方・進め方を理解したか、という観点から評価を行う。毎回の小レポート (50%)、期末試験 (50%) をもとに総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。

「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。

また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

**【Outline (in English)】**

This class aims to discuss the significance of school curriculum and methods of their development based on the study of curriculum research and the National Courses of Study. Also, the class further examines and explores the ideas and implementations of the curriculum management through case studies, curriculum development, and their evaluation.

Students are able to understand the significance of school curriculum, methods of their developments, and ideas and implementations of the curriculum management for competency building.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育方法論 (ICT活用を含む)

岩本 俊一

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

まず、教育における方法の問題を、教授技術の学として成立するにいたる道筋をたどる中で論じるとともに日本の学校教育における具体的ありかたをいくつかの実践例を取り上げて分析する。さらに情報通信技術の活用を教師の専門性とかかわらせて考察する。

課題等を課した場合には、課題締切後の授業冒等、適宜フィードバックの機会を設ける予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ねらいと概要
第2回	教育方法、ICTの活用と教師の専門性	教師の専門性について考える。 その際、ICTの活用についても留意する
第3回	教育方法とICTの基礎的理論と実践	児童生徒の学びと学習理論についてICTの活用を含めて考える。
第4回	ICT活用の意義と理論	ICTを用いた教育の在り方について考察する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICTの活用	新学習指導要領とICTを活かした資質・能力の育成について論じる
第6回	教育方法と情報活用能力 (情報モラルを含む)	教育方法と情報活用能力について論じる。
第7回	教育目標とICTを活用した授業のデザイン	単元学習活動における目標及び設定について論じる (ICT活用を含む)
第8回	学力と評価の観点 (ICT活用を含む)	ICT活用の観点を含めた評価の考え方・進め方について論じる
第9回	主体的・対話的で深い学びとICTの活用	主体的な学び/対話的な学びについて論じる
第10回	個に応じた指導の工夫とICTの活用	個に応じた指導について考える
第11回	ICT活用を含めた教材の作成・活用	情報機器の基本的な使用方法及び活用方法について
第12回	発問や板書、ICT活用などの指導技術	発問や板書などの指導の基本的技術について論じる
第13回	ICT活用を考慮した学習評価	ICT活用を考慮した評価の考え方・進め方について論じる
第14回	授業のまとめ、テスト	ふりかえりと試験

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

教科書は特に使用しない。

### 【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)、松尾知明『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

### 【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験100%で評価する。  
平常点は加味しない。

### 【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。  
ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

The aim of this course is to help students understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building

#### 【Learning objectives】

Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building

#### 【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to review, such as summarizing the content after the lecture. Time for preparation and review is 2 hours each.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Evaluated only by the final exam(100%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

**教育方法論 (ICT活用を含む)**

松尾 知明

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月4/Mon.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

資質・能力を育成する教育への転換が求められるなかで、教育の現場では教師一人ひとりに授業デザイン力が求められる時代になっている。本授業は、教育の方法や技術のなかに情報通信技術の活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

**【到達目標】**

資質・能力の育成をめざして、教育の方法及び技術、情報通信技術の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

対面で授業を実施し、学習支援システムを活用する。教育の方法及び技術、情報通信技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。授業のなかで課題についてのフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：対面/face to face**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、教育方法と中心的な課題としての情報通信技術の活用	学びのイノベーションの時代
2	教育方法、情報通信技術活用 (学習指導と校務) と教師の専門性	学びのデザイン力をつけるには
3	教育方法と情報通信技術の基礎的理論と実践	学びと学習理論
4	情報通信技術の活用の意義と理論	情報通信技術による教育の革新
5	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	資質・能力の育成に向けて
6	教育方法と情報活用能力	学習活動の構想
7	教育目標と情報通信技術を活用した授業のデザイン教育の内容と学習活動	単元設定の理由、単元の目標単元と指導計画、学習活動の構想
8	学力と評価の観点 (情報通信技術を含む)	評価規準の設定
9	主体的・対話的で深い学びと情報通信技術の活用	思考力を育む

10	個に応じた指導の工夫と情報通信技術の活用	一斉指導から個に応じた指導へ
11	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	学びのツール
12	学習評価と情報通信技術の活用	評価の考え方・進め方
13	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	授業を実践する
14	教育方法と情報通信技術の活用に関する授業まとめ	授業の振り返り、テスト

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業の準備として、教科書の該当する部分や資料を読んでくるとともに、課された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

松尾知明『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

**【参考書】**

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加姿勢 (30%)、課題 (40%)、テスト (30%) 等をもとに総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

全体的話し合いのやり方を工夫をする。

**【Outline (in English)】**

**【授業の概要 (Course outline)】**

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

**【到達目標 (Learning Objectives)】**

Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.

**【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】**

Students will be expected to read the text and materials, prepare a presentation, research teaching materials and write lesson plans.

**【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】**

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (40%) and term-end examination (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育方法論 (ICT活用を含む)

黄 郁倫

単位数：2単位 | 開講Semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションが行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「学び」を問い直す。
第2回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第4回	情報通信技術の活用の意義と理論	ICT教育の背景を紹介する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	ICT教育の理論を紹介する。
第6回	教育方法と情報活用能力	授業におけるICT教育の実践を紹介する。
第7回	教育目標と授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第8回	学力と評価の観点	学力と評価の関係について考える。
第9回	主体的・対話的で深い学び	アクティブ・ラーニングについて考える。
第10回	個に応じた指導の工夫	個別最適化について考える。
第11回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	教材研究とICT機材の活用についてを紹介する。
第12回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	教材研究とICT教育の活用の実践を紹介する。
第13回	学習評価	評価の仕方について考える。
第14回	授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

佐藤学 『教育の方法』 左右社、2010年  
秋田喜代美 『新しい時代の教職入門 改訂版』 有斐閣アルマ、2015年  
文部科学省 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)  
松尾知明 『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』 学文社、2020年。

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %  
ホームワーク 20 %  
期末レポート 40 %

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using ICT technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.

#### 【Learning objects】

Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.

#### 【Learning activities outside of classroom】

This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.

#### 【Grading criteria/Policy】

Attendance and learning attitudes 40%

Assignments 20%

Final report 40%

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育方法論 (ICT活用を含む)

黄 郁倫

単位数：2単位 | 開講Semester：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火2/Tue.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、教育方法の基礎的な理論や概念、ICT活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とともに主にグループディスカッションが行われる。事例は、VTRなども利用しできるだけ具体的に紹介することを心がける。また、毎回授業の際には、振り返りのコメントペーパーの提出を求める。振り返りのフィードバックは、毎回授業の始めの時間で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「学び」を問い直す。
第2回	教育方法、情報通信技術活用と教師の専門性	教師の専門性を探りながら教育方法を考える。
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	教育方法の理論基礎を遡る。
第4回	情報通信技術の活用の意義と理論	ICT教育の背景を紹介する。
第5回	新学習指導要領と教育方法、情報通信技術の活用	ICT教育の理論を紹介する。
第6回	教育方法と情報活用能力	授業におけるICT教育の実践を紹介する。
第7回	教育目標と授業のデザイン	指導案の作成について考える。
第8回	学力と評価の観点	学力と評価の関係について考える。
第9回	主体的・対話的で深い学び	アクティブ・ラーニングについて考える。
第10回	個に応じた指導の工夫	個別最適化について考える。
第11回	教材の作成・活用と情報通信技術の活用	教材研究とICT機材の活用についてを紹介する。
第12回	発問や板書、情報通信機器などの指導技術	教材研究とICT教育の活用の実践を紹介する。
第13回	学習評価	評価の仕方について考える。
第14回	授業のまとめ、テスト	授業のまとめをする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

扱う概念や理論が多岐に亘るため、受講者には、レジュメや参考文献を活用して毎回の復習を丁寧に行うことが求められる。また、授業の内容により、文献の読みや資料の調査が宿題として出される。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

### 【参考書】

佐藤学 『教育の方法』 左右社、2010年  
 秋田喜代美 『新しい時代の教職入門 改訂版』 有斐閣アルマ、2015年  
 文部科学省 「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」(最新版)  
 松尾知明 『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』 学文社、2020年。

### 【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー及び授業への参加姿勢 40 %  
 ホームワーク 20 %  
 期末レポート 40 %

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間と個人の振り返りの時間をバランスを取って保障する。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course aims at providing the basic theory and concept of pedagogical methods as well as the skills of using ICT technology in class in order to make students have the ability to create lesson plans based on the knowledge and skills listed in National Learning Guidance.

#### 【Learning objects】

Students should be able to have knowledge and skills related to educational methods, use ICT for education, and effectively create lesson plans based on National Learning Guidance.

#### 【Learning activities outside of classroom】

This course requires about 4 hours of reviewing and doing assignments after class.

#### 【Grading criteria/Policy】

Attendance and learning attitudes 40%

Assignments 20%

Final report 40%



EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 教育方法論 (ICT活用を含む)

川津 貴司

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：金6/Fri.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育の方法や技術のなかにICTの活用を位置づけ、基礎的な理論や概念、ICTの活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための学習指導案を作成する。

### 【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、教育の方法や技術、ICTの活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、学習指導案を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

毎回の授業は「テキストの講読」という形式で行う。具体的には、学生による「レジュメ発表」(テキストの内容説明)と、グループを作った「話し合い」の二部構成で進める。また学生には、毎回の授業の前にテキストをあらかじめ読み、「小レポート」を作成してきてもらう。

フィードバックの方法としては、毎回の「小レポート」に対して教員からコメントを付して返却する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	教育方法の中心的課題としてのICTの活用
第2回	教育方法と教師の専門性	ICT活用 (学習指導と校務) と教師の専門性
第3回	教育方法の基礎的理論と実践	ICTを活用した児童生徒の学びと学習理論
第4回	ICT活用の意義と理論	ICTを活用した学習指導と校務 (統合型校務支援システムを含む) の意義と理論
第5回	新学習指導要領と教育方法、ICTの活用	情報モラルを含む各教科等での横断的活用
第6回	教育方法と情報活用能力	活動的な学びの組織化 (情報モラルを含む)
第7回	教育目標と授業のデザイン	単元設定の目標 (ICT活用を含む)
第8回	学力の観点	ICTを活用した学力の観点
第9回	主体的・対話的で深い学び	対話的学びとICTの活用
第10回	個に応じた指導の工夫	ICTを活用した個性を生かす方法
第11回	教材の作成・活用	各教科等の特性に応じたICT (情報モラルを含む) の活用
第12回	発問や板書などの指導技術	ICTを活用した指導技術を事例から学ぶ
第13回	学習評価	評価におけるICTの活用
第14回	教育方法とICT活用に関する授業のまとめ、テスト	総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回テキスト (課題) を読み、「小レポート」を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

テキスト (教科書) は指定しない。プリントを配布する。

### 【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」「教育の情報化に関する手引き」(最新版)  
松尾知明『新版 教育課程・方法論-コンピテンシーを育てる学びのデザイン』学文社、2018年。

### 【成績評価の方法と基準】

教育の方法及び技術、ICT及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、単元指導計画を効果的に作成することができるか、という観点から評価を行う。  
毎回の小レポート (50%)、期末試験 (50%) をもとに総合的に評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生さんどうしの意見交換を大切にし、「話しやすい」環境づくりを心がけています。  
「他の学生さんの考え・意見をいろいろ聞いてみたい」という人にも向いている授業です。

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【その他の重要事項】

授業の進め方などについては、受講者と相談のうえ最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。  
また前述のとおり、「話し合い」を積み重ねていく授業なので、継続的に参加できる人が受講してください。

### 【Outline (in English)】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

Students are able to understand basic concepts, ideas and application regarding education methods and techniques, information communication technology (ICT) and teaching materials, and students are further able to design lesson plans effectively for competency building.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館演習

坂本 旬

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
 曜日・時限：水5/Wed.5 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会における新しい図書館像の探究とメディア情報リテラシーの理解

【到達目標】

- (1)ユネスコのメディア情報リテラシー教育の基本的な考え方を理解する。
- (2)メディア情報リテラシー・カリキュラムに基づいた実践を行うことができる。
- (3)ユネスコのメディア情報リテラシーの理念・運動にもとづいた公共図書館・学校図書館像を構想することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ユネスコの日本語版と英語版カリキュラムをテキストとして用いてディスカッションを行う。また秋期では、一人ひとりがカリキュラムにもとづいたワークショップを企画・実施し、図書館司書としてのワークショップ実践力を身につける。  
 ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。  
 ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。  
 ・課題等の提出・フィードバックはHULiCを通じて行う予定。  
 ・オフィス・アワーで、課題(試験やレポート等)に対して講評する。  
 ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と方法の解説
2	授業支援システムの使い方	司書課程専用授業支援システムHULiCの使い方を解説する
3	デジタル・インクルージョンの概念	デジタル・インクルージョン概念の枠組みについて学ぶ
4	図書館の包摂性と読書バリアフリーの必要性	図書館の包摂性と読書バリアフリー、情報アクセシビリティを学ぶ
5	メディア情報リテラシーの基礎理論	メディア情報リテラシーに関する基礎理論を学ぶ
6	メディアと情報の政策	メディア情報リテラシーにかかわる政策の見通しについて学ぶ
7	メディアと情報に関する基礎理解	民主主義社会におけるメディアと情報に関する基礎知識を学ぶ
8	メディアと情報の評価	メディアと情報の評価方法について学ぶ
9	メディアと情報の創造と活用	メディアと情報の創造や活用方法の基礎を学ぶ
10	司書・司書教諭の能力	実践の核になる司書や司書教諭の能力について学ぶ
11	メディア情報リテラシーと学校図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと学校図書館の役割について学ぶ

12	メディア情報リテラシーと公共図書館	ユネスコのメディア情報リテラシーと公共図書館の役割について学ぶ
13	図書館におけるデジタル・ストーリーテリングの必要性	図書館におけるデジタル・ストーリーテリング実践の有効性を学ぶ
14	デジタル・ストーリーテリング制作実習	デジタル・ストーリーテリング制作の実際を体験する
15	秋学期ガイダンス	春学期の振り返りと秋学期授業のガイダンス
16	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習	シチズンシップ、表現・情報の自由と生涯学習について学ぶ
17	ニュース、メディア倫理と情報倫理	ニュース、メディア倫理と情報倫理について学ぶ
18	メディアと情報のリプレゼンテーション	メディアと情報のリプレゼンテーションについて学ぶ
19	メディアと情報の言語	メディアと情報の言語について学ぶ
20	情報メディアと広告	広告について学ぶ
21	新旧のメディア	新旧のメディアについて学ぶ
22	インターネットの機会と挑戦	インターネットの機会と挑戦について学ぶ
23	情報リテラシーと図書館スキル	情報リテラシーと図書館スキルについて学ぶ
24	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習	コミュニケーション、メディア情報リテラシーと学習について学ぶ
25	メディアの技術	メディアの技術について学ぶ
26	デジタル・ブックトーク制作の方法	デジタル・ブックトークの方法を学び、プランを作る
27	デジタル・ブックトークの制作	デジタル・ブックトークを制作する
28	デジタル・ブックトークの発表	制作したデジタル・ブックトークを発表する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

司書課程専用授業支援システム(HULiC)を用いた事前学習および宿題をする。  
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)

【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』法政出版局(2014年)  
 寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%、提出課題30%、平常点40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業を適宜導入することで、多様な専門家をゲストとして授業に呼ぶことができた。

【学生が準備すべき機器他】

ノートPCを用意すること。

【その他の重要事項】

実習として映像制作(デジタル・ストーリーテリングおよびデジタル・ブックトーク)を行う。

【授業中に求められる学習活動について】

A,B,C,D,E,F,G,H

【Outline (in English)】

Exploration of the new image of libraries in modern society and an understanding of media information literacy.

- (1) To understand the basic concept of media information literacy of UNESCO.
- (2) To be able to practice based on the media and information literacy curriculum.
- (3) To be able to conceptualize the image of public libraries and school libraries based on UNESCO's media and information literacy principles and movements.

The goal is to understand UNESCO's Media and Information Literacy (MIL), to be able to implement practices based on the MIL curriculum, and to be able to envision a public or school library based on MIL.

Grading criteria are as follows. 30% for quiz, 30% for report, and 40% for attitude.

Students will be required to do prep work and homework prepared in advance.

For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館演習

村上 郷子

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
曜日・時限：土1/Sat.1 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期は、講義のほか、グループによる研究調査とその発表を行い、公共図書館を取りまく様々な課題について理解を深める。秋学期は、グループによる公共図書館へのフィールド調査やプレゼンを行うことにより、公立図書館の現状と課題について総合的に理解する。

【到達目標】

春学期は、講義のほか、学生による研究発表を行うことにより、公立図書館の現状と課題について理解することができる。秋学期は、東京23区中央図書館を中心に、グループによる対面・参与調査を行い、個別事例に基づく図書館の現状と課題について総合的に理解することができる。また、プレゼンにおける配付資料、プレゼン資料、おしゃべり原稿(シナリオ)などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

春学期は、指定管理者制度、司書の雇用形態、多様なサービスなどについての調査報告を行い、調査内容に関する報告書を提出する。その際、各項目の課題について指摘し、課題の解決策・提案等も提示すること。

秋学期は、グループによる現地調査を行うことにより、図書館の実際についての理解を深め、その調査結果のプレゼンテーションを行う。

春・秋学期、それぞれ授業で学んだことをまとめた学期末レポートを提出する。また、授業の一環として、協働学習およびメディア情報リテラシーに関するアンケート調査を実施する。自身のメディア情報リテラシーのスキル・能力について自己評価をすることによって、どのスキル・能力がどの程度伸びたのかを客観的にみるためのものである。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業及び授業用グループウェア(HULiC)の利用ガイダンスについて
2	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度(1)
3	公立図書館の現状と課題①	指定管理者制度(2)
4	公立図書館の現状と課題②	市民との協働(1)
5	公立図書館の現状と課題②	市民との協働(2)
6	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態(1)
7	公立図書館の現状と課題③	図書館職員の役割と労働形態(2)
8	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲(1)

9	公立図書館の現状と課題④	知的自由と検閲(2)
10	グループ活動①	グループによる研究発表の準備①
11	グループ活動②	グループによる研究発表の準備②
12	グループ活動③	グループによる研究発表の準備③
13	学生による研究発表①	2つのテーマについて、発表する。
14	学生による研究発表②	2つのテーマについて、発表する。
15	秋学期授業ガイダンス	公立図書館の比較概要
16	東京23区中央図書館の動向①	個人・グループの調査対象図書館の選定
17	東京23区中央図書館の動向②	調査対象図書館及びグループの確定、アポの取り方
18	調査計画案作成①(グループ)	インタビューの極意、調査テーマの決定
19	調査計画案作成②(グループ)	調査でのインタビュー項目の決定、現地調査の結果提出
20	発表順の抽選	個人によるグループ活動報告書提出①
21	グループ調査進行状況チェック①	配付資料作成の極意
22	グループ調査進行状況チェック②	プレゼン資料作成の極意
23	グループ調査進行状況チェック③	プレゼンの極意、インタビュー調査の結果提出
24	グループ調査進行状況チェック④	グループ活動
25	リハーサル(予備)	グループによる配付資料提出、プレゼンのリハーサル
26	グループ・プレゼンテーション①	プレゼンの実践と評価
27	グループ・プレゼンテーション②	プレゼンの実践と評価
28	公共図書館の現状と課題・グループ活動総括	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

春学期は、研究発表の準備や研究課題について、グループで十分に話し合いの時間を確保すること。

秋学期は、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるので、受講生には授業への積極的な参加とリーダーシップが求められる。また、授業時間外のグループ活動が入ってくることを了承しておくこと。

授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。グループ活動では、HULiCだけではなく、簡単な確認のためのコミュニケーションツールとしてLINE等を含むSNSも積極的に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】なし。

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション(配付資料、プレゼン資料等)(春学期15%+秋学期15%=合計30%)
- (2) 個人の課題・アンケート+個人の覆面調査など(20%)
- (3) 課題研究に関する報告書+春・秋学期末レポート(50%)

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中10回以下）のものは、「(1) グループ活動・授業への参加と貢献度、及びプレゼンテーション」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

#### 【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives) : In the spring semester, students will deeply understand the current trends and various issues surrounding public libraries by conducting research investigations in groups. In the fall semester, students are required to visit one central public library in the 23 wards of Tokyo, interview librarians with group members, and make presentations together in order to compare and evaluate public libraries and discover current situations, various issues of the public libraries, and the ways of solving the problems.

(Learning activities outside of classroom) :In the spring semester, students should ensure that there is sufficient time for group discussions on research topics and preparation for research presentations.

In the fall semester, the main focus will be on group and individual field research and group activities. Thus, students are expected to actively participate in class and take a leadership role. Students should also be aware that group activities outside of classroom will be required.

Classroom groupware (HULiC) shall be used as a communication tool for both faculty and students. In group activities, students should actively use not only HuliC but also SNS including LINE, etc. as communication tools for simple confirmation.

The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : (1) Group activities, class participation and contribution, and presentations (handouts, presentation materials, etc.) (Spring semester 15% + Fall semester 15% = 30% total)

(2) Individual assignments, questionnaires + individual field research, etc. (20%)

(3) Report on the research project + reports at the end of spring and fall semesters (50%)

FR1200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館演習

竹之内 禎

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：土4/Sat.4 | 配当年次：2~4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本科目は、図書館員の倫理綱領「第5 図書館員は常に資料を知ることにつとめる」をモットーに、春期のテーマを「生きる意味の発見・実現に資する本と図書館の世界」、秋期のテーマを「図書の世界と教養の形成」といたします。春期は、本と図書館の知識を「生きる意味」の発見・実現に生かす「実践知」の基盤を身に着けることをめざします。秋期は、西洋を中心に、文学史、思想史、学問史における重要著作をおさえつつ、古代ギリシャから近現代までの主要な書物を取り上げ、教養の基盤を形成することをめざします。年間を通じて、学生による選書と書籍紹介を毎回の課題とし、話題を共有していきます。大人の心に効く絵本を紹介する絵本セラピーの方法も学びます。総合的に、教養の読書を自分自身の生涯にわたる人格形成の力として高めていく基礎を培うことをめざします。なお、進路として司書をめざす方のサポートも行います。

【到達目標】

- (1) 司書課程で学んだ情報リテラシー (問題解決のための情報資源活用能力) を応用して、さまざまな問題を抱えながら生きる人々が創造価値、体験価値、態度価値の観点から「生きる意味」を見出し充実した生活が送れるための行動・実践のレベルでの支援に結び付けられること
- (2) 生涯を通じて自分自身の人格形成に資する学びを続けるために、本の世界への知識と関心を広めること。特に西洋を中心とした文学史、思想史、学問史における重要著作の概要を説明できるようになること。
- (3) 絵本セラピーなどのブックコミュニケーションの手法を学び、大人の読書を楽しみながら、教養の読書を習慣化する自分なりの方法を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト『生きる意味の情報学』から論点を抽出し、関連する話題と書籍・映像メディア等を紹介しあい、意見交換を行います。
- ・図書の歴史については、図書館やメディアの歴史とあわせて知識として教授するとともに、毎回、関連情報を調べる課題を課します。
- ・ブックコミュニケーションについては、古今東西の書物を題材に、本だけでなくメディアミックス作品 (漫画、アニメ、映画等) も視野に入れ、作品の相互紹介と意見交換をしていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス 生きる意味の思想と実践：フランクル・ロゴセラピーの世界	テキスト第1章の論点をまとめ、ヴィクトール・E・フランクルの「生きる意味」の思想について、創造価値・体験価値・態度価値の観点から学ぶ。
第2回	自己実現から意味実現へ：ロゴイストのすすめ LIFEの核はIF	テキスト第3章前半の論点をまとめ、「やりたいこと」と「意味あること」の違い、PTSDとPTGの違いについて学ぶ。コラム3を参考に、人生のIFについて考察する。

第3回	人生の岐路に向き合う	テキスト第3章後半の論点をまとめ、仕事の選び方、仕事に取り組む姿勢について学ぶ。コラム4を参考に「自分にあるもの・できることシート」を作成する。
第4回	声に乗せて届ける	テキスト第4章とコラム5を参考に、「声に乗せて届ける」活動をしているYouTube等の動画 (朗読など) を探索する。著作権についても考慮する。参考動画：『この声をきみに』(NHKオンデマンドで有料配信)
第5回	ボランティアを通じた創造価値	テキスト第5章を参考に、録音図書及びバリアフリー情報資源について学び、ボランティアや寄付を通じた創造価値について考察する。
第6回	見えない世界を生きる原動力	テキストの第6章を参考に、視覚障害者にとっての生きる意味について考察する。参考文献：穴澤雄介『見えなくなったら希望が見えた』、ヨシタケシンスケ『みえるとかみえないとか』、伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』。
第7回	絵本セラピーとの出会い：言葉の奥にある compassion	テキスト第7章の論点をまとめ、絵本セラピーの方法と考え方について学ぶ。絵本セラピーのプログラムを作成する。
第8回	読書の体験を伝える：読書感想文とビブリオバトル	テキスト第8章の論点をまとめ、身近な書籍でミニ読書感想文を作成し、動画を視聴してビブリオバトルの実際について学ぶ。
第9回	精神次元を体験する旅：消費の観光を超えて	テキスト第9章の論点をまとめ、精神次元を体験する旅の論点について学ぶ。コラム9, 10を参考に旅に関する書籍・映画・ドラマを探索する。
第10回	登山は哲学とともに ネット・ゲーム依存は子どもの SOS	テキスト第10章の論点をまとめ、ネット・ゲーム依存と読書の効用について検討する。
第11回	喪失体験と意味の回復	テキスト第11章の論点をまとめ、喪失体験と意味の回復について、悲哀と抑鬱の違いを中心に学ぶ。また、グリーフケアに関連する書籍を紹介しあう。
第12回	それでも人生にイエスと言う	テキスト第12章とコラム12を参考に、不可避の運命に対して意味を見出す姿勢、苦悩する人に寄り添う姿勢を学ぶ。
第13回	共創・共感・共苦のメディア	テキスト終章の論点をまとめ、共創・共感・共苦のメディアの考え方について、図書館を例として検討する。
第14回	意味発見シート 暮らしの風景を生きる	第2章を参考に、「意味発見シート」に取り組む。「暮らしの風景を生きる」をテーマにまちづくり (シティプロモーション) の論点について学ぶ。「暮らしの風景」を写真におさめる。観光資源としての図書館について考える。
第15回	古代ギリシャの著述家と著作	ギリシャ哲学、ギリシャ悲劇ほか
第16回	古代アレクサンドリア図書館①	古代の知識を集積したプトレマイオス朝エジプトの王立図書館の歴史
第17回	古代アレクサンドリア図書館②	古代アレクサンドリア図書館を舞台とした作品

第18回	古代ローマの著述家と著作	キケロ、カエサル、セネカ、プリニウスほか
第19回	キリスト教と聖書	日本語版・英語版・ドイツ語版の比較
第20回	中世前期の三つの世界：西欧、東ローマ、イスラム世界	西欧の写本づくりとビザンツの書物、イスラムの科学と文学
第21回	イスラム世界の著述家と著作	イスラム科学、アラビアン・ナイト
第22回	中世後期からルネサンス期の著述家と著作	普遍論争、騎士道物語、ダンテ、ペトルルカ、シェイクスピア
第23回	ドイツの著述家と著作	ドイツ史と作品：ファウスト、モモ、ドイツ観念論、実存思想
第24回	フランスの著述家と著作	フランス史と作品：星の王子さま ほか
第25回	イギリスの著述家と著作	英国史と作品：ガリバー旅行記、不思議の国のアリス ほか
第26回	アメリカ合衆国の著述家と著作	米国史と作品：老人と海、アルジャーノンに花束を ほか
第27回	北欧諸国の著述家と著作	アンデルセン童話、ムーミン ほか
第28回	まとめ	教養の読書

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のテーマに関連した図書を探して、紹介する準備をしてください。本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書『生きる意味の情報学 共創・共感・共苦のメディア』竹之内禎編著 東海大学出版部 2022.3

※通常価格だと高価なため、書店経由ではなく著者割で直接販売いたします。最初の3回の授業に必要な内容はPDFでも配布します。

#### 【参考書】

NHKオンデマンドで配信されている番組「100分de名著 フランクル『夜と霧』」「この声をきみに」の視聴をお勧めしています（個別契約が必要です）。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の課題（50％）

授業内での報告及びコメント（50％）

#### 【学生の意見等からの気づき】

テーマによって外部のゲスト講師を招く可能性があります。また、長期休み中に図書館や大型書店、絵本専門店等の見学（任意）も行えればと考えています。

#### 【その他の重要事項】

本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが望ましいです（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

#### 【Outline (in English)】

##### Course outline

Ethical Code of Librarians by Japan Library Association says: 5. Librarians always make effort to know library resources. The theme of this class is "the world of books and libraries for life" (spring semester) and "history of books and building up knowledge" (autumn semester).

In this class, we quest the way to forming our identity by reading and library utilization.

##### Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) By applying the information literacy (the ability to use information resources for problem solving) learned in the librarian course, people living with various problems will find "meaning of life" from the perspective of creative value, experience value, and attitude value. to lead a fulfilling life, and to be linked to support at the level of action and practice

(2) To spread knowledge and interest in the world of books in order to continue learning that contributes to the formation of one's own personality throughout life. To be able to explain the outline of important works in the history of literature, the history of thought, and the history of scholarship, especially in the West.

(3) Learn book communication methods such as picture book therapy, and establish your own method of making reading habits while enjoying adult reading.

##### Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

##### Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on the short reports (50%), in-class contribution including making presentations and comments (50%).

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館サービス概論

栗原 智久

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

図書館サービスとは？ みなさんの思うかべるものは？

この授業では、図書館サービスの意義・種類・目的・方法・目標・評価などについて学習します。

実例をもとに、また図書館の種別・属性によるところからもみてみます。

みなさんのアイデアもグループディスカッションなどを通じて掲げてもらい、考察します。

### 【到達目標】

①図書館サービスを理解する。

②学習したことをもとに、自ら図書館サービスをこなすことができる知識、また図書館サービスを考案できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

対面授業による講義が基本ですが、みなさんに能動的に考えてもらう時間、アイデアを出してもらう時間も設けます。(提出・発表)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	図書館におけるサービス	イントロダクションとして、みなさんが思いつくサービスを掲げてもらいます。その上で、図書館サービスの意義・種類・目的・方法などについて考えます。
第2回	情報サービス	図書館における情報サービスについて、レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントアウェアネスサービスをはじめとして、説明します。
第3回	閲覧サービス	資料提供サービスとしての閲覧サービスについて学習します。閲覧のための空間提供についてもふれます。
第4回	複写サービス	資料提供サービスとしての複写サービスについて学習します。複写に関連する著作権についてもふれます。
第5回	貸出サービス	資料提供サービスとしての貸出サービスについて学習します。自館と他館における館間貸借についてもふれます。
第6回	情報提供サービス	レファレンスサービスをコアに、情報を提供するとはどういうことか、学習し、考えます。
第7回	児童・生徒・学生サービス	調べ学習、総合的な学習の時間などに応えるサービスについて、実例をもとに、具体的にみていきます。
第8回	発信型サービス	受動的ではなく能動的なサービスとしての発信型サービスについて、アナログ型・デジタル型ともにみていきます。

第9回	アウトリーチサービス	通常サービスを利用するのがむずかしい人(ところ)へのサービスについて考えます。
第10回	講座・セミナー	実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第11回	連携・協力サービス	博物館など類縁機関との連携・協力、内部連携・協力について、実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第12回	図書館(情報)利用教育	図書館を、図書館の情報・サービスを、利用させる情報リテラシーについて学習し、考えます。
第13回	図書館サービスのこれから	実例をもとに、ユニークなサービスをみてみます。評価します。これからの図書館サービスについて考えます。
第14回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。自分で気になる図書館を、訪問したり、ホームページで確認したりするなどして、授業で学習したことと照らし合わせて知識としての定着をはかってください。

実際に、宿題(課題レポート)で、図書館サービスを調査します。(提出)

毎回、準備学習に2時間、復習に2時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

毎回テキストプリントを配布します。

### 【参考書】

授業時に複数紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点(25%) 提出物(25%) 期末試験(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

みなさんが図書館に関心があり、そのサービスに興味があることはわかっています。自らそれを積極的に調べたいような学習内容を目指します。

### 【その他の重要事項】

図書館司書課程必修科目です。

博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

### 【Outline (in English)】

**Course outline** : The aim of this course is to help students understand Library Service.

**Learning Objectives** : By the end of the course, students should be able to do Library Service and plan for Library Service.

**Learning activities outside of classroom** : Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

**Grading Criteria / Policies** : In-class performance(20%) Report(30%) Term-end examination(50%)



FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 情報サービス演習

田中 順子

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

### 【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

Students learn about how to respond user's need.

First, go to library and research various books,  
Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。

学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ② 論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③ トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索

14	情報検索基礎演習 (7) /春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実際 (1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実際 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実際/秋学期のまとめ	総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

使用しません。

### 【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習 (課題に対する回答の提出内容) によって成績を評価します。配分は発表20%、演習80%です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の準備 (課題の回答) が大変だと意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.

Then in the class, they present their research results and submit research reports.

Students will spend more than four hours to research various books for making report.

After class they need to study about the course content.

Research reports(80%)

Presentation about their research results in the class.(20%)

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 情報サービス演習

田中 順子

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
曜日・時限：土4/Sat.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために、情報を提供するサービスのことをいいます。現代の図書館では重要なサービスに位置づけられています。そこで、この授業では、演習をとおして情報サービスの意義と実務について学びます。

### 【到達目標】

情報サービスの設計から評価に至る一連の業務について、実践的な学習をとおして理解を深めます。具体的には、情報サービスの基本的な業務であるレファレンスサービス、情報検索サービスに関する実践力を身につけ、さらに図書館が積極的に情報を発信するスキルを習得します。

Students learn about how to respond user's need.

First, go to library and research various books,  
Then, they present their research results and learn how to express them effectively.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

情報サービスの業務に関し実践的な力を養うため、レファレンスサービス、情報検索サービスを中心に、レファレンス・コレクションの評価、レファレンス・インタビューの技法、図書館利用教育プログラムづくりなどについての演習を行います。また、情報発信型サービスについても学びます。

学生の調査結果の発表と提出物に対し、適切なアドバイスを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/情報サービスの概要	授業内容と進め方について/情報検索の基礎
2	情報検索の基本 (1)	コンピュータ検索の技術 ① OPAC検索の基礎と応用
3	情報検索の基本 (2)	コンピュータ検索の技術 ② 論理演算
4	情報検索の基本 (3)	コンピュータ検索の技術 ③ トランケーション
5	情報サービスの設計	情報サービスの態勢づくり
6	情報資源の探し方 (1)	情報資源の特徴とアクセスの方法
7	情報資源の探し方 (2)	情報資源の活用、インターネット上の情報資源
8	情報検索基礎演習 (1)	図書・図書情報に関する検索
9	情報検索基礎演習 (2)	雑誌・雑誌記事に関する検索
10	情報検索基礎演習 (3)	新聞・新聞記事に関する検索
11	情報検索基礎演習 (4)	法律、外交資料の検索
12	情報検索基礎演習 (5)	レファレンスブック検索
13	情報検索基礎演習 (6)	統計の検索

14	情報検索基礎演習 (7) /春学期のまとめ	情報検索、回答結果の評価
15	レファレンス・インタビュー (1)	インタビューの技法
16	レファレンス・インタビュー (2)	質問に対する回答の方法
17	情報検索演習 (1)	「ことば」に関する課題と回答
18	情報検索演習 (2)	「ひと・団体」に関する課題と回答
19	情報検索演習 (3)	「とき」に関する課題と回答
20	情報検索演習 (4)	「ところ」に関する課題と回答
21	情報検索演習 (5)	「本・作者・作品」に関する課題と回答
22	情報検索演習 (6)	「もの・事柄」に関する課題と回答
23	情報検索演習 (7)	「雑誌・新聞」に関する課題と回答
24	情報検索演習 (8)	書誌に関する課題と回答
25	情報検索演習 (9)	インターネットで調べられない質問に対する調査
26	情報発信型サービスの実践 (1)	情報発信型サービスを行っている事例について解説
27	情報発信型サービスの実践 (2)	地域の特徴を生かした情報発信型サービスの実情
28	図書館利用教育の実践/秋学期のまとめ	総括

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容を復習し、与えられた課題について、図書館などで文献調査に取り組みます。本授業のための調査・復習時間は各4時間以上を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

使用しません。

### 【参考書】

参考書などは、適宜授業のなかで紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

情報サービスに関する発表、演習 (課題に対する回答の提出内容) によって成績を評価します。配分は発表20%、演習80%です。授業に対する積極的な貢献度が認められる場合、最終評価の参考にします。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業の準備 (課題の回答) が大変だと意見が見られますが、その努力、積み重ねが必要なることを説明し、学生が課題調査に取り組めるように指導していきます。

### 【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and importance of information services on modern libraries. It also enhances the development of student's skill in information retrieval.

Before each class meeting, students will go to library and research various books to answer user's need.

Then in the class, they present their research results and submit research reports.

Students will spend more than four hours to research various books for making report.

After class they need to study about the course content.

Research reports(80%)

Presentation about their research results in the class.(20%)

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 情報サービス演習

菅原 真悟

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly  
曜日・時限：月6/Mon.6 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報サービスとは、利用者の情報ニーズに応じ、その問題解決のために必要な情報を提供するサービスのことで、現代の図書館の重要なサービスと位置づけられている。この授業では、演習を通して次の2点を主に扱う。

- 1.情報源(データベース)を検索し回答する方法を学ぶ
- 2.発信型情報サービスのためのウェブサイト・データベースを構築する方法を学ぶ

### 【到達目標】

利用者の質問に回答し、回答と回答プロセスをデータベース化できるようにする。利用者教育プログラムの構築ができるようになる。発信型情報サービスのために必要なICTの基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

- ・利用者の質問に回答する方法を学ぶ。情報源として、事典、書誌などの資料や、データベース、インターネット情報などを使えるようにする。模擬的な問答を演習に用いる。
- ・データベースの使い方について、利用者教育を想定した発表を行う演習を取り入れる。
- ・発信型情報サービスのためのウェブサイト作成、データベース構築を学ぶ。
- ・図書館の情報サービスについて調査し発表する課題を課す。
- ・毎回の授業で、授業の振り返りを掲示板に投稿する時間を設ける。
- ・授業の初めに、前回の授業で提出された掲示板への感想・コメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。また、必要に応じて掲示板でも個々にフィードバックする。
- ・課題等の提出・フィードバックは「HULiC」を通じて行う。
- ・発表課題では、すべての発表について質疑応答を通じたフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：情報サービスとは	図書館の情報サービス。利用者質問の種類と対応。利用者へ回答する際に注意すべき点。
第2回	図書検索(1)	法政大学図書館OPACの使い方。
第3回	図書検索(2)	検索演算子を使った検索演習。
第4回	図書検索(3)	検索式を用いた検索方法。NDL-OPAC。
第5回	情報サービス(1)	情報サービスの現状。
第6回	情報サービス(2)	レファレンス事例データベース。
第7回	図書館に関する最新情報を探す	カレント・アウェアネスの活用方法。
第8回	論文検索(1)	CiNiiを使った論文検索(基礎)。
第9回	論文検索(2)	CiNiiを使った論文検索(応用)。
第10回	横断検索・連想検索	情報を横断的に探す方法。連想検索。
第11回	雑誌記事検索	MAGAZINE プラス・大宅壮一文庫などのデータベースの活用。
第12回	新聞記事検索	新聞社のデータベースの活用。
第13回	さまざまなデータベースを使う(1)	辞書・事典・歴史・地図検索。

第14回	さまざまなデータベースを使う(2)	統計・議会情報・法令検索・判例検索などのデータベースの活用。
第15回	春学期のまとめ	春学期の振り返りとまとめ。
第16回	ウェブ検索	ウェブで情報を探す。検索エンジンの仕組み。
第17回	人物情報検索	人物情報について調べる方法。
第18回	特許検索	特許や商標等の知財情報を調べる方法。
第19回	発信型情報サービス	これまでの情報サービスと発信型情報サービスの比較。
第20回	理系論文検索(1)	シソーラスを用いた検索。科学技術系論文を探す。
第21回	理系論文検索(2)	医学系論文を探す。
第22回	SNS演習	図書館とソーシャルメディア。
第23回	発表会(1)発信型情報サービスの現状	図書館の発信型情報サービスについて、個人またはグループで調べた内容を発表。CMSと図書館サイト構築の現状。
第24回	CMS演習(1)	CMSと図書館サイト構築の現状。
第25回	CMS演習(2)	図書館サイトのコンテンツ分析。
第26回	CMS演習(3)	CMS(NetCommons)を用いた図書館サイトの構築演習。
第27回	CMS演習(4)	グループでレファレンス演習。レファレンス事例データベースの構築。
第28回	発表会(2)新しい発信型情報サービス	新しい発信型情報サービスについて、個人またはグループで発表。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

### 【テキスト(教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業でプリントを配布します。

### 【参考書】

講義の中で随時指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

発信型情報サーブについて、グループまたは個人発表 30%  
小レポートの提出、データベース演習での発表 40%  
授業内演習への参加(授業への貢献) 30%  
小レポート・発表の資料等はすべて「HULiC」へアップロードして提出すること。

### 【学生の意見等からの気づき】

情報サービスについての理解を深めるために、演習やグループ学習の時間を増やします。利用者教育についての理解を深めるために、データベース講習会を想定した演習を行います。

### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム(<https://hoppii.hosei.ac.jp/>)のほかに、司書課程専用の学習支援システム「HULiC」(<http://lc.i.hosei.ac.jp/>)も使います。

### 【その他の重要事項】

情報実習室で授業を行うため、人数超過の場合は抽選となります。必ず第1回目の授業に出席すること。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course deals with (1) Learn how to search information sources (databases)a and (2)Learn how to build website and database for outgoing information service.

#### 【Learning Objectives】

It will be possible to answer user's questions and make a database of answers. Students acquire the basic knowledge of ICT necessary foroutgoing information services in libraries.

#### 【Learningactivities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Two presentations: 30%、Short reports and presentations:  
40%、in class contribution: 30%

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館情報資源概論

小黒 浩司

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多様な図書館情報資源について、形態別、主題別の特性の概略を学習する。また図書館情報資源の収集と選択、評価、保存など、図書館における情報資源の管理の実際を学ぶ。加えて、代表的な図書館情報資源である図書や雑誌についての理解を深めるために、その流通事情などについても学ぶ。

### 【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで学生が、図書館情報資源に関する基礎的な知識を学び、その収集、保存のあり方などについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では主要な図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では図書館情報資源の維持・管理の手法や意義などについて概説する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方についてのガイダンス	授業の進め方、成績評価などについて、オンライン形式で説明する。
第2回	図書館情報資源とは何か	図書館情報資源について、図書館法など関連法規の上から説明する。
第3回	図書館情報資源の種類	『日本目録規則 1987年版改訂3版』の種類、並びに同規則2018年版の機器種別などによって、図書館情報資源の概略を説明する。
第4回	図書・逐次刊行物	図書と逐次刊行物について概説する。
第5回	視聴覚資料・電子資料	視聴覚資料と電子資料について概説する。
第6回	図書館情報資源の選択と収集	図書館における資料選択と収集の形態について概説する。
第7回	蔵書評価	図書館における蔵書評価の種類などについて概説する。
第8回	蔵書管理	図書館における蔵書管理の技法などについて概説する。
第9回	図書館情報資源の更新	図書館における資料の更新の意義などについて概説する。
第10回	資料保存	図書館における資料保存のあり方などについて概説する。
第11回	資源共有	図書館情報資源の収集と保存の協力について概説する。

第12回	資料選択の自由	図書館における資料収集と選択の自由について概説する。
第13回	出版流通	日本の出版流通の現状を、メディア別ならびに流通過程から概説する。
第14回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外の学習は、準備学習・復習各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトのURLなどを掲載するので、活用してほしい。

### 【テキスト (教科書)】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

### 【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点(80%)に、授業への参加・貢献度(20%)を加えて評価する予定である。

ただし新型コロナウイルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに参考文献などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること(kohji.oguro.58@hosei.ac.jp)。

### 【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること(kohji.oguro.58@hosei.ac.jp)。

### 【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces the characteristics of various library information resources.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.

[Learning activities outside of classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, contribution: 20%

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館情報資源概論

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

### 【到達目標】

- ・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の種類と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。
- ・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。
- ・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。
- ・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア(HULiC)利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物(雑誌、新聞)、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料(灰色文献、政府刊行物、地域資料等)
6	メディアの発展史① (紙の発明) 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート 1
7	メディアの発展史② (印刷革命(1)木版・活版印刷)	木版印刷・活版印刷の歴史

8	メディアの発展史③ (印刷革命(2)印刷物の制作システム)	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論(選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8)

### 【参考書】

岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論 (現代図書館情報学シリーズ)、2020、樹村房

### 【成績評価の方法と基準】

- (1) 毎回の確認クイズ (30%)、(2) 2回の小レポート (30%)、(3) 学期末試験 (40%) によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

### 【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.

Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館情報資源概論

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

印刷資料、非印刷資料および電子資料やネットワーク情報源からなる図書館情報資源全般についての基本的な知識や概念について総合的に学ぶ。

### 【到達目標】

・図書館資料の基礎的な学習としてのメディアの歴史、資料の類型と特質、資料の収集と保存、生産、印刷、出版・流通過程などを総合的に理解することができる。

・「紙の博物館」及び「印刷博物館」に実際に行き、実物を見たり触ったりすることにより、図書館資料についての体験的・身体的造詣を深めることができる。

・現地での見学から得られた知識や体験を基にした小レポートを書くことにより、授業を通じて得られた知識や体験を身体化し、より確実にすることができる。

・授業の初めに、前回の授業の簡単な確認クイズを行うことにより、知識を定着することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、資料の構造や歴史、現代社会における図書の出版・流通過程などの基礎的なコンセプトについて、講義だけではなく、紙の博物館や印刷博物館などへの実地見学と併せて学習する。

マルチメディアスタジオを利用した講義が中心であるが、適時ビデオ教材の視聴やグループディスカッションなども取り入れる。また、授業内外で授業用グループウェア(HULiC)を教員及び学生同士のコミュニケーションツールとして活用する。

毎回授業の初めに、前回の授業の確認クイズを行う。確認クイズのフィードバックは確認クイズ回収後直ちに行い、知識の定着を図る。

アンケート調査やグループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	図書館資料の意義と知的自由	グループウェア(HULiC)利用ガイダンス 図書館資料の定義と類型
2	印刷資料	図書、逐次刊行物（雑誌、新聞）、小冊子、地図等
3	非印刷資料	点字資料、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料
4	電子資料	図書のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版、ネットワーク情報資源等
5	資料特論	専門資料及び特殊資料（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）
6	メディアの発展史①（紙の発明） 紙の博物館見学	情報と記録化、紙の定義、製紙技術の伝播等 小レポート 1
7	メディアの発展史②（印刷革命(1)木版・活版印刷）	木版印刷・活版印刷の歴史

8	メディアの発展史③（印刷革命(2)印刷物の制作システム）	印刷物の制作システム、主な印刷の種類、印刷の用紙
9	図書の出版流通のしくみ	出版流通経路、業界三位一体の構図、小売業の現状と流通の仕組み、再販売価格維持制度等
10	図書館資料と知的自由、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源 印刷博物館見学	図書館の自由、知る権利、人文・社会科学・科学技術・生活分野の情報資源とその特徴 小レポート 2
11	蔵書論、蔵書管理	蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新、蔵書の評価、除籍と廃棄、資源共有など
12	図書館資料コレクション構築の理論(選書)	選書の意義、選書論、選書と予約、選書方法、選書のための情報源など
13	図書館資料の受入と資料の組織化、書庫管理	受入・登録業務、資料の装備、予算管理、書庫管理の意義、資料の保存と修復、メディア変換など
14	総まとめ	筆記試験・まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、テキストの該当頁を事前に必ず読んでおくこと。また、授業のレジメを事前にダウンロードし、空欄を埋めておくことが望ましい。

「紙の博物館」「印刷博物館」への実地見学については、時間帯によって各自が授業外に行き、小レポートを提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

馬場俊明編著『図書館情報資源概論』、日本図書館協会、最新版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3-8）

### 【参考書】

岸田和明編著、改訂 図書館情報資源概論（現代図書館情報学シリーズ）、2020、樹村房

### 【成績評価の方法と基準】

(1) 毎回の確認クイズ (30%)、(2) 2回の小レポート (30%)、(3) 学期末試験 (40%) によって総合的に評価する。

全ての提出物は、授業用グループウェア(HULiC)上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

毎回、授業の前に前回授業の確認クイズを行うため、欠席や遅刻が多いとそれだけ得点が減るので注意すること。また、授業開始より20分経過して入室した者は遅刻とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディベートを希望するコメントがいくつか見られた。なんとかその時間を捻出したい。

### 【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) : Students will learn the foundations of library information resources that consist of print materials/resources, non-print materials/resources, electronic materials/resources, and network information/resources. Students also learn patterns of media history, the collection, preservation, production of library resources, and publication and circulation processes. In addition, students are required to visit the "Paper Museum" and the "Printing Museum" and write papers as a part of the course requirement.

(Learning activities outside of classroom) : Students are required to read the relevant pages of the textbook in advance. It is also advisable that students download the class learning materials in advance and fill in the blanks.

Students are expected to visit the "Paper Museum" and "Printing Museum" outside of class and submit a short report. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : The overall evaluation will be based on (1) a quiz at each class (30%), (2) two short reports (30%), and (3) a final exam (40%).

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 図書館情報資源特論

小黒 浩司

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

図書館情報資源概論では扱わなかった情報資源、主題情報について、学習する。とくに電子資料については、その収集・提供・保存などについて、十分に理解する。

### 【到達目標】

図書館の基本的な機能は、資料・情報の収集と提供である。そこで学生が、図書館情報資源概論での学習を基礎に、近年図書館で重視されている各種情報資源の特性などについて発展的に学習して、図書館の資料収集・提供機能を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

下記授業計画のように、前半では近年公共図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。後半では学術図書館で重視されている図書館情報資源の種類について、形態別、主題別に解説する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめを行い、試験を実施予定である。試験、課題等のフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

なお、新型コロナウイルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。具体的なオンライン授業の方法、各回の授業計画の変更などについては、学習支援システムでその都度提示するので、学習支援システムの提示を必ず確認すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	電子資料に関する動向	最初に授業の進め方、成績評価などについて説明し、電子資料に関する近年の動向を概説する。
第2回	政府刊行物	図書館における政府刊行物の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第3回	地域資料	図書館における地域資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第4回	法情報	図書館における法情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第5回	統計資料	図書館における統計資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第6回	健康・医療情報	図書館における健康・医療情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第7回	生活・労働情報	図書館における生活・労働情報の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第8回	音楽資料	図書館における音楽資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。
第9回	地図資料	図書館における地図資料の収集・提供の歴史や意義などについて概説する。

第10回	読書の電子化	1990年代にはじまり、2010年代になり本格化した日本における「電子読書」の歴史と現状を概説する。
第11回	歴史的音源	SP盤レコードなどの歴史的音源の電子化や配信の状況を概説する。
第12回	ウェブアーカイビング	ウェブアーカイビングの意義や現状を概説する。
第13回	オンライン資料	オンライン資料の収集と提供の現状を概説する。
第14回	まとめ	試験・まとめ。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更の可能性があるので注意すること。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外の学習は、準備学習・復習各2時間程度を標準としている。授業中に配布するプリントに参考文献、関連ウェブサイトのURLなどを掲載するので、近年注目されている図書館情報資源に関する理解を深めてほしい。

### 【テキスト (教科書)】

指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

### 【参考書】

新訂図書館資料論 小黒浩司編著 東京書籍 2008

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点 (80%) に、授業への参加・貢献度 (20%) を加えて評価する予定である。ただし新型コロナウイルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。この場合、成績評価の方法と基準が変更となるが、詳細な方法などは、学習支援システムにて連絡する。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に配布するプリントに理解の参考となる情報源などを掲載するので、復習に活用してほしい。不明な点などは、メールで問い合わせること (kohji.oguro.58@hosei.ac.jp)。

### 【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況などによっては、オンラインでの開講となる可能性がある。PC・タブレットなどの情報機器を準備しておくことが望ましい。

### 【その他の重要事項】

質問などは遠慮なくメールで問い合わせること (kohji.oguro.58@hosei.ac.jp)。

### 【Outline (in English)】

#### 【Course outline】

This course introduces the characteristics of various library information resources and subject information that you did not learn in the spring semester, focusing on electronic materials.

#### 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to comprehend library information resources.

#### 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

#### 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, contribution: 20%



FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査研究および現地調査を行い、評価をする。授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成 (グループ活動)
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成 (グループ活動)
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書 (宿題) の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック

10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①	利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る
13	グループ・プレゼンテーション②	利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る
14	グループ活動のまとめ	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加 (出席は8割以上) が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書 (30%)
  - (2) グループ活動・授業への参加 (出席) と貢献度 (出席重視)、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30%)
  - (3) 個人のレポート (40%)
- 全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14回中4回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加 (出席) ・(30%)」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士のLINEの活用も奨励する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline & learning objectives) : Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

(Learning activities outside of classroom) : In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.

The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)

(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)

(3) Individual reports (40%)

All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

図書館情報資源特論

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多様な資料を扱う専門図書館を中心に、インターネットを介した調査研究、グループによる現地調査及びインタビュー調査を行い、専門図書館の現状と課題を総合的に理解する。

【到達目標】

専門図書館への現地調査や専門図書館司書へのインタビューを通して、各専門図書館の情報資源の実際を理解し、専門図書館および専門図書館情報資源に関する課題を発見することができる。

グループの班員とともに、専門図書館や情報資源を取りまく様々な課題の解決策や提案等を考えることによって、専門図書館および情報資源について包括的に理解することができる。

また、プレゼンテーションをグループで行うことにより、他者との協働、図書館の利用法や検索方法、情報機器の活用法、プレゼンテーションの技術などを総合的に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

グループに分かれて、さまざまな専門図書館へインターネットを介した調査研究および現地調査を行い、評価をする。授業後半には調査結果及び評価に関するプレゼンテーションを行う。各グループのプレゼンテーションは、クラス全体で自己評価・他己評価する。

プレゼンテーションでは、調査テーマについて、「問題の所在」を明らかにし、その「解決策」を提示する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期授業ガイダンス	個人・グループによる調査方法について
2	専門図書館の機能	専門図書館の機能 個人・グループの調査対象図書館の確定、アポの取り方
3	専門資料の概要、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成 (グループ活動)
4	メタデータ、調査計画の検討・資料収集	調査計画案作成 (グループ活動)
5	新聞・雑誌情報、グループ活動	インタビューの極意、調査計画の検討・資料収集
6	政治・行政資料、情報提供、グループ活動	発表順の抽選、現地基本調査の報告書 (宿題) の提出
7	プレゼン資料作成の極意、グループ活動	資料作成・現地調査等
8	統計データ情報、グループ活動	個人の調査計画の報告書提出①、資料作成・現地調査等
9	プレゼンの極意、グループ活動	グループ調査進行状況チェック

10	グループ活動	グループによる打ち合わせ・資料作成
11	プレゼンのリハーサル	グループ調査進行状況チェック
12	グループ・プレゼンテーション①	利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る (利用者の立場からみた専門図書館の課題発見と解決策を探る)
13	グループ・プレゼンテーション②	利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る (利用者の立場からみた専門図書館への課題と解決策を探る)
14	グループ活動のまとめ	まとめ・全体討議

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この授業は数名のグループに分かれてさまざまな専門図書館のインターネットを介したフィールド調査及びインタビュー調査を行い、それをパワーポイントなどにまとめ、グループでのプレゼンを行う。そのため、授業時間外の活動が入ってくることを了承しておくこと。また、グループや個人による現地調査や班活動がメインになるため、授業への積極的な参加 (出席は8割以上) が求められる。

授業の一環として、協働学習、メディア情報リテラシーに関するアンケート調査も実施する。本授業の準備学習・復習を含む授業外活動は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

【成績評価の方法と基準】

- 個人の調査計画・グループ活動報告書①②、個人の調査報告書 (30%)
- グループ活動・授業への参加 (出席) と貢献度 (出席重視)、グループ活動及びプレゼンテーション、グループによる配付資料、プレゼン内容など (30%)
- 個人のレポート (40%)

全ての提出物は授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視される。出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良 (14回中4回以上の欠席) のものは、「(2) グループ活動・授業への参加 (出席)・(30%)」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル (文書・パワポ・画像・他) 提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。

また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループ活動において、他の班員との日程調整やグループ活動全体の日程調整が大変という声を聞く。いつでも意見交換及び情報共有ができるグループウェア活用の徹底とグループ活動に必要な情報の提供に努めたい。ちょっとした情報共有では、班員同士のLINEの活用も奨励する。

**【Outline (in English)】**

(Course outline & learning objectives) : Students are required to perform field work (students choose one special library as their own fields) and interview librarians as a pair or group in order to compare and evaluate several special libraries to find out current situations and issues of the special libraries. Students will make presentations, lead discussions, and present problems which the special libraries were confronted with as well as the ways of solving the problems.

(Learning activities outside of classroom) : In this class, students will be divided into groups to conduct field research and interview surveys of various special libraries, to summarize in a PowerPoint presentation and to present to the group. Students are expected to understand that there will be activities outside of class time.

The standard for out-of-class activities including preparation and review for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) : (1) Individual research plans, group activity reports, and individual research reports (30%)

(2) Group activities, class participation (attendance) and contribution (emphasis on attendance), group activities and presentations, handouts by the group, presentation content, etc. (30%)

(3) Individual reports (40%)

All submissions are to be uploaded on the class groupware (HULiC) as a rule.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 読書と豊かな人間性

田中 順子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読書と豊かな人間性の関係について学ぶ。読書は人間性にどのような影響を与えるのか、その方法はいかなるものか。読書教育を進めるために、図書館と司書教諭の役割について考える。具体的には、読書の意義と効用について知り、児童、生徒の発達段階に応じた適切な指導について学ぶ。本についての知識を深め、子どもと本をつなぐ具体的な方法を身に付けるための実践も行う。毎回、その日の学びを深めるためにグループ発表を行う。

### 【到達目標】

読書教育のこれまでの流れを知る。さらにそれを発展させ、課題を克服するために司書教諭は何ができるかを考える。本についての知識を蓄え、本と子供を結び付けるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

### 【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業とする。授業の解説を受けて、自分の考えをまとめグループ発表を行う。数回、読み聞かせやブックトークなど、子供と本を結び付ける様々な実践を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	読書の意義と効用について	現代における読書の意義と効用について学ぶ。学生自身の読書体験を振り返る
第2回	これまでの読書環境と読書習慣について	子どもたちの読書状況について学ぶ。社会環境の変化と子供の読書習慣の関係を探る。学習指導要領の変遷について学ぶ。
第3回	発達段階と読書指導	子どもの発達段階に合わせた読書指導について学ぶ。幼少期、小学校期、中学校期、高等学校期の読書指導について。生涯を通じて読書を楽しみ、学習を続けていけるように、基本的な力を身に付ける指導について学ぶ。山形の図書館利用教育を徹底している小学校の取り組みを参考にする。
第4回	生涯学習と読書	子どもにとって快適な図書館、読書推進に貢献できる図書館について考える。具体的に様々な工夫をしている図書館を事例として学ぶ。
第5回	図書館の現状 様々な取り組みについて	学校図書館における司書教諭の役割として、読書能力を高める指導、調べ学習の力をつける指導について学ぶ。
第6回	教科指導と読書指導 司書教諭の役割	「心の教育」における、読書の役割について考える。読書療法についても取り上げる。
第7回	読書と心の教育について	

第8回	家庭や地域との連携	ブックスタートなど、家庭や保健所のような他機関と図書館が連携することで、本や読書と出会う環を整備する方法について学ぶ。
第9回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける1	読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークについて学んだあとと学生による実演を行う
第10回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける2	読書郵便、読書感想文、読書感想画について学んだあとと学生による実演を行う
第11回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける3	アニメーションについて学んだあとと学生による実演を行う
第12回	子供と本をつなぐスキルを身に付ける4	本の魅力を伝える力を身に付けるため、学生による読書会、ビデオバトルを行う
第13回	子供の読書活動の推進について	「子どもの読書活動の推進に関する法律」「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、各地方自治体、学校などの取り組みについて学ぶ。
第14回	まとめ 様々な課題をどう克服するか考える	これまでの学びを振り返り、読書と豊かな人間性についてまとめ、課題について考える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に予習して授業に臨む。実演の準備、授業の予習に2時間、復習に2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性  
「探究 学校図書館学」編集委員会編著 全国学校図書館協議会

### 【参考書】

『図書館をつくる 教育を変える』山形県鶴岡市立朝陽第一小学校 著  
全国学校図書館協議会

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表における発言、授業時の小課題）：30%  
中間レポート：20%  
期末レポート：50%

### 【学生の意見等からの気づき】

自らが読書によって得られたものを探求し、読書指導の手法を学ぶことで、さらに読書の魅力に気づく学生が多かった。

### 【Outline (in English)】

(Course outline)

I want to discuss the meaning of reading books for humans, using some statistics and research.

I also explain the way to attract children, for example, how to read children some books, how to let them read books deeply and how interesting books are.

(Learning Objectives)

- ・ Students can explain the importance of reading books.
- ・ Students can use technique such as reading children some books and organizing book reading environment.

(Learning activities outside of classroom)

Since the lecture will be given according to the chapter of the textbook, please read the relevant part of the textbook in advance before the lecture. The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Class assignments (30%), mid-term report(20%), term-end report (50%) .

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 情報メディアの活用

### 坂本 旬

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall  
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

受講生は、情報メディア社会を生きる市民に必要なメディア情報リテラシーを育成するための学校図書館と情報メディア活用の基礎を学び、実践力を養う。

#### 【到達目標】

- (1)今日の情報メディア社会を生きる人間のあり方を考察することができる。
- (2)学校図書館における情報メディア活用の実践力を身に付ける。
- (3)情報メディア社会に生きる市民として求められるメディア情報倫理を理解する。
- (4)情報メディアを活用した基礎的な映像制作スキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

前半はメディア情報リテラシーの基本的な考え方を学び、後半は実際の情報メディアを用いた創作活動を行う。

- ・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・良いリアクションペーパーは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
- ・課題等の提出・フィードバックはHULiCを通じて行う予定。
- ・オフィス・アワーで、課題(試験やレポート等)に対して講評する。
- ・最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や学習方法、司書課程専用授業支援システムの使い方などを解説する
2	高度情報社会と人間	グローバル化するメディア社会の特徴を考える
3	情報メディアの発展と社会の変化	情報メディアの発展と社会の変化の関係を考える
4	情報メディアの特性と選択	情報・メディアの特性と活用のためのメディア情報リテラシーの概念を学ぶ
5	情報倫理と市民社会	市民社会における著作権や肖像権、表現・情報の自由、読書バリアフリーなどの情報倫理を学ぶ
6	情報メディアの種類とその特性	さまざまな情報メディアの種類と特性を学ぶ
7	情報リテラシーと情報検索・探究学習	情報リテラシーと情報検索・探究学習の関係を具体例を通して学ぶ
8	学校図書館と情報リテラシー教育	学校図書館が情報リテラシー教育の中心に位置することを学ぶ
9	視聴覚メディアとメディアリテラシー	視聴覚メディアとメディア・リテラシーの関係を学ぶ
10	視聴覚メディアの活用と学習	視聴覚メディアの仕組みと学習についての基本的な理論を学ぶ

11	学校図書館とコンピュータ・情報発信	デジタル・ストーリーテリングを学校図書館で活用する方法を学ぶ
12	映像制作の実際	映像制作の過程を実践的に学ぶ
13	映像評価の実際	映像を評価する方法を実践的に学ぶ
14	映像作品の発表会	映像作品を発表し、評価をする

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

司書課程用授業支援システム(HULiC)を用いて、事前に準備された予習や宿題等を行う。映像制作では、授業時間外の取材や編集を行います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

坂本旬『メディアリテラシーを学ぶ』大月書店(2022年)

#### 【参考書】

坂本旬『メディア情報教育学』(法政大学出版局)2014年  
寺崎里水・坂本旬『地域と世界をつなぐSDGsの教育学』(2021年)

#### 【成績評価の方法と基準】

授業評価の方法と基準は以下の通り。授業への参加30%、映像制作20%、課題レポート50%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の最後に映像を導入することで、映像制作を通じた学習の振り返りができた。

#### 【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの映像制作可能な情報機器。新型コロナウイルス感染症流行のため、オンライン授業となる場合は、オンライン授業に用いる端末が必要である。

#### 【その他の重要事項】

授業の中で映像制作を行うため、欠席はなるべくしないこと。

#### 【Outline (in English)】

To study basic theories of digital media and information literacy for school librarians

To produce digital storytelling video about books and reading life

The goal is to acquire the ability to examine people living in an information media society, the ability to use information media in school libraries, media ethics, and basic video production skills.

Grading criteria are as follows. Class participation is 30%, filmmaking is 20%, and reports are 50%. Students will be required to do prep work and homework prepared in advance. For film production, students will conduct interviews and edit videos outside of class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

FRI200MA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

## 情報メディアの活用

村上 郷子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火1/Tue.1 | 配当年次：2～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学校図書館における情報メディア全般の特性と活用方法を理解し、司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することにより、メディア情報リテラシーの基礎を習得する。

### 【到達目標】

司書教諭に必要な情報メディアの基本的な知識、技能を習得することができる。例えば、学校図書館の広報誌、簡単なCM・動画広報、簡単な図表、パワポなど、限られた汎用ソフトを使って、制作することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

学校図書館の利用と検索、情報機器の活用法、アプリケーションの活用法、プレゼンテーションの方法など、各項目の課題演習をこなすことによって、基礎的なメディア情報リテラシーの取得を目指す。授業後半では、グループによる広報紙およびCM・動画制作を行い、グループによるプレゼンを行う。

アンケート調査やプレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報メディアの特性と活用	情報実習室及び授業用グループウェア (HULiC) 利用ガイドンス、「司書教諭」の規定、学校図書館とメディア
2	メディアの歴史 (課題①、エクセル)	図書館資料とは何か、古代から現代までの主なメディアと歴史
3	レポート・論文の書き方 (課題②、引用文献)	レポート・論文作成法 - 10 のステップ
4	検索の基礎理論 (課題③、検索)	データベース、検索システム、論理演算、他
5	法政大学図書館 検索実習	データベース検索の実際 (有料データベース、洋書、他)
6	広報誌：見出しとレイアウト、ホームページの仕組みと作り方 (課題④、PR用ホームページ) (グループを決める)	読ませるための基礎理論、見出しとレイアウトの基本、ホームページの目的と機能、レイアウト
7	プレゼンテーションの基礎 (課題⑤、パワーポイント)	プレゼンテーションの目的と方法
8	情報倫理・著作権・AIプログラミング他 (グループ活動によるブレインストーミング)	情報リテラシー、AIと著作権、プログラミング、グループ活動

9	学校図書館からの情報発信①	グループによる広報誌制作 (その1)、各班の広報誌タイトルと役割分担の決定
10	学校図書館からの情報発信②	グループによる広報誌制作 (その2)、広報誌の構成、レイアウト、コンテンツの作成
11	学校図書館からの情報発信③	グループによる広報誌制作 (その3) 広報誌の校正
12	学校図書館からの情報発信④	プレゼン・リハーサル
13	グループ・プレゼンテーション①	グループ・プレゼンテーション
14	情報メディアの活用・グループ活動総括	振り返り・まとめ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業以外にも演習課題の提出やグループによる広報誌制作およびビデオ制作を行う。課題をしっかりとこなし、授業にも積極的に参加することが求められる。また、授業後半のグループ学習においては、班によっては授業外での活動も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

なし。必要な資料や参考文献等は、適時提示する。

### 【参考書】

・山本 順一・気谷 陽子著『情報メディアの活用』、放送大学教育振興会、三訂版、2016  
 ・五十嵐 絹子著『学校図書館ビフォー・アフター物語—図書館活用教育の全国展開を願って』、国土社、2009

### 【成績評価の方法と基準】

課題 (40%)、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む)、グループ・プロジェクト及びプレゼンテーション (30%)、個人のプロジェクト作品 (30%) によって総合的に評価する。全ての提出物は、授業用グループウェア (HULiC) 上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードをする際、必ずリンクの確認をすること。

### 【学生の意見等からの気づき】

課題のワードについてはほとんどの学生がある程度のスキル (画像の挿入、罫線・図表の作成など) を身につけているため、今回は割愛した。

### 【その他の重要事項】

授業では、グループによるプロジェクトの協働制作やプレゼンテーションを行うため、受講生には授業への積極的な参加が求められる。

### 【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives) : Students will understand the characteristics of media and information resources in school libraries and acquire basic skills and knowledge of media and information literacy that are necessary for teacher librarians. Examples include creating school library PR, newsletters and videos.

(Learning activities outside of classroom) : In addition to classes, students will be required to submit assignments and work in groups to produce a PR magazine and video. Students are expected to complete assignments and actively participate in class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria / Policy) : Comprehensive evaluation will be based on assignments (40%), active contribution to the class (including attendance), group projects and presentations (30%), and individual project works (30%).

CUM100MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 100)

## ミュージアム資料論

田中 裕二

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土1/Sat.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博物館活動の根幹をなす「資料」について、まずその特質や多様性を、さまざまな理論や具体例にもとづいて把握する。そのうえで、博物館資料が「収集」「保存」「研究」に活用され、「展示公開」に供されるプロセスを概観し、博物館活動における資料の意味や役割を理解する。

### 【到達目標】

博物館を「資料」という観点から理解することを目指す。「博物館資料」という概念が成立した背景、資料の収集や登録のプロセス、保存のありかた、さらには資料の閲覧や展示等の公開を通じた教育活動の現状や課題について、具体例にもとづきながら学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は配布プリントやパワーポイント、映像等を用いた講義形式で行われる。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらい、次回の講義冒頭で質問や疑問についてピックアップし、全員に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス(対面で実施)	博物館学における博物館資料論の位置づけについて説明し、講義の見取図を示す。
第2回	博物館資料の概念	博物館資料という考え方が形成されてきた背景を概観する。
第3回	博物館の一次資料	博物館の一次資料について具体的に学ぶ。
第4回	博物館の二次資料	博物館の二次資料について具体的に学ぶ。
第5回	博物館資料の収集	資料収集の理念や目的について考える。
第6回	博物館資料の整理	収集した資料の記録、登録、整理等のプロセスを学ぶ。
第7回	博物館資料の公開	資料を公開することの意義や多様な手法について学ぶ。
第8回	博物館資料の展示	さまざまな資料の展示のありかたを概観する。
第9回	博物館資料の保存	資料の保存や管理の手法について学ぶ。
第10回	博物館資料と調査研究	博物館における調査研究と資料の関係について考える。
第11回	調査研究の公開	博物館資料にもとづく研究成果を公開する意義について考える。
第12回	市民と博物館資料	地域資源と博物館資料の関係について考える。
第13回	博物館資料の活用	学校教育や生涯学習、地域活性化など、博物館資料の活用の可能性について考える。
第14回	まとめとふりかえり	半期を通して学んできた内容をふりかえり、博物館資料についての理解を確認する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業に関連した事例を各自で調べておくこと。学期の途中で実際に博物館を訪れ、その成果をもとにレポートを課す予定です。入館料及び交通費は学生の負担となります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

金山喜昭編『博物館とコレクション管理 ポスト・コロナ時代の資料の保管と活用』増補改訂版 (雄山閣、2023年)

### 【参考書】

授業時に関連する文献について紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

授業の参加度 (コメント・ペーパーの記入と課題の成果など) : 50%  
期末レポート : 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

講義が終わった後に提出してもらっているリアクション・ペーパーを読むと、博物館資料に対して関心が高い学生が多いことがわかった。感想コメント・疑問質問のフィードバックは次年度も引き続き実施していきたい。

### 【Outline (in English)】

Students will understand museums from the viewpoint of their materials and collection. They will see how the idea of museum materials and collection has been formed, and then study through concrete examples the process of collecting and registering materials, the way of conservation and the current state and issues of educational activities by way of exhibiting materials. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports and in the class contribution : 50%.



CUM100MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 100)

## ミュージアム教育論

渡邊 祐子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水1/Wed.1 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、ミュージアムにおける教育活動の理念、活動の基礎となる学習理論、国内外のミュージアムの具体的な事例に関する講義を通して、ミュージアムの教育的な役割と意義について理解を深めます。

### 【到達目標】

実際のミュージアムの利用体験と照らし合わせながら講義の内容について理解を深め、ミュージアムの教育活動に必要なとされる基礎的能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

授業は、講義と演習によって構成されます。また、授業内での発表や調べ学習の他、場合によってはリアクションペーパーの提出があります。提出された課題等に対しては、授業内でフィードバックを行います。

※授業形態(対面 or オンライン)を予定から変更する場合は、各回の授業や学習支援システム (Hoppii) でアナウンスをします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の目的、進め方、計画、評価などの概要について説明します。
第2回	博物館教育とは何か	ミュージアムとは何か、“博物館教育”(museum education)とは何かについて学びます。また、なぜミュージアムにおいて教育が重視されるようになったのか、歴史をたどりながら理解していきます。
第3回	博物館教育の学習理論	ミュージアムでの学びにみられる特徴について、学校教育などとの比較をふまえて理解していきます。
第4回	教育資源としての展示	ミュージアムでの実物教授の学び(object-based learning)について理解し、教育的な活用事例を見ていきます。
第5回	展示見学	ミュージアムの展示を見学し、調べ学習をします。
第6回	ミュージアムと来館者をつなぐ①	ミュージアムの資料や展示を生かしたプログラムの実践例を知り、プログラムの企画・立案のプロセスについて学びます。
第7回	ミュージアムと来館者をつなぐ②	ミュージアムが教育活動のために作成している教材やウェブなどの媒体、アーカイブの事例を知り、制作のプロセスを学びます。
第8回	ミュージアムと来館者をつなぐ③	ミュージアムで活躍する市民(アート・コミュニケータ)の役割と活動について学びます。

第9回	ワークショップ体験	ミュージアムで実践されているワークショップと同じ内容の活動を授業内で体験します。
第10回	プログラム・メイキング①	教育プログラムを立案するためのプロセスを理解したところで、グループごとに与えられたテーマに沿った企画を考えます。
第11回	プログラム・メイキング②	グループごとに与えられたテーマに沿った企画内容を考え、企画案を作成します。
第12回	グループ発表①	グループごとに作成した企画案を発表します。(前半)
第13回	グループ発表②	グループごとに作成した企画案を発表します。(後半)
第14回	まとめと試験	ミュージアム教育の意義や課題について、授業を通して得られた知見を整理・確認します。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業では、ミュージアムの見学や、その体験をもとにしたプログラム案の企画・発表を予定しています。そのため、授業内容と合わせて各館のホームページを閲覧して多様な教育プログラムについての知識を深めたり、授業内で紹介する博物館教育に関する報告書、文献等を読んだりするための、準備学習及び課題が適宜課されます。授業外の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

必要に応じて、資料を配布します。

### 【参考書】

J.H. フォーク・L.D. ディアーキング『博物館体験』(雄山閣出版)  
G.E. ハイン『博物館で学ぶ』(同成社)ほか、授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点50% (グループ発表及びレポート提出を含む) と、期末試験50%を合計して評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

基礎的な理解を深めるための講義の他、調べ学習、グループワーク、プレゼンテーション等、参加型授業の側面も重要視していきたいと思っています。

### 【その他の重要事項】

東京都美術館で子どものための博物館教育を行ってきました。現場の経験をもとに、国内外の先進的な事例を具体的に取り上げ、多様性を尊重した「博物館の教育」づくりの基本や方法を伝授します。参考：東京都 東京都多文化共生ポータルサイト「やさしい日本語」活用事例 2021年3月  
[https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki\\_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13\\_museum-start.pdf](https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/files/0000001620/13_museum-start.pdf)

### 【Outline (in English)】

This course surveys the principles and practices of museum education. It explores the kinds of learning that occur in museums and how educational programming can engage diverse audiences.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 50%, in class contribution 50%.

CUM100MA (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 100)

## ミュージアム教育論

山下 治子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土3/Sat.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

### 【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

リアクションペーパーなどによる感想や質問などについては、授業のなかで紹介したり、答えていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。(授業のガイダンスを含む)
第2回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第3回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第4回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。 美術館での学び、ワークショップ
第5回	生涯学習の場としてのミュージアム	生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。 自然史系博物館での学び①
第6回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。 特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。 自然史系博物館での学び②
第7回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	さまざまな地域博物館における学びから、考える。

第8回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第9回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第10回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エドキュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第11回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第12回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第13回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第14回	まとめ(振り返り)	これまでの授業の振り返りをして、提出するレポート作成の一助とする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

参考として、『博物館教育論』黒沢浩・編著 (講談社)

### 【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

(授業への積極的参加, リアクションペーパー) (50%) + レポート (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【その他の重要事項】

ミュージアムの専門誌「ミュゼ」(現在、休刊)を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。ゲスト講師も招き、幅広く考え、学びます。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(participation) (50%) + Short reports (50%)

EDU200MA (教育学 / Education 200)

社会教育演習

久井 英輔

単位数：4単位 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

(授業の概要)

社会教育実践分析に必要な基本的視点、知識を学ぶための基礎文献講読を行う。また、その視点、知識を活用して、実際の社会教育実践の現場(社会教育施設など)での実地調査を実施し、調査結果をもとに受講者各自でレポートを作成・発表する。

(授業の目的・意義)

文献講読、実地調査、レポート作成等を通じて、社会教育士、社会教育主事に求められる実践的な研究能力(地域社会で行われている社会教育実践の性格と背景を客観的に把握し、あわせて現実的な提言をおこなう)を獲得する。

【到達目標】

社会教育施設、社会教育行政と関連する制度、社会教育をめぐる連携のあり方に関する基本的な視点と知識を得る。また、これらの視点・知識を生かして、実際の社会教育事業に対して客観的把握と実践的提言を行える力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業の序盤は、社会教育実践の分析に必要な基本的な視点、知識について、文献講読を通じて学ぶ。その後(5月以降)、各自の問題関心に関連した先行研究の検討や、社会教育施設等の実践現場での実地調査(インタビュー調査、資料調査)を踏まえて、受講者各自でレポートを作成し、それを基に討論を行う。

学生の先行研究文献発表、実地調査レポート発表などに対しては、発表後の授業内での討論や授業後のアドバイス(対面、メールなど)等の形でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・問題関心の共有	演習の実施方法について説明するとともに、受講者各自の社会教育に関する問題関心を共有する
第2回	社会教育主事、社会教育士の資質・能力	今日において社会教育主事、社会教育士に求められる資質・能力について解説し、これから各自が進める実地調査との関連を説明する。
第3回	社会教育実践の場を知る①	社会教育施設の体系と各種施設の役割について、文献講読を通じて理解する。
第4回	社会教育実践の場を知る②	社会教育行政の仕組みとその課題について、文献講読を通じて理解する。
第5回	実地調査の構想発表①	社会教育施設等の実地調査に際して、各受講者が具体的な問題関心を発表する。
第6回	実地調査の構想発表②	社会教育施設等の背景にある地域社会の特性について、各受講者が自身の問題関心に基づいて検討する。

第7回	実地調査の構想発表③	社会教育施設等の活動の背景にある自治体行政の現状について、各受講者が自身の問題関心に基づいて検討する。
第8回	実地調査の構想発表④	社会教育施設等で活動する職員たちの資質・能力について、各受講者が自身の問題関心に基づいて検討する。
第9回	実地調査の構想発表⑤	社会教育施設等が実際に行う事業の課題について、各受講者が自身の問題関心に基づいて検討する。
第10回	実地調査の計画発表①	社会教育施設等の実地調査について、各受講者が先行研究の検討結果を発表する。
第11回	実地調査の計画発表②	社会教育施設等の実地調査について、各受講者が検討した先行研究の課題について、受講者相互で討論を行う。
第12回	実地調査の計画発表③	社会教育施設の実地調査について、各受講者が先行研究の検討に基づいた明確な問題関心を発表する。
第13回	実地調査の計画発表④	社会教育施設の実地調査について、各受講者が具体的な調査項目を発表する。
第14回	実地調査の計画発表⑤	社会教育施設の実地調査について、各受講者の調査デザインについて、相互に検討する。
第15回	実地調査の進捗報告①	各受講者がインタビュー調査の進捗状況について簡潔に報告をおこなう。
第16回	実地調査の進捗報告②	各受講者が資料調査の進捗状況について簡潔に報告を行う。
第17回	社会教育施設見学①	社会教育施設経営に関して必要な知見・視点について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第18回	社会教育施設見学②	社会教育施設の講座事業を見学し、講座企画・実施・評価の実際について、施設職員から説明を受けた上で、質疑応答を行う。
第19回	ゲストスピーカー講義①	県の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、勤務内容の実際について話題提供の上、受講者と意見交換を行う。
第20回	ゲストスピーカー講義②	市町村の社会教育主事をゲストスピーカーとして招き、勤務内容の実際について話題提供の上、受講者と意見交換を行う。
第21回	実地調査に関する最終報告①	対象とした社会教育施設等の歴史的・制度的な位置づけについて、各受講者が調査を基に報告する。
第22回	実地調査に関する最終報告②	対象とした社会教育施設等の現在の活動内容の全体像について、各受講者が調査を基に報告する。
第23回	実地調査に関する最終報告③	対象とした社会教育施設等の事業企画に関する課題について、各受講者が調査を基に報告する。
第24回	実地調査に関する最終報告④	対象とした社会教育施設等の事業評価に関する課題について、各受講者が調査を基に報告する。
第25回	実地調査に関する最終報告⑤	対象とした社会教育施設等の広報活動に関する課題について、各受講者が調査を基に報告する。
第26回	実地調査に関する最終報告⑥	対象とした社会教育施設等と地域社会との関係性について、各受講者が調査を基に報告する。

- |      |               |   |
|------|---------------|---|
| 第27回 | 実地調査に関する最終報告⑦ | 対象とした社会教育施設等における学習支援者（職員・ボランティア）の資質能力のあり方について、各受講者が調査を基に報告する。 |
| 第28回 | 実地調査報告の振り返り   | 受講生がディスカッションを踏まえて、各自のレポートにおいて改善すべき点を確認する。                     |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・文献講読の場合は、文献に関する疑問点やコメントを事前に整理した上で、授業に臨むこと。
- ・調査レポートの作成は基本的に授業時間外となるので、計画的な調査実施と執筆を心がけること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間以上を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

多岐にわたるので、授業内で提示する。文献のマスターコピーまたはPDFファイルは、担当教員が用意する。

**【参考書】**

- 鈴木真理、伊藤真木子、本庄陽子編『社会教育の連携論：社会教育の固有性と連携を考える』学文社、2015年  
 鈴木真理、井上伸良、大木真徳編『社会教育の施設論：社会教育の空間的展開を考える』学文社、2015年  
 鈴木真理、稲葉隆、藤原文雄編『社会教育の公共性論：社会教育の制度設計と評価を考える』学文社、2016年

**【成績評価の方法と基準】**

社会教育実践に関する個人レポートに関する発表 50%  
 授業内での討論への貢献度 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度は受講生数がそれ以前と比較して大幅に増えたが、レポート発表スケジュールを当初予定のまま実施したため、レポートに関するディスカッションに十分な時間を割けなかった。今年度は、当初の受講生数を見ながら、適正な授業スケジュールとなるよう丁寧な調整を心がけたい。

**【その他の重要事項】**

本科目は、社会教育主事講習等規程第11条に規定された「社会教育演習」に該当する。社会教育主事基礎資格取得、社会教育士（養成課程）の称号取得のための科目である。

**【Outline (in English)】**

**(Course Outline)**

The aims of this course are to provide students with basic knowledge and viewpoints indispensable to analyses on social education activities, to support for conducting surveys on social education activities, mainly in social education facilities, and to advise for writing reports utilizing data of the survey.

**(Learning Objectives)**

The goals of this course are to help students acquire proper abilities of practical research for social education advisers and supervisors (ability to grasp the characteristic of each social education activity and its background, and to make realistic proposals for the activity) by reading texts, conducting surveys, and writing reports.

**(Learning Activities Outside of Classroom)**

Students will be expected to organize his or her own comments and questions about assigned literature in advance in advance, and to conduct his or her planful survey. Your study time will be more than four hours for a class.

**(Grading Criteria /Policy)**

Final grade will be calculated according to the following process: Presentations on individual report (50%), contribution to discussion (50%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

## 現代生活・文化と社会教育 I

鈴木 悌遍

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域と企業 と「職場における学び」の関係性について本授業では学ぶ。

授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。

その後、日本各地の地域企業の具体的な事例を毎回の授業にて紹介し、学ぶ。授業では学生同士の討論の時間を設ける。

福島県会津若松市に工場を構える株式会社羅羅屋とランドセル業界の変遷については特に詳しく紹介し、学ぶ。会津若松市における事例は講師が所属する組織の実践である。

学期には学生各位が興味を持った地域企業の事例についてそれぞれ調べ、発表を行うってもらう。

希望者にはランドセル工場見学等のフィールドワーク実習を行う。

### 【到達目標】

・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。

・例えばほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。

・特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。

・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。

・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

講義と演習 (事例研究と発表、議論) を中心に授業を進める。フィールドワーク実習は別途、希望者を募りおこなう (参加の有無によって評価は変わらない)。

毎週提出してもらうアクションペーパーに対して毎回フィードバックし、また授業内でも積極的に取り上げる。

学期末の発表については授業内で議論し、また個々へもフィードバックもする。

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを授業スケジュールとともに紹介する。
第2回	地域の資源と企業と社会教育	業と企業活動に必要な資源 (資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持) と地域の関係について学ぶ。
第3回	地域と企業と社会教育1	地域企業の事例研究1 (地域企業の事例について学び、議論する)

第4回	地域と企業と社会教育2	地域企業の事例研究2 (地域企業の事例について学び、議論する)
第5回	地域と企業と社会教育3	地域企業の事例研究3 (地域企業の事例について学び、議論する)
第6回	期末発表・レポートに向けての指導1	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第7回	地域と企業と社会教育4	地域企業の事例研究4 (地域企業の事例について学び、議論する)
第8回	地域と企業と社会教育5	地域企業の事例研究5 (地域企業の事例について学び、議論する)
第9回	地域と企業と社会教育6	地域企業の事例研究6 (地域企業の事例について学び、議論する)
第10回	期末発表・レポートに向けての指導2	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第11回	地域と企業と社会教育7	地域企業の事例研究7 (地域企業の事例について学び、議論する)
第12回	地域と企業と社会教育8	地域企業の事例研究8 (地域企業の事例について学び、議論する)
第13回	地域と企業と社会教育9	地域企業の事例研究9 (福島県会津若松市にある地域企業であるランドセル製造・販売会社である羅羅屋について学び、議論する)
第14回	期末発表会	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の標準的な予習・復習時間は各2時間である。予習とは、学期末のプレゼンテーションの準備のための時間である。復習とは、リアクションペーパーの作成のための時間である。

評価は、授業中のプレゼンテーション、コメントペーパー等 (70%)、発表用レポート (30%) で行う。

フィールドワーク実習は別途、希望者を募りおこなう (参加の有無によって評価は変わらない)。

### 【テキスト (教科書)】

なし

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やリアクションペーパー等 (70%)、発表用レポート (30%) によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎授業座学をおこない、そのあとにグループワークをおこなう。講師の一方的な授業進行は行わない。

授業内で学部、学年の境を超えた交流の機会を多く設ける。

リアクションペーパーには毎回講師から各自へ何らかの返信をおこなう。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援 システム等を利用する。そのために必要な機器は各自用意すること。

### 【その他の重要事項】

講師は外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEBコンサルティング会社、WEB開発会社、EC会社、ランドセル会社を現在経営。上記の経験から実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について授業を進める。

授業を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努める。

授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

提出してもらったリアクションペーパーには毎授業講師から返信する。

### 【Outline (in English)】

This class will study the relationship between regions, companies, and "learning at work".

The class will first explain the relationship between the community, local resources, and corporate activities. Then, the role of "learning in the workplace" for the sustainable activities of companies will be studied.

Specific examples of regional companies from around Japan will then be introduced and studied in each class. Time for discussion among students will be provided in class.

Raraya Corporation, which has a factory in Aizuwakamatsu City, Fukushima Prefecture, and the evolution of the school bag industry will be introduced and studied in particular detail. The case study in Aizuwakamatsu is the practice of the organization to which the lecturer belongs.

In the second semester, each student will be asked to research and present a case study of a local company of interest to them.

Those who wish to do so will be given fieldwork, such as a visit to a school bag factory. Last year, fieldwork was conducted at the Daishi Line and Kawasaki Daishi in Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. The fieldwork was free, and students chose their own fieldwork subjects.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Preparation time is for the presentation at the end of the semester. Review time is for the preparation of a reaction paper.

Evaluation will be based on class presentations, comment papers, etc. (70%) and presentation reports (30%).

EDU200MA (教育学 / Education 200)

現代生活・文化と社会教育 II

佐々木 美貴

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を活かした地域づくりを調べ報告することや、社会教育プログラムを作る作業も行う。また、私たちの暮らしと身近な自然に関係が深い生物多様性条約やラムサール条約の精神と社会教育との関係、日本各地で実践されている自然の恵みを活用した暮らしや地域づくりと、それを支える知恵や技の具体例、交流・力量形成・教育・参加・気づき(Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness: CEPA)の実践例等を取り上げる。

【到達目標】

①人々の暮らしは自然の恵みに依存して成り立っていること、②日本各地には身近な自然を保全しながら暮らしや地域づくりに役立てるための知恵や技(文化と技術)が数多く蓄積され、現在も発展されていること、③それらをふまえて行われている社会教育実践の実際の姿、④社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力、以上4点を理解することが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

講義とビデオを中心としながら、身近にある自然を活かした地域づくりについて調べ報告することや、社会教育プログラムを作り、発表・ディスカッションする作業も行う。また、毎回の授業の最後に、授業の感想・質問などを記入して提出する。この内容については、次回の授業の最初に取り上げる。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス、身近な自然を活かした暮らし	授業の内容、進め方、成績評価基準など、この授業について説明する。身近な自然を活かした暮らしについて考える。
第2回	私たちの暮らしと自然の恵み	飲み水や海産物・農作物などの食料等、自然の恵みによって、私たちの暮らしが支えられていることを考える。
第3回	私たちの暮らしと自然を活かした地域づくり・まちづくり	身近な自然を活かした地域づくり・まちづくりについて、具体例を調べ・報告し、クラス内でディスカッションする。
第4回	私たちの暮らしと生物多様性条約・ラムサール条約	暮らしを支える、水田や干潟、湖沼などの「湿地」、多様な生物の保全や活用を支える二つの国際条約とその構造について考える。
第5回	二つの条約と「交流・力量形成・教育・参加・気づき」=CEPA	ラムサール条約を中心に、保全や活用を支えるCEPAの役割や実際の活動を考える。
第6回	CEPAと「社会教育」	二つの条約のCEPAと「環境教育」「持続可能な開発のための教育(ESD)」との関係、「社会教育」「生涯教育」との関係を考える。

第7回	社会教育主事・社会教育士と学習支援の能力	社会教育主事や社会教育士に求められる、課題を解決するための学習支援の能力について考え、クラス内でディスカッションする。
第8回	自然の恵みの文化① (保全・再生)	新潟の「潟普請」などに即して、保全や再生にかかわる活動を考える。
第9回	自然の恵みの文化② (ワイズユース)	「ふゆみずたんぼ米」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる活動を考える。
第10回	自然の恵みの文化③ (CEPA)	ふるさと絵屏風やワークショップ等の事例に即して、CEPAにかかわる活動を考える。
第11回	これからの社会教育と身近な自然を活かした「地域の活性化」	自然を身近に感じ、地域の活性化につながるための社会教育について考える。
第12回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る①	「生きもの調査」や世代間を結ぶワークショップ等の身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作るための手順を考える。
第13回	身近な自然を軸とした社会教育プログラムを作る②	①で考えた手順に即して、自分が行いたい社会教育プログラムを実際にする。また、互いのプログラムに評価する手法を考える。
第14回	社会教育プログラムの発表会・まとめ	実際に作った社会教育プログラムを発表し、互いに評価し合う。また、授業全体を振り返り、この授業への理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

自然の恵みと自分との関わりを観察しておくこと。自分にとっての身近な自然を1つ探し、そこを活かした地域づくりやまちづくりの事例がないか、調べる。自然にかかわる大人を対象とした社会教育プログラムを作成するため、関心のある事例を調べる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『湿地の文化と技術33選～地域・人々とのかかわり』日本国際湿地保全連合 2012年 授業で必要な部分を印刷し配布

【参考書】

生物多様性条約とラムサール条約の本文及び決議、『干潟生物調査ガイドブック～東日本編』、環境省『日本のラムサール条約湿地』『ラムサール条約湿地とワイズユース』パンフレット等 必要に応じて授業内で配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加(50%)と作成した社会教育プログラムの発表(50%)によって、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の感想と質問は、翌週の授業のはじめに伝えるようにしている。湿地や生物多様性について身近に感じられるよう、ビデオ等の映像を使った授業を行っている。

【Outline (in English)】

Focusing on lectures and videos, we will also investigate and report on community development that makes the most of the nature around us, and create social education programs. Also, biodiversity that is closely related to our lives and the nature around us. The relationship between the spirit of the treaty and the Ramsar treaty and social education, living and community development utilizing the blessings of nature practiced in various parts of Japan, specific examples of wisdom and techniques that support them, and practical examples of CEPA (Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness) will be taken up.

Observe the benefits of nature and how you relate to yourself. Find one of the nature that is familiar to you, and find out if there are any examples of community development or town development that make use of it. Investigate cases of interest to create a social education program for adults involved in nature. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Active participation in class: 50%、Announcement of the created social education program: 50%



LANe100MA (英語 / English language education 100)

**Foreign Language Exercise  
(English III) 【GO科目】**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：1~4年

その他属性：〈グ〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

**【到達目標】**

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals

Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script
Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト (教科書)】**

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners  
New edition 2021, Harrington, LeBeau  
ISBN 9784863123854

**【参考書】**

Speaking of Speech: Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners

New edition 2021, Harrington, LeBeau  
ISBN 9784863123854

**【成績評価の方法と基準】**

Quizzes-20%

Homework-15%,

Participation 20%

Presentations 45%

\*In principle, no more than three absences per term are allowed

**【学生の意見等からの気づき】**

Added emphasis on eye contact and use of transitions in presentations.

**【学生が準備すべき機器他】**

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

**【その他の重要事項】**

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA (英語 / English language education 100)

**Foreign Language Exercise  
(English IV) 【GO科目】**

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金3/Fri.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈グ〉

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

アカデミック・スキル (講義などのディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など) を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

**【到達目標】**

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

**【授業の進め方と方法】**

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 1: Happiness Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Signal phrases for intro Unit 1 lecture preview
Week 3	Unit 1: Happiness Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: state opinion, agree, disagree
Week 4	Unit 1 Quiz Unit 2: Learning styles Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 1 quiz Unit 2 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Rhetorical questions

Week 5	Unit 2: Learning styles Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: asking for opinions
Week 6	Unit 2 Quiz Unit 3 Sleep Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 2 Unit 3: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Signal phrases for details
Week 7	Unit 3: Sleep Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: State opinion & paraphrasing Quiz on Unit 3
Week 8	Unit 3 quiz Unit 4: Negotiating Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 4: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Listing of ideas
Week 9	Unit 4: Negotiating Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Clarifying & Confirming Quiz on Unit 4
Week 10	Unit 4 quiz Unit 5: Modern Art Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 5: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Defining terms
Week 11	Unit 5: Modern Art Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Disagreement Quiz on Unit 5
Week 12	Unit 5 quiz Unit 6: Robots Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 6: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Intonation of numbers
Week 13	Unit 6: Robots Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering examples/facts Unit 6 quiz
Week 14	Unit 6 quiz Vocabulary quiz U 1-6	Unit 6 quiz Course Review & wrap-up

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

**【テキスト (教科書)】**

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost  
ISBN: 9780134400648

**【参考書】**

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost  
ISBN: 9780134400648

**【成績評価の方法と基準】**

Quizzes-60%  
Homework-20%,  
Participation 10%  
Presentations/ Discussion activities 10%

**【学生の意見等からの気づき】**

Increased emphasis on discussion of issues in small groups and vocabulary development

**【学生が準備すべき機器他】**

**【教室必要備品】** OHC & projector, DVD & CD player in classroom

**【その他の重要事項】**

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

**【キャリアデザイン学部より】**

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

**【Outline (in English)】**

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA (英語 / English language education 100)

## Foreign Language Exercise (English V) 【GO科目】

Kregg Johnston

単位数：1単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈グ〉

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

#### 【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

#### 【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
---	-----	----

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

#### 【テキスト (教科書)】

#### 【参考書】

#### 【成績評価の方法と基準】

#### 【学生の意見等からの気づき】

#### 【キャリアデザイン学部より】

2014年度～2016年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目4群 (必修外国語  
〈英語〉に充当も可能です。

